

茨城県教育財団文化財調査報告第128集

一般国道6号東水戸道路改築工
事地内埋蔵文化財調査報告書Ⅳ

三反田下高井遺跡
(下 卷)

作業室用

平成10年3月

建 設 省
財団法人 茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第128集

一般国道6号東水戸道路改築工
事地内埋蔵文化財調査報告書Ⅳ

み た ん だ し も た かい
三反田下高井遺跡
(下 卷)

平成10年3月

建 設 省
財団法人 茨城県教育財団

目 次

— 下 巻 —

第3章 三反田下高井遺跡

第3節 遺構と遺物

1 竪穴住居跡……………	463
(第165号住居跡～第236号住居跡)	
2 鍛冶工房跡……………	645
3 掘立柱建物跡……………	674
4 方形周溝墓……………	679
5 溝……………	686
6 粘土採掘坑跡……………	695
7 井戸……………	710
8 上坑……………	715
9 その他の遺構	
(1) 旧石器集中地点……………	746
(2) 集石遺構……………	750
10 遺構外出土遺物……………	753

第4節 まとめ……………	783
--------------	-----

付 章

三反田下高井遺跡出土金環蛍光X線分析……………	788
三反田下高井遺跡出土土器及び粘土採掘坑内粘土の胎土分析……………	791

写真図版

插图 目 次

第 390 图	第 165 号住居跡実測図	463	第 427 图	第 179 号住居跡実測図	509
第 391 图	第 165 号住居跡出土遺物実測図(1)	465	第 428 图	第 179 号住居跡出土遺物実測図	509
第 392 图	第 165 号住居跡出土遺物実測図(2)	466	第 429 图	第 180 号住居跡実測図	511
第 393 图	第 165 号住居跡出土遺物実測図(3)	467	第 430 图	第 180 号住居跡出土遺物実測図	512
第 394 图	第 166-A・166-B 号住居跡実測図	469	第 431 图	第 181 号住居跡実測図	513
第 395 图	第 166-A 号住居跡竪実測図	470	第 432 图	第 181 号住居跡出土遺物実測図	513
第 396 图	第 166-A 号住居跡出土遺物実測図	471	第 433 图	第 182 号住居跡実測図	514
第 397 图	第 166-B 号住居跡出土遺物実測図	472	第 434 图	第 182 号住居跡出土遺物実測図	515
第 398 图	第 167 号住居跡実測図	473	第 435 图	第 183 号住居跡実測図	516
第 399 图	第 167 号住居跡出土遺物実測図	474	第 436 图	第 183 号住居跡出土遺物実測図	516
第 400 图	第 168 号住居跡実測図	476	第 437 图	第 184 号住居跡実測図	517
第 401 图	第 168 号住居跡出土遺物実測図	478	第 438 图	第 184 号住居跡出土遺物実測図	518
第 402 图	第 169 号住居跡実測図	479	第 439 图	第 185 号住居跡実測図	519
第 403 图	第 169 号住居跡出土遺物実測図	480	第 440 图	第 185 号住居跡出土遺物実測図	520
第 404 图	第 170 号住居跡実測図	482	第 441 图	第 186 号住居跡実測図	522
第 405 图	第 170 号住居跡出土遺物実測図	483	第 442 图	第 186 号住居跡出土遺物実測図	523
第 406 图	第 171 号住居跡実測図	484	第 443 图	第 187 号住居跡実測図	524
第 407 图	第 171 号住居跡出土遺物実測図	485	第 444 图	第 187 号住居跡出土遺物実測図	525
第 408 图	第 172 号住居跡実測図	486	第 445 图	第 190 号住居跡実測図	527
第 409 图	第 172 号住居跡出土遺物実測図(1)	487	第 446 图	第 190 号住居跡出土遺物実測図	528
第 410 图	第 172 号住居跡出土遺物実測図(2)	488	第 447 图	第 191 号住居跡実測図	529
第 411 图	第 173 号住居跡実測図	490	第 448 图	第 191 号住居跡出土遺物実測図	529
第 412 图	第 173 号住居跡竪実測図	491	第 449 图	第 192 号住居跡実測図	531
第 413 图	第 173 号住居跡出土遺物実測図	492	第 450 图	第 192 号住居跡炉実測図	532
第 414 图	第 174 号住居跡実測図	494	第 451 图	第 192 号住居跡出土遺物実測図(1)	533
第 415 图	第 174 号住居跡出土遺物実測図	495	第 452 图	第 192 号住居跡出土遺物実測図(2)	534
第 416 图	第 175 号住居跡実測図	496	第 453 图	第 192 号住居跡出土遺物実測図(3)	535
第 417 图	第 175 号住居跡出土遺物実測図	497	第 454 图	第 193 号住居跡実測図	538
第 418 图	第 176 号住居跡実測図	498	第 455 图	第 194 号住居跡実測図	539
第 419 图	第 176 号住居跡遺物出土状況図	499	第 456 图	第 194 号住居跡出土遺物実測図	540
第 420 图	第 176 号住居跡出土遺物実測図(1)	500	第 457 图	第 195 号住居跡実測図	541
第 421 图	第 176 号住居跡出土遺物実測図(2)	501	第 458 图	第 195 号住居跡出土遺物実測図(1)	543
第 422 图	第 176 号住居跡出土遺物実測図(3)	502	第 459 图	第 195 号住居跡出土遺物実測図(2)	544
第 423 图	第 177 号住居跡実測図	505	第 460 图	第 196 号住居跡実測図	546
第 424 图	第 177 号住居跡出土遺物実測図	506	第 461 图	第 196 号住居跡出土遺物実測図	547
第 425 图	第 178 号住居跡実測図	507	第 462 图	第 197 号住居跡実測図	549
第 426 图	第 178 号住居跡出土遺物実測図	508	第 463 图	第 197 号住居跡出土遺物実測図	550

第 464 图	第198-A号住居跡実測図	552	第 504 图	第217号住居跡出土遺物実測図	599
第 465 图	第198-B号住居跡実測図	553	第 505 图	第218号住居跡実測図	601
第 466 图	第198-B号住居跡出土遺物実測図	554	第 506 图	第218号住居跡出土遺物実測図(1)	602
第 467 图	第199号住居跡実測図	556	第 507 图	第218号住居跡出土遺物実測図(2)	603
第 468 图	第199号住居跡出土遺物実測図	557	第 508 图	第219号住居跡実測図	605
第 469 图	第200号住居跡実測図	558	第 509 图	第219号住居跡出土遺物実測図	605
第 470 图	第200号住居跡出土遺物実測図	559	第 510 图	第220号住居跡実測図	606
第 471 图	第201号住居跡実測図	561	第 511 图	第220号住居跡出土遺物実測図	607
第 472 图	第201号住居跡出土遺物実測図	562	第 512 图	第221・236号住居跡実測図	609
第 473 图	第202号住居跡実測図	563	第 513 图	第221号住居跡出土遺物実測図	610
第 474 图	第202号住居跡出土遺物実測図	563	第 514 图	第222号住居跡実測図	612
第 475 图	第203号住居跡実測図	565	第 515 图	第222号住居跡出土遺物実測図	613
第 476 图	第203号住居跡出土遺物実測図	565	第 516 图	第223号住居跡実測図	614
第 477 图	第204号住居跡実測図	567	第 517 图	第223号住居跡出土遺物実測図	615
第 478 图	第204号住居跡出土遺物実測図(1)	568	第 518 图	第224号住居跡実測図	616
第 479 图	第204号住居跡出土遺物実測図(2)	569	第 519 图	第224号住居跡出土遺物実測図(1)	618
第 480 图	第204号住居跡出土遺物実測図(3)	570	第 520 图	第224号住居跡出土遺物実測図(2)	619
第 481 图	第205号住居跡実測図	574	第 521 图	第225号住居跡実測図	620
第 482 图	第205号住居跡出土遺物実測図	574	第 522 图	第225号住居跡出土遺物実測図	621
第 483 图	第206号住居跡実測図	576	第 523 图	第226号住居跡実測図	622
第 484 图	第206号住居跡出土遺物実測図	577	第 524 图	第226号住居跡出土遺物実測図	623
第 485 图	第208号住居跡実測図	579	第 525 图	第227号住居跡実測図	624
第 486 图	第208号住居跡出土遺物実測図	580	第 526 图	第227号住居跡出土遺物実測図	625
第 487 图	第209号住居跡実測図	581	第 527 图	第228号住居跡実測図	626
第 488 图	第209号住居跡出土遺物実測図	581	第 528 图	第228号住居跡出土遺物実測図	627
第 489 图	第210号住居跡実測図	582	第 529 图	第229号住居跡実測図	629
第 490 图	第210号住居跡出土遺物実測図	583	第 530 图	第229号住居跡出土遺物実測図	630
第 491 图	第211号住居跡実測図	585	第 531 图	第230号住居跡実測図	631
第 492 图	第211号住居跡出土遺物実測図	586	第 532 图	第230号住居跡出土遺物実測図	633
第 493 图	第212号住居跡実測図	588	第 533 图	第231号住居跡実測図	635
第 494 图	第212号住居跡出土遺物実測図	589	第 534 图	第231号住居跡出土遺物実測図	635
第 495 图	第213号住居跡実測図	591	第 535 图	第232号住居跡実測図	636
第 496 图	第213号住居跡出土遺物実測図	592	第 536 图	第232号住居跡出土遺物実測図	637
第 497 图	第214号住居跡実測図	593	第 537 图	第233号住居跡実測図	638
第 498 图	第214号住居跡出土遺物実測図	593	第 538 图	第233号住居跡出土遺物実測図	640
第 499 图	第215号住居跡実測図	594	第 539 图	第234号住居跡実測図	641
第 500 图	第215号住居跡出土遺物実測図	595	第 540 图	第234号住居跡出土遺物実測図	641
第 501 图	第216号住居跡実測図	596	第 541 图	第235号住居跡実測図	642
第 502 图	第216号住居跡出土遺物実測図	597	第 542 图	第235号住居跡出土遺物実測図	643
第 503 图	第217号住居跡実測図	598	第 543 图	第236号住居跡出土遺物実測図	644

第 544 图	第 1 号鍛冶工房跡実測図	646	第 569 图	第 1 号方形周溝墓出土遺物実測図	679
第 545 图	第 1 号鍛冶工房跡出土遺物 実測図(1)	647	第 570 图	第 2 号方形周溝墓実測図	680
第 546 图	第 1 号鍛冶工房跡出土遺物 実測図(2)	648	第 571 图	第 2 号方形周溝墓出土遺物実測図	681
第 547 图	第 2-A 号鍛冶工房跡実測図	650	第 572 图	第 3 号方形周溝墓実測図	682
第 548 图	第 2-A 号鍛冶工房跡遺物出土 状況図	651	第 573 图	第 3 号方形周溝墓出土遺物実測図	683
第 549 图	第 2-A 号鍛冶工房跡鍛造剥片・炭化材 出土状況図	651	第 574 图	第 4 号方形周溝墓実測図	685
第 550 图	第 2-A 号鍛冶工房跡出土遺物 実測図(1)	652	第 575 图	第 4 号方形周溝墓出土遺物実測図	686
第 551 图	第 2-A 号鍛冶工房跡出土遺物 実測図(2)	653	第 576 图	第 1 号溝実測図	687
第 552 图	第 2-A 号鍛冶工房跡出土遺物 実測図(3)	654	第 577 图	第 1 号溝遺物出土状況実測図(1)	688
第 553 图	第 2-A 号鍛冶工房跡出土遺物 実測図(4)	655	第 578 图	第 1 号溝遺物出土状況実測図(2)	689
第 554 图	第 2-A 号鍛冶工房跡出土遺物 実測図(5)	656	第 579 图	第 1 号溝遺物出土状況実測図(3)	690
第 555 图	第 2-A 号鍛冶工房跡出土遺物 実測図(6)	657	第 580 图	第 2・5・6・7・8・11・13号溝 出土遺物実測図	694
第 556 图	第 2-A 号鍛冶工房跡出土遺物 実測図(7)	658	第 581 图	粘土採掘坑跡配置図	696
第 557 图	第 2-A 号鍛冶工房跡出土遺物 実測図(8)	659	第 582 图	第 1 号粘土採掘坑跡実測図	697
第 558 图	第 2-B 号鍛冶工房跡実測図	667	第 583 图	第 1 号粘土採掘坑跡出土遺物 実測図	697
第 559 图	第 3 号鍛冶工房跡実測図	669	第 584 图	第 3・4 号粘土採掘坑跡実測図	699
第 560 图	第 3 号鍛冶工房跡出土遺物実測図	669	第 585 图	第 3 号粘土採掘坑跡出土遺物 実測図	700
第 561 图	第 4 号鍛冶工房跡実測図	671	第 586 图	第 4 号粘土採掘坑跡出土遺物 実測図	701
第 562 图	第 4 号鍛冶工房跡出土遺物 実測図(1)	672	第 587 图	第 6 号粘土採掘坑跡実測図	702
第 563 图	第 4 号鍛冶工房跡出土遺物 実測図(2)	673	第 588 图	第 6 号粘土採掘坑跡出土遺物 実測図	703
第 564 图	第 1 号獨立柱建物跡実測図	675	第 589 图	第 5・7・8・9・12号粘土採掘坑跡 出土遺物実測図	704
第 565 图	第 2 号獨立柱建物跡実測図	676	第 590 图	第 12・13・20・21・22・24・25号粘土 採掘坑跡出土遺物実測図	705
第 566 图	第 2 号獨立柱建物跡出土遺物 実測図	677	第 591 图	第 27号粘土採掘坑跡実測図	708
第 567 图	第 3 号獨立柱建物跡実測図	678	第 592 图	第 27号粘土採掘坑跡出土遺物 実測図	709
第 568 图	第 1 号方形周溝墓実測図	679	第 593 图	第 1・2・3・4・5・6号井戸 実測図	711
			第 594 图	第 2 号井戸出土遺物実測図(1)	712
			第 595 图	第 2 号井戸出土遺物実測図(2)	713
			第 596 图	第 1・26・27・47・59・67号土坑 実測図	716
			第 597 图	第 1 号土坑出土遺物実測図	717
			第 598 图	第 26 号土坑出土遺物実測図	718

第599 図	第27号土坑出土遺物実測図	718	第617 図	第225号土坑出土遺物実測図	743
第600 図	第28・42・44・46・51号土坑出土遺物 実測図	719	第618 図	第50・137・166・167・173・225・287・ 288号土坑実測図	744
第601 図	第51・52・57・86・137号土坑出土遺物 実測図	722	第619 図	第287・288号土坑出土遺物実測図	745
第602 図	第47号土坑出土遺物実測図	723	第620 図	旧石器集中地点遺物出土状況図	747
第603 図	第50号土坑出土遺物実測図	725	第621 図	旧石器集中地点出土遺物実測図(1)	748
第604 図	第59号土坑出土遺物実測図	727	第622 図	旧石器集中地点出土遺物実測図(2)	749
第605 図	第67号土坑出土遺物実測図(1)	728	第623 図	旧石器集中地点出土遺物実測図(3)	750
第606 図	第67号土坑出土遺物実測図(2)	729	第624 図	第1号集石遺構実測図	751
第607 図	第69・98・124・147・163・168・175号 土坑実測図	731	第625 図	第1号集石遺構出土遺物実測図	752
第608 図	第69号土坑出土遺物実測図	732	第626 図	遺構外出土遺物実測・拓影図(1)	759
第609 図	第98号土坑出土遺物実測図	733	第627 図	遺構外出土遺物実測・拓影図(2)	760
第610 図	第124号土坑出土遺物実測図	734	第628 図	遺構外出土遺物実測図(3)	761
第611 図	第147号土坑出土遺物 実測図・拓影図	736	第629 図	遺構外出土遺物実測図(4)	762
第612 図	第163号土坑出土遺物実測図	737	第630 図	遺構外出土遺物実測図(5)	763
第613 図	第166・167・173号土坑出土遺物 実測図	738	第631 図	遺構外出土遺物実測図(6)	764
第614 図	第168号土坑出土遺物実測図(1)	740	第632 図	遺構外出土遺物実測図(7)	765
第615 図	第168号土坑出土遺物実測図(2)	741	第633 図	遺構外出土遺物実測図(8)	766
第616 図	第175号土坑出土遺物実測図	743	第634 図	遺構外出土遺物実測図(9)	767
			第635 図	遺構外出土遺物実測図(9)	768
			第636 図	遺構外出土遺物実測図(10)	769
			第637 図	遺構外出土遺物実測・拓影図(10)	770
			第638 図	遺構外出土遺物実測・拓影図(11)	771

付図 三反田下高井遺跡遺構全体図

表 目 次

表1 整穴住居跡一覽表	772	表4 粘土採掘坑跡一覽表	779
表2 鍛冶工房跡一覽表	778	表5 土坑一覽表	780
表3 溝一覽表	778		

写真図版目次

P L 1 調査前遠景, 1区遺構確認状況, 2区遺構 確認状況, 3区遺構確認状況, 4区遺構確 認状況, 1区西調査終了状況, 2区東調査 終了状況, 2区中央調査終了状況	P L 2 2区西調査終了状況, 3区西調査終了状 況, 4区調査終了状況, 5区調査終了状況, 第2号住居跡遺物出土状況, 第2号住居跡 完掘状況, 第3号住居跡遺物出土状況(1)~(2)
---	--

- P L 3 第3号住居跡竈完掘状況, 第3号住居跡完掘状況, 第4号住居跡遺物出土状況, 第4号住居跡完掘状況, 第5号住居跡遺物出土状況, 第5号住居跡完掘状況, 第6号住居跡竈完掘状況
- P L 4 第6号住居跡遺物出土状況, 第7・8号住居跡遺物出土状況, 第6号住居跡完掘状況, 第8号住居跡遺物出土状況, 第7・8号住居跡完掘状況, 第9号住居跡遺物出土状況(1)・(2), 第9号住居跡竈遺物出土状況
- P L 5 第9号住居跡完掘状況, 第10号住居跡遺物出土状況, 第10号住居跡完掘状況, 第11・12号住居跡遺物出土状況, 第11号住居跡竈遺物出土状況, 第11・12号住居跡完掘状況, 第13号住居跡遺物出土状況, 第13号住居跡完掘状況
- P L 6 第14号住居跡完掘状況, 第15号住居跡遺物出土状況, 第15号住居跡竈遺物出土状況, 第16号住居跡遺物出土状況, 第17号住居跡完掘状況, 第18-A・18-B号住居跡遺物出土状況, 第18-A・18-B号住居跡完掘状況, 第19号住居跡竈完掘状況
- P L 7 第19号住居跡完掘状況, 第19・20・21-A・21-B号住居跡遺物出土状況, 第20・21-A・21-B号住居跡遺物出土状況, 第20号住居跡完掘状況, 第21-A号住居跡竈土層セクション, 第21-A号住居跡竈完掘状況, 第21-A・21-B号住居跡完掘状況, 第22号住居跡竈土層セクション
- P L 8 第22号住居跡完掘状況, 第23・24号住居跡・第50号土坑完掘状況, 第26号住居跡遺物出土状況, 第26・27号住居跡遺物出土状況, 第27号住居跡貯蔵穴遺物出土状況, 第25・26・27号住居跡完掘状況, 第28号住居跡竈土層セクション, 第28号住居跡完掘状況
- P L 9 第28・29号住居跡完掘状況, 第30号住居跡土層セクション, 第30号住居跡完掘状況, 第31号住居跡土層セクション, 第31号住居跡遺物出土状況, 第33号住居跡遺物出土状況, 第34号住居跡遺物出土状況, 第36号住居跡遺物出土状況
- P L 10 第36号住居跡遺物出土状況, 第36号住居跡完掘状況, 第37号住居跡遺物出土状況, 第37号住居跡ピット土層セクション, 第37号住居跡床面状況, 第37号住居跡完掘状況, 第38号住居跡刀子出土状況
- P L 11 第38号住居跡竈完掘状況, 第39・40号住居跡完掘状況, 第41号住居跡完掘状況, 第42・43号住居跡完掘状況, 第44号住居跡完掘状況, 第45号住居跡完掘状況, 第46号住居跡遺物出土状況
- P L 12 第47号住居跡遺物出土状況, 第47号住居跡完掘状況, 第48-A・48-B号住居跡完掘状況, 第49・50・52号住居跡遺物出土状況, 第49号住居跡遺物出土状況, 第49号住居跡完掘状況, 第50号住居跡(1)・(2)
- P L 13 第50号住居跡竈完掘状況, 第50号住居跡完掘状況, 第51号住居跡遺物出土状況, 第51号住居跡遺物出土状況, 第51号住居跡完掘状況, 第52号住居跡完掘状況, 第53-A・53-B・54・55・56号住居跡完掘状況
- P L 14 第57号住居跡完掘状況, 第56・62号住居跡完掘状況, 第58-A・58-B号住居跡完掘状況, 第59・60・61号住居跡完掘状況, 第61号住居跡完掘状況, 第63-A号住居跡竈完掘状況, 第63-A号住居跡完掘状況
- P L 15 第63-A・63-B号住居跡完掘状況, 第64号住居跡遺物出土状況(1)・(2)・(3), 第65号住居跡完掘状況, 第66号住居跡遺物出土状況(1)・(2), 第66号住居跡竈遺物出土状況
- P L 16 第66号住居跡完掘状況, 第68・69号住居跡遺物出土状況, 第68号住居跡貯蔵穴土層セクション, 第68号住居跡貯蔵穴遺物出土状況, 第68号住居跡遺物出土状況, 第68・69号住居跡完掘状況, 第69号住居跡完掘状況, 第70号住居跡遺物出土状況
- P L 17 第70号住居跡遺物出土状況, 第70号住居跡完掘状況, 第71号住居跡遺物出土状況, 第71号住居跡完掘状況, 第72-A・72-B・72-C号住居跡完掘状況, 第72-A号住居跡掘

- り方状況、第73号住居跡完掘状況
- P L 18 第74号住居跡完掘状況、第73・75号住居跡完掘状況、第76号住居跡完掘状況、第77号住居跡完掘状況、第78号住居跡完掘状況、第79号住居跡完掘状況、第80号住居跡完掘状況、第81号住居跡完掘状況
- P L 19 第82号住居跡遺物出土状況(1)・(2)、第82号住居跡完掘状況、第83号住居跡完掘状況、第84-A号住居跡遺物出土状況、第84-A号住居跡完掘状況、第84-B号住居跡完掘状況、第85号住居跡完掘状況
- P L 20 第85号住居跡完掘状況、第86-A号住居跡完掘状況、第86-B号住居跡完掘状況、第84-A・87号住居跡完掘状況、第88-B号住居跡完掘状況、第88-C号住居跡完掘状況、第90号住居跡完掘状況、第91・92・93号住居跡遺物出土状況
- P L 21 第91号住居跡完掘状況、第92号住居跡完掘状況、第93号住居跡完掘状況、第94-A・94-B号住居跡完掘状況、第95-A・95-B号住居跡完掘状況、第95-A・95-B号住居跡掘り方状況、第96号住居跡遺物出土状況、第96号住居跡完掘状況
- P L 22 第97号住居跡完掘状況、第98号住居跡完掘状況、第99号住居跡完掘状況、第100号住居跡遺物出土状況、第100号住居跡完掘状況、第101号住居跡遺物出土状況(1)・(2)、第101号住居跡完掘状況
- P L 23 第102号住居跡遺物出土状況、第102号住居跡完掘状況、第103号住居跡遺物出土状況(1)・(2)、第103号住居跡土層セクション、第103号住居跡電凝灰岩出土状況(1)・(2)、第103号住居跡完掘状況
- P L 24 第104号住居跡完掘状況、第105号住居跡遺物出土状況、第106号住居跡遺物出土状況、第105・106号住居跡完掘状況、第107号住居跡完掘状況、第108・109・110号住居跡遺物出土状況、第108号住居跡完掘状況、第109号住居跡完掘状況
- P L 25 第110号住居跡完掘状況、第111号住居跡完掘状況、第112-A号住居跡遺物出土状況、第112・113-A・113-B号住居跡遺物出土状況、第112-A号住居跡完掘状況、第113-A号住居跡遺物出土状況(1)・(2)・(3)
- P L 26 第113-A号住居跡完掘状況、第113-B号住居跡完掘状況、第114号住居跡遺物出土状況、第114号住居跡完掘状況、第115号住居跡遺物出土状況、第116号住居跡完掘状況、第116号住居跡完掘状況、第117号住居跡遺物出土状況
- P L 27 第117号住居跡遺物出土状況、第117号住居跡完掘状況、第118-A号住居跡遺物出土状況、第118-B号住居跡完掘状況、第118-C号住居跡貯蔵穴完掘状況、第118-C号住居跡完掘状況、第118-A・118-B・118-C号住居跡完掘状況、第119-B号住居跡遺物出土状況
- P L 28 第119-B号住居跡遺物出土状況、第119-B号住居跡完掘状況、第119-A・120-A・120-B号住居跡完掘状況、第120-A号住居跡完掘状況、第120-B号住居跡遺物出土状況、第120-B号住居跡完掘状況、第120-B号住居跡完掘状況
- P L 29 第120-C号住居跡完掘状況、第121-A号住居跡完掘状況、第121-B号住居跡完掘状況、第122号住居跡完掘状況、第123号住居跡完掘状況、第123号住居跡完掘状況、第124号住居跡遺物出土状況、第124号住居跡出入り1床面状況
- P L 30 第124号住居跡遺物出土状況(1)・(2)・(3)、第124号住居跡完掘状況、第125号住居跡遺物出土状況、第125号住居跡完掘状況、第126号住居跡遺物出土状況、第126号住居跡土層セクション
- P L 31 第126号住居跡完掘状況、第126号住居跡完掘状況、第128号住居跡完掘状況、第128号住居跡完掘状況、第130号住居跡完掘状況、第131号住居跡完掘状況、第132号住居跡出入り口ピット状況、第132-A・132-B号住居跡遺物出土状況

- P L 32 第132-A号住居跡遺物出土状況、第132-A号住居跡完掘状況、第132-B号住居跡遺物出土状況、第132-B号住居跡完掘状況、第134号住居跡遺物出土状況、第134号住居跡完掘状況、第135号住居跡遺物出土状況(1)・(2)
- P L 33 第135-A号住居跡完掘状況、第135-B号住居跡完掘状況、第136-A号住居跡遺物出土状況(1)・(2)、第136-A号住居跡完掘状況、第136-B号住居跡完掘状況、第137号住居跡遺物出土状況、第138号住居跡完掘状況
- P L 34 第139号住居跡完掘状況、第139号住居跡掘り方状況、第140号住居跡完掘状況、第140号住居跡完掘状況、第141-A・141-B号住居跡完掘状況、第142号住居跡完掘状況、第143号住居跡遺物出土状況、第143号住居跡完掘状況
- P L 35 第144号住居跡遺物出土状況、第144号住居跡完掘状況、第144号住居跡掘り方状況、第145-A・145-B・145-C号住居跡完掘状況、第145-C号住居跡完掘状況、第146-A・146-B号住居跡完掘状況、第148-B号住居跡調査前状況、第148-B号住居跡完掘状況(1)
- P L 36 第148-B号住居跡完掘状況(2)・(3)・(4)・(5)、第148-B号住居跡電凝灰岩出土状況、第147-A・148-B号住居跡完掘状況、第149号住居跡完掘状況、第150-A号住居跡完掘状況
- P L 37 第151号住居跡完掘状況、第153-A・135-B号住居跡遺物出土状況、第153-A号住居跡遺物出土状況(1)・(2)・(3)、第153-A号住居跡完掘状況、第153-B号住居跡遺物出土状況
- P L 38 第153-B号住居跡完掘状況、第154号住居跡遺物出土状況(1)・(2)、第154号住居跡完掘状況、第154号住居跡完掘状況、第156号住居跡遺物出土状況(1)・(2)・(3)
- P L 39 第156号住居跡完掘状況、第156号住居跡完掘状況、第157号住居跡完掘状況、第158-A号住居跡完掘状況、第158-B号住居跡完掘状況、第159号住居跡完掘状況、第159・160号住居跡完掘状況、第161号住居跡遺物出土状況
- P L 40 第161号住居跡完掘状況、第162号住居跡完掘状況、第163号住居跡遺物出土状況(1)・(2)、第163号住居跡完掘状況、第164号住居跡遺物出土状況(1)・(2)・(3)
- P L 41 第164号住居跡遺物出土状況(4)、第165号住居跡遺物出土状況(1)・(2)・(3)、第165号住居跡完掘状況、第167号住居跡完掘状況、第168号住居跡遺物出土状況、第168号住居跡完掘状況
- P L 42 第169号住居跡完掘状況、第170号住居跡完掘状況、第170号住居跡完掘状況、第171・172・173・174号住居跡遺物出土状況、第171号住居跡遺物出土状況(1)・(2)、第171号住居跡完掘状況、第172号住居跡遺物出土状況
- P L 43 第173号住居跡完掘状況、第173号住居跡電凝灰岩出土状況、第172・173・174号住居跡完掘状況、第175号住居跡遺物出土状況(1)・(2)、第175号住居跡完掘状況、第176号住居跡遺物出土状況(1)・(2)
- P L 44 第176号住居跡完掘状況、第176号住居跡電凝灰岩出土状況、第176号住居跡完掘状況、第177号住居跡遺物出土状況、第177号住居跡完掘状況、第178号住居跡完掘状況、第179号住居跡遺物出土状況、第179号住居跡完掘状況
- P L 45 第180号住居跡出入り口施設完掘状況、第180号住居跡完掘状況、第181号住居跡完掘状況、第182号住居跡完掘状況、第183・184号住居跡完掘状況、第184号住居跡遺物出土状況
- P L 46 第185号住居跡遺物出土状況(1)・(2)、第185号住居跡完掘状況、第186号住居跡遺物出土状況、第186号住居跡完掘状況、第187号住居跡遺物出土状況、第187号住居跡完掘状況、第190号住居跡完掘状況

- P L 47 第191号住居跡完掘状況, 第192号住居跡遺物出土状況(1)・(2)・(3), 第192号住居跡完掘状況, 第193号住居跡完掘状況, 第194号住居跡遺物出土状況, 第194号住居跡完掘状況
- P L 48 第195号住居跡遺物出土状況(1)・(2)・(3), 第195号住居跡遺物出土状況, 第195号住居跡完掘状況, 第196号住居跡遺物出土状況(1)・(2), 第196号住居跡完掘状況
- P L 49 第197号住居跡完掘状況, 第198-A・198-B号住居跡完掘状況, 第199号住居跡完掘状況, 第199号住居跡完掘状況, 第200号住居跡ピット遺物出土状況, 第200号住居跡完掘状況, 第201号住居跡遺物出土状況
- P L 50 第201号住居跡遺物出土状況, 第201号住居跡完掘状況, 第202号住居跡遺物出土状況, 第202号住居跡完掘状況, 第203号住居跡完掘状況, 第204号住居跡遺物出土状況, 第204号住居跡完掘状況, 第205号住居跡遺物出土状況
- P L 51 第205号住居跡完掘状況, 第206号住居跡遺物出土状況, 第206号住居跡遺物出土状況, 第206号住居跡完掘状況, 第208・209号住居跡遺物出土状況, 第208号住居跡完掘状況, 第209号住居跡完掘状況, 第210号住居跡遺物出土状況
- P L 52 第210号住居跡完掘状況, 第211号住居跡遺物出土状況, 第211号住居跡完掘状況, 第212号住居跡遺物出土状況, 第212号住居跡完掘状況, 第213号住居跡完掘状況, 第214号住居跡完掘状況
- P L 53 第213号住居跡遺物出土状況, 第214号住居跡完掘状況, 第215・216号住居跡遺物出土状況, 第215号住居跡完掘状況, 第216号住居跡完掘状況, 第217号住居跡完掘状況, 第218号住居跡遺物出土状況(1)
- P L 54 第218号住居跡遺物出土状況(2), 第218号住居跡完掘状況, 第219号住居跡完掘状況, 第220号住居跡完掘状況, 第221号住居跡遺物出土状況, 第221号住居跡電蔵灰岩完掘状況, 第221号住居跡完掘状況, 第222号住居跡遺物出土状況
- P L 55 第222号住居跡完掘状況, 第223号住居跡完掘状況, 第224号住居跡遺物出土状況(1)・(2)・(3), 第224号住居跡完掘状況, 第225号住居跡遺物出土状況, 第225号住居跡完掘状況
- P L 56 第226号住居跡完掘状況, 第227号住居跡土層セクション, 第228号住居跡遺物出土状況, 第228号住居跡完掘状況, 第229号住居跡遺物出土状況, 第229号住居跡完掘状況, 第230号住居跡遺物出土状況(1)・(2)
- P L 57 第230号住居跡貯蔵穴遺物出土状況, 第231号住居跡遺物出土状況, 第231号住居跡完掘状況, 第232号住居跡遺物出土状況(1)・(2), 第232号住居跡完掘状況, 第233号住居跡遺物出土状況, 第234号住居跡完掘状況
- P L 58 第233号住居跡完掘状況, 第235号住居跡完掘状況, 第236号住居跡完掘状況, 第1号鍛冶工房跡遺物出土状況(1)・(2)・(3), 第1号鍛冶工房跡完掘状況
- P L 59 第2-A号鍛冶工房跡遺物出土状況(1)(2), 第2-A号鍛冶工房跡完掘状況, 第2-A号鍛冶工房跡全床石出土状況, 第2-A号鍛冶工房跡貯蔵穴遺物出土状況, 第2-A号鍛冶工房跡完掘状況, 第4号鍛冶工房跡遺物出土状況, 第4号鍛冶工房跡完掘状況
- P L 60 第3号鍛冶工房跡完掘状況, 第2号掘立柱建物跡完掘状況, 第3号掘立柱建物跡完掘状況, 第2号方形周溝墓遺物出土状況(1)・(2), 第3号方形周溝墓遺物出土状況(1)・(2)
- P L 61 第4号方形周溝墓遺物出土状況(1)・(2)・(3), 第1号溝遺物出土状況(1)・(2), 第1号溝完掘状況
- P L 62 第3・4方形周溝墓完掘状況, 第2号方形周溝墓完掘状況, 第3号方形周溝墓完掘状況
- P L 63 第1号溝完掘状況, 第2号溝完掘状況, 第5号溝完掘状況, 第7号溝完掘状況, 第9号溝土層セクション, 第11号溝完掘状況

P L 64 第15号溝完掘状況、第1・2号粘土探掘坑跡完掘状況、第3号粘土探掘坑跡完掘状況、第4号粘土探掘坑跡完掘状況、第5号粘土探掘坑跡遺物出土状況、第24号粘土探掘坑跡遺物出土状況、第25号粘土探掘坑跡土層セクション

P L 65 第27号粘土探掘坑跡遺物出土状況、粘土探掘坑跡群完掘状況、第26号土坑土層セクション、第26号土坑遺物出土状況、第27号土坑完掘状況、第50号土坑遺物出土状況(1)・(2)、第67号土坑遺物出土状況

P L 66 第98号土坑金環出土状況、第163号土坑完掘状況、第166号土坑完掘状況、第167号土坑完掘状況、第173号土坑遺物出土状況、第225号土坑遺物出土状況、第287号土坑遺物出土状況、第286・287・288・289号土坑完掘状況

第165号住居跡 (第390図)

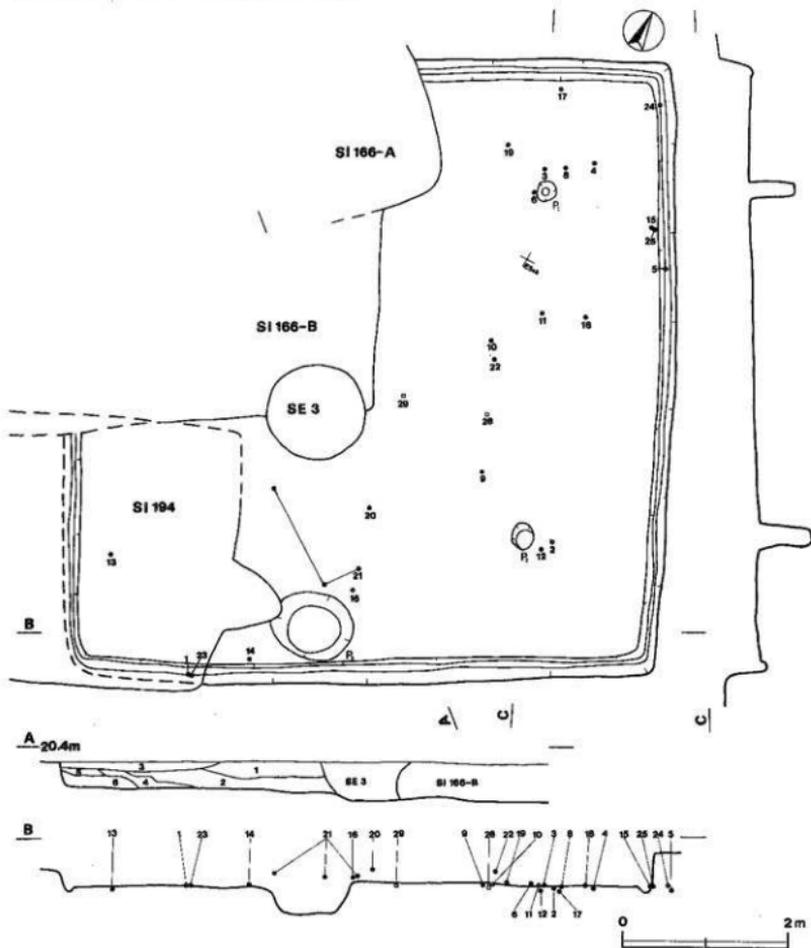
位置 調査区の中央部, E5e区。

重複関係 本跡は, 第166-B号住居跡, 第166-A号住居跡及び第3号井戸に掘り込まれ, 南西部の床の上に, 第194号住居跡が床を構築していることから, 3軒の住居跡と第2号井戸よりも古い。

規模と平面形 遺存する北東壁から推定すると, 一辺7.62mの方形あるいは長方形と思われる。

主軸方向 N-24°-W

壁 壁高は38~40cmで, ほぼ垂直に立ち上がる。



第390図 第165号住居跡実測図

壁溝 確認された壁下には、すべて壁溝が巡っており、全周するものと思われる。上幅約14cm、下幅約6cm、深さ約6cmで、断面形は逆台形である。

床 平坦で、全体的に締まりがなく軟らかい。

ピット 3か所 (P₁~P₃)。P₁、P₂は、径24~32cmの不整形円形、深さ56~65cmで、配置や規模から主柱穴と思われる。P₃は径86cm、深さ42cmの不整形円形で、位置から考えると出入り口ピットの可能性があるが、形状が逆台形である点からすると貯蔵穴の可能性も考えられる。

覆土 6層からなる自然堆積である。

土層解説

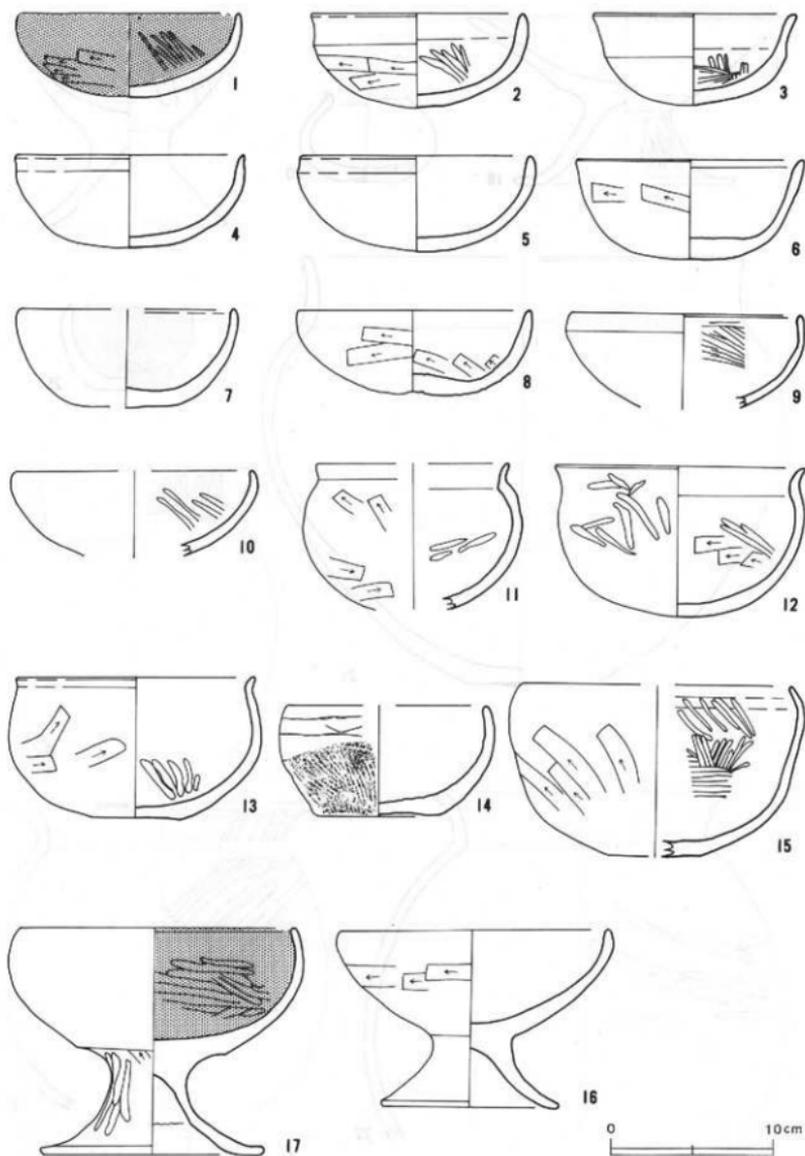
- 1 赤褐色 ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒子少量
- 4 褐色 炭化粒子多量、ローム小ブロック・ローム粒子中量、焼土粒子少量
- 5 黒褐色 炭化粒子多量、焼土粒子・ローム小ブロック少量、ローム小ブロック微量
- 6 黒褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子多量、黒色土粒子少量、焼土粒子微量

遺物 土師器片788点、須恵器片8点、縄文土器片3点が出土している。第391~393図5、9の坏、11の碗、15の鉢、18の高坏、25の手捏土器、28の有孔円板は北東壁付近床面から、2の坏、12の碗は東コーナー付近床面から、3、4、6、8の坏、17、19の高坏、24の甕は北コーナー付近床面から、1の坏、13の碗、23の甕は南東壁付近床面、14の碗は同覆土下層、16の高坏は同覆土中層から、10の坏は中央部床面、20の埴、22の甕は同覆土上層、29の有孔円板は同床面から、21の甕は散在した状態で覆土中層から、7の坏、26の管状土錘、27の紡錘車は覆土中からそれぞれ出土している。

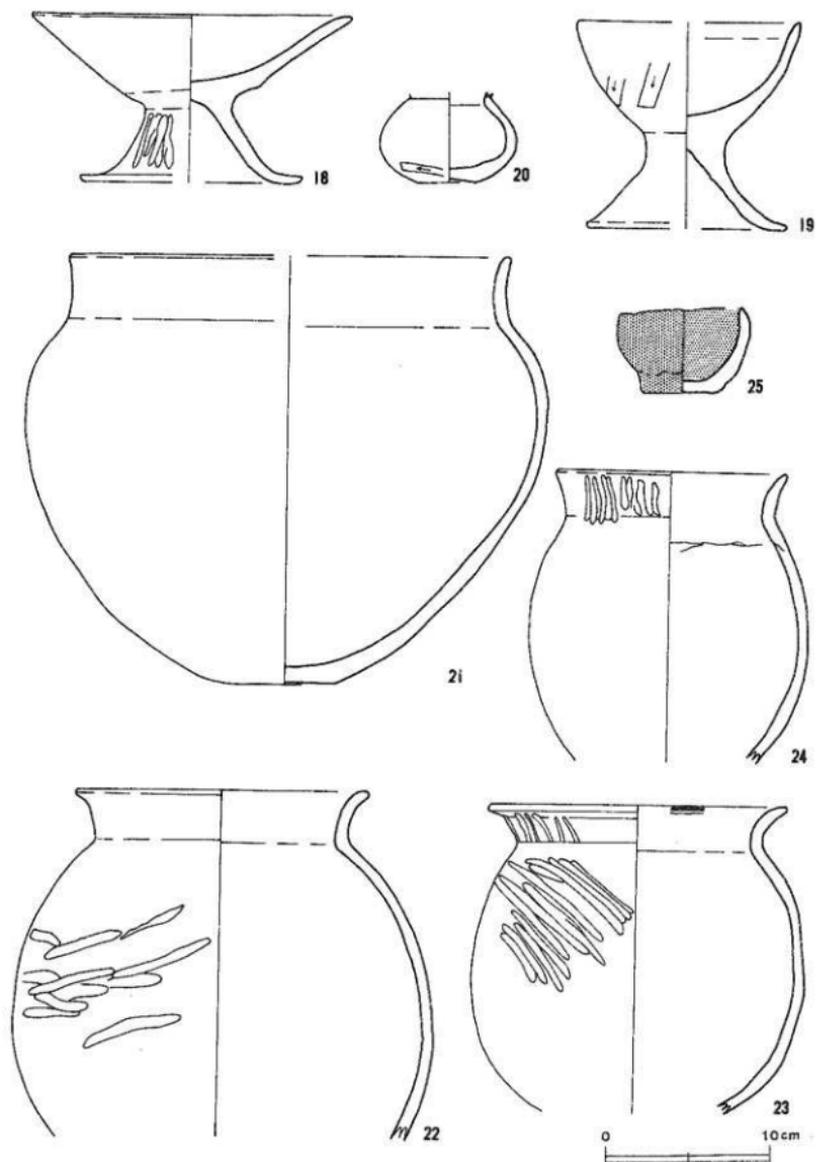
所見 本跡の時期は、遺物の形態及び出土遺物から古墳時代中期末から後期初頭（5世紀末）と思われる。

第165号住居跡出土遺物観察表

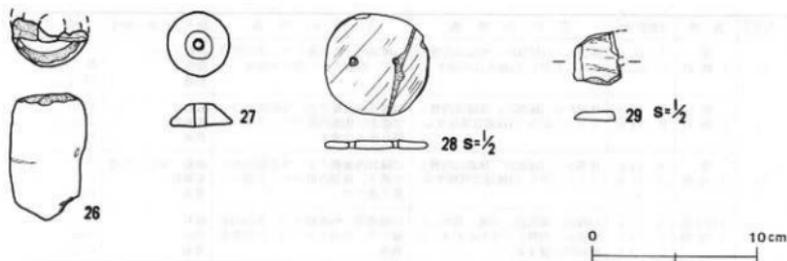
図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第391図 1	坏 土師器	A 13.4	丸底、体部は内彎して立ち上がり、 口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面 ナデ、外面へラ削り横ナデ。内・ 外面北沢のある黒色処理。	礫・石英 黒色 普通	P949 床面 PL
		B 5.1				
2	坏 土師器	A 12.9	丸底、体部は内彎して立ち上がり、 口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面 へラ削り横ナデ。外面へラ削り。	砂粒・石英・長石 赤褐色 普通	P950 床面 PL
		B 5.8				
3	坏 土師器	A 12.1	丸底、体部は内彎して立ち上がり、 口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面 へラ磨き、外面へラ削り一部へラ 磨き。	石英・スコリア・ 砂粒 褐色 普通	P951 床面 PL
		B 5.6				
4	坏 土師器	A 13.8	口縁部一部欠損。平底気味の丸底、 体部は内彎して立ち上がり、口縁 部は短く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面 ナデ、外面へラ削り一部へラ磨き。	砂粒・スコリア・ 長石 暗褐色 普通	P952 床面 PL
		B 5.7				
5	坏 土師器	A 13.9	底部から口縁部片。丸底、体部は 内彎して立ち上がり、口縁部は直 立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面 ナデ、外面へラ削り一部へラ磨き。	スコリア・長石・礫 暗赤褐色 普通	P953 床面 PL
		B 5.9				
6	坏 土師器	A 13.7	底部から口縁部片。平底、体部は 内彎して立ち上がりそのまま口縁 端部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面 へラナデ、外面へラ削り。	砂粒・石英・長石・ スコリア 明赤褐色 普通	P954 床面 PL
		B 6.2				
		C 5.0				
7	坏 土師器	A [12.8]	底部から口縁部片。平底、体部は 内彎して立ち上がり、口縁部はわ ずかに内彎する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・ 外面ナデ。	礫・スコリア・砂粒 暗赤褐色 普通	P955 覆土中 PL
		B 6.0				
		C 5.6				
8	坏 土師器	A 14.0	底部から口縁部片。平底気味の丸 底、体部は内彎して立ち上がり、 口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・ 外面へラ削り。	長石・砂粒 黒褐色 普通	P956 床面 PL
		B 5.2				



第391图 第165号住居跡出土遺物実測図(1)



第392図 第165号住居跡出土遺物実測図(2)



第393図 第165号住居跡出土遺物実測図(3)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
9	坏土師器	A 14.0 B (5.7)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面へラ磨き、外面ナデ一部へラ磨き。	スコリア・パミス・砂粒 黒褐色 普通	P937 50% 床面
10	坏土師器	A [14.3] B (5.2)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面へラ磨き、外面へラ削り。	スコリア・長石 黒褐色 普通	P958 40% 床面
11	碗土師器	A [11.4] B (8.9)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。内面に稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	スコリア・礫 黄褐色 普通	P959 40% 床面
12	碗土師器	A 15.0 B 9.2	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。内面に鈍い稜を持つ。	口縁部及び体部内・外面へラ磨き。	長石・砂粒 黒褐色 普通	P960 100% 床面
13	碗土師器	A 14.3 B 8.6 C 5.6	平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面へラ磨き、外面へラ削り。	長石・礫 黒褐色 普通	P961 100% 床面
14	碗土師器	A [12.0] B 6.8 C 7.6	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は内傾する。	口縁部内面横ナデ。外面ナデ。体部内面へラナデ、外面粗いへラナデ。体部外面に輪積み痕を残す。	砂粒・スコリア 暗褐色 普通	P962 60% 覆土下層
15	鉢土師器	A [16.4] B 10.5 C [5.4]	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面へラ磨き、外面へラ削り。	砂粒・パミス 明褐色 普通	P963 50% 床面
16	高坏土師器	A 16.3 B 11.0 D 10.6 E 4.3	脚部一部欠損。脚部は「ハ」の字状に開き、環部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。環部内・外面ナデ一部剥離。脚部内面へラ磨き。	砂粒・石英・礫 明赤褐色 普通	P964 98% 覆土中層 脚部 外面剥離 PL95
17	高坏土師器	A 16.4 B 13.9 D 13.0 E 5.2	脚部から口縁部片。脚部は「ハ」の字状に大きく開き、環部は内彎して立ち上がり、口縁部は内傾する。	口縁部内面へラ磨き、外面横ナデ。体部内面へラ磨き、外面へラ削り。脚部内面ナデ。外面縦位のへラ磨き。環部内・外面横ナデ。環部内面黒色処理。	長石・砂粒 黒褐色 普通	P965 90% 床面 PL95
第392図	高坏土師器	A 19.3 B 10.4 D [12.8] E 5.3	脚部から口縁部片。脚部は「ハ」の字状に開き、環部は下位に稜を持ち、外傾して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。環部外面へラ磨き。脚部内面ナデ。外面へラ磨き。	スコリア・砂粒 明赤褐色 普通	P966 85% 床面 環部内 面剥離 PL95
19	高坏土師器	A [13.6] B 12.8 D [12.0] E 6.0	脚部から口縁部片。脚部は「ハ」の字状に開き、環部は内彎して立ち上がり、そのまま口縁部部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り脚部内面へラナデ。外面ナデ。環部内・外面横ナデ。	スコリア・礫・長石 黄褐色 普通	P967 70% 覆土下層 体部 内面剥離 PL95
20	埴土師器	B (5.6) C 3.4	底部から体部片。平底。体部は算盤玉状である。	体部内面ナデ。外面上半ナデ、下半へラ磨き。	長石・スコリア 明赤褐色 普通	P968 70% 覆土上層 PL94
21	甕土師器	A [26.6] B 26.2 C 6.0	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	砂粒・長石 赤褐色 普通	P969 70% 覆土中層 PL95

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
22	土師器 土師器	A 17.1 B (21.2)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。外面ナデ一部ヘラ削り。	砂粒・長石 褐色 普通	P970 腹土上層 PL94 70%
23	土師器 土師器	A 18.0 B (18.4)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内面横ナデ。外面縦位のヘラ削り。体部内面ナデ。外面ヘラ削り後ヘラ磨き。	長石 黒褐色 普通	P971 床面 PL95 70%
24	土師器 土師器	A 13.9 B (17.8)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外傾する。	口縁部内面横ナデ。外面縦位のヘラ削り。体部内面ナデ。外面ヘラ削り後ナデ。	砂粒・長石・雲母 赤褐色 普通	P972 床面 PL95 70%
25	土師器 土師器	A 7.4 B 5.2 C 4.3	口縁部一部欠損。平底。突出した底部から内彎して立ち上がり、口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面横ナデ。外面ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒 黒色 普通	P973 床面 PL94 80%

図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第393図	管状土師	(7.7)	(4.4)	-	-	(69.7)	覆土中	DP117

図版番号	種別	計測値					石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第393027	紡錘車	3.9	3.8	1.3	0.7	23.3	滑石	覆土中	Q206 PL121
28	有孔円板	4.2	4.2	0.3	0.2	10.9	滑石	北東壁付近床面	Q207
29	有孔円板	2.2	(1.9)	0.3	-	(2.1)	滑石	中央部付近床面	Q208

第166-A号住居跡(第394・395図)

位置 調査区の中央部、E5d区。

重複関係 本跡は、第165号住居跡と第166-B号住居跡を掘り込んでいることから、第165号住居跡及び第166-B号住居跡より新しい。

規模と平面形 長軸7.01m、短軸6.72mの方形である。

主軸方向 N-45°-W

壁 壁高は32~50cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 確認された壁下には、北東壁を除いて壁溝が通っている。上幅約18cm、下幅約12cm、深さ約4cmで、断面形はU字形及び逆台形である。

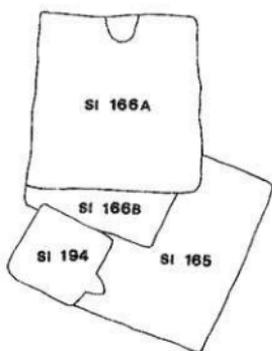
床 平坦で、主柱穴の周囲以外の部分はすべて踏み固められている。

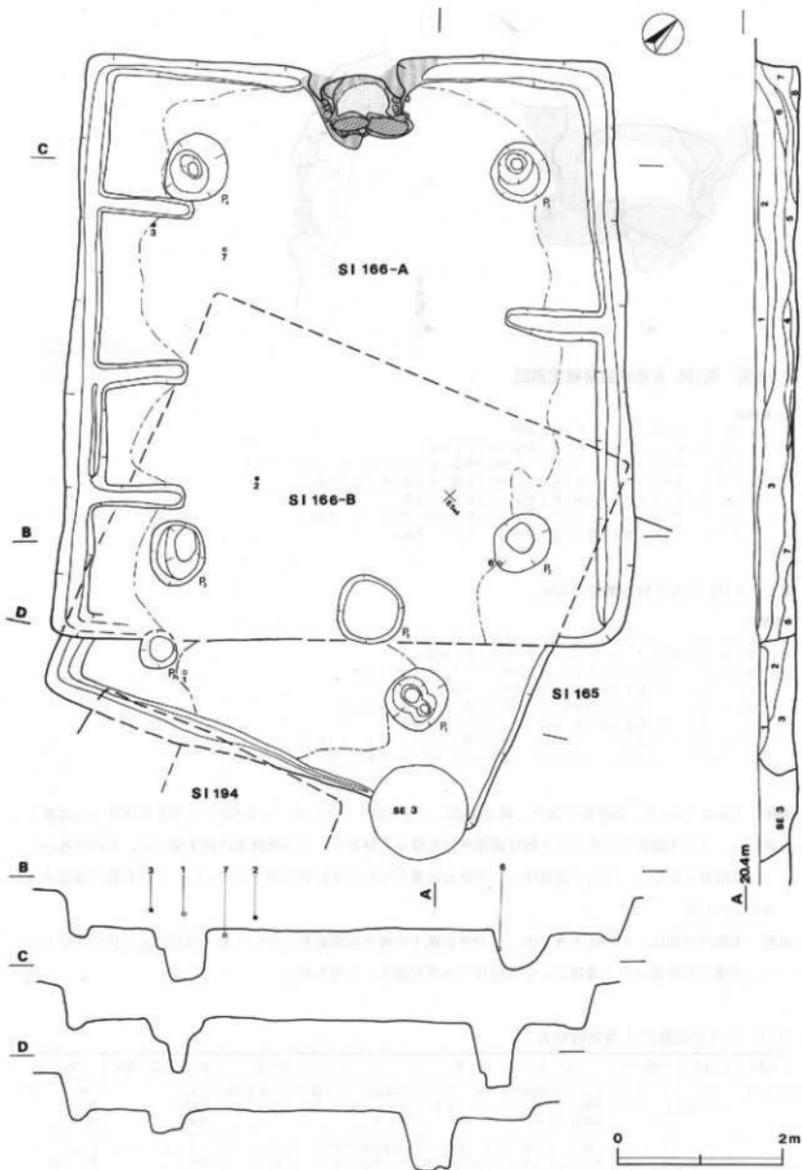
上幅約22cm、下幅約14cm、深さ約12cm、長さ110~120cm、断面形

がU字形の溝が、北東壁から1条、南西壁から3条ずつそれぞれ中央に向かって構築されている。

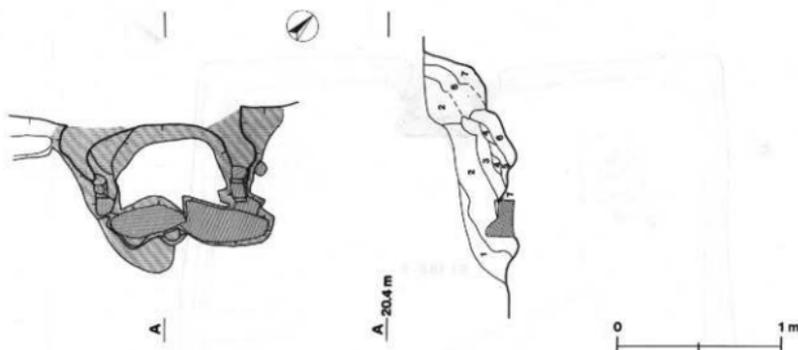
ピット 5カ所(P₁~P₅)。P₁~P₄は、径72~80cmの不整形円形、深さ45~76cmで、配置や規模から主柱穴と思われる。P₅は、径88cmの不整形円形、深さ29cmで、性格は不明である。

竈 北西壁中央部に付設され、褐色粘土と凝灰岩の切石とで構築されている。竈部先端には、ほぞが切られた凝灰岩の切石を立て、その上に長さ約95cmの横長の切石を載せることで焚き口部を構築していたと思われる。竈部内には凝灰岩の小片が2~4個埋め込まれている。火床部は、皿状に掘り窪められ、煙道部は、壁外へ35cm程突出し、壁の内側から緩やかに外傾して立ち上がる。





第394图 第166-A·166-B号住居跡実測図



第395図 第166-A号住居跡電実測図

電土層解説

- 1 黄褐色 粘土大ブロック・粘土粒子多量
- 2 黄褐色 粘土大ブロック・粘土粒子多量、焼土粒子中量
- 3 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子多量、粘土粒子中量、ローム粒子・灰少量
- 4 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子多量、灰中量、粘土粒子少量
- 5 赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子多量、炭化粒子・灰少量
- 6 赤褐色 焼土粒子・ローム中ブロック・ローム粒子少量、焼土中ブロック微量
- 7 灰黄褐色 粘土粒子多量、焼土粒子少量、ローム小ブロック微量

覆土 8層からなる自然堆積である。

土層解説

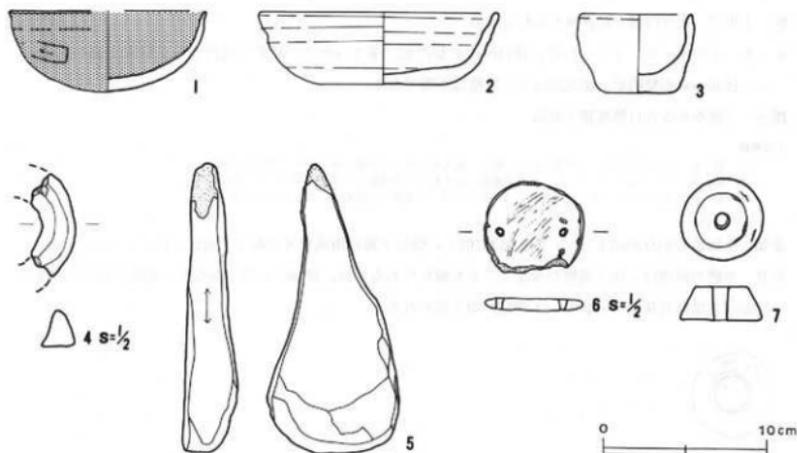
- 1 暗褐色 ローム中ブロック中量、ローム小ブロック・ローム粒子・粘土小ブロック少量
- 2 黒褐色 焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック中量、ローム中ブロック・ローム粒子微量
- 4 黒褐色 ローム粒子少量、ローム中・小ブロック微量
- 5 暗褐色 ローム小ブロック中量、ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子少量
- 6 黒褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・ローム中ブロック微量
- 7 暗褐色 ローム小ブロック中量、ローム粒子・焼土小ブロック少量、炭化粒子・ローム中ブロック微量
- 8 褐色 ローム中ブロック多量、ローム小ブロック中量、ローム粒子・粘土小ブロック少量

遺物 土器器片626点、須恵器片38点、縄文土器片1点が出土している。第396図2の須恵器坏は中央部覆土中層から、3の土器器ミニチュア土器は南西壁付近覆土上層から、7の紡錘車は同床面から、6の有孔円板はビット内覆土中から、1の土器器坏、5の砥石は覆土中からそれぞれ出土している。6の有孔円板は流れ込みと思われる。

所見 本跡の時期は、1の坏が覆土中、2の坏が覆土中層と床面資料でないため、時期決定の決め手に欠けるが、遺構の形態及び出土遺物から奈良時代（8世紀前半）と思われる。

第166-A号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第396図 1	坏 土器	A 11.9	底部から口縁部片。丸底。体部は内湾して立ち上がり、そのまま口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ、外面へ丸り。内・外面黒色処理。	長石 黒褐色 普通	P974 覆土中 PL
		B 4.9				
2	坏 須恵器	A 14.1	口縁部一部欠損。平底。体部は内湾して立ち上がり。口縁部は外傾する。体部外面に渦巻状の沈線が通る。	口縁部及び体部内・外面クロロナデ。体部下層ナデ。底部回転へ丸り調整。	石英・長石・雲母 褐色 普通	P975 覆土中層 PL
		B 4.4				
		C 7.8				



第396図 第166-A号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
3	ミナト上蓋	A 6.7	口縁部一部欠損。突出気味の平底。体部は内壁して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	スコリア・石英 暗赤褐色 普通	P976 90% 覆土上層
	土師器	B 4.9				
		C 4.5				

図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第396図4	不明土製品	-	-	(1.5)	-	(10.0)	覆土中	DP118 PL118

図版番号	種別	計測値					石質	出土地点	備考
		最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第396図5	砥石	14.8	5.3	2.3	-	127.8	凝灰岩	覆土中	Q250 PL120
6	有孔円板	3.7	4.0	0.5	0.2	10.8	滑石	ビット内覆土中	Q210
7	粘跡車	5.0	5.0	2.1	0.7~0.9	63.1	滑石	南西壁付近床面	Q211 PL120

第166-B号住居跡 (第394図)

位置 調査区の中央部, E5e₃区。

重複関係 本跡は, 第165号住居跡の南西部を掘り込み, 第194号住居跡が本跡の床の上に床面を構築しており, 北西部を第166-A号住居跡に, 南東部を第3号井戸に掘り込まれていることから, 第165号住居跡より新しく, 第166-A号住居跡, 第194号住居跡, 第3号井戸よりも古い。

規模と平面形 遺存する南東壁から推定すると, 一辺5.52mの方形あるいは長方形と思われる。

主軸方向 N-21°-W

壁 壁高は17~31cmで, 外傾して立ち上がる。

壁溝 確認された壁下には, 南東壁に壁溝が確認されている。上幅約18cm, 下幅約12cm, 深さ約7cmで, 断面形はU字形である。

床 平坦で、入り口部が踏み固められている。

ピット 2か所 (P₁, P₂)。P₁は、径74cmの不整形円形、深さ71cmで、配置や規模から主柱穴と思われる。P₂は、径46cmの不整形円形、深さ25cmで、性格は不明である。

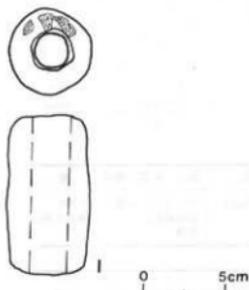
覆土 3層からなる自然堆積である。

土層解説

- 1 黒 褐色 ローム小ブロック中量、ローム粒子・粘土小ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子・ローム中ブロック微量
- 3 黒 褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム小ブロック多量、炭化粒子・ローム粒子少量

遺物 土師器片40点が出土している。第397図1の管状土鉢は南東壁付近覆土上層から出土している。

所見 本跡の時期は、出土遺物が少なくしかも細片であるため、詳細は不明であるが、遺構の形態及び重複関係から古墳時代後期（6世紀～7世紀）頃と思われる。



第397図 第166-B号住居跡出土遺物実測図

第166-B号住居跡出土遺物観察表

図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第397図1	管状土鉢	9.8	5.0	5.2	2.3	240.7	南東壁付近覆土上層	DP119 PL116

第167号住居跡（第398図）

位置 調査区の中央部、E5f区。

重複関係 本跡は、第168号住居跡の南部を掘り込んでいることから、第168号住居跡より新しい。

規模と平面形 長軸4.72m、短軸4.37mの方形である。

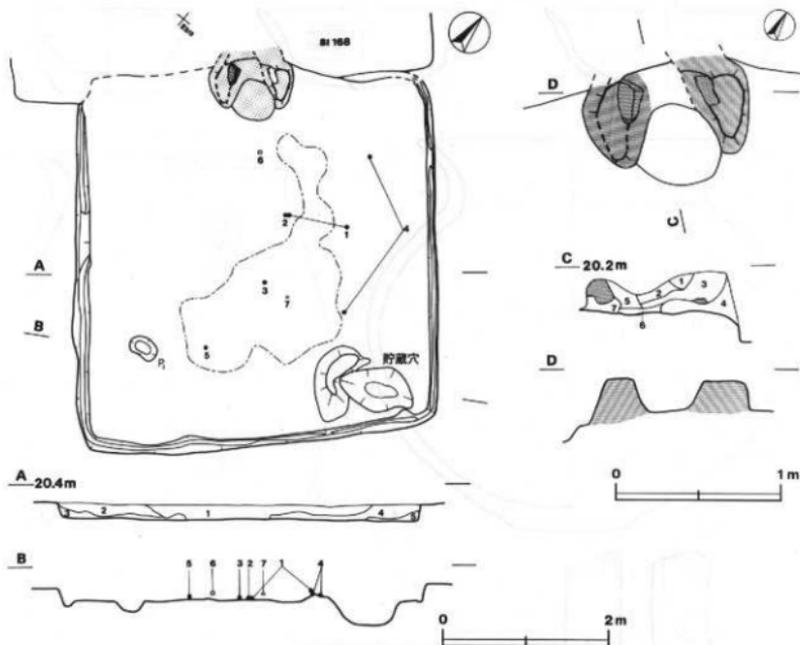
壁 壁高は15～19cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 確認された壁下には、北西壁を除いて壁溝が巡っている。上幅約21cm、下幅約10cm、深さ約6cmで、断面形はU字形である。

床 平坦で、中央部は踏み固められている。貯蔵穴の周囲に、約10～30cm幅で馬の背状の高まりが見られる。

ピット P₁は、径22cmの不整形円形、深さ15cmで、性格は不明である。

貯蔵穴 東コーナーに付設され、長径94cm、短径54cmの楕円形、深さは32cm、断面形は逆台形である。



第398図 第167号住居跡実測図

竈 北西壁中央部に付設され、砂粒まじりの白色粘土と凝灰岩の切石とで構築されている。凝灰岩の切石は、袖部内面に芯材として使用されている。火床部の掘り込みは見られない。煙道部の壁外への突出は、攪乱のため不明である。

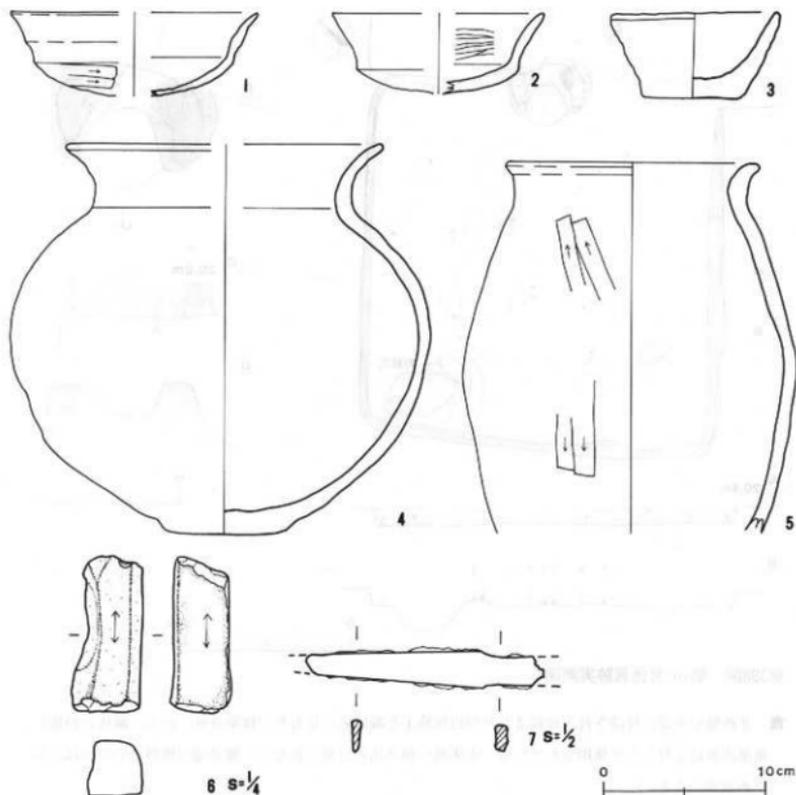
竈土層解説

- | | | |
|---|------|--------------------------------------|
| 1 | 暗赤褐色 | 焼土中ブロック・焼土粒子多量、炭化粒子中量 |
| 2 | 暗赤褐色 | 焼土小ブロック・粘土粒子多量、焼土粒子・灰少量 |
| 3 | 灰褐色 | 焼土小ブロック・灰多量、焼土中ブロック中量、焼土大ブロック・炭化粒子少量 |
| 4 | 暗褐色 | 焼土粒子・灰少量、炭化粒子微量 |
| 5 | 灰褐色 | 焼土粒子・粘土粒子少量 |
| 6 | 赤褐色 | 焼土中・小ブロック多量、灰中量、ローム中ブロック少量 |
| 7 | 明褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子多量、粘土粒子少量 |

覆土 5層からなる自然堆積である。

土層解説

- | | | |
|---|-----|-----------------------------|
| 1 | 褐色 | ローム大・中ブロック多量、ローム粒子中量、炭化粒子少量 |
| 2 | 黒褐色 | ローム粒子少量 |
| 3 | 黒褐色 | ローム粒子中量、ローム大ブロック少量 |
| 4 | 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量、炭化粒子少量 |
| 5 | 黒褐色 | ローム粒子多量、ローム大・中・小ブロック中量 |



第399図 第167号住居跡出土遺物実測図

第167号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	寸法値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第399図 1	坏 土 師 器	A [14.9] B (5.1)	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。外面に突出した稜を持つ。	口縁部内面磨き、外面横ナデ。体部外面へラ削り。	長石 赤褐色 普通	P 977 30% 覆土下層 体部 内面刺磨 PL95
2	坏 土 師 器	A [12.8] B (4.1)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。外面に突出した稜を持つ。	口縁部内面へラ磨き、外面横ナデ。体部内面磨き、外面へラ削り。	スコリア 明赤褐色 普通	P 978 30% 床面 PL95
3	ミナマツ土 土 師 器	A 9.9 B 5.4 C 6.0	底部から口縁部片。平底。体部は突出した底部から外傾して立ち上がる。	口縁部及び体部内・外面ナデ。	耀 明赤褐色 普通	P 979 70% 床面 PL95
4	甕 土 師 器	A [19.1] B 23.9 C 7.4	底部から口縁部片。平底。体部は球形状で、最大径を中位に持つ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	砂粒・石英・長石 明褐色 普通	P 980 60% 覆土下層 PL95
5	甕 土 師 器	A 15.2 B (22.8)	体部から口縁部片。体部は内彎気味に直線的に立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ、外面ナデ一部へラ削り。	砂粒・長石 暗褐色 普通	P 981 60% 床面 PL95

図版番号	種 別	計 測 値					石 質	出土地点	備 考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)			
第399図6	砥 石	12.5	5.6	4.5	-	508.5	砂 岩	竈前履士下層	Q212 PL120

図版番号	種 別	計 測 値					出土地点	備 考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)		
第399図7	刀 子	(9.1)	1.5	0.3~0.5	-	(17.5)	南西壁付近重土下層	M66

遺物 土師器片64点、須恵器片14点、軽石1点、鉄滓1点、旧石器剥片2点が出土している。第399図1土師器環と4の甕は北西壁付近重土下層に散在した状態で、3のミニチュア土器、2の環、5の甕は中央部床面から、7の刀子は同重土下層から、6の砥石は竈前履上下層からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から古墳時代後期（6世紀前半）と思われる。

第168号住居跡（第400図）

位置 調査区の中央部、E5e区。

重複関係 本跡は、第167号住居跡と第169号住居跡が本跡の床の上に床面を構築していることから、2軒の住居跡よりも古い。

規模と平面形 長軸4.72m、短軸4.37mの方形である。

主軸方向 N-47°-E

壁 壁高は19~57cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 全周する。上幅約14cm、下幅約7cm、深さ約8~13cmで、断面形は逆台形である。

床 平坦で、入り口部からが前にかけて踏み固められている。上幅約22~25cm、下幅約6cm、深さ約15cm、長さ約88~105cm、断面形がU字形の溝が、北東壁から1条、南西壁から1条、北西壁から2条が中央に向かって掘り込まれている。貯蔵穴1、2とP₁、P₂の周囲にはそれぞれ高まりが見られる。

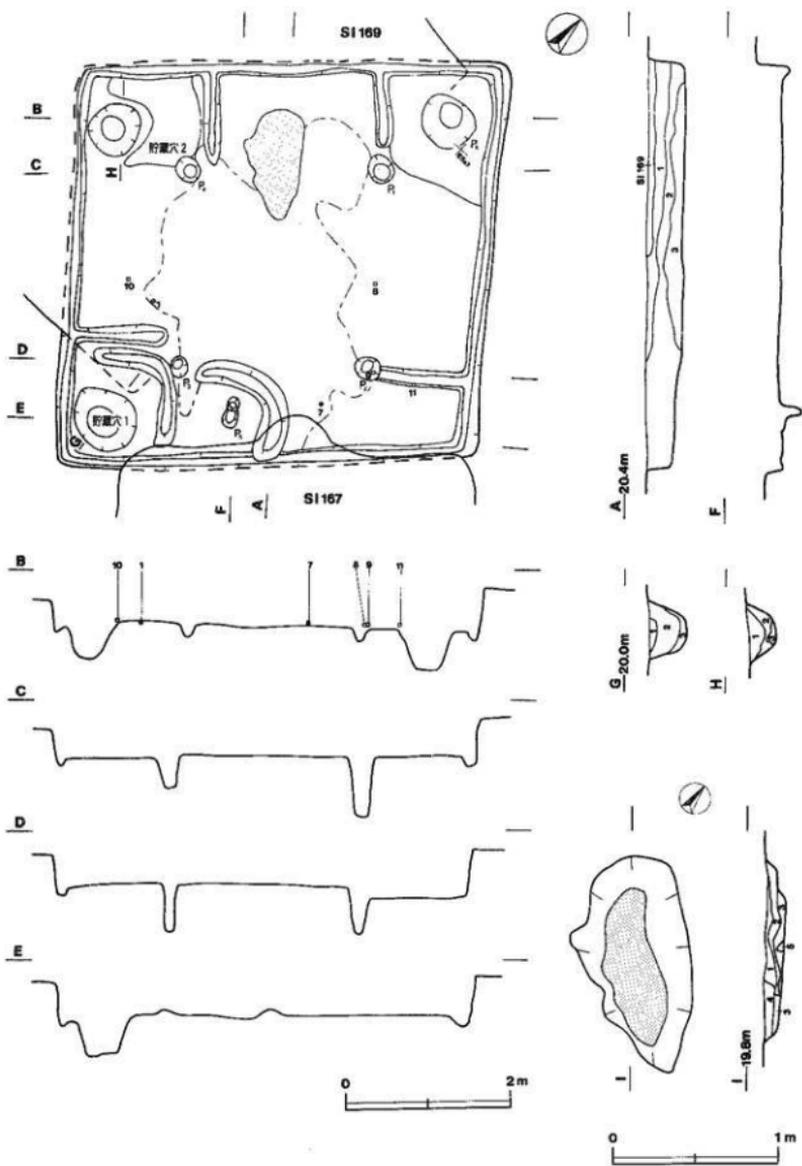
炉 中央から北西寄りに位置し、長径92cm、短径59cmの楕円形で、床面を11cm掘り窪めた地床炉である。が床は赤変硬化している。

伊土層解説

- 1 赤 黒 色 焼土粒子・炭化粒子多量、焼土小ブロック・灰少量
- 2 赤 褐色 焼土小ブロック・焼土粒子多量、焼土大ブロック微量
- 3 褐 色 ローム中ブロック多量、ローム粒少量
- 4 黄 褐色 ローム粒子多量、ローム大ブロック中量
- 5 赤 褐色 焼土粒子中量、ローム中ブロック少量

ピット 6か所（P₁~P₆）。P₁~P₄は、径24~36cmの不整形円形、深さ40~72cmで、配置や規模から主柱穴と思われる。P₅は、径17cmの不整形円形、深さ25cmで、出入り口ピットと思われる。P₆は、長径62cm、短径54cmの不整形楕円形、深さ71cm、断面形は逆台形で、周囲に高まりが見られる。規模や形状及び周囲の高まり等の点で、他の貯蔵穴との共通性があるため貯蔵穴の可能性がある。

貯蔵穴 2か所。貯蔵穴1は南コーナーに付設され、径78cm、深さは45cmの不整形円形で、断面形はU字形である。



第400图 第168号住居跡实测图

貯蔵穴1土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子・ローム粒子少量、ローム中・小ブロック微量
- 2 暗褐色 焼土大・中ブロック・焼土粒子・炭化粒少量、ローム粒子微量
- 3 褐色 ローム中ブロック中量、ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒子少量

貯蔵穴2は西コーナーに付設され、径58cm、深さ33cmの不整形円形で、断面形は楕円形である。

貯蔵穴2土層解説

- 1 黒色 炭化材・ローム中ブロック少量、ローム粒子微量
- 2 黒褐色 焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 3 黒褐色 炭化粒子少量、焼土大ブロック・焼土粒子少量

覆土 3層からなる自然堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子・ローム粒子少量
- 2 黒褐色 炭化粒子・ローム大・中・小ブロック・ローム粒子少量
- 3 黒褐色 焼土中ブロック・ローム大ブロック中量、炭化粒子・ローム中・小ブロック・ローム粒子少量

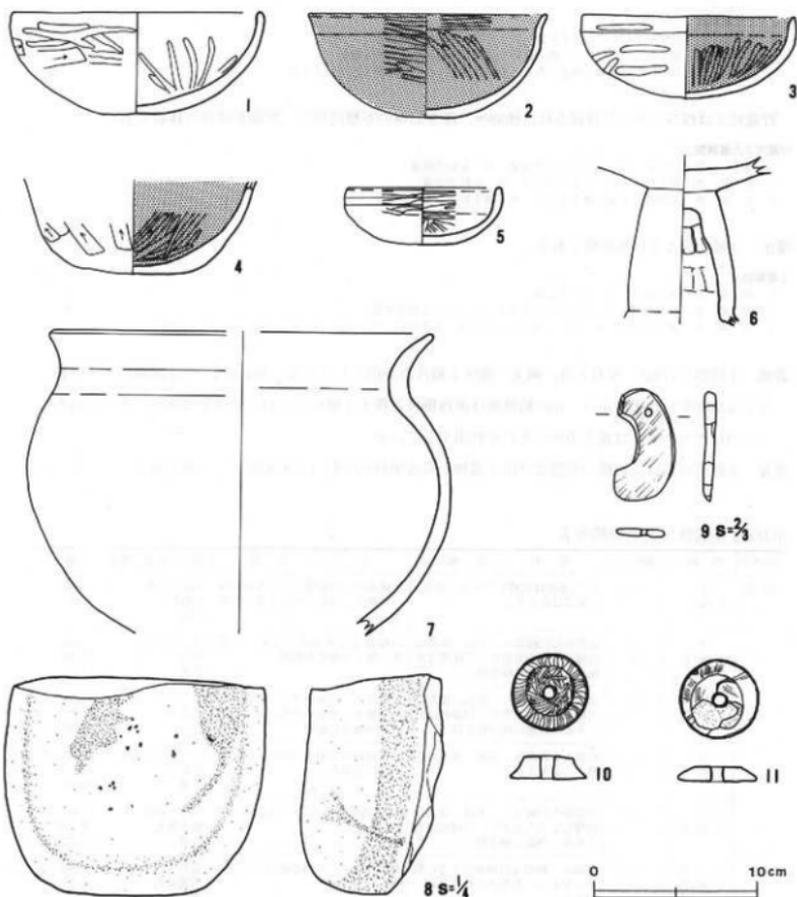
遺物 土師器片179点、軽石6点、縄文・弥生土器片点が出土している。第401Ⅳ1の土師器環、7の寛、9の勾玉は南東壁付近床面から、10の紡錘車は南西壁付近覆土下層から、11の紡錘車は東コーナー床面から、2～5の環と6の高環は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から古墳時代中期（5世紀後半）と思われる。

第168号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第401Ⅳ1	環	A 15.0	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ、体部内面ヘラ磨き、外面ヘラ削り後ヘラ磨き。	砂粒・石英 赤褐色	P982 床面
		B 6.2				
2	土師器 上脚器	A 14.5	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。外面に縄を持つ。	口縁部及び体部内・外面ヘラ磨き。内・外面黒色処理。	バミス・長石 黒色 普通	P983 覆土中 PL95
		B 6.3				
		C 3.5				
3	環 土師器	A 12.7	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。外面に縄を持つ。	口縁部内・外面横ナデ、体部内面ヘラ磨き、外面ヘラ削り後ヘラ磨き。内面黒色処理。	スコリア・砂粒 黒褐色	P984 覆土中 PL93
		B 3.0				
4	環 土師器	B (5.8)	底部から体部片。平底。体部は内彎して立ち上がる。	体部内面ヘラ磨き、外面ヘラ削り。内面黒色処理。	スコリア・石英 黒褐色 普通	P985 覆土中 PL95
		C 7.0				
5	環 土師器	A 9.2	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。外面に縄を持つ。	口縁部及び体部内・外面ヘラ磨き。	長石・砂粒 暗赤褐色 普通	P987 覆土中 PL95
		B 3.5				
6	高環 土師器	B (10.3)	脚部片。脚部は内凹状で下方に膨らみがあり、胴部との接合部がくびれる。	脚部内面ナデ、外面縦位のヘラ磨き。	長石・石英 明黄褐色 普通	P988 覆土中
		E (8.2)				
7	寛 土師器	A [22.8]	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	砂粒・スコリア・長石 鈍い棕色 普通	P988 床面 PL95
		B (18.4)				

図版番号	種別	計測値					石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第401Ⅳ8	金床石	17.7	21.1	11.5	-	6290	砂岩	北西壁付近床面	Q213
9	勾玉	3.4	1.8	0.25	0.2	2.8	滑石	南東壁床面	Q214 PL119
10	紡錘車	4.6	4.6	1.4	0.5	38.4	滑石	南西壁付近覆土下層	Q215 PL121
11	紡錘車	4.7	4.8	0.9	0.7	29.8	滑石	東コーナー付近床面	Q216 PL121



第401図 第168号住居跡出土遺物実測図

第169号住居跡 (第402図)

位置 調査区の中央部, E5e区。

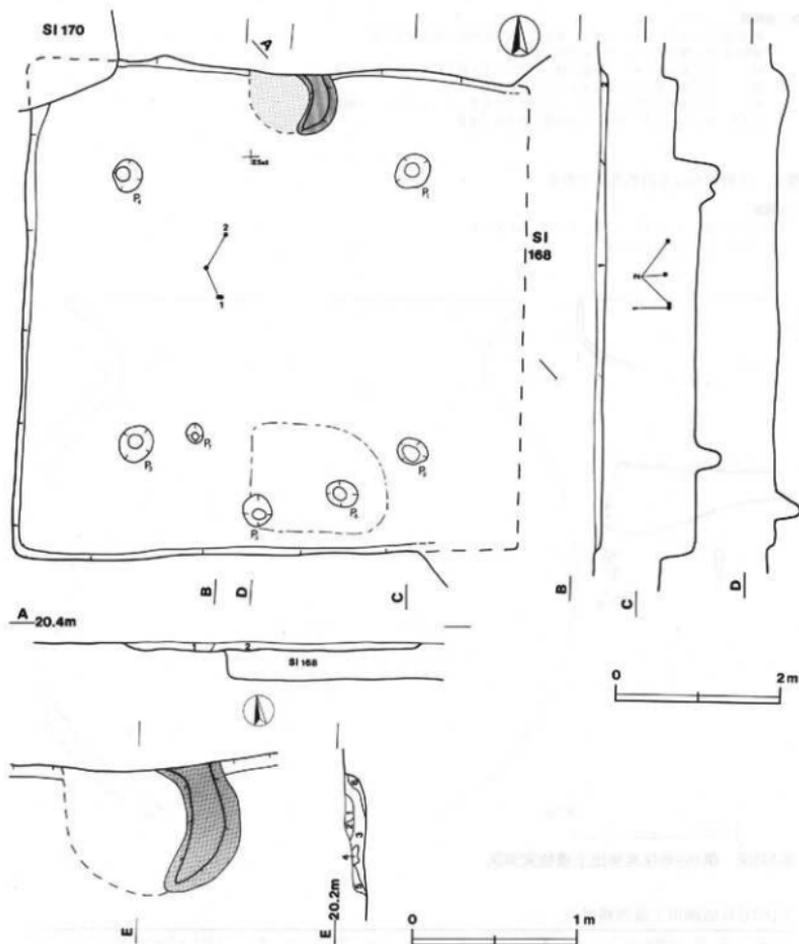
重複関係 本跡は、第168号住居跡の床の上に床面を構築しており、北部を第170号住居跡に掘り込まれていることから、第168号住居跡より新しく、第170号住居跡よりも古い。

規模と平面形 長軸6.24m, 短軸5.97mの方形である。

主軸方向 N-1°-E

壁 壁高は5~19cmで、外傾して立ち上がる。

床 平坦で、第168号住居跡に貼り床した部分を除いて中央部は踏み固められている。



第402図 第169号住居跡実測図

ピット 7か所 ($P_1 \sim P_7$)。 $P_1 \sim P_4$ は、径35~42cmの不整形円形、深さ56~66cmで、配置や規模から主柱穴と思われる。 P_5 は、径36cmの不整形円形、深さ32cmで、出入り口ピットと思われる。 P_6 、 P_7 は、径24~35cm、深さ24.5~35.0cmの不整形円形で、性格は不明である。

竈 北壁中央部に付設され、砂粒まじりの白色粘土で構築されているが、削平されて左袖部は残っていない。火床部は、10cm程皿状に掘り窪められている。煙道部は、壁外への突出がほとんどなく、壁の内側から立ち上がっている。

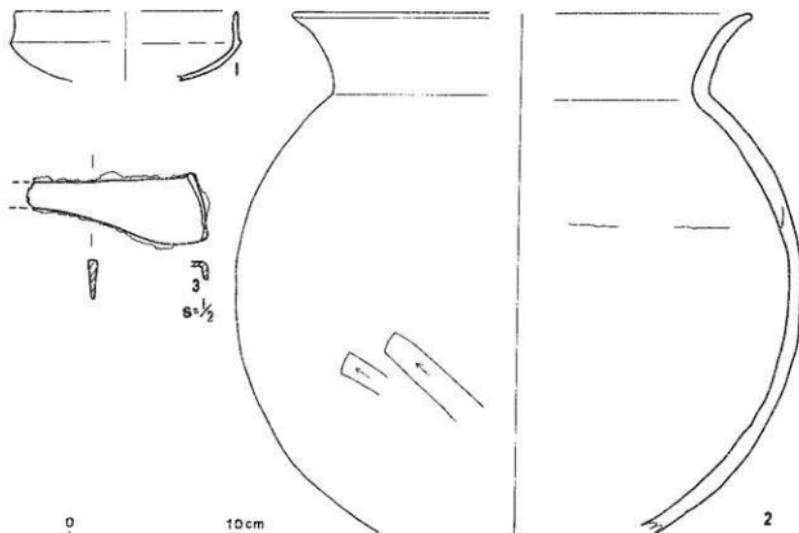
覆土層解説

- 1 黄褐色 焼土中ブロック中量、焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
- 2 黄褐色 焼土中ブロック・粘土粒子少量
- 3 褐色 粘土小ブロック中量、焼土中ブロック・焼土粒子・粘土粒子少量
- 4 褐色 焼土小ブロック・粘土小ブロック少量
- 5 褐色 焼土小ブロック・ローム大ブロック少量、ローム小ブロック微量
- 6 暗褐色 ローム中・小ブロック多量、粘土粒子少量

覆土 2層からなる自然堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子少量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量



第403図 第169号住居跡出土遺物実測図

第169号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・構成	備考
第403図 1	土器 土器	A [13.6] B (4.3)	底部から口縁部片。丸底。体部は内側して立ち上がり、口縁部は直立する。外面に突出した稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	スコリア 明褐色 普通	P989 20% 覆土上層 PL96
2	土器 土器	A [27.7] B (31.8)	体部から口縁部片。体部は球形状で最大径を中位に持つ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内側ナデ、外面ナデ一部へラ削き。	砂粒・長石 黒褐色 普通	P990 30% 覆土上層 PL96

図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第403図3	鎌	(7.4)	3.2	0.4	-	(25.8)	ビッド内覆土中	M67 PL123

遺物 土師器片174点が出土している。第403図 i の土師器坏、2 の甕は中央部覆土層上層から、3 の鎌はピット内覆土中からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から古墳時代後期（6世紀前半）と思われる。

第170号住居跡（第404図）

位置 調査区の中央部、E5d₁区。

重複関係 本跡は、第153号住居跡東コーナー部と第169号住居跡の北西コーナー部とを掘り込んでいることから、第153号住居跡及び第169号住居跡より新しい。

規模と平面形 長軸4.20m、短軸3.80mの方形である。

主軸方向 N-14°-W

壁 壁高は14～30cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 全周する。上幅約14cm、下幅約6cm、深さ約6cmで、断面形はU字形である。

床 平坦で、中央部から竈前にかけて踏み固められている。

ピット 2か所（P₁～P₂）。P₁は、径125cmの不整形円形、深さ45cmで、配置等から見ると入り口部ピットの可能性があるが、規模等から見ると確定はできない。P₂は、長径50cm、短径34cm、深さ18cmの不整形円形で、性格は不明である。

竈 北壁中央部に付設され、凝灰岩の切石を芯材として砂粒まじりの白色粘土で構築されている。火床部は、21cm程度に掘り穿められている。煙道部は、壁外へ67cm突出し、壁の内側からゆるやかに外傾して立ち上がる。

覆土層解説

- 1 黒褐色 粘土小ブロック中量、焼土粒子・ローム粒子・粘土中ブロック少量
- 2 黒褐色 粘土小ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子少量、焼土中・小ブロック微量
- 3 暗赤褐色 焼土粒子多量、粘土小ブロック・炭化粒子少量、焼土中ブロック微量
- 4 赤褐色 焼土中・小ブロック・炭化粒子・灰多量、焼土粒子少量
- 5 黒褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子少量、粘土中ブロック微量
- 6 暗褐色 焼土粒子中量、粘土粒子少量

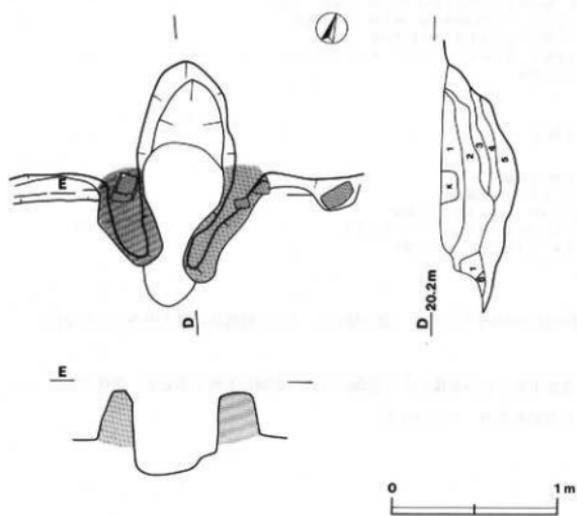
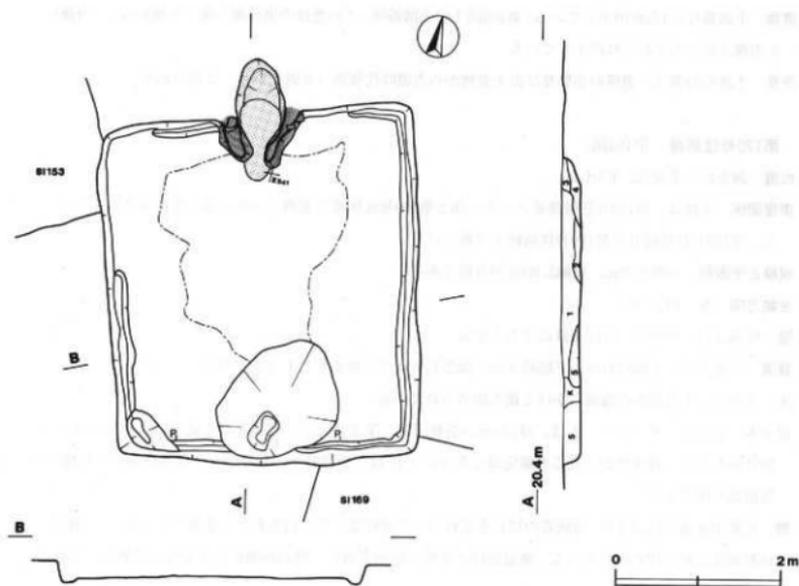
覆土 5層からなる自然堆積である。

土層解説

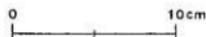
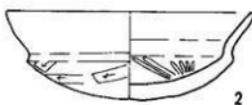
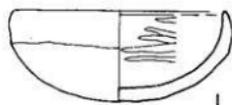
- 1 黒褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子中量、ローム大ブロック微量
- 3 黒褐色 炭化粒子・ローム粒子少量、ローム小ブロック微量
- 4 黒褐色 粘土大ブロック・粘土粒子中量、焼土粒子・ローム粒子少量
- 5 黒褐色 ローム小ブロック少量、焼土粒子・ローム粒子微量

遺物 土師器片153点、須恵器片26点が出土している。第405図 1、2 の土師器坏は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は、出土遺物が少なくしかも覆土中の遺物のため、詳細は不明であるが、遺構の形態及び出土遺物から古墳時代後期（6世紀前半頃）と思われる。



第404图 第170号住居跡実測图



第405図 第170号住居跡出土遺物実測図

第170号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第405図 1	坏 土器器	A 12.8 B 5.6	丸底。体部は内彎して立ち上がり、 口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面 ヘラ磨き、外面ナデ。体部外面に 輪紙み痕を残す。	スコリア・砂粒 明褐色 普通	P991 面十中 PL100 98%
2	坏 土器器	A 15.0 B 5.4	丸底。体部は内彎して立ち上がり、 口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面 ヘラ磨き、外面ヘラ削り。外面黒 色処理。	石英 明褐色 普通	P992 覆上中 PL100 95%

第171号住居跡 (第406図)

位置 調査区の中央部、E5c₁区。

重複関係 本跡は、第172、173号住居跡に北部を掘り込まれて
いることから、2軒の住居跡よりも古い。

規模と平面形 長軸6.18m、短軸5.84mの方形である。

主軸方向 N-10°-W

壁 壁高は28~42cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 確認された壁下にはすべて壁溝が巡っており、全周する
ものと思われる。上幅約11cm、下幅約5cm、深さ約4cmで、
断面形はU字形である。

床 平坦で、入り口部から中央部にかけて踏み固められている。
入り口部には貯蔵穴が設置され、その周囲には幅約15cmの馬
蹄形の高まりがみられる。

ピット 6か所 (P₁~P₆)。P₁、P₂は、径39~72cmの不整円
形、深さ14~28cmで、配置や規模から主柱穴と思われる。P₃
~P₆は、径21~34cmの不整円形、深さ12~29cmで、性格は
不明である。

貯蔵穴 南壁中央部に付設され、径66cmの円形で、深さは58cmである。断面形は、掘り鉢形である。

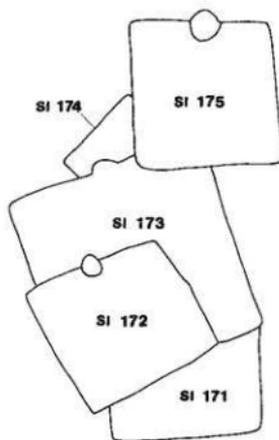
貯蔵穴土層解説

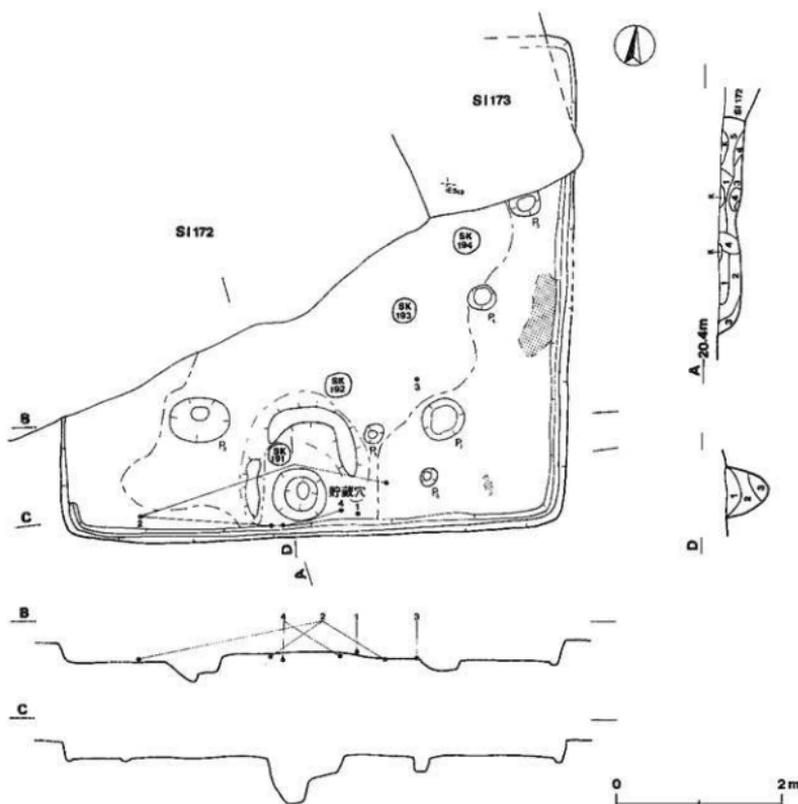
- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 褐色 炭化粒子少量
- 3 暗褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子多量

覆土 5層からなる自然堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック少量
- 2 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量
- 3 暗褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子中量、炭化粒子少量
- 4 黒褐色 ローム中・小ブロック少量
- 5 黒褐色 炭化粒子・ローム中・小ブロック・ローム粒子少量、焼上粒子微量

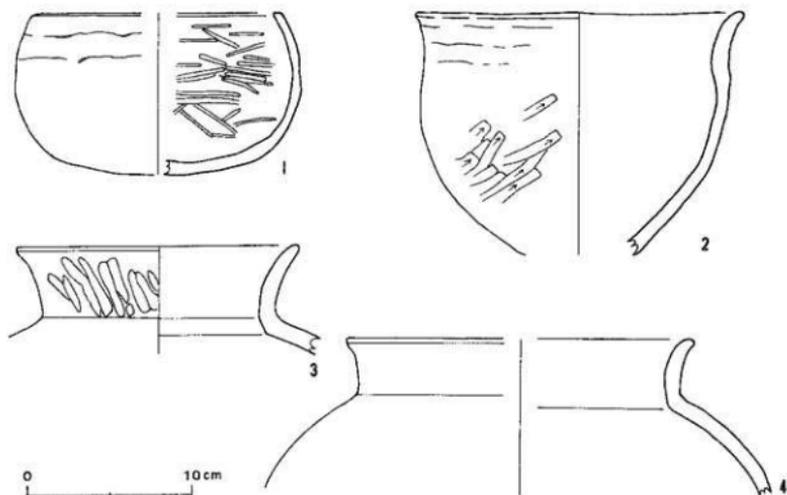




第406図 第171号住居跡実測図

第171号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第107回 1	碗 上 部 器	A [14.0] B (9.8)	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は内反する。	口縁部及び体部内・外面ヘラ磨き。体部外面に輪轆み痕を残す。	バミス・長石・石英 明赤褐色 普通	P995 40% 覆上・下層 PL96
2	瓶 上 部 器	A 19.7 B (14.8)	体部から口縁部片。体部は外傾気味に立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ、外面ヘラ磨り。口縁部外面に輪轆み痕を残す。	バミス・燧石・石英・スコリア 橙色 普通	P996 90% 床面 PL96
3	壺 上 部 器	A 17.0 B (6.7)	口縁部片。口縁部は外反する。	口縁部内面ナデ、外面縦位のヘラ磨き。	長石・石英・バミス・スコリア 赤褐色 普通	P997 10% 床面 PL96
4	壺 上 部 器	A [20.7] B (9.6)	体部から口縁部片。体部上位は内傾し、口縁部は外反する。	口縁部及び体部内・外面ナデ。	長石・石英・燧 鈍い橙色 普通	P998 5% 覆上・下層 PL96



第407図 第171号住居跡出土遺物実測図

遺物 上師器片318点、須臾器片2点、縄文上器片1点が出土している。第407図1の上師器碗、3の甕は南壁付近覆土下層から、4の甕は同床面から、2の甕は同床面に散在した状態でそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から古墳時代中期（5世紀後半）と思われる。

第172号住居跡（第408図）

位置 調査区の中央部、E5b区。

重複関係 本跡は、第171号住居跡の北部と第173号住居跡の南西部をそれぞれ掘り込んでいることから、両住居跡よりも新しい。

規模と平面形 長軸5.89m、短軸5.58mの方形である。

主軸方向 N-35°-W

壁 壁高は42cmで、外傾して立ち上がる。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。

ピット 5か所（P₁～P₅）。P₁は、径47cmの不整形形、深さ33cmで、配置や規模から主柱穴と思われる。

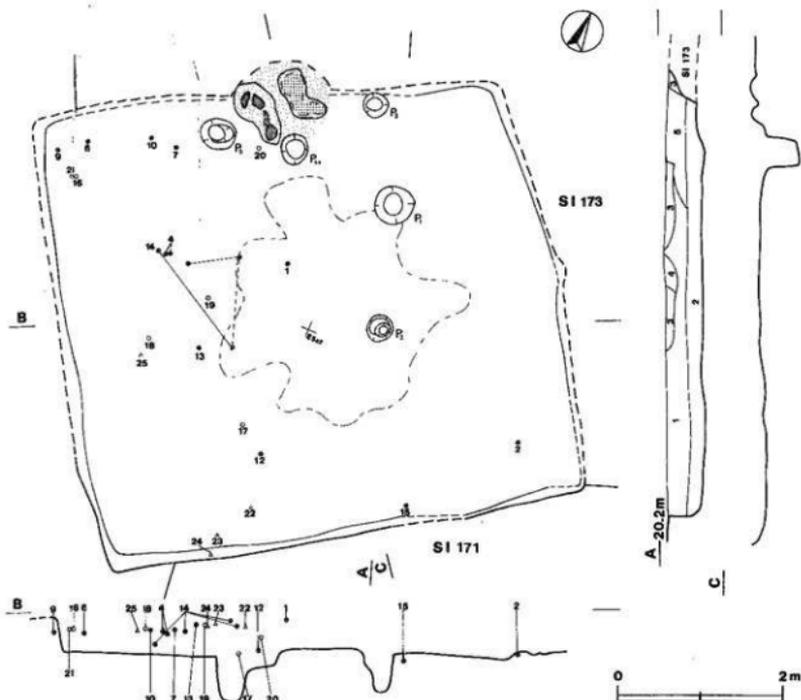
P₂～P₅は、径32～44cmの不整形形、深さ36～48cmで、性格は不明である。

竈 北西壁中央部に付設されていたと思われる。遺存状態が悪く、凝灰岩の切石と火床面の焼土及び粘土塊のみを確認する。袖部等は残っておらず、規模や形態は不明である。

覆土 5層からなる自然堆積である。

土層観察

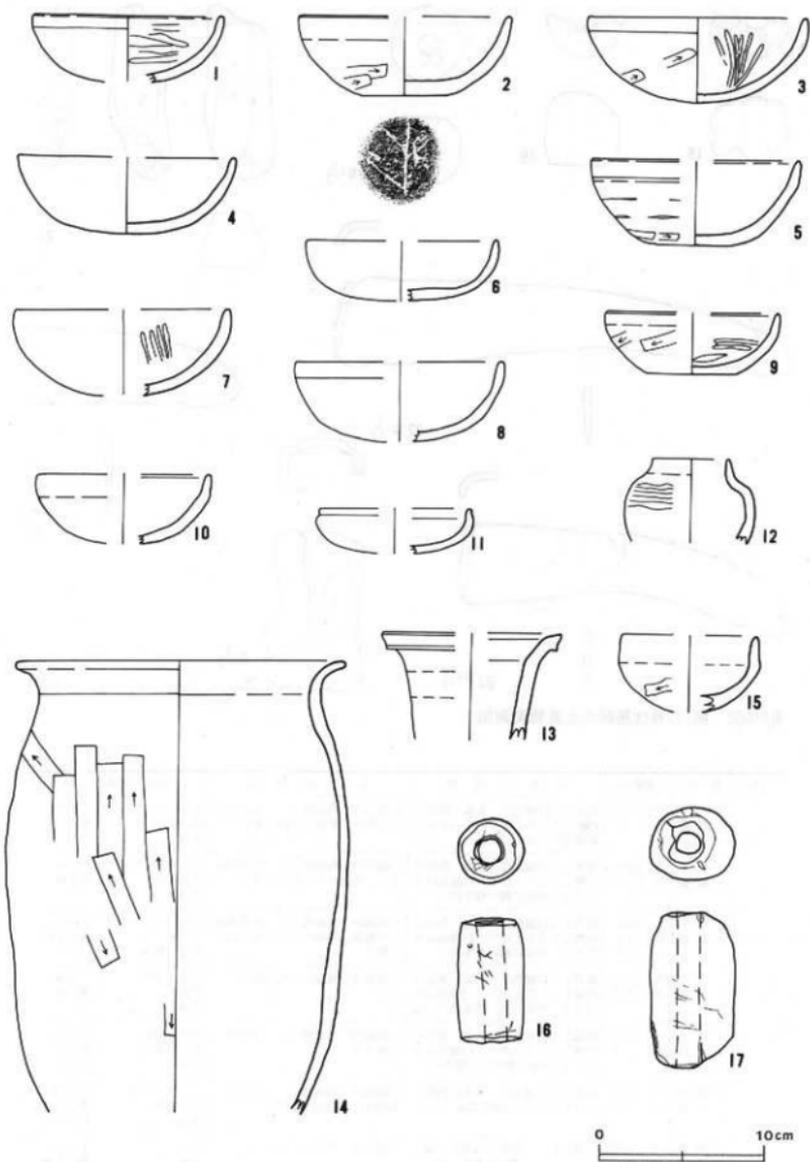
- 1 黒褐色 焼土中ブロック・炭化粒子・ローム中・小ブロック・ローム粒子少量
- 2 黒褐色 ローム大・中ブロック中量、炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少許、焼土粒子微量
- 3 黒褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子少量
- 4 黒褐色 炭化粒子・ローム中・小ブロック・ローム粒子少量
- 5 黒褐色 焼土中・小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・ローム中・小ブロック・ローム粒子中量



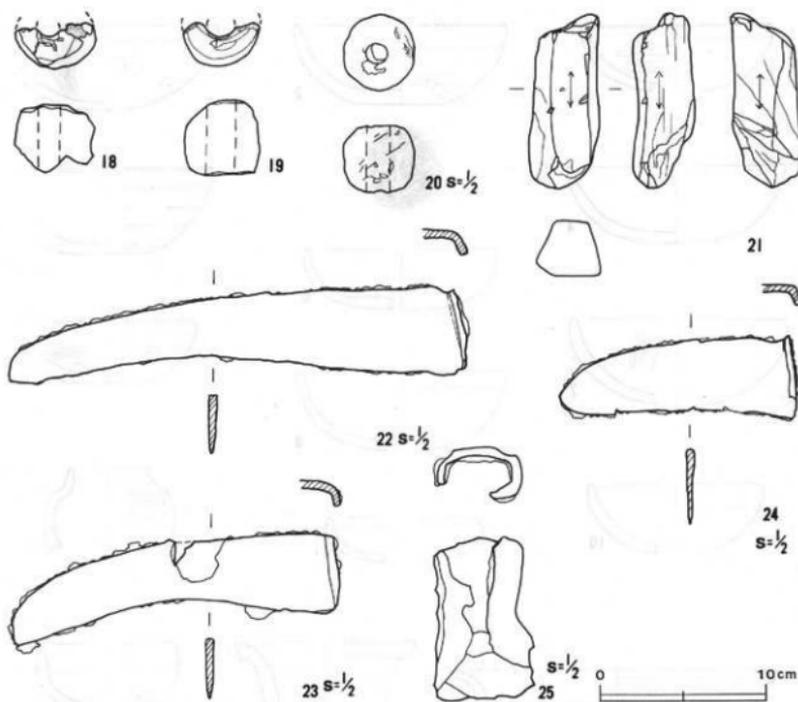
第408図 第172号住居跡実測図

第172号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第109回 1	土師器 十師器	A 11.4 B (4.1)	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり。口縁部は直立する。外面に鈍い稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き、外面ヘラ削り後ナデ。	長石・石英・スコリア・バミス 鈍い褐色 普通	P999 60% 覆土上層 PL96
2	土師器 十師器	A 12.6 B 4.9 C 4.7	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がり。そのまま口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ、外面ヘラ削り。	長石・スコリア・石英・雲母 鈍い褐色 普通	P1000 50% 床面 PL96
3	土師器 十師器	A 13.1 B 5.3	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり。口縁部は直立する。外面に鈍い稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き、外面ヘラ削り。	スコリア・石英・長石 褐色 普通	P1001 50% 覆土中 PL96
4	土師器 十師器	A 13.2 B 4.7	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり。そのまま口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ、外面ヘラ削り後ナデ。	バミス 鈍い褐色 普通	P1002 40% 覆土上層 PL96
5	土師器 十師器	A 12.4 B 5.2 C 4.6	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がり。口縁部は直立する。外面に鈍い稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面磨き、外面ヘラ削り後磨き。体部外面に輪積み痕を残す。	長石・石英・スコリア・バミス 明赤褐色 普通	P1003 30% 覆土中 PL96
6	土師器 十師器	A 11.5 B (3.7)	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり。口縁部は直立する。外面に鈍い稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。	スコリア・雲母 鈍い褐色 普通	P1004 40% 覆土上層 PL96 体部外面刺刺



第409图 第172号住居跡出土遺物実測図(1)



第410図 第172号住居跡出土遺物実測図(2)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
7	坏土師器	A [13.0] B (5.2)	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、そのまま口縁端部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き、外面ヘラ削り後ナデ。	雲母・石英 鈍い橙色 普通	P1005 30% 覆土層
8	坏土師器	A [12.6] B (4.9)	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。外面に鈍い稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ、外面ナデ一部ヘラ磨き。	スコリア・長石 灰黄褐色 普通	P1006 30% 覆土中
9	坏土師器	A [10.4] B 3.7 C 5.4	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。外面に鈍い稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き、外面ヘラ削り後一部ヘラ磨き。	石英・スコリア・ バミス 橙色 普通	P1007 40% 覆土層 PL97
10	坏土師器	A [10.2] B (4.2)	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。外面に鈍い稜を持つ。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。	長石・雲母 橙色 普通	P1008 40% 覆土中
11	坏土師器	A [9.0] B (2.3)	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。外面に突出した稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	雲母・長石 鈍い黄褐色 普通	P1009 20% 覆土中 PL96
12	原形壺土師器	A 4.6 B (5.1)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。外面ヘラ磨き。	バミス・雲母 明赤褐色 普通	P1010 30% 覆土層 PL96
13	長頸瓶須臾器	A [10.7] B (6.6)	口縁部片。口縁部は外傾し、肩部で外反する。肩部に断面三角形の縁帯が走る。	口縁部内・外面口クロナデ。	長石 灰色 普通	P1011 10% 覆土層 PL96

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
14	土師器	A 19.8 B (27.6)	体部から口縁部片。体部は直線的に立ち上がり、口縁部は強く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ、外面縦位のヘウ削り。	長石・石英 褐色 普通	P1012 覆土上層 PL96
15	土師器	A 18.3 B (4.7)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。外面に鈍い稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ、外面ヘウ削り後ナデ。	石英・バミス・雲母 褐色 普通	P1014 39% 床面

図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第409図16	管状土鉢	7.6	4.0	3.8	1.6	135.7	南西壁付近覆土上層	DP121 PL116
17	管状土鉢	9.5	5.1	4.4	1.4	213.7	中央壁付近覆土上層	DP122 PL116
第410図18	管状土鉢	(4.2)	(4.8)	(2.7)	-	(40.7)	覆土中	DP123
19	管状土鉢	(4.6)	4.7	-	-	(42.6)	覆土中	DP124
20	土	2.6	2.9	2.7	0.9	26.1	竜前覆土中層	DP125

図版番号	種別	計測値					石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第110図21	砥石	10.6	4.3	4.0	-	197.2	凝灰岩	5コーナ-近土上層	Q217 PL120

図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第410図22	鉢	18.5	3.6	0.3	-	75.4	南東壁付近覆土上層	M68 PL123
23	鉢	13.4	3.2	0.3	-	45.2	南東壁付近覆土上層	M69 PL124
24	鉢	9.6	3.4	0.2	-	32.1	南東壁付近覆土上層	M70 PL124
25	鉄斧	6.7	4.1	2.1	-	82.4	南東壁付近覆土下層	M71 PL124

遺物 土師器片1,205点,須恵器片28点,縄文土器片3点,軽石3点が出上している。坏類を中心に覆土上層からの遺物が多いが,床面出土の資料と時期差がほとんど見られないため,ほぼ同時期の遺物と考えられる。

第409・410図1の土師器坏,17の管状土鉢は中央部覆土上層から,2の坏は東コーナー付近床面から,4の坏,16の管状土鉢は南西壁付近覆土上層から,25の鉄斧は同覆土下層から,6,9の坏,21の砥石は西コーナー付近覆土上層から,7,10の坏は北西壁付近覆土上層から,12の短頸壺は南東壁付近覆土下層から,15のミニチュア土器は同床面から,22,23,24の鉢は同覆土上層から,13の須恵器長頸瓶は中央部付近覆土上層から,14の甕は同付近覆土上層に散在した状態で,20の土玉は竜前覆土中層から,3,5,8,11の坏,18,19の管状土鉢は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は,遺物の形態及び出土遺物から古墳時代後期(7世紀後半)と思われる。

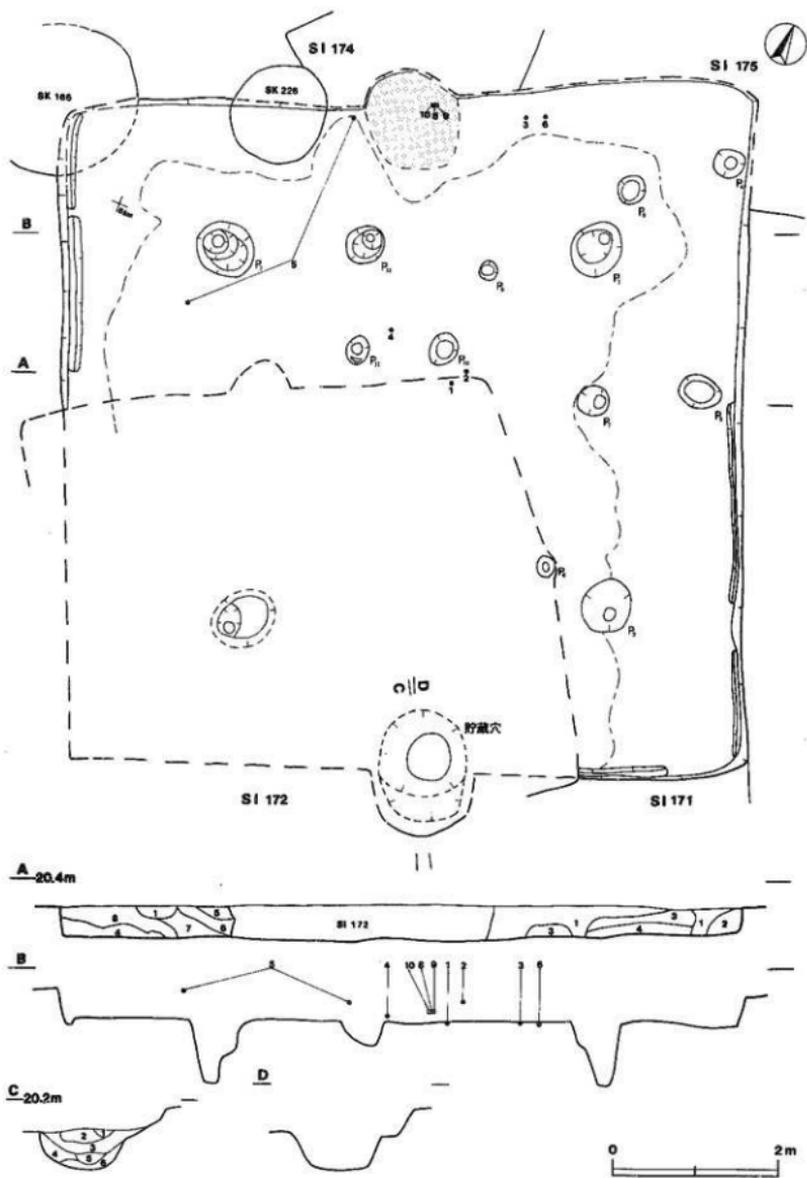
第173号住居跡(第411・412図)

位置 調査区の中央部, E5b₂区。

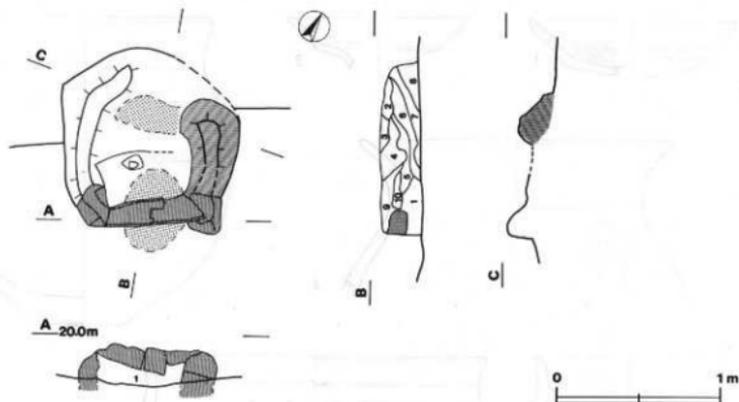
重複関係 本跡は,第171号住居跡と第174号住居跡をそれぞれ掘り込んでおり,第175号住居跡と第174号住居跡に掘り込まれていることから,第171号住居跡と第174号住居跡より新しく,第172号住居跡と第175号住居跡よりも古い。また,第166,226号土坑によって掘り込まれていることから,両者より古い。

規模と平面形 長軸8.48m,短軸8.18mの方形である。

主軸方向 N-25°-W



第411图 第173号住居跡実測图



第412図 第173号住居跡電実測図

壁 壁高は44cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 確認された壁下のうち、北西壁を除いて壁溝が巡っている。上幅約14cm、下幅約8cm、深さ約8cmで、断面形はU字形である。

床 平坦で、壁際を除き、大部分が踏み固められている。

ピット 12か所 (P₁~P₁₂)。P₁~P₄は、径58~74cmの不整形円形、深さ28~88cmで、配置や規模から主柱穴と思われる。P₅~P₁₂は、径19~49cmの不整形円形、深さ14~44cmで、性格は不明である。

竈 北西壁中央部に付設され、焚き口前面部は凝灰岩の切石で、袖部、天井部は白色粘土でそれぞれ構築されている。火床部は、ほぼ床面の高さで掘り込みはみられない。煙道部は、壁外へ38cm程突出し、緩やかに外傾して立ち上がる。

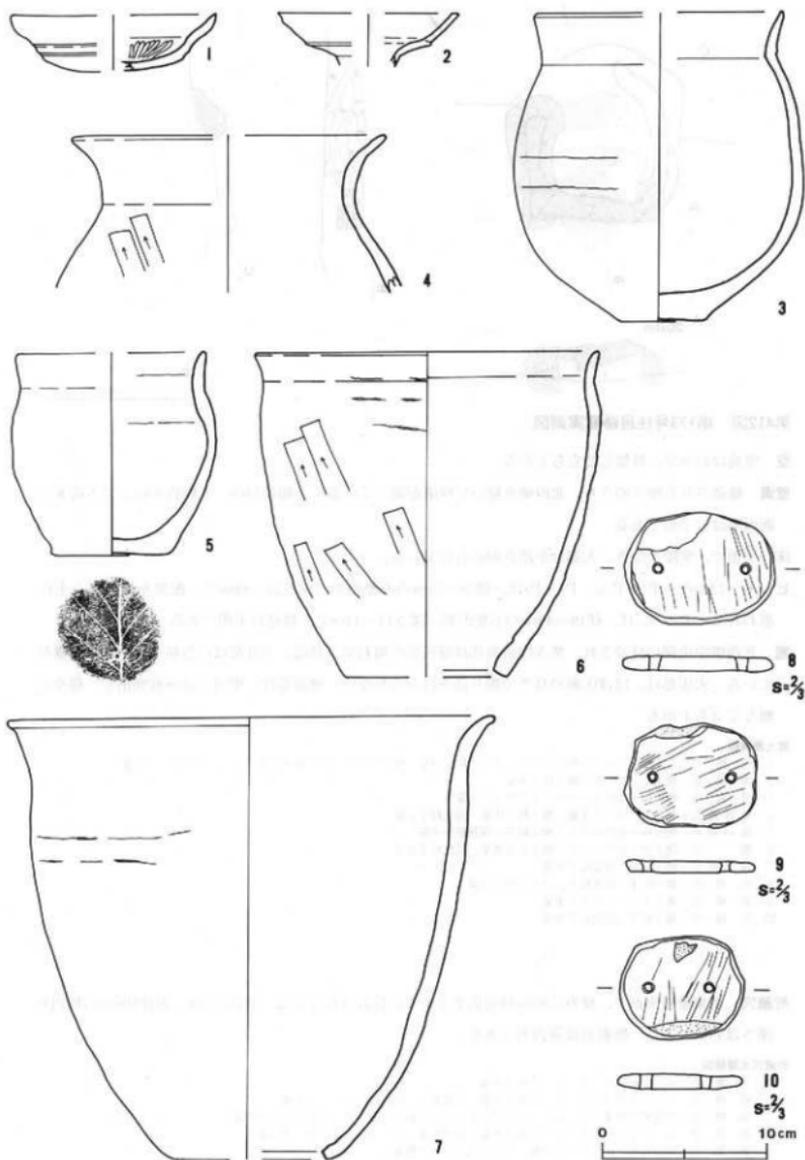
竈土層解説

- 1 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子中量、焼土中ブロック・焼土粒子・ローム中ブロック少量
- 2 黒褐色 焼土小ブロック・焼土粒子少量
- 3 黒褐色 焼土粒子・粒子・ローム小ブロック少量
- 4 極暗褐色 焼土中ブロック多量、焼土粒子中量、炭化粒子少量
- 5 鈍い褐色 焼土中・小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 6 橙褐色 焼土中・小ブロック・焼土粒子多量、炭化粒子少量
- 7 鈍い褐色 焼土粒子・炭化粒子少量
- 8 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量
- 9 黒褐色 焼土中・小ブロック少量
- 10 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子少量

貯蔵穴 南東壁中央部で、壁外に80cm程突出するように付設されている。長径135cm、短径106cmの楕円形で、深さは49cmである。断面形は逆台形である。

貯蔵穴土層解説

- 1 黒褐色 ローム中ブロック・ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、炭化粒子・ローム大ブロック少量
- 3 黒褐色 炭化粒子中量、ローム中・小ブロック・ローム粒子少量、ローム大ブロック微量
- 4 黄褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量、炭化粒子・ローム大・小ブロック少量
- 5 黒褐色 ローム中・小ブロック少量、ローム大ブロック微量
- 6 褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子多量、ローム大ブロック少量



第413图 第173号住居跡出土遺物実測図

第173号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第13図 1	土師器 坏器	A [12.4] B (3.4)	底部から口縁部片。丸底。体部は内厚して立ち上がり、口縁部は外反する。外面に突出した稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面放射状のヘラ磨き。外面ヘラ磨り後ナデ。	石灰 明赤褐色 普通	P1015 30% 覆土下層 PL296
2	須恵器 瓶	A [10.9] B (3.3)	口縁部片。口縁部は外傾して立ち上がり。底部は平坦である。	口縁部内・外面口コナデ。	パミス・砂粒 灰色 普通	P1016 20% 覆土上層 PL296
3	甕 土師器	A [14.7] B 18.8 C 5.2	底部から口縁部片。平底。体部は内厚して立ち上がり。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。外面に輪積み痕を残す。	長石・スコリア 鈍い赤褐色 普通	P1017 60% 覆土下層 PL57
4	甕 土師器	A [18.9] B (9.6)	口縁部片。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。	パミス・石英・雲母 明赤褐色 普通	P1018 10% 覆土中層 PL57
5	小形甕 土師器	A [11.4] B 12.4 C 6.8	底部から口縁部片。平底。体部は内厚して立ち上がり。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。内面に輪積み痕を残す。	スコリア・雲母・ パミス・長石 鈍い赤褐色 普通	P1019 60% 覆土中層 底部 に木炭痕あり PL57
6	瓶 土師器	A 20.7 B 19.8 C [9.8]	底部から口縁部片。無底式。体部は外傾気味に直線的に立ち上がり。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面磨き。外面ヘラ磨り。	長石・石英・スコリア 明赤褐色 普通	P1020 40% 表面 PL57
7	瓶 土師器	A 29.5 B 27.2 C [9.1]	底部から口縁部片。無底式。体部は内厚気味に外傾して立ち上がり。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面磨き。外面ナデ。外面に輪積み痕を残す。	長石・炭・スコリア 明赤褐色 普通	P1013 50% 貯蔵穴内覆土中 PL86

図版番号	種別	計 測 値					行	質	出土地点	備 考
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)				
第13図8	有孔円板	3.4	4.6	0.45	0.3	12.9	滑	石	竈内覆土中	Q218 PL119
9	有孔円板	3.2	3.8	0.5	0.3-0.4	8.5	滑	石	竈内覆土中	Q219 PL119
10	有孔円板	3.2	4.1	0.4	0.3	10.0	滑	石	竈内覆土中	Q220 PL119

覆土 8層からなる自然堆積である。

土層解説

- 黒褐色 ローム中ブロック・ローム粒子少量
- 黒色 ローム粒子少量
- 黒褐色 ローム小ブロック中量、焼土粒子・ローム中ブロック・ローム粒子少量
- 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化大ブロック微量
- 黒褐色 焼土中・小ブロック・ローム中・小ブロック少量
- 暗褐色 焼土中・小ブロック・炭化粒子・ローム中・小ブロック・ローム粒子少量
- 暗褐色 焼土中ブロック中量、焼土小ブロック・焼土粒子・ローム中・小ブロック・ローム粒子少量
- 黒褐色 炭化粒子少量・ローム中・小ブロック・ローム粒子少量

遺物 土師器片788点、須恵器片14点、弥生土器片1点が出土している。第413図1の上師器坏は中央部覆土下層から、2の須恵器瓶は同覆土上層から、4の土師器甕は同覆土中層から、3の甕は北西壁付近覆土下層から、6の瓶は同床面から、5の小形甕は覆土中層から上層にわたって散在した状態で、8、9、10の有孔円板は竈内覆土中からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は、遺物の形態及び出土遺物から古墳時代後期（6世紀前半）と思われる。

第174号住居跡 (第414図)

位置 調査区の中央部, E5a区。

重複関係 本跡は、第173号住居跡に掘り込まれ、第175号住居跡が本跡の上に床を構築していることから、両住居跡よりも古い。

規模と平面形 遺存する北西壁から推定すると、一辺3.9m程の方形と思われる。

主軸方向 N-52°-W

壁 壁高は42cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 確認された壁下にはすべて壁溝が巡っており、全周するものと思われる。上幅約10cm、下幅約5cm、深さ約4cmで、断面形はU字形である。

床 確認された床面のうち、炉の周囲が踏み固められている。

ピット P₁は、長径58cm、短径37の不整楕円形で、性格は不明である。

炉 中央部から北西壁寄りに位置し、長径70cm、短径46cmの楕円形で、床面を20cm掘り窪めた地床炉である。

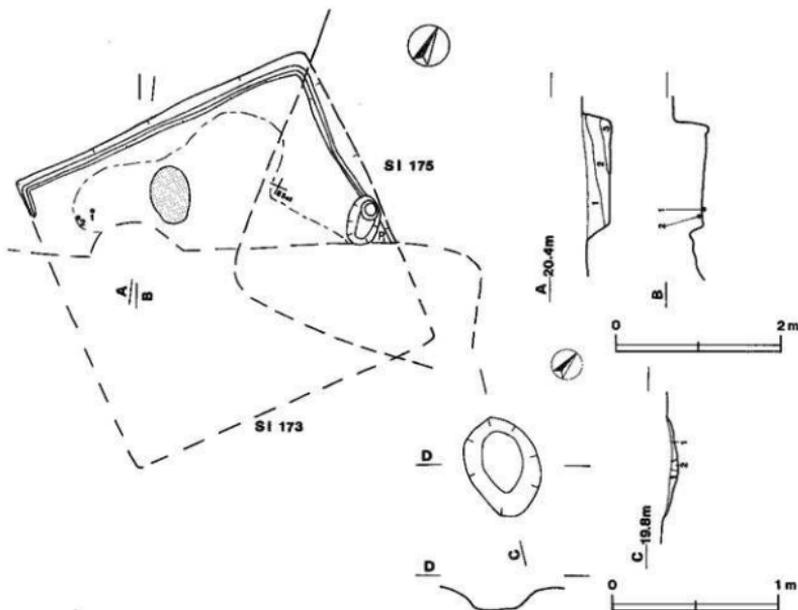
炉土層解説

- 1 赤褐色 焼土中・中ブロック・焼土粒子多量
- 2 褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子多量

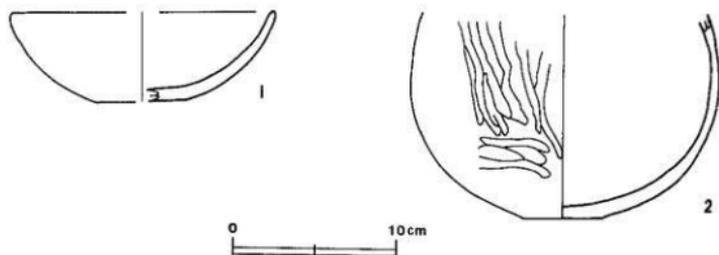
炉床は赤変硬化している。

土層解説

- 1 黒褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 暗褐色 焼土中ブロック・炭化粒子・ローム中・小ブロック・ローム粒子少量
- 3 黒色 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子



第414図 第174号住居跡実測図



第415図 第174号住居跡出土遺物実測図

第174号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計量値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・地肌	備考
第415図 1	環 土器	A [15.6] B 8.5 C [5.2]	底部から口縁部片。平底。体部は内増して立ち上がり、そのまま口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面磨き。	雲母・石英・スクリア 暗赤褐色 普通	P1021 30% 覆土下層 PL97
2	壺 土器	B (12.6) C 4.8	底部から体部片。平底。体部は内増して立ち上がる。	体部内面ナデ、外面ヘタ磨き。	長石・石英 明赤褐色 普通	P1022 20% 覆土中層 PL97

覆土 3層からなる自然堆積である。

遺物 土師器片75点、支脚片1点が出土している。第415図1の環は北西壁付近覆土下層から正位の状態で、2の壺は同覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は、出土遺物が少なくしかも細片であるため、詳細は不明であるが、第174号住居跡との重複関係及び出土遺物から古墳時代中期（5世紀後半）と思われる。

第175号住居跡（第416図）

位置 調査区の中央部、D5₁区。

重複関係 本跡は、第173号住居跡を掘り込み、第174号住居跡の上に床を構築していることから、2軒の住居跡より新しい。

規模と平面形 長軸6.11m、短軸6.0mの方形である。

主軸方向 N-4°-W

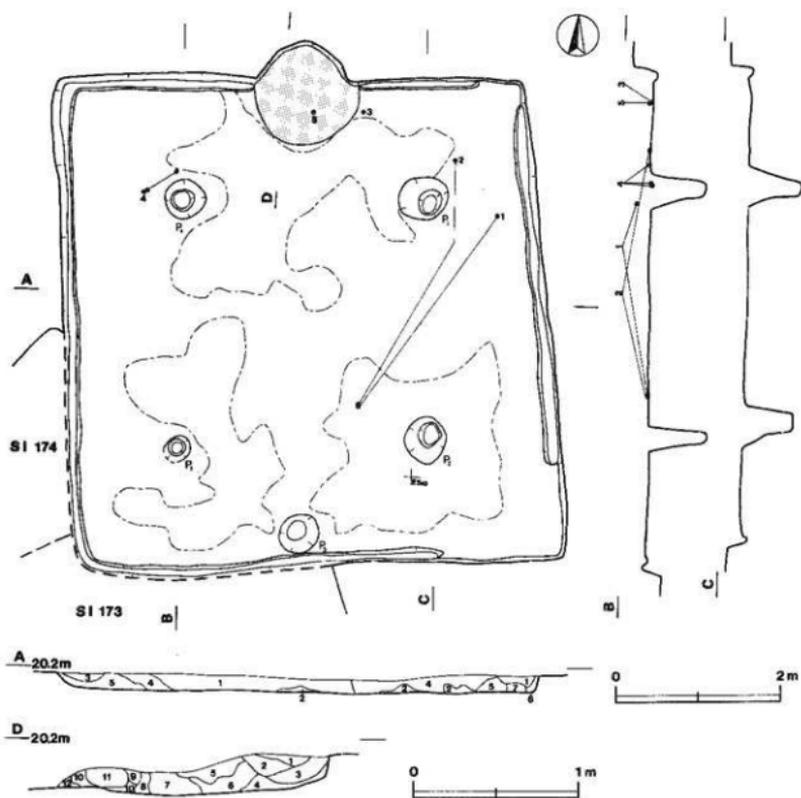
壁 壁高は25~36cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 全周する。上幅約8cm、下幅約4cm、深さ約6cmで、断面形は逆台形である。

床 平坦で、入り口部分や竈前部分が踏み固められている。

ピット 5か所（P₁~P₅）。P₁~P₄は、径34~60cmの不整形円形、深さ58~70cmで、配置や規模から土柱穴と思われる。P₅は径49cmの不整形円形、深さ33cmで、出入り口ピットと思われる。

竈 北壁中央部に付設され、白色粘土で構築されていたと思われる。袖部等は残っておらず、焼土層と粘土塊のみが確認されている。火床部は、皿状に掘り窪められている。煙道部は、壁外へ50cm程突出し、壁の内側から緩やかに外傾して立ち上がる。



第416図 第175号住居跡実測図

電土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子・ローム粒子少量
- 2 黒褐色 ローム粒子中量、焼土小ブロック・炭化粒子・ローム大ブロック少量
- 3 黒褐色 焼土粒子・ローム粒子少量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、焼土中ブロック・炭化粒子少量
- 5 暗褐色 焼土中ブロック・焼土粒子・ローム中・小ブロック・ローム粒子中量、炭化粒子少量
- 6 暗褐色 焼土大・小ブロック・炭化粒子中量、ローム粒子少量
- 7 黒褐色 焼土中ブロック・焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 8 褐色 ローム中ブロック・ローム粒子多量
- 9 黒色 炭化粒子多量
- 10 暗褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子中量
- 11 黄褐色 炭化粒子・ローム中・小ブロック少量
- 12 褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量

覆土 7層からなる自然堆積である。

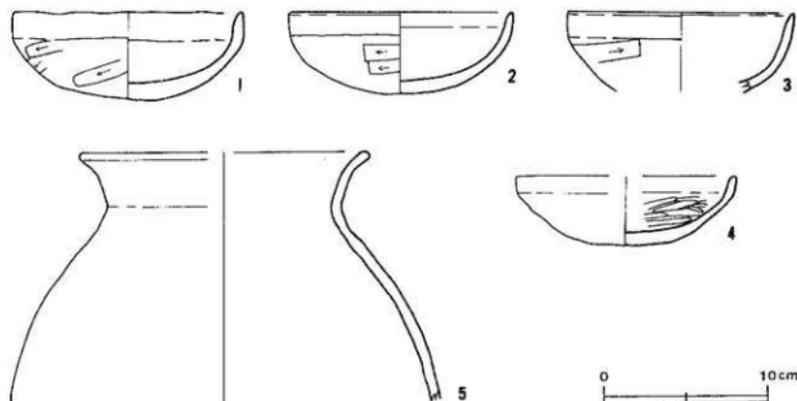
土層解説

- 1 黒褐色 焼土小ブロック・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量
- 3 黒褐色 ローム粒子中量、炭化粒子・ローム小ブロック少量

- 4 黒 褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子中量、焼土粒子少量
 5 黒 褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック少量
 6 暗 褐色 ローム粒子多量、ローム中ブロック少量
 7 黒 褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量

遺物 土師器片736点、須恵器片2点、縄文土器片1点、弥生土器片1点、軽石片1点、陶器片1点が出土している。第417図1の坏は散在した状態で覆土下層から、2は同状態で床面から、3の坏は北壁付近覆土下層から、4の坏は北西コーナー付近床面から正位の状態で、5の甕は竈内からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は、遺物の形態及び出土遺物から古墳時代後期（7世紀後半）と思われる。



第417図 第175号住居跡出土遺物実測図

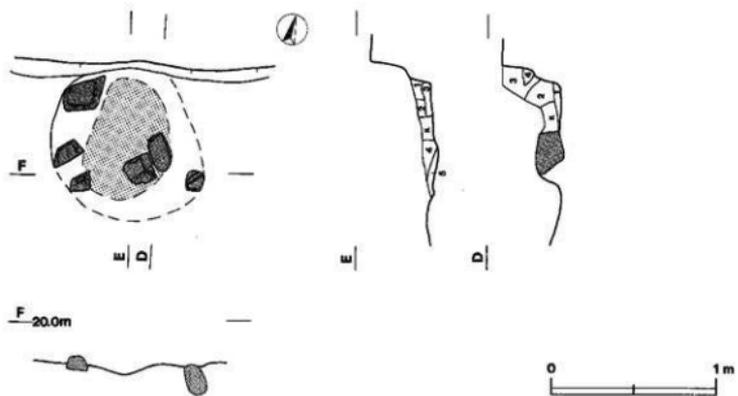
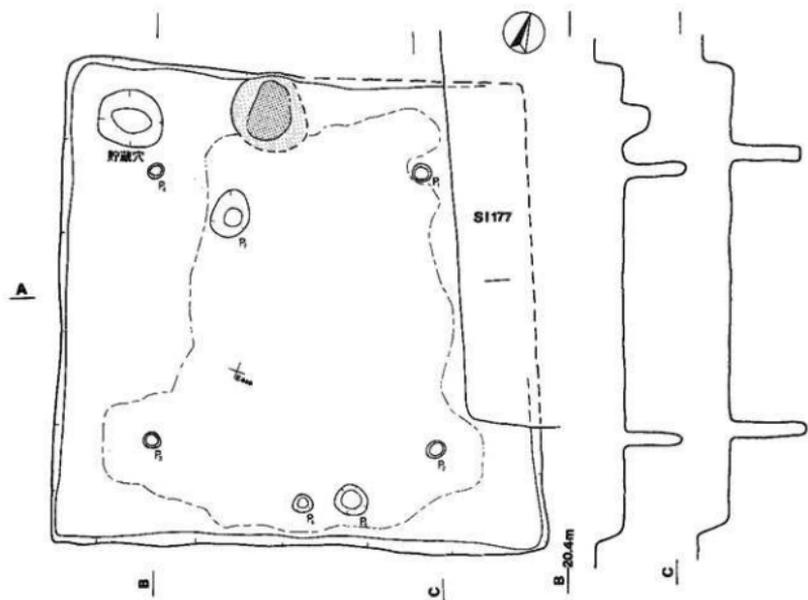
第175号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第417図 1	坏 土師器	A 13.8 B 3.4	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。外面に、鈍い稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ、外面ヘラ削り後磨き。	雲母・石英・バミ ス・産 鈍い褐色 普通	P1023 90% 覆土下層 PL97
2	坏 土師器	A 13.5 B 5.0	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。外面に、鈍い稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ、外面ヘラ削り後磨き。	長石・石英 鈍い褐色 普通	P1024 80% 床面 PL97
3	坏 土師器	A 13.6 B (4.8)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに外弯する。外面に、鈍い稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ、外面ヘラ削り。	長石・石英・産 明赤褐色 普通	P1025 70% 覆土下層 PL97
4	坏 土師器	A [13.4] B 4.2	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。外面に、鈍い稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き。外面ヘラ削り後磨き。	バミス・スコリア・ 雲母・産 鈍い褐色 普通	P1026 60% 床面 PL97
5	甕 土師器	A 17.21 B (15.3)	体部から口縁部片。体部上半は内彎し、口縁部は「く」の字状に外傾し、底部で反る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石 鈍い黄褐色 普通	P1027 15% 竈内覆土下層 PL97

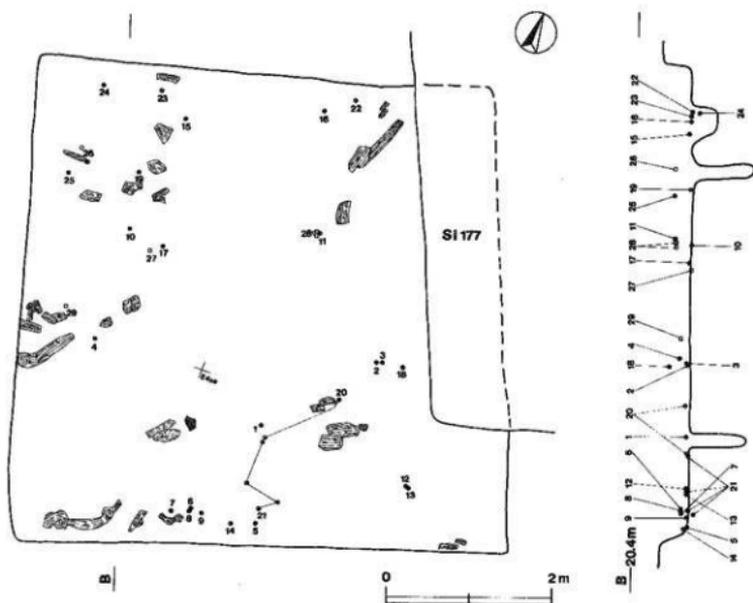
第176号住居跡（第418・419図）

位置 調査区の中央部、E4b区。

重複関係 本跡は、北東部を第177号住居跡に掘り込まれていることから、第177号住居跡よりも古い。



第418图 第176号住居跡実測图



第419図 第176号住居跡遺物出土状況図

規模と平面形 一辺5.92mの方形である。

主軸方向 N-15°-W

壁 壁高は37cmで、外傾して立ち上がる。

床 平坦で、入り口部から中央部にかけて踏み固められている。

ピット 7か所 (P₁~P₇)。P₁~P₄は、径18~23cmの不整形形、深さ72~91cmで、配置や規模から主柱穴と思われる。P₅は径41cmの不整形形、深さ39cmで、出入り口ピットと思われる。P₆、P₇は径24~46cmの不整形形、深さ19cmで、性格は不明である。

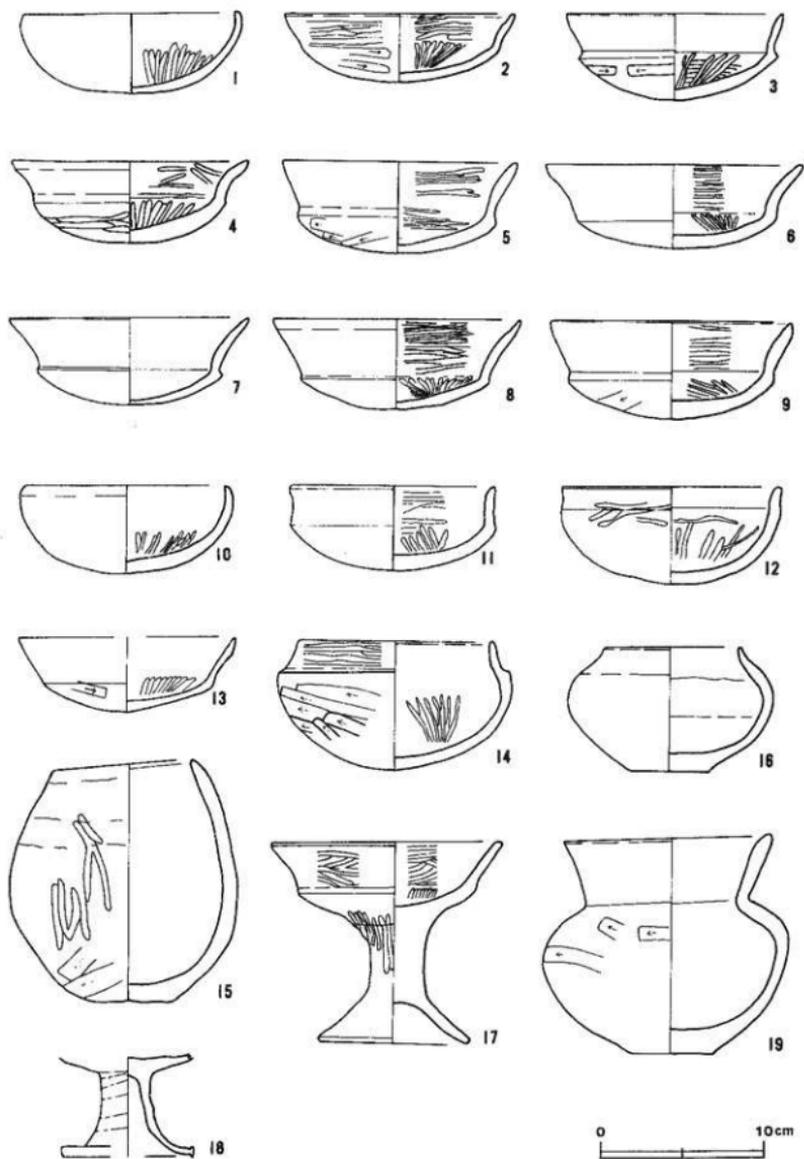
竈 北壁中央部に付設され、凝灰岩の切石と白色粘土とで構築されている。焚き口部両端に凝灰岩の切石を5~15cm程埋め込んでいる。周囲に袖部及び焚き口部に使用されたとと思われる凝灰岩の切石が散在している。

火床部及び壁面への掘り込みはほとんどみられない。

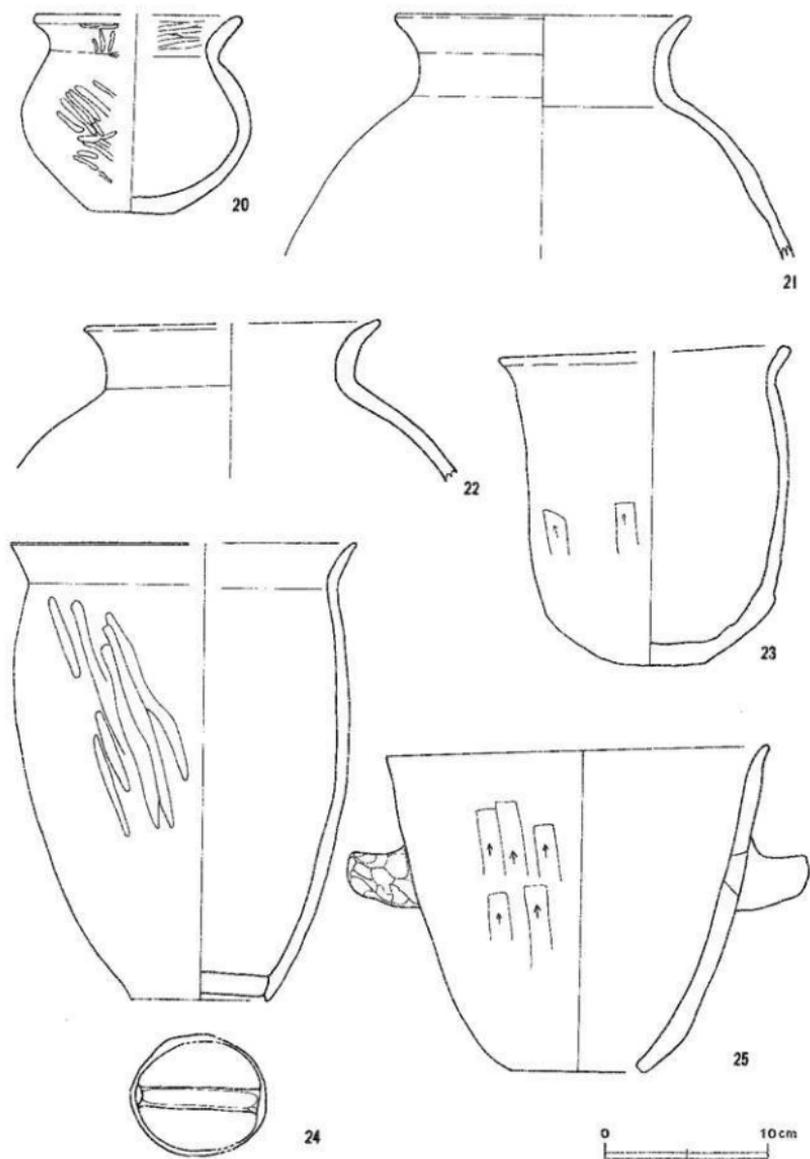
遺土層解説

- 1 桃褐色 焼土中ブロック・焼土粒子中量、炭化粒子・粘土粒子少量
- 2 緑褐色 炭化粒子中量、粘土粒子少量
- 3 黒色 ローム小ブロック・ローム粒子少許
- 4 褐色 焼土中・小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少許
- 5 暗褐色 焼土中ブロック・焼土粒子中量

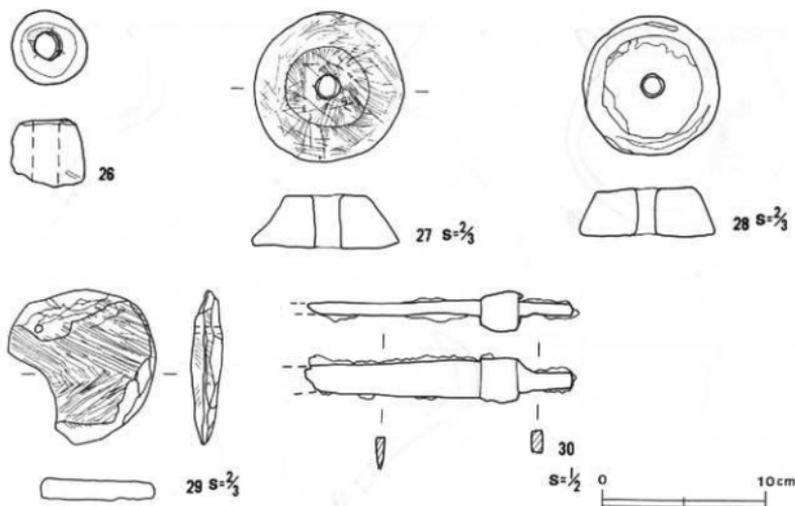
貯蔵穴 北西コーナーに付設され、長径78cm、短径68cmの楕円形で、深さは32cm、断面形は逆台形である。



第420图 第176号住居跡出土遺物実測図(1)



第421图 第176号住居跡出土遺物実測図(2)



第422図 第176号住居跡出土遺物実測図(3)

覆土 3層からなる自然堆積である。

土層解説

- 1 黒色 ローム粒子少量、炭化粒子・ローム大・小ブロック微量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、炭化粒子・ローム大ブロック少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量、ローム中ブロック中量、炭化物・炭化粒子少量

遺物 土師器片310点、須恵器片3点、軽石8点、炭化米20gが出土している。第420～422図1の土師器環は南東壁付近覆土下層から、5、6、7、8、9の環、14の碗は同床面からまとまった状態で、21の甕は同位置に散在した状態で、2、3の環、20の短頸壺は中央部床面から、11の環、18の須恵器高坏、28の紡錘車は同覆土中層から、4の環は南西壁付近覆土中層から、10の環、17の高坏は同床面から、27の紡錘車、29の勾玉は同覆土下層から、12、13の環は東コーナー床面から、15、16の碗は北西壁付近床面から、22の甕、23の小形甕は同位置床面に散在した状態で、24、25の甌は西コーナー付近床面から、26の管状土鐘は同覆土中層から、19の短頸壺は同覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から古墳時代後期（6世紀前半）と思われる。

第176号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第420図 1	環 土師器	A 13.0 B 4.9	丸底、体部は内壁して立ち上がり、そのまま口縁端部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面放射状のヘラ磨き、外面磨き。	雲母・石英・スコリア 棕色 普通	P1028 100% 覆土下層 PL97
2	環 土師器	A 13.8 B 4.2	丸底、体部は内壁して立ち上がり、口縁部は外傾する。外面に突出した縁を持つ。	口縁部内・外面横位のヘラ磨き。体部内面放射状のヘラ磨き、外面ヘラ削り。	雲母 明赤褐色 普通	P1029 100% 床面 PL97
3	環 土師器	A 13.0 B 5.2	丸底、体部は内壁して立ち上がり、口縁部は外傾する。外面に突出した縁を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き、外面ヘラ削り。	長石・石英 棕色 普通	P1030 100% 床面 PL97

図取番号	器種	寸法(mm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
4	坏土師器 上師器	A 14.4 B 3.0	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。外面に突出した稜を持つ。	口縁部内面へう磨き、外面横ナデ、体部内面放射状のへう磨き、外面へう磨き。	スコリア・雲母・石英 褐色 普通	P1031 覆土中層 PL97
5	坏土師器 上師器	A 14.1 B 5.8	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。外面に突出した稜を持つ。	口縁部内面へう磨き、外面横ナデ、体部内面横位のへう磨き、外面へう磨き。	パミス・雲母・塵 褐色 普通	P1032 床面 PL97
6	坏土師器 上師器	A 15.6 B 5.1	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。外面に突出した稜を持つ。	口縁部内面へう磨き、外面横ナデ、体部内面放射状のへう磨き、外面へう磨き。	石英・雲母・スコリア・パミス 褐色 普通	P1033 床面 PL97
7	坏土師器 上師器	A 14.4 B 3.3	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。外面に突出した稜を持つ。	口縁部内面割離、外面横ナデ。体部内面割離、外面へう磨き。	長石・石英 明赤褐色 普通	P1034 床面 PL97
8	坏土師器 上師器	A 14.9 B 5.5	底部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。外面に突出した稜を持つ。	口縁部内面へう磨き、外面横ナデ、体部内面へう磨き、外面へう磨き。	石英・長石 褐色 普通	P1035 床面 PL97
9	坏土師器 上師器	A 14.5 B 6.0	底部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。外面に突出した稜を持つ。	口縁部内面へう磨き、外面横ナデ、体部内面へう磨き、外面へう磨き。	スコリア・長石 棕色 普通	P1036 床面 PL98
10	坏土師器 上師器	A 12.3 B 5.4	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。外面に短い稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面へう磨き、外面ナデ一部へう磨き。	パミス 鈍い褐色 普通	P1037 床面 PL98
11	坏土師器 上師器	A 12.2 B 5.2	底部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。外面に突出した稜を持つ。	口縁部内・外面へう磨き、体部内面へう磨き、外面ナデ。	パミス・石英 赤黒色 普通	P1038 覆土中層 PL98
12	坏土師器 上師器	A 13.3 B 6.0	底部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。外面に突出した稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面へう磨き、外面ナデ。	長石 明赤褐色 普通	P1039 床面 PL99
13	坏土師器 上師器	A [13.2] B 4.6	底部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。外面に突出した稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面へう磨き、外面へう磨き。	パミス 灰色 普通	P1040 床面 PL97
14	坏土師器 上師器	A 11.6 B 7.9	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに内傾する。外面に突出した稜を持つ。	口縁部内・外面へう磨き、体部内面へう磨き、外面へう磨き。	パミス・雲母 褐色 普通	P1041 床面 PL98
15	坏土師器 上師器	A 8.5 B 14.9 C 3.0	底部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は内傾する。	口縁部及び体部内面ナデ。外面へう磨き一部へう磨き。体部外面に輪嵌み痕を残す。	スコリア・パミス・雲母・塵 鈍い黄褐色 普通	P1042 床面 PL98
16	坏土師器 上師器	A 8.3 B 7.7 C 4.7	底部から口縁部片。体部は球形状で、口縁部は短く直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。体部内面に輪嵌み痕を残す。	パミス・雲母・石英 褐色 普通	P1043 床面 PL98
17	坏土師器 上師器	A 13.5 B 12.5 D 8.9 E 7.0	脚部・部欠損。脚部は門袋状で、下方で「ハ」の字状に開く。坏部は下位に突出した稜を持ち、外反気味に立ち上がる。	口縁部内・外面横位のへう磨き。体部内面へう磨き、外面へう磨き。脚部柱突、外面横位のへう磨き。部部内・外面ナデ。	長石 鈍い赤褐色 普通	P1044 床面 PL98
18	坏土師器 上師器	A (6.3) D [7.8] E 5.2	脚部片。脚部は門袋状で、下方で「ハ」の字状に開き、端部に縁帯が通る。	脚部内・外面クロコナデ。	パミス 灰色 普通	P1045 覆土中層 PL98
19	坏土師器 上師器	A 12.3 B 13.4 C 4.8	底部から口縁部片。体部は球形状で、口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ、外面へう磨き。	スコリア・パミス・石英・塵 褐色 普通	P1046 覆土下層 PL98
第421回 20	坏土師器 上師器	A [12.2] B 12.2 C 4.9	底部から口縁部片。体部は球形状で、口縁部は外傾する。	口縁部内・外面へう磨き。体部内面ナデ、外面へう磨き。	スコリア・長石 鈍い褐色 普通	P1047 床面 PL98
21	坏土師器 上師器	A 17.4 B (14.9)	体部から口縁部片。体部上段は内彎気味に内傾し、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・石英・塵 鈍い褐色 普通	P1048 床面 PL98
22	坏土師器 上師器	A [17.8] B (9.7)	体部から口縁部片。体部上段は内彎気味に内傾し、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	スコリア・雲母・石英・塵 鈍い褐色 普通	P1049 床面 PL98

図版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
23	壺 土 師 器	A 17.4 B 19.6 C 5.4	底部から口縁部片。丸底気味の平底。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。外面へり溜り。	スコリア・長石 鈍い灰色 普通	P1050 50% 床面 PL98
24	瓶 土 師 器	A 20.8 B 28.0 C 8.3	底部から口縁部片。二孔式。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。外面へり溜り。	長石 鈍い灰色 普通	P1051 90% 床面 PL98
25	瓶 土 師 器	A 23.2 B 20.1 C 8.0	底部から口縁部片。無底式。体部は直線的に立ち上がり、そのまま口縁部に至る。中位に角状の把手を有する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。外面へり溜り。	焼・スコリア・長石・パミス・石灰 鈍い灰色 普通	P1052 70% 覆土中層 PL98

図版番号	種 別	計 測 値					出土地点	備 考
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第122図26	管 状 土 師	(4.2)	4.55	4.3	1.4	(71.2)	西コーナ-墓19号	DP126

図版番号	種 別	計 測 値					石 質	出土地点	備 考
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第122図27	紡 錘 車	4.5	4.6	1.6	0.7	44.0	滑 石	覆土下層	Q221 PL120
28	紡 錘 車	4.3	4.2	(1.5)	0.7	(39.2)	滑 石	覆土中層	Q222 PL120
29	弓 玉	4.3	4.6	0.8	0.2	18.0	滑 石	覆土下層	Q223 PL119

図版番号	種 別	計 測 値					出土地点	備 考
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第122図30	刀 子	(11.0)	1.8	1.5	—	(20.4)	覆土中	M72 PL122

第177号住居跡 (第423図)

位置 調査区の中央部、D4j1区。

重複関係 本跡は、第176号住居跡の南部を掘り込んでおり、第137号住居跡が本跡の上に構築しており、北東部を第178号住居跡に掘り込まれていることから、第176号住居跡より新しく、第137号住居跡と第178号住居跡よりも古い。

規模と平面形 長軸7.52m、短軸6.73mの方形で、南東壁入り口付近はわずかに外側に膨らむ。

主軸方向 N-25°-W

壁 壁高は52cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

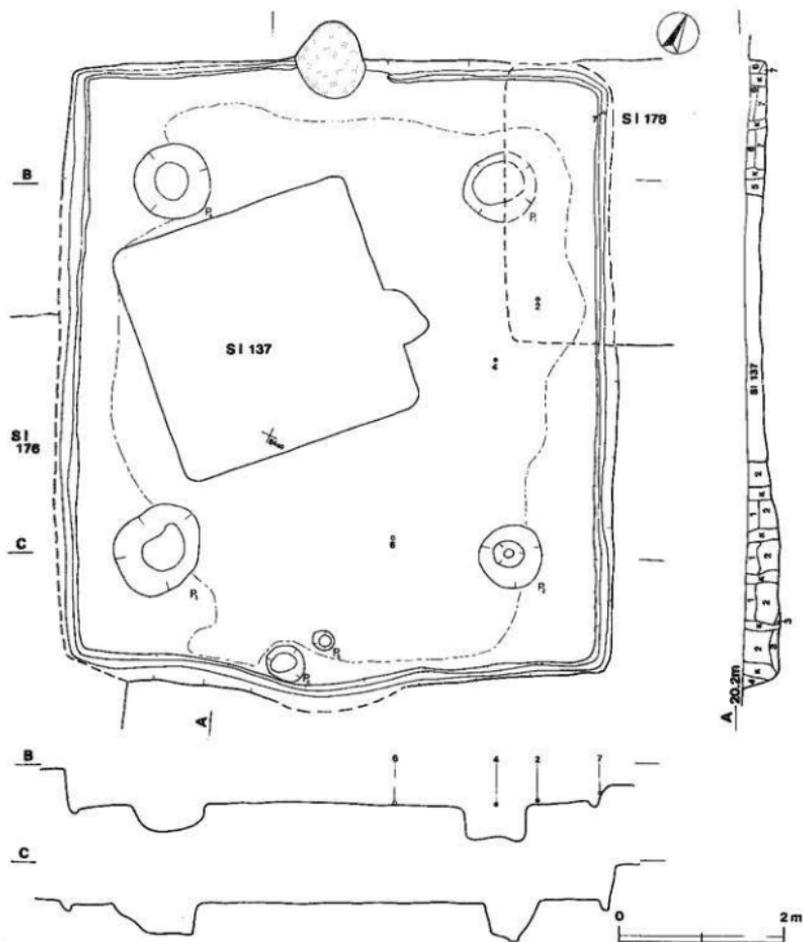
壁溝 全周する。上幅約11~17cm、下幅約6~13cm、深さ約8~14cmで、断面形はU字形である。

床 平坦で、主柱穴以内はすべて踏み固められている。

ピット 6か所(P₁~P₆)。P₁~P₄は、径74~102cmの不整形円形、深さ26~39cmで、配置や規模から主柱穴と思われる。P₅は径18cmの不整形円形、深さ35cmで、出入り口ピットと思われる。P₆は径45cmの不整形円形、深さ35cmで、性格は不明である。

竈 北西壁中央部に付設され、白色粘土で構築されていたと思われるが、遺存状態が悪く、焼土と粘土粒子が確認されたのみである。袖部等は残っていない。火床部は、床面をわずかに掘り窪めている。煙道部は、壁外へ60cm程突出し、壁の内側からゆるやかに外傾して立ち上がる。

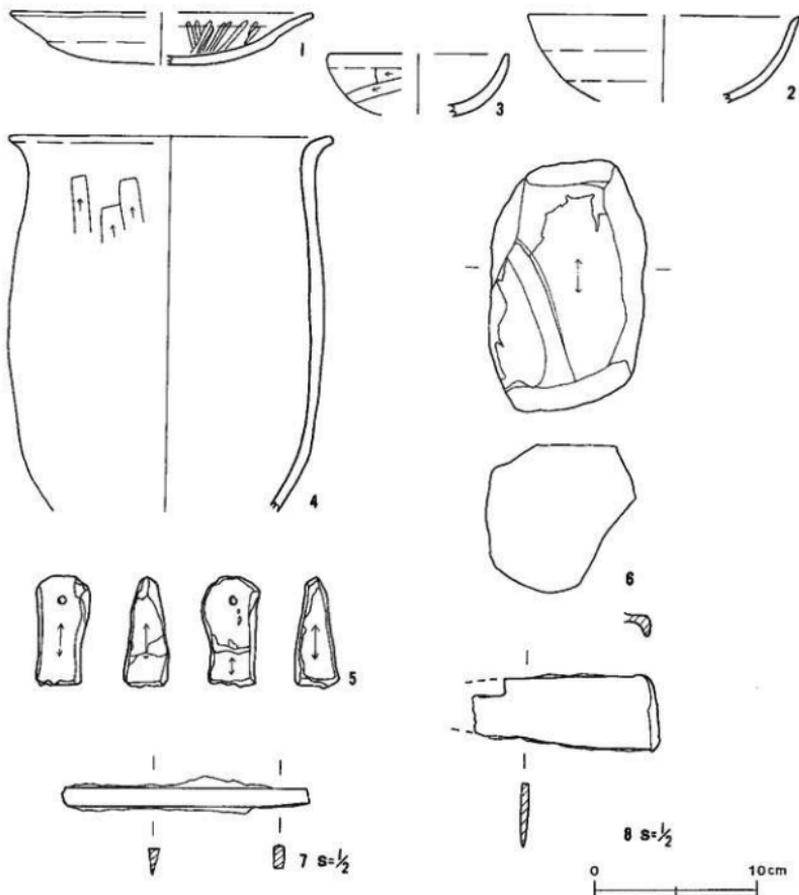
覆土 7層からなる人為堆積である。



第423図 第177号住居跡実測図

土層解説

- | | | |
|---|-----|--|
| 1 | 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土中ブロック・炭化粒子微量 |
| 2 | 黒褐色 | 焼土中ブロック・ローム焼土・炭化粒子・ローム大・中ブロック・ローム粒子少量, 炭化物微量 |
| 3 | 黒褐色 | 焼土小ブロック・炭化粒子・ローム粒子少量, ローム大ブロック微量 |
| 4 | 黒褐色 | ローム中・小ブロック・ローム粒子多量 |
| 5 | 黒褐色 | 焼土中ブロック・ローム中ブロック・ローム粒子少量 |
| 6 | 黒褐色 | 焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 7 | 黒褐色 | ローム中・小ブロック・ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子少量 |



第424図 第177号住居跡出土遺物実測図

第177号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎上・色調・焼成	備考
第424図 1	坏 十部器	A [18.2] B (3.2)	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。外面に鈍い稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面放射状のヘラ磨き、外面ヘラ削り後磨き。	バミス・長石 橙色 普通	P1055 30% ピット内覆土中 PL99
2	坏 十部器	A [16.6] B (5.3)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、そのまま口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面磨き、外面ナデ。	裸・バミス・長石 鈍い橙色 普通	P1056 20% 覆土下層 FL99
3	坏 上部器	A [10.8] B (3.7)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、そのまま口縁部に至る。外面に鈍い稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面磨き、外面ヘラ削り。	バミス・長石 鮮褐色 普通	P1057 20% 覆土中 PL99

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
4	甕 土師器	A 19.5 B (22.9)	体部から口縁部片。体部は内湾気味に直線的に立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ、外面ヘラ削り。	宝珠・バミス・石英・長石 鈍い褐色 普通	F1058 覆上下層 PL99 40%

図版番号	種別	計測値					石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第424図5	灰石	6.6	3.3	2.7	0.4	61.0	凝灰岩	覆上中	Q224 PL120
6	砥石	15.4	9.6	9.0	-	1900.0	砂岩	南東壁付近床面	Q225 PL120

図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第424図7	刀子	(10.1)	1.5	0.5	-	(14.7)	北コーナー付近中層	M73
8	鎌	(7.5)	3.1	0.4	-	(27.0)	覆上中	M74

遺物 土師器片1,116点、須恵器片57点、陶器片3点、軽石1点、獣骨片1点、不明鉄製品片5点が出土している。第424図1の土師器坏はビット内覆土中から、2の坏、4の甕は北東壁付近覆土下層から、6の砥石は南東壁付近床面から、7の刀子は北コーナー付近覆土中層から、3の坏、5の砥石、8の鎌は覆土中からそれぞれ出土している。

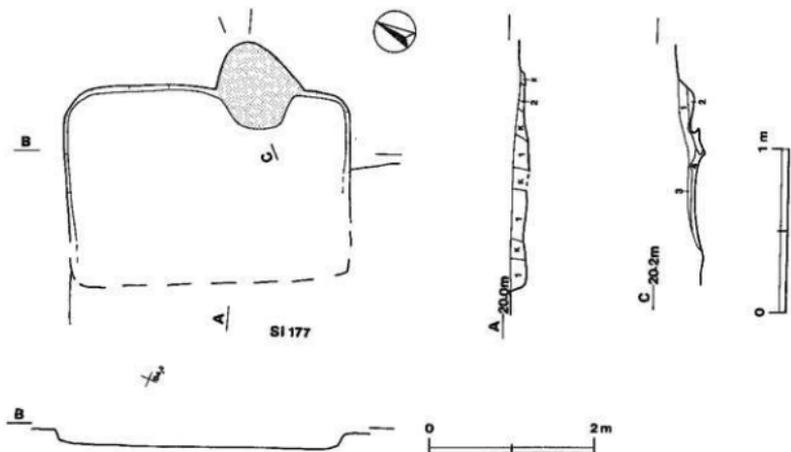
所見 本跡の時期は、遺物の形態、第176号住居跡との重複関係及び出土遺物から古墳時代後期（7世紀）と思われる。

第178号住居跡（第425図）

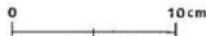
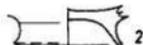
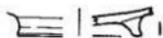
位置 調査区の中央部、D4i区。

重複関係 本跡は、第177号住居跡の北東部を掘り込んでいることから、第177号住居跡より新しい。

規模と平面形 遺存する北東壁から推定すると、長軸3.48m、短軸2.44mの長方形を呈するものと思われる。



第425図 第178号住居跡実測図



第426図 第178号住居跡出土遺物実測図

第178号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	寸法値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第426図 1	高台付坪 土師器	B (1.7) D [7.4 E 1.1	高台部片。「ハ」の字状に高く高台が付く。	底部内部へラ磨き、外面四輪へラ磨り後高台貼り付け。	長石・バミス・器足・スコリア 褐色 普通	P1059 覆土中 10%
2	高台付坪 土師器	B (2.3) D 6.6 E 1.3	高台部片。「ハ」の字状に高く足の長い高台が付く。	底部高台貼り付け。高台部クロコナダ。	長石 鈍い赤褐色 普通	P1060 覆土中 10%

主軸方向 N-65°-E

壁 壁高は17cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

床 平坦であるが、攪乱が激しく詳細は不明である。

竈 北東壁中央部からやや南よりに付設されていたと思われるが、遺存状態が悪く、わずかに焼土と白色粘土が確認されている。火床部の掘り込みは認められない。煙道部は、壁外へ60cm程突出し、壁の内側からゆるやかに外傾して立ち上がる。

覆土層解説

- 1 黒 褐色 焼土中ブロック・ローム中ブロック・ローム粒子少量
- 2 暗赤褐色 焼土粒子多量、粘土大ブロック少量
- 3 赤 褐色 焼土大ブロック・焼土粒子多量、炭化粒子・ローム粒子少量
- 4 黒 色 炭化粒子中量、ローム粒子少量

覆土 2層からなる自然堆積である。

土層解説

- 1 黒 色 ローム粒子少量、炭化粒子・ローム大・小ブロック微量
- 2 黒 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子・ローム大ブロック少量

遺物 土師器片223点、須恵器片11点が出土している。第426図1、2の土師器高台付坪は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は、出土遺物が少なくしかも細片であるため、詳細は不明であるが、第178号住居跡との重複関係、竈の位置等遺構の形態及び出土遺物から平安時代（10世紀頃）と思われる。

第179号住居跡（第427図）

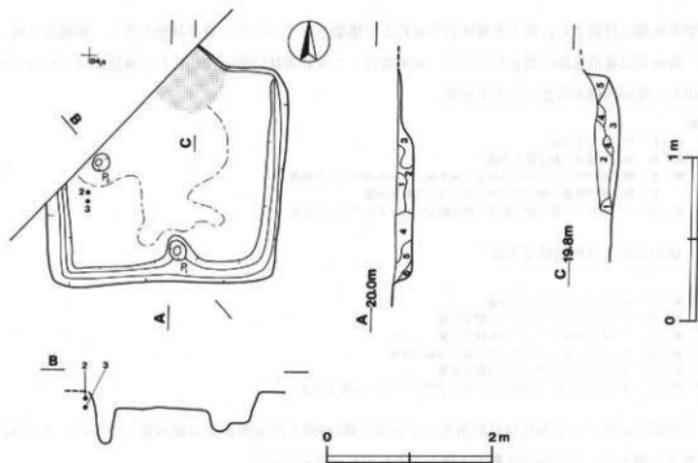
位置 調査区の中央部、D4j区。

規模と平面形 長軸2.82m、短軸2.61mの方形である。

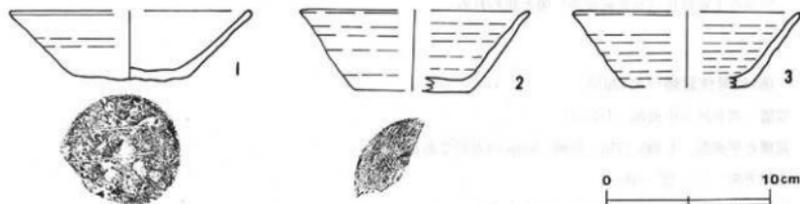
主軸方向 N-0°

壁 壁高は24cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 確認された壁下には、北壁を除いて壁溝が巡っている。上幅約16cm、下幅約8cm、深さ約5cmで、断面形はU字形である。



第427図 第179号住居跡実測図



第428図 第179号住居跡出土遺物実測図

第179号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第428図 1	坏 須恵器	A [14.5] B 4.3 C 6.9	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に立ち上がり、そのまま口縁端部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後ナデ調整。底部周縁ナデ。	長石・石英・針状鉱物 灰色 良好	P1061 40% 覆土中 底面にヘラ記号あり PL99
2	坏 須恵器	A [13.6] B 4.9 C [6.6]	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に立ち上がり、そのまま口縁端部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後ナデ調整。底部周縁ナデ。	長石・糠・針状鉱物 灰色 良好	P1062 30% 覆土中層 底面にヘラ記号あり PL99
3	坏 須恵器	A [13.8] B [4.6] C [7.4]	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に立ち上がり、そのまま口縁端部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後ナデ調整。底部周縁ナデ。	長石 灰色 普通	P1063 20% 覆土下層 PL99

床 平坦で、入り口部から中央部にかけて踏み固められている。

ピット 2か所 (P₁, P₂)。P₁は、径21cmの不整形円形、深さ27cmで、出入り口ピットと思われる。P₂は径22cmの不整形円形、深さ44cmで、性格は不明である。

竈 北壁中央部に付設され、粘土と凝灰岩の切石とで構築されているが、遺存状態が悪く、袖部等は残っておらず、凝灰岩は竈前床面に散在している。火床部は、7cm程皿状に掘り窪められ、煙道部は、壁外へ約30cm程突出し、壁の内側から急に立ち上がる。

竈土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子・粘土粒少量
- 3 黒褐色 焼土小ブロック・ローム粒子・灰少量、ローム中ブロック微量
- 4 褐色 粘土粒少量、焼土中ブロック・ローム粒子少量
- 5 黒褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック少量

覆土 6層からなる自然堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム大・小ブロック少量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 3 黒褐色 ローム中ブロック・ローム粒子少量
- 4 黒褐色 ローム大・中・小ブロック・ローム粒少量
- 5 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒少量
- 6 黒褐色 ローム中ブロック中量、ローム小ブロック・ローム粒子少量

遺物 土師器片35点、須恵器片14点が出土している。第428図1の須恵器環は竈内覆土中から、2の環は西壁付近覆土中層から、3の環は同覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は、出土遺物が少なくしかも細片であるため、詳細は不明であるが、遺構の形態及び出土遺物から平安時代（9世紀前半）頃と思われる。

第180号住居跡（第429図）

位置 調査区の中央部、D4i区。

規模と平面形 長軸5.77m、短軸5.56mの方形である。

主軸方向 N-22°-W

壁 壁高は15~24cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 確認された壁下には、すべて壁溝が巡っており、全周するものと思われる。上幅約9cm、下幅約5cm、深さ約7cmで、断面形はU字形である。

床 平坦で、中央部から竈前まで踏み固められている。貯蔵穴及び出入り口ピットの周囲に、上幅8cm、下幅30cmで、高さ7cmの馬蹄形の高まりがみられる。

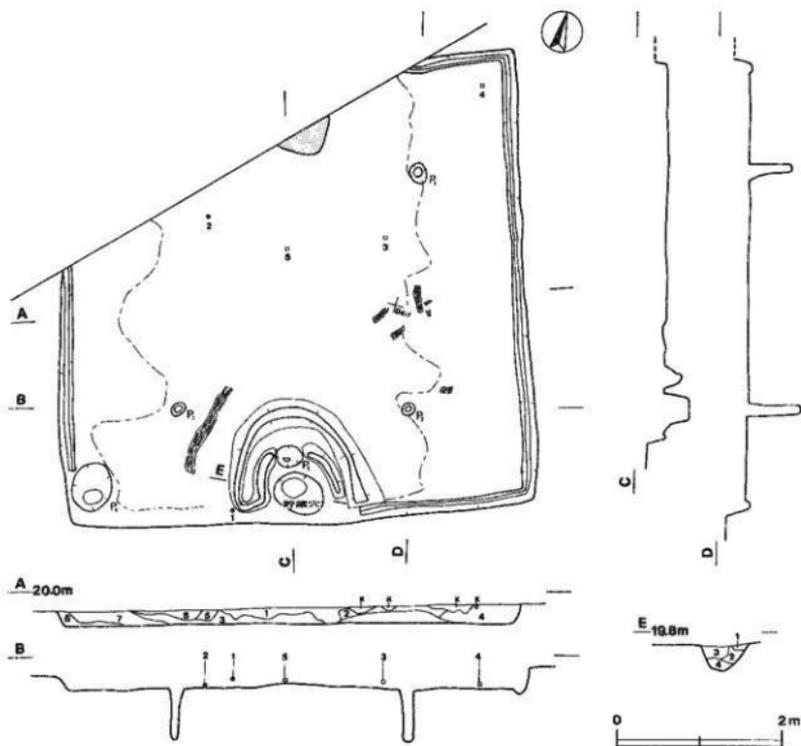
ピット 5か所（P₁~P₅）。P₁~P₃は、径34~68cmの不整形円形、深さ58~65cmで、配置や規模から支柱穴と思われる。P₄は径32cmの不整形円形、深さ21cmで、出入り口ピットと思われる。P₅は径44cmの不整形円形、深さ31cmで、性格は不明である。

竈 大部分がエリア外に延びているため、詳細は不明であるが、北西壁中央部に凝灰岩の切石を確認したため、その位置に付設されていたと思われる。

貯蔵穴 南東壁中央入り口部下に付設され、長径60cm、短径46cmの楕円形で、深さは72cm、断面形はU字形である。

貯蔵穴土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒中量、焼土粒子・灰・ローム小ブロック少量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック中量、灰・ローム大ブロック少量
- 3 赤褐色 スコリア大・中ブロック多量、焼土小ブロック・焼土粒中量、灰少量、ローム大ブロック微量
- 4 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量、ローム大ブロック少量



第429図 第180号住居跡実測図

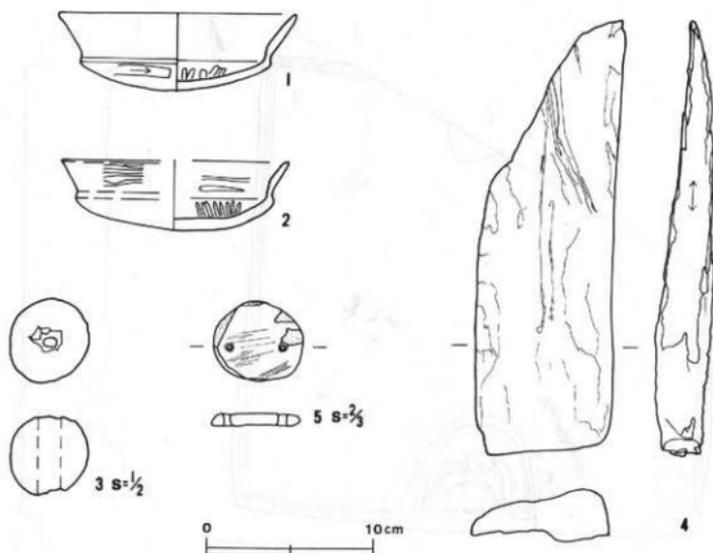
覆土 8層からなる自然堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ローム大ブロック多量，ローム中・小ブロック・ローム粒子中量，炭化粒子少量
- 3 暗褐色 ローム中ブロック多量，炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子多量
- 4 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量，ローム中ブロック中量，炭化粒子・ローム大ブロック少量
- 5 暗褐色 ローム中・小ブロック多量，炭化粒子中量，ローム粒子少量
- 6 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量，炭化粒子少量
- 7 褐色 ローム中ブロック・ローム粒子多量
- 8 褐色 ローム中ブロック・ローム粒子多量，ローム大ブロック少量

遺物 土師器片199点，須恵器片4点，弥生土器片1点が出土している。第430図1の上師器環は南東壁付近覆土中層から斜位の状態で，2の環は中央部床面から正位の状態で，5の有孔円板は同覆土下層から，3の上玉は北東壁付近覆土下層から，4の砥石は北コーナー付近床面からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から古墳時代後期（6世紀前半）と思われる。



第430図 第180号住居跡出土遺物実測図

第180号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第430図 1	坏土器	A 14.4 B 4.8	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外傾する。外面に突出した稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面放射状のヘラ磨き、外面ヘラ削り。	雲母・長石 明赤褐色 普通	P1064 70% 覆土中層 PL99
	坏土器	A (13.8) B 4.3	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外傾する。外面に突出した稜を持つ。	口縁部内・外面横位のヘラ磨き、体部内面放射状のヘラ磨き、外面ヘラ削り。	雲母・褐色・バミ ス・礫 褐色 普通	P1065 50% 床面 PL99

図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第430図3	土玉	3.4	3.3	3.2	0.9	34.7	北西壁層上下層	DP127

図版番号	種別	計測値					石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第430図4	砥石	26.7	8.8	(3.3)	-	(816.3)	粘板岩	北コーナー床面	Q226
5	有孔円板	2.5	2.7	0.4	-	5.9	滑石	中央部覆土下層	Q227

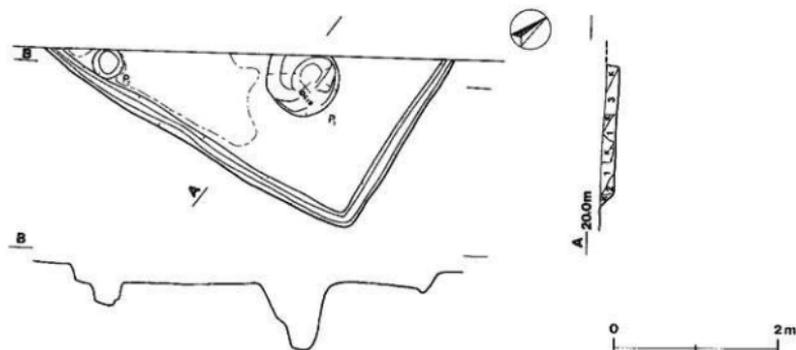
第181号住居跡 (第431図)

位置 調査区の中央部、D4f.区。

規模と平面形 大部分がエリア外に延びており、遺存する一辺が確認できないため、不明である。

主軸方向 同時代の住居跡の主軸方向と、一部遺存する東壁の方向とから推定するとN-18°-Wである。

壁 壁高は22cmで、外傾して立ち上がる。



第431図 第181号住居跡実測図

壁溝 確認された壁下には、すべて壁溝が巡っており、全周するものと思われる。上幅約15cm、下幅約10cm、深さ約6cmで、断面形はU字形である。

床 平坦で、入り口部直下から中央部に向かって踏み固められている。出入り口ピットの周囲に高まりが2か所確認されている。

ピット 2か所 (P₁、P₂)。P₁は、径88cmの不整形形、深さ44cmで、配置や規模から柱穴と思われる。

P₂は径40cmの不整形形、深さ28cmで、出入り口ピットと思われる。

竈 遺物から判断して竈が設置されていたと考えられるが、エリア外のため不明である。

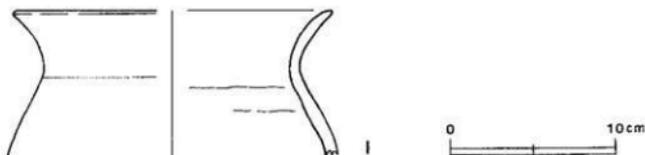
覆土 3層からなる自然堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック少量
- 2 黒色 焼土粒子・炭化粒子・ローム中・小ブロック・ローム粒子少量
- 3 黒褐色 ローム中ブロック・ローム粒子少量

遺物 土師器片57点、縄文土器片1点が出土している。第432図1の土師器甕はピット内覆土中から出土している。

所見 本跡は遺物が少なく、住居跡の大部分がエリア外に延びているため、本跡の時期は詳細には不明であるが、出土遺物から見て古墳時代後期頃(6~7世紀)と思われる。



第432図 第181号住居跡出土遺物実測図

第181号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	新土・色調・地成	備考
第432図 1	土師器 甕	A (19.1) B (9.0)	口縁部片。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。	パミス・雲母・石英・塵 棕色 普通	P1066 5% ピット内覆土中

第182号住居跡（第433図）

位置 調査区の中央部，D4e。X。

重複関係 本跡は，第183号住居跡の南西部を掘り込んでいることから，第183号住居跡より新しい。

規模と平面形 遺存する南東壁から推定すると，一辺3.48mの方形あるいは長方形と考えられる。

主軸方向 N-52°-E

壁 壁高は13cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝 確認された壁下には，北東壁を除いて壁溝が深っている。上幅約11cm，下幅約7cm，深さ約4cmで，断面形はU字形である。

床 平坦で，中央部は踏み固められている。

ピット P₁は，径47cmの不整形円形，深さ12cmで，性格は不明である。

竈 北東壁中央部に付設されている。竈の半分以上がエリア外に延びている上に，構築材と思われる凝灰岩の切石が散在しているため，形状は不明である。火床部は，皿状に20cm程掘り窪められている。煙道部は，壁外へ約45cm突出し，壁の内側からゆるやかに外傾して立ち上がる。

土層解説

1 黒褐色 ローム大・中・小ブロック・ローム粒子少量

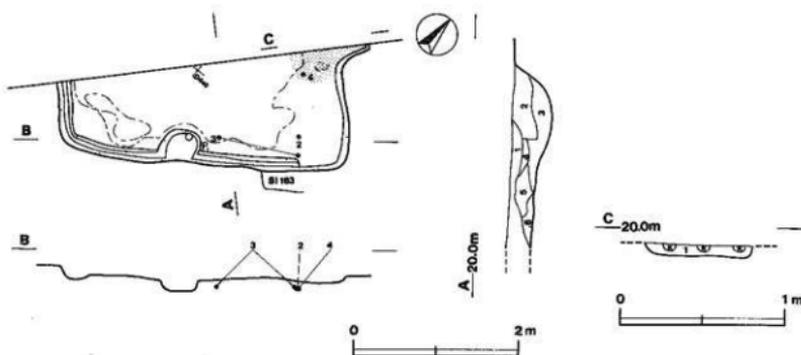
覆土 1層からなる自然堆積である。

埋土層解説

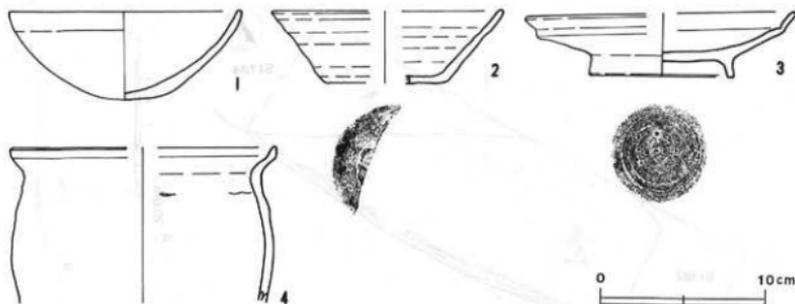
- 1 黒褐色 炭化粒子中粒，焼土小ブロック・ローム中・小ブロック・ローム粒子少量
- 2 黒褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 4 赤褐色 粘土多量
- 5 赤褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 6 褐色 焼土粒子・ローム粒子少量

遺物 土師器片17点，須恵器片2点が出土している。第434図2の須恵器環は東コーナー部床面から，3の壁は南東壁付近床面から，4の土師器甕は室内覆土下層から，1の環は覆土中からそれぞれ出土している。1の環は流れ込みと思われる。

所見 本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から平安時代（9世紀前半）と思われる。



第433図 第182号住居跡実測図



第434図 第182号住居跡出土遺物実測図

第182号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第434図 1	环 土 器	A 13.9 B 5.4 C 4.0	底部から口縁部片。平底。体部は内厚して立ち上がり、そのまま口縁端部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ。	長石・スコリア 褐色 普通	P1067 60% 覆土中 PL99 体部内面刺繍
2	环 須 恵 器	A [14.0] B 4.4 C [13.2]	底部から口縁部片。体部は直線的に立ち上がり、そのまま口縁端部に至る。	口縁部及び体部内・外面クロロナデ。底部回転ヘラ切り後ナデ調整。	石英・バミス・針 状鉱物 灰オリーブ色 普通	P1068 20% 床面
3	甗 須 恵 器	A [16.8] B 4.1 D 8.8 E 1.2	高台部から口縁部片。下方でわずかに開く高台が付く。体部は外傾し、口縁部は外反する。	口縁部及び体部内・外面クロロナデ。底部回転ヘラ削り後高台貼付け。	バミス・石英・礫 針状鉱物 暗灰黄色 良好	P1069 50% 床面 PL99
4	姜 土 器	A [16.0] B (9.5)	体部から口縁部片。体部は内厚して立ち上がり、口縁部は外傾し、端部をつまみ上げる。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・石英 暗褐色 普通	P1070 10% 甗内覆土下層 PL99

第183号住居跡 (第435図)

位置 調査区の中央部、D4e区。

重複関係 本跡は、第182号住居跡と第184号住居跡に掘り込まれていることから、2軒の住居跡よりも古い。

規模と平面形 遺存する南東壁から推定すると、一辺6.14m程の方形あるいは長方形と思われる。

主軸方向 住居跡の大部分がエリア外のため不明である。

壁 壁高は8cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 確認された南東壁下には壁溝が巡っている。上幅約8cm、下幅約5cm、深さ約5cmで、断面形はU字形である。

床 平坦で、締まりがなく軟らかい。

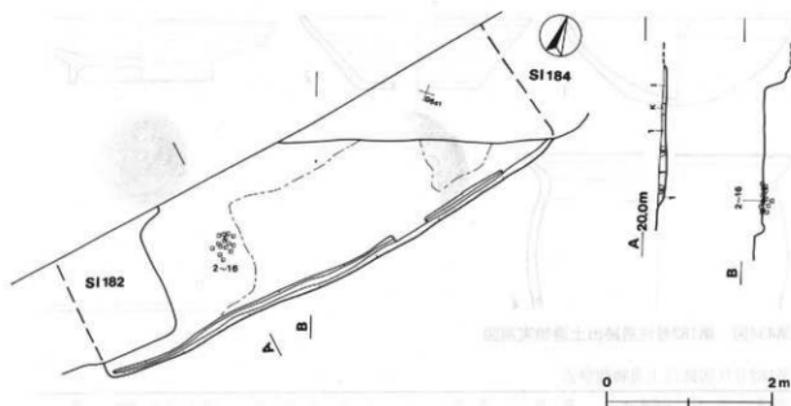
覆土 1層からなる自然堆積である。

土層解説

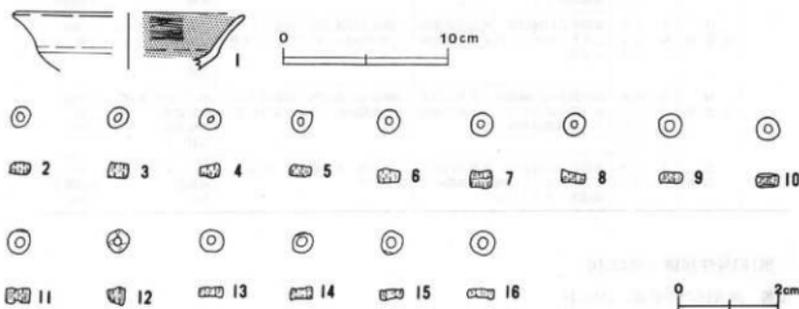
1 黒褐色 ローム大・中・小ブロック少量、ローム粒子微量

遺物 土師器片61点、須恵器片1点、陶器片1点が出土している。第436図1の土師器環は覆土中から、2～16の白玉は南東壁付近床面からまとまった状態でそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は、出土遺物が少なくしかも細片であるため、詳細は不明であるが、第182号住居跡との重複関係及び出土遺物から古墳時代後期(6～7世紀)頃と思われる。



第435図 第183号住居跡実測図



第436図 第183号住居跡出土遺物実測図

第183号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第436図 1	環 土器器	A [14.0] B (3.5)	口縁部片。口縁部は外反する。	口縁部内面横位のヘラ磨き。外面 横ナデ。内面黒色処理。	雲母・石英 褐色 普通	P1071 覆土中

図版番号	種別	計測値						石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)				
第436図2	白 玉	0.4	0.4	0.3	0.2	0.1	滑 石	南東壁付近床面	Q228	
3	白 玉	0.4	0.4	0.3	0.2	0.1	滑 石	南東壁付近床面	Q229	
4	白 玉	0.45	0.4	0.3	0.2	0.1	滑 石	南東壁付近床面	Q230	
5	白 玉	0.45	0.45	0.2	0.1	0.1	滑 石	南東壁付近床面	Q231	
6	白 玉	0.5	0.5	0.3	0.15	0.1	滑 石	南東壁付近床面	Q232	
7	白 玉	0.45	0.45	0.15	0.15	0.1	滑 石	南東壁付近床面	Q233	
8	白 玉	0.45	0.45	0.25	0.1	0.1	滑 石	南東壁付近床面	Q234	

図版番号	種別	計測値					石質	出土地点	備考	
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)				
9	F1	玉	0.45	0.45	0.2	0.15	0.1	滑石	南東壁付近床面	Q235
10	口	土	0.45	0.45	0.25	0.15	0.1	滑石	南東壁付近床面	Q236
11	F1	玉	0.45	0.45	0.3	0.15	0.1	滑石	南東壁付近床面	Q237
12	F1	玉	0.45	0.45	0.35	0.15	0.1	滑石	南東壁付近床面	Q238
13	F1	玉	0.45	0.45	0.2	0.2	0.1	滑石	南東壁付近床面	Q239
14	F1	玉	0.4	0.4	0.2	0.2	0.1	滑石	南東壁付近床面	Q240
15	F1	玉	0.45	0.45	0.2	0.2	0.1	滑石	南東壁付近床面	Q241
16	口	玉	0.42	0.42	0.15	0.2	0.1	滑石	南東壁付近床面	Q242

第184号住居跡(第437図)

位置 調査区の中央部, D4c.区。

重複関係 本跡は, 第183号住居跡の北西部を掘り込んでいることから, 第183号住居跡より新しい。

規模と平面形 住居跡の大部分がエリア外に延びており, 遺存する一辺がないため不明である。

壁 壁高は15cmで, ほほ垂直に立ち上がる。

壁溝 確認された壁下にはすべて壁溝が巡っており, 全周するものと思われる。上幅約8cm, 下幅約5cm, 深さ約5cmで, 断面形はU字形である。

床 平坦で, 東コーナー部を除いて踏み固められている。

ピット 2か所(P₁, P₂)。P₁は, 径49cmの不整形円形, 深さ66cmで, 配置や規模から支柱穴と思われる。P₂は, 径31cmの不整形円形, 深さ23cmで, 出入り口ピットと思われる。

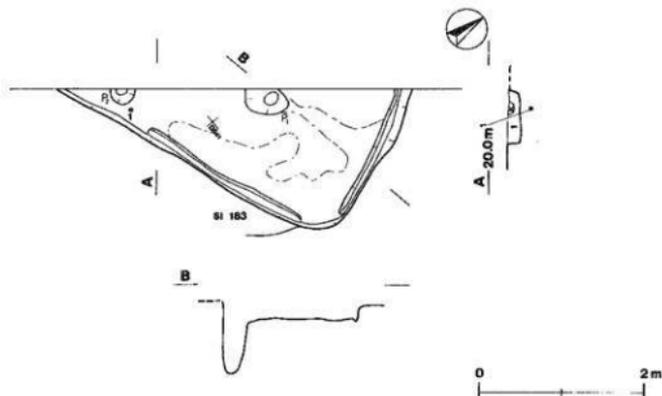
覆土 1層からなる自然堆積である。

土層解説

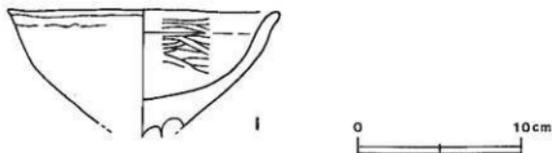
I 黒褐色 硬土粒予・炭化粒予・ローム大・小ブロック・ローム較少量

遺物 土師器片3点が出土している。第438図1の土師器高坏は, 南西壁付近床面から出土している。

所見 本跡の時期は, 出土遺物が極めて少なく実測できた遺物が1点のため, 詳細は不明であるが, 第183号住居跡との重複関係からみて古墳時代中期(5世紀後半)頃と思われる。



第437図 第184号住居跡実測図



第438図 第184号住居跡出土遺物実測図

第184号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	寸法(㎝)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第438図 1	高 土 師 器	A 16.3 B (7.9)	坏部片。坏体部は内壁して立ち上がり、そのまま縁端部に至る。	口縁部内面へラ磨き、外面横ナデ。体部内面へラ磨き、外面ナデ。	灰石・礫 明赤褐色 普通	P1072 60% 床面 PL99

第185号住居跡（第439図）

位置 調査区の中央部，D4g区。

重複関係 本跡は，第186号住居跡の西部を掘り込んでいることから，第186号住居跡より新しい。

規模と平面形 長軸6.39m，短軸5.77mの方形である。

主軸方向 N-17°-W

壁 壁高は32~40cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝 全周する。上幅約14cm，下幅約7cm，深さ約8cmで，断面形はU字形である。

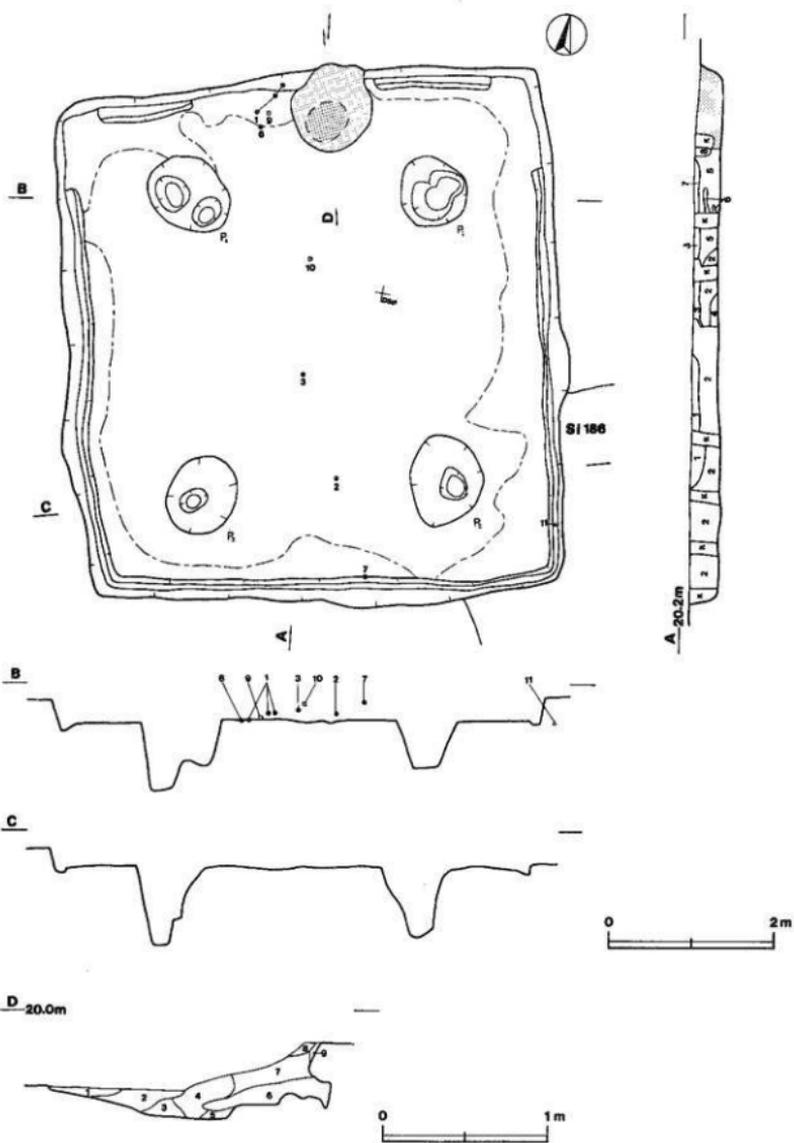
床 平坦で，ほぼ全体的に踏み固められている。

ピット 4か所（P₁~P₄）。P₁~P₄は，径82~88cmの不整形，深さ55~98cmで，配置や規模から主柱穴と思われる。

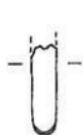
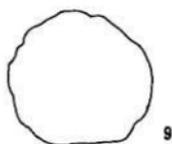
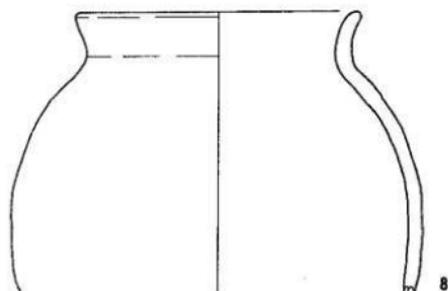
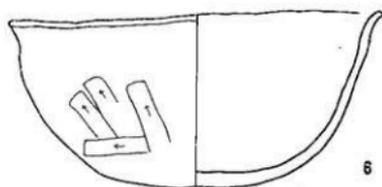
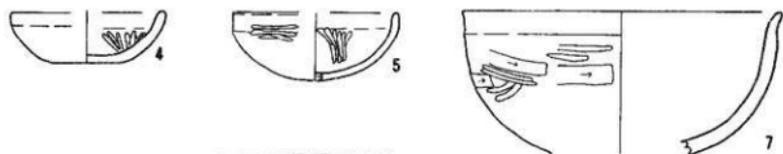
竈 北壁中央部に付設され，砂粒まじりの白色粘土と凝灰岩の切石とで構築されていたと思われる。竈構築材と思われる切石と粘土混じりロームが広く床面から確認されており，住居廃絶時に破壊されたとも考えられる。火床部は，皿状に32cm掘り窪められている。煙道部は，壁外への突出が少なく，壁の内側から急に立ち上がっている。

竈土層解説

- 1 暗褐色 焼土中ブロック・ローム中ブロック中量，ローム粒子少量
- 2 黒褐色 焼土中ブロック・ローム中ブロック・ローム粒子少量
- 3 黒色 ローム中ブロック中量，焼土小ブロック・ローム大ブロック・ローム粒子少量，焼土大ブロック・炭化粒子微量
- 4 赤褐色 焼土中ブロック・焼土粒子多量，炭化粒子少量
- 5 暗褐色 ローム粒中量，焼土中ブロック・ローム中ブロック少量
- 6 暗褐色 焼土小ブロック・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム大ブロック微量
- 7 暗褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量
- 8 黒褐色 焼土大ブロック中量，焼土粒子少量，ローム大ブロック微量
- 9 赤褐色 焼土粒多量



第439图 第185号住居跡実測図



○ 10 s=2/3



11 s=1/2



第440图 第185号住居跡出土遺物実測図

第185号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第440図1	坏土師器	A 13.6	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。外面に、鈍い稜を持つ。	口縁部内面横ナデ。外面ヘラ磨き。体部内面放射状のヘラ磨き。外面ヘラ削り。	長石・石英 鈍い棕色	P1073 70% 覆土下層 PL99
		B 5.0				
2	坏土師器	A [12.1]	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。外面に、鈍い稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面放射状のヘラ磨き。外面ナデ。	長石・石英 鈍い棕色 普通	P1074 60% 覆土下層 PL99
		B 4.4				
3	坏土師器	A [10.8]	底部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。外面に鈍い稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。外面ヘラ削り。	パミス 棕色 普通	P1075 40% 覆土下層 PL99
		B 4.0				
4	坏土師器	A [9.2]	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き。外面ヘラ削り。	スコリア・石英・ パミス・雲母 鈍い棕色 普通	P1076 50% 覆土中 PL99
		B (4.1)				
		C 4.0				
5	坏土師器	A [9.8]	底部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。外面に稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面放射状のヘラ磨き。外面磨き。	石英・雲母 赤褐色 普通	P1077 30% ピット内覆土中 PL99
		B (4.1)				
6	碗土師器	A 22.5	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は短く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。外面ヘラ削り。	長石 鈍い棕色 普通	P1078 60% 埋層 PL99
		B 10.8				
7	碗土師器	A 19.4	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は短く外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き。外面ヘラ削り後ヘラ磨き。	塵・スコリア・石英・ 雲母 棕色 普通	P1079 60% 覆土中層 PL99
		B (8.7)				
8	壺土師器	A 17.0	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	パミス・スコリア・ 石英 鈍い棕色 普通	P1080 40% 覆土中 PL99
		B (17.2)				

図版番号	種別	計測値					石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第10図9	支脚	18.2	8.9	8.2	-	(172.9)	凝灰岩	竪横床面	Q243 PL121
10	不明鉄製品	(2.7)	0.8	0.7	-	(2.2)	滑石	中央部付近中層	Q244

図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第441図11	不明鉄製品	(3.5)	4.3	0.5	-	(15.1)	黄銅コーナースタンプ	M75

覆土 8層からなる自然堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム大ブロック微量
- 3 黒褐色 ローム大ブロック・ローム小ブロック少量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量、ローム大ブロック少量
- 5 暗褐色 ローム中・小ブロック中量、焼土中・小ブロック・炭化粒子・ローム大ブロック少量
- 6 暗褐色 ローム大・中ブロック多量、焼土大ブロック・炭化粒子少量
- 7 黒褐色 焼土小ブロック・炭化粒子・ローム中・小ブロック少量
- 8 黒褐色 ローム中・小ブロック中量、炭化粒子少量

遺物 土師器片664点、須恵器片12点、掘り鉢片1点、縄文・弥生土器片2点、軽石1点が出土している。第

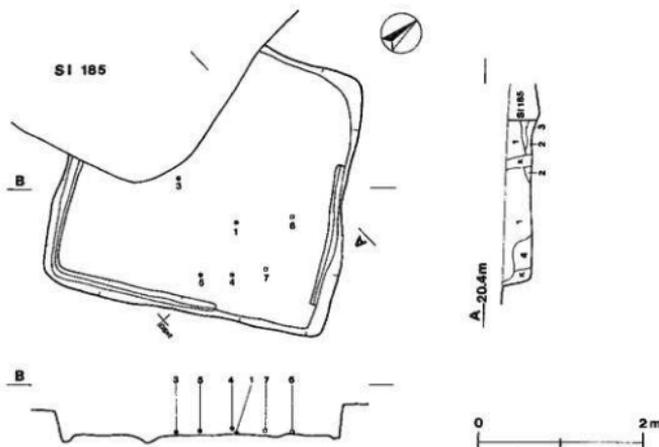
440図1の坏は竪横覆土下層から、6の碗、9の支脚は同床面から、2の坏は南壁付近覆土下層から、7の碗は同覆土中層から、3の坏は中央部覆土下層から、5の坏はピット内覆土中からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から古墳時代後期（7世紀後半）と思われる。

第186号住居跡（第441図）

位置 調査区の中央部、D5区、区。

重複関係 本跡は、西部を第185号住居跡に掘り込まれていることから、第185号住居跡よりも古い。



第441図 第186号住居跡実測図

規模と平面形 長軸3.54m, 短軸3.26mの方形である。

主軸方向 N-40°-W

壁 壁高は38~40cmで, 外傾して立ち上がる。

壁溝 確認された壁下には, 掘り込まれた北西壁を除いてすべて壁溝が巡っており, 全周するものと思われる。

上幅約11cm, 下幅約5cm, 深さ約4~9cmで, 断面形はU字形である。

床 平床で, 北西壁下部に踏み固められた部分が見られる。

覆土 4層からなる自然堆積である。

土層解説

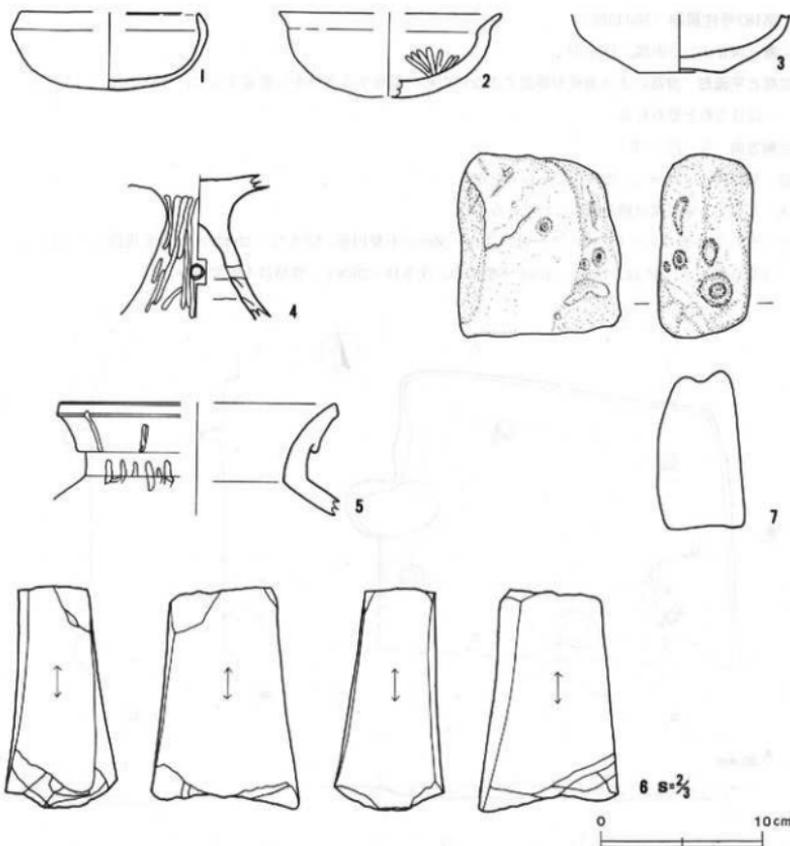
- 1 黒褐色 焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム大ブロック散見
- 2 黒褐色 焼土粒子中量, 焼土大ブロック・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム大ブロック散見
- 3 黒褐色 ローム大ブロック多量, ローム粒子中量, 炭化粒子少量
- 4 黒色 ローム粒子中量, ローム大ブロック散見

遺物 土師器片141点, 須恵器片3点, 軽石1点が出土している。第442図1の土師器環は中央部床面から, 3の環は同覆土下層から, 4の高坏, 5の竈は南東壁付近覆土下層から, 2の環は覆土中から, 6の砥石は北東壁付近床面から, 7の凹石は同覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は, 遺物の形態及び出土遺物から古墳時代中期(5世紀前半)と思われる。

第186号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第42図 1	土師器 環	A [10.8]	底部から口縁部片。丸底。体部は内傾して立ち上がり, 口縁部は内傾する。外面に稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ, 外面ヘラ削り後ナデ。	長石・石英 明赤褐色 普通	P1081 床面 PL99
		B 4.7				
2	土師器 高坏	A [13.4] B (5.1)	底部から口縁部片。丸底。体部は内傾して立ち上がり, 口縁部は外傾する。内面に稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ヘラ削き, 外面ナデ。	パミス・石英・雲母・スコリア 赤褐色 普通	P1082 覆土中



第442図 第186号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
3	坏土器	B (3.5) C 5.0	底部から体部片。平底。体部は内彎して立ち上がる。	体部内面ナガ、外面磨き。	パミス・石英・スコリア・長石 黄褐色 普通	P1084 20% 覆土下層 PL99
4	高土器	B (8.8) E (7.3)	脚部片。脚部は「ハ」の字状に開く。中位に孔が穿たれる。	脚部内面ナゲ、外面縦位のヘラ磨き。	長石・石英・スコリア 明赤褐色 普通	P1083 20% 覆土下層 PL99
5	密土器	A [16.6] B (6.8)	口縁部片；口縁部は外反する。複合口縁を呈する。	口縁部内面横ナゲ、外面横ナゲ一部ヘラ磨き。	長石 鈍い黄褐色 普通	P1085 5% 覆土下層 PL99

図版番号	種別	計測値					石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第442図6	砥石	6.8	4.3	3.2	-	106.5	凝灰岩	北東豊付近床面	Q245 PL120
7	凹石	11.2	9.9	9.7	-	728.2	砂岩	北東豊付近覆土下層	Q246

第187号住居跡 (第443図)

位置 調査区の中央部, D5i₂区。

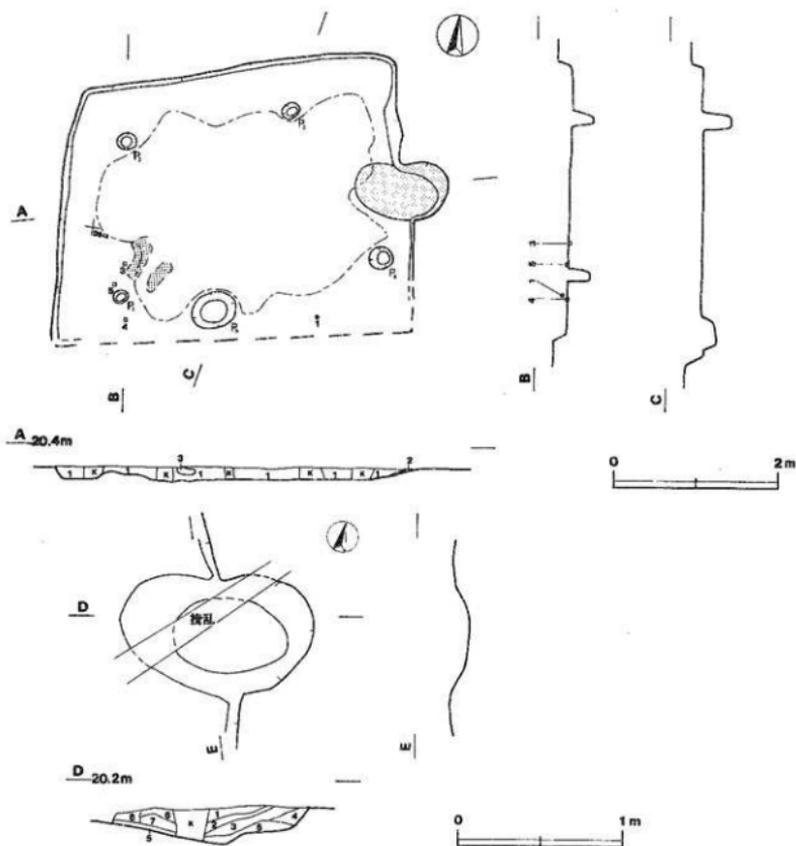
規模と平面形 掘乱により南壁が確認できないため、遺存する北壁から推定すると、一辺4.07mの方形あるいは長方形と思われる。

主軸方向 N-75°-E

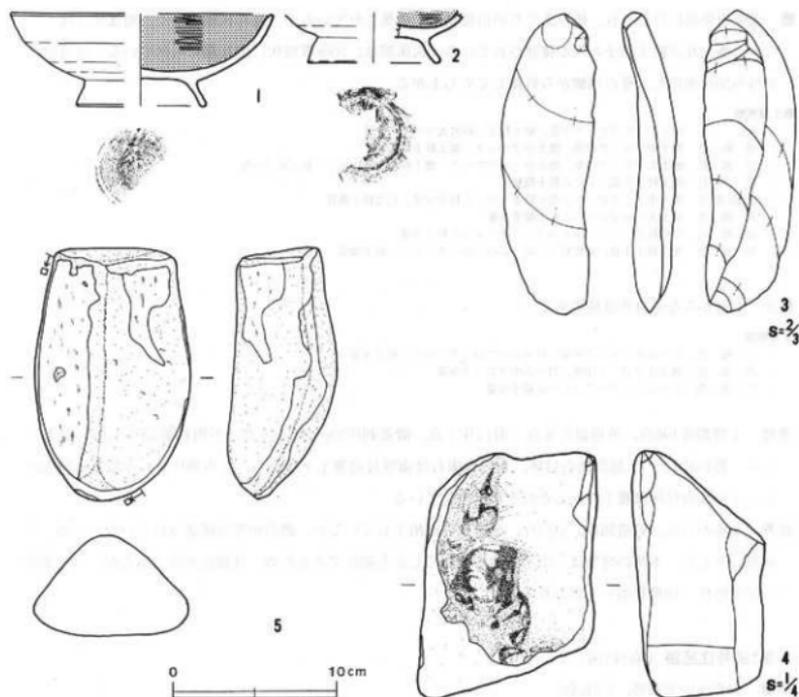
壁 壁高は15~22cmで、外傾して立ち上がる。

床 平川で、中央部は踏み固められている。

ピット 5か所 (P₁~P₅)。P₁~P₄は、径18~28cmの不整形形、深さ24~32cmで、配置や規模から支柱穴と思われる。P₅は、径28~54cmの不整形形、深さ18~26cmで、性格は不明である。



第443図 第187号住居跡実測図



第444図 第187号住居跡出土遺物実測図

第187号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第444図 1	高台付杯 土器器	A [15.8]	高台部から口縁部片。「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内埋して立ち上がり、そのまま口縁部に至る。	口縁部及び体部内面へラ磨き、外面ロクロナデ、体部下端へラ削り。底部回転へラ削り後高台貼り付け。内面黒色処理。	長石 鈍い橙色 普通	P1086 40% 覆土下層 PL99
		B 5.7				
		D [7.6]				
		E 1.6				
2	高台付杯 土器器	B (3.1)	高台部片。「ハ」の字状に開く高台が付く。	底部回転へラ削り後高台貼り付け。内面黒色処理。	石英・バミス・スコリア・雲母 黄褐色 普通	P1087 40% 覆土中層 PL99
		D [8.0]				
		E 1.5				

図版番号	種別	計測値					石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第444図3	割片	9.2	2.8	1.2	-	28.4	トトロ石	西壁付近床面	Q247 PL122
4	金床石	19.8	14.3	10.8	-	3920.0	安山岩	西壁付近覆土下層	Q248
5	敲石	15.4	9.4	6.6	-	1139.0	砂岩	西壁付近床面	Q249 PL121

竈 東壁中央部に付設され、砂粒まじりの白色粘土で構築されているが、遺存状態が悪く、袖部等は残っておらず、焼上及び粘土粒子的のみが確認されている。火床部は、10cm程皿状に掘り窪められている。煙道部は、壁外へ30cm突出し、壁の内側から外傾して立ち上がる。

竈土層解説

- 1 褐 色 焼土中・小ブロック中量、粘土粒子、砂岩大ブロック少量
- 2 明 褐色 焼土中ブロック中量、焼土小ブロック・焼土粒子少量
- 3 明 褐色 焼土大ブロック中量、焼土中・小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
- 4 褐 色 焼土粒少量、ローム粒子微量
- 5 暗赤褐色 焼土中・小ブロック・焼土粒子・ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 6 黄 褐色 粘土大・中ブロック・粘土粒子多量
- 7 暗 褐色 炭化粒子・ローム中・小ブロック・ローム粒子少量
- 8 黒 褐色 焼土粒子少量、炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子微量

覆土 3層からなる自然堆積である。

土層解説

- 1 黒 褐色 ローム中ブロック中量、ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 暗 褐色 焼土中ブロック中量、ローム中ブロック少量
- 3 黒 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量

遺物 土師器片196点、須恵器片6点、羽川片1点、鍛造削片20g、軽石1点、不明鉄製品片1点が出土している。第444図1の土師器高台付坏、4の金床石は南壁付近覆土下層から、3の削片、5の敲石は同床面から、2の高台付坏は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 本跡からは、鍛造削片、羽川片、金床石等が出土しているが、鍛冶伊等は確認されていないため、住居跡扱いとした。本跡の時期は、出土遺物が少なくしかも細片であるため、詳細は不明であるが、出土遺物から平安時代（10世紀頃）と思われる。

第190号住居跡（第445図）

位置 調査区の北東部、C6h区。

規模と平面形 長軸5.08m、短軸5.00mのほぼ方形である。

主軸方向 N-27°-W

壁 南東壁と北東壁の残っている部分の壁高は20cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

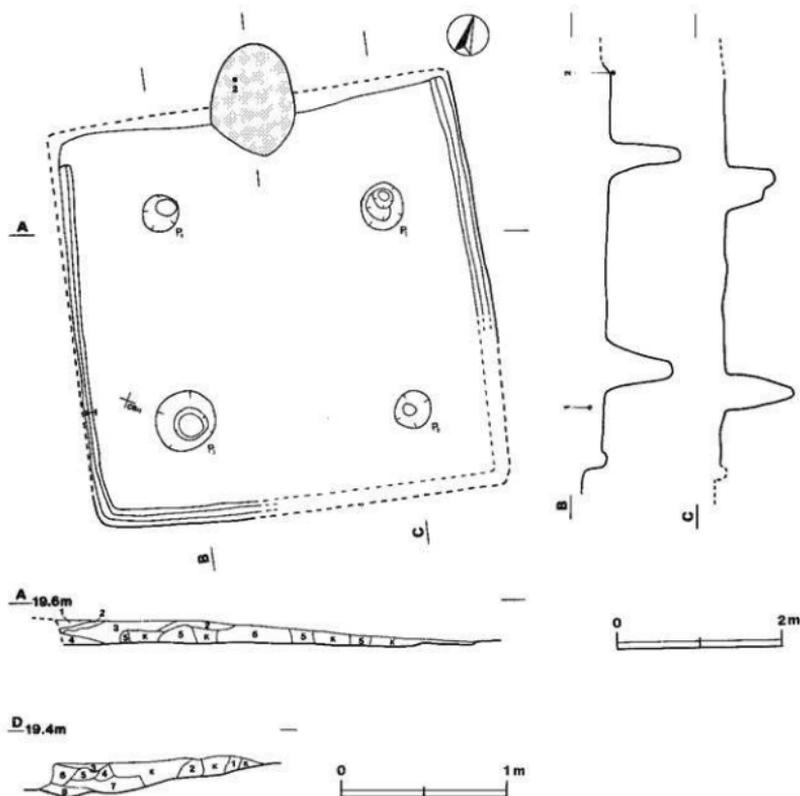
壁溝 北西壁を除く壁下を巡ると思われる。上幅約20cm、下幅約8cm、深さ約10cmで、断面形はU字形である。床 平坦である。

ピット 4か所（P₁～P₄）。P₁～P₄は径48～70cmの円形、深さ70～90cmで、配置や規模から主柱穴と思われる。

竈 北西壁中央部を壁外に50cm程掘り込んで構築されている。竈に使用されたと思われる凝灰岩の塊が数個散在している。火床面は6cm程掘り窪め、皿状を呈する。煙道部は火床面からゆるやかに立ち上がる。

竈土層解説

- 1 赤 褐色 粘土粒子中量、ローム中ブロック少量、焼土大ブロック微量
- 2 黒 褐色 ローム粒子・焼土粒子中量、ローム小ブロック・焼土小ブロック・凝灰岩大ブロック少量、炭化粒子微量
- 3 暗 褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量、ローム大ブロック微量
- 4 鈍い黄色 焼土粒子・焼土小ブロック・粘土粒子少量
- 5 黄 褐色 粘土粒子多量、焼土粒子少量、焼土中ブロック・炭化粒子微量
- 6 オリーブ褐色 粘土粒子中量、ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量、焼土小ブロック微量
- 7 褐色 焼土粒中量、焼土小・中ブロック・炭化粒子・凝灰岩小ブロック少量
- 8 黒 褐色 焼土粒子・焼土小ブロック少量



第445図 第190号住居跡実測図

覆土 6層からなる人為堆積である。

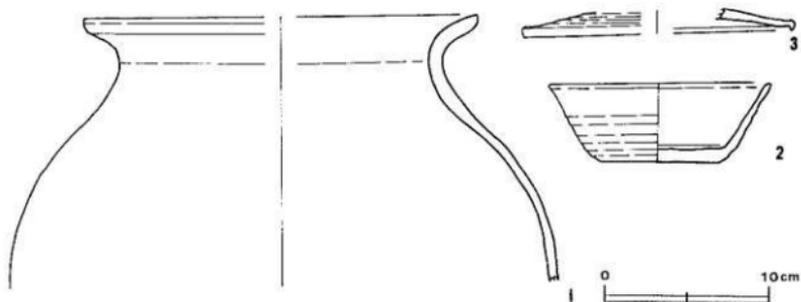
土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子・ローム小・中ブロック少量、ローム大ブロック微量
- 3 暗褐色 ローム小・中ブロック・焼土粒子微量
- 4 黒褐色 ローム小・中ブロック微量
- 5 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック中量、焼土粒子微量
- 6 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子微量

遺物 土師器片1,169点、須恵器片35点、鍛造銅片25.8g、鉄滓26.6g、石34点、弥生土器片4点が出土している。第446図1の土師器の甕は覆土中層から、2・3の須恵器の坏と蓋は甕の覆土中から出土している。2の坏は逆位で覆土下層から出土している。

所見 本跡からは、鍛冶関連遺物が出土しているが、鍛冶炉等が確認されていないため、住居跡扱いとした。

本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から平安時代（8世紀後半）と思われる。



第446図 第190号住居跡出土遺物実測図

第190号住居跡出土遺物観察表

図数番号	器種	寸法値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第446図 1	甕 土師器	A 123.81 B (16.4)	体部から口縁部片。体部は内傾して頸部に至る。頸部は「く」の字状に外反する。口縁部に鋭い接を持ち、肩部はやや突る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ、外面ヘラナデ。	長石・石英・雲母・輝 鈍い橙色 普通	P3054 20% 覆土中層 外面割離
2	坏 須恵器	A 13.5 B 4.9 C 7.3	平底。体部は直線的に外傾して立ち上がり、そのまま口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面口ロナデ。底部回転ヘラ切り後へら削り調整。	長石・スコリア・ 輝・雲母・針状鉱物 オリブ灰色 良好	P3065 100% 覆土中層 底部へら記号
3	番 須恵器	A [16.3] B (4.3)	大舟部から口縁部片。大舟部は浅く扁平で、口縁端部は曲出し、短く直下する。	口縁部内・外面口ロナデ。	長石・石英・雲母・ 輝 灰色 良好	P3066 45% 覆土中層

第191号住居跡 (第447図)

位置 調査区の北東部、D5c区。

規模と平面形 遺存する南西壁から推定すると、一辺4.38mの方形あるいは長方形と思われる。

主軸方向 N-23°-W

壁 壁高は45~50cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 確認された壁下にはすべて壁溝が巡っており、全周するものと思われる。上幅約9cm、下幅約3cm、深さ約9cmで、断面形はじ字形である。

床 やや凹凸がみられ、中央部は踏み固められている。

ピット 3か所 (P₁-P₃)。P₁-P₃は、径62~88cmの不整形、深さ42~46cmで、配置や規模から主柱穴と思われる。

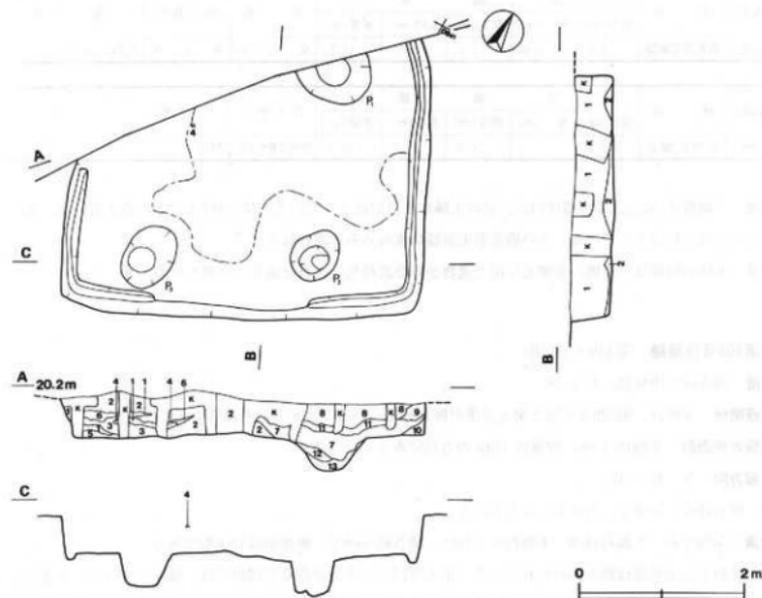
竈 北西壁中央部に付設されていたと思われるが、大部分がエリア外に延びており、攪乱もひどく、袖の一部を確認したのみで、詳細は不明である。

覆土 13層からなる自然堆積である。

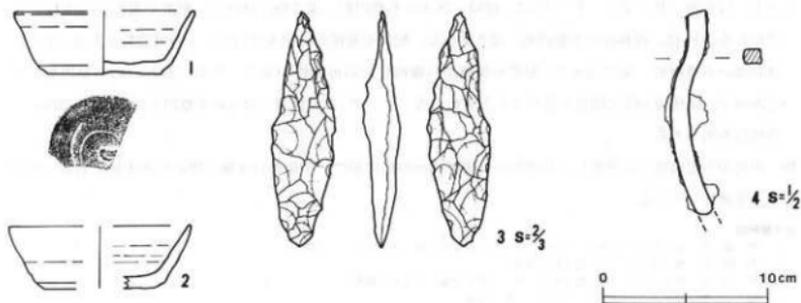
土層解説

- 1 灰黄色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子・ローム大ブロック散見
- 3 黒褐色 ローム粒子中量、ローム大・小ブロック少量
- 4 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム大ブロック散見
- 5 暗褐色 焼土大ブロック・焼土粒子・ローム中・小ブロック少量

- 6 黒褐色 ローム粒子中量, ローム大・小ブロック少量
 7 黒褐色 ローム小ブロック中量, ローム大ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量
 8 黒褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム大ブロック微量
 9 黒褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
 10 黒褐色 ローム大・中ブロック中量, ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量
 11 黒褐色 ローム中・小ブロック少量, ローム粒子中量
 12 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
 13 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量, ローム大・中ブロック中量



第447図 第191号住居跡実測図



第448図 第191号住居跡出土遺物実測図

第19(号)住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第448図 1	須臾器	A [10.8]	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に立ち上がり、そのまま口縁端部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後無調整。底部周縁ナデ。	バミス・長石 黄灰色 普通	P1153 覆土中 30%
		B 3.8 C [7.0]				
2	須臾器	A [11.0]	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に立ち上がり、そのまま口縁端部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後ナデ調整。底部周縁ナデ。	長石・バミス 灰黄褐色 普通	P1154 覆土中 20%
		B 3.9 C [6.8]				

図版番号	種別	計測値					石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第448図3	槍先形尖頭器	7.2	1.95	1.3	-	11.7	安山岩	覆土中	Q296 PL122

図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第448図4	不明鉄製品	(8.4)	-	0.6	-	(15.2)	中央部覆土中	M82

遺物 土器器片196点、須臾器片24点、管状土錘片1点が出土している。第448図1、2の須臾器片は、覆土中からそれぞれ出土している。3の槍先形尖頭器は流れ込みと思われる。

所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から奈良時代（8世紀前半）と思われる。

第192号住居跡（第449・450図）

位置 調査区の中央部、E5a区。

重複関係 本跡は、第229号土坑と第9号溝を掘り込んでいることから、両遺構より新しい。

規模と平面形 長軸10.10m、短軸10.08mの方形である。

主軸方向 N-47°-W

壁 壁高は45~50cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 全周する。上幅約18cm、下幅約6~10cm、深さ約9cmで、断面形はU字形である。

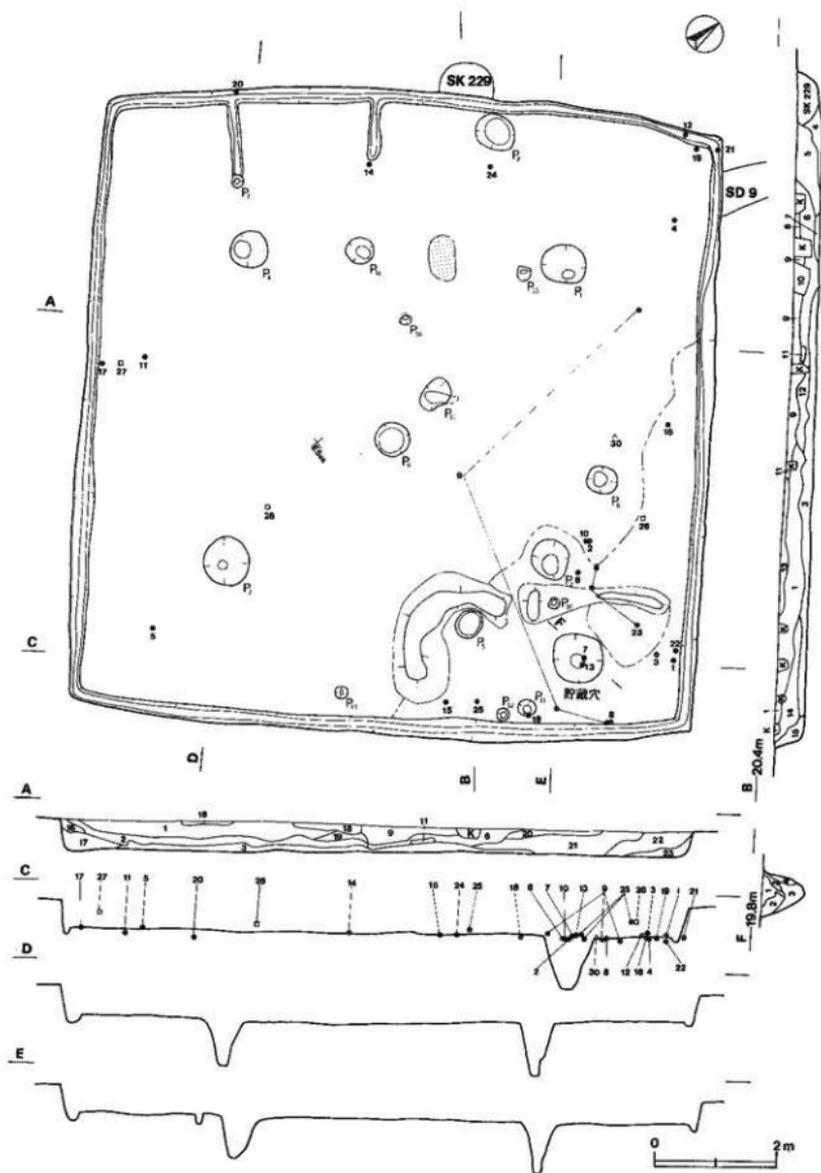
床 平円で、中央部は踏み固められている。出入り口ピット及び貯蔵穴周囲には、幅30~80cmで、かぎの手状に回る馬の背状の高まりが見られる。北西壁から中央に向かって、上幅約16cm、下幅約9cm、長さ95~135cmで、断面形はU字形の溝が掘り込まれている。

ピット 17か所（P₁~P₁₇）。P₁~P₄は、径64~76cmの不整円形、深さ68~88cmで、配置や規模から主柱穴と思われる。P₅は、径48cmの不整円形、深さ39cmで、配置や規模から出入り口ピットの可能性がある。P₆は、径45cmの不整円形、深さ54cmで、配置や規模から補助柱穴の可能性がある。P₇は、径18cmの不整円形、深さ26cmで、周仕切り溝に関係するピットと思われる。P₈~P₁₇は、径28~54cmの不整円形、深さ19~37cmで、径格は不明である。

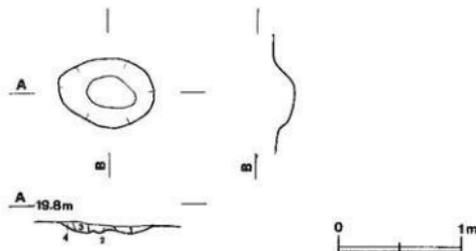
炉 中央から北西寄りに位置し、長径72cm、短径43cmの楕円形で、床面を12cm掘り窪めた地床かである。炉床は赤変硬化している。

炉土層解説

- 1 黒褐色 焼上粒子・炭化中・小ブロック・ローム粒子少量、焼土大ブロック微量
- 2 赤褐色 焼土大ブロック・焼上粒子多量
- 3 黒褐色 焼上小ブロック・焼土粒子・ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 4 褐色 ローム大・中ブロック・ローム粒子多量



第449图 第192号住居跡実測图



第450図 第192号住居跡炉実測図

貯蔵穴 南コーナーに付設され、径88cm、深さ66cmの楕円形で、断面形は擠り鉢形である。

貯蔵穴土層解説

- | | | | |
|---|---|----|--------------------------------------|
| 1 | 肌 | 褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム中ブロック微量 |
| 2 | 黒 | 褐色 | ローム粒子多量、ローム小ブロック中量 |
| 3 | 暗 | 褐色 | ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、炭化粒子少量、ローム中ブロック微量 |
| 4 | 腐 | 色 | ローム中・小ブロック中量、炭化物微量 |

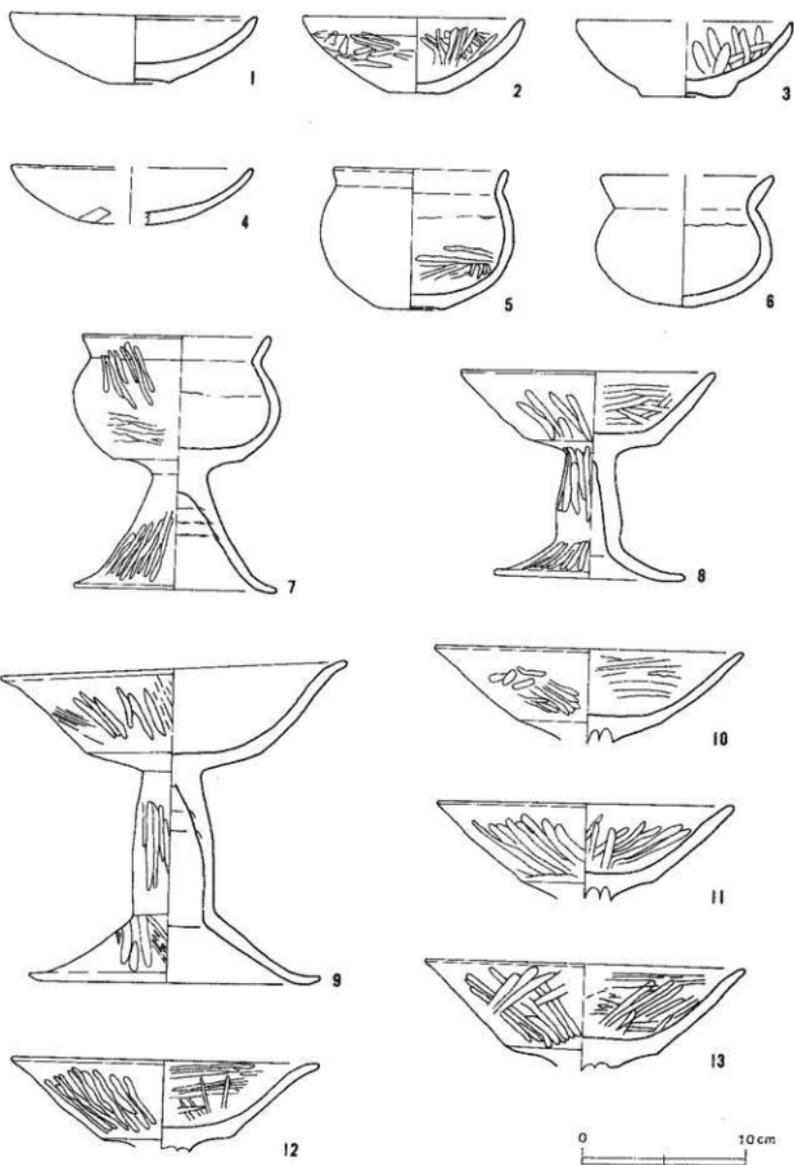
覆土 23層からなる自然堆積である。

土層解説

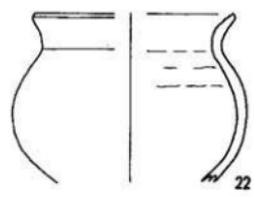
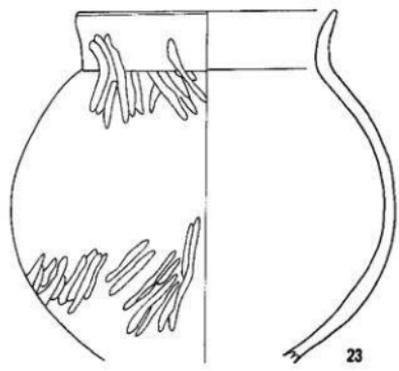
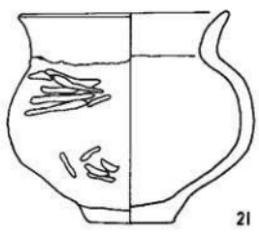
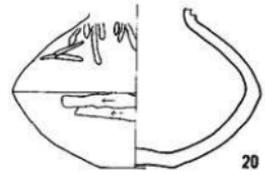
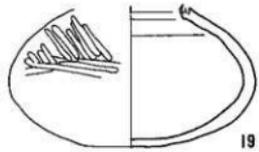
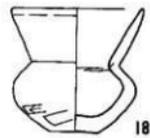
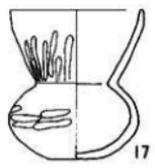
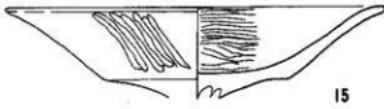
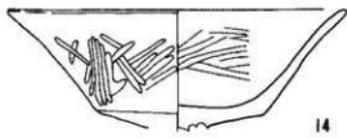
- | | | | |
|----|---|----|--|
| 1 | 肌 | 色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム大ブロック微量 |
| 2 | 黒 | 褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子・ローム中・小ブロック少量 |
| 3 | 黒 | 褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック少量、ローム大ブロック微量 |
| 4 | 黒 | 褐色 | ローム中・小ブロック中量、ローム大ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量 |
| 5 | 黒 | 色 | 焼土小ブロック・ローム中・小ブロック・ローム粒子少量 |
| 6 | 黒 | 色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量 |
| 7 | 黒 | 褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子多量、ローム大ブロック微量 |
| 8 | 黒 | 褐色 | ローム粒子少量、焼土小ブロック微量 |
| 9 | 黒 | 褐色 | ローム粒子少量 |
| 10 | 黒 | 褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子中量、ローム大ブロック少量 |
| 11 | 黒 | 褐色 | 粘土大ブロック多量、焼土小ブロック・炭化粒子少量 |
| 12 | 黒 | 褐色 | ローム小ブロック中量、ローム中ブロック微量 |
| 13 | 黒 | 色 | 炭化粒子・ローム小ブロック少量、ローム大・中ブロック微量 |
| 14 | 黒 | 褐色 | ローム小ブロック中量、ローム中ブロック少量 |
| 15 | 黒 | 褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子・ローム大・小ブロック少量 |
| 16 | 黒 | 色 | ローム大・中ブロック・ローム粒子少量 |
| 17 | 暗 | 褐色 | ローム粒子多量、ローム大・中・小ブロック少量 |
| 18 | 黒 | 褐色 | ローム粒子少量 |
| 19 | 黒 | 色 | ローム中ブロック・ローム粒子少量 |
| 20 | 黒 | 色 | 炭化粒子・ローム粒子少量、ローム中ブロック微量 |
| 21 | 黒 | 褐色 | 炭化粒子・ローム中・小ブロック・ローム粒子少量、ローム大ブロック微量 |
| 22 | 黒 | 褐色 | ローム中ブロック・ローム粒子中量、ローム大ブロック少量 |
| 23 | 暗 | 褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子多量、ローム大・中ブロック少量 |

遺物 土師器片2,036点、須恵器片28点、軽石1点、不明鉄製品片4点、鍛造刺片0.1gが出土している。第451～453図1、3の土師器坏、7、13の高坏、22の壺は東コーナー付近覆土下層から、2の坏、6の碗、23の壺は北東壁付近覆土下層から、10の高坏、30の柄状津は同床面から、4の坏は北コーナー付近覆土中層から、12の高坏、19の埴、21の壺は同覆土下層から、5の碗は南コーナー付近床面から、8の高坏は南東壁付近床面から、25の小形壺は同覆土中層から、9の高坏は散在した状態で覆土下層から、11の高坏、17の埴は南西壁付近床面から、14の高坏、24の壺は北西壁付近覆土下層から、16の高坏は同床面からそれぞれ出土している。10～16の高坏坏部は覆土下層から床面にかけて住居内に散らばった状態で出土している。

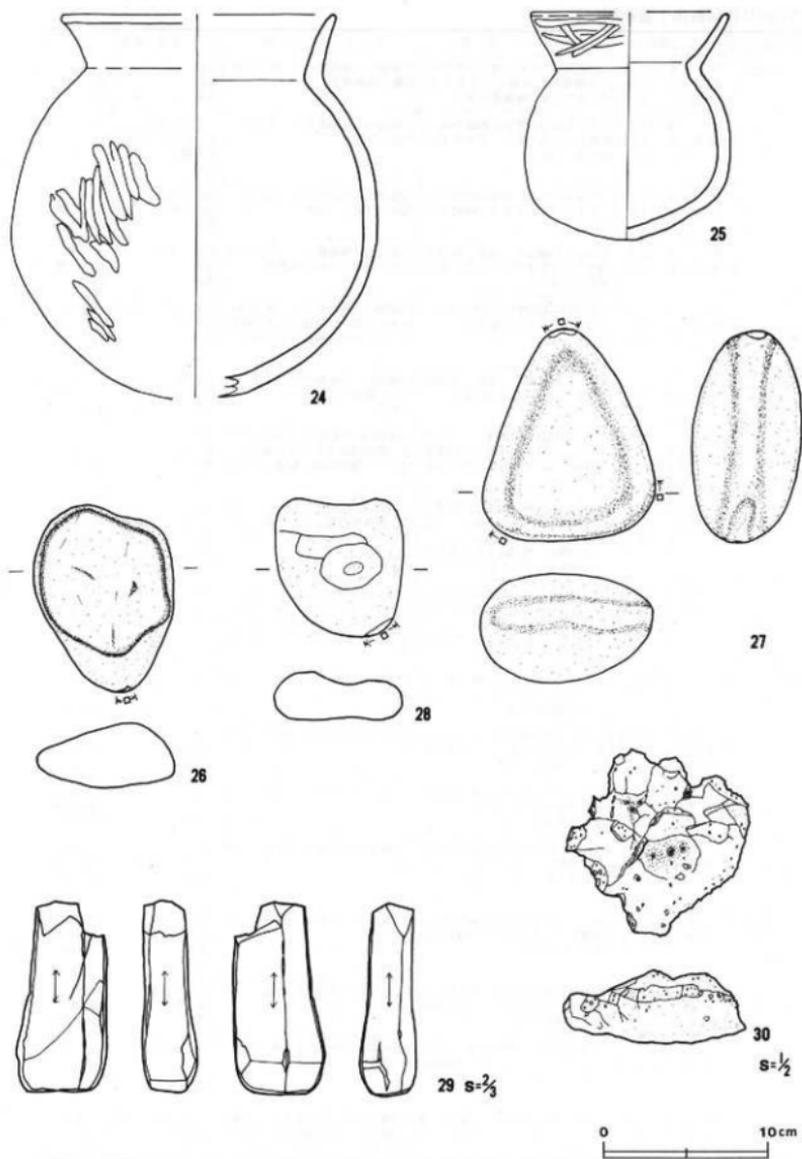
所見 本跡は、一辺が10m程の住居跡で、遺跡内の同時期と思われる住居跡の中で、この1軒のみが格段に規模が大きいため、集落内の特別な機能を有する住居跡の可能性も考えられる。本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から古墳時代中期（5世紀後半）と思われる。



第451图 第192号住居跡出土遺物実測図(1)



第452图 第192号住居跡出土遺物実測図(2)



第453图 第192号住居跡出土遺物実測図(3)

第192号住居跡出土遺物観察表

図録番号	器種	高(寸)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・地肌	備考
第451号	1 土師器	A 15.0	上げ底気味の平底。体部はわずかに内唇気味に外傾して立ち上がり、そのまま口縁端部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面割離。外面磨き。	長石・ハミス赤色普通	P1135 98% 覆土下層 PL100
		B 4.1				
		C 2.5				
2	1 土師器	A 13.4	平底。体部はわずかに内唇気味に外傾して立ち上がり、そのまま口縁端部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面へラ磨き。	ハミス・横土・長石・石英・雲母 明赤褐色普通	P1155 98% 床面 PL100
		B 4.7				
		C 3.3				
3	1 土師器	A (13.2)	突出気味の平底。体部は内傾して立ち上がり、そのまま口縁端部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面へラ磨き、外面ナデ。	長石・石英 鈍い黄褐色普通	P1157 70% 覆土下層 PL100
		B 4.7				
		C 2.4				
4	1 土師器	A (14.4)	底部から口縁部片。丸底。体部は内傾して立ち上がり、そのまま口縁端部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。外面へラ磨り後磨き。	長石・雲母 赤色普通	P1158 50% 覆土中層 PL100
		B (3.6)				
5	1 土師器	A 10.4	平底。体部は内傾して立ち上がり、口縁部はわずかに外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面へラ磨き、外面ハケナデ後磨き。体部内面に輪積み痕を残す。	長石・ハミス・雲母 鈍い褐色普通	P1159 100% 床面 PL100
		B 8.7				
		C 4.0				
6	1 土師器	A (10.2)	底部から口縁部片。丸底。体部は球形状で、口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。外面上平ハケナデ、下平へラ磨り。	長石・雲母・ハミス 鈍い黄褐色普通	P1160 70% 覆土下層 PL100
		B 8.0				
7	高土師器	A 11.0	底部一部欠損。脚部は「ハ」の字状に開く。環部は球形で、口縁部は外傾する。環部外面下位と内面に稜を持ち。	口縁部及び体部内・外面へラ磨き。脚部内面ナデ。外面縦位のへラ磨き。脚部内面に輪積み痕を残す。	雲母・ハミス・長石 黄土下層	P1161 98% 床面 PL100
		B 15.6				
		D 12.2				
		E 7.0				
8	高土師器	A 15.4	口縁部一部欠損。脚部は円筒状で下方に膨らみがあり、環部との接合部がくびれる。環部は「ハ」の字状に開く。環部は下位に稜を持ち、外傾して立ち上がる。	口縁部及び体部内・外面へラ磨き。脚部外面縦位のへラ磨き。脚部内面ナデ、外面縦位のへラ磨き。	長石・ハミス・スコリア 褐色普通	P1162 98% 床面 PL100
		B 12.8				
		D 11.6				
		E 7.6				
9	高土師器	A 20.9	口縁部一部欠損。脚部は円筒状で下方に膨らみがあり、環部との接合部がくびれる。環部は「ハ」の字状に開く。環部は下位に稜を持ち、外傾して立ち上がる。	口縁部及び体部内面ナデ。外面へラ磨き一部ハケナデ。脚部内面ナデ。外面縦位のへラ磨き。環部内面ナデ、外面ハケナデ一部へラ磨き。	長石・石英 褐色普通	P1163 90% 覆土下層 PL100
		B 19.9				
		D 17.7				
		E 13.0				
10	高土師器	A 18.7	環部片。環部は下位に鈍い稜を持ち、外傾して立ち上がり、そのまま口縁端部に至る。	口縁部及び体部内・外面へラ磨き。	長石・石英 褐色普通	P1164 50% 床面 PL100
		B (5.7)				
11	高土師器	A 18.0	環部片。環部は下位に鈍い稜を持ち、外傾して立ち上がり、そのまま口縁端部に至る。	口縁部及び体部内・外面へラ磨き。	長石・石英 明赤褐色普通	P1165 50% 床面 PL100
		B (5.9)				
12	高土師器	A 18.7	環部片。環部は下位に鈍い稜を持ち、外傾して立ち上がり、そのまま口縁端部に至る。	口縁部及び体部内・外面へラ磨き。	長石・雲母・ハミス 褐色普通	P1166 50% 覆土下層 PL100
		B (5.6)				
13	高土師器	A 19.4	環部片。環部は下位に鈍い稜を持ち、外傾して立ち上がり、そのまま口縁端部に至る。	口縁部及び体部内・外面へラ磨き。	ハミス・スコリア・雲母 赤褐色普通	P1167 50% 覆土下層 PL100
		B (6.5)				
第452号	14 高土師器	A 20.4	環部片。環部は下位に稜を持ち、外傾して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面へラ磨き。	長石・石英・スコリア・ハミス 褐色普通	P1168 50% 覆土下層 PL100
		B (7.4)				
15	高土師器	A 17.1	環部片。環部は下位に稜を持ち、外傾して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面へラ磨き。	長石・石英 鈍い黄褐色普通	P1169 50% 床面 PL100
		B (5.5)				
16	高土師器	A 18.5	環部片。環部は内唇気味に外傾して立ち上がり、そのまま口縁端部に至る。	口縁部及び体部内面割離。外面へラ磨き。	長石・石英・スコリア 褐色普通	P1170 50% 床面
		B (5.9)				
17	増土師器	A 8.0	平底。体部は球形で、口縁部は外傾して立ち上がり、口縁端部で直立する。	口縁部内・外面横ナデ。口縁部内面横ナデ、外面縦位のへラ磨き。環部内面ナデ、外面へラ磨き。	長石・雲母・石英 鈍い褐色普通	P1171 100% 床面 PL100
		B 9.1				
		C 2.5				

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
18	土師器	A 7.9	平底。体部はつぶれた算盤玉状で、口縁部は外傾し、そのまま口縁端部に至る。	口縁端部内・外面横ナゲ。口縁部内面横ナゲ、外面縦位のハケナゲ。端部内面ナゲ、外面上下ナゲ、ト平ヘラ削り。	長石・雲母・ハミス・スコリア 褐色 普通	P1172 100% 灰面 PL100
		B 7.6				
		C 2.8				
19	埴器	B (8.7)	体部片。平底。体部は算盤玉状である。	体部内面ナゲ、外面ト平ヘラ削り、ト平ヘラ削り後ナゲ。	スコリア・石英・黒い褐色 普通	P1173 80% 腹上下唇 PL101
		C 4.2				
20	土師器	B (9.8)	体部片。平底。体部は算盤玉状である。	体部内面ナゲ、外面ト平ヘラ削り、ト平ヘラ削り後ナゲ。	長石・石英・雲母 褐色 普通	P1174 80% 灰面 PL101
		C 4.5				
21	土師器	A 12.5	底部から口縁部片突出した平底。体部は内傾して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナゲ。体部内面ナゲ、外面ナゲ部ヘラ削り。	長石・石英・褐色 普通	P1175 90% 腹上下唇 PL101
		B 13.0				
		C 5.4				
22	土師器	A [12.2]	体部から口縁部片。体部は内傾して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナゲ。体部内・外面ナゲ。内面に輪痕み痕を残す。	長石・雲母・石英 黒褐色 普通	P1176 50% 腹上下唇 PL101
		B (10.3)				
23	土師器	A 15.3	体部から口縁部片。体部は球形で、口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナゲ。体部内面ナゲ、外面ヘラ削り。	長石 羽赤褐色 普通	P1177 70% 腹上下唇 PL101
		B (21.4)				
第454図 24	土師器	A 16.5	体部から口縁部片。体部は球形で、口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナゲ。体部内面ナゲ、外面ヘラ削り。	長石・雲母・ハミス 褐色 普通	P1178 70% 灰面 PL101
		B 23.7				
25	土師器	A 11.8	口縁部一部欠損。丸底。体部は内傾して立ち上がり、腹人住を中位や下ドに持つ。口縁部は外傾する。	口縁部内面削り、外面ヘラ削り。体部内・外面ナゲ。	長石・石英・スコリア 褐色 普通	P1179 70% 腹上下唇
		B 13.9				

図版番号	種別	計測値					石	買	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)				
第454図 26	灰石	10.4	8.5	4.0	-	465.3	安山岩	北東壁腹上下唇	Q296	
27	灰石	13.0	10.5	6.6	-	1120.0	砂岩	南西壁腹上下唇	Q297 磨石裏面	
28	灰石	8.4	7.8	3.0	-	276.5	砂岩	南コーナー床面	Q298	
29	灰石	6.9	2.7	1.3	-	37.0	凝灰岩	腹上下唇	Q299 PL120	

図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第454図 30	輪状漆	7.6	-	-	-	77.0	北東壁付瓦裏面	M83

第193号住居跡（第454図）

位置 調査区の中央部、E5c区。

規模と平面形 長軸5.56m、短軸5.34mの方形である。

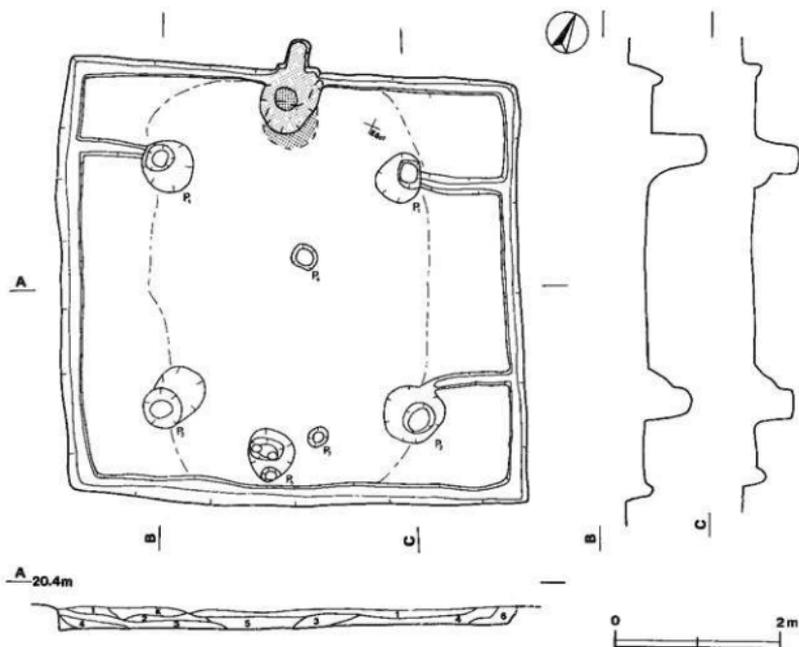
主軸方向 N-25°-W

壁 壁高は15~30cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 全周する。上幅約12~17cm、下幅約8~14cm、深さ約10cmで、断面形はU字形である。

床 平坦で、中央部は踏み固められている。北東壁から中央に向かって2条、南西壁から1条、上幅約18cm、下幅約9cm、深さ約9cm、長さ100~110cmで、断面形はU字形の溝がそれぞれ掘り込まれている。

ピット 7か所(P₁~P₇)。P₁~P₄は、径55~72cmの不整形円形、深さ45~67cmで、配置や規模から主柱穴と思われる。P₅は、径65cmの不整形円形、深さ38~42cmで、出入り口ピットと思われる。P₆、P₇は、径25~32cmの不整形円形、深さ18cmで、性格は不明である。



第454図 第193号住居跡実測図

竈 北西壁中央部に付設され、黄色味の強い粘土で構築されているが、遺存状態が悪く袖部等は残っていない。

火床部は、わずかに皿状に掘り窪められている。煙道部は、壁外へ40cm程突出し、壁の内側からゆるやかに外傾して立ち上がる。

覆土 6層からなる自然堆積である。

土層解説

- | | | |
|---|-----|----------------------------------|
| 1 | 黒色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・ローム中ブロック微量 |
| 2 | 褐色 | ローム小ブロック多量、ローム粒子中粒、ローム中ブロック少量 |
| 3 | 黒褐色 | ローム中・小ブロック多量、ローム粒子少量、ローム大ブロック微量 |
| 4 | 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム大ブロック微量 |
| 5 | 黒色 | ローム中ブロック・ローム粒子少量、ローム小ブロック微量 |
| 6 | 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム大ブロック微量 |

遺物 土師器片97点、須恵器片1点、手捏土器片1点が出土している。

所見 本跡は、出土遺物が少なくしかも細片であるため、詳細な時期は不明であるが、古墳時代の土師器変片や土師器機儀坏片等が数点出土している点や竈の存在及び遺構の形態等から、古墳時代後期(6~7世紀頃)と思われる。

第194号住居跡（第455図）

位置 調査区の中央部，E5f区。

重複関係 本跡は，第165号住居跡と第166-B号住居跡の上に床を構築していることから，第165号住居跡，第166-B号住居跡より新しい。

規模と平面形 長軸4.00m，短軸3.30mの方形である。

主軸方向 N-71°-E

壁 壁高は7cmで，外傾して立ち上がる。

床 平坦で，全体的に軟らかい。

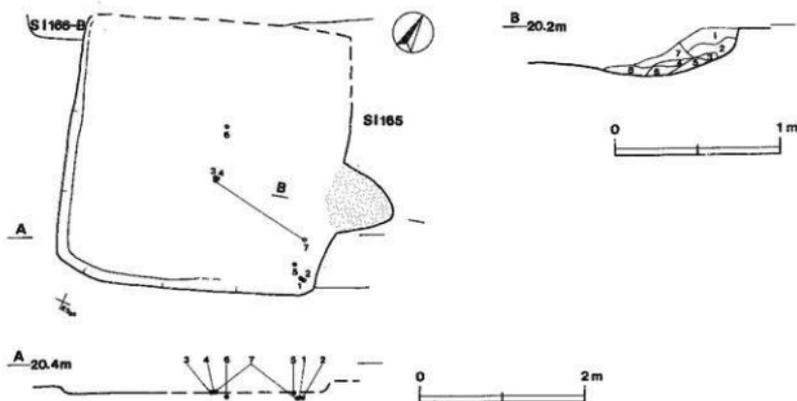
竈 北東壁中央部に付設され，山砂まじりの白色粘土で構築されているが，遺存状態が悪く袖部は残っていない。火床部は，わずかに皿状に掘り窪められている。煙道部は，壁外へ約75cm突出し，壁の内側からゆるやかに外傾して立ち上がる。

竈土層解説

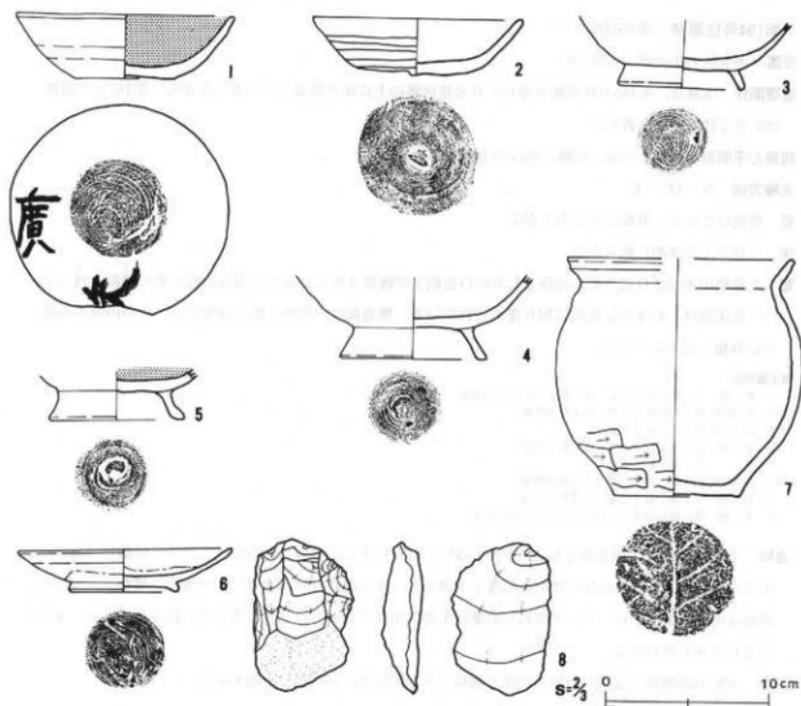
- 1 黒褐色 粘土粒中量，焼土粒中量，炭化粒少量
- 2 黒褐色 炭化粒少量，焼土粒少量
- 3 暗赤褐色 焼土粒少量
- 4 暗褐色 焼土粒中量，炭化粒少量
- 5 黒色 焼土粒中量
- 6 暗赤褐色 焼土粒中量，炭化粒少量
- 7 黒褐色 焼土粒中量，炭化粒少量
- 8 黒褐色 焼土粒・炭化粒・ローム粒少量

遺物 土師器片103点，須恵器片10点，手捏土器片1点が出土している。第456図1，2の土師器杯は東コーナー床面から，3，4の高台付杯は中央部覆土下層から，5の高台付杯は東コーナー覆土下層から，6の灰釉陶器皿は中央部床面から，7の土師器小形甕は中央部床面に散在した状態でそれぞれ出土している。8の剥片は流れ込みと思われる。

所見 本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から平安時代（10世紀）と思われる。



第455図 第194号住居跡実測図



第456図 第194号住居跡出土遺物実測図

第194号住居跡出土遺物観察表

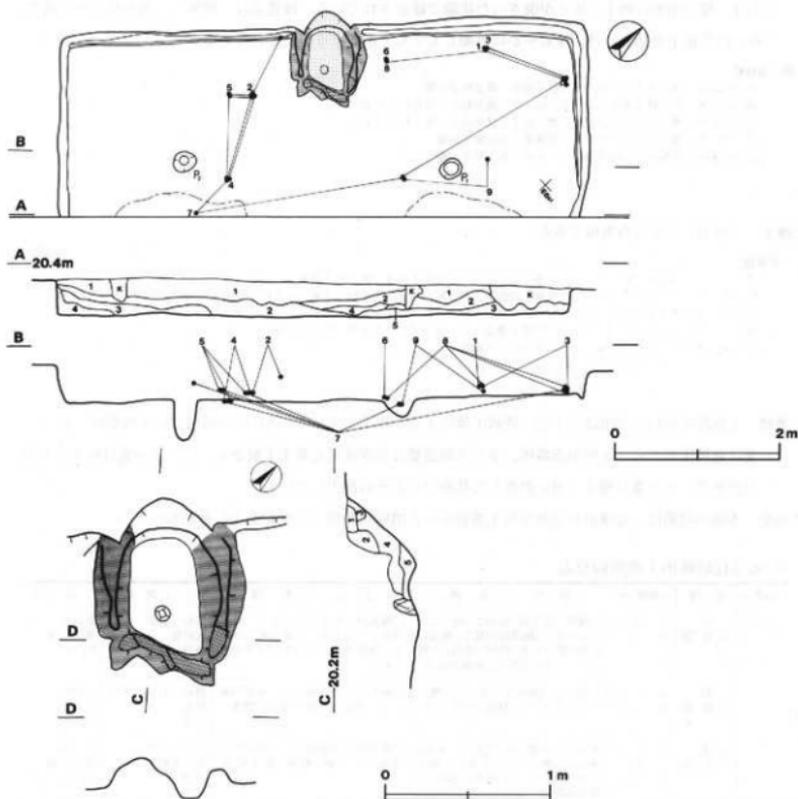
図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第456図 1	坏 土 鉢 器	A 13.2 B 3.8 C 6.0	口縁部一部欠損。平底。体部は内 彎して立ち上がり、そのまま口縁 端部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナ デ。底部回転糸切り。内面光沢の ある黒色処理。	長石・石英・雲母 鈍い黄褐色 普通	P1180 95% 床面 体部外面 黒帯「廣欠」 PL101
2	坏 土 鉢 器	A 12.7 B 3.4 C 7.6	底部から口縁部片。平底。体部は 内彎して立ち上がり、そのまま 口縁端部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナ デ。底部回転糸切り後無調整。	長石・石英 褐色 普通	P1181 70% 床面 PL101
3	高台付坏 土 鉢 器	B (4.2) D 7.4 E 1.3	高台部から体部片。「ハ」の字状 に開く高台が付く。体部は内彎し て立ち上がる。	体部内面磨き、外面ロクロナデ。 底部回転糸切り後高台貼り付け。	長石・石英・スコ リア 褐色 普通	P1182 50% 覆土下層 PL101
4	高台付坏 土 鉢 器	B (5.2) D 8.8 E 1.9	高台部から体部片。「ハ」の字状 に開く高台が付く。体部 は内彎して立ち上がる。	体部内面磨き、外面ロクロナデ。 底部切り離し後高台貼り付け。	長石・石英 褐色 普通	P1183 40% 覆土下層
5	高台付坏 土 鉢 器	B (3.0) D 8.1 E 1.8	高台部片。下位で大きく「ハ」の 字状に開く高台が付く。	底部内面へつ磨き、外面切り離し 後高台貼り付け。内面光沢のある 黒色処理。	長石・石英・スコ リア 褐色 普通	P1184 30% 覆土下層 PL101

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
6	高台付皿 灰釉陶器	A 12.5	高台部から口縁部片。突出した底部に「ハ」の字状に開く短い三日月高台が付く。体部はわずかに内彎気味立ち上がり、そのまま口縁端部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ後軸を直け掛け。回転未切り後高台貼り付け。	砂粒・長石 灰白色 普通	P1185 床面 PL101
		B 2.6				
		D 6.2				
		E 0.5				
7	小形壺 土器	A [13.7]	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。肩部をつまみ上げる。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ、外面上半ナデ、下半へウ削り。	長石・石英・実母 鈍い褐色 普通	P1186 床面
		B 14.5				
		C 7.5				

図版番号	種別	計測値					石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第457図8	銅片	4.6	3.0	1.1	-	17.3	頁岩	覆土中	Q300 PL122

第195号住居跡 (第457図)

位置 調査区の中央部, E5b区。



第457図 第195号住居跡実測図

規模と平面形 大部分がエリア外に延びており、遺存する北西壁で推定すると、一辺6.38mの方形あるいは長方形と思われる。

主軸方向 N-47°-W

壁 壁高は26~46cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 確認された壁下には、すべて取溝が巡っており、全周するものと思われる。上幅約10cm、下幅約6cm、深さ約6cmで、断面形はU字形である。

床 確認された床面は平坦で、中央部付近が踏み固められている。

ピット 2か所 (P₁, P₂)。P₁, P₂は、径25cmの不整形円形、深さ18~42cmで、配置や規模から支柱穴と思われる。

竈 北西壁中央部に付設され、凝灰岩の切石と白色粘土で構築されている。袖部先端に凝灰岩の切石を立て、その上に横に切石が渡された状態で確認されている。火床部中央には、長さ25cm程の支脚が立てられ、周囲が皿状に掘り窪められている。両袖部前20~30cm程の位置に、25~30cmの不整形円形、深さ5cmの浅いピットがあり、覆土中から焼土と灰とが混ざった状態で確認されている。煙道部は、壁外へ三角形に掘り込まれた後、白色粘土を貼り付け、ゆるやかに外傾して立ち上がるよう構築されている。

覆土層解説

- 1 明赤褐色 焼土小ブロック・粘土粒多量、焼土粒少量
- 2 暗赤褐色 粘土粒子多量、焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 3 暗赤褐色 焼土小ブロック中量、焼土粒子・炭化粒子・粘土粒少量
- 4 赤褐色 焼土小・小ブロック・灰多量、炭化粒子中量
- 5 暗赤褐色 炭化粒子・灰多量、ローム中・粘土粒子少量

覆土 5層からなる人為堆積である。

土層解説

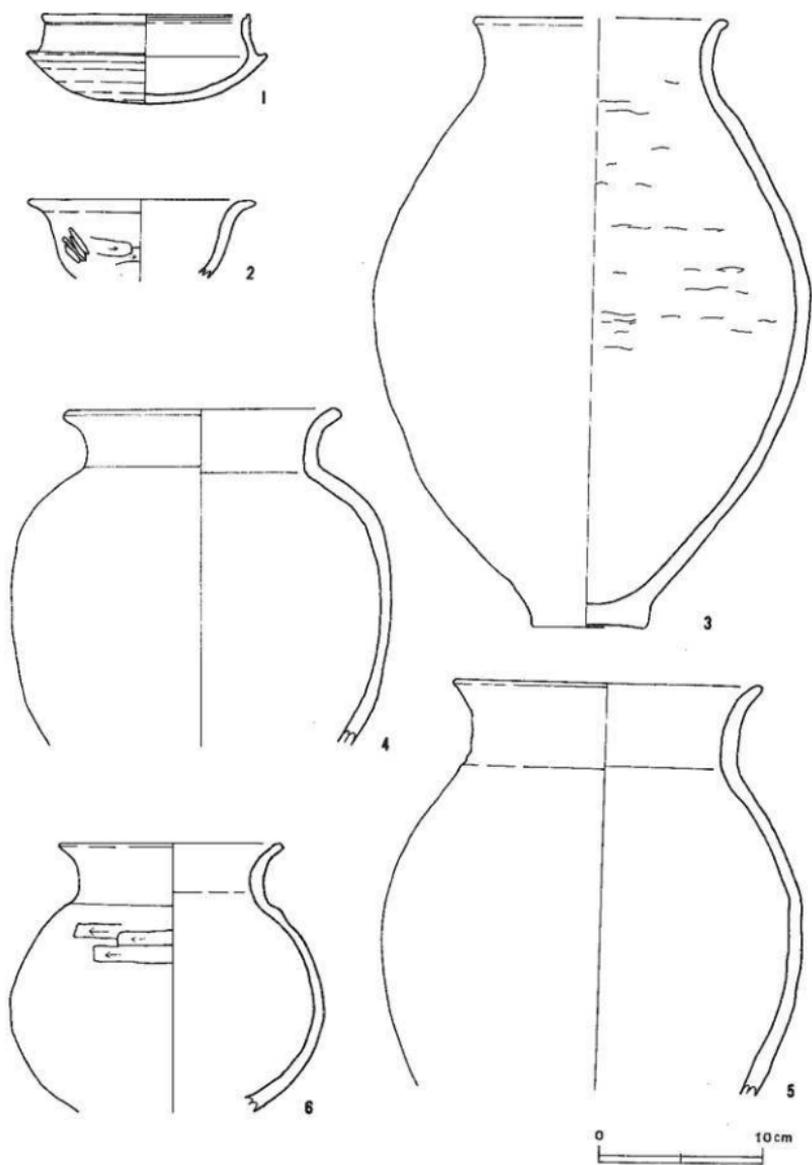
- 1 黒色 焼土小ブロック・ローム小ブロック・ローム粒少量、焼土粒微量
- 2 暗褐色 ローム中・小ブロック多量、炭化物・粘土粒中量、炭化粒子少量、焼土粒微量
- 3 暗褐色 炭土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒少量
- 4 褐色 ローム小ブロック・ローム粒多量、ローム中ブロック中量、黒色土少量
- 5 黒褐色 ローム粒少量、ローム小ブロック微量

遺物 土師器片331点、須恵器片10点、管状土錘片1点が出土している。第458・459図2の土師器鉢、4, 5, 6の甕は竈横床面から、1の須恵器杯、3の土師器甕は北西壁付近覆土下層から、7, 9の甕は床面から散在した状態で、8の甕は覆土下層に散在した状態でそれぞれ出土している。

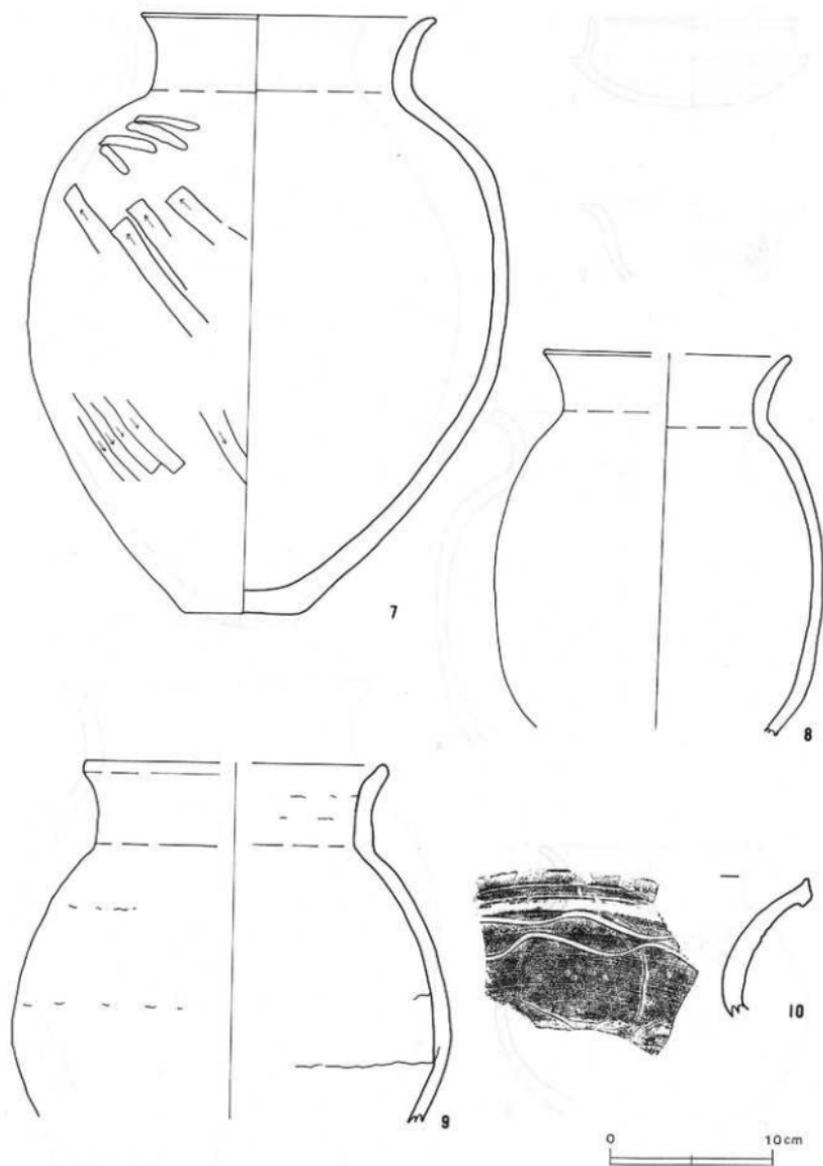
所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から古墳時代後期（6世紀前半）と思われる。

第195号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第458図 1	杯 須恵器	A 12.6	口縁部一部欠損、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は内傾し、端部に沈線が施される。外面に突出した稜を持つ。口縁部底下に沈線が通る。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部内面ロクロナデ、外面四角ヘラ削り。体部内面に、仕上げナゲが施される。	長石・石英 灰白色 普通	P1188 95% 覆土下層 PL102
		B 5.5				
2	鉢 土師器	A 13.8	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナゲ、外面ヘラ削り後ヘラ磨き。	長石・石英・雲母 褐色 普通	P1187 50% 床面 PL102
		B (4.9)				
3	甕 土師器	A [15.1]	底部から口縁部片。突出した平底。体部は内彎して立ち上がり、最大径を中央に持つ。口縁部は外反し、箱部は肥厚する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナゲ、内面に輪轆み底を残す。	長石・石英 鈍い青褐色 普通	P1189 70% 覆土下層 PL101
		B 37.3				
		C 6.9				



第458图 第195号住居跡出土遺物実測図(1)



第459图 第195号住居跡出土遺物実測図(2)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
4	甕 土師器	A 15.5 B (20.6)	体部から口縁部片。体部は球形状で、口縁部は「コ」の字状に外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・石英・砂粒 鈍い赤褐色 普通	P1190 40% 床面 PL102
5	甕 土師器	A 18.4 B (25.1)	体部から口縁部片。体部は内湾して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・石英 藍色 普通	P1191 40% 床面 PL102
6	甕 土師器	A 13.3 B (16.5)	体部から口縁部片。体部は内湾して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ、外面ヘラ削り。	長石・石英・雲母 鈍い褐色 普通	P1192 50% 床面 PL101
第459図 7	甕 土師器	A 18.0 B 36.7 C 7.0	体部から口縁部片。体部は内湾して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ、外面ヘラ削り・部ヘラ磨き。	長石・スコリア・ パミス 明赤褐色 普通	P1193 50% 床面 PL101
8	甕 土師器	A [15.0] B (23.1)	体部から口縁部片。体部は内湾気味に直線的に立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ、外面ヘラ削り。	長石・石英・雲母 鈍い黄褐色 普通	P1194 30% 覆上下面 PL102
9	甕 土師器	A 18.3 B (21.8)	体部から口縁部片。体部は内湾して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。体部内・外面に輪積み痕を残す。	長石・雲母・石英・ パミス 淡黄褐色 普通	P1195 20% 床面

第459図10は須恵器甕I口縁部片で、内面に自然釉が残り、外面に波状沈線が2条通っている。

第196号住居跡 (第460図)

位置 調査区の中央部、D6j₁区。

重複関係 本跡は、北部を第197号住居跡に掘り込まれていることから、第197号住居跡よりも古い。

規模と平面形 完全に遺存する一辺がないため確定はできないが、一辺5.95m程の方形あるいは長方形と思われる。

主軸方向 N-32°-W

壁 壁高は40~45cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 確認された壁下には、すべて壁溝が巡っており、全周するものと思われる。上幅約12cm、下幅約6cm、深さ約4cmで、断面形はU字形である。

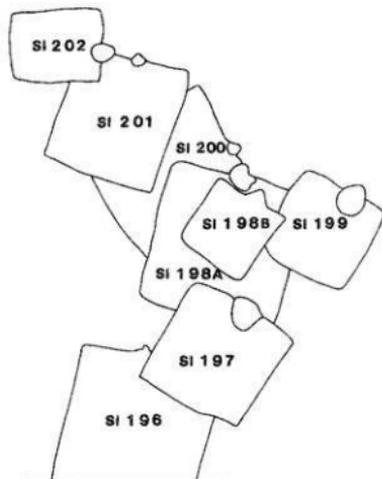
床 平坦で、入り口部から中央部にかけて踏み固められている。

ピット 3か所(P₁-P₃)。P₁、P₂は、径58~68cmの不整形円形、深さ42~54cmで、配置や規模から主柱穴と思われる。P₃は、径68cmの不整形円形、深さ37cmで、出入り口ピットと思われる。

竈 北西壁中央部に付設され、山砂混じりの粘土で構築されているが、第197号住居跡に右袖を掘り込まれ、粘土も崩落後周囲に流れ出してしまう形状は不明である。火床部は、わずかに皿状に掘り窪められており、その火床面下には径70cmの円形、深さ45cmの掘り込みが見られ、覆土中には灰及び焼上の混じったものが確認されている。煙道部は、壁外へ40cm程突出し、壁の内側からゆるやかに外傾して立ち上がる。

覆土層解説

- 1 黄褐色 粘土粒子多量、焼土中ブロック中量、焼土小ブロック少量
- 2 鈍い赤褐色 焼土粒子・灰多量、焼土小ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量
- 3 暗褐色 焼土中ブロック・ローム小ブロック少量

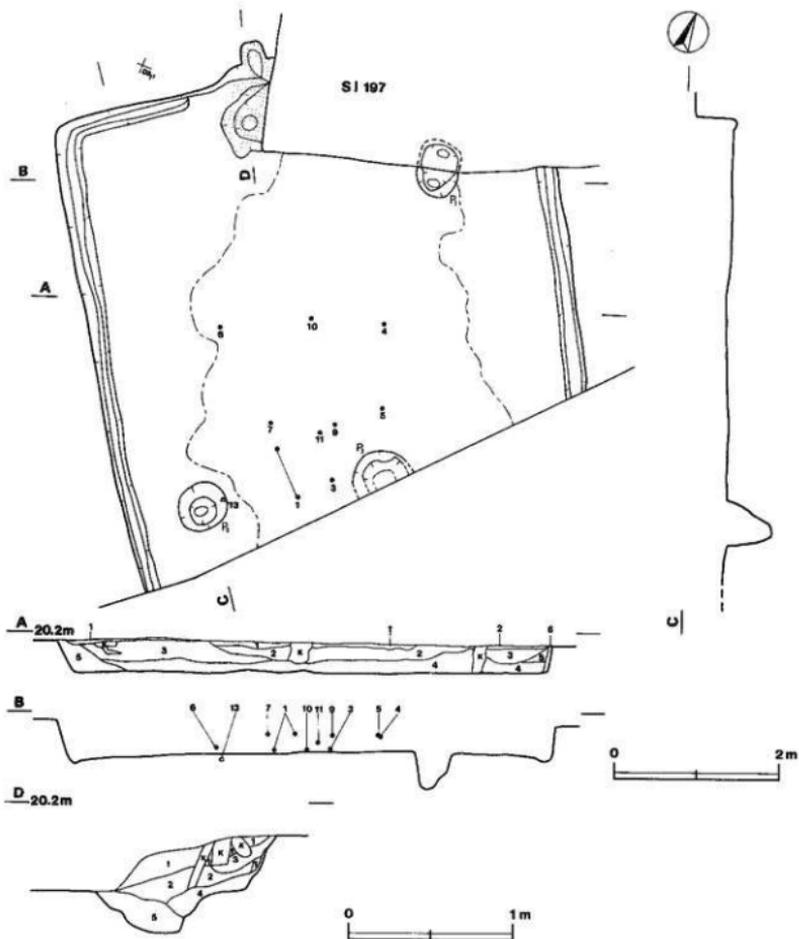


- 4 鈍い褐色 粘土粒子多量、焼土小ブロック・灰少量
 5 褐色 焼土中ブロック中量、焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子・ローム中ブロック・灰・粘土小ブロック少量

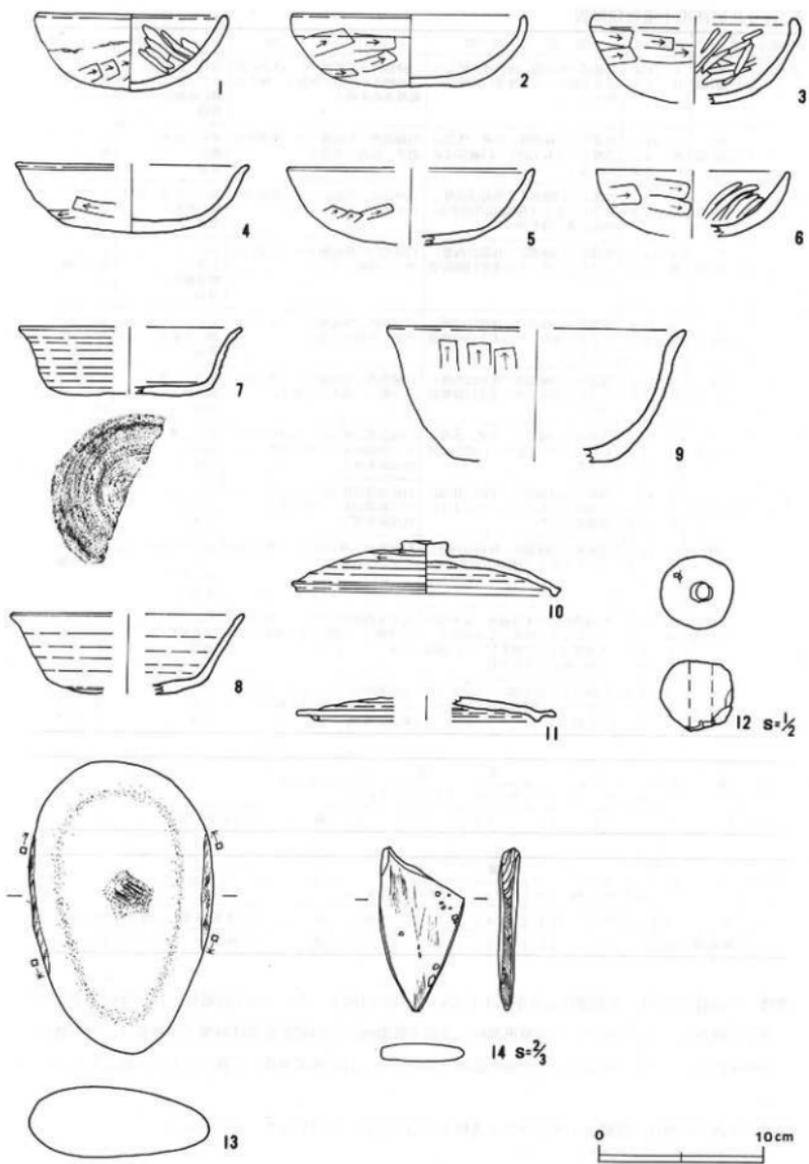
覆土 6層からなる自然堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子微量
 2 褐色 ローム小ブロック多量、炭化粒子・粘土粒子少量、焼土小ブロック・ローム中ブロック微量
 3 黒褐色 ローム中ブロック・ローム粒子中量、焼土小ブロック・焼土粒子少量
 4 黒暗褐色 炭化粒子多量、ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土中ブロック・焼土粒子中量
 5 黒色 焼土小ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
 6 灰褐色 炭化粒子・ローム中ブロック・ローム粒子微量



第460図 第196号住居跡実測図



第461图 第196号住居跡出土遺物実測図

第196号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第161図 1	土師器 土師器	A 11.4	口縁部一次凹。体部は内壁して立ち上がり、そのまま口縁端部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き、外側ヘラ磨り。外面に輪模み痕を残す。	長石・石英・スクリア・輝 鈍い赤褐色 普通	P1196 98% 覆土下層 PL102
		B 4.6				
		C 6.6				
2	環 土師器	A 14.0	底部から口縁部片。平底。体部は内壁して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面磨き、外面ヘラ磨り。	長石・石英 灰色 普通	P1197 60% 覆土中層 PL102
		B 4.3				
		C 6.6				
3	環 土師器	A 12.1	体部から口縁部片。体部は内壁して立ち上がり、口縁部は内傾する。外面に鈍い痕を打つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き、外面ヘラ磨り。	長石・石英・雲母 鈍い褐色 普通	P1198 50% 覆土下層 PL102
		B 5.3				
4	環 土師器	A 14.0	体部から口縁部片。体部は内壁して立ち上がり、そのまま口縁端部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ、外面ヘラ磨り。	長石・スクリア・ 石英 明赤褐色 普通	P1199 40% 覆土中層 PL102
		B 4.2				
5	環 土師器	A 14.8	体部から口縁部片。体部は内壁して立ち上がり、そのまま口縁端部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ、外面ヘラ磨り。	石英・スクリア 鈍い赤褐色 普通	P1200 30% 覆土中層 PL102
		B 4.7				
6	環 土師器	A 11.8	体部から口縁部片。体部は内壁して立ち上がり、そのまま口縁端部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き、外側ヘラ磨り。	長石・石英 鈍い褐色 普通	P1201 30% 覆土下層 PL102
		B 4.0				
7	須恵器 須恵器	A 13.4	底部から口縁部片。平底。体部は底面的に立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部同様にヘラ磨り調整。二次底面を残す。	長石・輝 灰青色 良好	P1202 30% 床面 PL102
		B 4.2				
		C 8.2				
8	環 須恵器	A 14.0	底部から口縁部片。平底。体部は底面的に立ち上がり、そのまま口縁端部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部同様にヘラ磨り調整。二次底面を残す。	雲母・長石・石英 灰白色 普通	P1203 20% 覆土中層
		B 4.9				
		C 6.9				
9	土師器 土師器	A 18.2	体部から口縁部片。体部は内壁して立ち上がり、口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ、外面ヘラ磨り。	長石・雲母・スクリア 鈍い褐色 普通	P1204 20% 覆土中層
		B 8.2				
		C 9.0				
10	須恵器 須恵器	A 15.8	口縁部からつまみ部片。中央部が円んだボタン状のつまみが付く。天井部はドーム状を呈し、口縁部内側に凹みかえりが付く。	天井部内面ロクロナデ。外面同様にヘラ磨り。口縁部内・外面ロクロナデ。	長石・雲母・バミス 灰黄色 普通	P1205 70% 覆土下層 PL102
		B 3.2				
		F 2.8				
		G 0.7				
11	土師器 土師器	A 15.8	口縁部から天井部片。天井部は凹みを呈し、口縁部内側に凹みかえりが付く。	天井部内面ロクロナデ。外面ヘラ磨り。口縁部内・外面横ナデ。内面黒色処理。	長石・雲母 灰色 普通	P1207 30% 覆土中層 PL102
		B 1.3				

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)		
第161図	土	2.9	3.0	2.9	0.85	23.0	覆土中 DP131 PL115

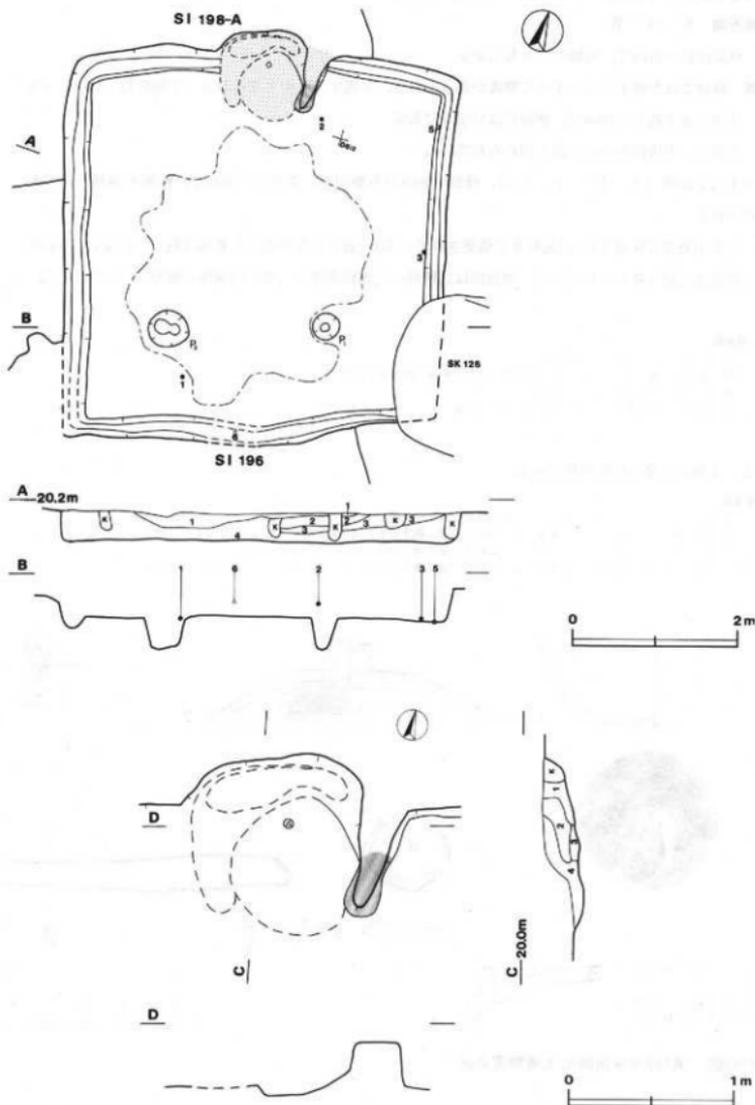
図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)		
第161図	土	17.8	11.1	4.2	-	1261.0	安山岩 南西壁床面 Q301 PL115
14	刺形模造品	(3.0)	2.6	0.5	-	(9.2)	滑石 覆土中 Q302 PL119

遺物 土師器片606点、須恵器片33点が出土している。第161図1, 3, 6の土師器環, 10の須恵器蓋は中央部覆土下層から、4, 5の環, 7の須恵器環, 9の土師器碗, 11の須恵器蓋は同覆土中層から、13の礫石は南西壁床面から、2の土師器環, 8の須恵器環, 12の上下, 14の刺形模造品は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は、遺物の形態及び出土遺物から奈良時代(8世紀前半)と思われる。

第197号住居跡 (第462図)

位置 調査区の北東部, D6ii区。



第462図 第197号住居跡実測図

重複関係 本跡は、第198-A号住居跡と第196号住居跡を掘り込んでおり、南東部を第126号土坑に掘り込まれていることから、第196号住居跡及び第198-A号住居跡より新しく、第126号土坑よりも古い。

規模と平面形 長軸4.74m、短軸4.71mの方形である。

主軸方向 N-13°-W

壁 壁高は21~31cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 確認された壁下には、すべて壁溝が通っており、全周するものと思われる。上幅約13~19cm、下幅約7~10cm、深さ約6~10cmで、断面形はU字形である。

床 平坦で、中央部を中心に踏み固められている。

ピット 2か所 (P₁、P₂)。P₁、P₂は、径23~49cmの不整形円形、深さ35~36cmで、配置や規模から主柱穴と思われる。

竈 北壁中央部に付設され、白色粘土で構築されているが、遺存状態が悪く左袖部は残っていない。火床部は、5cm程皿状に掘り窪められている。煙道部は、壁外へ30cm程突出し、壁の内側から緩やかに立ち上がる。

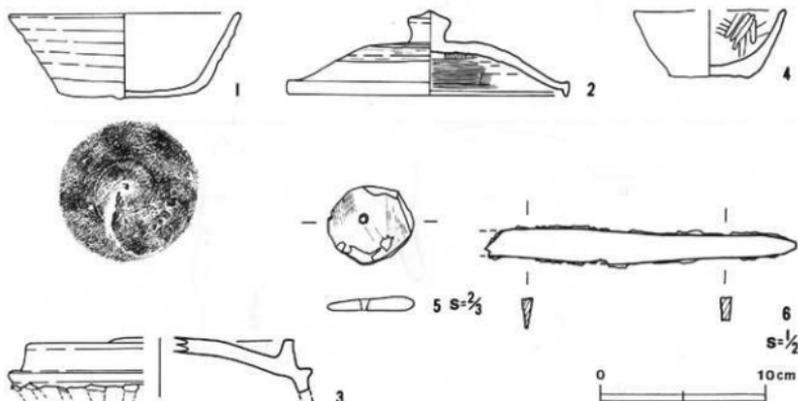
竈土層解説

- 1 黒褐色 ローム大ブロック中量
- 2 暗褐色 焼土大・中ブロック・粘土中ブロック中量、焼土粒子少量
- 3 黄褐色 ローム小ブロック少量
- 4 暗褐色 焼土中ブロック・粘土大ブロック中量

覆土 4層からなる自然堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック多量、ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック中量、ローム粒子少量、焼土粒子・ローム中ブロック微量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック多量、ローム粒子中量、焼土大ブロック・焼土粒子・ローム中ブロック微量



第463図 第197号住居跡出土遺物実測図

第197号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第463図 1	須臾器 環	A 13.9	底部から口縁部片。体部は直線的に立ち上がり、そのまま口縁端部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後ナデ調整。	長石・バミス・針状鉄鉱物 赤灰色 普通	P1208 覆土下層
		B 5.2				
		C 7.5				
2	蓋 須臾器	A 16.8	口縁部からつまみ部片。定球形のつまみが付く。天井部は方形で、口縁端部を短く折り返す。	天井部内面ロクロナデ、外面回転ヘラ削り。口縁部内・外面ロクロナデ。	雲母・バミス・石英 鈍い褐色 普通	P1209 覆土上層 PL102
		B 5.0				
		F 2.5				
		G 1.7				
3	円面碗 須臾器	A [18.5]	碗部片。碗部外端部に一条の凸帯を高さし、前面に降帯が彫り付けられる。	碗面ヘラナデ。碗部横ナデ。	長石 黄灰色 普通	P1210 覆土下層 PL102
		B (3.4)				
4	手捏土器 上部器	A [9.0]	底部から口縁部片。平底。体部は内側気味に外傾して立ち上がり、そのまま口縁端部に至る。	口縁部及び体部内面ヘラ磨き、外面ナデ。体部外面に指摺圧痕を残す。	長石・石英・スコリア・バミス 明赤褐色 普通	P1211 覆土中
		B 5.1				
		C 4.9				

図版番号	種別	計測値					石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第463図5	有孔円板	2.3	2.6	0.4	0.2	3.9	滑石	北東コーナー付近層	Q303 PL119

図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第463図6	刀	(12.6)	1.7	0.5	—	(23.1)	南壁付近覆土層	M84

遺物 土師器片305点、須臾器片35点、鉄滓片1点が出土している。第463図1の須臾器環は南壁付近覆土下層から、6の刀は同覆土上層から、2の蓋は竈前覆土上層から、3の円面碗は東壁付近覆土下層から、5の有孔円板は北東コーナー付近覆土下層から、4の手捏土器は覆土中からそれぞれ出土している。5の有孔円板は流れ込みと思われる。

所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から平安時代（8世紀後半）と思われる。

第198-A号住居跡（第464図）

位置 調査区の北東部、D6h区。

重複関係 本跡は、第200号住居跡を掘り込み、第197号住居跡、第198-B号住居跡及び第199号住居跡の3軒に掘り込まれていることから、第200号住居跡より新しく、第197、198-B、199号住居跡のいずれよりも古い。

規模と平面形 長軸6.08m、短軸5.92mの方形である。

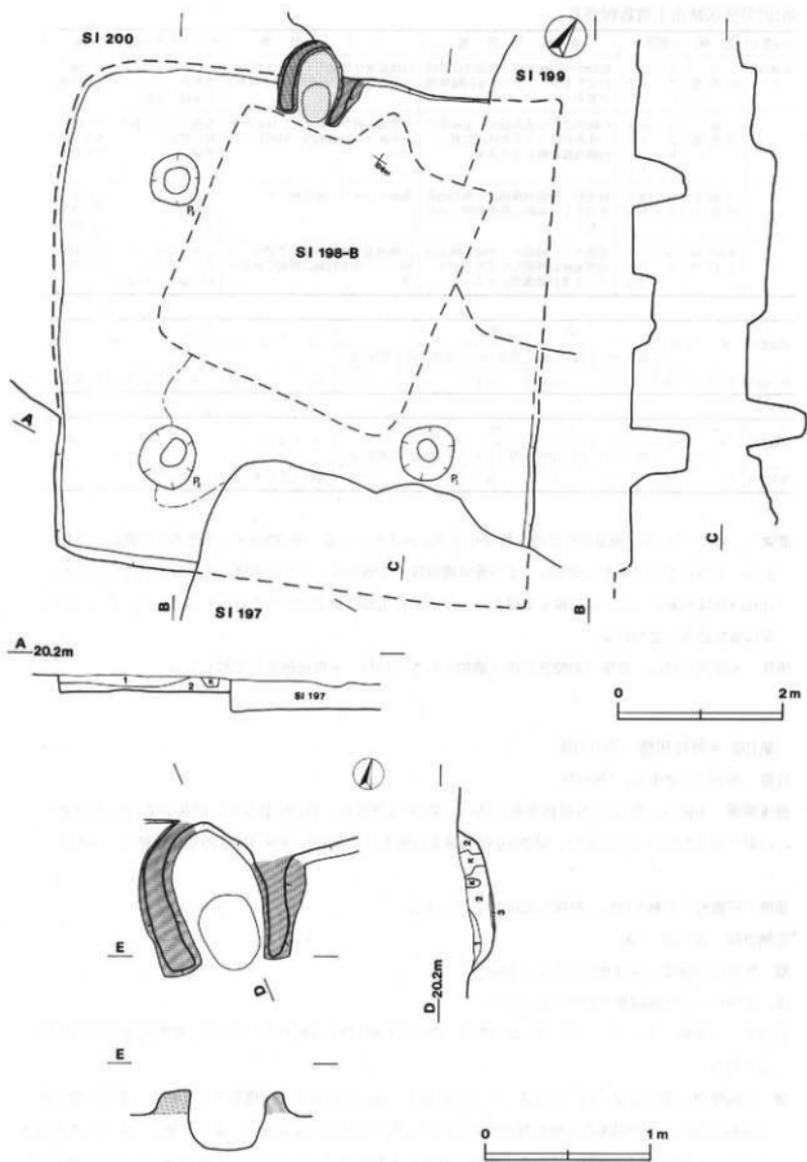
主軸方向 N-28°-W

壁 壁高は20cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

床 平坦で、中央部は踏み固められている。

ピット 3か所（P₁～P₃）。P₁～P₃は、径62～72cmの不整形円形、深さ60～72cmで、配置や規模から主柱穴と思われる。

竈 北西壁中央部に付設され、山砂まじりの白色粘土と凝灰岩の切石とで構築されている。袖部先端に凝灰岩の切石があり、その周囲から煙道部の内側にかけて粘土が見られる程度で、焼土も極めて少なく遺存状態はよくない。中央部に、面取りされた六角柱の凝灰岩支脚が設けられている。火床部は、わずかに皿状に掘り窪められている。煙道部は、壁外へ40cm程突出し、壁の内側からゆるやかに外傾して立ち上がる。



第464图 第198-A号住居跡実測图

覆土层解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、炭十小ブロック・炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 2 暗褐色 ローム中ブロック多量、ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒子・灰少量
- 3 赤褐色 炭十小ブロック・焼土粒多量、炭化粒了・灰少量

覆土 2層からなる自然堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子
- 2 黒褐色 ローム大ブロック・ローム粒子少量

遺物 土師器片46点、須志器片2点、支脚片1点、管状土錫片1点が出土している。

所見 本跡の時期は、出土遺物が少なくしかも細片である上に、すべて覆土中からの出土のため、詳細は不明であるが、第199と第200号住居跡との重複関係から古墳時代後期（6～7世紀頃）と思われる。

第199-B号住居跡（第465図）

位置 調査区の北東部、D6h₁区。

重複関係 本跡は、第198-A号住居跡と第199号住居跡とを掘り込んでいることから、河遺構よりも新しい。

規模と平面形 長軸3.20m、短軸3.07mの方形である。

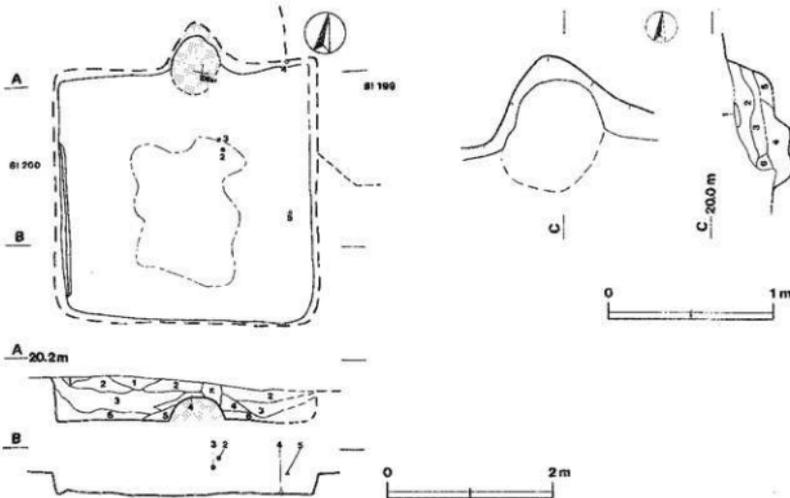
主軸方向 N-8°-W

壁 壁高は21cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 確認された壁下のうち、西壁にのみ壁溝が認められる。上幅約8cm、下幅約5cm、深さ約4cmで、断面形はU字形である。

床 平坦で、中央部は踏み固められている。

ピット 確認されていない。



第465図 第199-B号住居跡実測図

竈 北壁中央部に付設され、砂粒まじりの白色粘土で構築されているが、遺存状態が悪く袖部は残っていない。火床部中央やや壁寄りに、20cm程の凝灰岩の支脚が10cm程埋め込まれ、立位の状態で確認されている。火床部の掘り込みは、ほとんど見られない。煙道部は、45cm壁外へ突出し、壁の内側からゆるやかに外傾して立ち上がる。

竈土層解説

- 1 鈍い黄褐色 粘土粒子・粘土大ブロック多量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック少量、焼土中・小ブロック・ローム中ブロック・粘土小ブロック微量
- 3 鈍い黄褐色 粘土粒子多量、焼土粒子少量、焼土小ブロック微量
- 4 黒褐色 焼土粒子少量、ローム小ブロック・粘土小ブロック微量
- 5 暗赤褐色 焼土小ブロック・ローム小ブロック中量、焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量
- 6 明褐色 粘土大ブロック少量

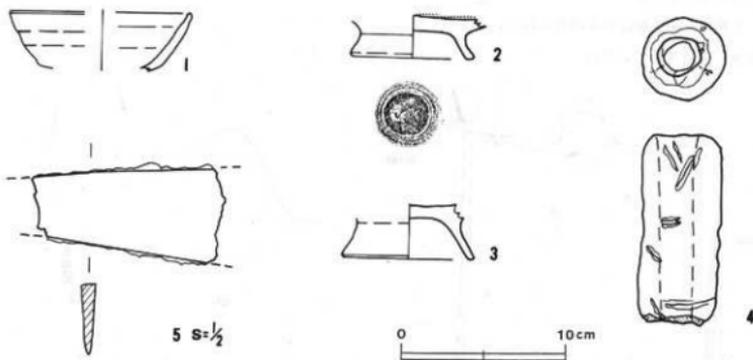
覆土 6層からなる自然堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・ローム大ブロック微量
- 2 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子・ローム中ブロック少量
- 3 暗褐色 焼土粒子・ローム中・小ブロック・粘土粒子少量
- 4 鈍い黄褐色 焼土粒子・粘土粒子多量、炭化粒子少量、ローム小ブロック少量
- 5 暗赤褐色 焼土粒子多量、焼土中ブロック・粘土粒子中量、ローム中ブロック少量
- 6 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量、ローム中ブロック少量

遺物 土師器片43点、磁器片1点が出土している。第466図2、3の土師器高台付坏は竈前覆土上層から、1の須恵器坏は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は、出土遺物が少なくしかも細片であるため、詳細は不明であるが、遺構の形態及び出土遺物から平安時代（10世紀頃）と思われる。



第466図 第198-B号住居跡出土遺物実測図

第198-B号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第466図 1	坏 須恵器	A [11.0] B (3.5)	体部片。体部は直線的に立ち上がり、そのまま口縁端に至る。	口縁部及び体部内・外面口クロナデ。	石英・長石 灰色 普通	P1214 10% 覆土中
2	高台付坏 土師器	B (2.7) D 7.1 E 1.3	高台部片。「ハ」の字状に開く高台が付く。	底部切り離し後高台貼り付け。内面黒色処理。	長石・石英・パミス 褐色 普通	P1215 20% 覆土上層

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
3	高台付坏 須恵器	B (3.3) D 8.0 E 2.4	高台部分。「ハ」の字状に開く足 の長い高台が付く。	底部切り離し後高台貼り付け。高 台部ロクロナデ。	長石 明褐色 普通	P1216 覆土上層 PL102 20%

図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第468図4	管状土錘	11.7	5.0	5.1	1.7	308.8	東壁付近層土層	DP132

図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第468図5	錘	(7.9)	4.2	0.5	-	(30.1)	東壁付近層土層	M85 PL123

第199号住居跡 (第467図)

位置 調査区の北東部, D6g区。

重複関係 本跡は, 第198-A号住居跡の北東部を掘り込んでおり, 南西部を第198-B号住居跡に掘り込まれていることから, 第198-A号住居跡より新しく, 第198-B号住居跡よりも古い。

規模と平面形 長軸4.05m, 短軸3.90mの方形である。

主軸方向 N-20°-W

壁 壁高は52cmで, 外傾して立ち上がる。

壁溝 確認された壁下のうち, 東壁に壁溝が認められている。上幅約16cm, 下幅約8cm, 深さ約4cmで, 断面形はU字形である。

床 平坦で, 入り口部周囲が部分的に踏み固められている。

竈 北壁中央部に付設され, 凝灰岩と砂粒まじりの白色粘土とで構築されている。袖部と焚き口部上位に使用されたと思われる凝灰岩の切石が, 崩れた状態で確認されている。火床部は, 5cm程皿状に掘り窪められている。煙道部は, 壁外へ50cm程突出し, 壁の内側から緩やかに外傾して立ち上がる。

出土層解説

- 1 オリーブ褐色 黒色土粒少量
- 2 黒褐色 粘土粒少量, 焼土粒・ローム粒少量
- 3 黄褐色 ローム小ブロック・ローム粒少量, 炭化粒少量
- 4 黒褐色 ローム粒少量
- 5 暗褐色 焼土粒少量, 炭化粒少量
- 6 褐色 黒色土粒少量
- 7 オリーブ褐色 ローム小ブロック少量
- 8 黒褐色 焼土粒・ローム粒少量

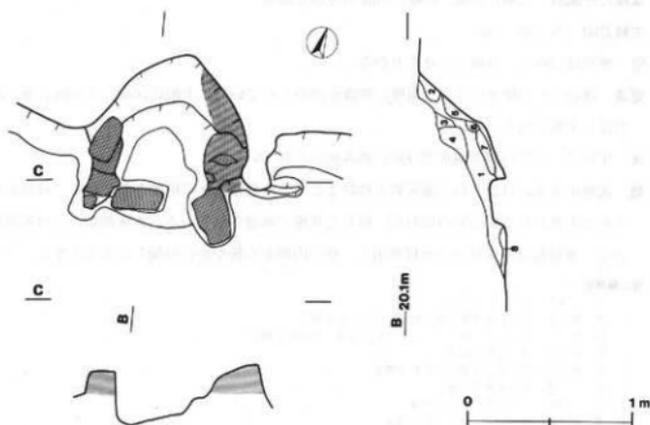
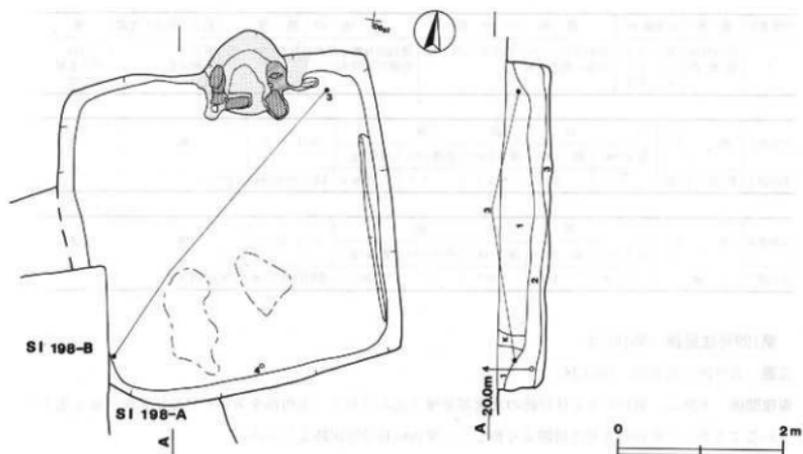
覆土 3層からなる自然堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック中量, ローム粒少量, 炭化粒・ローム中ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック多量, ローム粒少量, 炭化粒・ローム中ブロック微量
- 3 褐色 ローム小ブロック・ローム粒多量, 粘土中ブロック微量

遺物 土師器片322点, 須恵器片28点が出土している。第468図3の土師器蓋は覆土中層に散在した状態で, 4の管状土錘は南壁付近床面から, 1の須恵器坏, 2の須恵器高台付坏は覆土中からそれぞれ出土している。

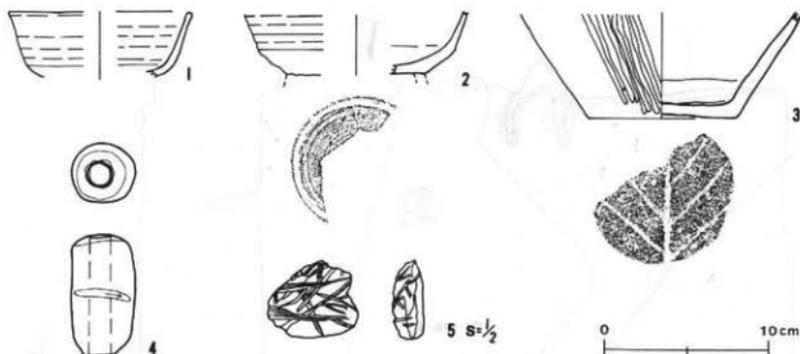
所見 本跡の時期は, 遺構の形態及び出土遺物から奈良時代(8世紀後半)と思われる。



第467図 第199号住居跡実測図

第199号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第468図 1	坏 須 器	A [11.0] B (4.0)	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に立ち上がり、そのまま口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後ナデ調整。	長石・石英・スコリア 黄褐色 普通	P 1217 覆土中 20%
2	高台付坏 須 器	B (3.7)	高台部欠損。体部片。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は外傾する。外面に鋭い稜を持つ。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。	長石・石英・雲母 灰黄褐色 普通	P 1218 覆土中 PL102 30%
3	壺 土 師 器	B (6.5) C 9.0	底部から体部片。平底。体部は直線的に立ち上がる。	体部内面ナデ、外面縦位のヘラ磨き、内面に輪積み痕を残す。	長石・石英 明赤褐色 普通	P 1219 覆土中層 PL102 15%



第468図 第199号住居跡出土遺物実測図

図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)		
第468図4	管状土鉢	7.4	3.9	—	1.3	101.7	南壁付近床面	DP133
5	不明土製品	(3.1)	(3.7)	1.2	—	(12.1)	覆土中	DP134

第200号住居跡 (第469図)

位置 調査区の中央部, D5h区。

重複関係 本跡は, 第198-A号住居跡と第201号住居跡とに掘り込まれていることから, 両遺構よりも古い。

規模と平面形 完全に遺存する一辺がないため, 北壁と南壁とで推定すると, 一辺5.75mの方形あるいは長方形と思われる。

主軸方向 N-18°-E

壁 壁高は22~25cmで, 外傾して立ち上がる。

床 平坦で, 中央部は踏み固められている。

ピット 3か所 (P₁~P₃)。P₁~P₃は, 径28~43cmの不整形円形, 深さ58~83cmで, 配置や規模から主柱穴と思われる。

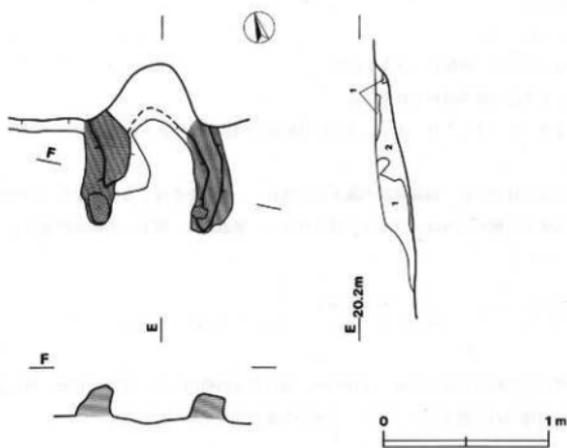
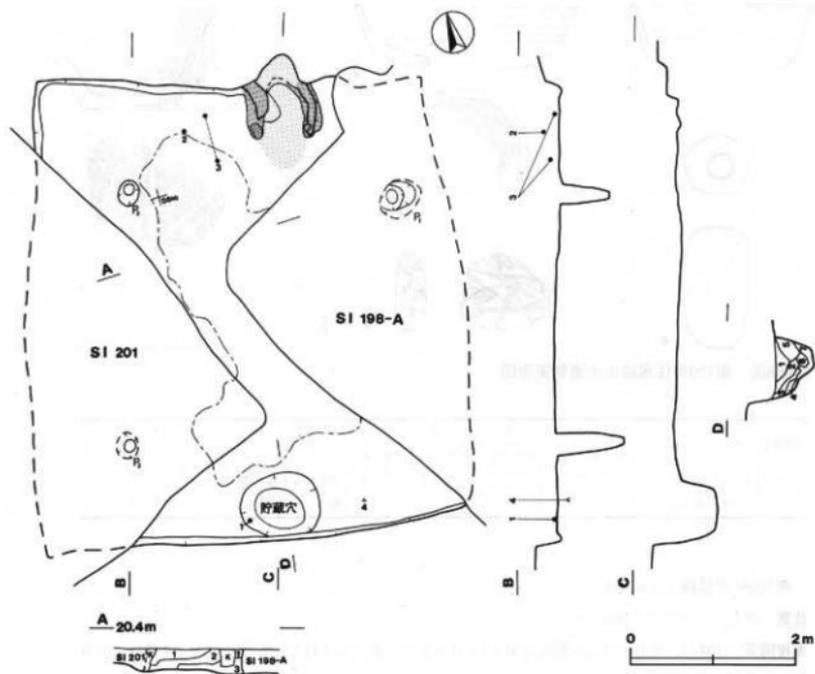
竈 北壁中央部に付設され, 袖部先端の凝灰岩の切石と, 袖部を形成する砂粒まじりの白色粘土とで構築されている。火床部の掘り込みは, ほとんど見られない。煙道部は, 壁外への40cm程突出し, 壁の内側から急に立ち上がっている。

竈土層解説

- 1 黒色 焼土小ブロック・ローム小ブロック微量
- 2 暗褐色 焼土大ブロック多量, 焼土中・小ブロック・炭化粒子・灰少量

貯蔵穴 南壁中央部付近に付設され, 長径95cm, 短径75cmの楕円形で, 深さは45cm, 断面形はU字形である。

覆土下層から竈切石と焼土ブロックが, 上層から瓦片等が出土している。



第469图 第200号住居跡实测图

貯蔵穴土層解説

- 1 黒 褐色 ローム小ブロック・ローム粒了少量、焼土小ブロック微量
- 2 黒 褐色 ローム粒子・粘土粒子少量、焼土小ブロック微量
- 3 黒 褐色 ローム粒子微量
- 4 黒 褐色 ローム粒了・粘土粒子少量
- 5 黒 褐色 ローム小ブロック少量、ローム大ブロック微量
- 6 黒 褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量、ローム大ブロック微量
- 7 赤 褐色 焼土中ブロック・焼土粒子多量、粘土粒了少量

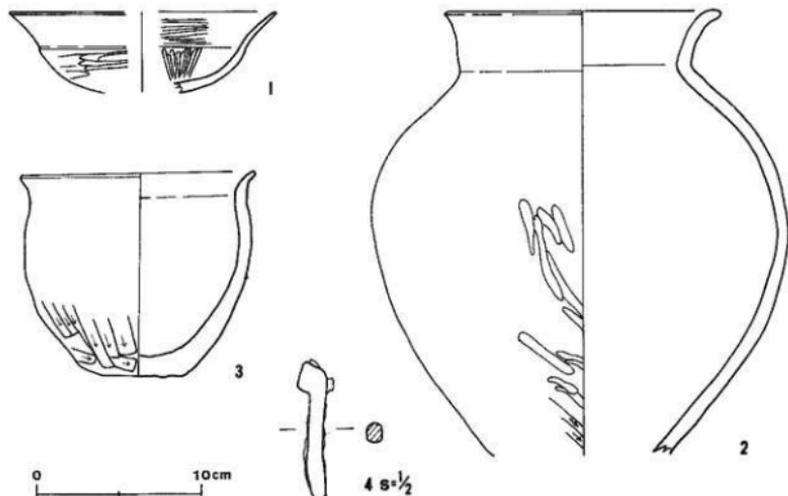
覆土 3層からなる自然堆積である。

土層解説

- 1 黒 褐色 ローム粒子少量、焼土粒了・ローム小ブロック微量
- 2 暗 褐色 ローム粒子中量、焼土小ブロック・炭化粒子・ローム中ブロック微量
- 3 黒 褐色 ローム粒了中量、ローム中・小ブロック・焼土粒了少量、炭化粒子微量

遺物 土師器片309点、須臾器片7点、縄文土器片1点が出土している。第470図1の土師器器坏は南壁付近床面から、2の甕は竈覆土中層から横位の状態、3の小形甕は同床面、4の不明鉄製品は南壁付近覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 木跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から古墳時代後期（6世紀前半）と思われる。



第470図 第200号住居跡出土遺物実測図

第200号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第470図 1	坏 土師器	A 16.2 B (4.9)	底部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内面へラ磨き、外面横ナデ。体部内面放射状のへラ磨き、外面へラ削り後へラ磨き。	長石・雲母 明赤褐色 普通	P1220 30% 床面 PL102
2	甕 土師器	A 16.6 B (27.1)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ、外面へラ削り後へラ磨き。	長石・石英・雲母 鈍い橙色 普通	P1221 60% 覆土中層 PL102

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・施成	備考
3	小形 土師器	A 14.0 B 12.3 C 5.5	底部から口縁部片。平式。体部は内唇気味に立ち上がり、口縁部は無く外反する。	口縁部内・外向折ナデ。体部内面ナデ。外面ヘラ刮り。	裸・長石・石英 鈍い橙色 普通	P1222 80% 床面 PL102

図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第17図4	不明鉄製品	(5.7)	(1.5)	0.8	-	(7.8)	重慶付近遺上下層	M86

第201号住居跡（第471図）

位置 調査区の北東部、D5h₃区。

重複関係 本跡は、第200号住居跡の南西部を掘り込んでおり、北西部を第202号住居跡に掘り込まれていることから、第200号住居跡より新しく、第202号住居跡よりも古い。

規模と平面形 長軸4.72m、短軸4.67mの方形である。

主軸方向 N-28°-W

壁 壁高は22~25cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 確認された壁下には、すべて壁溝が巡っており、全周するものと思われる。上幅約8~12cm、下幅約4~5cm、深さ約5~6cmで、断面形はJ字形である。

床 平坦で、中央部は踏み固められている。

ピット 3か所（P₁~P₃）。P₁~P₃は、径26~46cmの不整形円形、深さ49~57cmで、配置や規模から主柱穴と思われる。

竈 北西壁中央部に付設され、白色粘土と凝灰岩の切り石で構築されているが、遺存状態が悪く両袖部とも残っていない。火床部は、皿状に8cm程掘り窪められている。煙道部は、壁外へ25cm程突出し、壁の内側からゆるやかに外傾して立ち上がる。

瓦土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子少量、焼土小ブロック微量
- 2 明赤褐色 粘土大ブロック・粘土粒子多量
- 3 暗赤色 粘土小ブロック・粘土粒子多量、灰少量、炭化粒子微量

覆土 4層からなる自然堆積である。

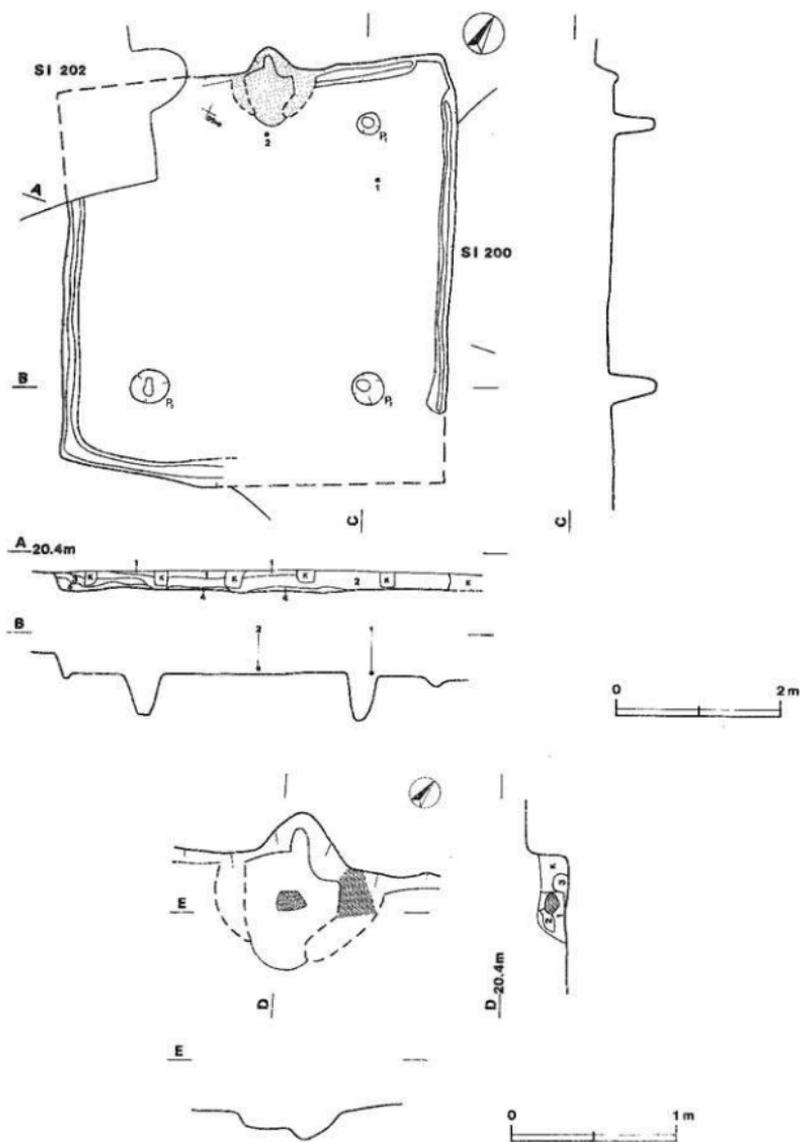
土層解説

- 1 黒色 焼土小ブロック・ローム粒子微量
- 2 黒褐色 炭化粒子・ローム粒子少量、ローム小ブロック微量
- 3 黒褐色 焼土粒子少量、ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土小ブロック・炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ローム中ブロック多量、炭化粒子・ローム粒子微量

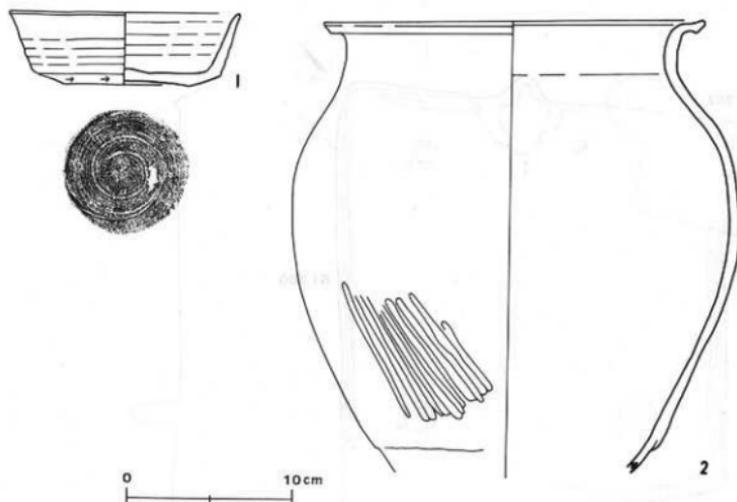
遺物 土師器片343点、須恵器片10点、手握土器片2点、管状土錘片1点、縄文土器片3点が出土している。

第472図1の須恵器環は北東壁床面から正位の状態で、2の土師器甕は竈前覆土下層からつぶれた状態でそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から奈良時代（8世紀前半）と思われる。



第471图 第201号住居跡实测图



第472図 第201号住居跡出土遺物実測図

第201号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第472図 1	坏 須恵器	A 13.9 B 4.3 C 7.5	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に立ち上がり、そのまま口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転へラ削り調整。底部周縁回転へラ削り。	長石・雲母 灰黄褐色 普通	P1223 70% 床面 PL102
2	甕 土師器	A 23.1 B (27.2)	体部から口縁部片。体部は内湾して立ち上がり、口縁部は外反する。端部をつまみ上げる。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ、外面上半ナデ、下半へラ磨き。外面に輪積み痕を残す。	石英・雲母・バミス 鈍い赤褐色 普通	P1224 60% 覆上下層 PL103

第202号住居跡（第473図）

位置 調査区の北東部，D5h区。

重複関係 本跡は，第201号住居跡の北西部を掘り込んでいることから，第201号住居跡より新しい。

規模と平面形 長軸3.68m，短軸2.94mの長方形である。

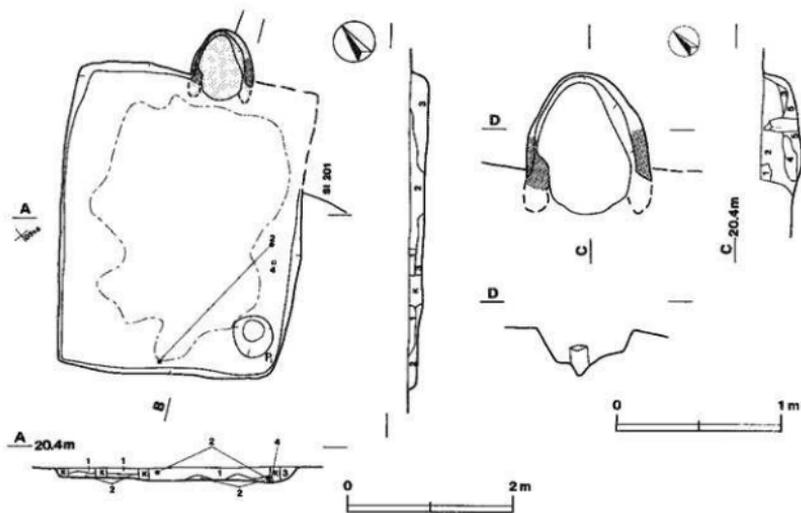
主軸方向 N-45°-E

壁 壁高は10～15cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

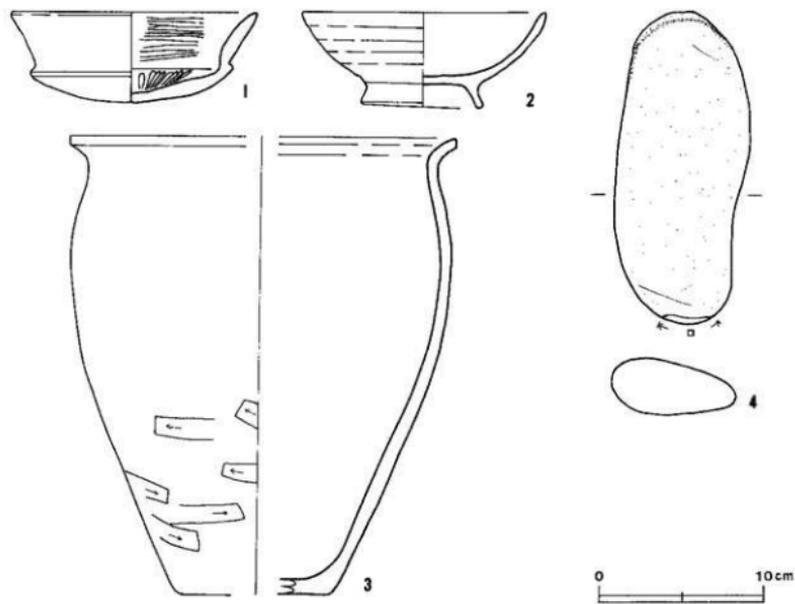
床 平坦で，壁下を除いて大部分が踏み固められている。

ピット P₁は，径48cmの不整形円形，深さ20cmで，性格は不明である。

竈 北東壁中央部に付設され，砂粒まじりの白色粘土で構築されているが，遺存状態が悪く袖部は残っていない。火床部は，皿状に掘り窪められ，奥に深さ10cm程埋め込まれた支脚が出土している。煙道部は，壁外へ58cm程突出し，壁の内側から緩やかに外傾して立ち上がる。



第473图 第202号住居跡実測図



第474图 第202号住居跡出土遺物実測図

覆土層解説

- 1 黄褐色 粘土大ブロック・粘土粒子多量
- 2 黒褐色 焼土中ブロック中量、焼土小ブロック・焼土粒子・粘土小ブロック少量
- 3 明褐色 粘土粒子多量、粘土小ブロック少量
- 4 赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子多量、焼土中ブロック・灰少量
- 5 暗赤褐色 焼土小ブロック中量、焼土粒子・炭化粒子・灰少量

覆土 3層からなる自然堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子中量、ローム中ブロック微量
- 3 褐色 焼土粒子・ローム粒子少量、焼土小ブロック・ローム小ブロック・粘土粒子微量

遺物 土師器片88点、須恵器片3点が出土している。第474図2の土師器高台付坏は室内覆土中から、4の敷石は南東壁付近床面から、1の坏、3の甕は覆土中からそれぞれ出土している。1の土師器坏は流れ込みと思われる。

所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から平安時代（10世紀）と思われる。

第202号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第474図1	土師器	A 14.9	底部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内面ヘラ磨き、外面横ナデ。体部内面放射状のヘラ磨き、外面ヘラ磨り。	長石・バミス 赤褐色 普通	P1225 80% 覆土中 PL103
		B 5.3				
2	高台付坏 上面部	A 14.6	高台部から口縁部片。「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎して立ち上がり、そのまま口縁部片に至る。	口縁部及び体部内面磨き、外面口ロナデ。底部切り離し後高台貼り付け。	長石・石英・バミス 明赤褐色 普通	P1226 70% 室内覆土中 PL103
		B 5.8				
		D 6.9				
		E 1.5				
3	土師器	A [25.4]	底部から口縁部片。平底。体部は内彎気味に外傾して立ち上がり、口縁部は外反する。端部をつまみ上げる。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ、外面上平ナデ、下平ヘラ磨り。	長石・石英・スコリア 褐色 普通	P1227 30% 覆土中 PL103
		B 28.0				
		C 9.0				

図版番号	種別	計測値					石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第474図	織石	17.9	8.2	3.3	-	709	砂岩	南東壁付近床面	Q305

第203号住居跡（第475図）

位置 調査区の北東部，E4j区。

規模と平面形 長軸3.47m、短軸3.12mの方形である。

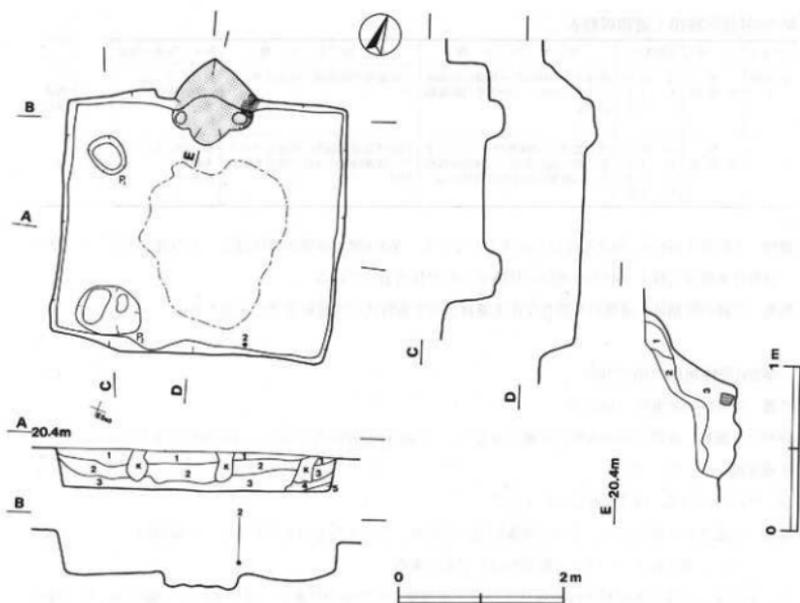
主軸方向 N-18°-W

壁 壁高は35～48cmで、外傾して立ち上がる。

床 平坦で、中央部は踏み固められている。

ピット 2か所（P₁、P₂）。P₁、P₂は、径48～78cmの不整円形、深さ20cmで、性格は不明である。

壁 北壁中央部に付設され、白色粘土と、袖部の芯材にした凝灰岩の切石とで構築されていたと思われるが、遺存状態が悪く袖部は残っていない。袖部先端と思われる位置に、切石を埋めたピットが確認されている。火床部は、皿状に10cm程掘り窪められている。煙道部は、壁外へ40cm程突出し、壁の内側から緩やかに外傾して立ち上がる。



第475図 第203号住居跡実測図

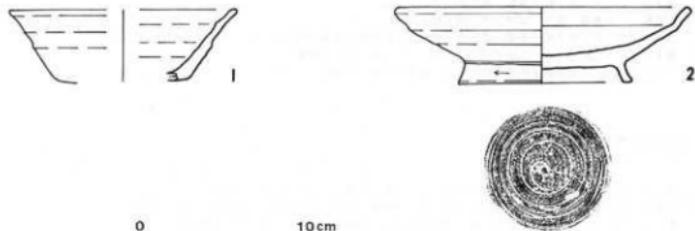
覆土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒子少量
- 2 鈍い黄褐色 ローム小ブロック・粘土粒子多量
- 3 灰黄褐色 焼土粒子・炭化粒子・灰多量、焼土小ブロック中量、焼土中ブロック微量

覆土 5層からなる自然堆積である。

土層解説

- 1 極褐色 焼土小ブロック・ローム粒子中量、焼土粒子・ローム中ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土粒子微量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 4 黒色 ローム粒子少量
- 5 黒褐色 ローム大ブロック・ローム粒子少量



第476図 第203号住居跡出土遺物実測図

第203号住居跡出土遺物観察表

図録番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第476図 1	坏 須恵器	A 13.8 B 4.4 C 18.2	体部から口縁部片。体部は直線的に立ち上がり、そのまま口縁部になる。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。	長石・パミス 鈍い黄褐色	P1228 30% ピット内覆土中 外面染付着
2	壺 須恵器	A 17.6 B 4.7 D 10.4 E 1.0	高台部から口縁部片。「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は外傾し、口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部縁部へラ削り後高台貼り付け。	礫・長石・スコリア 赤褐色 普通	P1229 90% 覆土下層 PL103

遺物 土師器片104点、須恵器片13点が出土している。第476図1の須恵器坏はピット内覆土中から、2の須恵器壺は南壁付近覆土下層から逆位の状態でそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から平安時代（9世紀前半）と思われる。

第204号住居跡（第477図）

位置 調査区の北東部、D6g3区。

規模と平面形 遺存する南西壁から推定すると、一辺6.42m程の方形あるいは長方形と思われる。

主軸方向 N-25°-W

壁 壁高は32cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 確認された壁下には、すべて壁溝が巡っており、全周するものと思われる。上幅約14～19cm、下幅約10～14cm、深さ約5～9cmで、断面形はU字形である。

床 平坦で、ほぼ全体が踏み固められている。南西壁から70cmの位置に、壁に平行して幅55cm、長さ210cmの高まりが見られる。

ピット 4か所（P₁～P₄）。P₁～P₃は、径54～75cmの不整円形、深さ65～75cmで、配置や規模から主柱穴と思われる。P₄は、径32cmの不整円形、深さ32cmで、出入り口ピットと思われる。

竈 北西壁中央部に付設され、凝灰岩、粘土及び山砂とで構築されている。袖部内に芯材として凝灰岩を据え、その回りを粘土等で覆うようにして袖部が作られている。火床部下には、焼土や炭化物、灰等を含む径150cm、深さ32cmの掘り込みが見られる。煙道部は、壁外へ95cm程突出し、壁の内側から緩やかに外傾して立ち上がる。

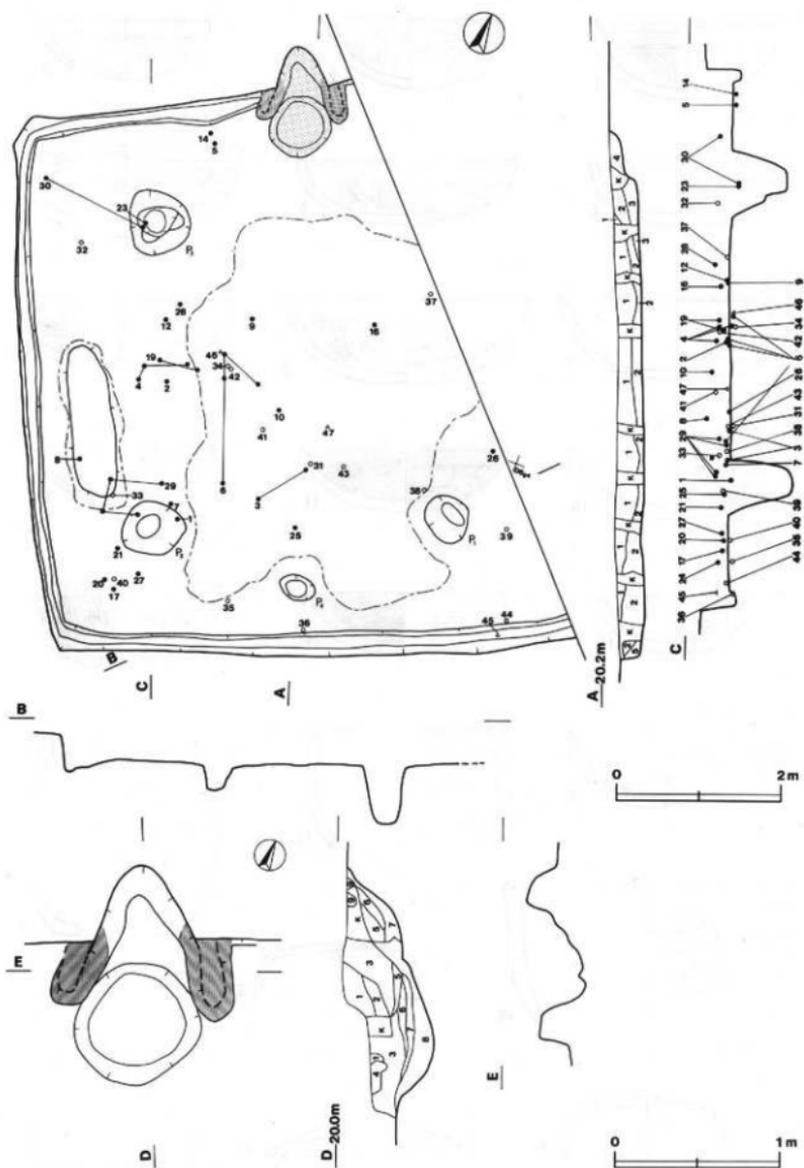
覆土層解説

- 1 褐色 粘土粒中量、焼土粒子少量
- 2 鈍い黄褐色 焼土大ブロック多量
- 3 黒褐色 粘土小ブロック中量、焼土粒子・ローム小ブロック少量
- 4 オリーブ褐色 焼土粒子少量
- 5 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子多量、焼土中ブロック少量
- 6 赤褐色 炭化粒子・灰多量、焼土小ブロック・焼土粒子少量
- 7 赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子多量、焼土中ブロック・炭化粒子少量、焼土大ブロック・ローム中ブロック微量
- 8 明赤褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック少量、ローム小ブロック微量
- 9 赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量、炭化粒子・粘土小ブロック少量

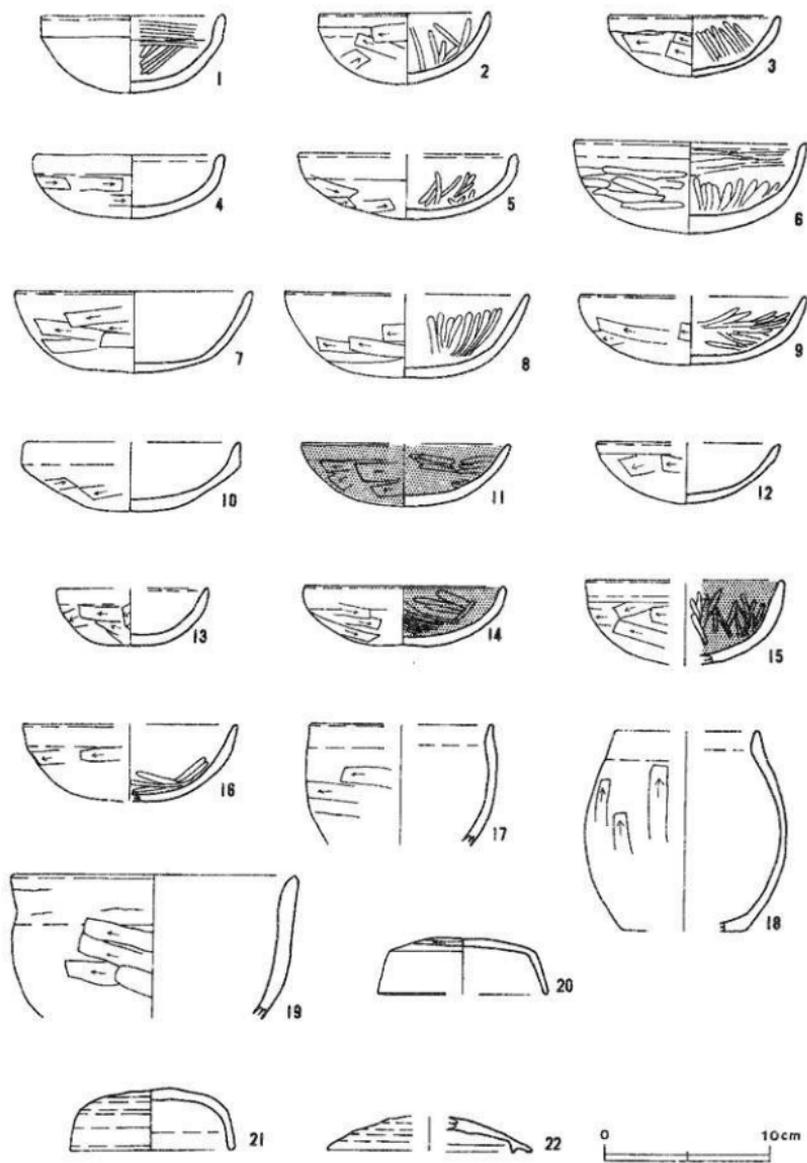
覆土 5層からなる自然堆積である。

土層解説

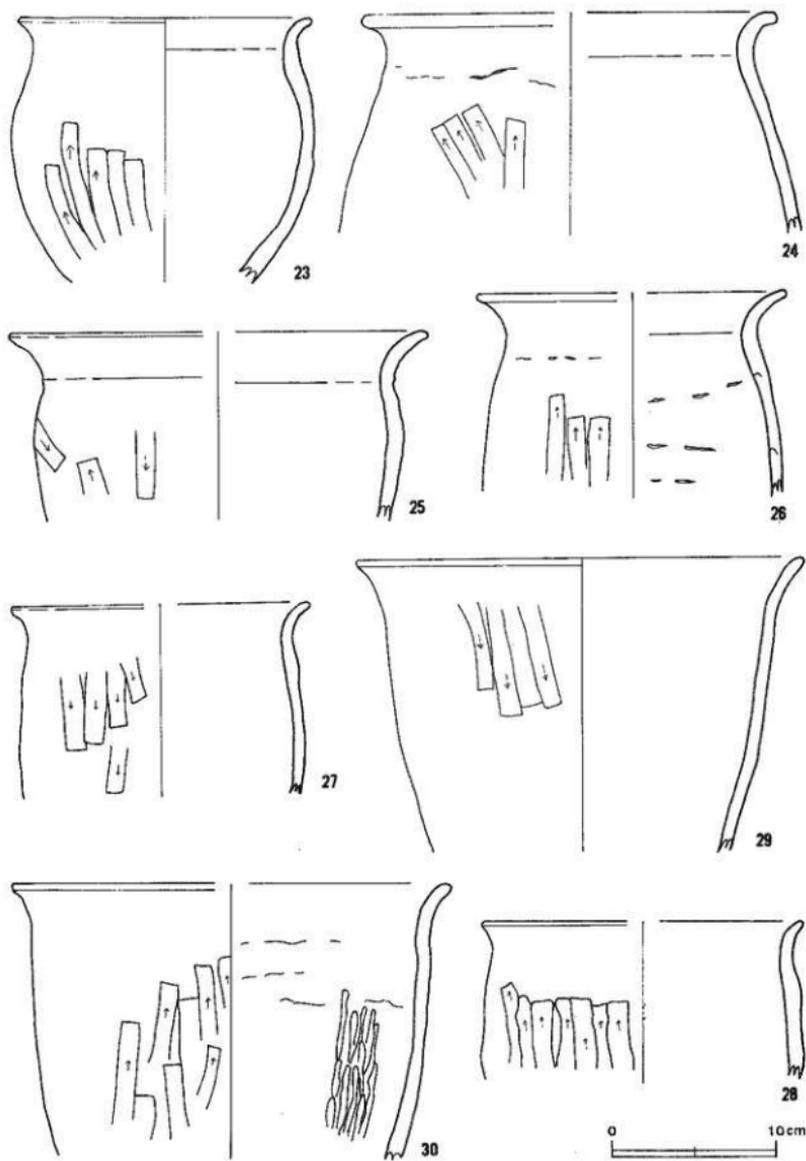
- 1 暗褐色 焼土小ブロック・炭化粒子中量、焼土粒子・ローム粒子少量、ローム小ブロック微量
- 2 暗褐色 焼土小ブロック多量、炭化粒子・ローム小ブロック中量、ローム粒子少量、ローム中ブロック微量
- 3 暗褐色 焼土小ブロック・粘土小ブロック多量、焼土粒子中量、炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 4 褐色 焼土小ブロック多量、ローム小ブロック中量、炭化粒子・ローム粒子少量
- 5 黒色 ローム小ブロック・ローム粒子微量



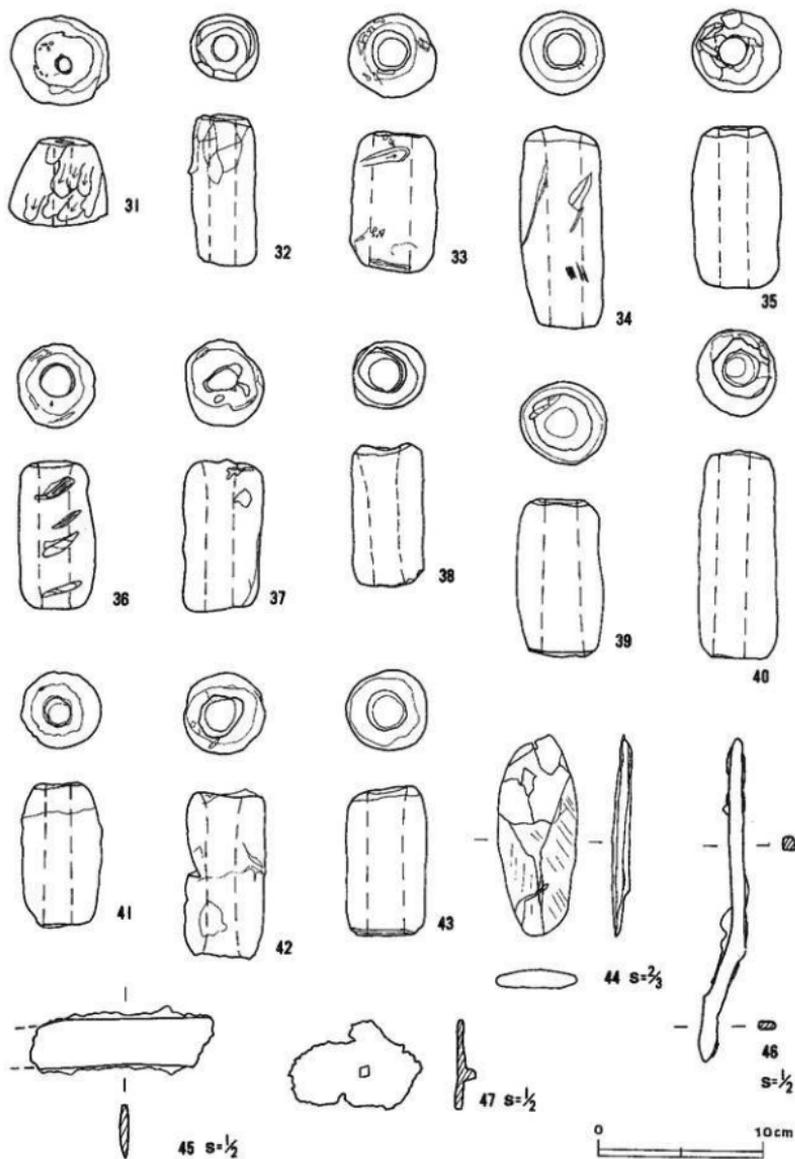
第477图 第204号住居跡实测图



第478图 第204号住居跡出土遺物実測図(1)



第479图 第204号住居跡出土遺物実測図(2)



第480图 第204号住居跡出土遺物実測図(3)

第204号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第478図 1	土師器 上 部 器	A 11.1	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに外傾する。外面に鈍い稜を持つ。	口縁部内面へラ磨き、外面横ナデ。体部内面へラ磨き、外面へラ削り。底部へラ削り調整。	長石・雲母・世紀・バミス 褐色 普通	P1230 95% 覆土下層 PL103
		B 4.7				
2	土師器 環 部 器	A 10.2	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は短く直立する。外面に鈍い稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面へラ磨き、外面へラ削り。底部へラ削り調整。	長石・雲母・スコリア 淡赤褐色 普通	P1231 95% 覆土下層 PL103
		B 4.3				
3	土師器 十 部 器	A 10.3	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は短く直立する。外面に鈍い稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面へラ磨き、外面へラ削り。底部へラ削り調整。	長石・石英・スコリア 褐色 普通	P1232 80% 覆土下層 PL103
		B 3.7				
4	土師器 環 部 器	A 11.4	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、そのまま口縁端部に至る。外面に鈍い稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面へラ磨き、外面へラ削り。内面黒色処理。	長石・雲母 鈍い褐色 普通	P1233 80% 覆土中層 PL103
		B 3.8				
5	土師器 上 部 器	A [13.0]	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに外傾する。外面に鈍い稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面へラ磨き、外面へラ削り。底部へラ削り調整。	長石・石英・スコリア・バミス 鈍い褐色 普通	P1234 70% 床面 PL103
		B 4.0				
6	土師器 環 部 器	A 14.1	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、そのまま口縁端部に至る。	口縁部内面へラ磨き、外面横ナデ。体部内・外面へラ磨き。底部へラ削り調整。	長石・石英・スコリア 明赤褐色 普通	P1235 70% 覆土下層 PL103
		B 5.6				
7	土師器 環 部 器	A 14.4	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、そのまま口縁端部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。外面へラ削り。底部へラ削り調整。	長石・雲母 鈍い褐色 普通	P1236 60% 覆土下層
		B 5.0				
8	土師器 上 部 器	A [14.6]	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、そのまま口縁端部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面へラ磨き、外面へラ削り調整。	長石・雲母・バミス 褐色 普通	P1237 40% 覆土上層 PL103
		B 5.1				
9	土師器 十 部 器	A [13.6]	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、そのまま口縁端部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面へラ磨き、外面へラ削り。底部へラ削り調整。	長石・石英・スコリア 褐色 普通	P1238 40% 覆土中層 PL103
		B 4.2				
10	土師器 環 部 器	A [13.0]	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。外面に鈍い稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。外面へラ削り。	長石・石英・雲母 鈍い褐色 普通	P1239 40% 覆土上層
		B 4.1				
11	土師器 環 部 器	A [12.5]	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、そのまま口縁端部に至る。外面に鈍い稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面へラ磨き、外面へラ削り。底部へラ削り調整。内・外面黒色処理。	長石・石英・雲母 鈍い褐色 普通	P1240 50% ポット内覆土 PL103
		B 3.8				
12	土師器 環 部 器	A [11.0]	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、そのまま口縁端部に至る。外面に鈍い稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。外面へラ削り。底部へラ削り調整。	長石・石英 鈍い褐色 普通	P1241 50% 覆土中層
		B 3.7				
13	土師器 上 部 器	A [9.1]	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、そのまま口縁端部に至る。外面に鈍い稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。外面へラ削り。	長石・石英・スコリア 鈍い褐色 普通	P1242 50% 覆土中
		B 3.6				
14	土師器 十 部 器	A 12.0	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、そのまま口縁端部に至る。外面に鈍い稜を持つ。	口縁部内面へラ磨き、外面横ナデ。体部内面へラ磨き、外面へラ削り。底部へラ削り調整。内面黒色処理。	長石・石英・スコリア 灰褐色 普通	P1243 80% 覆土下層 PL103
		B 3.6				
15	土師器 環 部 器	A [12.0]	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、そのまま口縁端部に至る。外面に鈍い稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面へラ磨き、外面へラ削り。底部へラ削り調整。内面黒色処理。	長石・石英・スコリア 鈍い褐色 普通	P1245 30% 覆土中層
		B (5.2)				
16	土師器 上 部 器	A [13.0]	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、そのまま口縁端部に至る。外面に鈍い稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面へラ磨き、外面へラ削り。底部へラ削り調整。	長石・スコリア・雲母 褐色 普通	P1246 30% 覆土下層
		B (4.8)				
17	土師器 十 部 器	A [11.2]	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。外面に鈍い稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。外面へラ削り。	長石・雲母 鈍い褐色 普通	P1247 30% 覆土中層 PL103
		B (7.4)				
18	土師器 環 部 器	A [8.8]	底部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は短く直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。外面へラ削り。	長石・雲母 鈍い赤褐色 普通	P1248 40% 覆土中層 PL103
		B 12.1				
		C [7.5]				
19	土師器 鉢 部 器	A 17.1	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。外面へラ削り。口縁部外面に輪組み状を残す。	長石・石英・雲母 褐色 普通	P1249 30% 覆土中層 PL103
		B (8.0)				

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
20	蓋 須臾器	A [10.2] B 3.3	天井部から口縁部片。天井部は平坦で、口縁部は外傾して下がる。	天井部外面回転ヘラ削り。内面口クロナテ。口縁部内・外面口クロナテ。	長石・石英 黄灰色 普通	P1250 60% 覆土中層 PL103
21	蓋 須臾器	A 10.0 B 3.8	天井部から、口縁部片。天井部は平坦で、口縁部はほぼ垂直に下がる。	天井部外面ナデ調整。内面口クロナテ。口縁部内・外面口クロナテ。	長石・長石 緑灰色 普通	P1251 50% 覆土中層 PL103
22	蓋 須臾器	A [12.4] B (2.1)	天井部から、口縁部片。天井部はドーム状で、口縁部内側に短いかえりが付く。	天井部及び口縁部内・外面口クロナテ。	長石 黄灰色 普通	P1252 20% 覆土中層
第479図 23	蓋 土師器	A 17.6 B (16.2)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。外面縦位のヘラ削り。	長石・石英・雲母・スコリア 鈍い赤褐色 普通	P1253 70% P ₁ 内覆土中層 PL104
24	蓋 土師器	A [24.4] B (13.5)	体部から口縁部片。体部上半は内傾し、口縁部は外反する。肩部が肥厚する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。外面ヘラ削り。外面に輪積み痕を残す。	長石・石英・雲母・スコリア 鈍い赤褐色 普通	P1255 10% 覆土中層 PL104
25	蓋 土師器	A [25.0] B (11.5)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。外面ヘラ削り。	長石・石英・スコリア・ハリス 明赤褐色 普通	P1256 10% 覆土中層 PL104
26	蓋 土師器	A [18.4] B (12.3)	体部から口縁部片。体部上半は内傾し、口縁部は外反する。肩部がわずかに肥厚する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。外面ヘラ削り。体部内・外面に輪積み痕を残す。	長石・石英・長石 鈍い褐色 普通	P1257 10% 覆土中層
27	蓋 土師器	A [17.8] B (11.7)	体部から口縁部片。体部は直線的に立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。外面ヘラ削り。	長石・石英・スコリア 褐色 普通	P1258 10% 覆土中層
28	蓋 土師器	A [16.3] B (9.7)	体部から口縁部片。体部は直線的に立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。外面縦位のヘラ削り。内面に輪積み痕を残す。	長石・石英・スコリア 褐色 普通	P1259 10% 覆土中層
29	瓶 土師器	A 27.2 B (18.0)	体部から口縁部片。体部は直線的に外傾して立ち上がり、口縁部は強く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面磨き。外面ヘラ削り。	長石・石英・スコリア 淡黄褐色 普通	P1254 30% 覆土中層 PL104
30	瓶 土師器	A [26.4] B (16.7)	体部から口縁部片。体部は直線的に外傾して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面磨き。外面ヘラ削り。内面に輪積み痕を残す。	長石・石英・雲母 褐色 普通	P1260 20% 体部 PL104

図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第480図31	筒形土師器	(5.4)	(5.9)	5.5	0.9	(158.7)	中央部覆土中層	DP135 PL115
32	管状土師器	9.3	4.2	3.9	1.4	152.3	東ノナ川近辺土師器	DP136 PL116
33	管状土師器	8.7	5.3	5.0	1.7	223.8	南東部近辺土師器	DP137 PL116
34	管状土師器	12.3	5.2	5.0	2.0	275.0	中央部土師器	DP138 PL116
35	管状土師器	9.9	5.4	4.9	1.7	301.5	南東部近辺土師器	DP139 PL116
36	管状土師器	9.0	4.7	5.1	1.9	234.7	南東部近辺土師器	DP140 PL116
37	管状土師器	9.2	4.9	5.1	1.7	242.5	中央部覆土中層	DP141 PL116
38	管状土師器	8.8	4.4	4.0	1.7	158.5	中央部覆土中層	DP142 PL116
39	管状土師器	9.5	5.3	5.1	1.9	255.3	東ノナ川近辺土師器	DP143 PL116
40	管状土師器	12.8	4.8	5.2	1.8	360.5	東ノナ川近辺土師器	DP144 PL116
41	管状土師器	8.9	4.9	4.7	1.5	218.4	中央部覆土中層	DP145 PL116
42	管状土師器	10.4	5.1	5.0	1.8	230.0	中央部覆土中層	DP146 PL116
43	管状土師器	9.1	5.0	4.7	2.1	210.0	中央部覆土中層	DP147 PL116

図版番号	種別	計測値					石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第480図41	筒形製造品	6.2	2.4	0.6	-	11.6	滑石	東ノナ川近辺土師器	Q306 PL118

図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
250図45	刀子	(7.4)	2.8	0.3	—	(16.9)	中央部付近層中	M87 PL122
46	不明鉄製品	(13.2)	(0.8)	0.5	—	(11.2)	中央部床面	M88 PL121
47	不明鉄製品	(3.7)	5.4	0.9	—	(11.6)	中央部覆土下層	M89 PL124

遺物 土師器片1, 303点, 須恵器片16点, 縄文土器片1点が出土している。第478~480図1, 7の土師器環, 40の管状土鍾は南コーナー付近覆土下層から, 17の椀, 20, 21の須恵器蓋, 24, 27の土師器甕は同覆土中層から, 2の環, 29の甕は南西壁付近覆土下層から, 4, 12の環, 19の鉢, 33管状土鍾は同覆土中層から, 8の環, 28の甕は同覆土上層から, 3, 6の環, 26の甕, 31の紡錘車, 38, 41, 43の管状土鍾は中央部覆土下層から, 9の環, 37, 42の管状土鍾は同覆土中層から, 10の環は同覆土上層から, 34の管状土鍾は同床面から, 5の環は北西壁付近床面から, 14, 16の環は同覆土下層から, 11の環はピット内覆土中から, 23の甕はP₂内覆土中から, 25の甕は南東壁付近覆土中層から, 35, 36の管状土鍾は同床面から, 30の甕は西コーナー付近床面から, 32の管状土鍾は同覆土上層から, 39の管状土鍾, 44の剣形模造品, 45の刀子は東コーナー付近覆土中層から, 13の環, 18の椀, 22の須恵器蓋は覆土中からそれぞれ出土している。44の剣形模造品は流れ込みと思われる。

所見 本跡の時期は, 遺構の形態及び出土遺物から古墳時代後期(7世紀中葉)と思われる。

第205号住居跡(第481図)

位置 調査区の北東部, D5f区。

重複関係 本跡は, 第9号溝を掘り込んでいることから, 第9号溝よりも新しい。

規模と平面形 長軸7.98m, 短軸4.55mの長方形である。

主軸方向 N-42°-E

壁 壁高は10~12cmで, 外傾して立ち上がる。

床 平坦であるが, 全体的に締まりがなく踏み固められた部分は見られない。

ピット 6か所(P₁~P₆)。P₁は, 長さ65cm, 短径38cm, 深さ47cmの楕円形で, 性格は不明である。P₂~P₆は, 径34~56cm, 深さ20~34cmの不整形で, 性格は不明である。

竪 北東壁東寄りに付設され, 凝灰岩と砂粒まじりの白色粘土とで構築されているが, 焼土と軸部に置かれたと思われる凝灰岩の一部を確認したのみで遺存状態は悪い。火床部は, 皿状の掘り込みが見られる。煙道部は, 壁外へ32cm程突出し, 壁の内側からゆるやかに外傾して立ち上がる。

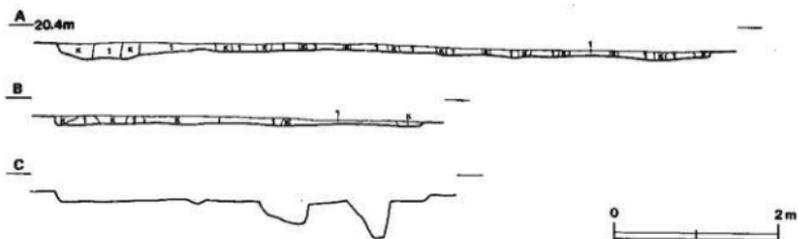
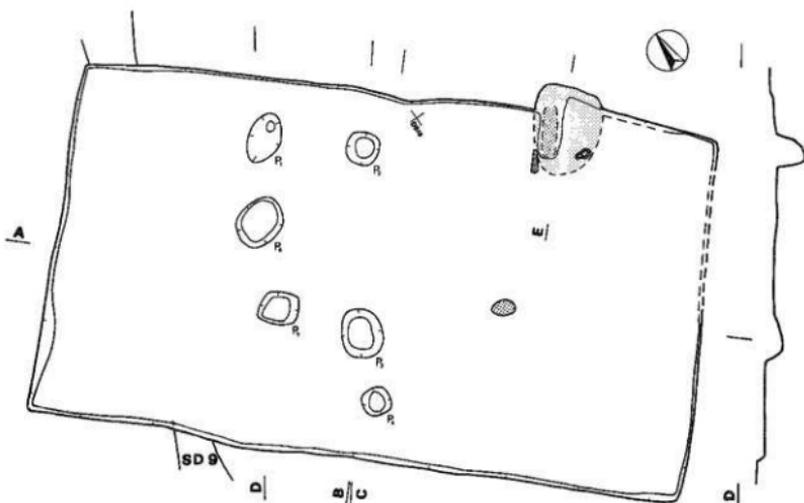
竪土層解説

- 1 黒色 ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子中量
- 3 黒褐色 焼土粒子・ローム粒子少量
- 4 黒褐色 焼土中・小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・ローム中ブロック少量
- 5 暗褐色 ローム粒子多量
- 6 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 7 黒褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 8 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 9 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 10 黒褐色 焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 11 黒褐色 焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量

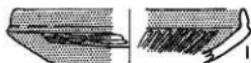
覆土 1層からなる自然堆積である。

土層解説

- 1 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量



第481図 第205号住居跡実測図



第482図 第205号住居跡出土遺物実測図

第205号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第282図 1	坏 土師器	A (14.0) B (3.3)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。外面に稜を持つ。	口縁部内・外面磨ナデ。体部内面放射状のヘラ磨き、外面ヘラ磨き。内・外面黒色処理。	空母・バミス 黒褐色 普通	F1261 20% 覆土中

遺物 土師器片269点、須恵器片8点、陶器片4点、手捏土器片1点が出土している。その他に、炭化材1.5g、鉄滓5g、炉の付近から鍛造刺片10片、竈付近から鍛造刺片6.8g、炭化材1.5gが出土している。第482図1の土師器環は覆土中から出土している。

所見 本跡は、金床石や羽目、鍛冶炉等が確認されていないが、鍛造刺片や鉄滓等が確認されたことから、鍛冶遺構の可能性も考えられる。本跡の時期は、竈の存在等の遺構の形態及び出土遺物から古墳時代後期（6世紀後半頃）と思われる。

第206号住居跡（第483図）

位置 調査区の北東部、C5b区。

規模と平面形 長軸4.85m、短軸4.40mの方形である。

主軸方向 N-65°-W

壁 壁高は15cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 確認された壁下には、北東壁の一部を除いて壁溝が巡っており、全周するものと思われる。上幅約13~15cm、下幅約6~9cm、深さ約6~7cmで、断面形はU字形である。

床 中央にやや凹部が見られる。ほぼ全体的に踏み固められている。

ピット 7か所（P₁~P₇）。P₁~P₄は、径34~48cmの不整形円形、深さ65~80cmで、配置や規模から主柱穴と思われるが、P₃、P₄は垂直に掘り込まれているのに対して、P₁、P₂は、北東壁に接して、北東方向に15~20°傾いて掘り込まれており、補助柱穴等の可能性も考えられる。P₅は、径25cmの不整形円形、深さ20cmで、出入り口ピットと思われる。P₆、P₇は、径33~35cmの不整形円形、深さ13cmで、性格は不明である。

竈 北東壁中央やや北コーナー寄りに付設され、白色粘土で構築されているが、遺存状態が悪く前部は残っていない。火床部中央には、凝灰岩の支脚が立てられ、それを覆うように土師器甕が逆位の状態で出土している。火床部は、15cm程の皿状の掘り込みは見られるが、焼上面等は確認できず、使い込まれた様子は見られない。煙道部は、壁外へ50cm程突出し、壁の内側から緩やかに外傾して立ち上がる。

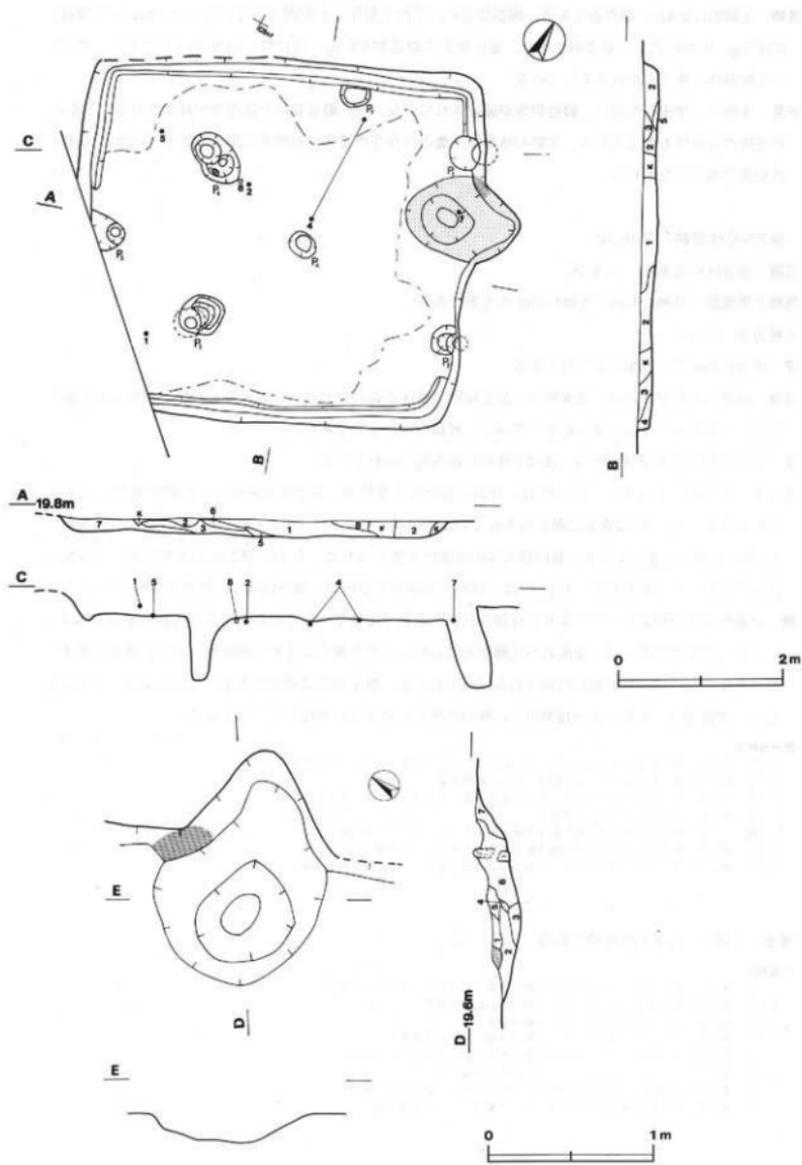
出土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子・ローム中ブロック・粘土大ブロック少量、焼土中ブロック微量
- 2 黒褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子少量
- 3 黒褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子多量、焼土中ブロック・焼土粒子少量
- 4 赤褐色 焼土大・中ブロック多量
- 5 褐色 焼土小ブロック・焼土粒子多量、焼土大・中ブロック・炭化粒子少量
- 6 暗褐色 焼土大・小ブロック・焼土粒子・ローム大ブロック少量
- 7 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、焼土小ブロック・焼土粒子少量

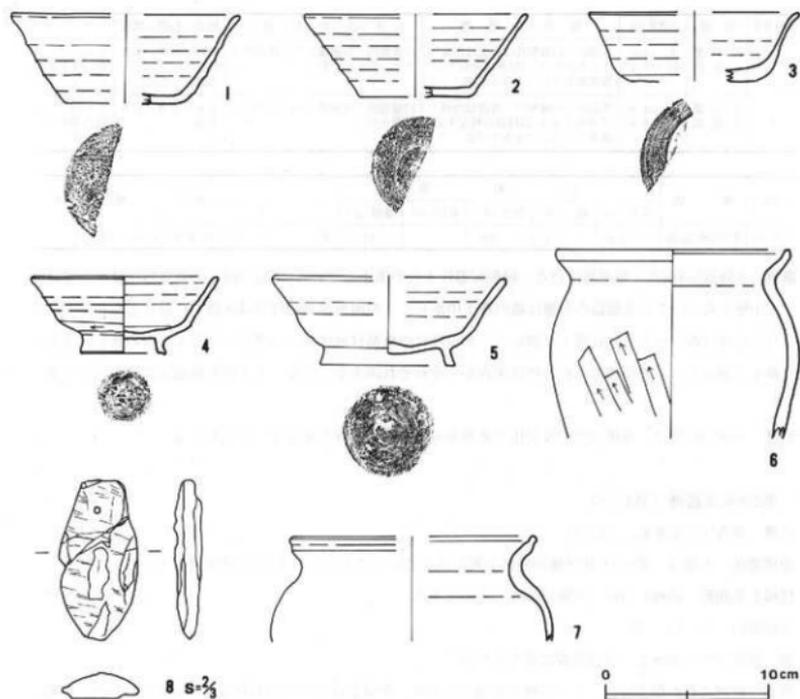
覆土 7層からなる自然堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム大・中ブロック微量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子、炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 4 黒褐色 ローム大ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 5 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量、ローム中ブロック少量
- 6 黒褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子中量
- 7 暗褐色 炭化粒子・ローム中ブロック・ローム粒子、粘土粒子少量
- 8 黄褐色 粘土粒子多量、ローム中ブロック中量、ローム粒子少量



第483图 第206号住居跡実測图



第484図 第206号住居跡出土遺物実測図

第206号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第484図 1	坏須志器	A [13.8] B 5.4 C [7.0]	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に立ち上がり、端部がわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部手持ちヘラ削り調整。底部周縁ナデ。	長石・針状鉱物 暗灰黄色 普通	P1262 40% 覆土中層 PL104
2	坏須志器	A [13.5] B 5.1 C [6.9]	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に立ち上がり、そのまま口縁端に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後ナデ調整。底部周縁ナデ。	礫・針状鉱物 鈍い赤褐色 普通	P1263 30% 床面
3	坏須志器	A [12.8] B 4.2 C [7.6]	底部から口縁部片。平底。体部は外反気味に直線的に立ち上がり、そのまま口縁端に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り調整。	長石・ハミス・雲母 灰褐色 普通	P1264 30% 覆土中
4	高台付坏須志器	A 11.4 B 4.7 D 5.2 E 1.0	高台部から口縁部片。ほぼ垂直に延びる高台が付く。体部は直線的に立ち上がり、そのまま口縁端に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部切り離し後高台貼り付け。	長石・雲母 灰褐色 普通	P1265 80% 床面 底部にヘラ記号あり PL104
5	高台付坏須志器	A [14.0] B 5.4 D 8.3 E 1.2	高台部から口縁部片。「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は直線的に立ち上がり、そのまま口縁端に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部手持ちヘラ削り後高台貼り付け	長石・石英 赤褐色 普通	P1266 40% 覆土下層 底部にヘラ記号あり PL104

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
6	小形土師器	A 14.2 B (11.1)	体部から口縁部片。体部は内壁して立ち上がり、口縁部は外反する。端部を上方につまみ上げる。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。外面ヘリ溜り。	長石・石英・雲母 褐色 普通	P1267 30% 壺内覆土中 PL104
7	小形土師器	A (14.8) B (6.4)	体部から口縁部片。体部は内壁して立ち上がり、口縁部は外反する。端部を上方につまみ上げる。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・雲母・石英 普通	P1268 10% 壺内覆土中 PL104

図版番号	種別	計測値					石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第484図8	剣形模造品	4.8	2.4	0.8	-	12.3	滑石	中央部床面	Q307 PL118

遺物 土師器片176点、須恵器片42点、緑釉陶器片1点が出土している。第484図1の須恵器杯は南西壁付近覆土中層から、6、7の上師器小形土師器は壺内覆土中から、4の須恵器高台付杯は床面から散在した状態で、5の高台付杯は西コーナー付近覆土下層から、2の杯は中央部付近床面から横位の状態で、8の剣形模造品は同覆土下層から、4の須恵器高台付杯は床面からそれぞれ出土している。8の剣形模造品は流れ込みと思われる。

所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から平安時代（9世紀中葉）と思われる。

第208号住居跡（第485図）

位置 調査区の北東部、D5a区。

重複関係 本跡は、第209号住居跡の南部を掘り込んでいることから、第209号住居跡より新しい。

規模と平面形 長軸4.73m、短軸4.70mの方形である。

主軸方向 N-25°-W

壁 壁高は25～50cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 確認された壁下には、すべて壁溝が巡っており、全周するものと思われる。上幅約12～15cm、下幅約6～9cm、深さ約6～7cmで、断面形はU字形である。

床 わずかに凹凸がある。壁際を除いて、大部分が踏み固められている。

ピット 5か所（P₁～P₅）。P₁は、長径109cm、短径48cmの不整形円形、深さ80cm、P₂、P₃は、径55cmの不整形円形、深さ74～85cmで、配置や規模から上柱穴と思われる。P₄は、径40cmの不整形円形、深さ16cmで、配管や規模から出入り口ピットと思われる。P₅は、径28cmの不整形円形、深さ16cmで、性格は不明である。

竈 北西壁中央部に付設され、山砂と白色粘土及び芯材としての凝灰岩とで構築されていたと思われるが、大部分がエリア外に延びており、詳細は不明である。火床部からは、径5cm、長さ20cmの凝灰岩の支脚が出土している。

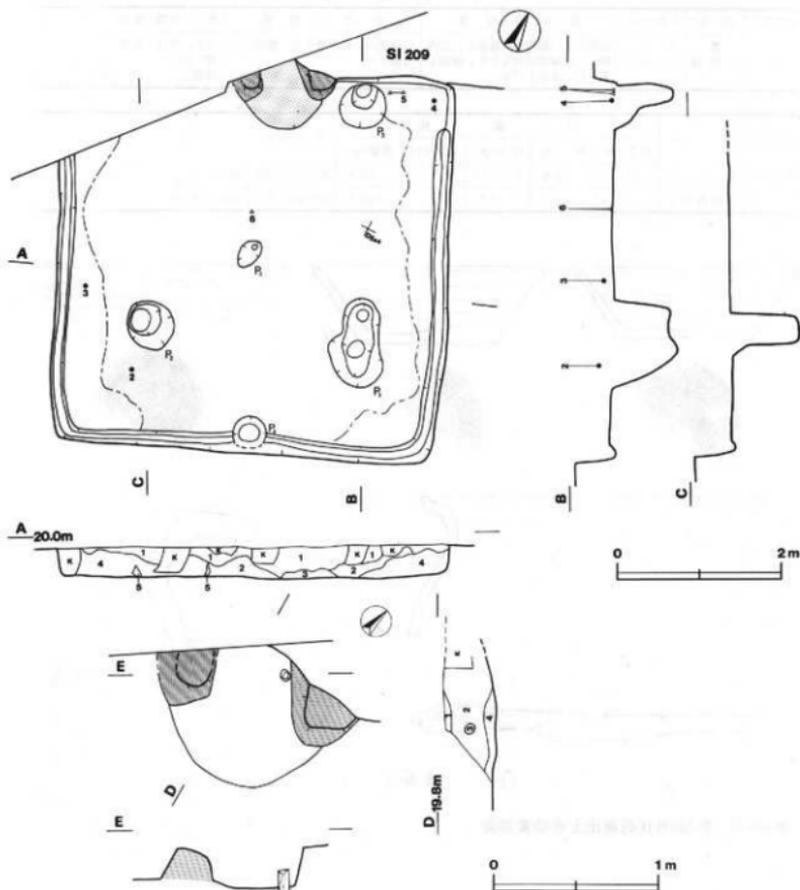
竈土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 3 暗褐色 焼土小ブロック・焼土粒子少量、炭化粒子少量
- 4 暗褐色 焼土大ブロック・焼土粒子・ローム粒子少量、炭化粒子微量

覆土 4層からなる自然堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子少量
- 2 黒褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子少量、ローム大ブロック多量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 褐色 ローム大ブロック多量



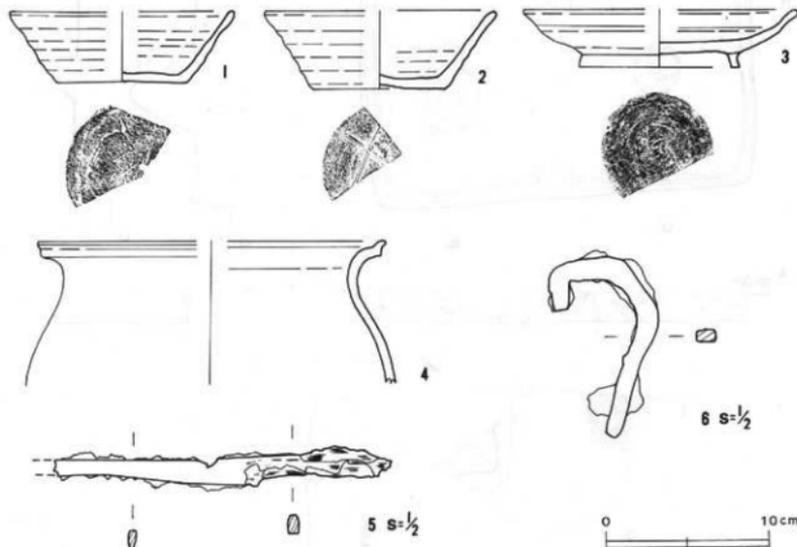
第485図 第208号住居跡実測図

第208号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第486図 1	坏須 器	A [13.6] B 4.3 C [8.0]	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に立ち上がり、そのまま口縁端部に至る。	口縁部及び体部内・外面クロコナデ。底部手持ちヘラ削り調整。底部周縁ナデ。	長石・バミス 灰黄色 普通	P1281 20% 覆土中 底部にヘラ記号あり
2	坏須 器	A [13.9] B 4.7 C [7.9]	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に立ち上がり、そのまま口縁端部に至る。	口縁部及び体部内・外面クロコナデ。底部無調整。底部周縁ナデ。	長石・石英・針状 鉱物 灰白色 普通	P1282 20% 覆土中層 底部にヘラ記号あり
3	甗 須 器	A [16.5] B 3.5 D 9.6 E 0.9	高台部から口縁部片。直線的に高く高台が付く。体部は外傾して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面クロコナデ。底部回転ヘラ削り後高台貼り付け。	長石・雲母・スコ リア 灰黄褐色 普通	P1283 30% 覆土下層 PL105

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
4	土師器	A [21.0] B (8.7)	体部から口縁部片。体部上位は内傾し、口縁部は外反する。端部を上方につまみ上げる。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・雲母・石英 鈍い橙色 普通	P1284 5% 床面 PL105

図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第486図5	刀子	(13.7)	1.8	0.3~0.5	-	(17.4)	北コーナー付近床面	M90
6	不明鉄製品	(7.7)	4.6	0.5	-	(18.1)	中央部付近床面	M91 PL124



第486図 第208号住居跡出土遺物実測図

遺物 土師器片220点、須恵器片58点が出土している。第486図1の須恵器杯は覆土中から、2の杯は南西壁付近覆土中層から、3の盤は同覆土下層から、4の壺、5の刀子は北コーナー付近床面からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から平安時代（9世紀前半）と思われる。

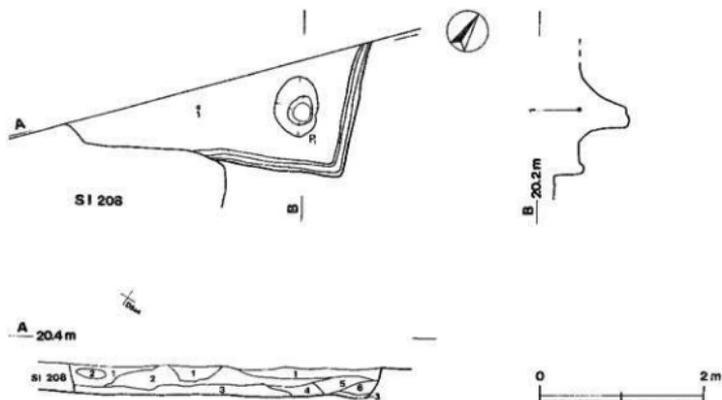
第209号住居跡（第487図）

位置 調査区の北部、D4j区。

重複関係 本跡は、南部を第208号住居跡に掘り込まれていることから、第208号住居跡よりも古い。

規模と平面形 大部分がエリア外に延びているため、不明である。

壁 壁高は35cmで、外傾して立ち上がる。



第487図 第209号住居跡実測図



第488図 第209号住居跡出土遺物実測図

第209号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第488図 1	坏 土師器	A 13.0 B 3.7	体部から口縁部片。体部は内壁して立ち上がり、口縁部はわずかに外傾する。	口縁部及び体部内面へラ磨き、外面ナデ。内面黒色塗理。	長石・石英・スコリア 明褐色 普通	P1285 10% 床面

壁溝 確認された壁下には、すべて壁溝が巡っている。上幅約9~11cm、下幅約5~7cm、深さ約6cmで、断面形はU字形である。

床 平坦で、P₁の周側に硬化面が認められる。

ピット P₁は、長径72cm、短径53cmの楕円形、深さ58cmで、配置や規模から主柱穴と思われる。

竈 遺物等から判断して竈の存在が考えられるが、大部分がエリア外に延びているため不明である。

覆土 6層からなる自然堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量、ローム大ブロック微量
- 2 黒色 炭化粒子・ローム粒子少量、ローム大ブロック微量
- 3 黒褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 4 黒褐色 焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子中量、炭化粒子少量、焼土大ブロック・ローム大ブロック微量
- 5 黒褐色 ローム小ブロック中量、焼土粒子・ローム粒子少量
- 6 黒色 ローム粒子少量、ローム大ブロック微量

遺物 土師器片3点が出土している。第488図1の土師器片は南東壁付近床面から出土している。

所見 本跡の時期は、出土遺物が少なくしかも細片であるため、詳細は不明であるが、第208号住居跡との重複関係、当遺跡の全体的な時期構成及び遺物等から古墳時代（5世紀~7世紀頃）頃と思われる。

第210号住居跡 (第489図)

位置 調査区の北部, D5b区。

重複関係 本跡は, 第211号住居跡の南西部を掘り込んでいることから, 第211号住居跡より新しい。

規模と平面形 長軸4.25m, 短軸3.98mの方形である。

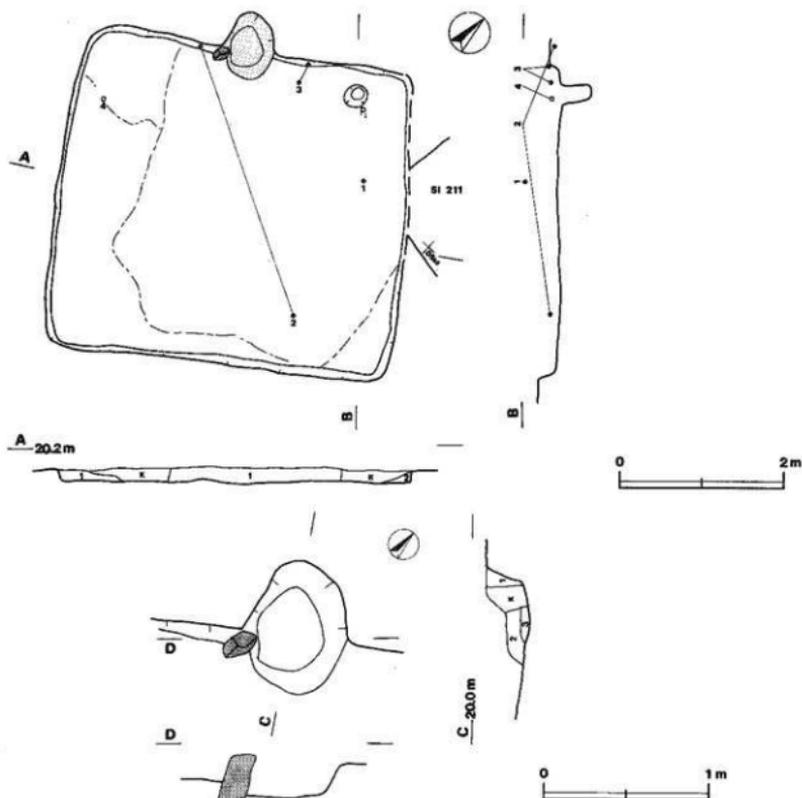
主軸方向 N-35°-W

壁 壁高は13~20cmで, ほぼ垂直に立ち上がる。

床 平坦で, 入り口部から中央部にかけて踏み固められている。

ピット P₁は, 径26cmの不整形形, 深さ36cmで, 性格は不明である。

竈 北西壁中央部に付設され, 白色粘土と凝灰岩の切石とで構築されている。左袖部の先端に, 縦10cm, 横15cm, 高さ30cmの凝灰岩の切石が土中に10cm程埋め込まれて出土している。右袖部は, 残っていない。火床部の大部分は壁外にあり, 8cm程皿状に掘り窪められている。煙道部は, 壁外に48cm突出し, 壁の内側から急に立ち上がっている。



第489図 第210号住居跡実測図

覆土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土中ブロック中量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 褐色 焼土中ブロック中量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量, ローム粒子微量
- 3 明褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 焼土小ブロック少量

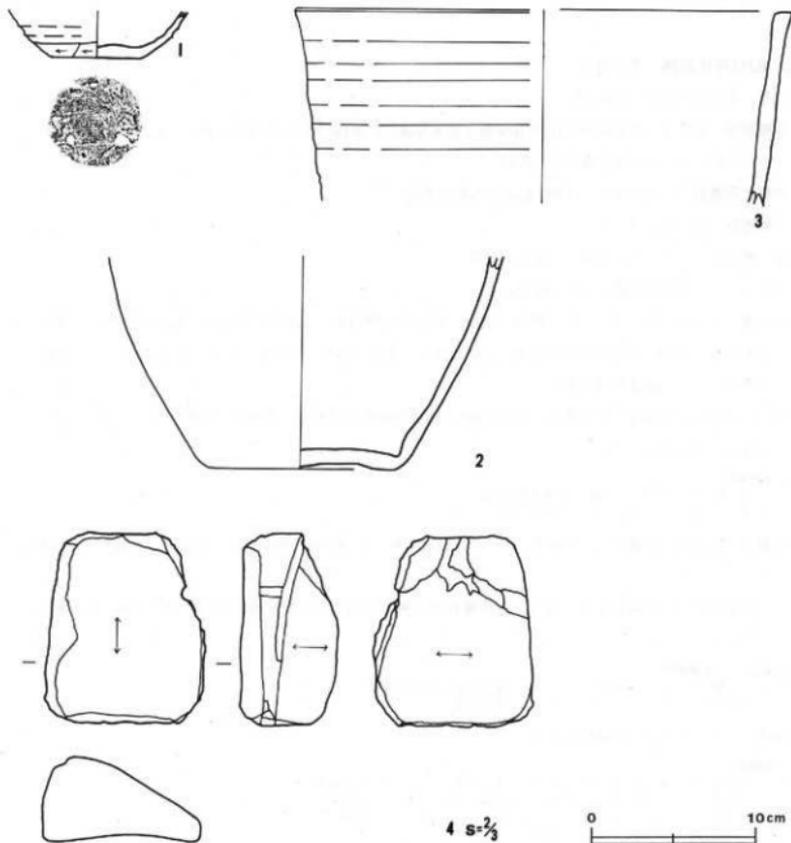
覆土 2層からなる自然堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム大ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量

遺物 土師器片91点, 須恵器片14点, 陶器片1点が出土している。第490図1の須恵器坏は北東壁付近覆土上層から, 2の土師器甕は散在した状態で覆土下層から, 3の須恵器瓶は北西壁付近覆土下層から, 4の砥石は南西壁付近覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は, 遺構の形態及び出土遺物から平安時代(9世紀後半)と思われる。



第490図 第210号住居跡出土遺物実測図

第210号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第490図 1	坏 須恵器	B (2.9) C 5.5	底部から体部片。平底。体部は内 壁して立ち上がる。外面に沈凹状 の窪みが通る。	体部内・外側ロクロナデ。底部手 持ちへう削り調整。体部下端ノ持 ちへう削り。	紫帯・石英・長石 灰白色 普通	P1286 30% 覆土上層 PL105
2	罌 土師器	B (13.0) C 12.0	底部から体部片。平底。体部はや や内彎気味に立ち上がる。	体部内・外面ナデ。	長石・雲母・バミス 鈍い棕色 普通	P1287 20% 覆土下層 PL105
3	瓶 須恵器	A (30.0) B (11.8)	体部から口縁部片。体部は外傾し て立ち上がり、そのまま口縁部 に至る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。	長石・石英・燧 灰白色 普通	P1288 10% 覆土下層 PL105

図版番号	種別	計測値					石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第492図 4	瓶	右	5.9	4.9	2.6	-	85.9	凝灰岩	西宮町遺跡上層 Q309 PL120

第211号住居跡 (第491図)

位置 調査区の北部、D5a区。

重複関係 本跡は、北東部を第212号住居跡と第8号溝に、南西部を第210号住居跡にそれぞれ掘り込まれていることから、3つの各遺構よりも古い。

規模と平面形 長軸6.56m、短軸6.42mの方形である。

主軸方向 N-17°-E

壁 壁高は25~28cmで、外傾して立ち上がる。

床 平坦で、全体的に踏み固められている。

ピット 5か所(P₁~P₅)。P₁~P₃は、径16~33cmの不整形、深さ16~80cmで、配置や規模から主柱穴と思われる。P₄は、径35cmの不整形、深さ12cmで、出入り口ピットと思われる。P₅は、径34cmの不整形、深さ20cmで、性格は不明である。

炉 中央部から南西寄りに位置し、長径140cm、短径48cmの楕円形で、床面を7cm掘り窪めた地床炉である。

炉床は、赤変硬化している。

炉土層解説

- 1 赤褐色 焼土大・中ブロック・焼土粒多量
- 2 黒色 ローム大・中ブロック多量

貯蔵穴 2か所。貯蔵穴1は、南東コーナーに付設され、径58cmの円形で、深さは92cm、断面形は逆台形である。

貯蔵穴2は、貯蔵穴1から西へ1m離れた位置に付設され、径55cmの円形、深さ58cm、断面形は逆台形である。

貯蔵穴1、2土層解説

- 1 黒褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒少量、炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒少量

覆土 11層からなる自然堆積である。

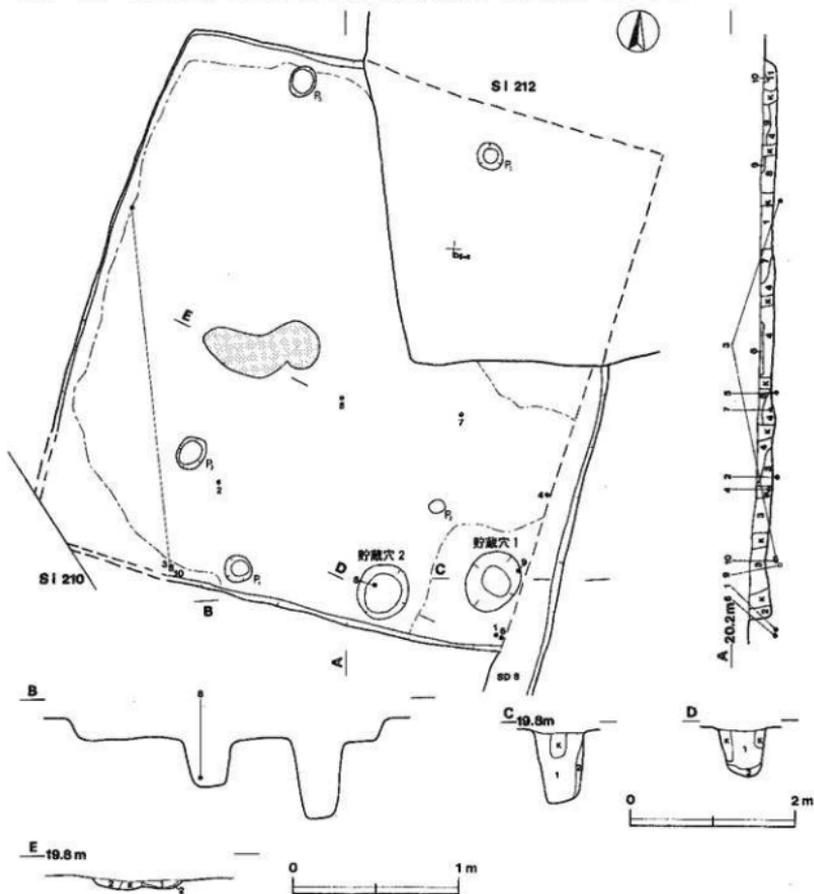
土層解説

- 1 黒褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒少量、ローム大ブロック微量
- 2 黒褐色 ローム粒少量、焼土粒・炭化粒・ローム中ブロック微量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒少量、ローム大ブロック微量
- 4 赤褐色 ローム粒中量、炭化粒・ローム中ブロック少量
- 5 黒色 ローム粒少量、ローム大ブロック微量

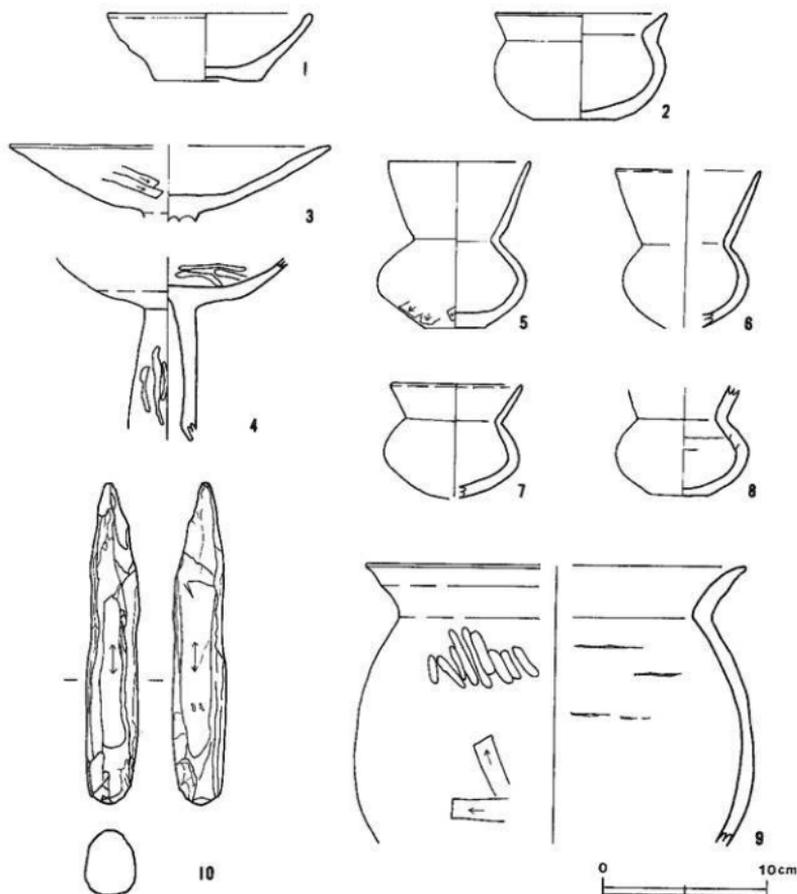
- 6 黒 褐色 炭化粒子・ローム粒子少量、ローム大ブロック微量
- 7 黒 褐色 ローム粒子多量
- 8 暗 褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子多量、炭化粒子少量、ローム大ブロック微量
- 9 黒 褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子中量、ローム大ブロック微量
- 10 黒 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量
- 11 黒 褐色 ローム粒子中量、ローム大・中ブロック少量

遺物 土師器片339点、須恵器片7点が出土している。第492図1の上師器環、6の埴、9の甕は南東コーナー付近覆土下層から、2の土師器碗は南壁付近床面から、10の砥石は同覆土下層から、3の高環は床面から散在した状態で、4の高環、7の埴は東壁付近覆土下層から、5の埴は中央部覆土下層から横位の状態で、8の埴は貯蔵穴内覆土中からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から古墳時代中期（5世紀後半）と思われる。



第491図 第211号住居跡実測図



第492図 第211号住居跡出土遺物実測図

第211号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第492図 1	坏 土師器	A 12.3 B 4.1 C 6.4	口縁部一部欠損。突出した平底。 体部は外傾して立ち上がり、その まま口縁端部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・ 外面ナデ。	長石・石英・雲母・ スコリア 浅黄褐色 普通	P1289 95% 覆土ト層 PL105
2	碗 土師器	A 10.4 B 6.5 C 4.8	口縁部一部欠損。平底。体部は内 傾して立ち上がり、口縁部は「く」 の字状に外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面 ナデ。	長石・雲母・バミス 褐色 普通	P1291 95% 床面 体部外側 剥離 PL105
3	高 土師器 坏 土師器	A [19.4] B (4.6)	坏部片。坏部は外傾して立ち上 がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面 ナデ、外面ヘラ削り。	長石・石英・雲母 純い褐色 普通	P1292 25% 床面

図版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
4	高 杯 上 部 器	B (11.2) E (8.0)	脚部から杯体部片。脚部は凹筒状で下部がやや広い。杯部は外傾して立ち上がる。外面に鈍い稜を持つ。	杯体部内面ヘラ磨き。外面ヘラ削り後ナデ。脚部内面ナデ、外面縦位のヘラ磨き。	長石・石英・雲母 褐色 普通	P1293 50% 覆土下層 PL105
5	塔 上 部 器	A 8.6 B 10.0 C 3.4	底部から口縁部片。平底。体部は算盤玉状で、口縁部は外傾して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。口縁部内・外面ナデ。体部上半ナデ、下半ヘラ削り。	長石・雲母・バミス 鈍い褐色 普通	P1294 90% 覆土下層 PL105
6	塔 土 師 器	A [8.8] B (9.6)	体部から口縁部片。体部は球形形状で、口縁部は舌形的に外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。口縁部内面ナデ。外面ハケナデ。体部上半ナデ、下半ヘラ削り後磨き。	長石 明赤褐色 普通	P1295 30% 覆土下層
7	塔 上 部 器	A 7.9 B (7.0)	体部から口縁部片。体部は算盤玉状で、口縁部は舌形的に外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部上半ナデ、下半強いナデ。	長石 明赤褐色 普通	P1296 70% 覆土下層 PL105
8	塔 土 師 器	B (6.8) C 3.4	底部から体部片。平底。体部は算盤玉状である。	体部内・外面ナデ。内面に輪積み痕を残す。	長石・雲母・バミス 灰褐色 普通	P1297 50% 貯蔵穴内覆土中 PL105
9	壺 土 師 器	A [23.0] B (17.0)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ、外面ヘラ削り一部ヘラ磨き。内面に輪積み痕を残す。	雲母・石英・スコリア 鈍い褐色 普通	P1298 35% 覆土下層

図版番号	種 別	計 測 値					石 質	出土地点	備 考
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)			
第493図10	砥 石	19.6	3.1	4.2	-	396.5	粘 板 岩	新設置層上層	Q310

第212号住居跡 (第493図)

位置 調査区の北部，C5j区。

重複関係 本跡は、第214号住居跡の南西部と第211号住居跡の北東部、さらに第213号住居跡の北西部を掘り込んでいることから、3軒の遺構より新しい。

規模と平面形 一辺4.60mの方形である。

主軸方向 N-12°-W

壁 壁高は24~40cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

床 わずかに凹凸が見られる。中央部は、踏み固められている。

ピット 5か所 (P₁~P₅)。P₁~P₄は、径40~63cmの不整形円形、深さ42~88cmで、配置や規模から主柱穴と思われる。P₅は、径47cmの不整形円形で、出入り口ピットと思われる。

竈 北壁中央部に付設されていたと思われるが、焼土面も薄く、袖部に残っていないため詳細は不明である。

火床部は、皿状に掘り窪められており、煙道部は壁外へ61cm突出し、壁の内側から緩やかに外傾して立ち上がる。

覆土層解説

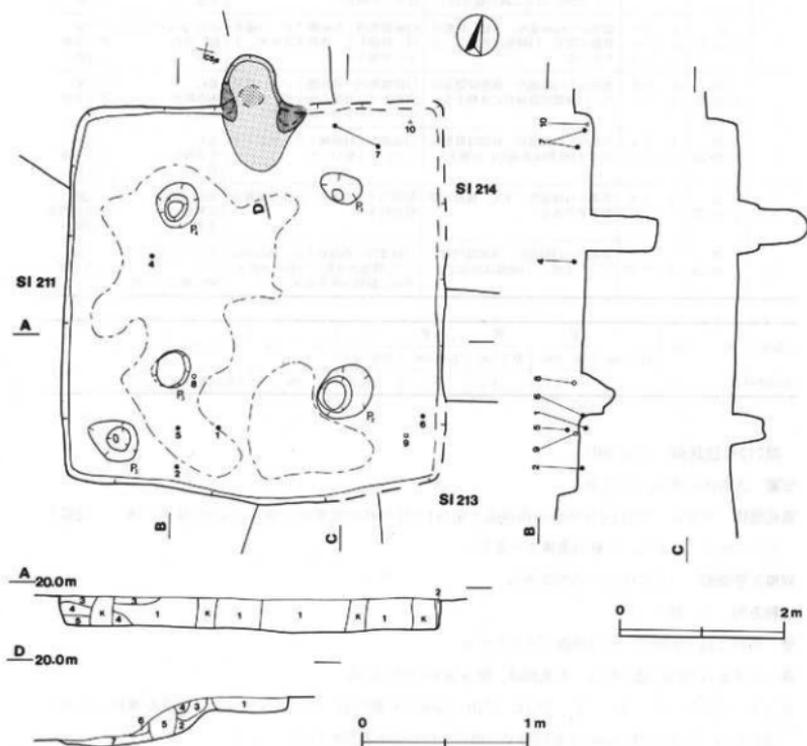
- 1 黒 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 2 黒 褐色 焼土粒子・ローム小ブロック少量、炭化粒子微量
- 3 黄 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 4 黒 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 5 黒 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子・ローム中ブロック微量
- 6 黒 褐色 焼土粒子・ローム粒子少量、ローム中ブロック微量
- 7 黒 褐色 焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子・ローム中ブロック微量

覆土 5層からなる自然堆積である。

土層解説

- 1 黒 褐色 炭化粒子・ローム大・小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック微量
- 2 暗 褐色 ローム中・小ブロック中量

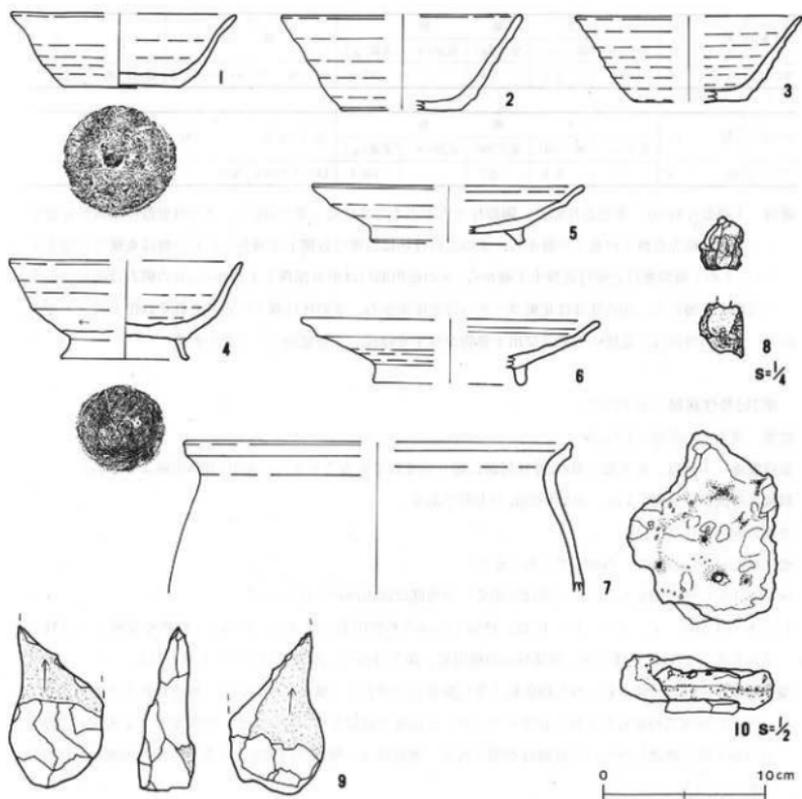
- 3 黒褐色 ローム小ブロック多量、ローム粒子中量、ローム大ブロック少量
 4 黒褐色 ローム小ブロック少量、ローム大・中ブロック微量
 5 暗褐色 ローム粒子中量、ローム中・小ブロック少量、ローム大ブロック微量



第493図 第212号住居跡実測図

第212号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第494図	環須恵器	A [13.6] B 4.5 C 7.2	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に立ち上がり、肩部でわずかに反る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後ナデ調整。底部周縁ナデ。	耀・長石・石英 緑灰色 普通	P1299 70% 床面底部にヘラ 記号あり PL106
2	環須恵器	A [15.8] B 5.8 C [7.0]	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に立ち上がり、そのまま口縁端に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後ナデ調整。底部周縁ナデ。	長石・針状鉱物・礫 鈍い黄褐色 普通	P1300 40% 床面
3	環須恵器	A [13.8] B (5.2) C [7.0]	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に立ち上がり、そのまま口縁端に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後ナデ調整。底部周縁ナデ。	長石 灰色 普通	P1301 30% 覆土中 PL106
4	高台付環須恵器	A [14.1] B 5.9 D 7.7 E 1.1	高台部から口縁部片。「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎気味に外傾して立ち上がり、そのまま口縁端に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ削り後高台削り付け。	長石・石英・雲母 灰色 普通	P1302 55% 覆土中層 PL106



第494図 第212号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
5	甕 須恵器	A [16.4]	高台部から口縁部片。「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は外傾して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面クロコナデ。底部回転へう削り後高台貼り付け。	長石・針状鉱物 灰赤色 普通	P1303 甕土中層 PL106 35%
		B 3.5				
		D [9.4]				
		E 1.0				
6	甕 須恵器	A [18.2]	高台部から口縁部片。直線的に開く高台が付く。体部は外傾して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面クロコナデ。底部回転へう削り後高台貼り付け。	長石・石英・針状 鉱物 灰白色 普通	P1304 甕土下層 20%
		B 3.9				
		D [9.1]				
		E 1.2				
7	甕 土脚器	A [23.4]	体部から口縁部片。体部は内傾して立ち上がり、口縁部は外反する。端部をつまみあげる。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	礫・石英・雲母 普通	P1305 床面 15%
		B (9.3)				

図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第494図8	転用羽口	(4.1)	(3.6)	(4.3)	-	(33.7)	甕土下層	DP150

図版番号	種 別	計 測 値					石 質	出土地点	備 考
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第494図9	砥 石	9.7	5.7	3.4	-	167.0	凝 灰 岩	南東コーナー付近床面	Q31 PL120

図版番号	種 別	計 測 値					出土地点	備 考
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第494図10	鉄 滓	7.9	6.2	2.2	-	100.1	北東コーナー付近床面	M92

遺物 土師器片449点、須恵器片93点、陶器片2点が出土している。第494図1、2の須恵器坏は南壁付近床面から、5の須恵器蓋は同覆土中層から、4の高台付坏は西壁付近覆土中層から、6の蓋は東壁付近覆土下層から、7の土師器甕は北壁付近覆土下層から、8の転用羽口は中央部覆土下層から、9の砥石は南東コーナー付近覆土下層から、10の鉄滓は北東コーナー付近床面から、3の坏は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から平安時代（9世紀前半）と思われる。

第213号住居跡（第495区）

位置 調査区の北部、D5a区。

重複関係 本跡は、北西部を第212号住居跡に掘り込まれていることから、第212号住居跡よりも古い。

規模と平面形 長軸4.45m、短軸4.23mの方形である。

主軸方向 N-19°-W

壁 壁高は27~37cmで、外傾して立ち上がる。

床 わずかに凹凸が見られるが、ほぼ平坦で、中央部は踏み固められている。

ピット 4か所（P₁~P₄）。P₁~P₂は、径60~65cmの不整形円形、深さ92~98cmで、配置や規模から主柱穴と思われる。P₃は、長径50cm、短径45cmの楕円形、深さ31cmで、出入り口ピットと思われる。

竈 北壁中央部に付設され、砂と白色粘土及び凝灰岩の切石とで構築されている。壁をほとんど掘り込みず、その前に凝灰岩の切石を芯材として立て、粘土と山砂で袖部を作っているが、攪乱がひどく火床部に厚さ9cmの焼土層を確認しただけで詳細は不明である。煙道部は、壁外への突出が少なく、壁の内側から急に立ち上がっている。

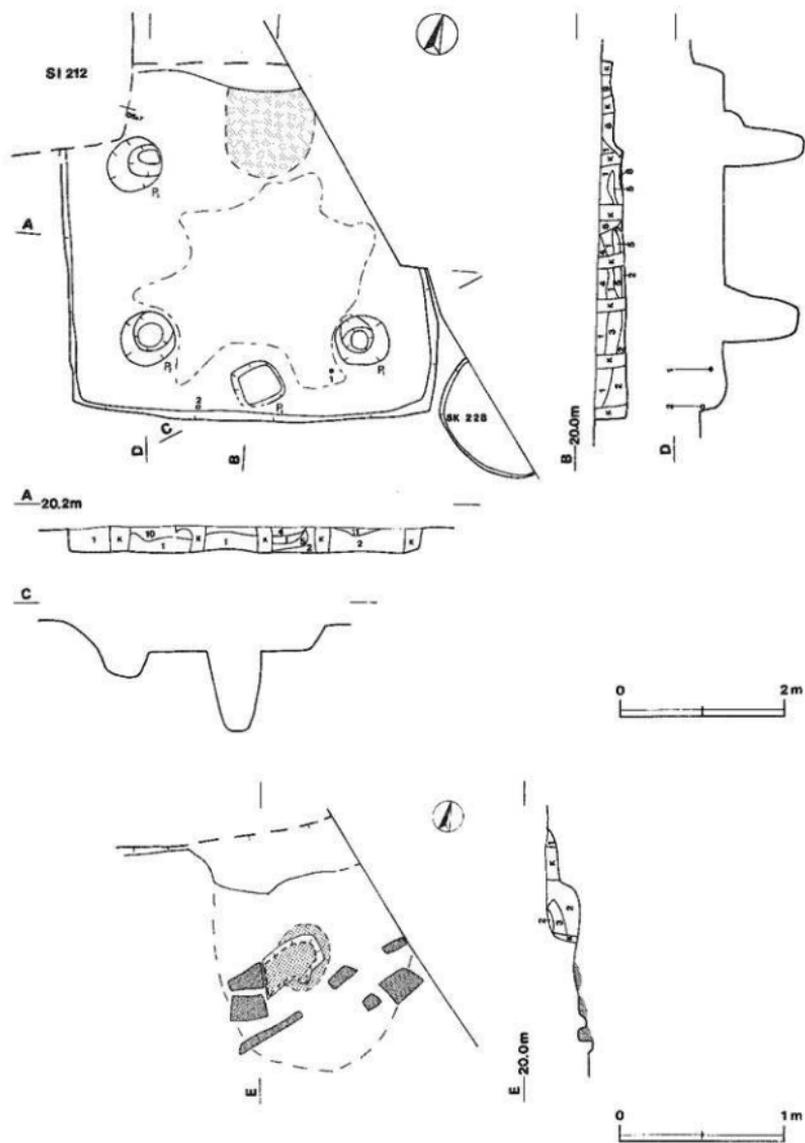
竈土層解説

- 1 褐 色 ローム粒子多量
- 2 オリーブ褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 3 赤 褐色 焼土粒子中量、焼土小ブロック・ローム粒子少量

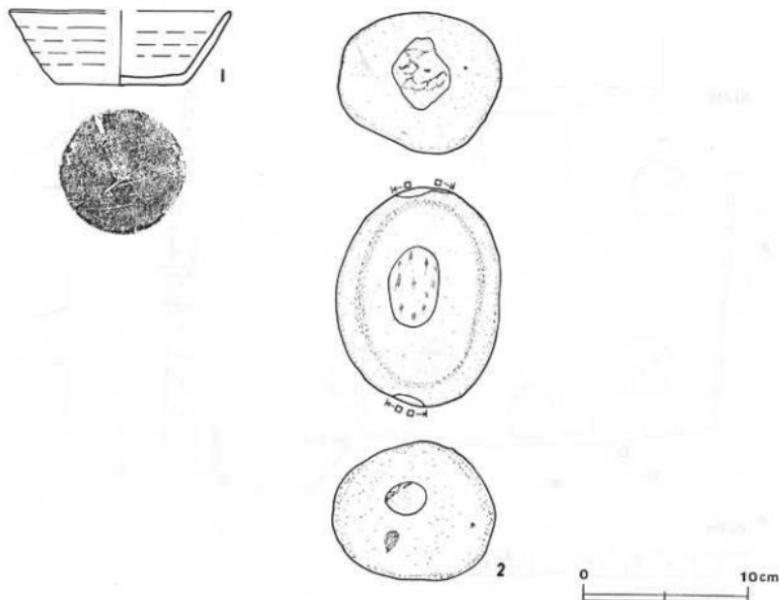
覆土 11層からなる自然堆積である。

土層解説

- 1 黒 褐色 炭化粒子・ローム大・中ブロック少量、ローム粒子微量
- 2 黒 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム大ブロック微量
- 3 黒 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム大・中ブロック微量
- 4 黒 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック微量
- 5 黒 褐色 ローム粒子・粘土粒子少量
- 6 黒 褐色 焼土小ブロック・ローム小ブロック少量
- 7 黒 褐色 焼土粒子少量、ローム中・小ブロック微量
- 8 黒 褐色 粘土粒子中量、炭化粒子・ローム粒子少量、ローム大ブロック微量
- 9 黒 褐色 焼土粒子中量、ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 10 黒 褐色 ローム中ブロック・ローム粒子少量
- 11 黒 褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子少量



第495图 第213号住居跡実測図



第496図 第213号住居跡出土遺物実測図

第213号住居跡出土遺物観察表

回収番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第496図 1	須恵器 環	A [13.4] B 4.5 C 7.8	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に立ち上がり、そのまま口縁端部に至る。	口縁部及び体部内・外面口クロナデ。底部手持ちヘケ削り調整。底部周縁ナデ。	長石・針状鉱物 灰色 普通	P1306 70% 覆土中層 底部にヘケ記号ありPL106

回収番号	種別	計測値					石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第496図2	甎	13.4	9.9	8.45	-	1535.0	花崗岩	南壁付正覆土上層	Q312 磨石家用

遺物 土師器片152点、須恵器片33点、管状土錘片1点が出土している。第496図1の須恵器環は南壁付近覆土中層から、2の甎石は同覆土上層からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は、出土遺物が少なくしかも細片であるため、詳細は不明であるが、第212号住居跡との重複関係、遺構の形態及び出土遺物から奈良・平安時代（8世紀後半～9世紀前半）と思われる。

第214号住居跡（第497図）

位置 調査区の北部，D4j区。

重複関係 本跡は、南西部を第212号住居跡に掘り込まれていることから、第212号住居跡よりも古い。

規模と平面形 大部分がエリア外に延びているため、遺存する西壁で推定すると、一辺4.00m程の方形あるいは長方形と思われる。

主軸方向 N-20°-W

壁 壁高は18~40cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

床 平坦で、中央部は踏み固められている。

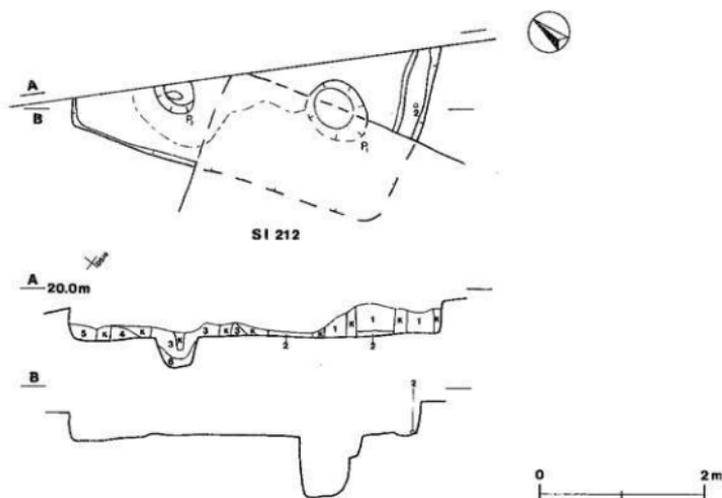
ピット 2か所 (P₁, P₂)。P₁, P₂は、径45~78cmの不整形円形、深さ35~72cmで、配置や規模から主柱穴と思われる。

竈 遺物から見て竈の存在が考えられるが、大部分がエリア外のため不明である。

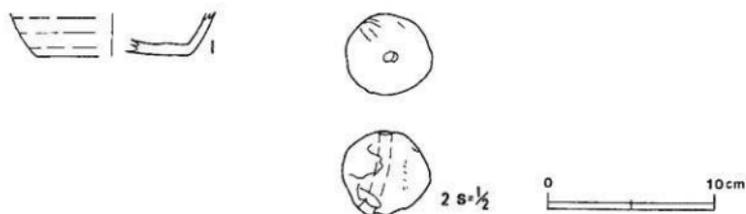
覆土 6層からなる自然堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム大・小ブロック・ローム粒子少量
- 2 黒褐色 ローム大ブロック・ローム粒子中量、粘土粒子少量、炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム大ブロック微量
- 4 黒褐色 ローム大・中ブロック中量、ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 5 黒褐色 ローム粒子少量、ローム大ブロック微量
- 6 褐色 ローム大ブロック中量、ローム中・小ブロック・ローム粒子少量



第497図 第214号住居跡実測図



第498図 第214号住居跡出土遺物実測図

第214号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色澤・焼成	備考
第498図 1	環 須臾器	B [2.6] C [9.0]	底部から体部片。平底。体部は直線的に立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転へり削り。底部手持ちへり削り調整。二次底部面を残す。	長石 灰黄色 普通	P1307 覆十中 35%

図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第498図2	土 瓦	3.3	3.4	3.5	0.4	38.3	須臾器付近層上層	DP151 PL115

遺物 土師器片15点が出上している。第498図1の須臾器環は覆土中から、2の土玉は南東堺付近覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は、出土遺物が少なくしかも細片であるため、詳細は不明であるが、第212号住居跡との重複関係、遺構の形態及び出土遺物等から奈良時代（8世紀頃）と思われる。

第215号住居跡（第499図）

位置 調査区の北部，C5j₃区。

重複関係 本跡は、第216号住居跡の南西部を掘り込んでいることから、第216号住居跡より新しい。

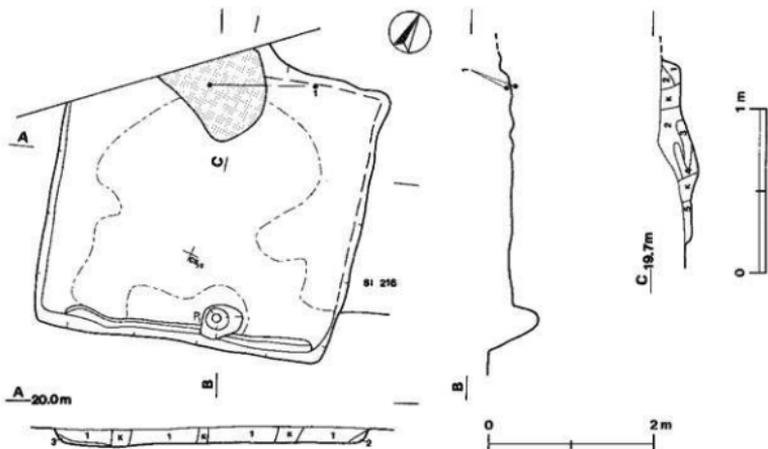
規模と平面形 長軸3.81m，短軸3.52mの方形である。

主軸方向 N-16°-W

壁 壁高は25cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 確認された壁下の内，南壁に壁溝が認められる。上幅約9cm，下幅約6cm，深さ約5cmで、断面形はU字形である。

床 平坦で、大部分が踏み固められている。硬化面は二重になっており、土を入れ、床面を再構築した可能性がある。



第499図 第215号住居跡実測図

ピット P₁は、径40cmの不整形形、深さ32cmで、配置や規模から出入り口ピットと思われる。

竈 北壁中央部に付設され、白色粘土で構築されているが、風化がひどく、焼土と粘土の範囲を窺う範囲として捉えたのみである。火床部は、皿状にわずかに掘り窪められている。煙道部は、エリア外に延びているため不明である。

覆土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化粒少量
- 2 黄褐色 焼土小ブロック・炭化粒了・粘土粒子微量
- 3 暗褐色 焼土粒子少量、焼土小ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
- 4 黒褐色 焼土粒子・炭化粒少量、ローム中ブロック・ローム粒子・粘土粒子微量
- 5 暗褐色 焼土小ブロック・炭化粒了・ローム粒子少量、粘土粒少量

覆土 3層からなる自然堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子・炭化粒了・ローム中ブロック・ローム粒子少量、粘土大ブロック微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量、ローム大ブロック少量
- 3 黒褐色 ローム大ブロック・山砂粒子少量

遺物 土師器片56点、須恵器片5点が出土している。第500図1の須恵器坏は北壁付近床面から出土している。

所見 本跡の時期は、出土遺物が少なくしかも細片であるため確定はできないが、床面資料の坏が出ていることや遺構の形態から平安時代（8世紀末～9世紀初頭）と思われる。



第500図 第215号住居跡出土遺物実測図

第215号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第500図 1	坏 須恵器	A [14.4] B 4.5 C [7.9]	底部から口縁部片。体部は直線的に立ち上がり、そのまま口縁端部に至る。	口縁部及び体部内・外面口ロナア。底部内面へラ切り後ナダ調整。底部腐緑ナア。二次底部面を残す。	粘土・斜状配物 灰色 普通	P1308 40% 床面 PL106

第216号住居跡（第501図）

位置 調査区の北部、C5i₃区。

重複関係 本跡は、南西部を第215号住居跡に掘り込まれていることから、第215号住居跡よりも古い。

規模と平面形 第215号住居跡に掘り込まれ、他の大部分もエリア外に延びているため不明である。

主軸方向 不明

壁 壁高は17～20cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 確認された壁下には、すべて壁溝が巡っており、全周するものと思われる。上幅約18cm、下幅約11cm、

深さ約7cmで、断面形はU字形である。

床 平坦で、大部分が踏み固められている。

ピット 5か所（P₁～P₅）。P₁～P₅は、径24～52cmの不整形形、深さ15～27cmで、性格は不明である。

竈 出土遺物から見て竈の存在が考えられるが、エリア外に延びているため不明である。

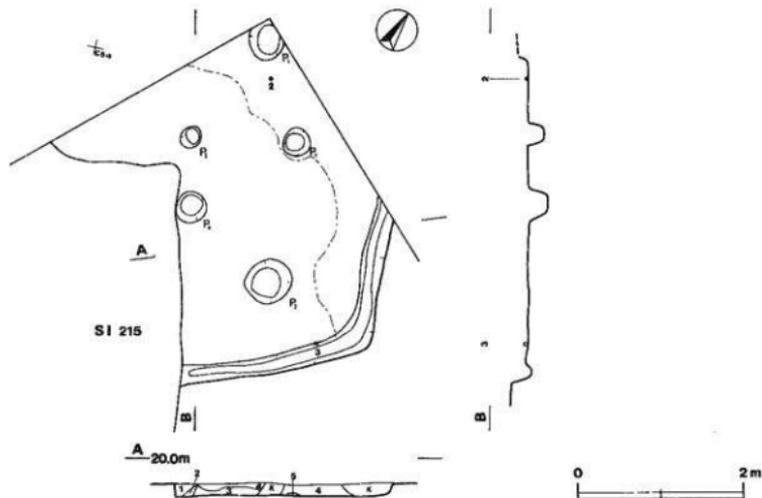
覆土 5層からなる自然堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム中ブロック・ローム粒子少量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 3 黒褐色 炭化粒子・ローム粒子・粘土大ブロック少量
- 4 黒褐色 炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 5 暗褐色 ローム小ブロック中層、粘土小ブロック・ローム粒子少量

遺物 土師器片51点、管状土師片13点が出土している。第502図1の土師器坏は覆土中から、2の甕は中央部床面から、3の灰石は南壁付近覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は、出土遺物が少なくしかも細片であるため、詳細は不明であるが、遺構の形態や2の甕が床面資料であることから奈良時代（8世紀頃）と思われる。

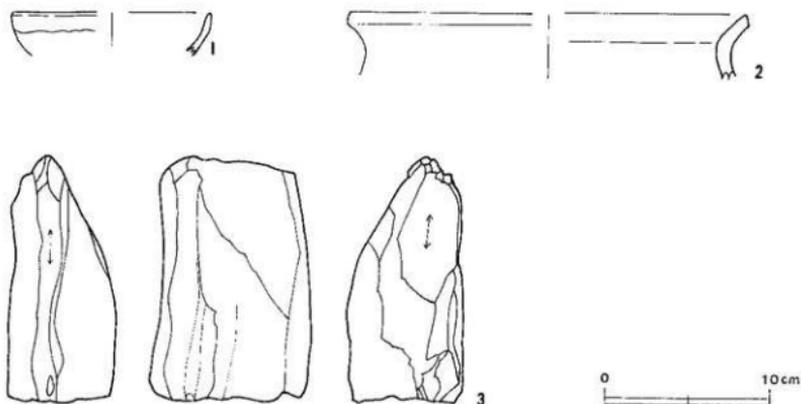


第501図 第216号住居跡実測図

第216号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第502図1	坏 土師器	A 12.0 B (2.6)	体部からL縁部片。体部は内巻して立ち上がり、そのままL縁端部に至る。	L縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。外面ヘク廻り。	スコリア 褐色 青透	P1309 5% 覆土中
2	甕 土師器	A 24.2 B (3.8)	L縁部片。口縁部は外縁する。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒・石英 明赤褐色 青透	P13010 5% 床面

図版番号	種別	計 測 値					石 質	出土地点	備 考
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第502図3	灰 石	15.1	9.9	6.5	-	1025.0	凝 灰 岩	南壁付近覆土下層	Q313 PL120



第502図 第216号住居跡出土遺物実測図

第217号住居跡 (第503図)

位置 調査区の北東部, D5a区。

規模と平面形 本跡中央部を道路が通っているため、道路両側の検出した部分から推定すると、長軸4.96m、短軸4.68mのほぼ方形と思われる。

主軸方向 N-49°-W

壁 壁高は46cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 検出した北東壁及び南西壁下を巡っている。上幅約10cm、下幅約4cm、深さ約6cmで、断面形はU字形である。

床 平坦である。

ピット 4か所 (P₁~P₄)。P₁は径60cmの円形、深さ70cmで、配置や規模から支柱穴と思われる。P₂~P₄は長径26cm、短径22cmの楕円形、深さ28cmで、性格は不明である。

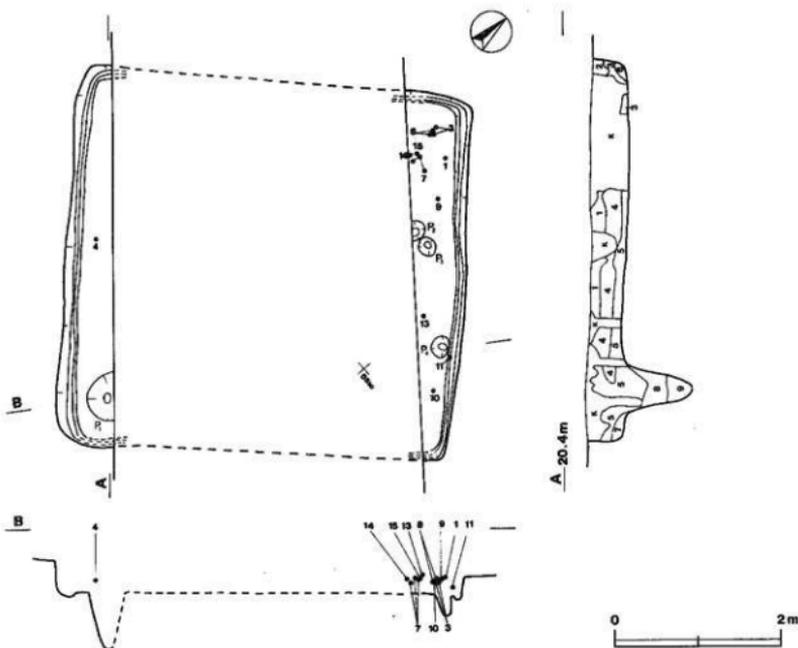
覆土 9層からなる自然堆積である。

土層解説

- 1 黒 色 ローム粒子・ローム小ブロック少量、ローム大ブロック微量
- 2 黒 褐色 ローム粒子中量
- 3 黒 色 ローム粒子少量、ローム小ブロック微量
- 4 暗 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック多量、ローム中・大ブロック中量
- 5 黒 色 ローム粒子・ローム小ブロック少量、ローム中ブロック微量
- 6 黒 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量
- 7 黒 褐色 ローム粒子・ローム小・大ブロック少量
- 8 黒 褐色 ローム粒子・ローム小・中ブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量
- 9 黒 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック・炭化粒子中量

遺物 土師器片550点、須恵器片3点、陶器片1点、石5点、鉄滓154gが出土している。第504図2の土師器の高坏の坏部は正位でP₁の覆土中から出土しており、本跡の廃絶期のもと思われる。3、4の高坏片、11の小形壺は覆土下層から、1の輪、7の高坏、8~10の埴、13の瓶、14の手捏土器、15の須恵器坏は覆土中層からそれぞれ出土している。15の須恵器坏等は流れ込みと思われる。

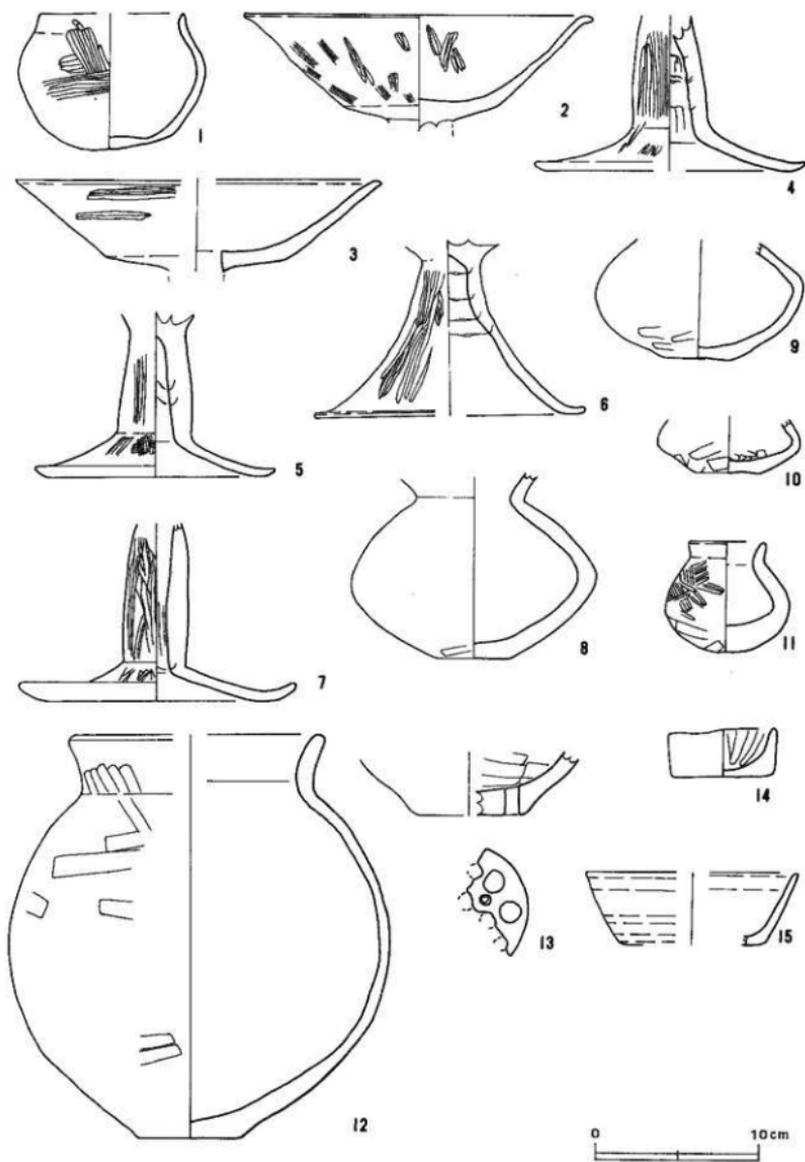
所見 本跡は、出土遺物等から炉を伴っていたと思われるが、検出されなかった。時期は、出土遺物から古墳時代中期（5世紀前半）と思われる。



第503図 第217号住居跡実測図

第217号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第504図 1	灰土師器	A [8.6] B [8.3]	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、上位に最大径をもつ。口縁部はやや内傾する。端部は尖る。	口縁部内・外面ヘラ磨き。体部内面ヘラナデ。外面ナデ後ヘラ磨き。底部内面ヘラナデ。	長石・石英・雲母・燧石・赤褐色 普通	P3067 60% 覆土中層 内面白色地埋 PL107
2	高土師器 環器	A 21.0 B (7.1)	環部片。環部は下位に縁を持ち、直線的に外傾して立ち上がる。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラナデ。外面ハケ目整形後ヘラナデ。	長石・石英・雲母・スコリア・燧石 明褐色 普通	P3068 50% ピット内覆土中 PL107 体部外面煤付着
3	高土師器 環器	A [22.2] B (15.5)	環部片。環部は下位に縁を持ち、直線的に外傾して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。外面ナデ後磨き。	石英・雲母・スコリア・燧石 褐色 普通	P3069 50% 覆土下層 環器部に孔を付す。
4	高土師器 環器	D [16.6] E (9.4)	脚部から縮部片。脚部は下位が膨らむ円柱状を呈する。縮部はラッパ状に開き、端部は外反する。	脚部内面下部ナデ。外面縦位ヘラ磨き。縮部内面ナデ。外面ナデ後磨き。	長石・石英・雲母・燧石 褐色 普通	P3070 35% 覆土下層 PL107 脚部内面に輪積み痕を残す。
5	高土師器 環器	D 14.7 E (10.7)	脚部から縮部片。脚部は柱状を呈し、下位で大きく開き、端部は反る。柱状部先端に環部との接合痕を持つ。	脚部内面ナデ。外面縦位ヘラナデ。縮部内面横ナデ。外面ナデ後磨き。	石英・雲母・燧石 褐色 普通	P3071 45% 覆土中 PL107 脚部内面に輪積み痕を残す。



第504图 第217号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
6	高土師器	B (10.7) D (16.5) E 9.5	胴部から頸部片。胴部はラッパ状に開き、肩部は僅かに反る。	胴部内面ナデ、外面ヘラ磨き。胴部内・外面横ナデ。	長石・石英・雲母・鐵・スコリア 鈍い橙色 普通	P3072 30% 覆土中層 PL107 胴部内面に輪痕み痕を残す。
7	高土師器	B (10.0) D 16.7 E (8.8)	胴部から裾部片。胴部は杖状を呈し、下方が膨らむ。根部はラッパ状に開き、肩部は外反する。	胴部内面ナデ、外面腹位のヘラ磨き。胴部内・外面横ナデ。	長石・石英・雲母・スコリア・鐵 褐色 普通	P3073 40% 覆土中層 PL107
8	埴土師器	B (11.1) C 4.5	口縁部欠損。平底。体部は中位に最大径を持ち、算盤土状を呈する。頸部は「く」の字状に外反する。	口縁部内・外面ナデ。体部内面ヘラナデ、体部外面下端ヘラ削り。底部ヘラナデ。	砂粒・長石・雲母・鐵・小石 明赤褐色 普通	P3074 85% 覆土中層 表面細磨 PL107
9	埴土師器	B (7.3) C 4.3	底部から頸部片。平底。体部は内側しながら立ち上がり、中位に最大径をもつ。	体部内面ナデ、外面下端ヘラ削り。底部外面ヘラ削り。	長石・雲母・パミス 内：赤黒色、外： 赤色 普通	P3075 40% 覆土中層 PL107 内面黒色処理、外面一部磨き
10	埴土師器	B (3.4) C 4.0	底部から体部片。平底。体部は外傾して立ち上がり、下位で最大径を持つ。	体部内面ヘラナデ、外面下端ヘラ削り。	長石・雲母 鈍い黄褐色 普通	P3076 30% 覆土中層 PL107
11	小形埴土師器	A 4.7 B 6.8	口縁部・部欠損。丸底。体部は器肉厚で、下位に最大径をもつ。口縁部は短く、僅かに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面上半部ヘラ磨き、下半部ヘラ削り後ナデ。	砂粒・長石・雲母・針状鉱物 鈍い赤褐色 普通	P3077 95% 覆土下層 PL107
12	埴土師器	A [15.0] B 24.8 C 6.2	底部から口縁部片。平底。体部は内側しながら立ち上がり、球形状を呈する。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部外面ヘラ削り後ナデ。体部外面上部網目目整形後ヘラナデ。	長石・雲母・針状鉱物 鈍い橙色 普通	P3078 65% 覆土中層 PL108
13	埴土師器	B (3.4) C 6.8	底部片。多孔式。体部は内側気味に外傾して立ち上がる。	体部内・外面ヘラナデ。	長石・石英・雲母・鐵 暗赤褐色 普通	P3079 5% 覆土中層 外面黒色
14	手捏土師器	A 6.7 B 3.0 C 6.3	底部から口縁部片。平底。体部はほぼ垂直に立ち上がり、そのまま口縁部に至る。	体部内面横ナデ、外面ナデ。	長石・雲母・スコリア・パミス 赤色 普通	P3080 80% 覆土中層
15	埴土師器	A [13.0] B 4.5 C 7.1	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がり、そのまま口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部回転ヘラ削り後ヘラナデ調整。	長石・雲母・鐵・針状鉱物 灰色 良好	P3081 15% 覆土中層 PL107

第218号住居跡 (第505図)

位置 調査区の北部、D5d区。

重複関係 本跡は、第9号溝を掘り込んでおり、第9号溝より新しい。

規模と平面形 長軸3.14m、短軸3.00mの方形である。

主軸方向 N-72°-W

壁 壁高は20~22cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

床 平坦で、中央部に部分的に踏み固められたところが見られる。

炉 中央から北西寄りに位置し、長径50cm、短径32cmの楕円形で、床面を5cm掘り穿めた地床炉である。炉床は、亦変硬化している。

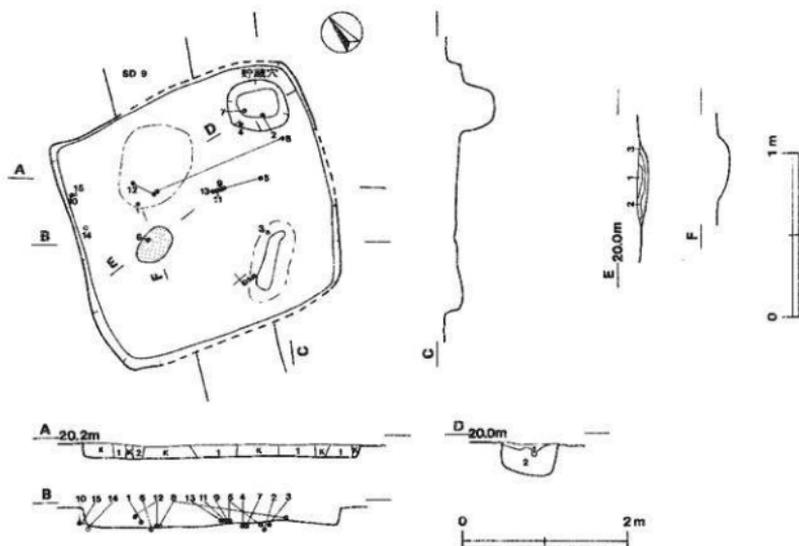
炉土層解説

- 1 暗褐色 焼土粒子少量
- 2 暗赤褐色 焼土中ブロック・焼土粒中量、炭化した少量
- 3 褐色 焼土粒子・ローム粒子少量

貯蔵穴 東コーナーに付設され、長径70cm、短径60cmの楕円形で、深さは40cmである。断面形は、逆台形である。

貯蔵穴土層解説

- 1 黒色 ローム粒子少量
- 2 黒褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量



第505図 第218号住居跡実測図

覆土 2層からなる自然堆積である。

土層解説

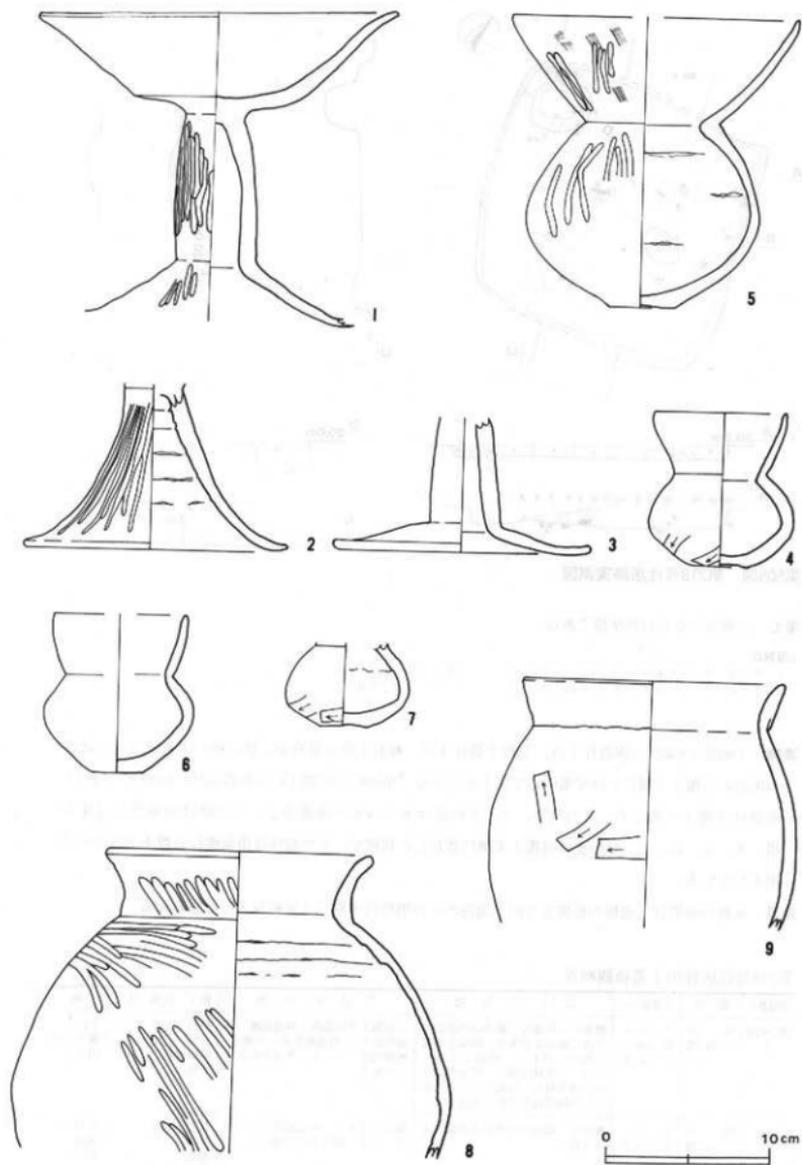
- 1 黒褐色 炭化粒子・ローム中・小ブロック・ローム粒子少量
- 2 黒褐色 ローム中ブロック中量, ローム小ブロック・ローム粒子少量

遺物 土師器片938点, 陶器片1点, 手捏土器片1点, 軽石1点の遺物が, 住居跡の南東壁寄りと北西壁寄りの床面から覆上下層にかけて集中して出土している。第506・507図1の土師器高坏, 10の甕, 14の土玉は北西壁付近覆土下層から, 2の高坏, 4, 7の埴は東コーナー床面から, 6の埴は中央部付近床面, 5の埴, 8, 9, 11, 12, 13の甕は同覆上下層に散在した状態で, 3の高坏は南東壁付近覆上下層からそれぞれ出土している。

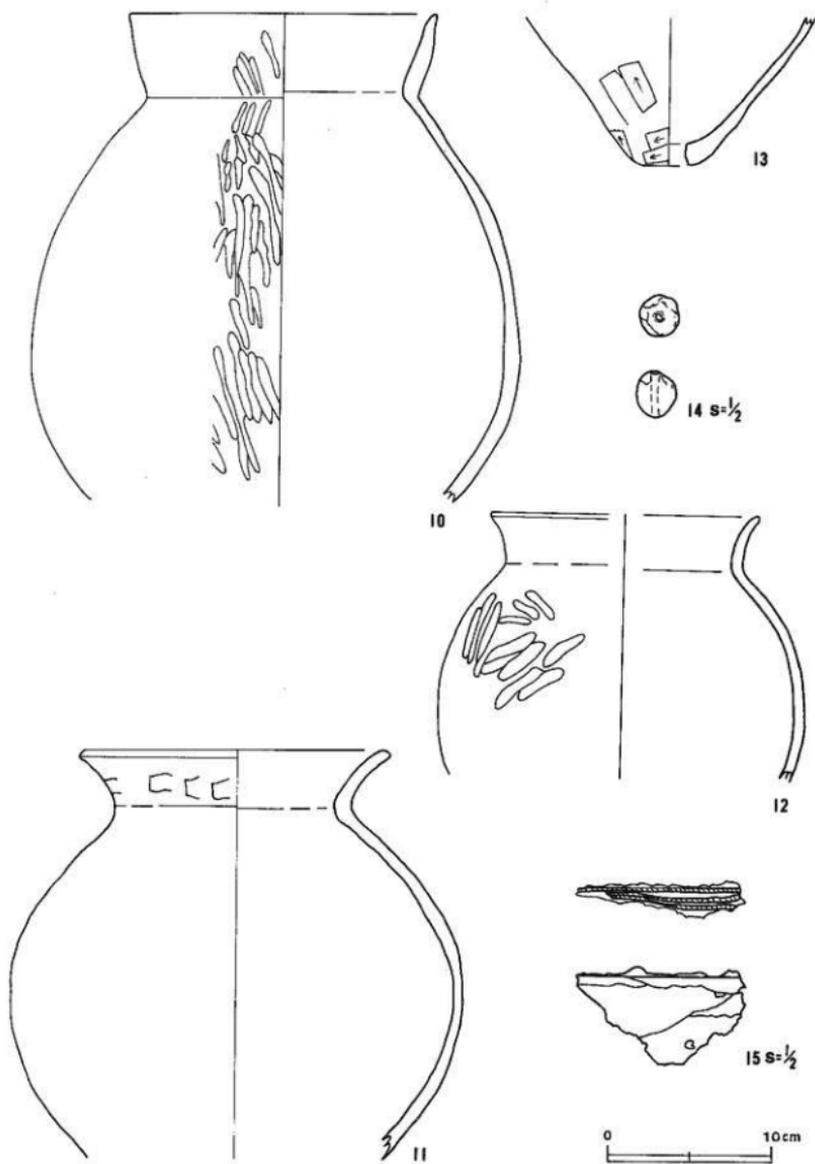
所見 本跡の時期は, 遺構の形態及び出土遺物から古墳時代中期(5世紀後半)と思われる。

第218号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計面積(m)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第506図 1	高坏 土師器	A 21.6 B (19.3) E (12.8)	胴部から外縁片。胴部は円筒状で下方に膨らみがあり, 裾部との接合部がくびれる。裾部は大きく「ハ」の字状に開く。外縁部は下位に線を打ち, 外縁して立ち上がり, 口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面刺彫。胴部内面ナデ, 外面縦位のヘラ磨き。無部内面ハケナデ, 外面放射状のヘラ磨き。	長石・雲母・スコリア 鈍い褐色	P1311 85% 覆土下層 PL106
2	高坏 土師器	D 16.1 E (9.8)	胴部片。胴部は円筒形で裾部で大きく開く。	胴部内面ナデ, 外面縦位のヘラ磨き。内面に輪積み痕を残す。	長石・石英・スコリア 褐色 普通	P1312 60% 床面 PL106



第506图 第218号住居跡出土物実測图(1)



第507图 第218号住居跡出土遺物実測図(2)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
3	高坏十師器	D 15.6 E (8.3)	胴部片。胴部は円筒状で、頸部は大きく「ハ」の字状に固く。	胴部内面ナデ、外側輪磨。胴部内面横ナデ。	長石・石英 鈍い褐色 普通	P1313 60% 覆上下層 底部 外面刷磨 PL106
4	埴土師器	A 8.1 B 9.6 C 3.4	口縁部一部欠損。平底。体部は算盤玉状で口縁部はわずかに内彎気味に立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。口縁部内・外面ナデ。体部上半ナデ、下半ヘラ磨り。	長石・雲母・石英・バミス 鈍い褐色 普通	P1314 90% 床面 PL106
5	埴土師器	A [17.4] B 17.7 C 4.0	底部から口縁部片。平底。体部は球形状で口縁部は内彎気味に立ち上がり、そのまま口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。口縁部内面ナデ、外面ハケナデ後ヘラ磨き。体部内面ナデ、外面ヘラ磨き。内面に輪磨み痕を残す。	石英・雲母・スコリア 鈍い褐色 普通	P1315 40% 覆上下層 PL106
6	埴土師器	A [8.0] B 9.8 C 3.2	底部から口縁部片。平底。体部は算盤玉状で、口縁部は内彎気味に立ち上がり、そのまま口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。口縁部及び体部内・外面ナデ。	長石 赤褐色 普通	P1316 70% 床面 PL106
7	埴土師器	B (5.1) C 2.9	底部から体部片。平底。体部は算盤玉状である。	体部内面ナデ、外面上半ナデ、下半ヘラ磨り。内面に輪磨み痕を残す。	長石・雲母・石英 褐色 普通	P1317 60% 床面 PL106
8	壺土師器	A 15.8 B 18.5	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内面横ナデ、外面横ナデ後ヘラ磨き。体部内面ナデ、外面ヘラ磨き。内面に輪磨み痕を残す。	長石 鈍い赤褐色 普通	P1318 25% 覆土下層 PL106
9	壺土師器	A 15.8 B (15.0)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ、外面ヘラ磨り。	長石・石英・バミス 鈍い褐色 普通	P1319 45% 覆土下層 PL106
第507図10	壺土師器	A 18.5 B (29.7)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は「く」の字状に外傾する。	口縁部内面磨き、外面縦位のヘラ磨き。体部内面ナデ、外面ヘラ磨き。	長石・雲母・スコリア 明赤褐色 普通	P1320 30% 覆土下層 PL106
11	壺土師器	A 18.4 B (25.0)	体部は球形状で、口縁部は「く」の字状に外傾する。	口縁部内面横ナデ、外面強いナデ。体部内・外面ナデ。	珪石・長石・雲母・石英・バミス 赤褐色 普通	P1321 30% 覆土下層 PL106
12	壺土師器	A [16.2] B (16.1)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ、外面ヘラ磨き。	長石・石英・スコリア・雲母 鈍い褐色 普通	P1322 20% 覆土下層 PL106
13	壺土師器	B (9.0) C 3.4	底部から体部片。単孔式。体部は外傾して直線的に立ち上がる。	体部内面ナデ、外面ヘラ磨り。	長石・石英・雲母 鈍い褐色 普通	P1323 30% 覆土下層 PL107

図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第507図14	上	E	1.7	1.7	1.9	-	4.8	覆上下層 DP152 PL115

図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第507図15	不明鉄製品	(6.9)	(4.0)	1.4	-	(16.1)	北原町北東土層 M93 PL124	

第219号住居跡 (第508図)

位置 調査区の北東部，C5e区。

規模と平面形 本跡の北西部は調査区外に伸びている。長軸(4.30)m、短軸3.82mの長方形と思われる。

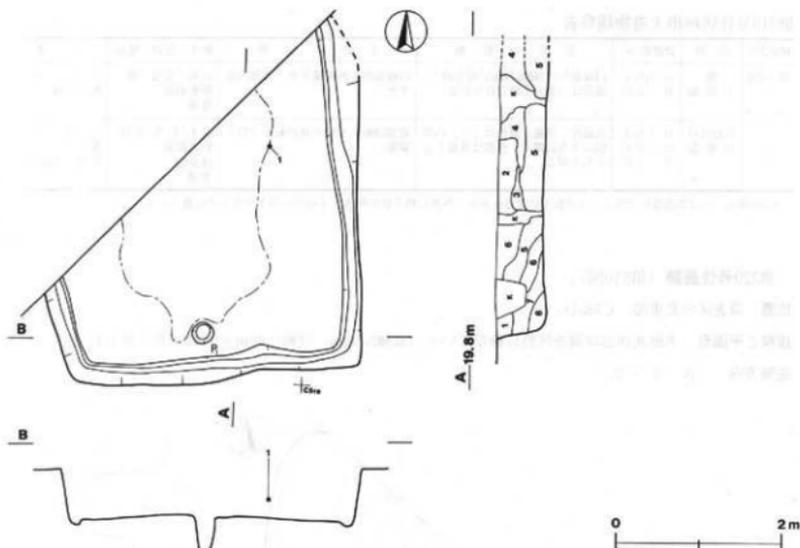
主軸方向 N-7°-W

壁 壁高は64cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 検出した壁下すべてに巡っている。上幅約14cm、下幅約10cm、深さ約6cmで、断面形は皿状である。

床 ほぼ平坦であるが、中央部が若干高まり、踏み固められている。

ピット P₁は径16cmの円形、深さ44cmで、配置や規模から出入り口ピットと思われる。



第508図 第219号住居跡実測図

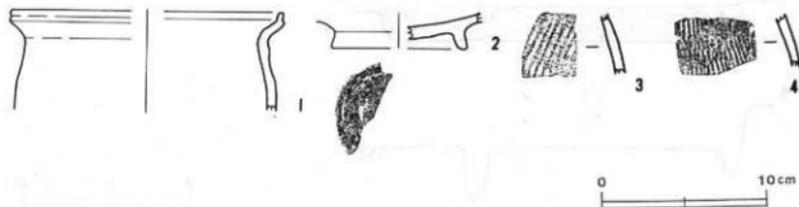
覆土 耕作機械による攪乱をうけているが、8層からなる自然堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・ローム小・大ブロック少量
- 2 黒褐色 ローム粒子・ローム小・中ブロック・炭化粒子少量
- 3 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック中量
- 4 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量
- 5 黒褐色 ローム粒子・ローム小・中ブロック少量、ローム大ブロック微量
- 6 黒色 ローム粒子・ローム小ブロック少量、ローム大ブロック微量
- 7 黒褐色 ローム粒子少量、ローム中ブロック微量
- 8 暗褐色 ローム粒子・ローム小・中ブロック中量

遺物 土師器片95点、須恵器片30点、鉄製品片、石6点が出土している。第509図1は土師器の甕片、2は須恵器の高台付坏片、3・4は須恵器の甕片の拓影図で、いずれも中央部覆土中～下層から出土している。

所見 出土遺物は細片が多く、また本跡は調査区外に伸びるため完全に検出されていないので時期について確かなこと分らないが、隣接する第220号住居跡と主軸方向が同じことなどから平安時代（9世紀頃）のものと思われる。



第509図 第219号住居跡出土遺物実測図

第219号住居跡出土遺物観察表

図取番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第509図 1	姜 上脚器	A 16.4 B (6.2)	口縁部片、口縁部外面に稜を打ち、 肩部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面 ナデ。	石英・雲母・礫 明赤褐色 普通	P3082 10% 層十中層
2	高台付環 須恵器	B (2.4) D (8.6) E 1.0	底部片。平底。高台は「ハ」の字 状に下方に開く。体部は外傾して 立ち上がる。	底部回転ヘラ切り後回転ヘラ削り 調整。	長石・石英・雲母・ 針状鉱物 浅黄褐色 普通	P3083 10% 層十中 底部ヘラ記号

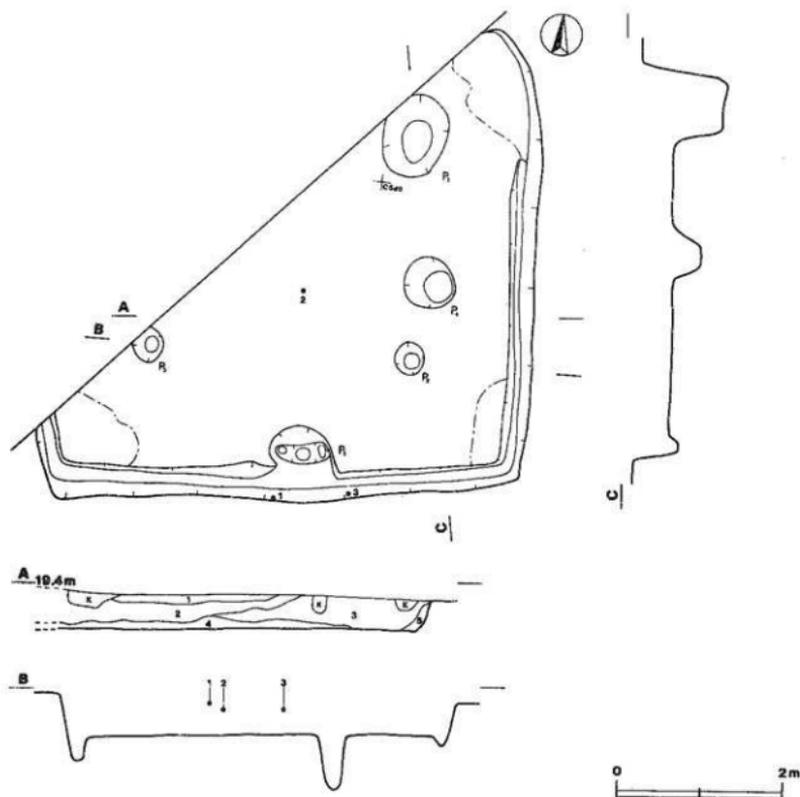
第509図 3・4は須恵器片である。3は胎土に雲母を含み、外面に格子状の叩き、4は平行叩きがそれぞれ施されている。

第220号住居跡 (第510図)

位置 調査区の北東部、C5d区。

規模と平面形 本跡北西部は調査区外に伸びている。長軸5.90m、短軸5.60mのほぼ方形と思われる。

主軸方向 [N-7°-W]



第510図 第220号住居跡実測図

壁 壁高は40~50cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 東壁の北部を除き、検出した壁下を巡っている。上幅約18cm、下幅約10cm、深さ約12cmで、断面形はU字形である。

床 平坦で、各コーナー部を除き踏み固められている。

ピット 5か所 (P₁~P₅)。P₁は長径100cm、短径76cmの楕円形、深さ60cmで、配置や規模から主柱穴と思われる。土層からは柱の立て替えが考えられる。P₂~P₄も径42cmの円形、深さ30~68cmで、配置や規模から主柱穴と思われる。P₅は長径70cm、短径22cmの長楕円形、深さ44~66cmで、出入り口ピットと思われる柱穴が階段状になっていることからつけ替え等が考えられる。P₄は径66cmの円形で、深さ32cm、断面形が遊台形を呈し、性格は不明である。

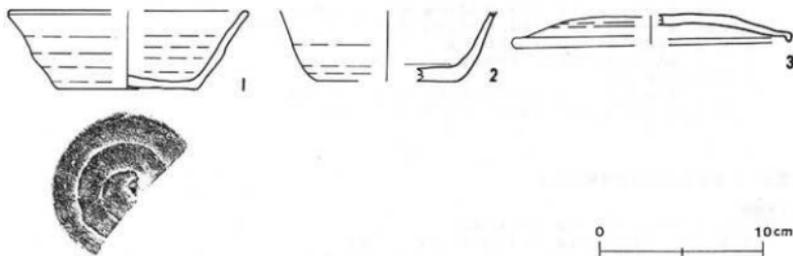
覆土 5層からなる自然堆積である。

土層解説

- 1 黒色 ローム粒子少量、ローム大ブロック微量
- 2 黒褐色 ローム粒子・ローム小・中ブロック・炭化粒子少量、ローム大ブロック微量
- 3 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量、ローム中・大ブロック微量
- 4 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量
- 5 黒褐色 ローム粒子中量、ローム大ブロック微量

遺物 土師器片333点、須恵器片36点、石14点、鉄滓が出土している。第511図の1・2は須恵器の坏片、3は須恵器の蓋片で、1、3は南壁際覆土上層、2は中央部覆土上層からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から平安時代(8世紀後半)と思われる。



第511図 第220号住居跡出土遺物実測図

第220号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第511図 1	坏 須恵器	A [14.6] B 4.8 C 8.7	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がり、そのまま口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部回転ヘラ切り。	長石・石英・雲母・針状鉱物 灰色 良好	P3084 覆土上層 PL107 45%
	坏 須恵器	B (4.3) C [8.4]	底部から体部片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。	体部内・外面横ナデ。底部回転ヘラ切り後ヘラナデ調整。二次底部面を残す。	長石・石英・雲母・針状鉱物 灰黄色 良好	P3085 覆土上層 PL107 10%
3	蓋 須恵器	A [16.6] B (1.8)	天井部は偏平で、口縁部は屈曲し、僅かに垂下する。	天井部回転ヘラ削り調整。口縁部横ナデ。	長石・石英・雲母・針状鉱物 灰色 良好	P3086 覆土上層 PL107 15%

第221号住居跡 (第512図)

位置 調査区の北東部、C5f₄区。

重複関係 本跡は、第236号住居跡を掘り込み、第222号住居跡に掘り込まれていることから、第236号住居跡より新しく、第222号住居跡より古い。

規模と平面形 長軸5.02m、短軸4.32mの長方形と思われる。

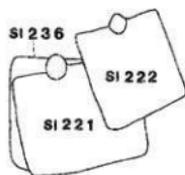
主軸方向 N-13°-W

壁 壁高は30~40cmで、外傾して立ち上がる。

床 中央部は若干高まり、踏み固められている。

ピット 4か所 (P₁~P₄)。P₁~P₂は長径60~70cm、短径50~56cmの楕円形、P₃は径58cmの円形、深さ56~80cmで、配置や規模から主柱穴と思われる。P₃は底面が2つに分かれているので、炬で替えまたは第23号住居跡に伴うもの等が想定される。P₄は径64cmの円形、深さ30cmで、出入り口ピットと思われる。

竈 北壁の西寄りを壁外に80cm程掘り込んで砂質粘土で構築されている。規模は長さ154cm、幅110cmである。袖部はロームを掘り込み、芯材の凝灰岩に補強材として土器片を入れた砂質粘土を貼り付けて構築されている。火床部は皿状に若干削り窪め、赤変硬化している。煙道部は火床部からゆるやかに立ち上がり、先端部で傾斜を強めている。



竈土層解説

- 1 黒 褐色 粘土粒子中量、焼土小ブロック少量、ローム粒子・焼土粒子微量
- 2 黒 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック・焼土小ブロック・粘土粒子少量、炭化粒子微量
- 3 黒 褐色 焼土粒子・焼土小ブロック少量、炭化粒子・粘土粒子微量
- 4 黒 褐色 焼土小・中ブロック・粘土粒子少量、炭化粒子微量
- 5 黒 褐色 ローム粒子・焼土粒子・焼土大ブロック・粘土粒子少量
- 6 黒 褐色 焼土粒子・粘土粒子少量、焼土小ブロック微量
- 7 オリーブ褐色 焼土粒子・焼土小・中ブロック・粘土粒子中量、焼土大ブロック微量
- 8 黒 褐色 焼土粒子・焼土小ブロック中量、粘土粒子少量、焼土中ブロック・炭化粒子微量
- 9 黒 褐色 焼土粒子・焼土中ブロック・粘土粒子中量
- 10 黒 褐色 凝灰岩大ブロック中量、ローム粒子少量
- 11 純い黄褐色 焼土粒子中量
- 12 黒 褐色 焼土粒子・焼土小・中・大ブロック・粘土粒子・凝灰岩中ブロック少量
- 13 黒 褐色 粘土粒子少量、焼土粒子・焼土大ブロック・粘土大ブロック微量

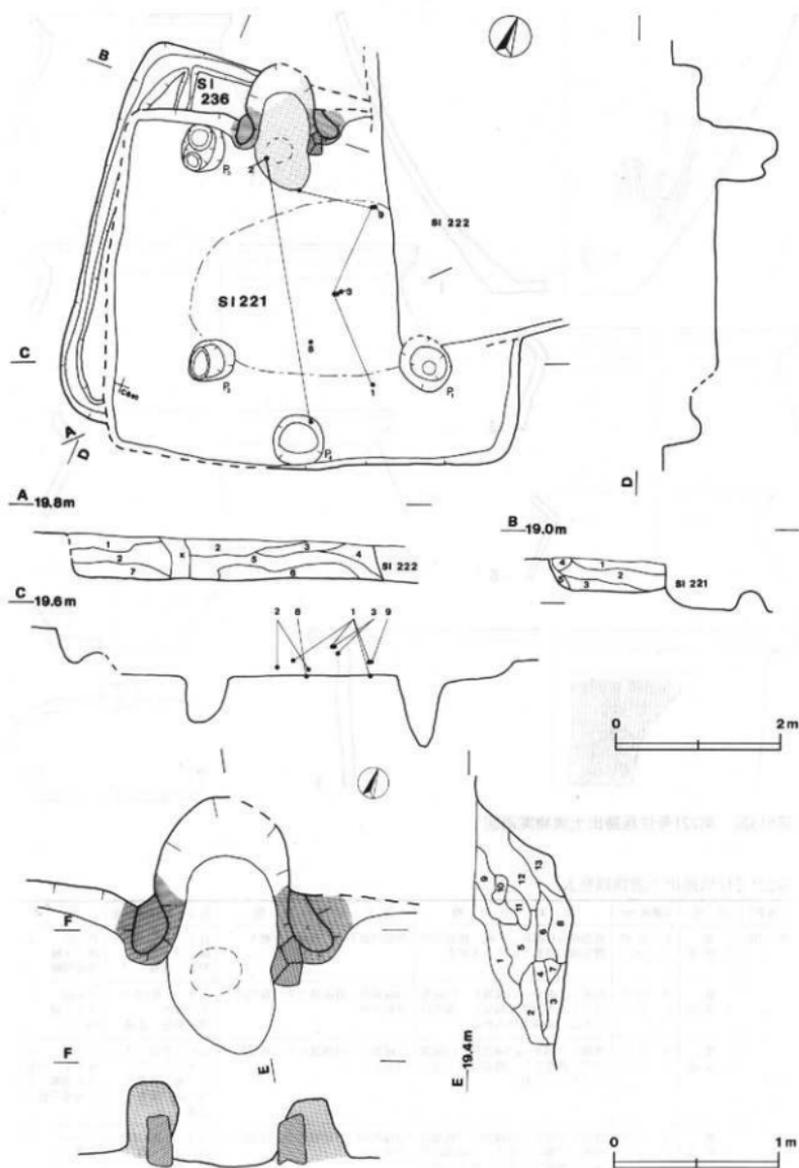
覆土 7層からなる自然堆積である。

土層解説

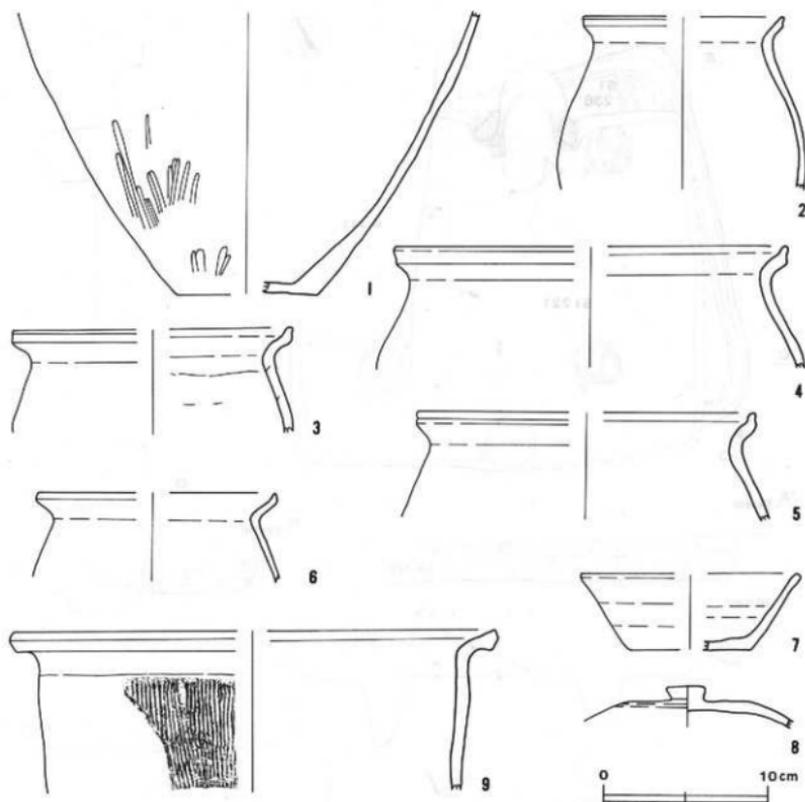
- 1 黒 褐色 ローム小ブロック少量、ローム粒子微量
- 2 黒 褐色 ローム小ブロック少量、ローム粒子・ローム中ブロック微量
- 3 黒 褐色 ローム粒子・ローム小・中・大ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 黒 褐色 ローム粒子・ローム小・中ブロック・炭化粒子微量
- 5 黒 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量、ローム中ブロック微量
- 6 黒 褐色 ローム粒子・ローム小・中ブロック中量、炭化粒子微量
- 7 黒 褐色 ローム中ブロック少量、ローム粒子・ローム小・大ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

遺物 土師器片291点、須恵器片69点、石19点、鉄製品片が出土している。第513図1~6は土師器片で、1の甕、2の甕は散在した状態で覆土下層から、4~6の甕は甕の袖部や竈覆土中からそれぞれ出土している。7~9は須恵器片で、8の蓋と9の甕は中央部覆土下層から出土している。

所見 本跡は、第236号住居跡(古墳時代中期)を掘り込み、第222号住居跡(9世紀後半)に掘り込まれていることや出土遺物等から、時期は平安時代(9世紀前半)と思われる。



第512图 第221·236号住居跡实测图



第513図 第221号住居跡出土遺物実測図

第221号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第513図 1	甕 土器	B [17.6] C [8.3]	底部から体部片。平底。体部は内 壁気味に外傾して立ち上がる。	体部内面ナデ、外面へツ磨き。	長石・石英・雲母・ 障・バミス 褐色 普通	P3087 20% 覆土下層 外面剥離
2	甕 土器	A [12.0] B 10.5	体部上半部から口縁部片。口縁部 は「く」の字状に外反し、端部は 上方につまみ上げられる。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・ 外面ナデ。	長石・石英・雲母・ スコリア・バミス 明赤褐色 普通	P3088 20% 覆土下層 PL107
3	甕 土器	A [17.0] B (6.3)	体部上半部から口縁部片。口縁部 中位に稜をもち、端部は外上方に つまみ上げられる。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・ 外面ナデ。	長石・雲母・スコ リア・バミス 内：鈍い黄褐色 外：鈍い褐色	P3089 10% 覆土上～中層 外面剥離。内面 に輪積み痕を残 す。 普通
4	甕 土器	A [23.8] B (7.4)	体部上半部から口縁部片。体部は 内傾して頸部に至る。口縁部は外 反し、端部は上方につまみ上げら れる。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・ 外面ナデ。	長石・石英・雲母・ スコリア・礫 鈍い褐色 普通	P3090 10% 覆土中

調査番号	器種	寸法(cm)	器形の特徴	手法の特徴	新土・色調・焼成	備考
5	要 上 脚 器	A [20.3] B (6.6)	体部上半部から口縁部片。体部は内傾して頸部に至る。口縁部は外反し、肩部は上方につまみ上げられる。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ヘラナデ。	長石・石英・雲母・スコリア・礫 鈍い褐色 普通	P3091 5% 覆土上中
6	壺 上 脚 器	A [14.4] B (5.4)	体部上半部から口縁部片。口縁部は「J」の字状に外反する。肩部は上方につまみ上げられる。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・石英・雲母・スコリア・礫 褐色 普通	P3092 5% 底縁部内
7	坏 須 器 器	A [13.4] B 4.7 C [7.4]	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。口縁部はやや外反する。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部回転ヘラ切り後へラ削り調整。	長石・雲母・礫・針状鉱物 灰オリーブ色 普通	P3093 12% 覆土中
8	壺 須 器 器	B (2.6) F 2.3 G 0.9	天井部片。ボタン状のつまみが付く。天井部は全体的に扁平である。	天井部外面回転ヘラ削り調整。	長石・雲母・針状 鉱物 灰色 普通	P3094 30% 覆土下層 PL107
9	要 須 器 器	A [29.4] B (9.8)	体部から口縁部片。体部は直線的に外傾して立ち上がり、口縁部は体部に対して直角に外反し、肩部は外上方につまみ上げられる。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面横ナデ、外面縦位の平行叩き。	長石・石英・針状 鉱物 黄灰色 良好	P3095 5% 覆土下層 PL107

第222号住居跡 (第514岡)

位置 調査区の北東部、C5e区。

重複関係 本跡は、第221号住居跡を掘り込んでおり、本跡が新しい。

規模と平面形 長軸3.88m、短軸3.50mの長方形である。

主軸方向 N-27°-W

壁 壁高は32cmで、外傾して立ち上がる。

床 中央部が若干高まっているが、ほぼ平坦である。

ピット 3か所 (P₁~P₃)。P₁・P₂は長径56~64cm、短径48~58cmの楕円形、深さ44~94cmで、配置や規模から支柱穴と思われる。P₃は長径36cm、短径30cmの楕円形、深さ38cmで、出入り口ピットと思われる。

竪 北壁の中央部を壁外に42cm掘り込み、砂質粘土で構築されている。右袖部のみ遺存し、床面に粘土を貼り付けて構築されている。火床部は浅い皿状をしている。煙道部は火床部からゆるやかに立ち上がり、徐々に傾斜を強める。

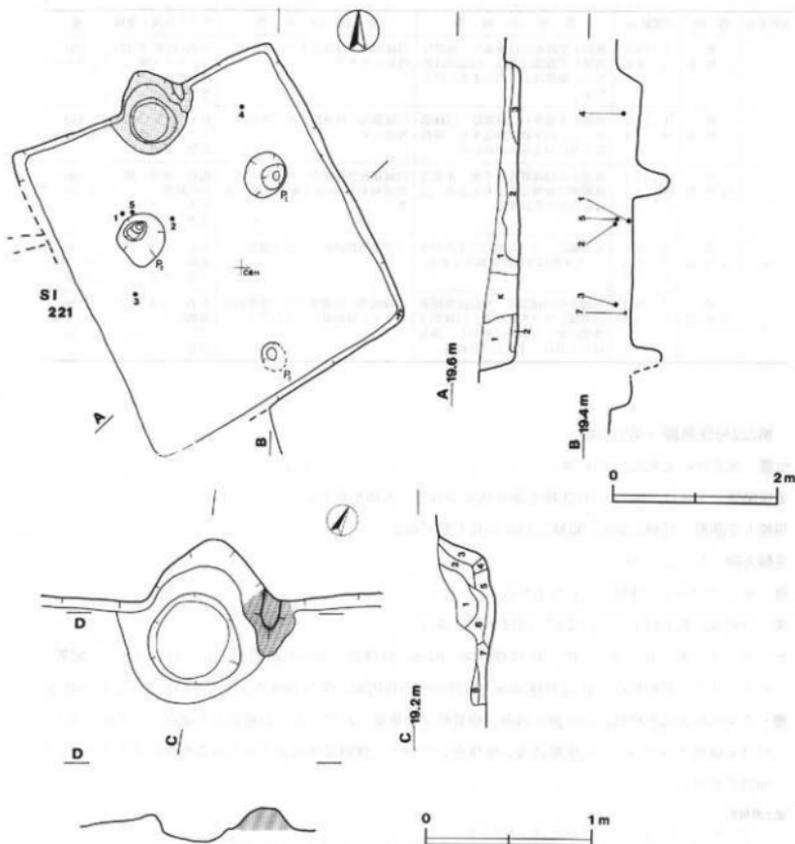
覆土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子少量
- 2 鈍い黄褐色 焼土粒子・焼土小ブロック中量、ローム粒子・粘土粒子少量、焼土大ブロック微量
- 3 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子・焼土小ブロック・炭化粒子少量
- 4 褐色 粘土粒子中量、ローム粒子・焼土粒子少量
- 5 暗褐色 ローム粒子・焼土小・中・大ブロック少量、炭化粒子微量
- 6 鈍い黄褐色 粘土粒子中量、ローム粒子・焼土小ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 7 黒褐色 粘土粒子・ローム粒子少量
- 8 黒褐色 焼土中・大ブロック中量、粘土粒子少量

覆土 3層からなる自然堆積である。

土層解説

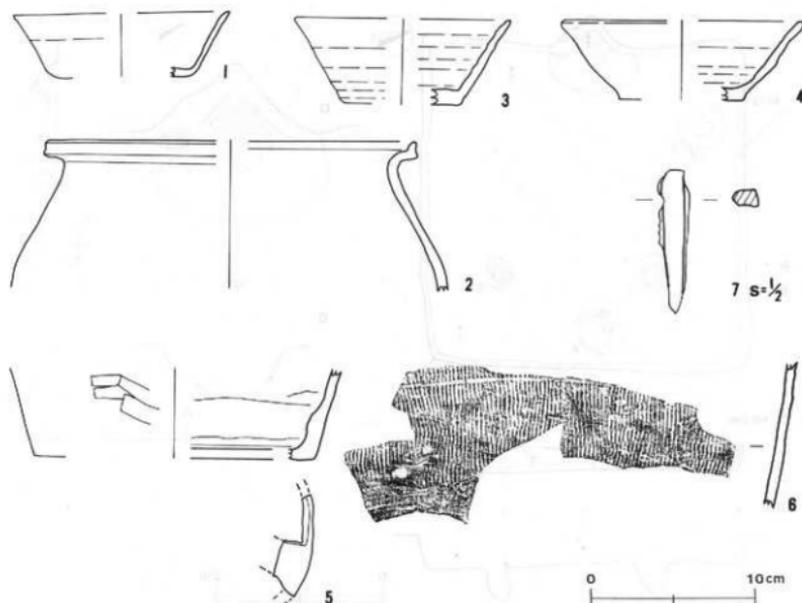
- 1 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量、炭化粒子微量



第514図 第222号住居跡実測図

第222号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第515図 1	坏 土器	A [13.2] B 3.9 C [8.3]	底部から口縁部片。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・石英・スコリア・バミス 内：黒色。外：淡黄褐色 普通	P 3096 10% 覆土下層 内面黒色処理
2	壺 土器	A [22.4] B (9.1)	口縁部片。頸部はほぼ直角に外反する。口縁部は横を持ち、端部は上方につまみ上げられる。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・石英・雲母・礫 褐色 普通	P 3097 10% 覆土中層
3	坏 須臾器	A [13.2] B 5.2 C [6.8]	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。口縁部はやや外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。底部部止へラ削り調整。底部周縁へラナデ。	長石・雲母・礫・針状炭物 灰色 普通	P 3098 20% 覆土中層 内・外面に 黒色斑点 PL107
4	坏 須臾器	A [14.8] B 4.8 C [7.6]	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ナデ。底部へラナデ調整。	長石・石英・礫・針状炭物 灰色 普通	P 3099 20% 覆土中層 体部内面自然釉



第515図 第222号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・地成	備考
5	須恵器 瓶片	B (5.4) C [27.2]	底部片。体部は直線的に外傾して立ち上がる。	体部内面ナデ、外面ヘラ削り後ナデ。	長石・雲母・礫・針状炭物 暗緑灰色 良好	P3100 5% 覆土上層 内面に 輪組み痕を残す。

第515図6は須恵器壺の底部付着と思われる。外面に縦位の平行引きが施されている。

図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第515図7	釘	(5.8)	1.1	0.7	2.5	(6.7)	覆土下層	M3003 鉄

遺物 土師器片153点、須恵器片39点、鉄製品1点、石11点が出土している。第515図1の土師器片は電前覆土下層から、2の土師器甕片・3と4の須恵器片・5の須恵器瓶片は覆土上層から、6の拓影図の須恵器片は覆土中から、7の釘は覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から平安時代（9世紀前半）と思われる。

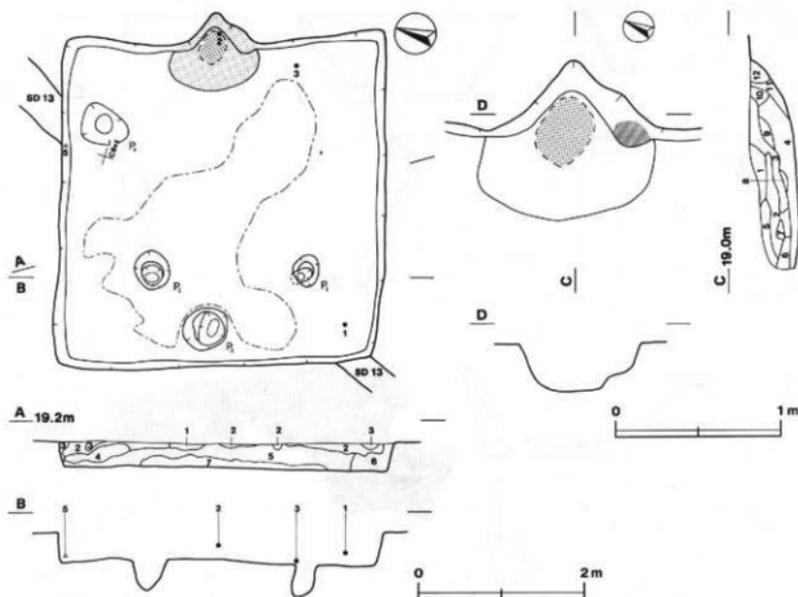
第223号住居跡（第516図）

位置 調査区の北東部、C6e区。

重複関係 本跡は、第13号溝を掘り込んでいることから、本跡が新しい。

規模と平面形 長軸3.98m、短軸3.94mの方形である。

主軸方向 N-74°-E



第516図 第223号住居跡実測図

壁 壁高は30cmで、外傾して立ち上がる。

床 平坦で、出入り口ピット周辺及び中央部が踏み固められている。

ピット 4か所 (P₁~P₅)。P₁~P₂は長径40~50cm、短径30~42cmの楕円形、深さ40cmで、配置や規模から主柱穴と思われる。P₃は径52cmの円形、深さ24cmで、出入り口ピットと思われる。P₄は長径58cm、短径44cmの不整楕円形、深さ19cmで、性格は不明である。

竈 東壁中央部を壁外に32cm程掘り込み、砂質粘土で構築されているが、遺存状態は悪い。火床部は皿状を呈し、中央部に四角錐状の支脚が横たわっている。煙道部は火床面からゆるやかに立ち上がる。

竈土層解説

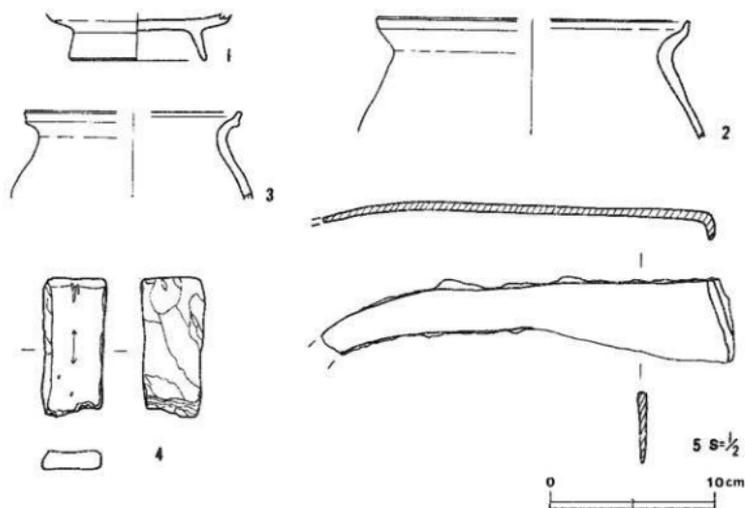
- 1 黒褐色 ローム粒子・粘土粒子少量、炭化粒子微量
- 2 鈍い黄褐色 ローム粒子・焼土粒子少量、ローム中ブロック微量
- 3 褐色 粘土粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量、焼土中・大ブロック微量
- 4 鈍い黄褐色 ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子・粘土粒子少量
- 5 灰黄褐色 粘土粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量
- 6 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック多量
- 7 黄褐色 粘土粒子多量、焼土中ブロック微量
- 8 黒褐色 焼土中・大ブロック・粘土粒子少量
- 9 褐色 焼土粒子・焼土小ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量
- 10 褐色 焼土粒子・小ブロック・粘土粒子少量、炭化粒子微量
- 11 黒褐色 炭化粒子少量、ローム小ブロック・焼土粒子・粘土粒子微量
- 12 褐色 粘土粒子多量、焼土粒子少量

覆土 7層からなる自然堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒少量
- 2 黒褐色 ローム粒多量、ローム中ブロック微量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック少量、ローム粒少量
- 4 鈍い黄褐色 ローム粒多量
- 5 黒褐色 ローム粒・ローム小ブロック少量、焼土粒・焼土小ブロック微量
- 6 黒褐色 ローム粒・ローム中ブロック少量
- 7 黒褐色 ローム粒中量

遺物 土師器片275点、須恵器片28点、石製品（砥石）1点、鉄製品（鎌）1点、石19点が出土している。第517図1～3はいずれも土師器片で、1の高台付坏は南壁付近覆土下層から、3の甕は南横覆土下層から、2の甕は南の覆土上層から、4の砥石は覆土中から、5の鎌は北横付近覆土下層からそれぞれ出土している。所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から平安時代（9世紀後半～10世紀初頭）と思われる。



第517図 第223号住居跡出土遺物実測図

第223号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	土質・色調・焼成	備考
第517図 1	高台付坏 土師器	B (2.3) D 8.4 R 1.8	底部片。平底。高めの高台が「ハ」の字状に開く。体部は外傾して立ち上がる。	底部内面へら書き、外面副杯へらナデ調整。内面黒色処理。	砂・雲母・スコリア・バミス 内：黒色。外：褐色 普通	P3101 30% 覆土下層
2	甕 土師器	A [19.0] B (7.0)	口縁部片。口縁部は「く」の字状に外反し、稜を持つ。肩部は外上方につまみ上げられる。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・石英・雲母・炭 内：灰赤色。外：褐色 普通	P3102 10% 覆土上層
3	甕 土師器	A [13.2] B (5.2)	口縁部片。口縁部に明瞭な稜を持ち、肩部は外上方につまみ上げられる。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・石英・雲母・スコリア 褐色 普通	P3103 5% 覆土下層 PL107

図版番号	種 別	計 測 値					石 質	出土地点	備 考
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第517図4	砥 石	(3.0)	2.2	0.7	-	(5.3)	泥 岩	1区覆土中	Q3006 PL120

図版番号	種 別	計 測 値					出土地点	備 考
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第517図5	鏝	(16.8)	3.4	0.4	-	(40.4)	覆土下層	M3004 鉄 PL124

第224号住居跡 (第518図)

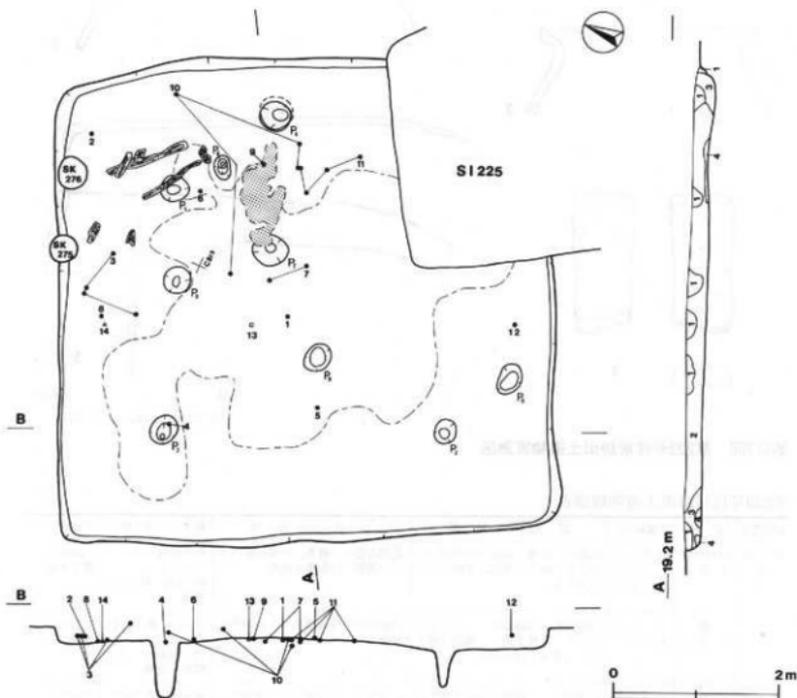
位置 調査区の北東部, C6f₁区。

規模と平面形 長軸6.06m, 短軸5.96mの方形である。

主軸方向 N-27°-W

壁 壁高は20cmで, 外傾して立ち上がる。

床 ほぼ平坦で, ビット周辺と中央部が踏み固められている。



第518図 第224号住居跡実測図

ピット 9か所 (P₁~P₉)。P₁~P₃は径28~36cmの円形、深さ42~67cmで、配置や規模から主柱穴と思われる。P₄~P₈は径34~44cmの円形ないし楕円形、深さ11~58cmである。P₄かP₅が出入り口ピットと思われる。P₆~P₉の性格は、不明である。

覆土 4層からなる自然堆積である。

土層解説

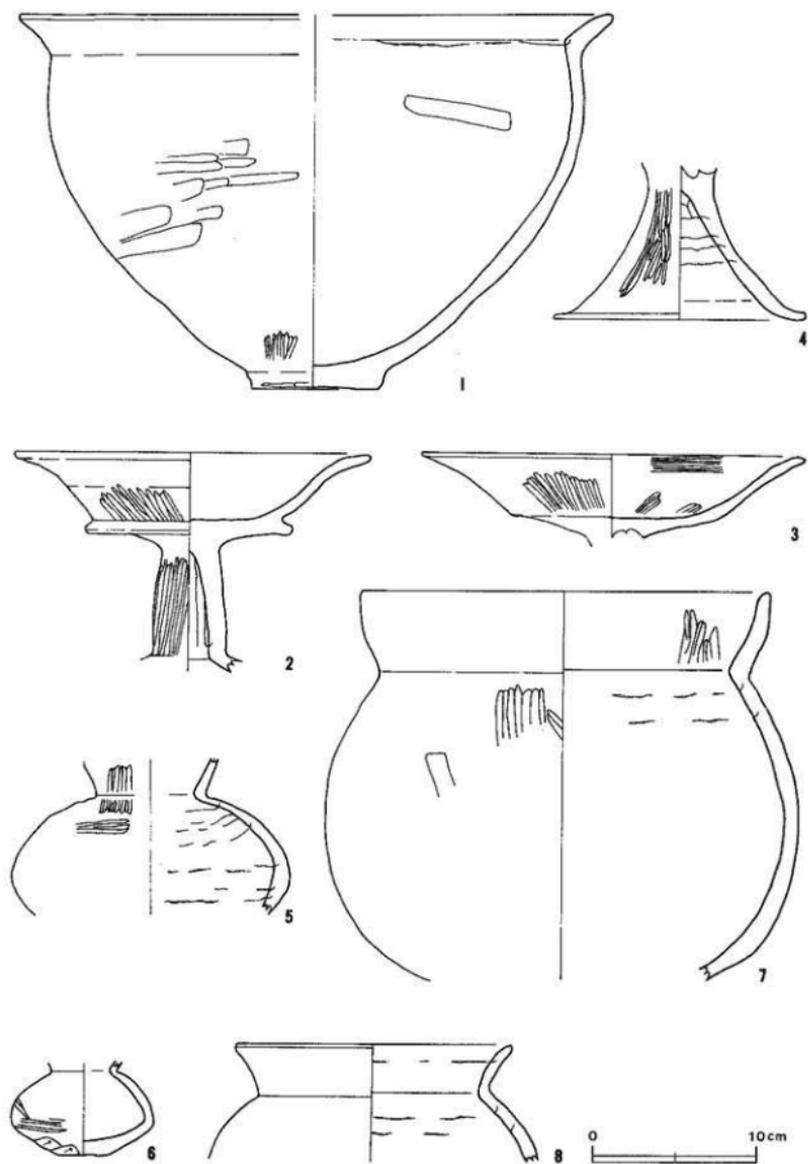
- 1 黒色 ローム粒子・炭化物微量
- 2 黒褐色 炭化物少量、ローム粒子・ローム小ブロック微量
- 3 黒褐色 ローム粒子・炭十粒子微量
- 4 黒褐色 炭化粒子少量、ローム粒子・炭化物微量

遺物 土師器片489点、須恵器片16点、石製品(叩き石)1点、鉄製品(釘)、石16点が出土している。第519・520図1~12は土師器片である。1の鉢・2の高坏は覆土上~中層から横位で、3の高坏及び7・8・10の甕は床面ないし床面から数cm浮いた地点から、13の敷石と14の釘は床面近くからそれぞれ出土している。また、1の鉢は珍しい器形で煤が付着しており、煮炊きに使ったと思われる。

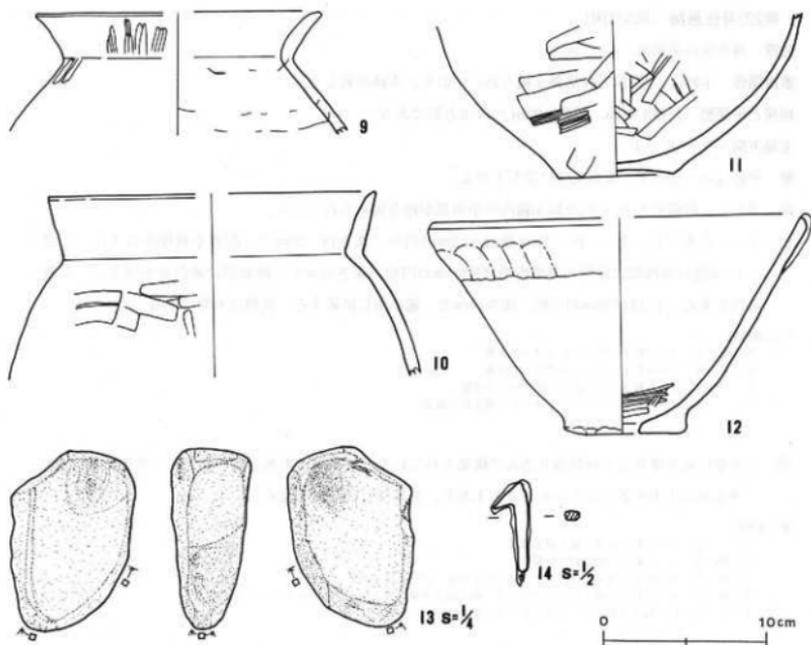
所見 本跡は、北西壁の北コーナー付近から炭化材が、北東壁の中央部寄りと南西壁際北寄りの2か所で焼土の広がりがあり、床面から5~10cm程の上で検出されたことから焼土家屋と思われる。この時期は、卯を伴うものと思われるが検出されなかった。時期は、遺構の形態及び出土遺物等から古墳時代中期(5世紀前半)と思われる。

第224号住居跡出土遺物観察表

図面番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第519図	鉢	A 36.2	底部から口縁部片。底部は平底で突出する。体部は内彎して立ち上がり、上部で内傾する。口縁部は「く」の字状に外反する。	口縁部内面ナデ後磨き、外面横ナデ。体部内面ヘラナデ、外面ヘラナデ後磨き。底部ヘラ削り後ヘラナデ。	長石・石英・雲母・スコリア 内：鈍い黄褐色 外：黒褐色 普通	P3110 60% 覆土中層 体部外面残存
		B 22.8 C 8.8				
2	高上器	A 21.7	胴部から環部片。胴部は下方が膨らむ柱状を呈する。環部は胴部に開いた後縁をつくり、その後外反する。	胴部内面横ナデ、外面ヘラ磨き。環部内面ヘラナデ後磨き。胴部外面縦位のヘラ磨き。	長石・石英・雲母・スコリア 明赤褐色 良好	P3104 70% 覆土上~中層
		B (13.2) E (7.8)				
3	高上器	A 23.2	環部片。環部外面に横を持つ。体部は直線的に外傾して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ後磨き。体部内・外面ヘラ磨き。	長石・石英・雲母・バミス 明赤褐色 良好	P3105 40% 覆土下層
		B (5.2)				
4	高上器	D 15.2	胴部片。ラッパ状に下方に開く。	胴部内面下部ナデ、外面縦位のヘラ磨き。裾部内・外面横ナデ。	長石・石英・スコリア・針状鉱物 鈍い褐色 普通	P3106 40% 床面 胴部内面 上半部に輪郭のみ痕を残す。
		E (9.3)				
5	埴土器	B (9.5)	体部から頸部片。体部中に最大径をもち、鈴壺状を呈する。頸部は「く」の字状に外反する。	口縁部内・外面磨き。体部内面ナデ、外面磨き。	長石・雲母・櫻褐色 良好	P3107 30% 覆土中層 体部内面に輪郭のみ痕を残す。
		B (5.6) C 3.2	底部から頸部片。平底。体部は潰れた球形状を呈し、頸部は「く」の字状に外反する。	体部内面ナデ、外面上半部磨き。下層ヘラ削り。底部外面ヘラナデ。	長石・雲母・スコリア・バミス 鈍い褐色 普通	P3108 80% 覆土下層
7	甕	A 23.0	体部上半部から口縁部片。体部は中に最大径をもち、球形状を呈する。頸部は「く」の字状に外反し、口縁部は直立気味に立ち上がる。	口縁部内面ヘラ磨き、外面横ナデ。体部内面ナデ、外面上半部ナデ後磨き。	長石・石英・雲母・スコリア 鈍い赤褐色 普通	P3109 80% 覆土下層 内面に輪郭のみ痕を残す。体部外面磨き及び割線。丸108
		B (23.7)				
8	甕	A 16.2	口縁部片。体部は内傾して頸部に至る。口縁部は「く」の字状に外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ、外面ヘラナデ。	長石・石英・雲母・櫻 鈍い褐色 普通	P3111 30% 床面 内面に輪郭のみ痕を残す。
		B (7.0)				
第520図	甕	A [17.4] B (7.2)	口縁部片。口縁部は「く」の字状に外反する。	口縁部内面横ナデ、体部内面ナデ後磨き。体部内面ナデ、外面ヘラナデ。	長石・雲母・櫻・小石・針状鉱物 内：褐色、外：黒色 普通	P3112 10% 覆土下層 外面に磨き付、内面に輪郭のみ痕を残す。



第519图 第224号住居跡出土遺物実測図(1)



第520図 第224号住居跡出土遺物実測図(2)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
10	土器	A [20.0]	口縁部片。口縁部は直線的に「く」の字状に外反する。	口縁部内・外面横ナデ、体部内面ヘラナデ、外面ヘラ削り。	長石・石英・雲母・スコリア 明赤褐色 普通	P3113 20% 床面
		B (11.1)				
11	土器	B (9.7)	底部から体部下半部片。上げ底気味の平底。体部は内彎しながら立ち上がる。	体部内面ヘラ削り後ヘラナデ、外面ヘラ削り後磨き。	長石・石英・雲母・スコリア 内：鈍い赤褐色、外：黒褐色 普通	P3114 30% 覆土下層
		C 7.0				
12	土器	A [23.3]	底部から口縁部片。底部は単孔式で突出する。体部は直線的に外傾して立ち上がる。複合口縁。	口縁部内面横ナデ、外面指ナデ、体部内面ヘラナデ、外面ナデ。底部外面ヘラナデ。	長石・石英・雲母・スコリア 鈍い赤褐色 普通	P3115 40% 覆土中層 孔径1.9cm
		B 13.5				
		C 7.5				

図版番号	種別	計測値					石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第520図13	敲石	14.4	10.1	6.3	-	1229.9	砂岩	覆土下層	Q3007

図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第520図14	釘	(4.3)	(1.6)	0.4	-	(7.1)	覆土下層	M3005 鉄

第225号住居跡（第521図）

位置 調査区の北東部，C6f₃区。

重複関係 本跡は，第224号住居跡を掘り込んでおり，本跡が新しい。

規模と平面形 長軸3.10m，短軸2.92mのはほぼ方形である。

主軸方向 N-58°-E

壁 壁高は34~40cmで，垂直気味に立ち上がる。

床 平坦で，貯蔵穴とP₁・P₂を結ぶ線内の中央部が踏み固められている。

ピット 4か所（P₁~P₄）。P₁・P₂は径34~62cmの円形，深さ14~20cmで，配置や規模から支柱穴と思われる。P₃は竈の南西部に位置し，平面形は径60cmの円形，深さ32cmで，断面形は逆台形を呈する。貯蔵穴の可能性もある。P₄は径32cmの円形，深さ14cmで，竈の南に位置する。性格は不明である。

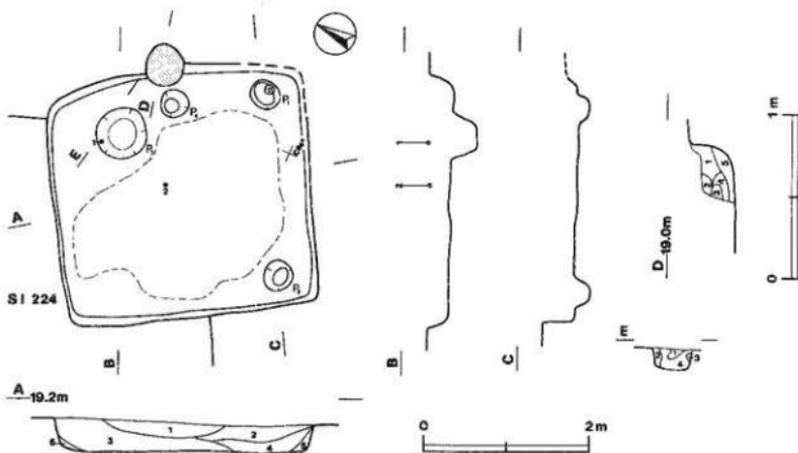
P₂層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量
- 2 黒褐色 ローム粒子・ローム中ブロック少量
- 3 黒色 ローム粒子・ローム小・中ブロック少量
- 4 黒色 ローム粒子・ローム小ブロック・焼上粒少量

竈 北東壁中央を壁外に30cm程掘り込んで構築されている。火床部は床面と同じレベルの平坦面を使用している。煙道部は火床面からゆるやかに立ち上がり，先端部では傾斜を強めている。

竈土層解説

- 1 黒色 ローム粒子少量，焼上粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子・焼上粒子少量
- 3 暗褐色 焼上粒子・焼上小ブロック・粘土粒子少量，ローム粒子微量
- 4 黒褐色 ローム粒子・焼上中・大ブロック・焼上粒子少量，焼上粒子・焼上小ブロック微量
- 5 暗褐色 粘土粒子少量，ローム大ブロック・焼上中ブロック微量



第521図 第225号住居跡実測図

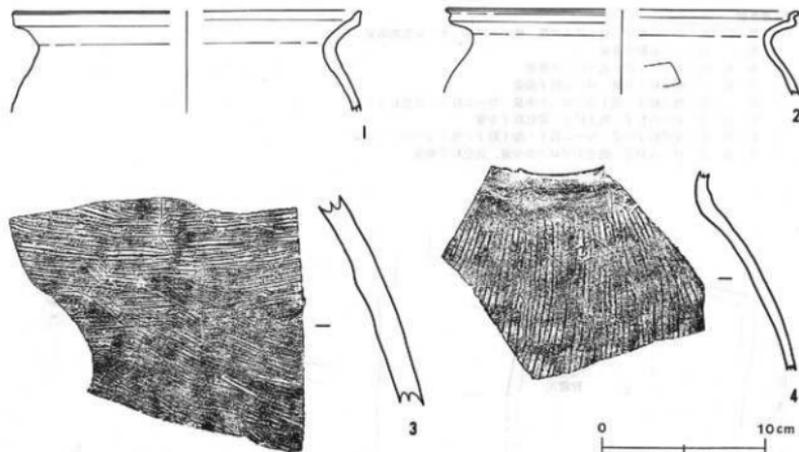
覆土 6層からなる自然堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子少量
- 2 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子少量、炭化粒子・焼土粒子微量
- 4 黒褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック微量
- 5 黒褐色 ローム粒子微量
- 6 黒褐色 焼土粒子・焼土小・中ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量

遺物 土師器片197点、須恵器片26点、石5点が出土している。第522図1・2は土師器の甕で覆土上層から、3・4の拓影図は須恵器の甕片で、覆土中からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から平安時代（8世紀後半頃）と思われる。



第522図 第225号住居跡出土遺物実測図

第225号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第522図 1	甕 土師器	A [21.1] B (6.1)	口縁部片。頸部は「く」の字状に外反し、口縁端部はヘラ状工具による凹線が走る。	口縁部横ナデ。体部内面ヘラナデ、外面ナデ。	長石・石英・雲母・針状鉱物・バミス 褐色 普通	P3116 10% 覆土上層 外面一部煤付着
2	甕 土師器	A [21.5] B (5.1)	口縁部片。口縁部は外反し、縁を持つ。端部はつまみ上げた後、さらにヘラ状工具によって強く外反させている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラナデ、外面ナデ。	長石・石英・雲母・スコリア 鈍い赤褐色 普通	P3117 10% 覆土上層 外面煤付着

第522図3・4は須恵器の甕の体部片で、3は横位の平行叩き、4は縦位の平行叩きがそれぞれ施されている。

第226号住居跡 (第523図)

位置 調査区の北東部, C6d₂区。

規模と平面形 長軸2.84m, 短軸2.64mのはほぼ方形である。

主軸方向 N-22°-W

壁 壁高は26cmで, 外傾して立ち上がる。

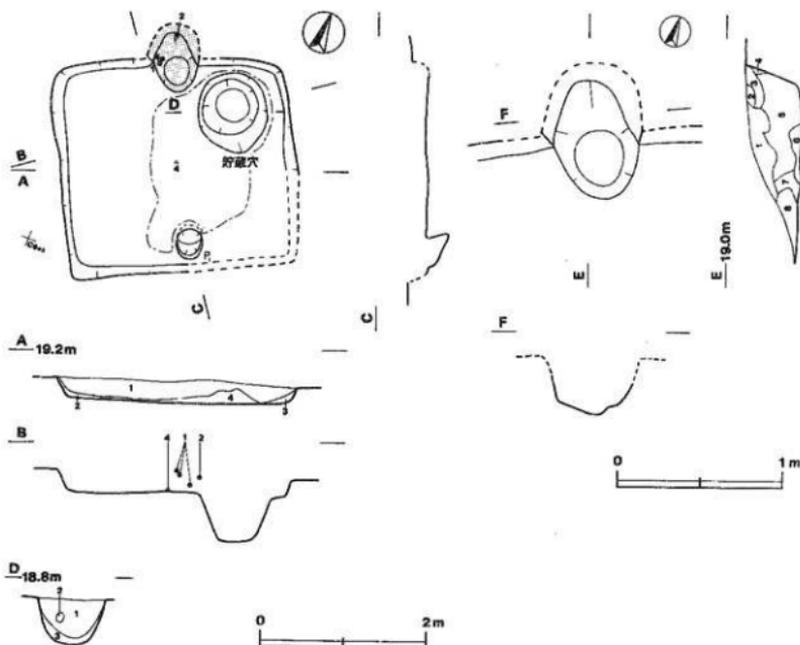
床 出入り口ピットから貯蔵穴にかけて若干高まり, 踏み固められている。

ピット P₁は長径38cm, 短径32cmの楕円形, 深さ26cmで, 南東壁方向に傾いている。位置や規模から出入り口ピットと思われる。

竈 北西壁中央部を壁外に42cm程掘り込み, 砂質粘土で構築されている。袖部は遺存していない。火床部は浅い皿状をしている。煙道部は火床面からゆるやかな傾斜で立ち上がる。

竈土層解説

- 1 黒 褐色 ローム粒子・焼土粒子少量, 焼土小ブロック・炭化物微量
- 2 黒 褐色 ローム粒子多量
- 3 赤 褐色 焼土小・中・大ブロック多量
- 4 黒 褐色 焼土粒子少量, ローム粒子微量
- 5 黒 褐色 焼土粒子・焼土小ブロック中量, ローム粒子・炭化粒子少量
- 6 黒 褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 7 黒 褐色 炭化粒子中量, ローム粒子・焼土粒子・焼土小ブロック少量
- 8 黒 褐色 ローム粒子・焼土小ブロック少量, 炭化粒子微量



第523図 第226号住居跡実測図

貯蔵穴 北コーナーに付設されている。平面形は長径96cm、短径78cmの楕円形、深さ60cmで、断面形は逆台形を呈する。

貯蔵穴土層

- 1 黒色 ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子・焼土小ブロック少量、ローム大ブロック微量
- 2 黒褐色 焼土粒子・焼土小ブロック中量、粘土粒子少量
- 3 黒褐色 焼土粒子・焼土小・中ブロック中量、焼土大ブロック・炭化粒子少量

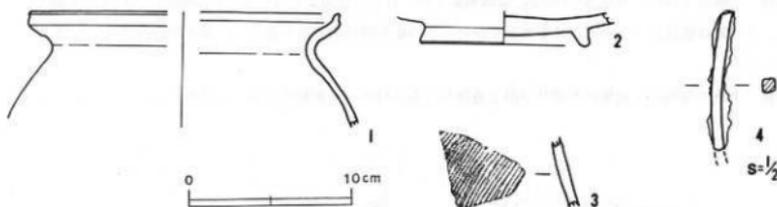
覆土 4層からなる自然堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子少量、ローム粒子・焼土小ブロック微量
- 2 黒色 ローム粒子少量
- 3 黒褐色 ローム粒子多量
- 4 極暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・焼土小ブロック・炭化粒子中量

遺物 土師器片67点、須恵器片19点、金属製品（釘）1点、石2点が出土している。第524図1は土師器の甕片、2は須恵器の甍片で、ともに竈覆土中から、3の拓影図は須恵器の甍片で、覆土中からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から平安時代（8世紀後半）と思われる。



第524図 第226号住居跡出土遺物実測図

第226号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第524図 1	甕 土師器	A [18.8] B (6.6)	口縁部片。口縁部は「く」の字状に外反し、端部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・雲母・礫・小石・バミス 鈍い褐色 普通	P3118 15% 竈覆土中
2	高台付杯 須恵器	B (2.0) D 10.3 E 1.0	底部片。平底。高台が「ハ」の字状に開く。	底部回転ヘラ切り後回転ヘラ削り調整。	長石・雲母・礫 灰色 良好	P3119 20% 竈覆土中 内・外面に黒色 塗点

第524図3は須恵器甍の体部片で、外面に平行叩きが施されている。

図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第524図4	釘	(5.7)	1.1	0.6	-	(7.9)	中央部覆土下層	M3006 鉄

第227号住居跡 (第525図)

位置 調査区の北東部, B6g, X。

規模と平面形 長軸3.46m, 短軸3.00mの長方形である。

主軸方向 N-35°-W

壁 北東壁と北西壁の一部を検出。壁高は2~10cmで、外傾して立ち上がる。

床 平坦である。

竈 北西壁中央部から焼土・凝灰岩・砂質粘土を検出したので、竈が付設されていたと思われる。

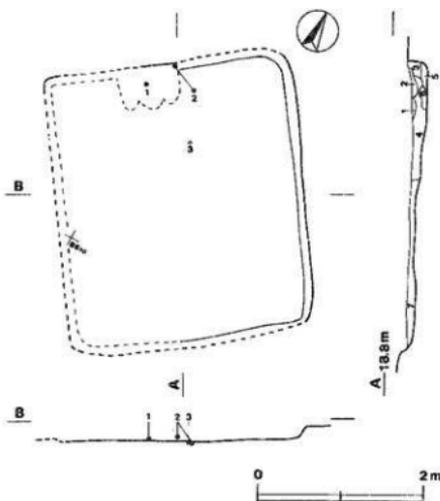
覆土 7層からなる自然堆積である。

土層解説

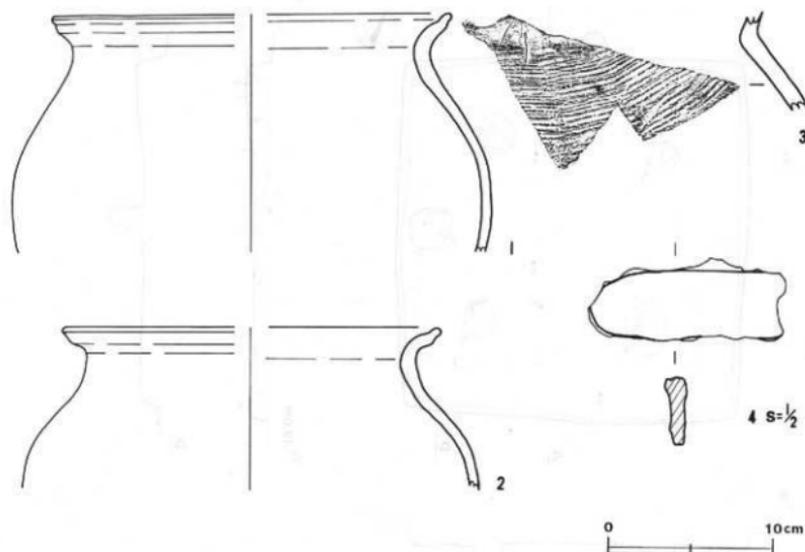
- | | | | |
|---|---|----|------------------------------------|
| 1 | 黒 | 褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量 |
| 2 | 黒 | 褐色 | ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子少量, 焼土中ブロック微量 |
| 3 | 黒 | 褐色 | ローム粒子少, 焼土中ブロック微量 |
| 4 | 黒 | 褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック少量 |
| 5 | 黒 | 褐色 | ローム粒子中量, ローム大ブロック少量 |
| 6 | 暗 | 褐色 | ローム粒子中量, ローム大ブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 7 | 黒 | 褐色 | ローム中・大ブロック中量, ローム粒子少量 |

遺物 土師器片79点, 須恵器片190点, 金属製品1点, 石2点が出土している。第526図1・2の土師器の欠片や4の鎌は竈付近の床面または床面近くから, 3の拓影図は須恵器の欠片で, 覆土中からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は, 遺構の形態及び出土遺物から奈良時代(8世紀前半頃)と思われる。



第525図 第227号住居跡実測図



第526図 第227号住居跡出土遺物実測図

第227号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第526図 1	壺 土器	A [24.2] B (14.5)	体部上半部から口縁部片。口縁部は「く」の字状に外反し、端部は外上方につまみ上げられる。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・石英・雲母・礫 鈍い褐色 普通	P3120 15% 覆土下層
2	壺 土器	A [22.9] B (9.9)	体部上半部から口縁部片。頸部は内傾し、そのまま口縁部に至る。口縁部は強く外反し、横を持つ。端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・石英・雲母・礫・スコリア 鈍い褐色 普通	P3121 15% 覆土下層 PL168

第526図3は須恵器製の頸部から体部片で、外面に平行叩きが施されている。

図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第526図4	録	(8.0)	3.4	0.9	-	(40.6)	床面	M3007 鉄 PL124

第228号住居跡 (第527図)

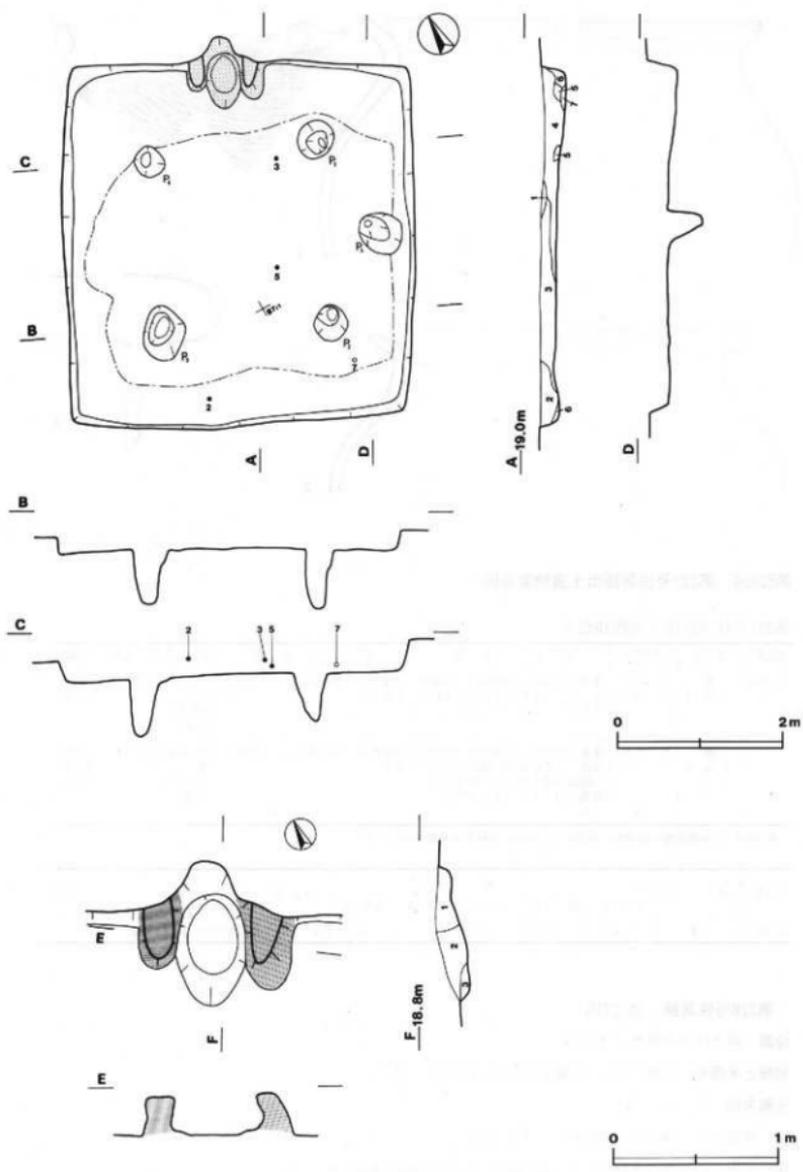
位置 調査区の北東部, B7h₁区。

規模と平面形 長軸4.42m, 短軸4.14mのはは方形である。

主軸方向 N-61°-W

壁 壁高は22~38cmで、外傾して立ち上がる。

床 平坦で、4本の主柱穴を結ぶ線内が若干高まり踏み固められている。



第527图 第228号住居跡実測图

ピット 5か所(P₁~P₅)。P₁~P₃は径36~48cmの円形、深さ58~72cm、P₄は長径66cm、短径50cmの楕円形、深さ64cmで、配置や規模から主柱穴と思われる。P₅は径50cmの円形、深さ42cmである。性格は不明である。

竈 北東壁中央部を壁外に30cm、また床面を最大16cm程掘り込み、灰白色の粘土で構築している。規模は長さ90cm、幅114cmである。袖部は遺存状態が良く、床面を掘り下げた後床面とほぼ同じレベルにした上に粘土を貼り付けて構築している。火床部は浅い皿状をしている。煙道部は火床面からゆるやかに立ち上がり、先端部で傾斜を増す。

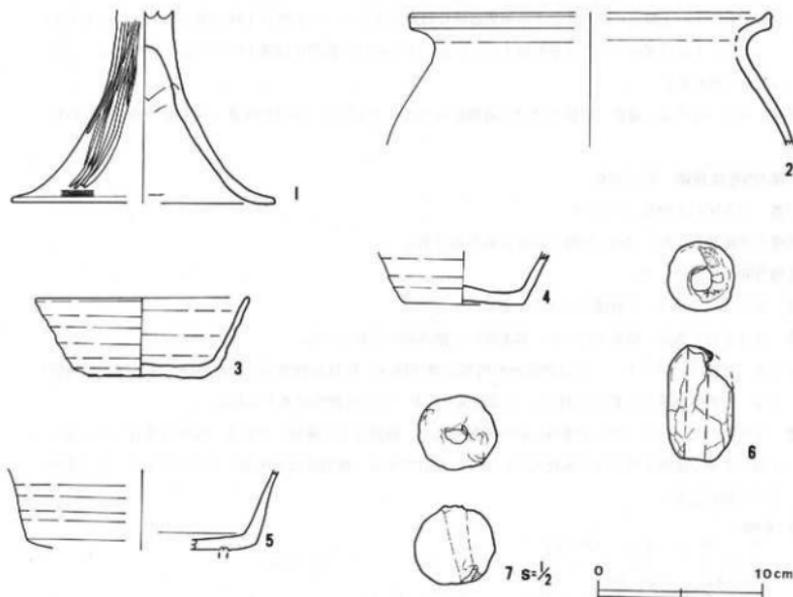
竈土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック・焼土小ブロック少量、ローム大ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック・焼土小ブロック・粘土粒子少量、ローム大ブロック微量
- 3 黒褐色 ローム粒子・ローム大ブロック少量

覆土 7層からなる自然堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量、焼土粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子・ローム小・中ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子多量
- 5 灰黄褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量、炭化粒子微量
- 6 鈍い黄褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 7 鈍い黄褐色 粘土粒子多量、ローム粒子微量



第528図 第228号住居跡出土遺物実測図

第228号住居跡出土遺物観察表

図録番号	器種	寸法値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色澤・地成	備考
第528図1	高土師器	D (15.9) E (11.7)	脚部から裾部片。ラフバ状に下方に開く。	脚部内面ナデ、外面縦位のヘラ磨き。胴部内・外面ヘラナデ。	長石・石英・バミス 内：灰色、外：鈍い褐色 普通	P3122 20% 覆土中層 脚部内面に輪紋み痕を残す。
2	土師器	A (22.0) B (7.0)	口縁部片。口縁部は「く」の字状に外反して縁を持ち、端部は上方につまみ上げられる。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・石英・雲母・スクリア 明赤褐色 普通	P3123 10% 覆土中層 内面縦紋
3	須恵器	A 13.0 B 3.1 C 7.0	底面から口縁部片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がり、そのまま口縁部に至る。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部内面ロクロナデ、外面強いロクロナデ。底部回転ヘラ切り後ヘラ削り調整。	長石・石英・雲母・針状鉱物 灰色 良好	P3124 75% 覆土中層 PL108 体部外面自然釉 (オリーブ黒色)
4	須恵器	B (3.1) C 7.3	底部から体部片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後ヘラ削り調整。	長石・針状鉱物 内：灰色、外：オリーブ黒色 良好	P3125 20% 覆土中層 PL108 体部外面自然釉
5	高台付須恵器	B (4.9)	底面から体部片。平底。体部は直線的に立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り調整。	長石・石英・雲母 灰黄色 普通	P3126 15% 覆土下層 高台痕が残る。

図録番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)		
第528図	管状土師	7.0	4.1	4.1	1.4	(94.2)	覆土下層 DP3007
7	土	3.2	3.2	3.0	0.9	(29.0)	床面 DP3008

遺物 土師器片109点、須恵器片29点、土製品（土錘）2点、石3点が出土している。第528図3の須恵器の坏片は中央部覆土中層から、5の高台付坏片は北東壁付近覆土下層から、2の土師器の壺片は南西壁付近覆土中層から、1の土師器の高坏片と4の須恵器坏片は覆土中から、6の管状土師は南コーナー付近覆土下層から、7の土玉は同床面からそれぞれ出土している。1の高坏の脚部片は覆土中から出土していることから流れ込みと思われる。

所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から奈良・平安時代（8世紀後半～9世紀初頭）と思われる。

第229号住居跡（第529図）

位置 調査区の北東部、A7h区。

規模と平面形 長軸4.04m、短軸3.76mの長方形である。

主軸方向 N-63°-W

壁 壁高は30～48cmで、外傾して立ち上がる。

床 ほほ平坦である。壁際とコーナー部を除いて踏み固められている。

ピット 2か所（P₁・P₂）。P₁は径36cmの円形、深さ18cm、P₂は径26cm、短径18cm、深さ26cmの楕円形である。配置や規模からP₁は柱穴、P₂は出入り口ピットの可能性が考えられる。

竈 北西壁の北コーナー寄り壁外に64cm程掘り込み、砂質粘土で構築している。袖部は遺存していない。火床部は平坦な床面を使用して赤化しているが、軟質である。竈道部は火床面からゆるやかに立ち上がり、先端部で傾斜を増す。

竈土層解説

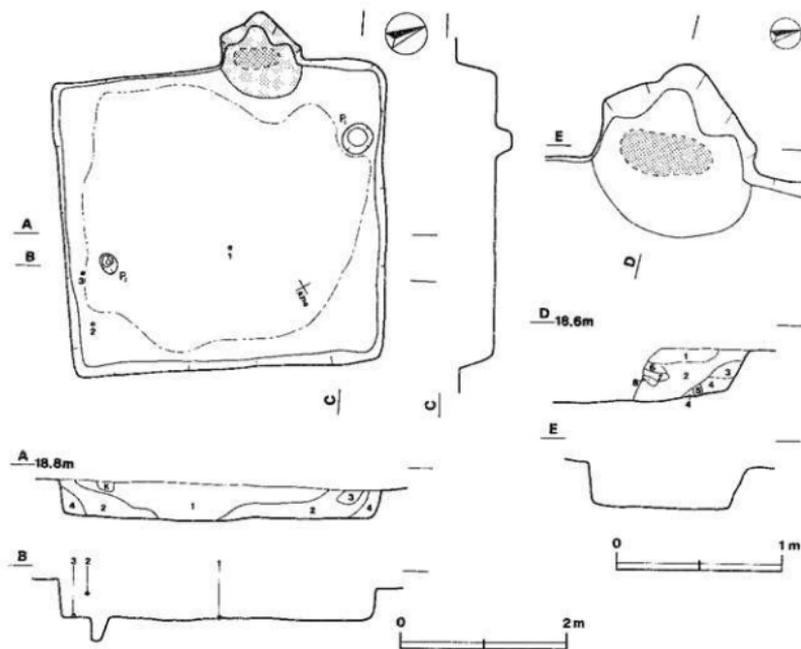
- 1 褐色 ローム粒子・炭化粒子微塵
- 2 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子・焼土小ブロック・炭化粒子微塵
- 3 鈍い黄褐色 ローム粒子微塵
- 4 明褐色 焼土粒子・焼土小ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子微塵
- 5 褐色 焼土粒子・焼土中ブロック少量、炭化粒子微塵
- 6 褐色 ローム粒子・ローム中ブロック・炭化粒子微塵

- 7 黒 褐色 焼土粒子・炭化粒子微量
8 黒 褐色 ローム粒子多量

覆土 4層からなる自然堆積である。

土層解説

- 1 暗 褐色 ローム粒子少量
2 黒 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック中量, 炭化粒子微量
3 黒 褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子少量
4 黒 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量, 炭化粒子微量

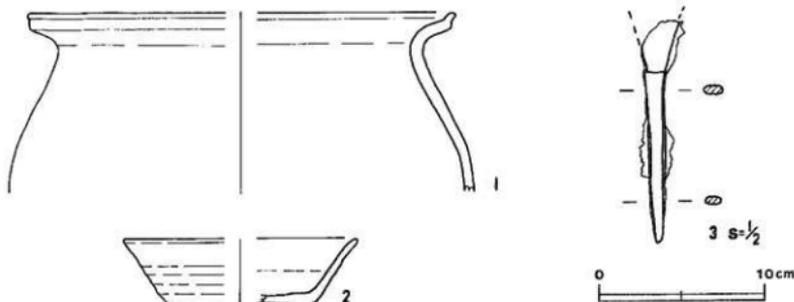


第529図 第229号住居跡実測図

第229号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第530図 1	土 罎器	A 26.0 B 10.9	体部上半部から口縁部片, 口縁部は強く外反し, 肩部を外上方につまみ上げる。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・石英・雲母 鈍い灰色 普通	P3127 15% 体面
2	環 須 壺器	A 14.3 B 4.9 C 8.6	底部から口縁部片。平底, 体部は点線的に外傾して立ち上がり, 口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面口ロナデ。底部回転へつ切り後無調整。	長石・石英・針状 鉱物 灰色 良好	P3128 25% 覆土中層

図版番号	種別	計 測 値					出土地点	備 考
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)		
第538図3	鉄 鍔	(8.9)	(1.9)	0.4	-	(8.1)	覆土中	M3008 鉄



第530図 第229号住居跡出土遺物実測図

遺物 土師器片115点、須恵器片26点、金属製品（鉄鏝）1点、鉄滓8.9g、縄文土器片13点、石40点が出土している。第530図1の上師器の破片は床面の中央部から破片数点がまとまって、2の須恵器の破片は南コーナー近くの覆土中層から、3の鉄鏝は覆土中からそれぞれ出土している。縄文土器片・鉄滓は、流れ込みと思われる。

所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から奈良・平安時代（8世紀後半）と思われる。

第230号住居跡（第531図）

位置 調査区の北東部、B7e区。

重複関係 第14号溝と本跡の北コーナー部が重複。第14号溝を掘り込んでいる。

規模と平面形 長軸5.72m、短軸5.64mの方形である。

主軸方向 N-66°-W

壁 壁高は36cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 全周する。上幅約12cm、下幅約8cm、深さ約8cmで、断面形はU字形である。

床 平坦で、貯蔵穴1・2と主柱穴（P₁・P₂）を結ぶ線内が踏み固められている。また、北東壁からP₂に向かって溝が延びている。上幅22cm、下幅12cm、深さ10cm、断面形がJ字形、長さ54cm程である。

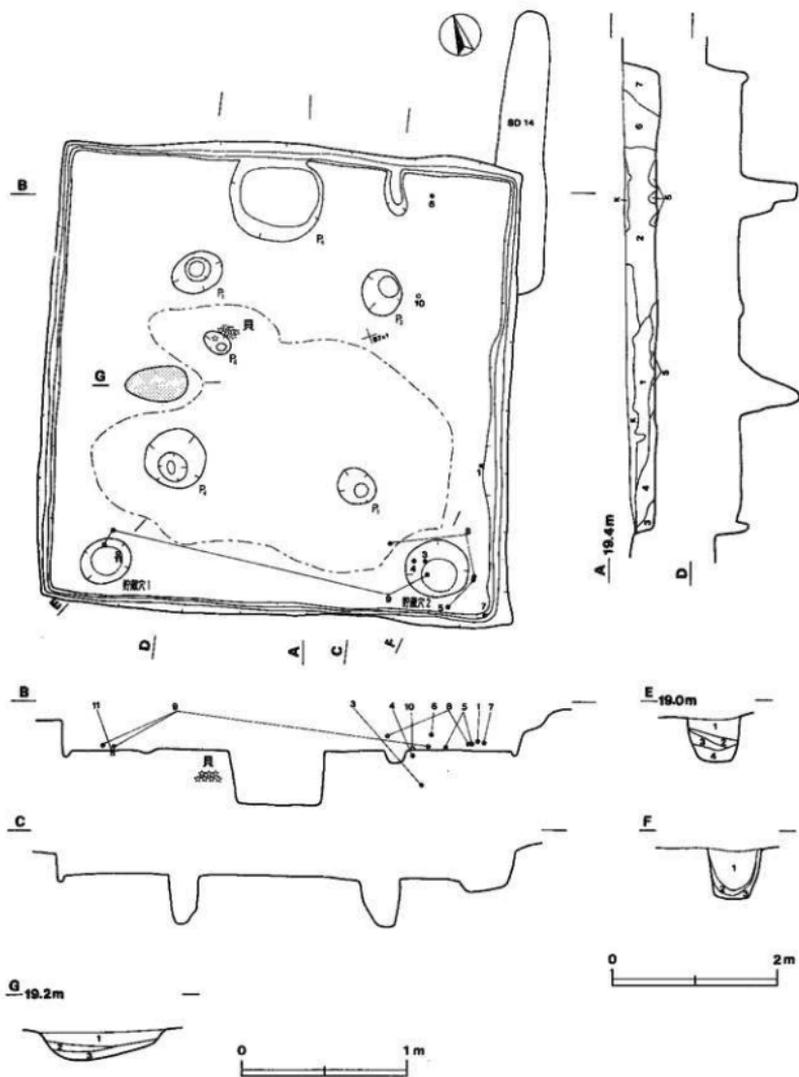
ピット 6か所（P₁~P₆）。P₁~P₄は長径48~72cm、短径40~72cmの楕円形ないし円形、深さ58~72cmで、配置や規模から主柱穴と思われる。P₅は南東壁の中央部壁際に位置し、径112cmのほぼ円形、深さ68cm、断面台形を呈する。覆土（第6層）の状況から本跡が埋まった後に掘り込まれたと思われる。P₆は長径36cm、短径24cmの楕円形、深さ57cmである。P₅・P₆の性格は不明である。

炉 中央より北西壁寄りに付設されている。長径76cm、短径40cmの楕円形で、床面を10cm掘り窪めた地床炉である。炉床は火熱をうけて赤変硬化している。

伊土層解説

- 1 黒色 焼上粒子・焼土小ブロック中量、焼土小ブロック・炭化粒子少量、ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック・炭化粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック多量、ローム中ブロック微量

貯蔵穴 2か所。貯蔵穴1は南コーナーに付設され、平面形は長径76cm、短径70cmの円形で、深さは66cm、断面形は逆台形である。貯蔵穴2は西コーナーに付設され、平面形は長径66cm、短径54cmの楕円形で、深さは64cm、断面形は逆台形である。



第531图 第230号住居跡実測图

貯蔵穴1土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量
 2 黒褐色 ローム小ブロック少量、ローム粒子微量
 3 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック中量、炭化粒子微量
 4 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量

貯蔵穴2土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック少量、ローム粒子微量
 2 褐色 ローム大ブロック少量
 3 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック多量、ローム中ブロック中量

覆土 7層からなる自然堆積である。

土層解説

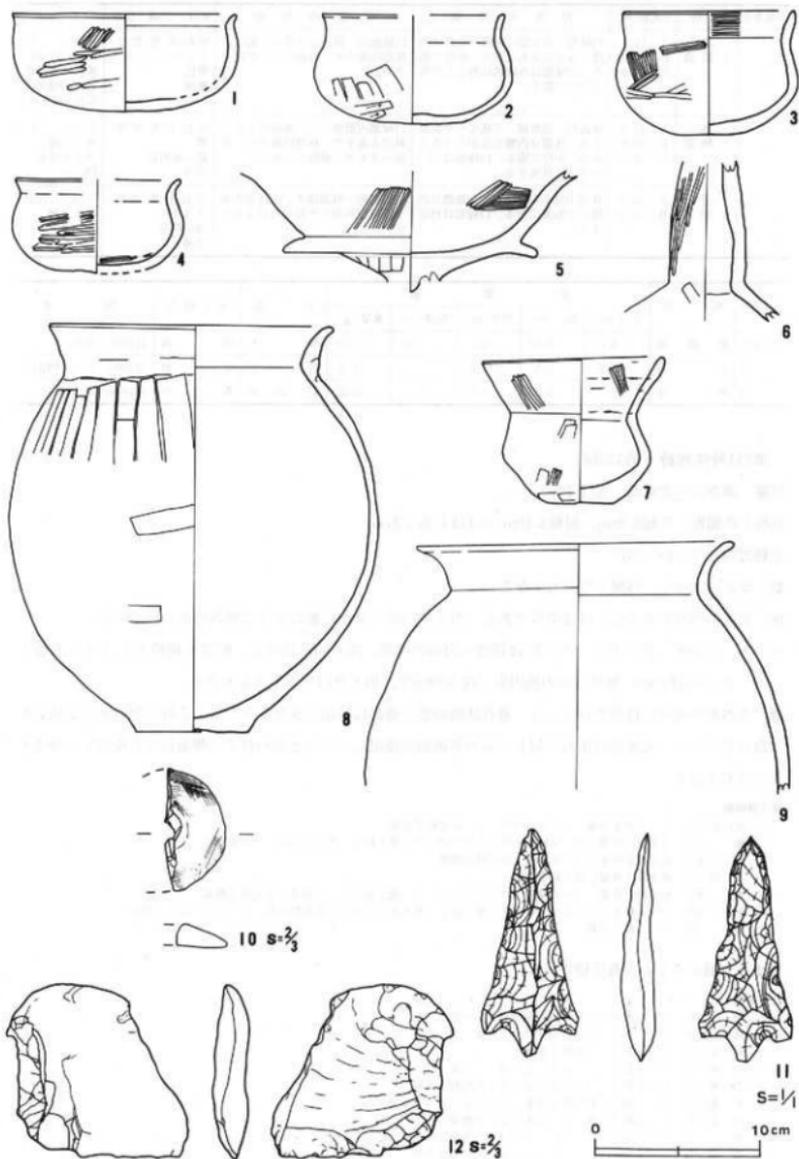
- 1 黒褐色 ローム粒子少量
 2 黒褐色 ローム粒子少量、ローム中ブロック微量
 3 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量、ローム中ブロック微量
 4 黒褐色 ローム粒子・ローム小・中ブロック少量
 5 黒褐色 ローム粒子中量、ローム中・大ブロック少量
 6 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量
 7 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム中ブロック微量

遺物 土師器片491点、須恵器片14点、紡錘車・石鏝・銅片各1点、石56点、巻き貝（ダンベイキサゴ）275.6gが出土している。第532図1～9は土師器である。1の碗は南東壁際の覆土下層から、3・4の碗、9の薬片の一部は貯蔵穴中から、5の高杯は散らばった状態で南東壁の南コーナー付近から、6の高杯の脚部は北東壁の東コーナーの覆土中層から横位で、10の滑石製紡錘車・11の石鏝は床面から、12の安山岩の銅片は覆土中からそれぞれ出土している。また、ダンベイキサゴの貝殻がP₀の周囲の床面から248.1g（116個体）、P₁中から27.5gそれぞれ出土している。本貝は床面から出土していることから本跡に伴うものと思われる。ダンベイキサゴは鹿島灘以前の沿岸から水深5m程に棲む貝で、現在も食用とされている貝である。銅片は旧石器時代のもと思われる、流れ込みである。

所見 本跡の時期は、遺物の形態及び出土遺物から古墳時代中期（5世紀前半）と思われる。

第230号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第532図 1	土師器 碗	A 13.4 B 6.0	口縁部及び体部一部欠損。丸底。体部は内彎しながら立ち上がる。口縁部は知く外反し、内側に縁を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ後磨き。	長石・石英・雲母・燧・スコリア 褐色 普通	P3129 80% 覆土下層 内面割離 PL108
2	土師器 胸	A [11.3] B 6.0 C 5.7	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はや外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ、外面上半部ヘラナデ。下縁ヘラ削り。	長石・石英・雲母・燧・スコリア 褐色 普通	P3130 60% 覆土中
3	土師器 碗	A 10.4 B 7.5 C 3.4	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎しながら外上方に立ち上がり、中位で張る。口縁部は外反する。	口縁部内面ヘラ磨き、外面ヘラナデ。体部内面ヘラナデ後磨き。外面ヘラ磨き。底部ヘラ削り。	長石・石英・雲母・スコリア 内：褐色、外：褐色 普通	P3131 95% 第2号貯蔵穴覆土中 PL108 内面黒色処理及び内面割離
4	土師器 胸	A [10.0] B 5.7 C 2.7	底部から口縁部片。平底。体部は内彎しながら外上方に立ち上がり、中位で張る。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ヘラ磨き。	長石・雲母・燧・小石・針状好物 鈍い黄褐色 普通	P3132 45% 第2号貯蔵穴覆土中
5	高杯 土師器	B (7.2)	杯部片。杯部は皿状に開いた股段をつくり、その後内彎気味に立ち上がり、口縁部は外反する。	杯部内・外面ヘラナデ後ヘラ磨き。底部ヘラナデ。	長石・石英・スコリア 内：灰白色、外：鈍い黄褐色 普通	P3133 40% 覆土中～下層
6	高杯 土師器	B (9.8)	脚部片。脚部は下部が膨らむ円柱状を立する。	脚部内面ナデ、外面縦位のヘラ磨き。	長石・石英・雲母・燧・針状好物 鈍い赤褐色 普通	P3134 30% 覆土上層 PL108



第532图 第230号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
7	埴 土師器	A 11.1 B 9.0 C 4.0	口縁部一部欠損。平底。体部は内唇しながら立ち上がり、中位で張る。口縁部は点線的に外反して外上方に開く。	口縁部内・外面ナデ後ヘラ磨き。体部内面ナデ、外面ヘラナデ後ヘラ磨き。	長石・石英・雲母・スコリア・バミス 棕色 普通	P3135 95% 覆土下層 PL108 体部外面に亀付着。口縁部内面に輪積み痕を残す。
8	埴 土師器	A 17.0 B 24.8 C 6.9	体部一部欠損。平底でやや突出する。体部は内唇しながら立ち上がり、中位で張る。口縁部はくゞの字状に外反する。	口縁部内面横ナデ、外面ハケ状工具によるナデ。体部内面ナデ、外面ヘラナデ。底部ヘラナデ。	長石・石英・雲母・スコリア 鈍い赤褐色 普通	P3136 70% 覆土中層 外面亀付着 PL108
9	埴 土師器	A 19.0 B (15.3)	体部中位から口縁部片。体部は内唇して頸部に至る。口縁部は外反する。	口縁部内・外唇横ナデ。体部内面上部及び外面ハケ状工具によるナデ。	長石・石英・雲母・スコリア 鈍い棕色 普通	P3137 60% 覆土下層 PL108

図版番号	種別	計測値					石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	産量(g)			
表322図10	紡錘車	3.7	(1.7)	0.7	1.8	(5.3)	滑石	石床面	Q3008 滑石
11	石	3.4	1.5	0.6	-	1.2	頁岩	岩床面	Q3009 頁岩 PL122
12	銅片	5.3	5.5	1.1	-	34.0	安山岩	覆土中	Q3010 安山岩

第231号住居跡(第533区)

位置 調査区の北東部, A7i3区。

規模と平面形 長軸3.28m, 短軸3.10mのほぼ方形である。

主軸方向 N-68°-W

壁 壁高は32cmで、外傾して立ち上がる。

床 若干の凹凸があるが、ほぼ平坦である。出入り口ピットから竈にかけて踏み固められている。

ピット 3か所(P₁~P₃)。P₁・P₂は径32~44cmの円形、深さ14~16cmで、配置や規模から支柱穴と思われる。P₃は長径42cm、短径32cmの楕円形、深さ20cmで、出入り口ピットと思われる。

竈 北西壁中央部に付設されている。遺存状態が悪く袖部は検出できなかったが、芯材と思われる凝灰岩片が散在している。火床部は床面と同レベルの平坦面を使用していたと思われる。煙道部は火床部からゆるやかに立ち上がる。

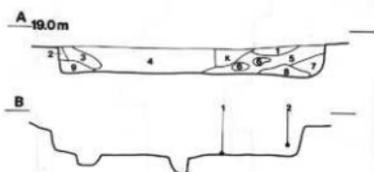
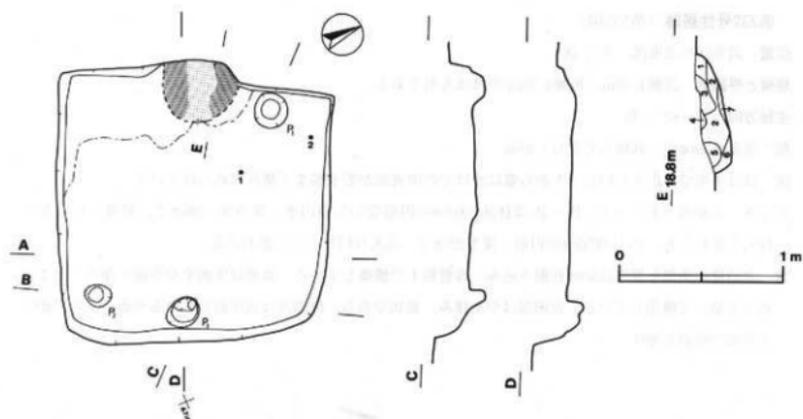
覆土層解説

- 1 鈍い黄褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック・炭化粒子少量
- 2 褐色 焼土粒子中量、ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子・焼土小ブロック少量
- 3 オリーブ褐色 粘土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子微量
- 4 黄褐色 粘土粒子多量、焼土粒子微量
- 5 オリーブ褐色 粘土粒子中量、ローム粒子・ローム小ブロック・焼土小ブロック少量、炭化粒子微量
- 6 オリーブ褐色 ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子・焼土大ブロック・炭化物少量、ローム大ブロック微量
- 7 褐色 ローム粒子中量

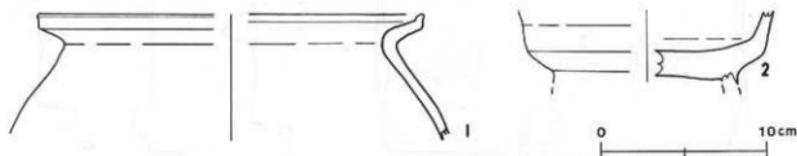
覆土 9層からなる人為堆積である。

土層解説

- 1 褐色 ローム粒子・ローム小・中ブロック中量
- 2 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック中量
- 3 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 4 黒褐色 ローム粒子・ローム中・大ブロック少量
- 5 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック・炭化粒子少量
- 6 黒褐色 ローム粒子・粘土粒子少量、ローム大ブロック微量
- 7 黒褐色 ローム粒子少量、ローム大ブロック微量
- 8 黒褐色 ローム粒子・ローム中・大ブロック少量
- 9 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック・炭化粒子少量



第533図 第231号住居跡実測図



第534図 第231号住居跡出土遺物実測図

第231号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第534図 1	甕 土師器	A [23.5] B (7.2)	口縁部片。口縁部は強く外反し、 稜をもつ。肩部は外上方につまみ 上げられる。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・ 外面ナデ。	長石・石英・雲母・ 炭・バミス 鈍い褐色 普通	P3138 10% 覆土下層
2	高台付坏 須恵器	B (4.5) E (0.6)	底部から体部片。底部は器内が厚い 平底。二次底部面境に高台が付く。 体部は直線的に立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。底部内 面ナデ、外面ヘラナデ調整。	長石・霏・小石・ 針状鉱物 灰黄色 普通	P3139 20% 覆土中層 PL108

遺物 土師器片52点，須恵器片3点，石10点が出土している。特に土師器片の多くは竈内から出土し，細片が多い。第534図1の土師器の甕片は北コーナー近くの覆土下層から，2の須恵器の高台付坏片は覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から奈良時代（8世紀後半）と思われる。

第232号住居跡（第535図）

位置 調査区の北東部，A7j区。

規模と平面形 長軸4.48m，短軸4.36mのほぼ方形である。

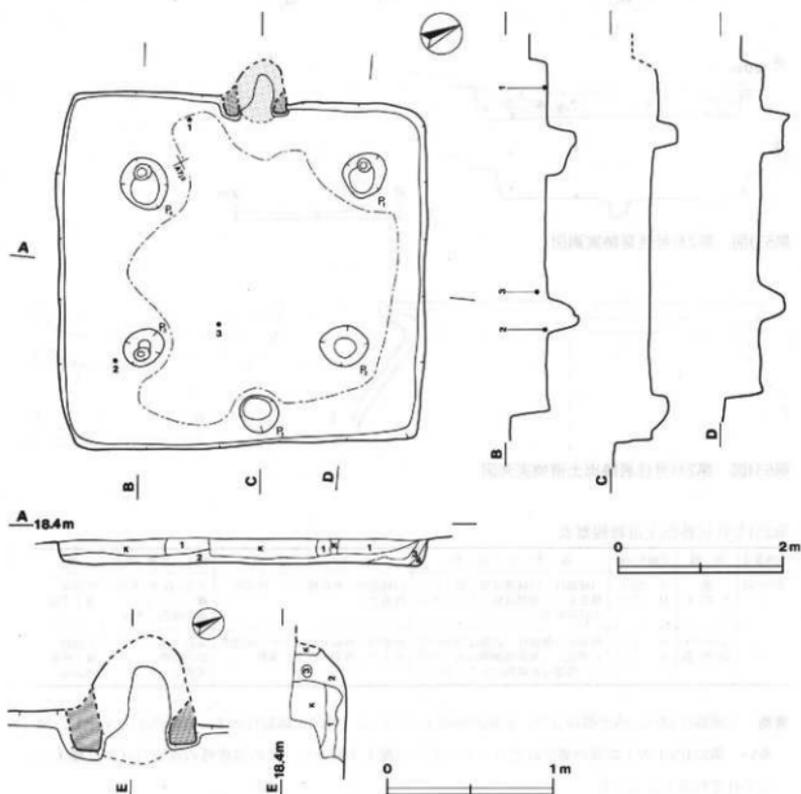
主軸方向 N-62°-W

壁 壁高は30cmで，外傾して立ち上がる。

床 ほぼ平坦で，出入口ピットから竈にかけての中央部が若干高まり踏み固められている。

ピット 5か所（P₁～P₅）。P₁～P₄は径50～60cmの円形ないし楕円形，深さ30～36cmで，配置や規模から主柱穴と思われる。P₅は径50cmの円形，深さ22cmで，出入口ピットと思われる。

竈 北西壁中央部を壁外に50cm程掘り込み，砂質粘土で構築している。袖部は床面をやや掘り窪めたところに粘土を貼って構築している。火床部はやや窪み，皿状である。煙道部は火床面からゆるやかに立ち上がり，先端部で傾斜を増す。



第535図 第232号住居跡実測図

覆土層解説

- 1 暗褐色 焼土粒子・焼土小ブロック・炭化粒子少量、ローム粒子微量
- 2 暗褐色 粘土粒子少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 黄褐色 砂質粘土粒子中量、焼土粒子・焼土小ブロック少量

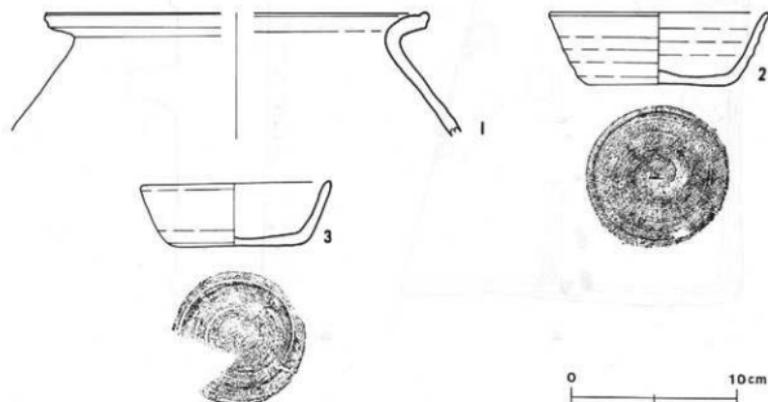
覆土 4層からなる自然堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量、炭化粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子多量

遺物 土師器片88点、須恵器片18点、石20点が出土している。第536図1の土師器の甕は竈左袖部の近くの覆土下層から、2・3の須恵器の坏片は正位で覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から奈良・平安時代（8世紀後半）と思われる。



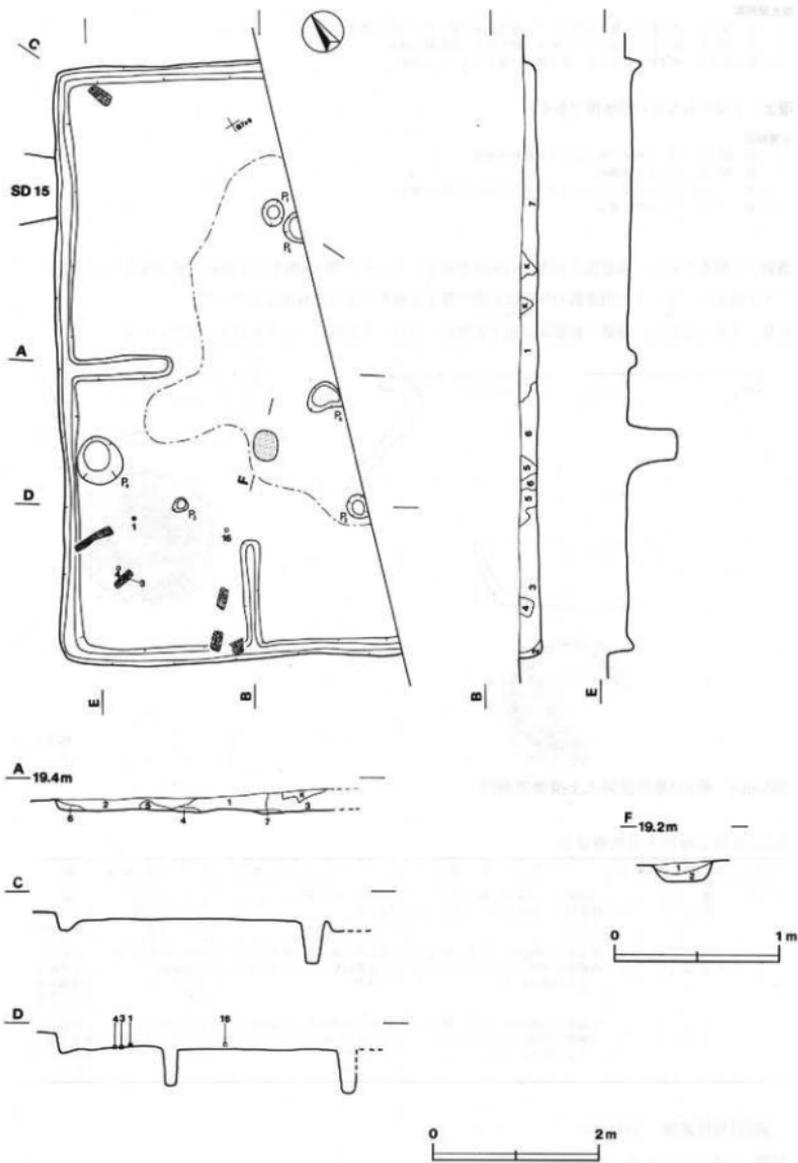
第536図 第232号住居跡出土遺物実測図

第232号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第536図 1	甕 土師器	A 23.5 B (7.2)	口縁部片。口縁部は強く外反し、稜を持つ。肩部は短くつまみ上げられる。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・石英・雲母・スコリア・礫 褐色 普通	P3140 10% 覆土下層 内面一部刺摩
2	坏 須恵器	A 13.4 B 4.4 C 8.5	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がり、そのまま口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面横ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後回転ヘラナデ調整。	長石・石英・雲母・針状鉱物 オリープ灰色 良好	P3141 70% 覆土下層 PL108 体部及び底部外面に自然釉
3	坏 須恵器	A 11.6 B 3.9 C 7.1	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がり、そのまま口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面横ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後回転ヘラ削り調整。	長石・礫・針状鉱物 暗オリープ灰色 良好	P3142 70% 覆土下層 PL108 体部外面に自然釉 (暗オリープ色)

第233号住居跡（第537図）

位置 調査区の北東部、B7a区。



第537图 第233号住居跡実測図

規模と平面形 本跡の東半分が調査区外であるため、平面形は不明である。長軸7.10m、短軸(4.08)mである。

主軸方向 N-39°-W

壁 壁高は22cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 確認された壁下すべてに巡る。上幅約16cm、下幅約8cm、深さ約8cmで、断面形はU字形である。

床 平坦で、炉周辺と中央部が踏み固められている。北西壁中央から中心部へ、南西壁から炉へ向かってそれぞれ1条ずつ溝が延びている。北西壁からの溝は上幅30cm、下幅18cm、深さ12cm、長さ124cm、断面形が逆台形である。南西壁からの溝は上幅20cm、下幅8cm、深さ18cm、長さ126cm、断面形がU字形である。

ピット 6か所(P₁~P₆)。P₁~P₃は長径20~58cm、短径16~56cmの円形ないし楕円形、深さ46~60cmである。P₄は長径(40)cm、短径32cmの不整楕円形、深さ19cmである。P₁~P₆とも性格は不明である。

炉 中央より南西壁寄りに付設されている。長径36cm、短径30cmの楕円形で、床面を12cm程掘り窪めた地床炉である。火床面は赤変硬化している。

炉土層解説

- 1 明赤褐色 焼上粒子・焼上小ブロック多量
- 2 褐色 ローム粒子・ローム小・中ブロック多量、ローム粒子微量

覆土 ブロック状に堆積している。7層からなる人為堆積である。

土層解説

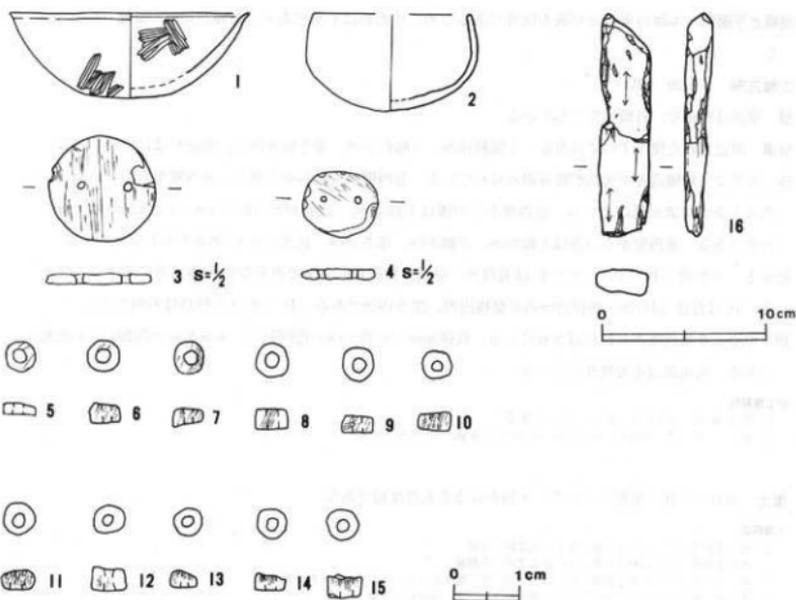
- 1 鈍い黄褐色 ローム粒子・焼上粒子・炭化粒子少量
- 2 鈍い黄褐色 ローム粒子少量、ローム大ブロック微量
- 3 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック・焼上小ブロック少量、炭化粒子微量
- 4 黒褐色 ローム小・中ブロック・焼上小ブロック・炭化粒子少量
- 5 黒褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量、ローム小ブロック微量
- 6 暗褐色 ローム粒子・ローム小・中ブロック・焼上粒子・炭化粒子少量、ローム大ブロック微量
- 7 褐色 ローム粒子多量、焼上粒子微量

遺物 土師器片56点、石製品(双孔円板・白玉・砥石)14点が出土している。第517図1は土師器の坏で床面から、3・4の双孔円板は西コーナーの床面から、2の腕と5~15の白玉は覆土中から、16の砥石は覆土下層からそれぞれ出土している。また、西及び北コーナー付近から長さ12~60cm程の炭化材が床面の5~6cm上から数本出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から古墳時代中期(5世紀後半)と思われる。

第233号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考		
							長さ(cm)	幅(cm)
第538図1	土師器 環	A 14.6	底部から口縁部片。平底。体部は内傾しながら外傾して立ち上がる。口縁部は外反し、端部は尖る。	口縁部内・外面傾ナデ。体部内・外面ナデ後へラ磨き。底部へラ磨り調整。	長石・石英・雲母・陶 明赤褐色 普通	P 3143 85% 床面 体部及び底部 内面一部剥離PL108		
		B 3.2						
		C 5.2						
2	土師器 碗	A 9.6	底部から口縁部片。丸底。体部は内傾しながら外傾して立ち上がる。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面傾ナデ。体部内面ナデ。外面へラナデ。	長石・石英・雲母・スコリア 鈍い黄褐色 普通	P 3144 30% 覆土中 体部・底部内面一部剥離		
		B 5.9						
図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)			
第538図3	有孔円板	3.0	2.2	0.7	-	5.3	滑石床面	Q3011 PL119
		4	有孔円板	6.5	3.8	1.6	-	55.7



第538図 第233号住居跡出土遺物実測図

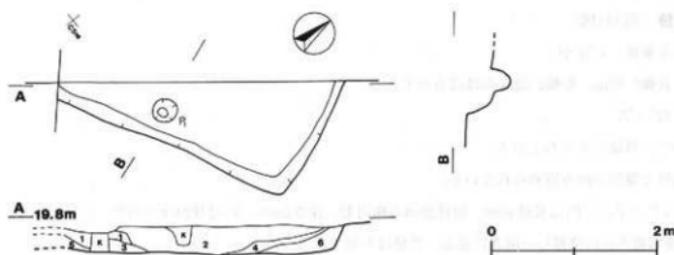
図版番号	種別	計測値					石質	出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)			
5	白 玉	0.5	0.5	0.2	0.2	0.1	滑 石	覆土中	Q3013
6	白 玉	0.5	0.5	0.3	0.2	0.1	滑 石	覆土中	Q3014
7	白 玉	0.5	0.5	0.4	0.2	0.1	滑 石	覆土中	Q3015
8	白 玉	0.5	0.5	0.4	0.2	0.1	滑 石	覆土中	Q3016
9	白 玉	0.5	0.5	0.2	0.2	0.1	滑 石	覆土中	Q3017
10	白 玉	0.4	0.5	0.3	0.1	0.1	滑 石	覆土中	Q3018
11	白 玉	0.5	0.45	0.3	0.2	0.1	滑 石	覆土中	Q3019
12	白 玉	0.5	0.5	0.45	0.2	0.2	滑 石	覆土中	Q3020
13	白 玉	0.4	0.4	0.3	0.2	0.1	滑 石	覆土中	Q3021
14	白 玉	0.5	0.45	0.35	0.2	0.1	滑 石	覆土中	Q3022
15	白 玉	0.5	0.45	0.35	0.2	0.2	滑 石	覆土中	Q3023
16	紙 石	(13.6)	3.2	1.7	—	(106.3)	凝 灰 岩	覆土下層	Q3024(風化が著しい) PL120

第234号住居跡 (第539図)

位置 調査区の北東部, C5g区。

規模と平面形 本跡の大部分が調査区に伸びるため, 規模及び平面形は不明である。確認された南東壁と北東壁の長さはそれぞれ3.02m, 1.64mである。

主軸方向 [N-32°-W]



第539図 第234号住居跡実測図

壁 壁高は34cmで、外傾して立ち上がる。

床 平坦である。

ピット P₁は南東壁際にあり、径30cmの円形、深さ24cmで、配置や規模から出入り口ピットと思われる。

覆土 6層からなる自然堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量
- 2 黒褐色 ローム粒子中量、ローム小・大ブロック少量、炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック少量、ローム中ブロック・炭化粒子微量
- 4 黒褐色 ローム粒子中量、ローム小・中ブロック少量、炭化粒子微量
- 5 黒褐色 ローム粒子少量
- 6 黒褐色 ローム粒子・ローム中ブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量

遺物 土師器片45点、須恵器片8点、石3点が出土している。須恵器の出土点数が少なく、しかも細片が多い。

第540図1は須恵器の坏片で、覆土中から出土している。

所見 本跡の出土遺物は細片が多く、時期を決定する資料が少ないが、時期は1の坏から推定すると奈良・平安時代（8世紀後葉～9世紀前葉）と思われる。



第540図 第234号住居跡出土遺物実測図

第234号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第540図 1	坏 須恵器	B [1.7] C [7.2]	底部片。平底。体部は直線的に立ち上がる。	底部回転へら削り調整。底部周縁回転へら削り調整。	長石・石英・雲母・礫・針状鉱物 灰白色 良好	P3145 10% 覆土中

第235号住居跡（第541図）

位置 調査区の北東部，C5c区。

規模と平面形 長軸2.86m，短軸2.62mのほぼ方形である。

主軸方向 N-22°-W

壁 壁高は38cmで，外傾して立ち上がる。

床 平坦で，南壁と竈間が踏み固められている。

ピット 2か所（P₁・P₂）。P₁は長径40cm，短径28cmの楕円形，深さ28cm，P₂は径24cmの円形，深さ26cmで，

P₁・P₂は中央部竈寄りに位置し，南北に並ぶ。性格は不明である。

竈 北西壁中央部を壁外に30cm程掘り込み，砂質粘土で構築している。火床部は床面と同じレベルで平坦である。煙道部は先端付近で傾斜を強めて立ち上がる。

覆土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・ローム中ブロック微量
- 2 黒褐色 焼土粒子・焼土小ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 焼土粒子・焼土小ブロック中量，ローム粒子少量，焼土中ブロック微量

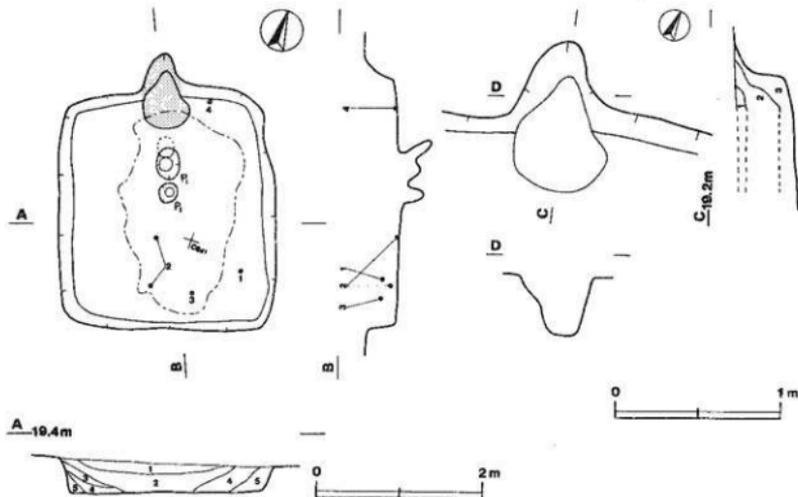
覆土 5層からなる自然堆積である。

土層解説

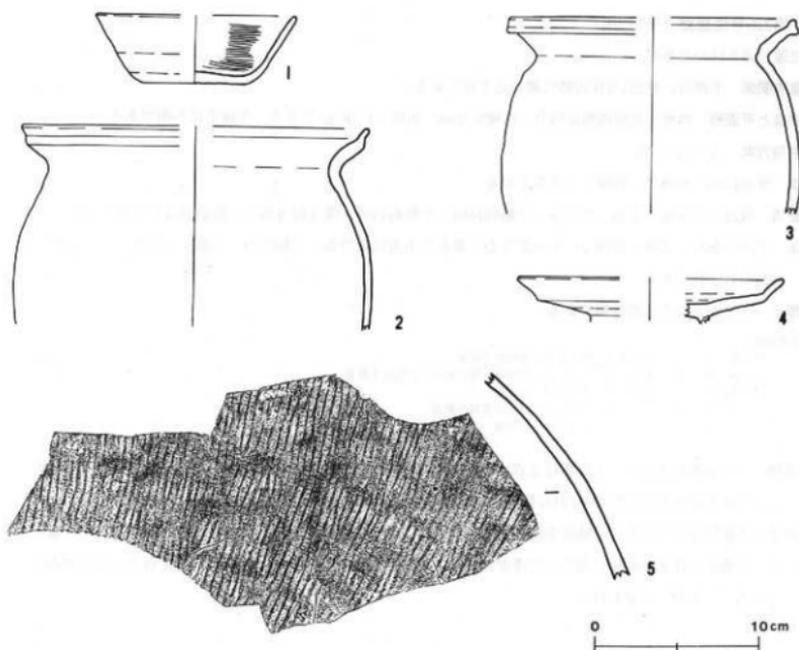
- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子多量
- 4 黒褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック・炭化粒子微量

遺物 土師器片118点，須恵器片13点が出土している。須恵器の出土点数が少ない。第542図1の土師器の坏片は斜位で，2の甕片は逆位で覆土下層から，3の土師器の甕片は覆土中層から，4の須恵器の甕坏部片は床面近くから，5の拓影図の甕片は床面からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から平安時代（9世紀前半）と思われる。



第541図 第235号住居跡実測図



第542図 第235号住居跡出土遺物実測図

第235号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第542図 1	坏 土器	A [12.2] B 4.3 C 6.0	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部内面へう磨き、外面ロクロナデ。体部下端回転へう削り。底部外面回転へう削り調整。	長石・石英・雲母・スコリア・パミス 鈍い褐色 良好	P3146 40% 覆土下層 PL108
2	壺 土器	A [21.0] B (12.3)	体部上半部から口縁部片。口縁部は強く外反し、稜を持つ。肩部は外上方につまみ上げられる。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・雲母・スコリア・針状鉱物 褐色 普通	P3147 15% 覆土下層 PL108
3	壺 土器	A [17.2] B (11.8)	体部上半部から口縁部片。口縁部は「く」の字状に強く外反し、稜を持つ。肩部はつまみ上げられる。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・雲母・産・パミス 鈍い褐色 普通	P3148 15% 覆土中層 PL108
4	壺 土器	A [16.3] B (2.5)	坏部片。坏体部は直線的に開いて立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。	長石・雲母・産・針状鉱物 灰黄色 良好	P3149 10% 覆土下層

第542図5は壺土器の体部片で、縦位の平行印きが施されている。

第236号住居跡（第512図）

位置 調査区の北東部、C5e区。

重複関係 本跡は、第221号住居跡に掘り込まれている。

規模と平面形 内壁と北東西側が残り、西壁3.10m、北壁（1.58）mである。平面形は不明である。

主軸方向 N-12°-W

壁 壁高は34~40cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 確認した全壁下を巡っている。上幅約16cm、下幅約14cm、深さ約8cmで、断面形はU字形である。

床 平川である。北壁の北西コーナー寄りから溝が1条南に延びる。上幅20cm、下幅4~12cm、深さ6cm。断面形がU字状である。

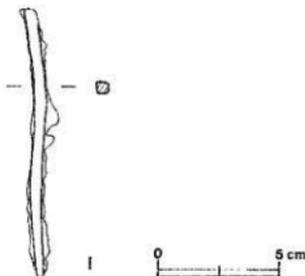
覆土 5層からなる自然堆積である。

土師解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量、焼上粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量、焼上粒子・炭化粒子微量
- 3 灰黄色 ローム粒子・ローム小ブロック少量
- 4 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック・炭化粒子微量
- 5 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック中量、ローム大ブロック少量

遺物 出土遺物が少ない。土師器片3点、第543図1の金属製品1点が覆土中から出土している。土師器細片は、本跡を掘り込んでいる第221号住居跡（平安時代）に関係する遺物と思われる。

所見 本跡は残りが少なく、時期を決定する遺物も出土していない。しかし、当遺跡の古墳時代中期の遺構形態（破溝から住居跡の中に向かって溝が伸びること）と類似していることなどから考えると、時期は古墳時代中期（5世紀）と思われる。



第543図 第236号住居跡出土遺物実測図

第236号住居跡出土遺物観察表

図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)		
第543図1	不明	(11.0)	1.6	0.3	-	(11.8)	覆土中	M3009 鉄

2 鍛冶工房跡

当遺跡からは5棟の鍛冶工房跡が検出されている。

第1号鍛冶工房跡（第544図）

位置 調査区の北東部、B7j区。

規模と平面形 長軸4.90m、短軸4.66mのほぼ方形である。

主軸方向 N-32°-W

壁 壁高は44cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 全周する。上幅約14cm、下幅約8cm、深さ約10cmで、断面形はU字形である。

床 平坦で、出入り口ピット及び貯蔵穴周辺に若干の高まりと踏み固められたところがある。

ピット 8か所（P₁～P₈）。P₁～P₃は径22～26cmの円形、深さ44～94cmで、配置や規模から主柱穴と思われる。P₅は径28cmの円形、深さ26cmで、出入り口ピットと思われる。P₆～P₈は径20～26cm、深さ6～10cmで、性格は不明である。

炉 3か所（炉1～炉3）。いずれも中央から北寄りに位置し、重畳している。炉1は径44cmの円形、炉2は長径52cm、短径32cmの楕円形、炉3は径30cmの円形と思われる。重複関係は炉2が炉1を掘り込み、さらに炉3は炉2を掘り込んでいる。いずれも床面を6cm、10cm、14cm程掘り窪めたもので、炉床は赤変硬化している。地床がと鍛冶かとの分別は不明である。

炉土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土粒子・黒色土粒子中量、焼土小ブロック少量
- 2 赤黒色 焼土小ブロック少量、ローム粒子微量
- 3 黒色 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子少量

貯蔵穴 南コーナー部に存在。長径90cm、短径76cmの不整楕円形で、深さは50cm、断面形はU字形である。

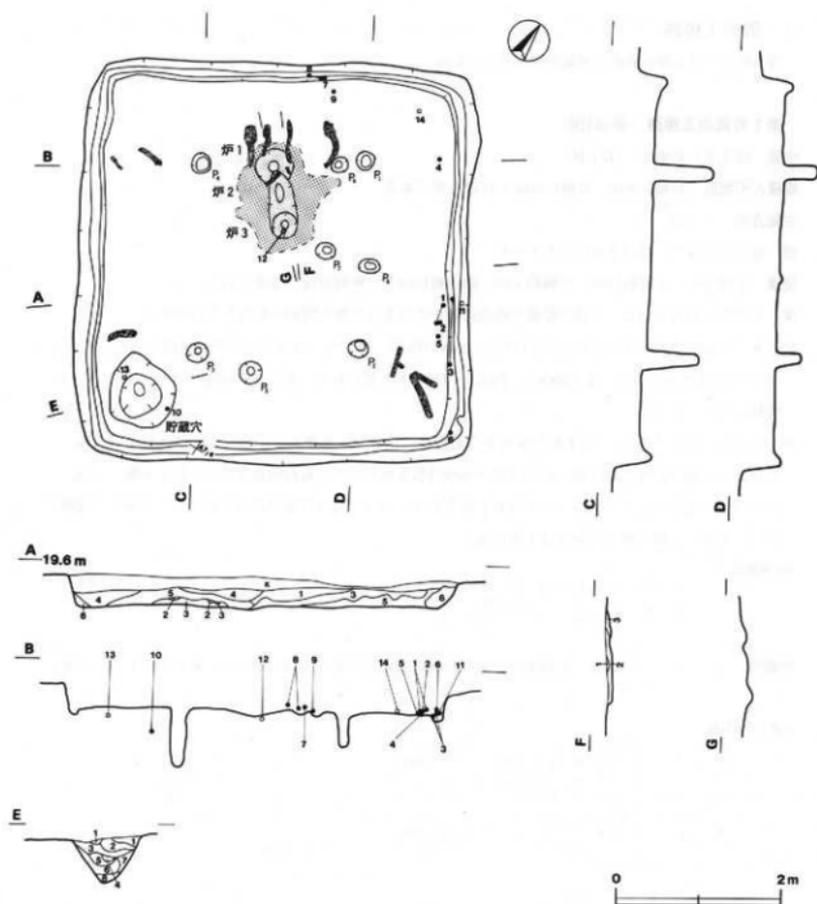
貯蔵穴土層解説

- 1 灰褐色 ローム粒少量、ローム小・中ブロック・焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・黒色土小ブロック微量
- 3 灰褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒中量、ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化物微量
- 4 鈍い赤褐色 焼土粒中量、ローム粒子少量、ローム小ブロック・焼土小ブロック・黒色土小ブロック微量
- 5 鈍い褐色 焼土粒少量、ローム粒少量、焼土小ブロック少量、黒色土小ブロック微量
- 6 鈍い褐色 ローム粒少量、ローム中ブロック・焼土粒子微量
- 7 灰褐色 ローム大ブロック中量、ローム小ブロック少量、ローム粒子・焼土粒少量
- 8 明褐色 ローム粒中量

覆土 6層からなる自然堆積である。

土層解説

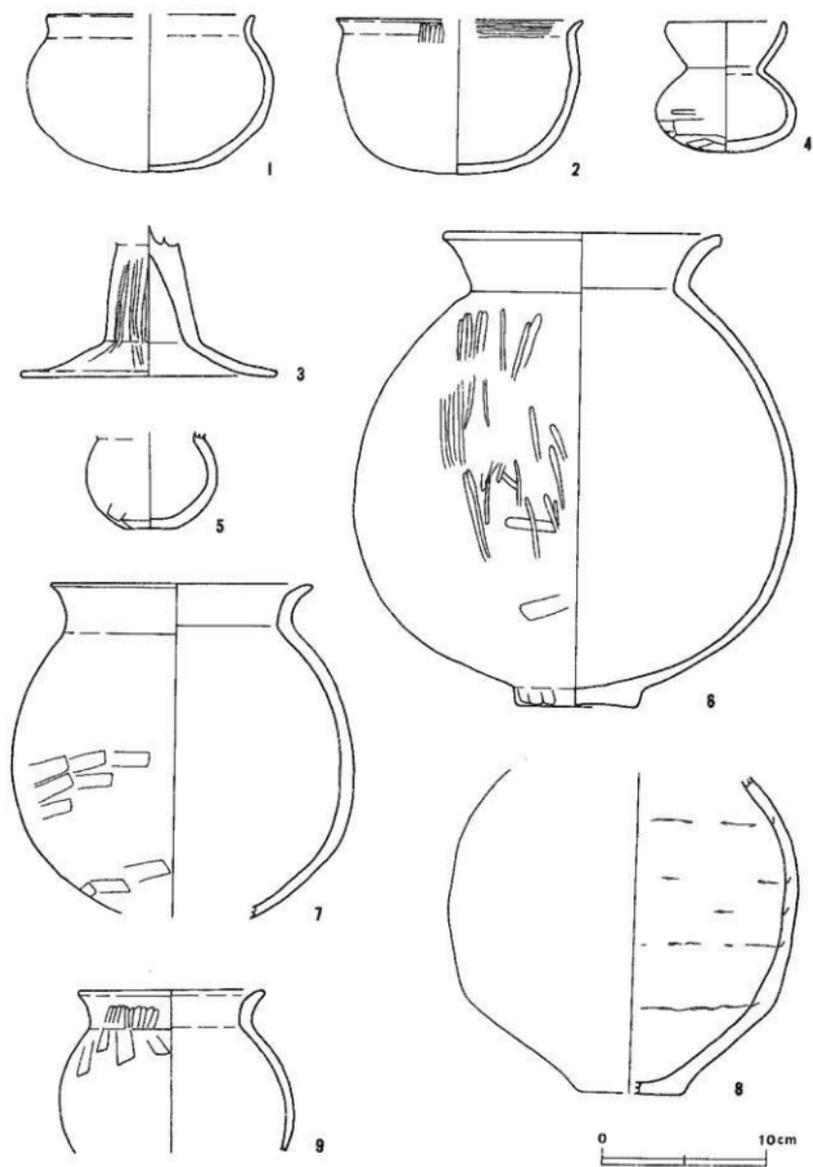
- 1 黒褐色 ローム粒子多量、ローム小・大ブロック・炭化物中量、焼土少量
- 2 黒褐色 焼土粒子多量、ローム小・中ブロック・炭化物中量
- 3 黒褐色 焼土粒子・炭化物中量、焼土小・中・大ブロック・ローム粒子・ローム小ブロック少量
- 4 黒褐色 焼土小・中・大ブロック・ローム粒少量・ローム小・中ブロック・炭化物・炭化粒中量、焼土粒子・ローム大ブロック少量
- 5 黒褐色 ローム小・中ブロック・ローム粒中量、ローム大ブロック少量、炭化物微量
- 6 褐色 ローム粒少量・ローム小・中ブロック多量、ローム大ブロック・炭化物少量



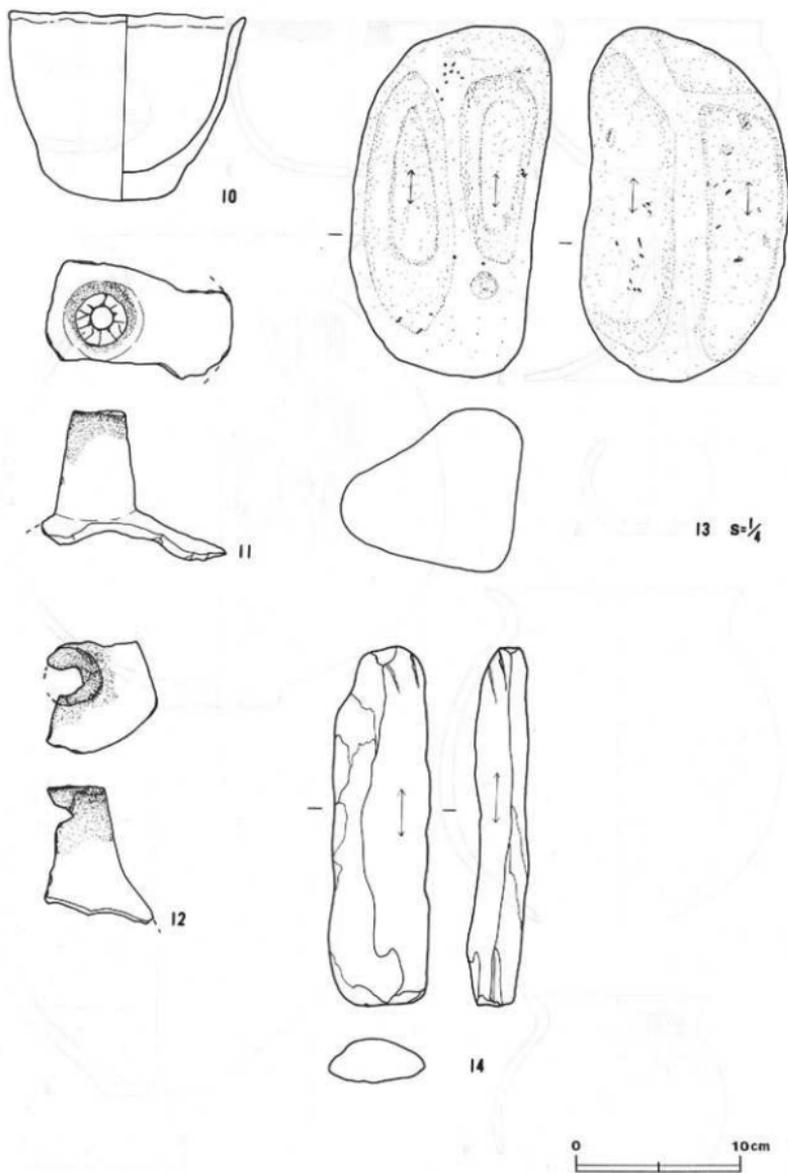
第544図 第1号鍛冶工房跡実測図

遺物 土師器片550点、陶器片1点、石8点（うち金床石1点、砥石1点、軽石2点）、鉄滓50gが出土している。第545・546図10の手捏土器を除く1～14の遺物は、床面ないし床面付近から出土している。1・2の椀、3の高坏、4の埴、11の高坏脚部の転用羽口は北東壁近くの東コーナー寄りから、6の甕は東コーナー覆土下層から、7～9の甕は北西壁中央部覆土下層からそれぞれまとまって出土している。13の金床石は貯蔵穴に半分埋まった状態で、10の手捏土器は貯蔵穴覆土中からそれぞれ出土している。

所見 本跡は、羽口、鉄滓、金床石、砥石などが出土していることから鍛冶工房跡と考えられる。また、床面近くの覆土中から多量の炭化材が出土していることから焼失した可能性が考えられる。時期は、遺構の形態及び出土遺物から古墳時代中期（5世紀中葉から後葉）と思われる。



第545图 第1号鐵冶工房跡出土遺物実測図(1)



第546图 第1号鍛冶工房跡出土遺物実測図(2)

第1号鍛冶工房跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第545回	1 上部器	A 12.5	底部から口縁部片。丸底。体部は断面が薄く内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ後磨き。	長石・石英・雲母・礫 鈍い赤褐色 普通	P3001 80% 覆上下層 内外面 部5割 PL109
		B 9.6				
2	10 土師器	A 13.0	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ後ヘラ磨き。体部内・外面ナデ後磨き。	長石・石英・雲母・スコリア 鈍い褐色 普通	P3002 23% 覆上下層
		B 19.4				
3	高 土師器	B (9.3)	脚部片。脚部は下位でラッパ状に大きく開く。	柱状部外面縦位のヘラ磨き。器部内面ナデ。外面磨き。	長石・石英・雲母・スコリア・礫 明赤褐色 普通	P3003 30% 床層 PL109
		D 15.6 E 8.1				
4	増 土師器	A 7.0	口縁部 欠欠損。平底。体部は丸底を呈する。口縁部は「く」の字状に外反し、踵部は内彎する。	口縁部内面横ナデ。外面ヘラナデ。体部外面上半部ナデ。下半部ヘラ削り。底部ヘラ削り調整。	長石・石英・雲母・スコリア 褐色 普通	P3004 95% 覆上下層 PL108
		B 7.9				
		C 3.0				
5	増 土師器	B (5.9)	口縁部欠欠損。平底。体部は内彎して立ち上がる。	底部ヘラ削り調整。体部内面下半部指ナデ。体部外面下半部ヘラ削り。	長石・石英・雲母・パミス・礫 鈍い褐色 普通	P300580%PL109 覆上下層 体部 内面下半部に輪 積み痕を残す。
		C 3.2				
6	覆 土師器	A 16.7	体部 一部欠損。底部は平底で突出する。体部は内彎して立ち上がり、球形状を呈する。口縁部は「く」の字状に外反し、後を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。外面ヘラナデ後ヘラ磨き。底部ヘラナデ調整。	長石・石英・雲母・スコリア 褐色 普通	P3006 95% 覆上下層 体部外面底付着 普通
		B 29.1				
		C 7.3				
7	樂 土師器	A 15.8	体部下半部から口縁部片。体部は内彎しながら立ち上がり、球形状を呈する。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。外面ヘラ削り後ナデ。	長石・石英・雲母・スコリア 鈍い黄褐色 普通	P3007 60% 覆上下層 体部下端底付着
		B (22.0)				
8	覆 土師器	B (19.6)	底部から体部上半部片。底部は平底で突出する。体部は内彎しながら立ち上がり、下位に最大径をもつ。	体部内面ヘラナデ。外面ヘラ削り後ナデ。	長石・石英・雲母・パミス 明赤褐色 普通	P3008 60% 覆上下層 体部外面底付着 普通
		C 6.1				
9	覆 土師器	A 11.1	体部上半部から口縁部片。頸部は断面に立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部内面ヘラ削り。外面ヘラ磨き。体部内面ナデ。ヘラ削り後ヘラナデ。	長石・石英・雲母・スコリア・礫 褐色 普通	P3009 50% 覆上下層 PL108
		B (9.9)				
第546回 10	手捏土師器	A 7.1	口縁部 一部欠損。丸底を呈する平底。体部は内彎気味に外彎して立ち上がる。口縁部は強く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面指ナデ。外面ナデ。	長石・石英・雲母・礫 褐色 普通	P3010 95% 貯蔵穴覆土中 PL108
		B 5.7				
		C 3.5				

図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第546回	転用羽口	(9.0)	(11.4)	(7.2)	1.9	(147.1)	床面	DP3001 高坏脚部転用 PL117
	12 転用羽口	(8.2)	(6.7)	(6.3)	1.8	(66.7)	床面	DP3002 高坏脚部転用 PL117
13	鉄床石	28.4	16.3	13.2	-	8740.0	貯蔵穴覆土中	Q3001 砂岩 PL121
14	鉄石	22.0	6.0	2.7	-	601.8	床面	Q3002 泥質片岩

第2-A号鍛冶工房跡(第547・548回)

位置 調査区の中央部。D5g区。

重複関係 本跡は、第2-B号鍛冶工房跡の床上に新たに床(二次床面)を構築していることから、第2-B号鍛冶工房跡(二次床面)より新しい。

規模と平面形 長軸7.58m、短軸5.42mの長方形である。

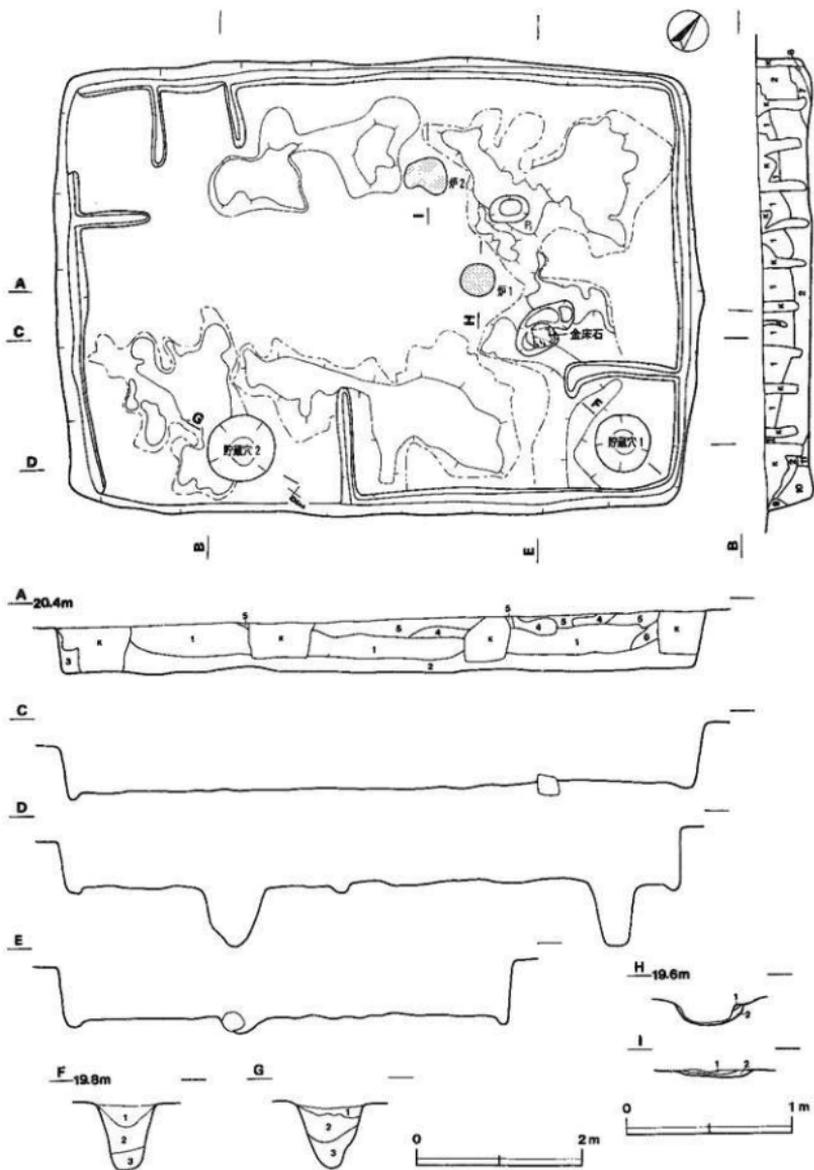
主軸方向 N-50°-E

壁 壁高は56~78cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

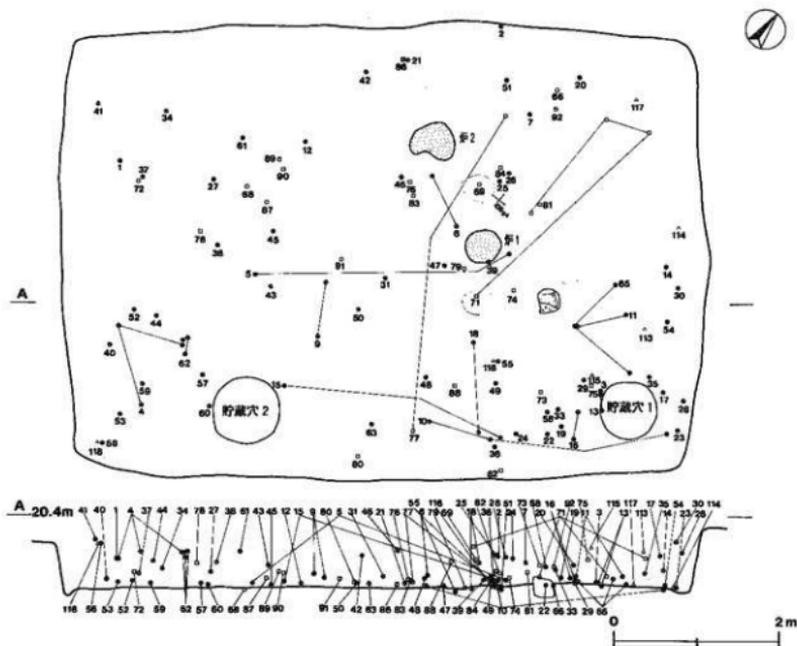
壁溝 ほぼ全周する。上幅約17cm、下幅約9cm、深さ約7cmで、断面形はU字形である。

床 やや凹凸があり、部分的に高まりが見られる。如1から中央部にかけて強く踏み固められている。

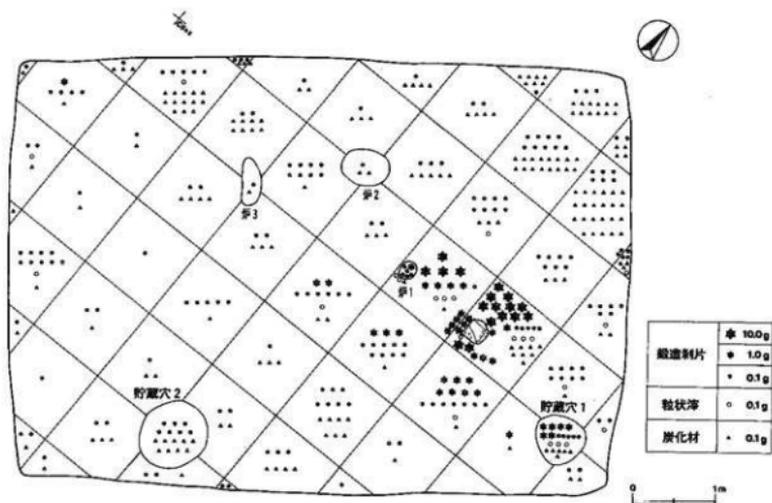
ピット P₁は、長径47cm、短径38cmの楕円形で、配置や規模から主柱穴と思われるが、対応する他のピット



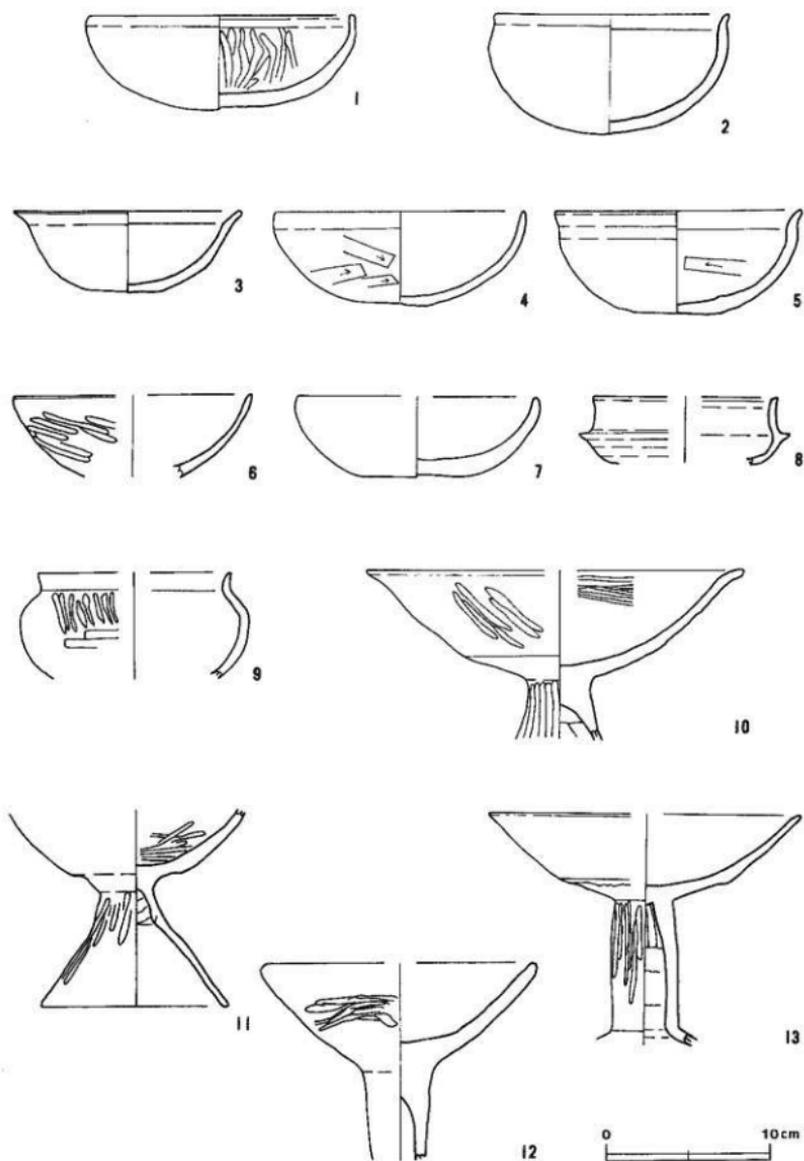
第547图 第2-A号鐵冶工房跡実測图



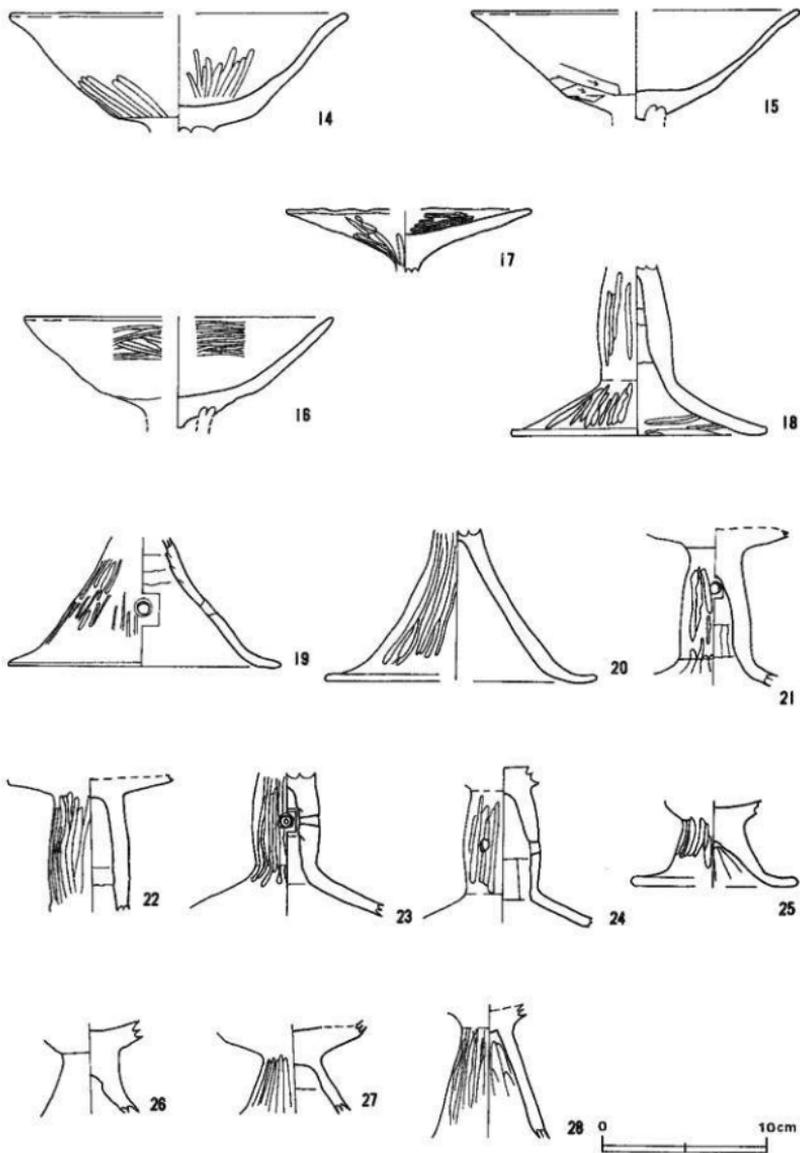
第548图 第2-A号鐵冶工房跡遺物出土狀況圖



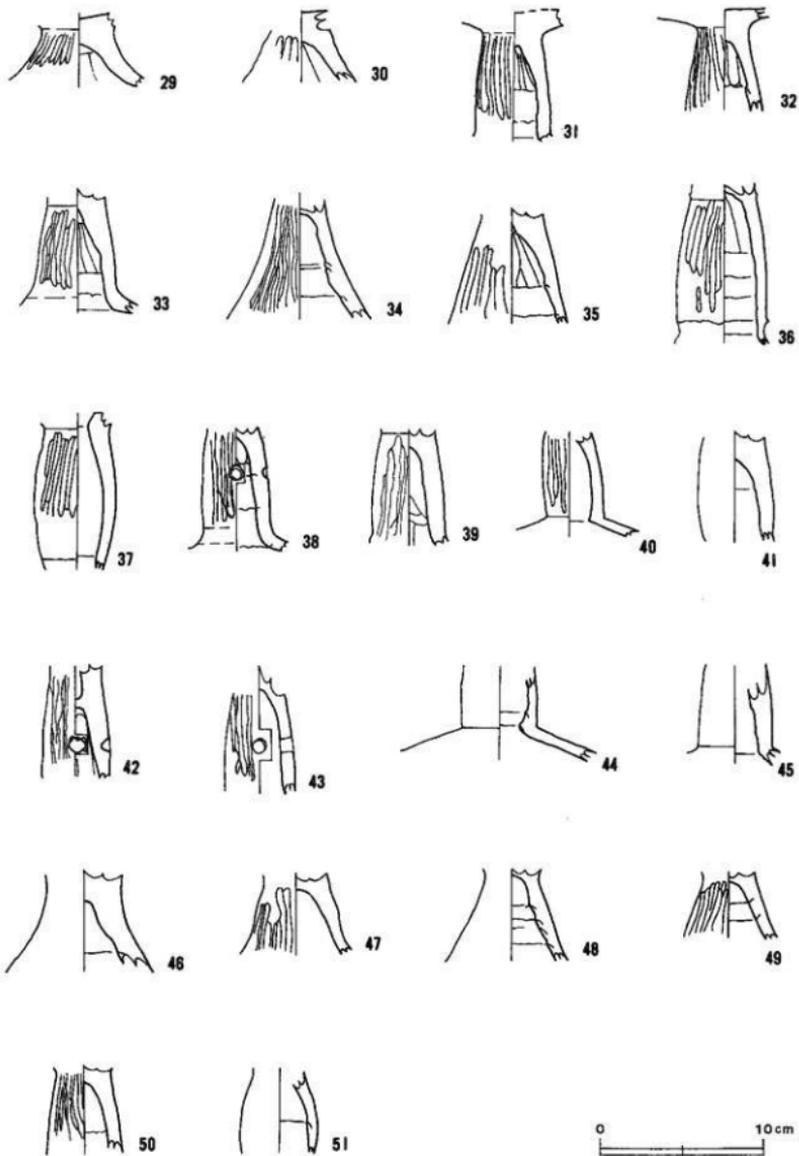
第549图 第2-A号鐵冶工房跡鐵造剝片・炭化材狀況圖



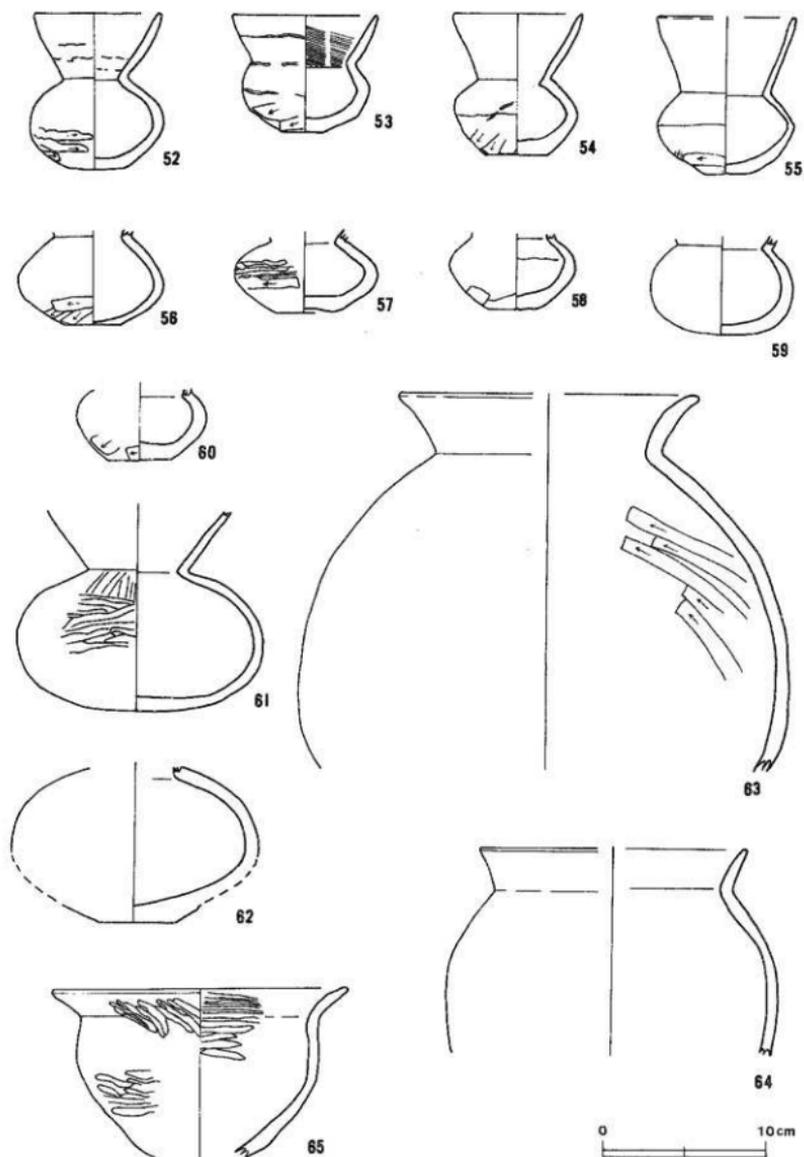
第550図 第2-A号鍛冶工房跡出土遺物実測図(1)



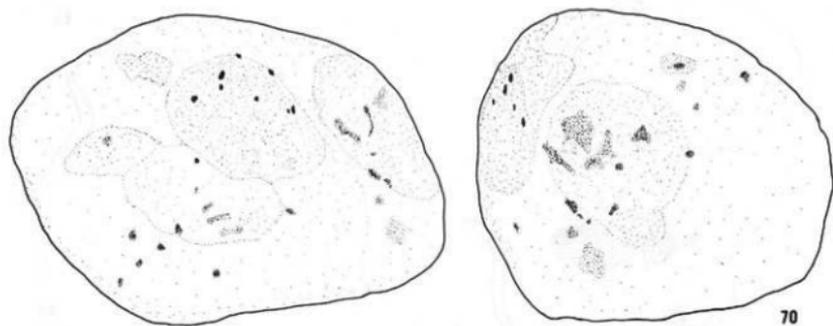
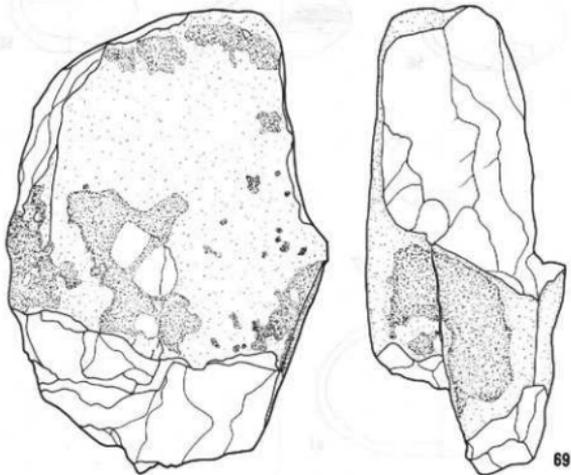
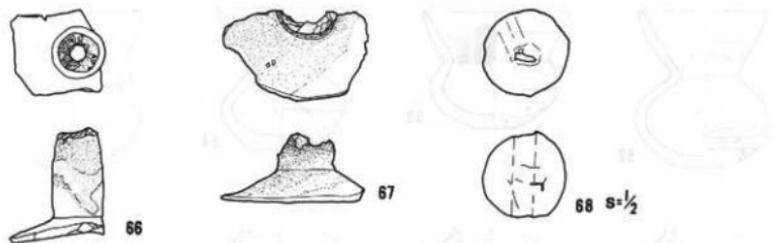
第551图 第2-A号铜冶工房出土文物实测图(2)



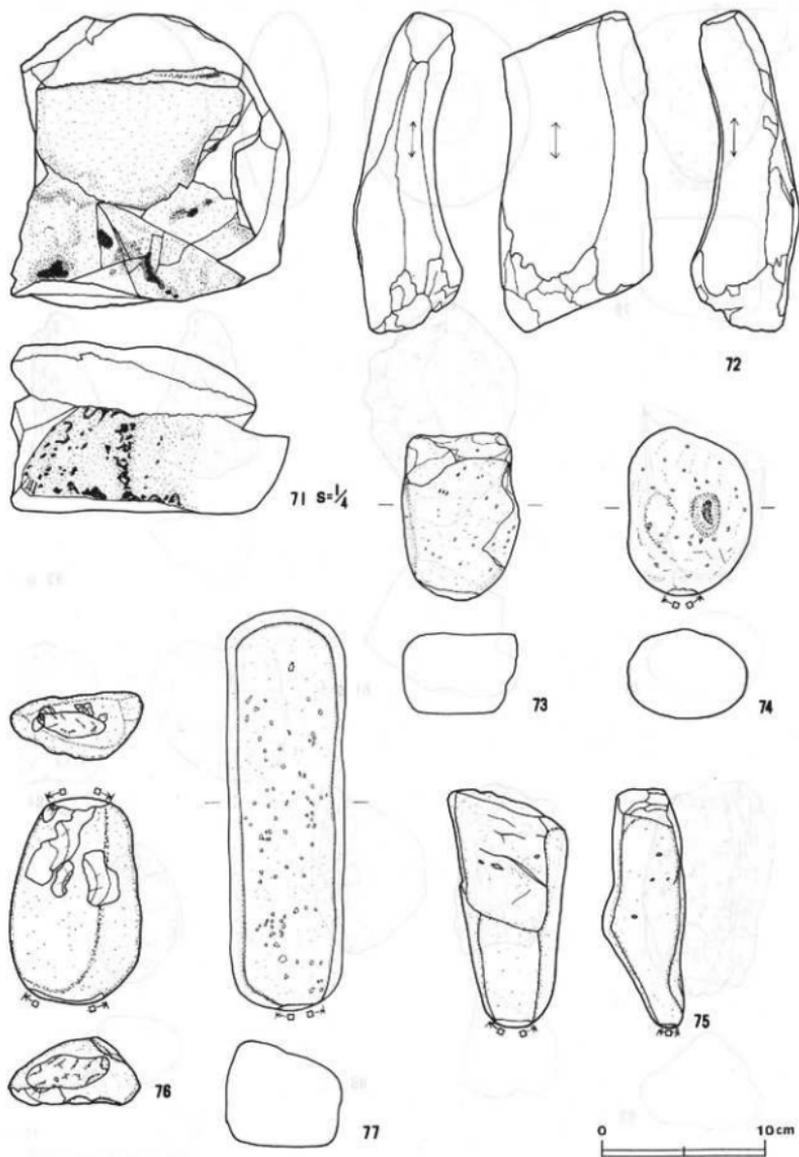
第552图 第2-A号鍛冶工房跡出土遺物実測図(3)



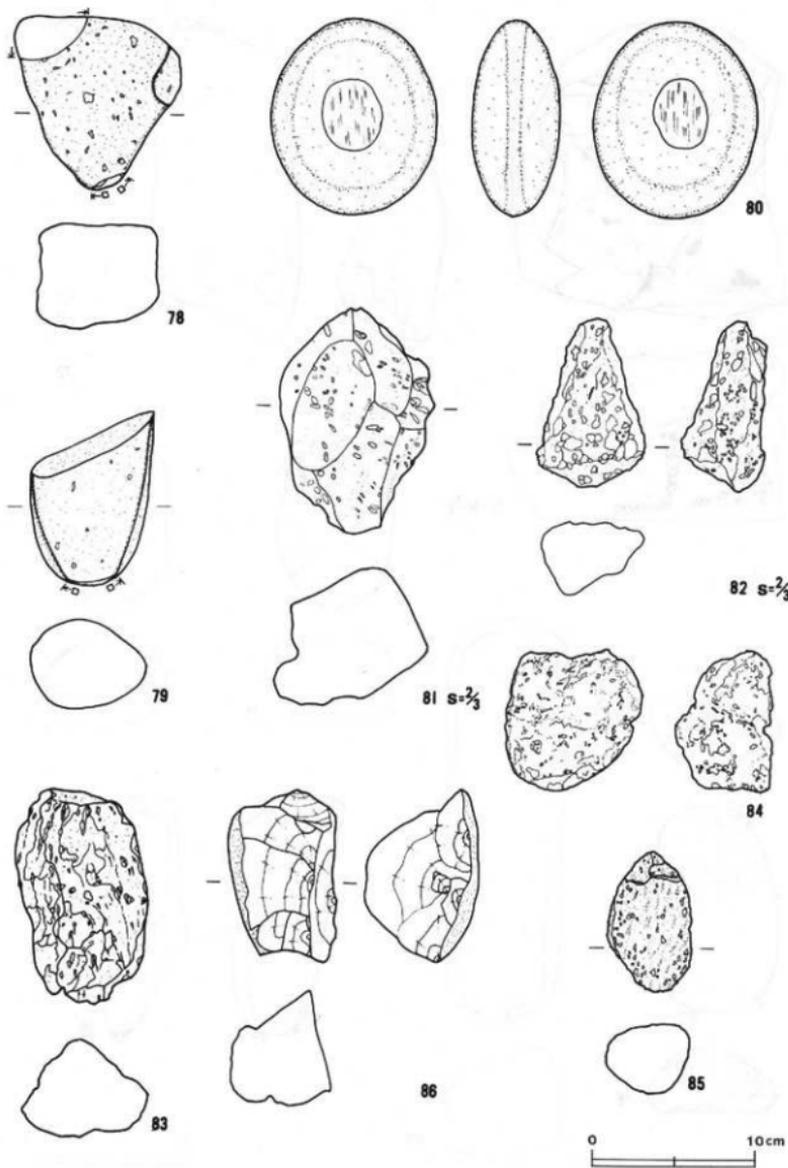
第553图 第2-A号鍛冶工房跡出土遺物実測図(4)



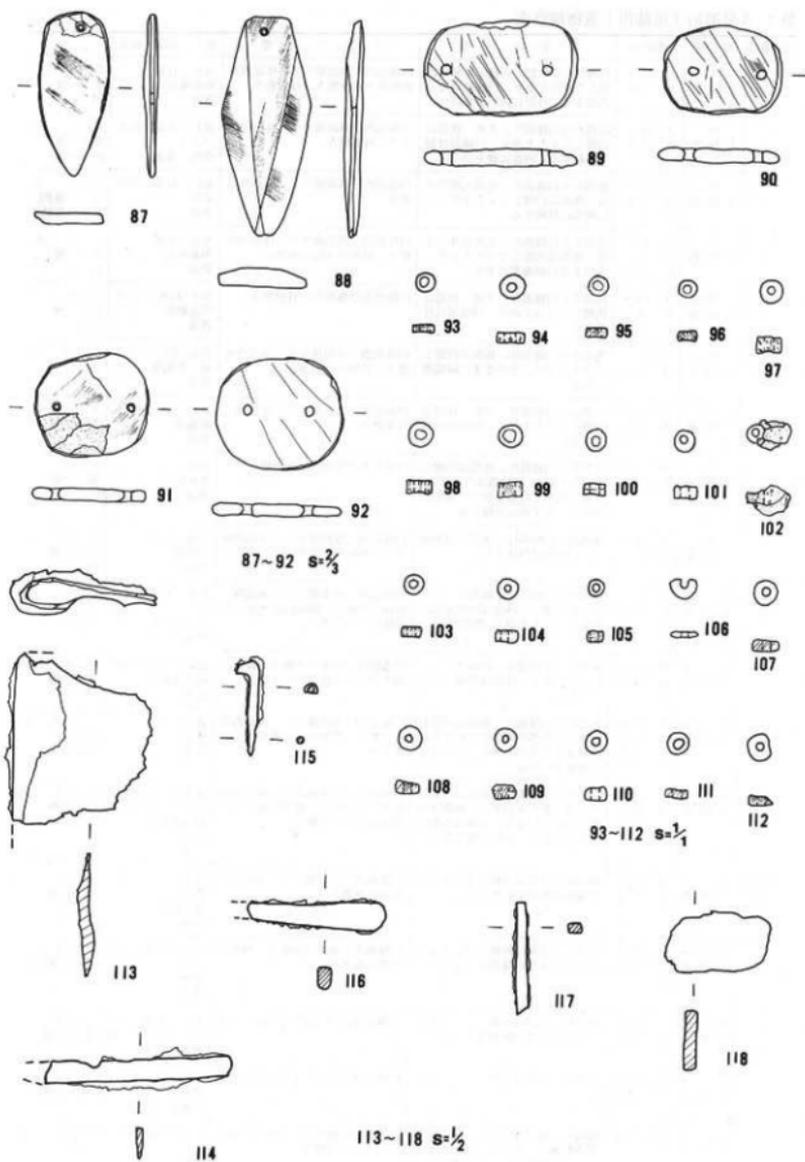
第554图 第2-A号锻造工房跡出土遺物実測图(5)



第555图 第2-A号鍛冶工房跡出土遺物実測図(6)



第556图 第2-A号鐵冶工房跡出土遺物実測図(7)



第557图 第2-A号锻冶工房跡出土遺物実測図(8)

第2-A号鍛冶工房跡出土土物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・地肌	備考
第550図	1 土師器	A 16.2 B 3.8	口縁部一部欠損。丸底。体部は内脣して立ち上がり、口縁部は近く内脣する。外面に縄の痕を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面放射状のヘラ磨き。外面磨き。	長石・石英 明赤褐色 普通	P1088 95% 覆土上層 PL109
	2 坏 土師器	A 14.3 B 7.2	底部から口縁部片。丸底。体部は内脣して立ち上がり、口縁部は近く外脣する。内面に横を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。外面磨き。	長石・雲母・石英 ハミス 褐色 普通	P1089 60% 覆土上層 PL109
3 坏 土師器	A 14.0 B 4.9 C 4.0	底部から口縁部片。丸底気味の平底。体部は内脣して立ち上がり、口縁部は外脣する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面磨き。	長石・石英・雲母 褐色 普通	P1090 60% 覆土下層 PL109 体部内面細磨	
	4 坏 土師器	A 15.0 B 3.7 C 4.6	底部から口縁部片。丸底気味の平底。体部は内脣して立ち上がり、そのまま口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面磨き。外面へら磨り後磨き。	長石・石英 明赤褐色 普通	P1091 60% 覆土上層 PL109
	5 坏 土師器	A 14.9 B 6.2 C 3.4	底部から口縁部片。平底。体部は内脣して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部及び体部内・外面磨き。	長石・石英・ハミス 明赤褐色 普通	P1092 40% 覆土下層 PL109
6 坏 土師器	A [16.6] B (5.2)	体部から口縁部片。体部は内脣して立ち上がり、そのまま口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面磨き。外面へら磨き。	長石・雲母・ハミス 鈍赤褐色 普通	P1093 30% 床面 PL109	
	7 坏 土師器	A [15.6] B 3.9 C [3.2]	底部から口縁部片。平底。体部は内脣して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面磨き。	長石・石英・ハミス 赤褐色 普通	P1094 20% 覆土上層
8 坏 須恵器	A [9.5] B (4.1)	体部から口縁部片。体部は内脣して立ち上がり、口縁部は外反する。外面に突出した縁を持つ。肩部は平底で、わずかに内脣する。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。	長石 黄褐色 普通	P1095 5% 覆土中層	
	9 坏 土師器	A [11.6] B (6.3)	体部から口縁部片。体部は球形状で、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。外面へら磨き。	長石・石英 赤褐色 普通	P1096 40% 覆土下層 PL109
10 高 土師器	A [23.0] B (10.3)	肩部から口縁部片。肩部は「ハ」の字状に開く。坏部は内脣気味に外脣して立ち上がり、肩部で反る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面へら磨き。肩部内面ナデ。外面縦位のヘラ磨き。	長石・石英・スコリア 鈍赤褐色 普通	P1097 30% 床面 PL109	
	11 高 土師器	A [12.0] B 11.4 E 7.5	肩部から坏体部片。肩部は「ハ」の字状に開く。坏部は外脣して立ち上がる。	坏体部内・外面へら磨き。肩部内面ナデ。外面縦位のヘラ磨き。	長石・ハミス・雲母 鈍赤褐色 普通	P1098 50% 覆土下層 PL109
12 高 土師器	A [15.8] B [12.0] E (5.4)	肩部から口縁部片。肩部は円筒状である。坏部は外脣してわずかに内脣気味に立ち上がり、そのまま口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面へら磨き。外面ナデ。肩部内・外面ナデ。	長石・石英 褐色 普通	P1099 40% 床面 PL109	
	13 高 土師器	A [19.0] B (14.4)	肩部から口縁部片。肩部は円筒状で下方に膨らみがあり、肩部との接合部がくびれる。坏部は外脣して立ち上がる。下部に横を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面磨き。外面ナデ。肩部内面ナデ。外面縦位のヘラ磨き。	長石・石英・雲母・ハミス・スコリア 鈍赤褐色 普通	P1100 30% 覆土下層
第551図	14 高 土師器	A [20.4] B (7.1)	坏部片。坏部は外脣して立ち上がり肩部はわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面へら磨き。	長石・スコリア・雲母 鈍赤褐色 普通	P1101 30% 覆土中層 PL109
	15 高 土師器	A [19.8] B (6.5)	坏部片。坏部は外脣して立ち上がり、そのまま口縁部に至る。	口縁部及び体部内面磨き。外面へら磨り後ナデ。	長石・石英・スコリア 褐色 普通	P1102 30% 覆土下層
16 高 土師器	A [18.4] B (6.7)	坏部片。坏部は外脣して立ち上がり、そのまま口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面へら磨き。	長石・石英・ハミス・スコリア・雲母 褐色 普通	P1103 30% 覆土下層	
17 高 土師器	A [15.0] B (3.8)	坏部片。坏部は外脣して立ち上がる。	口縁部及び体部内・外面へら磨き。	長石・スコリア・雲母 赤褐色 普通	P1104 30% 覆土上層	
18 高 土師器	B (10.4) D 15.7	肩部片。肩部は円筒状で下方に膨らみがあり、肩部との接合部がくびれる。肩部は「ハ」の字状に入大きく開く。	肩部外面は縦位のへら磨き。肩部内・外面へら磨き。	長石・雲母・石英・ハミス 普通 褐色	P1105 30% 床面	

図版番号	器種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・産地	備 考
19	高土師器 土師器	B (7.9) D 16.7	脚部片。脚部は「ハ」の字状に大きく開き、裾部で反る。中位に孔が穿たれる。	脚部内面ハケナデ、外面縦位のヘラ磨き。	雲母・長石 淡褐色 普通	P1106 40% 覆土下層 PL110
20	高土師器 土師器	B (9.3) D 16.51	脚部片。脚部は「ハ」の字状に大きく開き、裾部で反る。	脚部内面ナデ、外面縦位のヘラ磨き。	長石・石英 黄褐色 普通	P1107 30% 覆土上層
21	高土師器 土師器	B (9.7) E (8.4)	脚部片。脚部は円筒状で下方に膨らみがあり、裾部との接合部がくびれる。中位に貫通しない孔が穿たれる。	脚部外面縦位のヘラ磨き。	長石・石英・バミス 褐色 普通	P1108 20% 覆土下層 PL110
22	高土師器 土師器	B (8.0) E (7.2)	脚部片。脚部は円筒状で下方に膨らみがあり、裾部との接合部がくびれる。	脚部内面に輪積み痕を残す、外面縦位のヘラ磨き。	長石・スコリア 淡水緑色 普通	P1109 20% 覆土下層
23	高土師器 土師器	B (8.9)	脚部片。脚部は円筒状で下方に膨らみがあり、裾部との接合部がくびれる。中位に2孔が穿たれる。	脚部外面縦位のヘラ磨き。	長石・石英・バミス 鈍い褐色 普通	P1110 20% 床面 PL111
24	高土師器 土師器	B (9.6) E (8.2)	脚部片。脚部は円筒状で下方に膨らみがあり、裾部との接合部がくびれる。中位に4孔が穿たれる。	脚部内面ナデ、外面縦位のヘラ磨き。	長石・雲母・石英 淡褐色 普通	P1111 20% 覆土上層
25	高土師器 土師器	B (5.2) E 3.8 D 10.1	脚部片。脚部は「ハ」の字状に大きく開き、裾部が反る。	脚部内面ナデ、外面縦位のヘラ磨き。	長石・雲母・バミス 赤色 普通	P1112 20% 覆土上層
26	高土師器 土師器	B (5.7) E (3.9)	脚部片。脚部は「ハ」の字状に開く。	脚部内面ナデ、外面縦位のヘラ磨き。	長石・スコリア・ 石英・バミス 褐色 普通	P1113 20% 覆土上層
27	高土師器 土師器	B (5.6) E (3.5)	脚部片。脚部は「ハ」の字状に開く。	脚部内面に輪積み痕を残す、外面縦位のヘラ磨き。	長石・雲母・バミス 鈍い褐色 普通	P1114 20% 覆土中層
28	高土師器 土師器	B (8.2) E (6.6)	脚部片。脚部は「ハ」の字状に開く。	脚部内面ナデ、外面縦位のヘラ磨き。	長石・石英・雲母 明赤褐色 普通	P1115 20% 覆土上層
第352図 29	高土師器 土師器	B (4.4) E (3.5)	脚部片。脚部は「ハ」の字状に開く。	脚部内面ナデ、外面縦位のヘラ磨き。	長石・石英 明赤褐色 普通	P1116 20% 覆土上層
30	高土師器 土師器	B (4.4)	脚部片。脚部は「ハ」の字状に開く。	脚部内面ナデ、外面縦位のヘラ磨き。	長石・石英 鈍い褐色 普通	P1117 20% 覆土上層
31	高土師器 土師器	B (7.9) E (6.4)	脚部片。脚部は「ハ」の字状に開く。	脚部内面ナデ、外面縦位のヘラ磨き。	長石・雲母 普通	P1118 20% 覆土下層
32	高土師器 土師器	B (6.2) E (5.1)	脚部片。脚部は「ハ」の字状に開く。	脚部内面ナデ、外面縦位のヘラ磨き。	長石・石英・雲母 褐色 普通	P1119 20% 覆土中層
33	高土師器 土師器	B (8.2) E (6.6)	脚部片。脚部は「ハ」の字状に開く。	脚部内面ナデ、外面縦位のヘラ磨き。	長石・石英 明赤褐色 普通	P1120 20% 覆土中層
34	高土師器 土師器	B (7.4)	脚部片。脚部は「ハ」の字状に開く。	脚部内面に輪積み痕を残す、外面縦位のヘラ磨き。	長石・スコリア・ 雲母 鈍い褐色 普通	P1121 20% 覆土中層
35	高土師器 土師器	B (7.1) E (6.3)	脚部片。脚部は「ハ」の字状に開く。	脚部内面に輪積み痕を残す、外面縦位のヘラ磨き。	長石・石英・スコ リア 鈍い褐色 普通	P1122 20% 覆土中層
36	高土師器 土師器	B (9.8) E (8.8)	脚部片。脚部は円筒状で下方に膨らみがあり、裾部との接合部がくびれる。	脚部内面に輪積み痕を残す、外面縦位のヘラ磨き。	長石・石英・スコ リア 鈍い褐色 普通	P1123 20% 覆土下層
37	高土師器 土師器	B (9.7) E (8.7)	脚部片。脚部は円筒状で下方に膨らみがあり、裾部との接合部がくびれる。	脚部内面ナデ、外面縦位のヘラ磨き。	長石・石英・スコ リア 鈍い褐色 普通	P1124 20% 覆土中層
38	高土師器 土師器	B (7.4)	脚部片。脚部は円筒状で下方に膨らみがあり、そのまま裾部に至る。中位に貫通しない孔が穿たれる。	脚部内面に輪積み痕を残す、外面縦位のヘラ磨き。	長石・石英・バミス 褐色 普通	P1125 20% 覆土上層

図取番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・施成	備考
39	高坏土師器	B (7.1) E (6.9)	脚部片。脚部は円筒状で下方に膨らみがあり、そのまま胴部に平る。	脚部内面に輪積み痕を残す。外面縦位のヘラ磨き。	長石・石英 褐色 普通	P1126 20% 覆土下層
40	高坏土師器	B (6.4)	脚部片。脚部は円筒状で中位に膨らみがあり、胴部との接合部がくびれる。	脚部内面に輪積み痕を残す。外面縦位のヘラ磨き。	長石・石英 褐色 普通	P1127 20% 覆土下層
41	高坏土師器	B (6.8)	脚部片。脚部は円筒状で中位に膨らみがあり、胴部との接合部がくびれる。	脚部内面に輪積み痕を残す。外面刷離。	石英・バミス・スコリア 褐色 普通	P1128 20% 覆土上層
42	高坏土師器	B (6.8)	脚部片。脚部は円筒状で中位に膨らみがあり、中位に貫通しない2孔が穿たれる。	脚部内面ナデ、外面縦位のヘラ磨き。	長石・雲母・バミス 鈍い褐色 普通	P1129 20% 床面
43	高坏土師器	B (7.8) E (6.1)	脚部片。脚部は円筒状で下方に膨らみがあり、そのまま胴部に平る。中位に孔が穿たれる。	脚部内面ナデ、外面縦位のヘラ磨き。	長石・石英・バミス 鈍い褐色 普通	P1130 20% 覆土中層
44	高坏土師器	B (5.8)	脚部片。脚部は円筒状で中位に膨らみがあり、胴部との接合部がくびれる。	脚部内面に輪積み痕を残す。外面縦位のヘラ磨き。	長石・石英・スコリア 褐色 普通	P1131 20% 覆土上層
45	高坏土師器	B (6.2)	脚部片。脚部は円筒状で中位に膨らみがあり、胴部との接合部がくびれる。	脚部内面ナデ、外面縦位のヘラ磨き。	バミス・雲母 鈍い褐色 普通	P1132 20% 床面
46	高坏土師器	B (6.3)	脚部片。脚部は「ハ」の字状に開く。	脚部内面ナデ、外面縦位のヘラ磨き。	長石・石英 明赤褐色 普通	P1133 20% 覆土下層
47	高坏土師器	B (5.0)	脚部片。脚部は「ハ」の字状に開く。	脚部内面ナデ、外面縦位のヘラ磨き。	スコリア・長石・雲母 鈍い褐色 普通	P1134 20% 床面
48	高坏土師器	B (5.7) E (5.0)	脚部片。脚部は「ハ」の字状に開く。	脚部内面に輪積み痕を残す。外面縦位のヘラ磨き。	長石・石英・スコリア・バミス 鈍い褐色 普通	P1135 20% 床面
49	高坏土師器	B (4.1)	脚部片。脚部は「ハ」の字状に開く。	脚部内面に輪積み痕を残す。外面縦位のヘラ磨き。	長石・雲母 鈍い褐色 普通	P1136 20% 床面
50	高坏土師器	B (5.5) E (5.0)	脚部片。脚部は円筒状で中位に膨らみがある。	脚部内面に輪積み痕を残す。外面縦位のヘラ磨き。	長石・石英・バミス 明赤褐色 普通	P1137 20% 床面
51	高坏土師器	B (5.3)	脚部片。脚部は円筒状で中位に膨らみがある。	脚部内面に輪積み痕を残す。	長石・石英・スコリア・バミス 褐色 普通	P1138 20% 床面 体形外面刷離
第533図 52	埴土師器	A 7.8 B 9.1 C 3.3	口縁部一部欠損。平底。体部は算盤玉状で、口縁部は外傾して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。口縁部内・外面に輪積み痕を残す。体部外面上ナデ、下半ヘラ磨り。	長石・石英・雲母 鈍い褐色 普通	P1139 98% 床面 PL110
53	埴土師器	A 8.7 B 7.2 C 2.5	口縁部一部欠損。体部は算盤玉状で口縁部は外傾する。	口縁部内面ハケナデ、外面ナデ。体部内面ナデ、外面上ナデ、下半ヘラ磨り。口縁部及び体部外面に輪積み痕を残す。	長石・石英・焼土・バミス 鈍い褐色 普通	P1140 95% 覆土下層 PL110
54	埴土師器	A 7.8 B 8.7 C 3.7	底部から口縁部片。体部は算盤玉状で、口縁部は外傾し、肩部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ、外面上ナデ、下半ヘラ磨り。	長石・スコリア・砂粒 褐色 普通	P1141 80% 床面 PL110
55	埴土師器	A [8.4 B 9.7 C 3.1	底部から口縁部片。体部は算盤玉状で、口縁部は外傾し、肩部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ、外面上ナデ、下半ヘラ磨り。	長石・スコリア 鈍い褐色 普通	P1142 70% 床面 PL111
56	埴土師器	B (5.8) C 3.8	底部から体部片。平底。体部は算盤玉状である。	体部上ナデ、下半ヘラ磨り。	長石・石英・スコリア・バミス 褐色 普通	P1143 70% 覆土上層 PL110
57	埴土師器	B (4.7) C 3.7	底部から体部片。平底。体部は算盤玉状である。	体部上ナデ、下半ヘラ磨り。	長石・石英 鈍い褐色 普通	P1144 70% 覆土下層 PL110

図版番号	部 種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	粘土・色調・焼成	備 考
58	増 土 脚 器	B (4.7) C 2.8	底部から体部片。平底。体部は算盤玉状である。	体部内面に輪積み痕を残す。外面ナデ。	スコリア・灰石・雲母 鈍い褐色 普通	P1145 覆土中層 PL110 70%
59	増 土 脚 器	B (5.8)	底部から体部片。丸底。体部は球形である。	体部内・外面ナデ。	長石・石英 鈍い黄褐色 普通	P1146 床面 70%
60	増 土 脚 器	B (4.4) C 3.7	底部から体部片。平底。体部は算盤玉状である。	体部上半ナデ, 下半ヘラ削り。	中・石英 鈍い褐色 普通	P1147 床面 PL111 50%
61	増 上 脚 器	B (12.4)	底部から口縁部片。丸底。体部はつぶれた球形で、口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内側ナデ。外面上半ヘラ磨き。下半ヘラ削り。	中・石英・雲母 鈍い黄褐色 普通	P1148 体面 70%
62	増 土 脚 器	B (9.5) C 4.6	底部から体部片。平底。体部は算盤玉状である。	体部内面ナデ。外面磨き。	長石・雲母 鈍い褐色 普通	P1149 覆土上層 50%
63	変 土 脚 器	A (18.0) B (23.0)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は「く」の字状に外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。外面ヘラ削り。	砂粒・長石・石英 鈍い褐色 普通	P1150 覆土下層 PL110 20%
64	変 土 脚 器	A (16.2) B (12.6)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・スコリア・雲母 灰褐色 普通	P1151 貯蔵穴覆土中 20%
65	小形変 土 脚 器	A 17.7 B (10.3)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外傾する。	口縁部及び体部内・外面ヘラ磨き。	長石・バミス 鈍い褐色 普通	P1152 覆土下層 PL110 40%

図版番号	種 別	計 測 値					出土地点	備 考
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第554図66	転 用 羽 口	(9.1)	(7.2)	-	-	1.2 (142.4)	北西野村近床面	DP128 PL117
67	転 用 羽 口	(7.2)	(11.6)	-	-	(81.0)	貯蔵穴覆土中	DP129 PL117
68	土 玉	3.5	3.5	3.5	0.85	39.2	中央部床面	DP130

図版番号	種 別	計 測 値					石 質	出土地点	備 考
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第554図69	金 床 石	37.7	25.8	16.0	-	16000.0	安 山 岩	中央部付近上層	Q251 PL121
70	金 床 石	25.0	34.8	28.7	-	30500.0	砂 岩	覆 土 中	Q252 PL121
第555図71	金 床 石	23.6	22.4	13.8	-	9100.0	砂 岩	北コーナ付近床面	Q253 PL121
72	砥 石	19.5	9.3	6.5	-	1287.0	凝 灰 岩	南西野村近覆土中層	Q254 PL120
73	砥 石	10.2	6.9	4.8	-	365.7	安 山 岩	北コーナ覆土下層	Q255 PL121
74	砥 石	10.3	7.5	5.5	-	540.0	安 山 岩	中央部付近覆土下層	Q256 PL121
75	砥 石	14.4	7.3	5.0	-	630.0	砂 岩	北コーナ覆土上層	Q257 PL121
76	砥 石	12.65	8.0	4.2	-	563.0	安 山 岩	北西野村近覆土下層	Q258 PL
77	砥 石	24.3	7.3	6.4	-	2100.0	安 山 岩	南西野村近覆土下層	Q259 PL121
第556図78	砥 石	10.7	10.3	6.3	-	915.0	安 山 岩	南西野村近覆土上層	Q260
79	砥 石	10.7	7.5	5.5	-	630.0	砂 岩	中央部床面	Q261
80	磨 石	12.0	10.0	5.3	-	806.0	砂 岩	南西野村近覆土下層	Q262
81	軽 石	6.9	6.9	4.7	-	23.5	軽 石	中央部覆土中層	Q263 PL121
82	軽 石	5.2	3.35	2.25	-	7.4	軽 石	南西野村近覆土中層	Q264 PL121
83	軽 石	13.2	8.1	6.1	-	94.5	軽 石	中央部覆土下層	Q265
84	軽 石	8.6	8.4	5.8	-	93.1	軽 石	北西野村近覆土下層	Q266
85	軽 石	8.6	5.1	4.3	-	62.9	軽 石	覆 土 中	Q267
86	石 槌	10.5	6.7	7.0	-	560.0	安 山 岩	北西野村近覆土下層	Q268 PL122
第557図87	削 形 模 造 品	5.1	2.2	0.4	-	6.7	滑 石	中央部覆土下層	Q269 PL119

図版番号	種 別	計 測 値					石 質	出土地点	備 考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)			
88	銅形造足	6.7	2.7	0.6	-	0.6	滑 石	北東壁付近層上層	Q270 PL119
89	有孔円板	2.9	4.8	0.6	0.2~0.3	13.2	滑 石	北東壁付近層上層	Q271 PL119
90	有孔円板	2.7	3.8	0.5	0.3	8.3	滑 石	北東壁付近層上層	Q272 PL119
91	有孔円板	3.9	3.9	0.4	0.2	9.4	滑 石	中央部土下層	Q273 PL119
92	有孔円板	3.2	3.5	0.4	0.2	8.3	滑 石	北コーナ-層上層	Q274 PL119
93	白 土	0.4	0.4	0.15	0.2	0.1	滑 石	中央部床面	Q275
94	白 土	0.5	0.5	0.2	0.2	0.1	滑 石	中央部層上中	Q276
95	白 土	0.4	0.4	0.2	0.2	0.1	滑 石	南東壁付近層上層	Q277
96	白 土	0.4	0.4	0.2	0.15	0.1	滑 石	南東壁付近層上層	Q278
97	白 土	0.5	0.5	0.35	0.15	0.1	滑 石	南東壁付近層上層	Q279
98	白 土	0.5	0.5	0.25	0.2	0.1	滑 石	南東壁付近層上層	Q280
99	白 土	0.45	0.45	0.3	0.2	0.1	滑 石	貯蔵穴1層上中	Q281
100	白 土	0.45	0.45	0.2	0.2	0.1	滑 石	貯蔵穴1層上中	Q282
101	白 土	0.4	0.4	0.25	0.15	0.1	滑 石	貯蔵穴1層上中	Q283
102	白 土	0.4	0.4	0.2	0.15	0.1	滑 石	貯蔵穴1層土中	Q284
103	白 土	0.4	0.4	0.2	0.15	0.1	滑 石	貯蔵穴2層土中	Q285
104	白 土	0.4	0.45	0.2	0.15	0.1	滑 石	貯蔵穴2層土中	Q286
105	白 土	0.35	0.35	0.2	0.15	0.1	滑 石	貯蔵穴2層上中	Q287
106	白 土	0.35	0.35	0.1	0.15	0.1	滑 石	貯蔵穴2層土中	Q288
107	白 土	0.5	0.5	0.2	0.2	0.1	滑 石	覆 土 中	Q289
108	白 土	0.5	0.5	0.3	0.2	0.1	滑 石	覆 土 中	Q290
109	白 土	0.5	0.5	0.3	0.2	0.1	滑 石	覆 土 中	Q291
110	白 土	0.4	0.4	0.3	0.2	0.1	滑 石	覆 土 中	Q292
111	白 土	0.5	0.5	0.2	0.2	0.1	滑 石	覆 土 中	Q293
112	白 土	0.6	0.5	0.2	0.2	0.1	滑 石	覆 土 中	Q294

図版番号	種 別	計 測 値					出土地点	備 考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)		
影574013	鉄 斧	(7.1)	(5.1)	1.9	-	(68.5)	北東壁付近層上層	M76
111	刀 子	7.6	1.7	0.3	-	7.0	北東壁付近層上層	M77 PL122
115	角 釘	4.0	1.2	0.5	-	2.7	北コーナ-層上層	M78 PL124
116	不明鉄製品	(5.7)	1.5	0.5	-	(8.2)	南東壁付近層上層	M79
117	不明鉄製品	(4.6)	0.7	0.4	-	(2.3)	北コーナ-床面	M80
118	鉄 塊	4.4	2.5	0.5	-	21.3	北コーナ-層上層	M81

が見られないので確定はできない。(第2-B号鍛冶工房跡のP₁と共通)

炉 2か所。炉1は、中央から北東壁寄りに位置し、径67cmの円形で、床面を33cm掘り窪めている。位置が金床石の約1m東にあり、作業工程の流れから見ても適した位置にあると思われること、また、遺構を1m方形に区切って鍛造剥片の量を計測したところ、炉1の周囲1mの方形内には44gの鍛造剥片が認められたのに対し、他の位置では0.1~0.8gであったことから、炉1は鍛冶炉と思われる。炉2は、長さ54cm、短径33cmの不整形円形で、炉床を7cm掘り窪めており、炉床は赤変硬化している。その周囲の1mの方形内には、特に多くの量の鍛造剥片は認められないため、地床炉の可能性が高い。

炉土層解説 (炉1と炉2の土層は共通)

- 1 明赤褐色 焼土・中・小ブロック・炭粒子多量
- 2 褐色 ローム大・中・小ブロック・ローム粒子多量

貯蔵穴 2か所。貯蔵穴1は、東コーナーに付設され、径69cm、深さ75cmの円形で、断面形はU字形である。

貯蔵穴2は、南コーナーからやや東寄り付設され、径78cm、深さ73cmの円形で、断面形は楕円形である。

貯蔵穴1土層解説

- 1 暗褐色 炭化粒子・ローム中ブロック・ローム粒少量、ローム大ブロック微量
- 2 黒褐色 炭化粒子・ローム粒少量
- 3 黒褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子・粘土小ブロック少量

貯蔵穴2土層解説

- 1 黒褐色 ローム大・中ブロック中量、ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム大・中・小ブロック・ローム粒子多量、ローム樺入ブロック中量、炭化粒子・粘土小ブロック少量
- 3 黒褐色 ローム粒中量、ローム中・小ブロック・粘土中ブロック少量

覆土 11層からなる自然堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム大・中ブロック・ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量、ローム中ブロック微量
- 3 黒褐色 ローム粒子中量、炭化粒子・ローム中・小ブロック少量、ローム大ブロック微量
- 4 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量
- 5 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒少量、ローム中ブロック微量
- 6 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 7 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量、炭化粒子・ローム中ブロック少量
- 8 黒褐色 ローム粒子少量、ローム大ブロック微量
- 9 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
- 10 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒少量
- 11 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、炭化粒子少量

遺物 土師器片1,604点、須恵器片16点、鉄製品片4点、自然石(礫)15点、軽石5点、鉄滓2,437.9g、鍛造剥片243.4g、炭化材28gが出土している。自然石は、重さ150g~1400gで、その内、火熱を受けているものが4点見られる。土師器高坏片42点(坏部から脚部片8点、脚部片34点)が、主に東コーナー付近から南東壁付近と中央部覆土上層から下層にかけてに集中して出土している。第550~557図1の土師器坏は西コーナー付近覆土上層から、2の坏は北西壁付近覆土上層から、89、90の有孔円板は同覆土中層から、21、42、46の高坏脚部、76の敲石、84の軽石、86の石核は同覆土下層から、12、51の高坏脚部、54、61の埴、66の転用羽1は同床面から、17、28、29の高坏脚部、73、75の敲石、115の角釘は東コーナー付近覆土上層から、35の高坏脚部は同覆土中層から、3の坏、11、13、16、19の高坏・脚部片は同覆土下層から、23の高坏脚部は同床面から、4の坏、56、62の埴118の鉄塊は南コーナー付近覆土上層から、53、57の埴は同覆土下層から、59の埴は同床面から、25、26の高坏脚部、69の金床石は中央部付近覆土上層から、43の高坏脚部、81の軽石は同覆土中層から、5の坏は中央部付近覆土下層に散在した状態で、9の埴、31、39の高坏脚部、83の軽石、87の剣形模造品、91の有孔円板は同覆土下層から、6の坏、45、47、50の高坏脚部、68の土玉74、79の敲石、93の白玉は同床面から、94の白玉は中央部付近覆土中層から、7の坏、20の高坏脚部は北コーナー付近覆土上層から、71の金床石は同床面及び中層の破片が接合して、92の有孔円板は同覆土中層から、117の不明鉄製品は同床面から、24の高坏脚部は南東壁付近覆土上層から、33の高坏脚部、58の埴、82の軽石は同覆土中層から、15の高坏坏部、22、36、48、49の高坏脚部、63の埴、77の敲石、80の磨石、87の剣形模造品は同覆土下層から、11の高坏坏部は同床面に散在した状態で、18、55の高坏脚部、60の埴、116の不明鉄製品は同床面から、95~98の白玉は同覆土中層から、30の高坏脚部、113の鉄斧は北東壁付近覆土上層から、14の高坏坏部

は同覆上中層から、65の小形甕は同覆土下層から、114の刀子は同床面から、38、44の高坏脚部、52の埴、78の敷石は南西壁付近覆土上層から、27、37の高坏脚部、72の砥石は同覆土中層から、40の高坏脚部は同覆土下層から、41の高坏脚部は西コーナー付近覆土上層から、34の高坏脚部は同覆土中層から、64の甕、67の転用羽口、99-106の白玉は貯蔵穴覆土中から、8の須恵器坏、32の高坏脚部、70の金床石、85の軽石、107-112の白玉は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 本跡は、第2-B号鍛冶工房跡の床上に新たに床を貼り替えていると考えられ、時期差は不明であるが、その両者の床構造が大きく変更されているため、ここでは別遺構扱いとし、建て替えが行われたと捉えた。また、調査時は住居跡として扱っており、2基の炉の内には地床炉も存在するため住居としての使用の可能性も考えられるが、平面形がこの時期の住居にあまり見られない長方形である点や柱穴等が確認できない点、金床石、鍛造剣片、粒状滓、鉄滓、鉄塊、軽石、砥石等の鍛冶関連遺物が出土している点などから、主に鍛冶工房としての使用が想定されるため、鍛冶工房跡の扱いとした。さらに、I房内から粒状滓が合計で2.3g出土していることから、精錬鍛冶段階ではなく、鍛錬鍛冶段階を示していると思われる。本跡の時期は、出土遺物から古墳時代中期（5世紀後半）と思われる。

第2-B号鍛冶工房跡（第558図）

位置 調査区の中央部、D5g区。

重複関係 本跡は、第2-A号鍛冶工房跡が本跡の床上に床を構築していることから、第2-A号鍛冶工房跡より古い。

規模と平面形 長軸7.58m、短軸5.42mの長方形である。

主軸方向 N-50°-E

壁 壁高は56-78cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 はほぼ全周する。上幅約17cm、下幅約9cm、深さ約7cmで、断面形はU字形である。

床 やや凹凸は見られるが、全体的に平坦で、中央部は踏み固められている。

ピット 7か所（P₁-P₇）。P₁は、長径47cm、短径38cmの楕円形で、配置や規模から主柱穴と思われるが、対応する他のピットが見られないので確定はできない。（第2-A号鍛冶工房跡のP₁と共通。）P₂は径28cmの小楕円形で配置や規模から主柱穴の可能性が有る。P₃、P₄は、長径28-38cm、短径11-18cmの楕円形で、溝の先端部に位置することから、溝に伴うピットと考えられる。P₅-P₇は、長径18-38cm、短径12-18cmの楕円形で、性格は不明である。

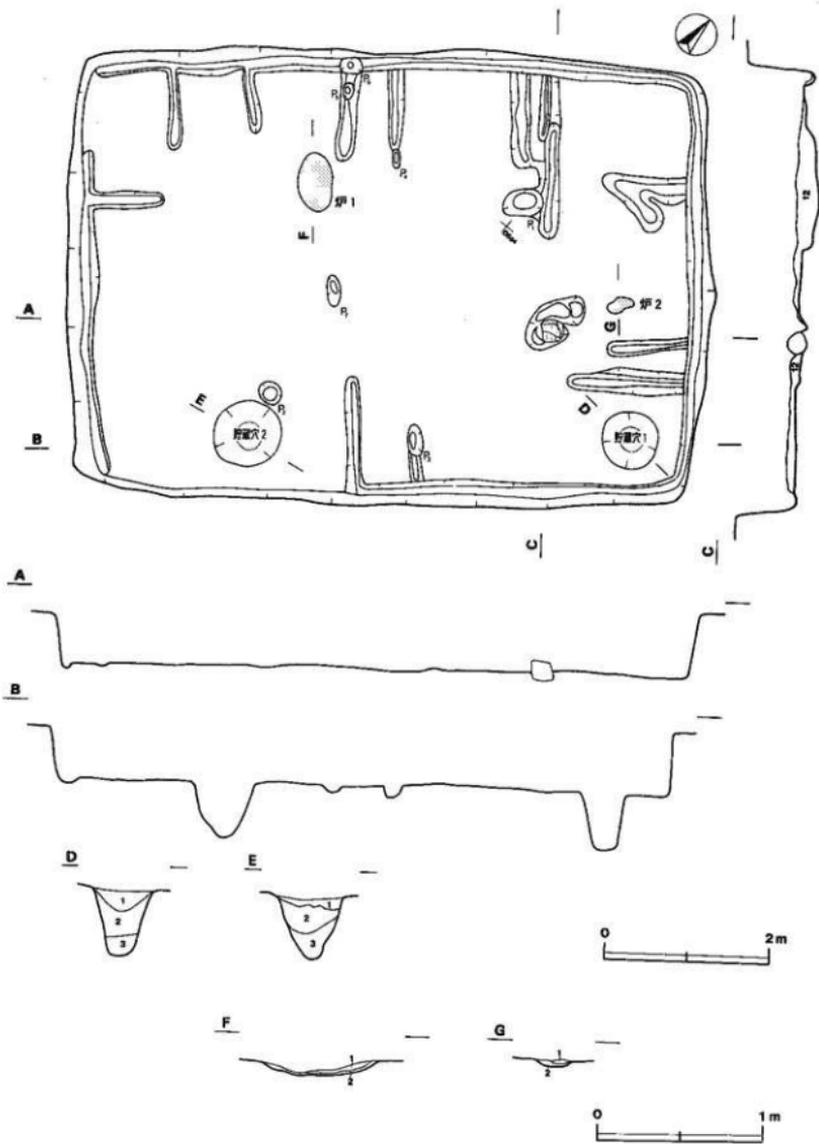
炉 2か所。炉1は、中央から北西壁よりに位置し、長径74cm、短径38cmの楕円形で、床面を20cm掘り窪めた鍛冶炉で、炉床は赤変硬化している。炉2は、北東壁下付近に位置し、長径38cm、短径14cmの楕円形で、床を8cm程掘り窪めた地床炉である。炉床は赤変硬化している。

炉土層解説（炉1と炉2の上層は共通。）

- 1 明赤褐色 焼土大・中・小ブロック・焼土粒子多量
- 2 褐色 ローム大・中・小ブロック・ローム粒子多量

貯蔵穴 2か所。貯蔵穴1は、東コーナーに付設され、径69cm、深さ75cmの円形で、断面形はU字形である。

貯蔵穴2は、南コーナーからやや東寄りに付設され、径78cm、深さ73cmの円形で、断面形は楕円形である。



第558图 第2-B号锻造工房跡实测图

貯蔵穴1 土層解説

- 1 暗褐色 炭化粒子・ローム中ブロック・ローム粒子少量、ローム大ブロック微量
- 2 黒褐色 炭化粒子・ローム粒子少量
- 3 黒褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子・粘土小ブロック少量

貯蔵穴2 土層解説

- 1 黒褐色 ローム大・中ブロック中量、ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム大・中・小ブロック・ローム粒子多量、ローム特大ブロック中量、炭化粒子・粘土小ブロック少量
- 3 黒褐色 ローム粒子中量、ローム中・小ブロック・粘土中ブロック少量

覆土 1層～11層までは自然堆積（第2-A号鍛冶工房跡と共通）。埋め戻しをしたと思われる12層は人為堆積である。

土層解説

- 1 黒色 ローム大・中ブロック・ローム粒子微量
- 2 黒色 ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量、ローム中ブロック微量
- 3 黒褐色 ローム粒子中量、炭化粒子・ローム中・小ブロック少量、ローム大ブロック微量
- 4 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量
- 5 黒色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック微量
- 6 黒色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 7 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量、炭化粒子・ローム中ブロック少量
- 8 黒色 ローム粒子少量、ローム大ブロック微量
- 9 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
- 10 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 11 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、炭化粒子少量
- 12 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量

遺物 川土遺物は、すべて第2-A号鍛冶工房跡のもので、本跡のものは確認されていない。

所見 本跡は、遺構の形態から第2-A号鍛冶工房跡より古く、床の貼り替えが行われる以前のものと考えられる。金床石や炉1、2基の貯蔵穴が共通である点から、第2-A号鍛冶工房跡と同じ鍛冶工房跡と思われる。本跡の時期は、古墳時代中期（5世紀後半）と思われる。

第3号鍛冶工房跡（第559図）

位置 調査区の北東部、C5j₁区。

規模と平面形 本跡の大部分が調査区外に伸びているので、平面形は不明である。検出した北東壁は3.78m、南西壁は0.58mである。

主軸方向 N-48°-W

壁 壁高は30cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

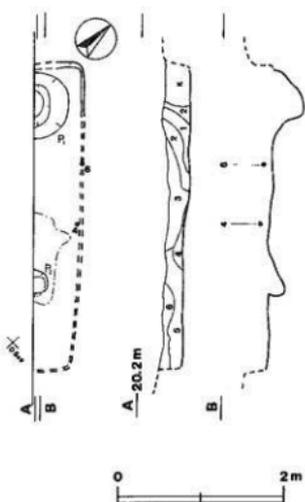
床 平坦で、P₁の周りが踏み固まっている。

ピット 2か所（P₁・P₂）。P₁は径80cmの円形、深さ34cmで、配置や規模から主柱穴と思われる。P₂は径30cmの円形、深さ20cmで、出入り口ピットの可能性がある。

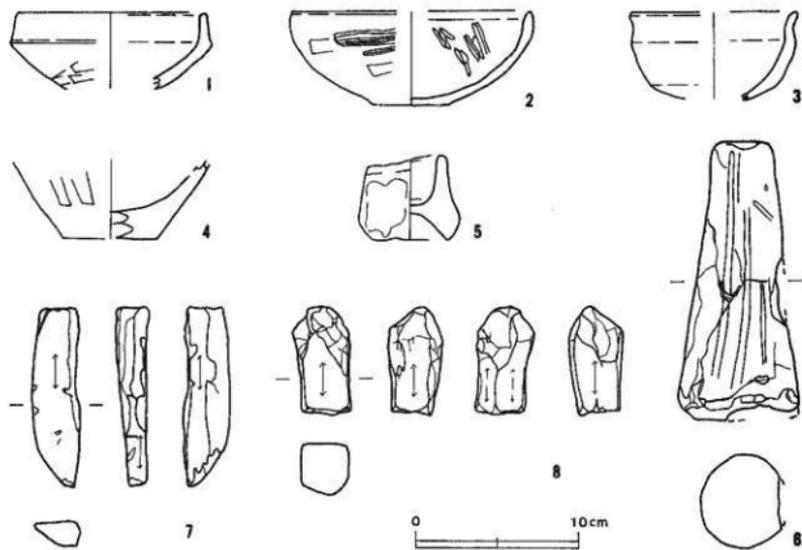
覆土 6層からなる自然堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック中量、ローム中ブロック少量、炭化粒子・焼土粒少量
- 2 黒褐色 焼土粒子・焼土小・中ブロック・炭化粒子少量
- 3 黒褐色 ローム粒子・ローム小・中ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 黒褐色 ローム中ブロック中量、ローム粒子・ローム小ブロック少量
- 5 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック中量、炭化粒子少量、ローム中ブロック微量
- 6 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック・炭化粒子微量



第559图 第3号鍛冶工房跡実測図



第560图 第3号鍛冶工房跡出土遺物実測図

第3号鍛冶工房跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第559図 1	坏 土師器	A [11.3] B (4.6)	体部から口縁部。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に突出した稜を持つ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面滑ナデ。体部内面ナデ、外面ヘラ削り後ヘラナデ。	長石・石英・雲母・スコリア・バミス 褐色 普通	P3059 10% 覆土中
2	坏 土師器	A [14.4] B 5.7 C 4.5	底部から口縁部。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立し、内側に弱い稜をもつ。	口縁部内・外面滑ナデ。体部内面ヘラナデ後磨き、外面ヘラ削り後ヘラ磨き。底部外面ヘラ磨き。	長石・雲母・スコリア・バミス 明赤褐色 普通	P3060 30% 覆土中
3	碗 土師器	A [10.0] B (5.3)	体部から口縁部。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面滑ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・石英・雲母・鐵 鈍い赤褐色 普通	P3061 10% 内面黒色処理
4	甕 土師器	B (4.8) C [5.6]	底部片。平底。体部は内彎気味に外傾して立ち上がる。	体部内面ヘラナデ、外面ヘラ削り。底部内面ヘラナデ。	長石・石英・雲母・スコリア・鐵 明赤褐色 普通	P3062 10% 覆土中～ト層
5	手拭土師 土師器	A 2.1 B 2.6 C 2.2	底部は上げ底。体部は垂直に立ち上がり、そのまま口縁部に至る。	体部内面滑ナデ、外面折頭圧痕。底部折頭圧痕。	長石・石英・雲母・鐵 褐色 普通	P3063 100% 覆土中

図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第559図6	支脚	17.2	7.3	7.3	-	(607.7)	覆土下層	DP3006 十裂 PL117
7	砥石	10.9	2.9	2.0	-	69.9	覆土中	Q 3004 凝灰岩 PL120
8	砥石	(6.7)	3.5	3.3	-	(88.1)	覆土中	Q 3005 凝灰岩で風化が著しい。PL120

遺物 土師器片1,678点、須恵器片3点、土製品(支脚)1点、鍛造片33.5g、鉄滓38g、砥石2点、弥生土器片3点、石16個が出土している。第560図1と2の坏・3の碗・5の手捏土器は覆土中から、4の甕の底部片・6の土製支脚は覆土下層から、7・8の砥石は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 高坏の脚部を羽口に転用したと思われる脚部の細片(一部が鉛色に変化)、鍛造片及び鉄滓が確認されており、鍛冶工房跡と思われる。当遺跡で検出された鍛冶工房跡は、すべて2の坏と同時期の古墳時代中期であるので、調査区外の部分で本跡との重複等が考えられる。本跡は、覆土下層から土製支脚が出土していることから竈をもつと考えられるが、遺構全体が検出されていないので、時期も含めて詳細は不明である。

第4号鍛冶工房跡(第561図)

位置 調査区の北東部、D5e区。

重複関係 本跡は、北西部を第8号溝に掘り込まれていることから、第8号溝よりも古い。

規模と平面形 長軸3.98m、短軸3.70mの方形である。

主軸方向 N-43°-W

壁 壁高は17cmで、外傾して立ち上がる。

床 凹凸が見られ、P₁の周囲に硬化面が認められる。炉の北東隅と、P₂周囲に幅25～35cmのかぎの手状の高まりが見られる。

ピット 2か所(P₁、P₂)。P₁、P₂は、径65～72cmの不整形円形、深さ45～47cmで、性格は不明である。

炉 4か所。炉1は、中央から北西壁寄りに位置し、長径45cm、短径28cmの楕円形で、床面を22cm掘り窪めた地床炉である。炉床は、火熱を受けてわずかに硬化している。

伊1土層解説

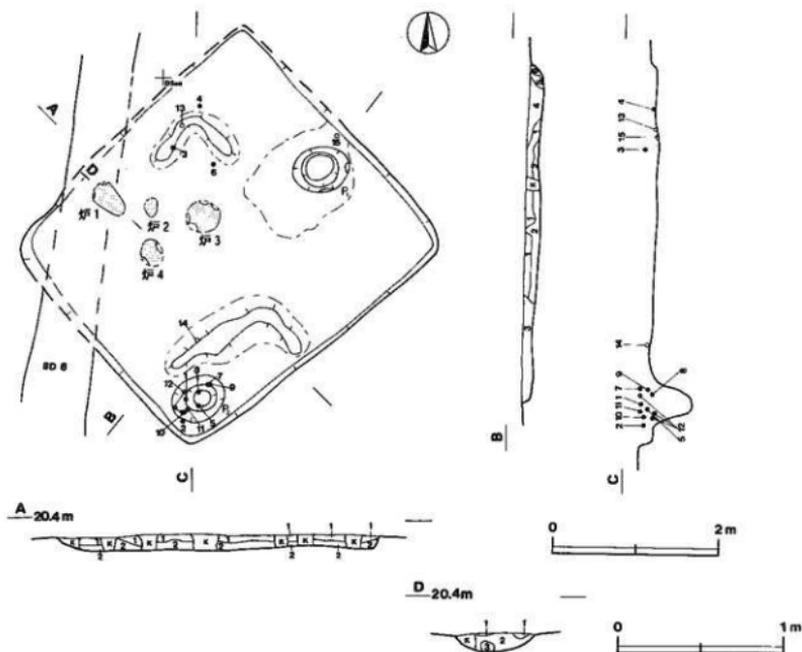
- 1 赤 褐色 焼土小ブロック・焼土粒子多量
- 2 黒 褐色 ローム粒子中量、焼土粒子、炭化粒子微量
- 3 黒 褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量

炉2は、中央から北西壁寄りに位置し、径17cmの不整形形で、床面をわずかに掘り窪めた地床炉である。わずかに焼土が確認される。炉3は、中央部やや西寄りに位置し、径40cmの不整形形で、攪乱がひどく範囲を確認したのみである。炉4は、中央部から西コーナー寄りに位置し、長径35cm、短径25cmの楕円形で、攪乱がひどく範囲を確認したのみである。鍛造剥片は、北西壁付近に多く出土しているの、4つの炉のうちいずれかは鍛冶炉の可能性が考えられる。

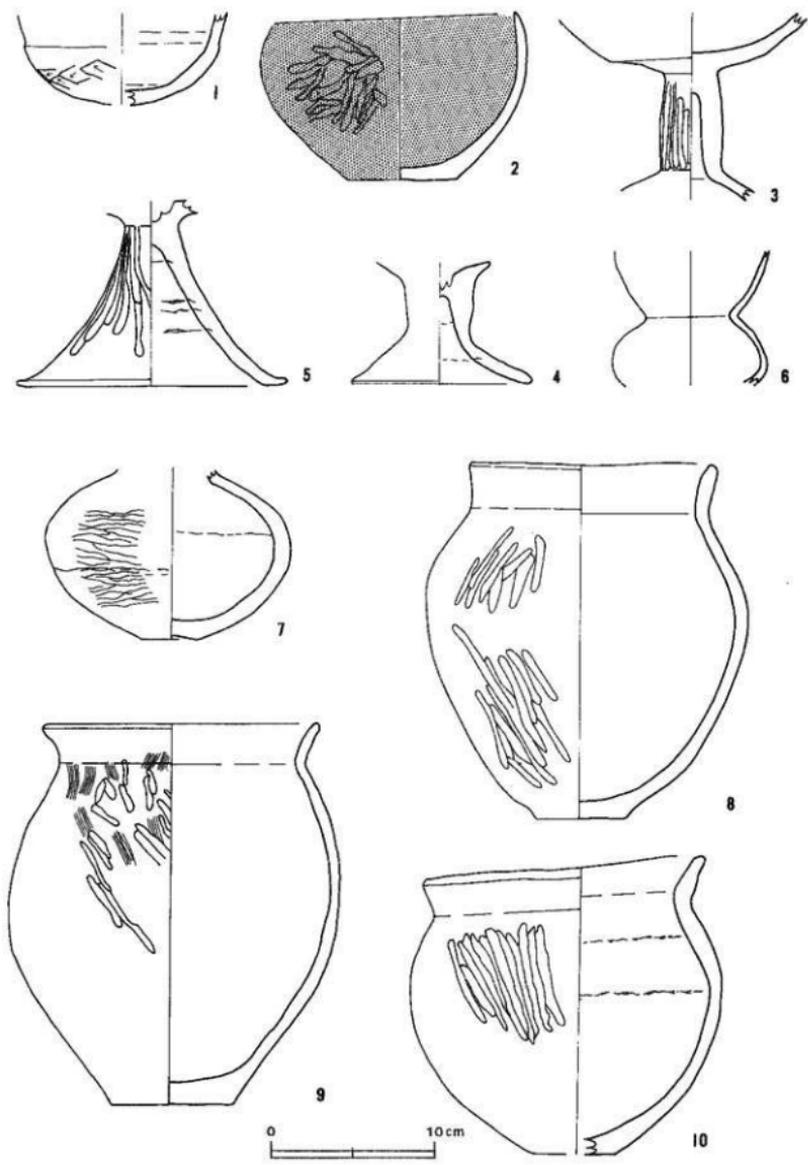
覆土 6層からなる自然堆積である。

土層解説

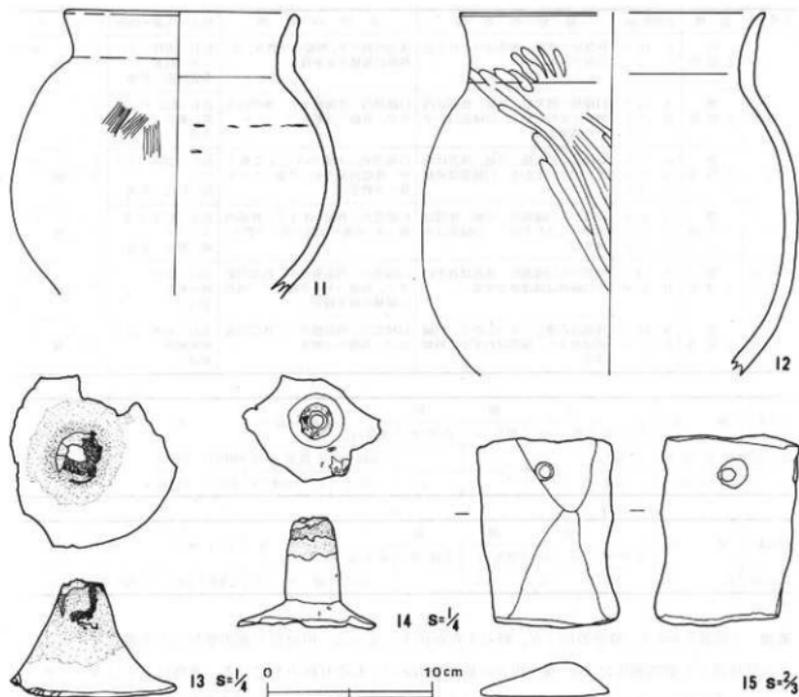
- 1 黒 色 ローム粒子少量
- 2 黒 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム大ブロック微量
- 3 黒 色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 4 黒 色 焼土粒子少量
- 5 黒 褐色 ローム粒子少量
- 6 暗 褐色 ローム粒子中量



第561図 第4号鍛冶工房跡実測図



第562图 第4号铜冶工房跡出土遺物実測図(1)



第563図 第4号鍛冶工房跡出土遺物実測図(2)

第4号鍛冶工房跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第562図 1	坏 須志器	B (5.6)	底部から体部片。丸底。体部は内 壁して立ち上がり、口縁部との境 に線を持つ。	体部内・外面横ナデ。底部ヘラ削 り。	長石・パミス 灰黄褐色 普通	P1269 20% 覆土中層
2	碗 土器器	A 14.5 B 10.0 C 6.7	口縁部一部欠損。平底。体部は内 壁して立ち上がり、口縁部はわず かに内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・ 外面ナデ。外面ヘラ削り。体部内・ 外面黒色処理。	長石・石英・雲母 褐灰色 普通	P1270 95% 覆土下層
3	高 土器器	B (11.5) E (7.9)	脚部から体部片。脚部は円筒状で 下方に膨らみがあり、胴部との接 合部がくびれる。坏部は内壁して 立ち上がる。下位に鈍い線を持つ。	体部内・外面ナデ。脚部外面縦位 のヘラ削り。	雲母・長石・石英 鈍い赤褐色 普通	P1271 30% 床面
4	高 土器器	B (7.5) C 10.8 E 5.9	脚部片。脚部は円筒状で、胴部は 「ハ」の字状に開く。	脚部内面ヘラ削り。外面縦位の強 いナデ。胴部内面ナデ、外面放射 状のナデ。	長石・雲母・石英 鈍い褐色 普通	P1272 30% 床面
5	高 土器器	B (11.4) D 16.5 E 9.8	脚部片。脚部は円錐形で胴部で大 きく開く。	脚部内面ナデ、外面縦位のヘラ削 り。	雲母・長石 鈍い褐色 普通	P1273 40% 覆土中層
6	塔 土器器	B (8.2)	体部から口縁部片。体部は算盤玉 状で、口縁部は内埋気味に立ち上 がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・ 外面ナデ。	長石・石英・雲母 明赤褐色 普通	P1274 50% 床面

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
7	土師器 上脚器	B (10.4) C 3.3	体部片。平底。体部はつぶれた球形である。	体部内面ナデ、外面ヘラ磨き。内・外面に輪積み痕を残す。	長石・雲母・スコリア・石英 淡黄褐色 普通	P1275 80% 覆土下層
8	甕 土師器	A 14.7 B 21.7 C 3.3	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ、外面ヘラ磨き。	長石・雲母・バミス 鈍い褐色 普通	P1276 90% 床面
9	甕 土師器	A 16.4 B 23.4 C 7.4	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外傾する。	口縁部内・外面ハケによる横ナデ。体部内面ナデ、外面ハケナデ後ヘラ磨き。	長石・雲母・スコリア 鈍い褐色 普通	P1277 80% 覆土下層
10	甕 土師器	A 16.9 B 18.4 C 5.0	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外傾する。	口縁部内・外面ハケナデ。体部内面ナデ、外面ヘラ磨き後ヘラ磨き。	長石・雲母・石英・スコリア 鈍い褐色 普通	P1278 70% 覆土中層
第563図 11	甕 土師器	A 14.2 B (17.6)	体部から口縁部片。体部は球形で口縁部はほぼ直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ、外面ハケナデ後ナデ。内面に輪積み痕を残す。	長石・雲母 鈍い褐色 普通	P1279 50% 覆土下層
12	甕 土師器	A (18.6) B (22.2)	体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立し、端部はわずかに外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ、外面ヘラ磨き。	長石・石英・雲母 明赤褐色 普通	P1280 20% 覆土下層

図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第563図13	転用羽口	9.5	-	-	-	242.7	北西壁床面	DP148 PL117
14	転用羽口	8.4	11.2	-	1.1	189.3	南コーナ近床面	DP149 PL117

図版番号	種別	計測値					石質	出土地点	備考	
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)				
第563図13	砥	4石	5.8	4.4	1.1	-	28.7	甕灰岩	北西壁付近床面	Q308 PL120

遺物 土師器片464点、須恵器片1点、軽石1点が出土している。中央部と北西壁付近から炭化材が0.4g、北西壁付近から鍛造剃片14.1g、覆土中から鉄滓35.1gがそれぞれ出土している。遺物は、主に南コーナ付近と北西壁付近の床面及び覆土下層から出土している。第562・563図1の須恵器杯、5の高坏、10の甕は南コーナ付近覆土中層から、2の碗、7の罎、9、11、12の甕、14の転用羽口は同覆土下層から、8の甕は南コーナ付近床面から、3、4の高坏、13の転用羽口は北西壁付近床面から、6の罎は中央部床面から、15の砥石は北西壁付近床面からそれぞれ出土している。

所見 本跡は、鍛冶関連遺物が多く出土していることや柱穴がみられないこと等から、鍛冶工房跡と思われる。本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から古墳時代中期（5世紀後半）と思われる。

3 掘立柱建物跡

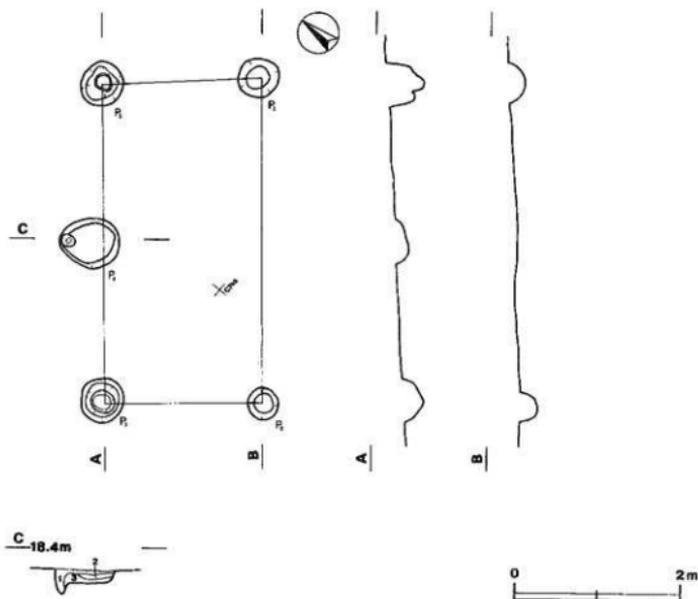
当遺跡からは3種の掘立柱建物跡が検出されている。

第1号掘立柱建物跡（第564図）

位置 調査区の北東部、C7h区。

規模 東西1間、南北2間。柱間寸法は、桁行1.92m、梁行1.92～1.94mである。柱穴の掘り方は、平面形が径0.40～0.74mの円形ないし楕円形を呈し、深さは8～48cmである。柱痕跡と思われる窪みがP₂から確認されており、柱の寸法は径20cmほどと推定される。

長軸方向 N-50°-W



第564図 第1号掘立柱建物跡実測図

覆土 ローム中・小ブロックを微量含む黒色土及び黒褐色土が堆積している。

P₁土層解説

- 1 黒色 ローム粒少量
- 2 黒色 ローム粒子少許、ローム小・中ブロック微量
- 3 明褐色 ローム粒子少許、黒色粒少量

所見 本跡の時期は、遺物が出土していないこと等から不明である。

第2号掘立柱建物跡 (第565図)

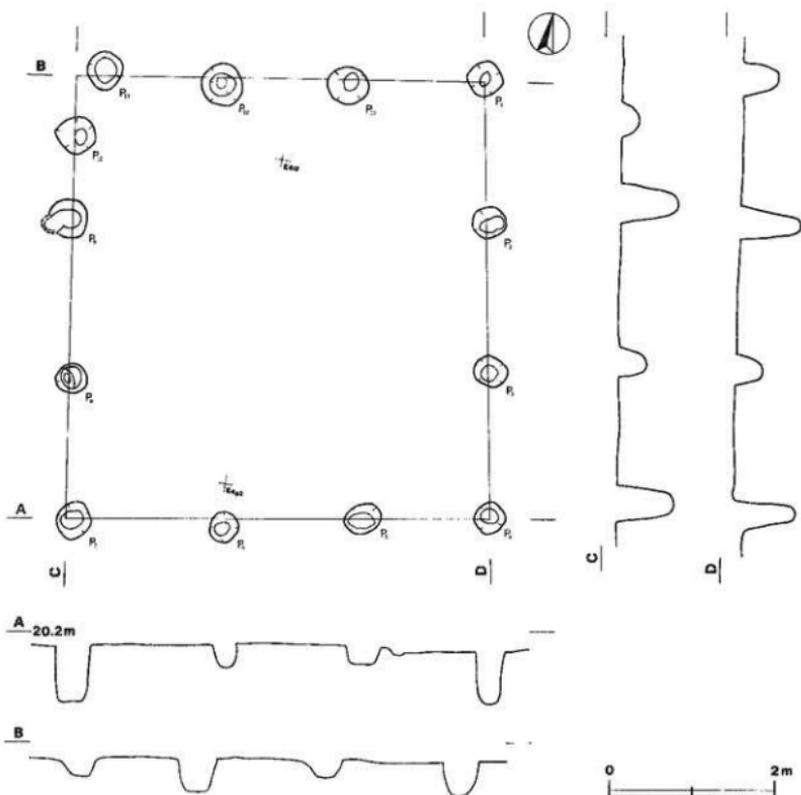
位置 調査区の中央部、E4f₂区。

規模 東西3間、南北3間。柱間寸法は、桁行1.54~1.90m、梁行1.74~1.80mである。柱穴の掘り方は、平面形が径0.36~0.56mのほぼ円形ないし楕円形を呈し、深さは20~76cmである。

長軸方向 N-11°-W

覆土 ローム大ブロックとローム粒子を少量含む黒色土及び黒褐色土が堆積している。

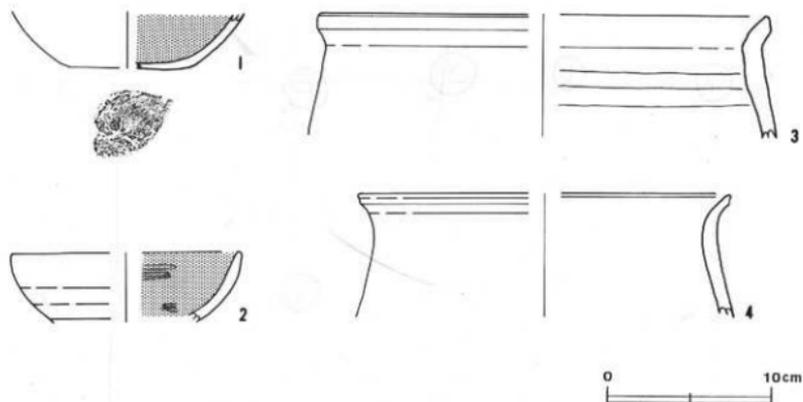
遺物 P₁から土師器の甕口縁部片が2点(第566図1, 2)出土している。その他に、土師器の細片がP₁から21点、P₂から3点、P₃から1点及びP₁₁から2点それぞれ出土している。



第565図 第2号掘立柱建物跡実測図

第2号掘立柱建物跡出土遺物観察表

回数番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第366回 1	坏 土師器	B (3.5) C (7.2)	底部から体部片。平式。体部は内 壁しながら立ち上がる。	体部外面横ナデ。内面へず過ぎ。 底部回転糸切り。	砂粒・長石・バミス 内：黒褐色、外： 鈍い・褐色 普通	P2001 10% Pt。 P。覆土中 内面黒色処理
2	坏 土師器	A (13.8) B (4.2)	体部から口縁部片。体部は内埋し ながら外傾し、口縁部は直線的に 立ち上がる。	口縁部及び体部外面横ナデ後、体 部下面回転へず削り調整。内面へ ず過ぎ。	砂粒・雲母・スコ リア 内：赤褐色、外： 褐色 普通	P2002 10% P。覆土中 内面黒色処理。 高台付坏の可能性あり PL110
3	土 師器	A (27.0) B (7.3)	体部から口縁部片。全体的に器内 が厚い。口縁部は外反し、端部は 断面が三角形を呈する。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。	砂粒・石英・雲母 鈍い・褐色 普通	P2003 5% P。覆土中 PL110
4	土 師器	A (22.8) B (7.5)	口縁部片。口縁部は上段に縁を持 ち、端部は外上方につまみ出され る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面 横ナデ。外面ナデ。	砂粒・長石・雲母 赤褐色 普通	P2004 5% P。覆土中 PL110



第566図 第2号掘立柱建物跡出土遺物実測図

所見 本跡は、第104号住居跡（5世紀代）と重複している。新旧関係は住居跡内で確認されたP₁（第1号柱穴）を本跡のP₁として成り立つ遺構であるので、本跡の方が新しい。出土遺物から平安時代（10世紀代）のものと考えられる。なお、本跡周辺にはピット状の土坑が多数存在するので、本跡の規模が大きくなる可能性があるとともに、別の掘立柱建物跡等の存在が考えられる。

第3号掘立柱建物跡（第567図）

位置 調査区の北東部、C6e₂区。

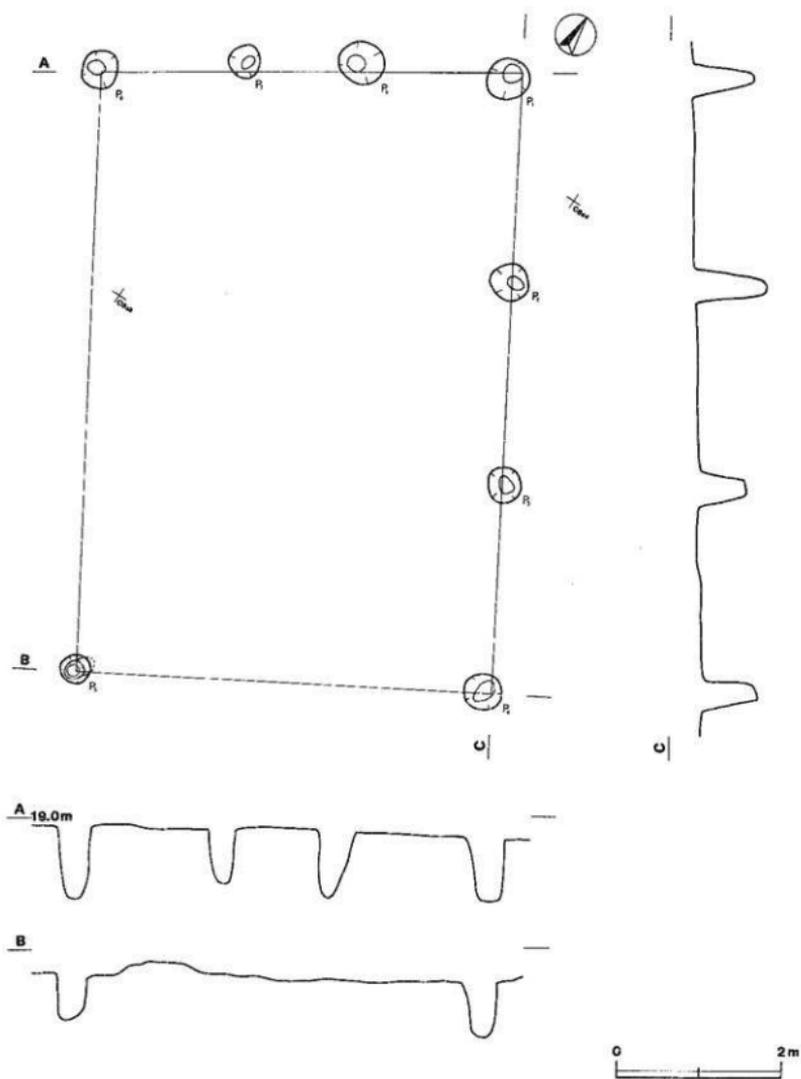
規模 東西3間、南北4間。柱間寸法は、桁行1.34~1.90m、梁行2.48~2.54mである。柱穴の掘り方は、平面形が径0.36~0.58mのはほぼ円形ないし楕円形を呈し、深さは46~90cmである。

長軸方向 N-30°-W

覆土 P₅・P₆とも単層で、ローム小ブロックとローム粒子を微量含む黒色土が堆積している。

遺物 P₅から土師器細片5点（環形の黒色土師器1点を含む）、P₆から土師器細片1点が出土している。

所見 本跡は、第224号住居跡（5世紀前半）と重複している。新旧関係は住居跡内で確認されたP₆（第6号柱穴）が本跡のP₅として成り立つ遺構であるので、本跡の方が新しい。時期は内黒の坏形土器が出土していることから平安時代（9世紀後半以降）と思われる。



第567图 第3号独立柱建物跡実測图

4 方形周溝墓

当遺跡からは台地縁辺部の調査区南西端から、4基の方形周溝墓が検出されている。

第1号方形周溝墓（第568図）

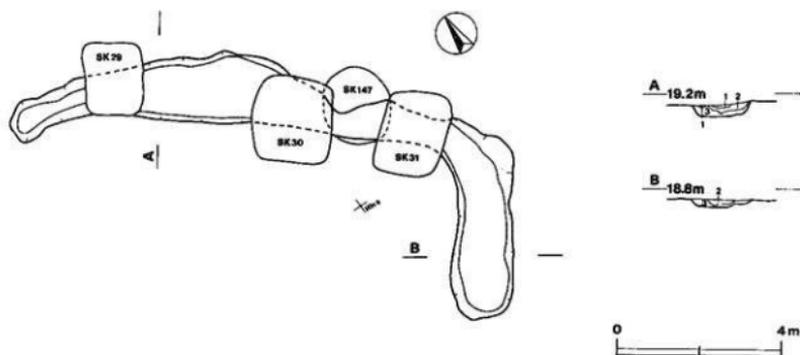
位置 調査区南西端のH1b区を中心に検出。

重複関係 本跡周溝部で4基の土坑（第29～31号・147号土坑）と重複している。新旧関係は土層から第147号土坑、本跡、第29～31号土坑の順である。

規模と平面形 規模は南北方向外径（5.86）m、内径4.20m、東西方向外径12.1m、内径10.8mである。平面形は「L」字状を呈する。

方位 南北方位はN-36°-Eで、東に傾いている。

周溝・壁 溝の幅は一定しておらず、上幅の最も広い部分で1.76m、狭い部分で0.84mである。深さは20～30cmで、底面はほぼ平坦である。南西部の溝はエリア境のうえ、ゆるやかな斜面のため確認できなかったが、他の遺構同様四角形に周回していたと思われる。方台部側と外周部側の壁の立ち上がり方に違いは認められず、どちらもゆるやかに傾斜して立ち上がる。



第568図 第1号方形周溝墓実測図



第569図 第1号方形周溝墓出土遺物実測図

第1号方形周溝墓出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第569図 1	竪 土師器	A 16.61 B (3.7)	口縁部片・複合口縁で、口縁部は内 壁しながら立ち上がる。腹位に断 面三角形の縞状貼り付けを持つ。	口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・小石・ スコリア 褐色 普通	P2006 5% 周溝層土中 外周側壁

覆土 周溝内の覆土は2～3層に分けられる。円レンズ状に堆積しているが、ロームブロックが各層に入っているため人為堆積と思われる。最下層はローム大・中ブロックを含む褐色系の土が堆積しており、これは壁面の崩れによるロームブロックと思われる。

土層解説

- 1 黒色 ローム小・中・大ブロック散在
- 2 黒褐色 ローム小・中ブロック散在
- 3 褐色 ローム粒子・ローム小・中ブロック多量、ローム大ブロック中量

遺物 遺物は、周溝の覆土中から土師器片32点のほかに縄文土器細片、握りこぶし大の石19個が出土している。

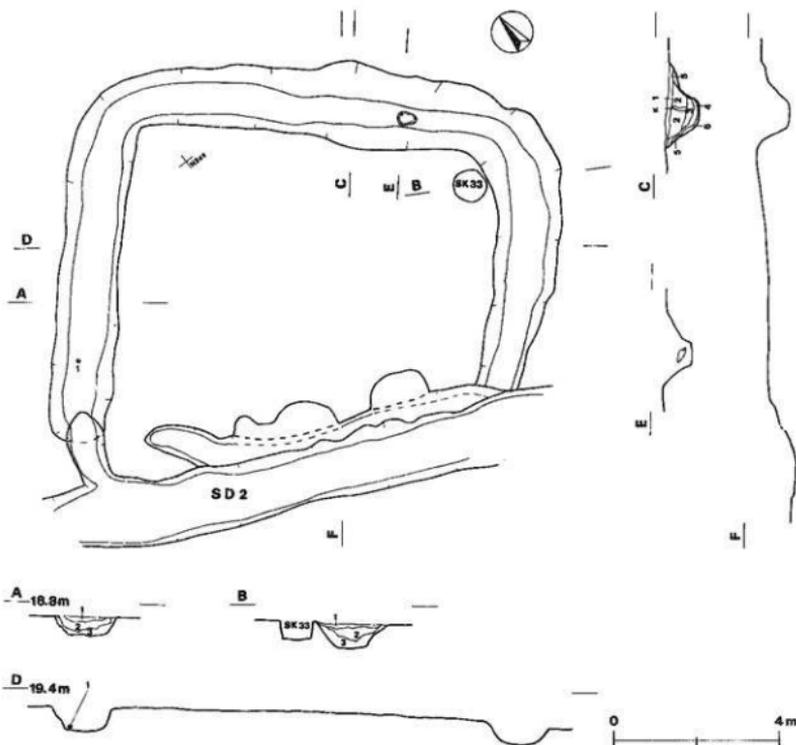
第569図1の壺は覆土中から出土した土師器の1縁部片である。

所見 主体部は確認できなかったが、出土遺物から本跡は古墳時代前期と思われる。

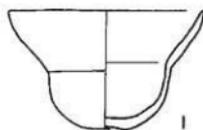
第2号方形周溝墓(第570図)

位置 II₂e₇区を中心に検出され、北に第3号方形周溝墓が隣接している。

重複関係 南側の東西方向の周溝は第2号溝と重複している。溝との新旧関係は、土層から本跡の方が古いと考えられる。第33号土坑との新旧関係は不明である。



第570図 第2号方形周溝墓実測図



第571図 第2号方形周溝墓出土遺物実測図

第2号方形周溝墓出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第571図 1	小形丸底土器	A 11.8 B 7.2 C 2.1	上げ底。体部は内押して立ち上がり、頸部はややくびれる。口縁部は僅かに内押し、肩部は直立気味に立ち上がる。	L1線部及び体部内・外面横ナデ。	長石・石英・雲母・ バミス 棕色 普通	P2006 9556 周溝墓前 PL110 本彩の可能性有 (表裏部腐のため一部に本彩残存)

規模と形状 規模は南北方向外径(9.80)m、内径7.70m、東西方向外径12.1m、内径9.24mである。南部を溝に切られているが、平面形は隅丸長方形と思われる。北側の東西両コーナーは整った弧状を残している。

方位 南北方位N-45°-Eで、東に傾いている。

周溝・壁 南西コーナーはゆるやかな斜面を呈しているので崩落してしまったと思われる、この部分の周溝は確認できなかったが、周回していたと思われる。溝の上幅は1.06~2.04m、下幅は0.46~0.98mで、深さは54~74cmである。底面は平坦であるが、周溝の南側の方が浅い。方台部鋪と外周部鋪の壁は外傾して立ち上がっているが、外周部の方がゆるやかである。また、南側の方台部法面は攪乱によってはっきりしない部分が多い。東コーナーから約1.2m北側寄りの底面の約14cm上から長さ48cm、幅34cm、厚さ14cmの石が斜位の状態出土している。また、東コーナーの方台部上に第33号土坑が存在する。

覆土 周溝内の覆土は3~6層に分けられ、覆上に粘土ブロックを中量含んでいる。また、レンズ状堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量、砂少量
- 2 黒色 ローム粒子・スコリア粒子少量
- 3 黒暗褐色 ローム小ブロック・粘土小ブロック中量、ローム粒子少量
- 4 黒褐色 ローム粒子多量、粘土ブロック中量、スコリア少量
- 5 暗褐色 ローム大ブロック多量
- 6 灰褐色 粘土ブロック多量、ローム小ブロック少量

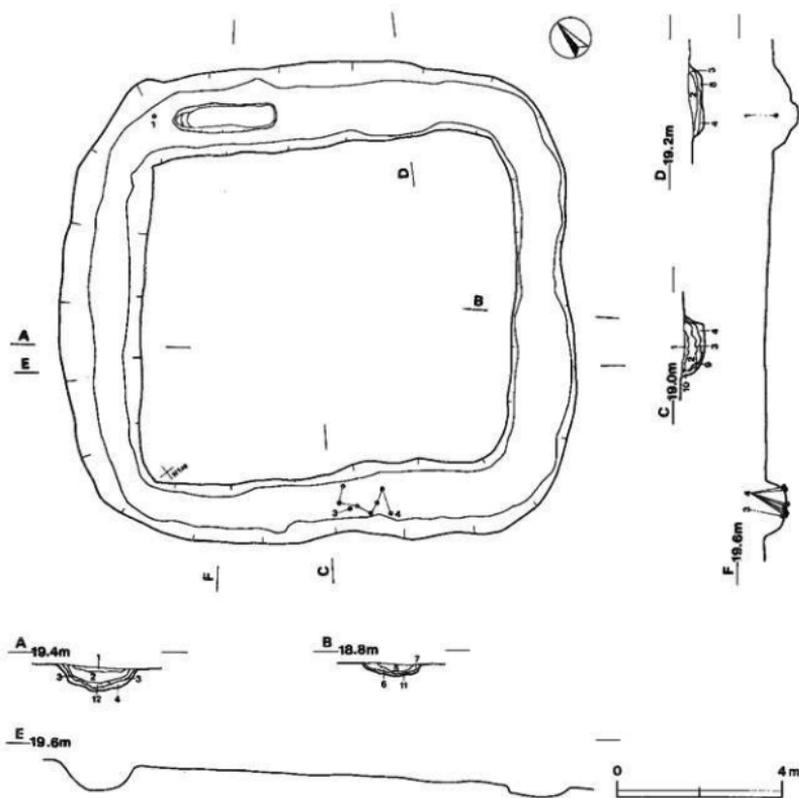
遺物 周溝の覆土中から土師器片、鉄滓及び弥生土器片等が出土している。第571図1は赤彩された小形丸底埴で、底面付近から斜位の状態出土している。弥生土器片や鉄滓は流れ込みと思われる。

所見 本跡の時期は、出土遺物から古墳時代前期と思われる。

第3号方形周溝墓(第572図)

位置 第1号方形周溝墓の東隣のH1a区を中心に検出。

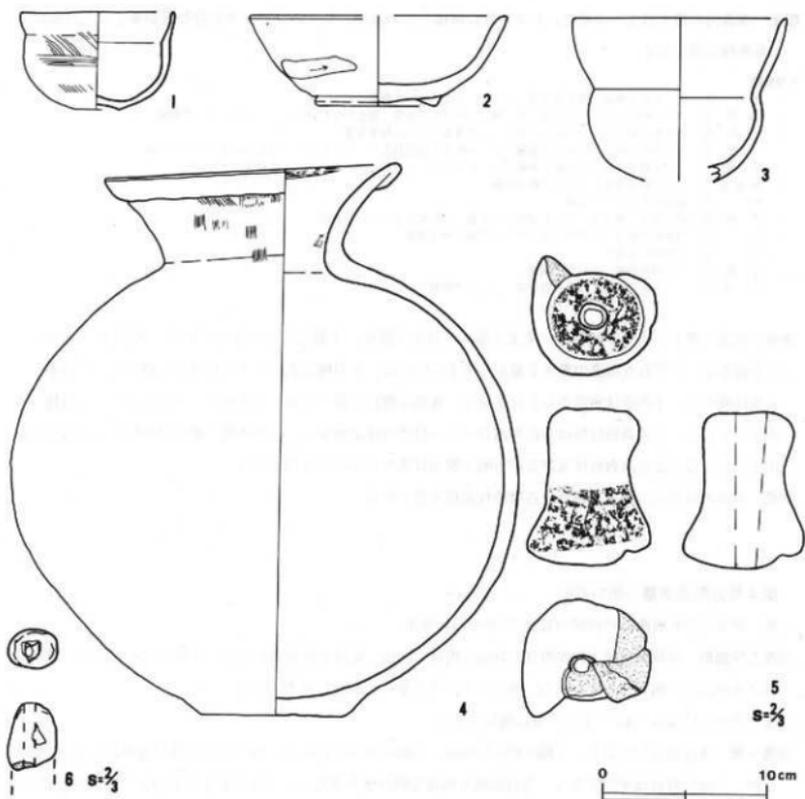
規模と平面形 南北方向外径11.70m、内径8.10m、東西方向外径12.6m、内径9.02mである。平面形は東西方向にやや長い隅丸方形で、各コーナーとも整った弧状を残しており、西側の外周部はやや外側に膨らみを持つ。



第572図 第3号方形周溝墓実測図

第3号方形周溝墓出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第573図 1	袖土師器	A 9.3 B 6.1 C 2.7	口縁部一部欠損。底部は上げ底。体部は内彎しながら立ち上がり、頸部はややくびれをもつ。口縁部は外傾し、肩部は直立気味に立ち上がる。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。頸部及び体部外面斜位。横位のハケ目調整後体部下端ヘラナデ。	灰石・雲母・礫 橙色 普通	P2007 95% 周溝墓上下層 PL110
2	高台付坏土師器	A [15.4] B 5.6 D 7.2 E 0.6	底部から口縁部。底部は平底で輪高台が付く。体部は内彎しながら立ち上がる。肩部はやや外反する。	口縁部及び内・外面横ナデ後内面へラ磨き。体部外面下端へラ削り。	砂粒・灰石・雲母 内：灰褐色、外： 灰褐色 普通	P2008 50% 周溝墓下層 PL110
3	小形丸底坏土師器	A 13.0 B (10.1)	底部欠損。体部は内彎しながら立ち上がり、頸部でくびれをもつ。口縁部は内彎気味に立ち上がる。肩部外面は直立するが、内面は外傾する。	口縁部及び体部内面横ナデ後ヘラナデ。	長石・石英・雲母・スコリア・小石 明褐色 普通	P2009 95% 周溝墓下層 底部穿孔の可能 性。外面斜磨 FL110
4	密土師器	A 17.8 B 33.7 C 8.7	底部は平底で突き出る。体部は球形で、頸部から口縁部は外傾して立ち上がる。複合口縁。	口縁部及び体部内・外面、頸部外面ハケ目整形後ヘラナデ。	長石・スコリア・パミス・小石 橙色 普通	P2010 80% 周溝墓上層 外 観い PL110



第573図 第3号方形周溝墓出土遺物実測図

図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第573図5	不明 (耳栓?)	4.8	3.8	3.8	0.9	(40.1)	底面付近	DP200 70% PL118 上面部に縦穴1目による2条の割出文 状。底部下部には斜交文と縦線が周回施 文されている
6	管状土鏝	(2.0)	1.5	1.0	0.4	(3.2)	周溝覆土中	DP2002 50%

方位 南北方向N-40°-Eで、東に傾いている。

周溝と壁 溝は周回しており、上幅1.30~2.06m、下幅0.56~1.40mと幅がある。周溝の深さは32~56cmで、底面は東西方向が平坦で、南北方向が皿状である。北側の東西方向と西側の南北方向の方台部側と外周部側壁は、どちらも外傾して立ち上がっているが、方台部側より外周部側の法面がゆるゆるやかである。また、周溝内の北コーナーの南に長径1.26m、短径0.34m、底面からの深さ20cmを測る隅丸長方形の土坑を伴う。溝内の埋葬施設の可能性も考えられる。

覆土 周溝内の覆土は3～4層で、レンズ状に堆積しているが、ロームブロックを含む層が多く見られるので人為堆積と思われる。

土層解説

- | | | |
|----|-----|--|
| 1 | 褐色 | ローム粒多量、焼土小ブロック・ローム小ブロック微量 |
| 2 | 黒褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック・焼土小ブロック少量、焼土中ブロック・ローム大ブロック微量 |
| 3 | 暗褐色 | 焼土小ブロック・ローム小・中ブロック多量、ローム粒子少量 |
| 4 | 黒褐色 | ローム小・中・大ブロック多量、ローム粒子・棕色粘土中・大ブロック・白色粘土大ブロック少量 |
| 5 | 黒褐色 | ローム粒子・スコリア粒少量、ローム小ブロック少量、ローム中ブロック微量 |
| 6 | 黒褐色 | ローム粒子少量、スコリア粒子少量 |
| 7 | 褐色 | 棕色粘土ブロック多量 |
| 8 | 黒褐色 | 焼土粒中・焼土小・中・大ブロック中量、白色粘土小ブロック少量 |
| 9 | 黒色 | 白色粘土粒子・白色粘土小ブロック少量、焼土微量 |
| 10 | 黒色 | 白色砂粒少量 |
| 11 | 黒褐色 | 白色砂粒少量、スコリア微量 |
| 12 | 黒褐色 | ローム粒子中量、白色砂粒少量、スコリア微量 |

遺物 周溝の覆土中から土師器片、縄文土器片、弥生土器片、土製品等が出土している。第573図1・3・4は土師器で、いずれも周溝の覆土下層から出土している。1の碗は北コーナー付近から斜位で、3の小形丸底甕は横位で、4の壺は頸部から上は正位で、体部は割れて近くに散った状態で、しかも3・4は近接して出土している。2の高台付坏は方台部西コーナー付近の確認面から、5の不明1製品は横位で底面近くから出土している。2の高台付坏及び5の不明1製品は流れ込みの可能性がある。

所見 本跡の時期は、出土遺物から古墳時代前期と思われる。

第4号方形周溝墓 (第574図)

位置 第3号方形周溝墓の南側のH2b₂区を中心に検出。

規模と平面形 規模は南北方向が外径7.76m、内径5.60m、東西方向外径8.34m、内径6.54mである。平面形は、東西に長い隅丸長方形である。各コーナーとも整った弧状を残している。

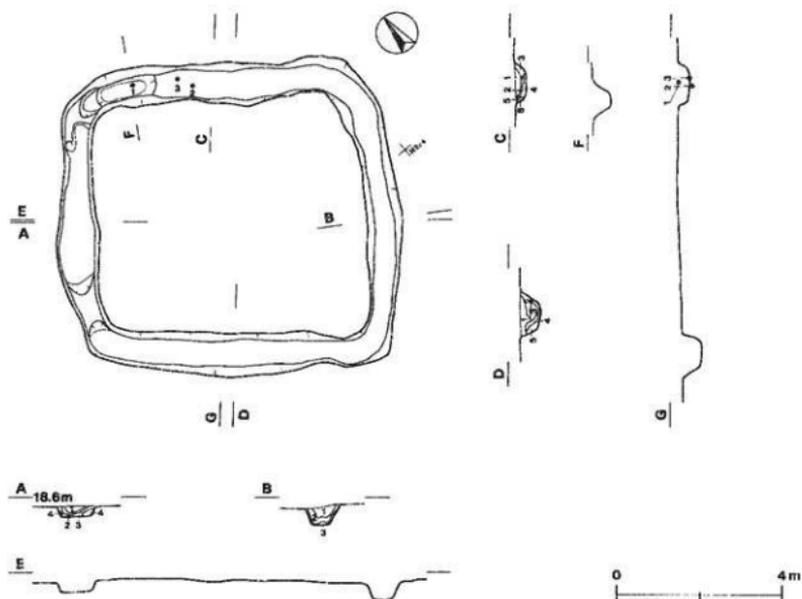
方位 南北方位はN-35°-Eで、東に傾いている。

周溝・壁 溝は周回しており、上幅0.62～1.06m、下幅0.58～0.80mで、西コーナー部付近が最も狭い。深さは26～50cmで底面は平坦である。方台部側と外周部側の壁の立ち上がり方にあまり差がなく、外傾して立ち上がっている。西コーナー付近の周溝底面がブリッジ状にやや高まっている。また、北コーナー付近の周溝内に南北に長い上坑が存在する。本跡と同時期に作られたものと思われ、周溝内の埋葬施設の可能性がある。

覆土 周溝内の覆土は3～6層からなり、レンズ状及びブロック状堆積である。

土層解説

- | | | |
|---|-----|--------------------------------|
| 1 | 黒褐色 | ローム粒中量、棕色粘土小ブロック少量、焼土小ブロック微量 |
| 2 | 黒褐色 | ローム小ブロック多量、炭化粒子少量 |
| 3 | 黒色 | ローム粒子少量 |
| 4 | 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒中・小ブロック少量 |
| 5 | 黒褐色 | 棕色粘土小ブロック多量、ローム粒少量、棕色粘土中ブロック微量 |
| 6 | 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒少量、焼土小ブロック微量 |



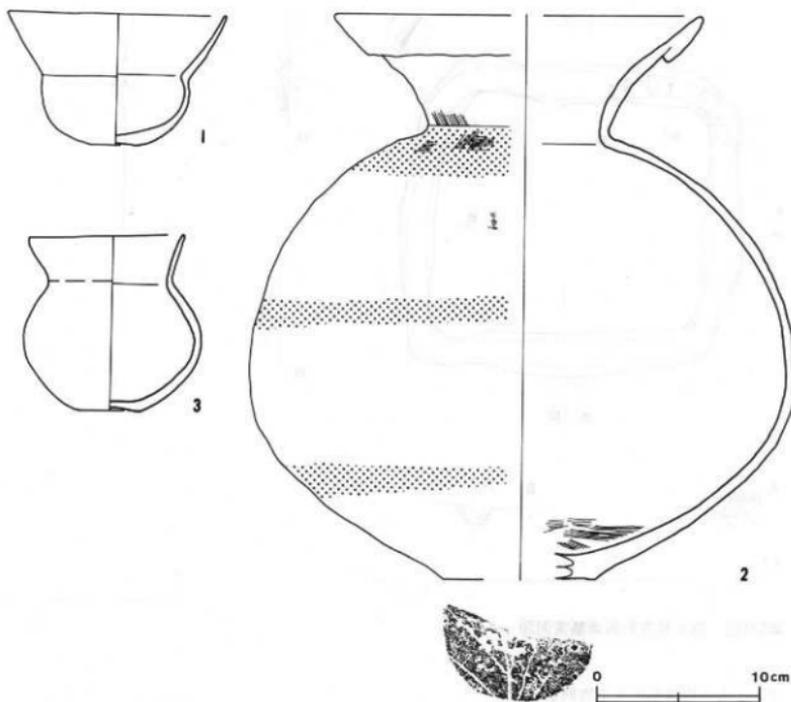
第574図 第4号方形周溝墓実測図

第4号方形周溝墓出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第575図 1	小形丸底壇 土器器	A 13.2 B 8.0 C 2.6	口縁部一部欠損。底部は上げ底気味。体部は内彎しながら立ち上がり、頸部でくびれをもつ。口縁部は外傾してラッパ状に開く。	口縁部及び体部内・外面横ナデ後内面ヘラナデ。	長石・雲母・燧石 鈍い褐色 普通	P2011 95% 周溝内土坑覆土上層 外面が割壊 PLJ11
2	壺 土器器	A [22.3 B 34.3 C [9.4]	底部は平底でやや突出する。体部は球形で、頸部から口縁部は外傾して立ち上がる。最大径を体部やや下端にもつ。複合口縁。	口縁部内面横ナデ。頸部及び体部内面下端ハケ目調整。内面に輪轆み痕。口縁部から体部上位・中位・下位の3か所が帯状に赤彩される。	長石・スコリア・燧石 鈍い黄褐色 普通	P2012 60% 周溝覆土下層 外面割壊 底部に本業痕 PL10
3	小形壺 土器器	A 9.4 B 10.8 C 3.8	口縁部一部欠損。上げ底気味。体部は内彎しながら立ち上がり、最大径を中位にもつ。内傾して頸部に至り、口縁部は外反する。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。体部下端ハケ目調整。体部内面に輪轆み痕。	長石・石英・雲母・スコリア・小石 内：黒褐色。外： 明褐色 普通	P2013 60% 周溝覆土下層 口縁部内・外面 及び体部外面赤彩 PL10

遺物 土器器片95点、陶器片1点、石2点が多数出土している。第575図1の小形丸底壇は周溝内土坑の上面から横位で細かく割れた状態で、2・3は底面付近から横位の状態で開催してそれぞれ出土している。3の壺は割部の半分が欠けている。

所見 1の小形丸底壇と同様な器種が近接する三反出遺跡の第11・12号住居跡からも出土しており、本跡との関連が考えられる。時期は、出土遺物等から古墳時代前期と思われる。



第575図 第4号方形周溝墓出土遺物実測図

5 溝

当遺跡からは14条の溝が検出されているが、その性格は不明である。なかでも第1号溝からは1500点余もの遺物が出土しており、実測及び拓本可能な遺物については出土した部分の平面図、土層断面図、エレベーションと合わせて掲載する。その他の溝については一覧表(表3)で記載するとともに実測及び拓本の可能な出土遺物については観察表等で記載する。

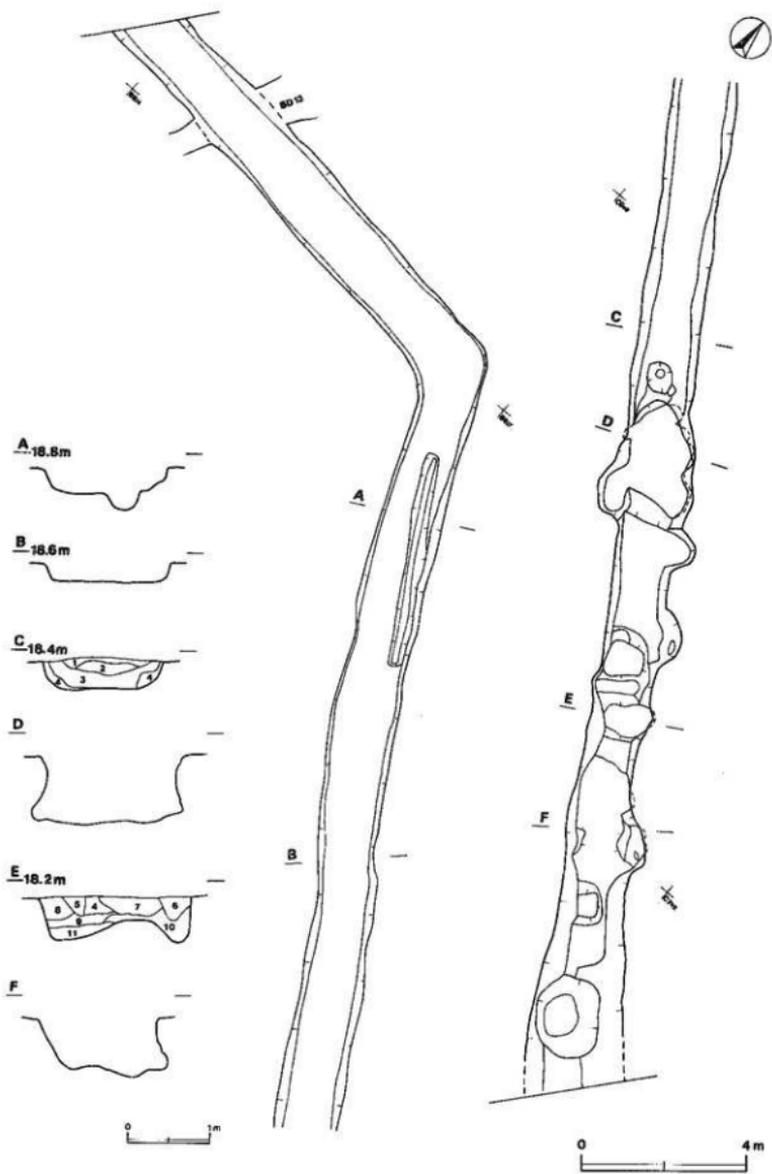
第1号溝(第576図)

位置 調査区の北東部、B6i~C6b区。

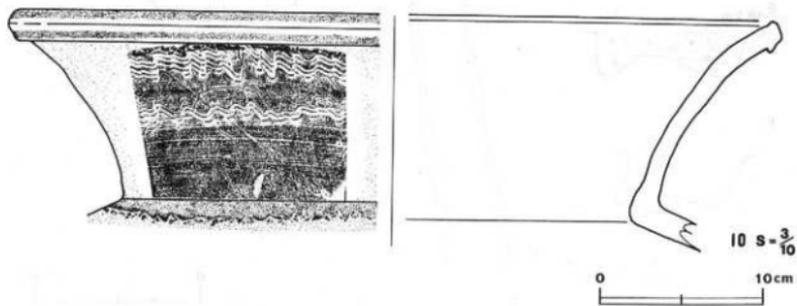
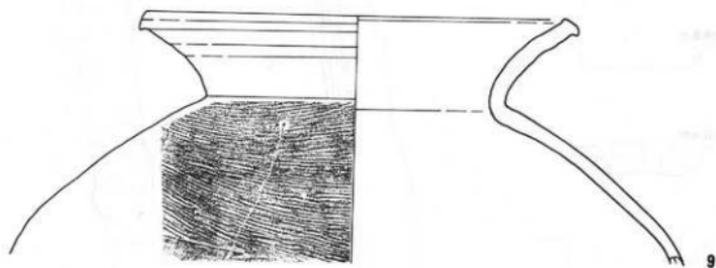
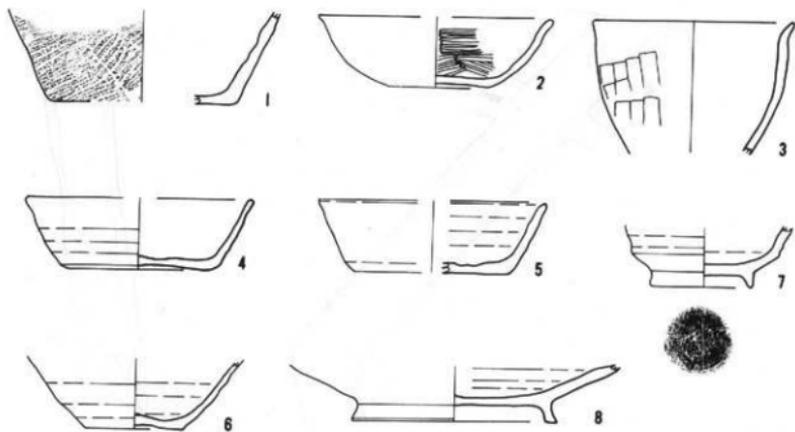
重複関係 本跡は第13号溝と重複している。土層から本跡の方が新しい。

規模と形状 上幅1.50~2.10m、下幅1.14~1.40m、全長は北西部と南東部がエリア外に延びているが検出部分で55.6mである。断面形は「U」字状をしており、底面は凹凸がある。

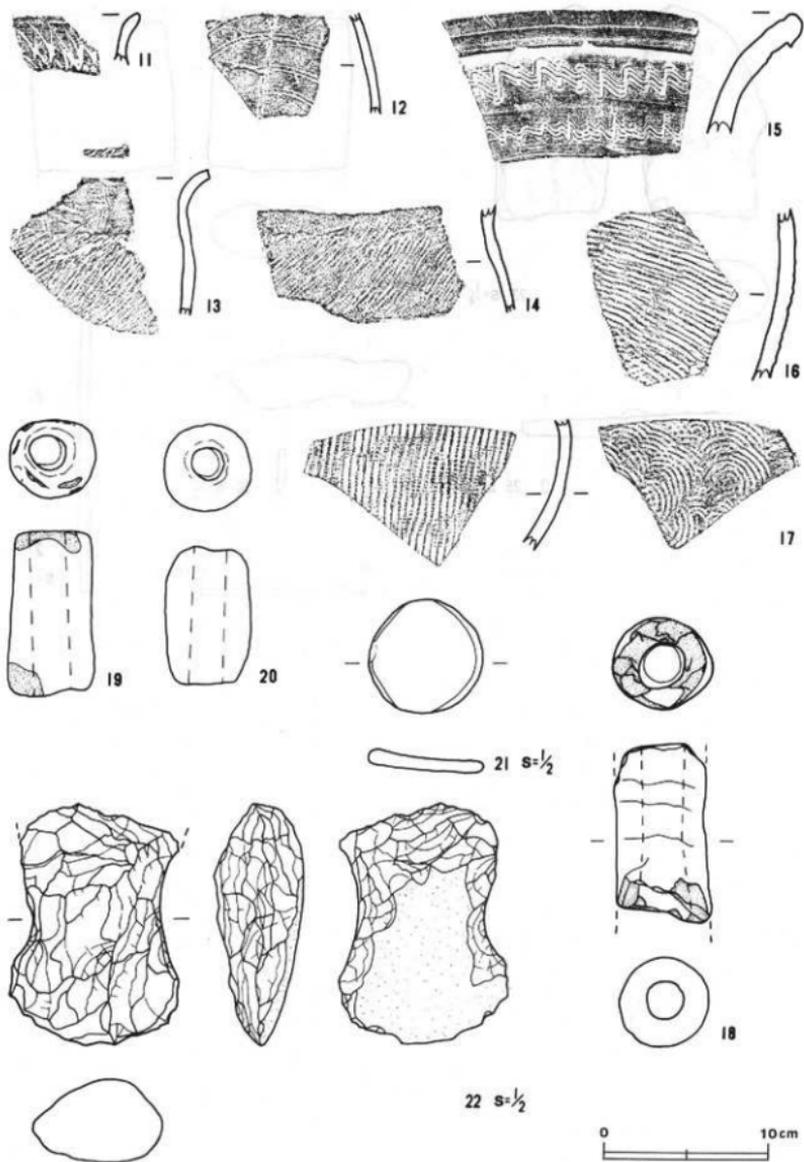
方向 調査区のB6i区から東方向(N-90°-E)に10.8m程直線的に延び、B6j区でさらに南東方向(N-27°-W)に44.8m程直線的に延びている。



第576图 第1号沟渠测图

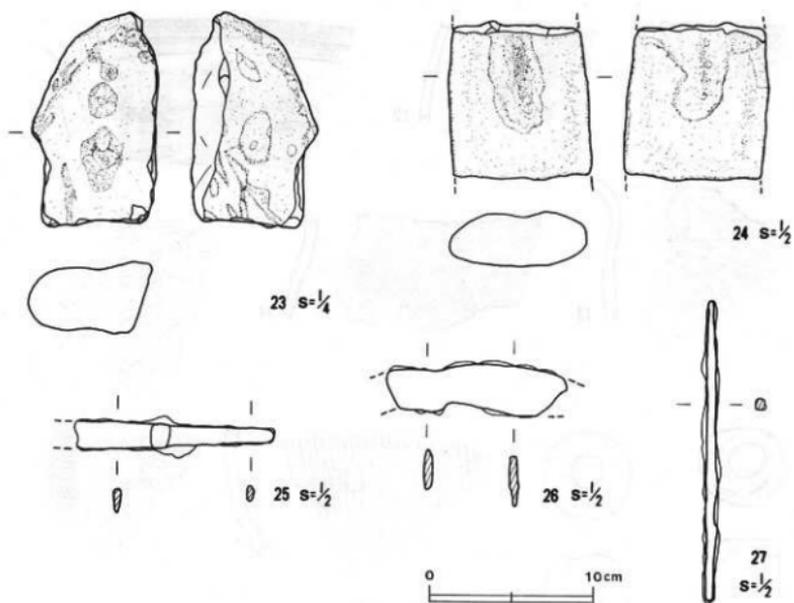


第577图 第1号满出土遗物实测图(1)



第578图 第1号满出土物实测图(2)

江苏宜兴紫砂陶器全集(下卷) 宜兴紫砂陶器



第579图 第1号清出土遗物实测图(3)

第1号溝出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴及び文様	胎土・色調・焼成	備考
第578図 1	広口壺 弥生土器	B 5.7 C 11.0	底部から体部片。平底。体部は外傾して立ち上がり、付加糸第二種(付1条)が施されている。	長石・石英・雲母・ 輝 褐色 普通	P2022 10% 覆土中

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第578図 2	環 土 器	A [13.8] B 4.2 C 6.0	底部から口縁部片。平底。体部は内彎気味に外傾して立ち上がり、口縁部はやや外反する。	口縁部及び体部外面横ナデ。体部及び底部内面ヘラ磨き。底部回転ヘラ切り後ヘラナデ。	砂粒・長石・雲母 内；黒褐色。外； 明褐色 普通	P2014 30% 覆土中 内面黒色処理
3	鉢 土 器	A 12.5 B (8.0)	体部から口縁部片。体部は内彎気味に外傾して立ち上がり、頸部に至る口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ヘラナデ。	P2021 25% 覆土中 飯の可能性有	
4	環 須 器	A [13.7] B 4.3 C 8.4	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がり、口縁部はやや外反する。	口縁部及び体部横ナデ。回転ヘラ切り後手持ちヘラ削り調整。	長石・石英・雲母・ 輝・針状鉱物 灰色 良好	P2015 70% 覆土中 口縁部外面自然 釉 PL111
5	環 須 器	A [13.8] B 4.4 C 9.6	底部から口縁部片。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部はやや外反する。	口縁部・体部横ナデ。底部回転ヘラ削り後手持ちヘラ削り調整。底部下端ヘラナデ。水洗き痕が強い。	長石・石英・雲母・ 輝・針状鉱物 灰色 良好	P2016 35% 覆土中 底部ヘラ記 号。8世紀代
6	環 須 器	B (4.0) C (6.3)	底部から体部片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。	体部横ナデ。底部回転ヘラ削り後手持ちヘラ削り調整。	長石・石英・バミス 燻灰色 普通	P2017 25% 覆土中
7	高台付 環 器	B (3.7) D 6.2 E 0.9	底部から体部片。平底に高台が付く。体部は下位に稜を打ち、直線的に外傾して立ち上がる。	体部横ナデ。底部回転ヘラ削り調整。	長石・雲母・輝 灰オリーブ色	P2018 25% 覆土中 FL111 底部ヘラ記 号
8	盤 須 器	B (3.6) D [12.4] E 1.0	底部から体部片。平底に1ハ、の字状に開く高台が付く。体部は直線的に外傾する。	体部横ナデ。底部回転ヘラ削り調整。	長石・石英・小石・ 輝 灰色 良好	P2019 25% PL 覆土中
9	環 須 器	A [25.4] B (15.0)	体部上半部から口縁部片。体部から口縁部は「く」の字状を呈し、口縁部は外反して立ち上がる。口縁部は下端が突出し、内傾する。	口縁部内・外面横ナデ調整。体部外面平行叩き目調整。	長石・石英・輝・ 針状鉱物 灰色 良好	P2020 25% 覆土中 接合片 口縁部内・外面 自然釉 PL111
10	大 須 器	A [52.6] B (16.0)	口縁部片。口縁部は外反して立ち上がり、口縁部は上下に突出し、断面三角形を呈する。	口縁部横ナデ調整後上半部に4本一糸の流状文が一段に施文されている。	長石・石英 灰色 普通	P2022 15% 底部 接合片 PL111

図版番号	種 別	計 測 値					出土地点	備 考
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第578図18	羽	LJ (10.9)	6.0	6.0	2.7~3.1	(249.8)	覆 土 中	DP2003
19	管状土埴	10.1	3.2	-	2.2	(249.7)	覆 土 中	DP2004 横位の管須直
20	管状土埴	8.5	5.2	-	2.0	225.7	覆 土 中	DP2005
21	土製門盤	4.6	4.7	0.6	-	(16.3)	覆 土 中	DP2006
22	打製石斧	9.8	7.0	3.9	-	249.2	覆 土 中	Q 2001 砂岩
第579図23	門 石	17.2	9.8	5.8	-	1310.8	覆 土 中	Q 2002 砂岩
24	門 石	6.5	5.8	2.2	-	137.0	覆 土 中	Q 2003 砂岩
25	刀 了	(8.2)	1.1	0.3	-	(8.9)	覆 土 中	M 2001 鉄
26	不 明	(7.2)	2.1	0.4	-	(12.0)	覆 土 中	M 2002 鉄
27	不 明	(12.8)	0.9	0.5	-	(10.3)	覆 土 中	M 2003 鉄製の柄杓

覆土 4～7層からなり、ローム大ブロックが混じるので人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒 色 ローム粒少量
- 2 黒 褐色 粘土ブロック多量、ローム大ブロック中量、ローム粒少量
- 3 黒 色 ローム粒子・ローム小・中ブロック少量、ローム大ブロック少量
- 4 黒 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック多量、ローム中ブロック中量、ローム大ブロック少量
- 5 黒 褐色 ローム粒子少量
- 6 黒 色 ローム小ブロック少量、ローム粒子微量
- 7 黒 褐色 ローム粒子・ローム小・中ブロック多量、ローム大ブロック中量
- 8 黒 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック中量、ローム中・大ブロック少量
- 9 黒 褐色 ローム粒中量、ローム小・中・大ブロック少量
- 10 黒 色 ローム粒子・ローム小・中・大ブロック多量
- 11 黒 褐色 ローム粒多量、ローム小・中・大ブロック中量、粘土中ブロック微量

遺物 覆土中から縄文土器片2点、弥生土器片75点、土師器片1081点(古墳時代中期の高坏の脚部9点含む)、須恵器片273点、土製品8点、鉄製品3点、鉄滓1点、石67点が出土している。出土状況からこれらの土器の多くは投棄されたものと思われる。第578～579図11～17は縄文土器片、弥生土器片、須恵器片の拓影図である。11は縄文土器片で爪形文が施されている。12～14は弥生土器片で、12は2本の条線が、13・14は附加縄文がそれぞれ施されている。15～17は須恵器片で、15は横走波状文、16は平行叩き、17は格子状の叩きと同心円の当て具痕がそれぞれ施されている。

所見 ほほ「L」字状に曲がるので区画のためのものと思われるが、全体が確認されていないので詳細は不明である。また、縄文時代から平安時代の遺物が混じって出土していることから時期も特定できない。

第5号溝 (遺構全体図)

位置 調査区の南部、G3d区～G3f区。

重複関係 本跡は第35号住居跡及び第62～64号土坑と重複している。本跡は第35号住居跡を掘り込んでいるところから本跡の方が新しい。第62～64号土坑との新旧関係は不明である。

規模と形状 上幅0.60～2.04m、下幅0.36～1.88mで、全長は19.00mである。北東端部は第62～64号土坑と重複して幅が広く、その後狭くなり、南東部に延びている。断面形は逆台形状をしており、底面は凹凸である。

方向 調査区のGdi区から南東方向G3f区に19.00m程直線的に延びている。

覆土 2層からなり、自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒 色 ローム粒多量、ローム小ブロック中量
- 2 黒 褐色 ローム小ブロック・ローム粒多量

第5号溝出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考		
第580図 3	香 罎	A 12.0 B 7.3 D 9.5 E 1.0	底部からL脚部片。平底で、脚が付く。体部と脚に突出部をもち、体部及びL脚部は垂直に立ち上がる。	体部外面下層横ナデ。底部回転ヘラ削り調整。三足と思われる。	砂粒・長石 内：淡黄色、外： 黄褐色 良好	P2024 49% 覆土中 体部及び底部内 面灰粒 瀬戸・美濃系		
図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第580図4	釘	(6.7)	2.0	1.1	-	(11.7)	覆土中	M2004 鉄

遺物 覆土中から土師器片7点、須恵器片3点、陶器片5点、鉄製品1点、鉄滓1点、石7点が出土している。出土状況からこれらの土器の多くは投棄されたものと思われる。第580図3の香炉は覆土中から、4の釘は覆土中からそれぞれ用上している。

所見 本跡は台地縁辺部に直線的に延びているが、性格等は不明である。また、古墳時代から中世までの遺物が混じって出土していることから時期も特定できない。

第7号溝（遺構全体図）

位置 調査区の南部、G3d.~G2h区。

重複関係 本跡は第5号溝及び第29・64号土坑と重複している。各遺構との新旧関係は不明である。

規模と形状 上幅0.80~1.00m、下幅0.20~0.40mで、全長は1.62mである。北東端部は第64号土坑と重複して幅が広く、その後狭くなり、南東方向に延びている。断面形は逆台形状をしており、底面は凹みがある。

方向 調査区のG3d.区から南東方向G2h区に1.62m程直線的に延び、その後調査区外に空いている。

覆土 2層からなり、人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗栗色 ローム小ブロック・ローム粒子多量、粘土粒子・炭化粒子多量
- 2 暗栗色 ローム小ブロック・ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子・ローム中ブロック微量

遺物 覆土中から弥生土器片2点、土師器片82点、須恵器片5点、陶器片1点、鉄滓1点が出土している。出土状況からこれらの土器の多くは投棄されたものと思われる。第580図1の土師器坏は覆土中から出土している。

所見 第7号溝は第5号溝と合わせるとほぼ「L」字状に曲がるので、区画のためのものとも考えられるが、全体が確認されていないので確定はできない。また、古墳時代から平安時代までの遺物が混じって出土していることから時期も特定できない。

第2号溝出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第580図1	坏 須恵器	B 13.8 C 4.2	底部から体部片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部積ナデ。	石灰・小石・塵・針状炭物 灰色 普通	P2023 覆土中

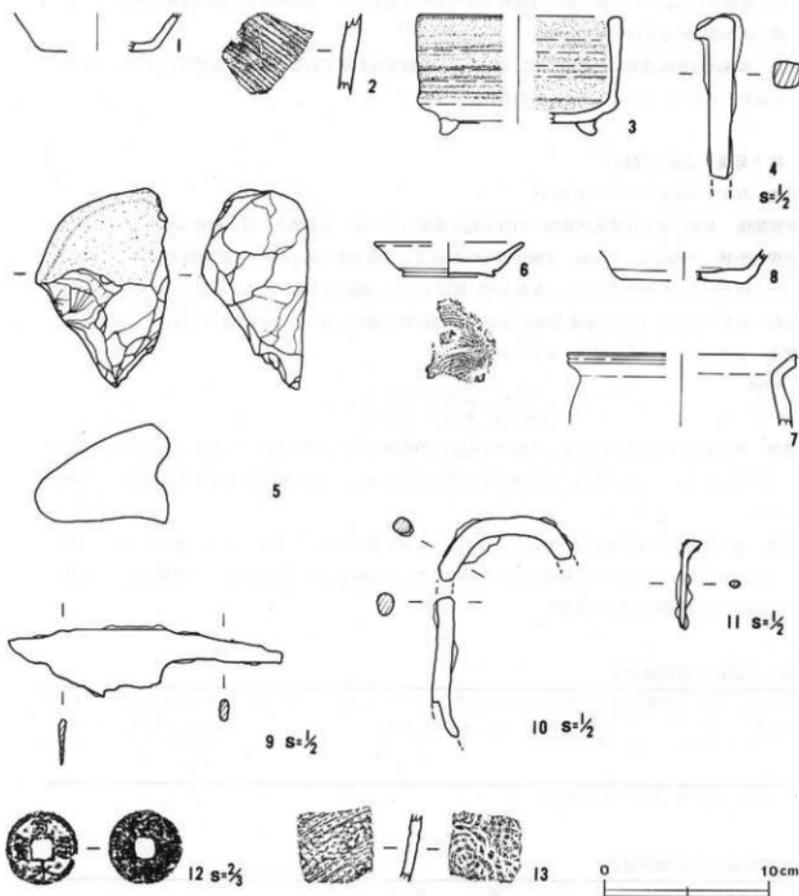
第580図2は須恵器の体部片で印きが施されている。

第6号溝出土遺物観察表

図版番号	種別	計 測 値				出土地点	備 考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)		
第580図5	石 碁	12.2	8.1	6.0	-	552.2	覆土中 Q2004 砂岩

第7号溝出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第580図6	坏 土師器	A 9.0 B 2.1 C 5.4	底部から1枚器片。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に全	口縁部及び体部内・外面積ナデ。 底部回転切削り。	長石・石灰・雲母・塵 褐色 普通	P2025 覆土中



第580図 第2・5・6・7・8・11・13号溝出土遺物実測図

第8号溝出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第580図 7	甕 土師器	A [13.8] B (4.4)	体部上半部から口縁部片。口縁端部は外上方につまみ上げられる。	口縁部内・外面横ナデ。	長石・雲母 鈍い赤褐色 普通	P2026 覆土中 10%
8	坏 須恵器	B (2.0) C [7.6]	底部から体部片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	底部回転ヘラ切り後ヘラナデ調整。	長石・石英・針状 鉱物 黄灰色 普通	P2027 覆土中 体部外面自然釉 15%

第11号溝出土遺物観察表

図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第580図9	包丁	(11.0)	(2.9)	0.4	-	(17.9)	覆土中	M2006 鉄
10	不明	(5.7)	(5.6)	0.6~0.9	-	(14.3)	覆土下層	M2007 鉄、耳金の可能性
11	角釘	(3.8)	1.1	0.3	-	(1.4)	覆土下層	M2008 鉄

図版番号	鉄種	初鋳年		出土地点	備考
		時代	年号(西暦)		
第580図12	寛永通寶	江	元	寛永13年(1636)	覆土中 M2009

第580図13は第11号溝出土の銅患部片で、外面に梯子状の明き、内面に同心円状の当て具痕が施されている。

6 粘土採掘坑跡

当遺跡から26基の粘土採掘坑跡を検出した。本跡群は調査区南東部のやや南側で、方形周溝墓の北側に位置する。本跡群より南に住居跡は存在しない。覆土はロームブロック及び白色粘土ブロック混じりの黒色土で、遺構内の白色粘土層下端まで掘り込んでいる。また、壁の横を掘り込んでフラスコ状を呈する箇所もある。雨天の折りには雨水が染み込まず溜まった状態になる。これら土坑の平面形は大部分が不定形である。

ここでは、主だった遺物が出土している粘土採掘坑だけを取り上げ、その他の採掘坑については、表裏に記載する。

第1号粘土採掘坑跡(第582図)

位置 調査区の南西部, H2d,区。

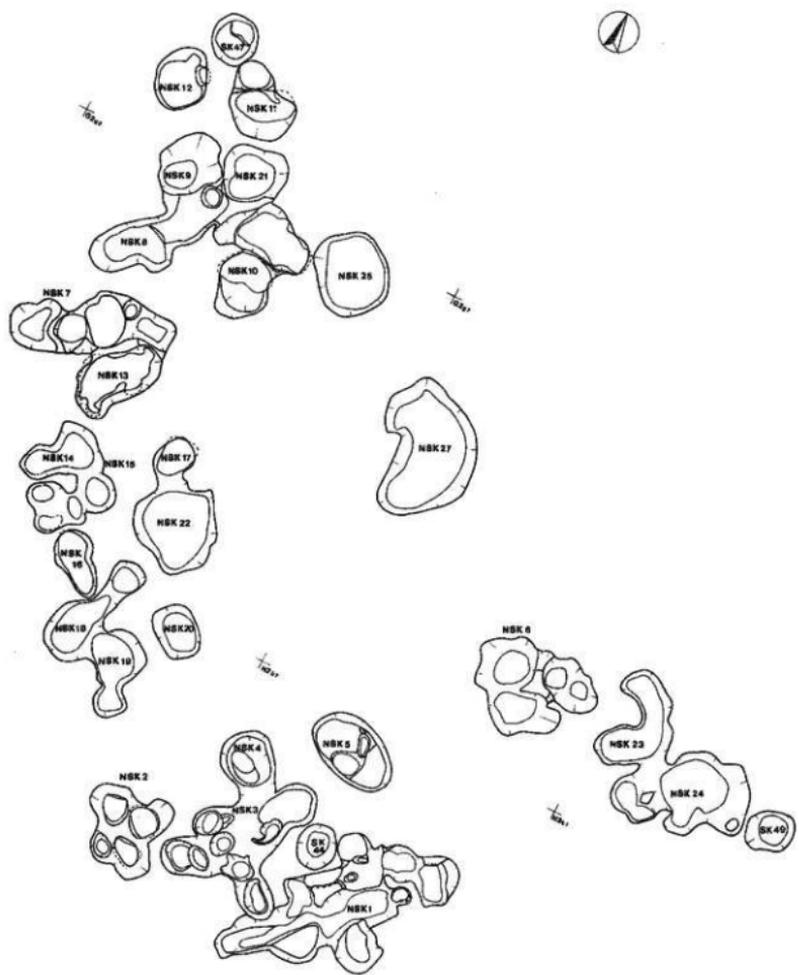
長軸方向 N-46°-E

規模と形状 平面形は長軸12.16m, 短軸6.40mの不定形で、本跡底面に10か所(1a~1j)の掘り込みが存在する。深さは34~90cmである。底面は平坦な所と凹凸な所がある。壁は外傾またはフラスコ状に内傾しながら立ち上がる。

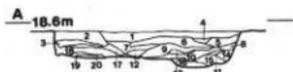
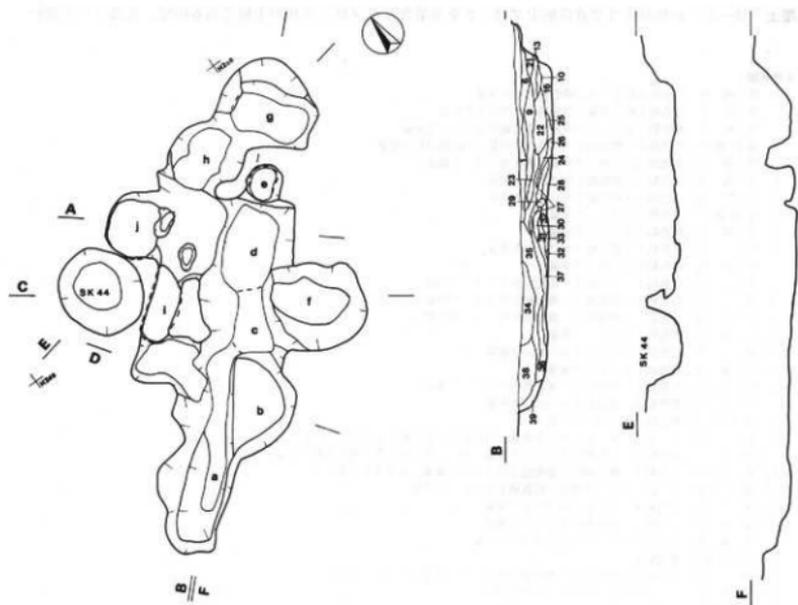
第1号粘土採掘坑跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第583図1	高坏 土器	B (6.3)	坏部下部分から脚部片。脚部は短脚でラッパ状に開く。	脚部外面ヘラナゲ。脚部内面輪筋後指ナゲ。	長石・雲母・スコリア・小石 褐色 普通	P2028 15% 覆土中 PL111 内外面刺摩
2	坏 須恵器	A [13.8] B 4.3 C 8.4	底部から口縁部片。平底。体部は外傾しながら立ち上がる。口縁部はやや反する。	口縁部・体部刺摩ナゲ。底面回転ヘラ切り後ヘラナゲ調整。二次底面面行。	長石・スコリア・小石 灰色 良好	P2144 30% 11号坑覆土中 底部ヘラ記号、 口縁部外面自然釉

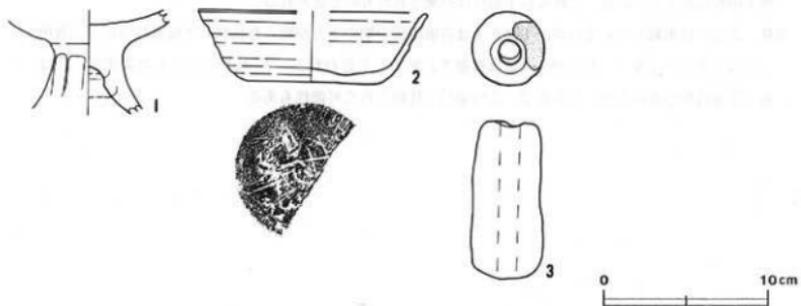
図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)		
第583図3	竹状土鍋	9.6	4.5	-	1.2	(196.4)	11号坑覆土中 DP2007



第581図 粘土採掘坑跡配置図



第582图 第1号粘土探掘坑跡実測図



第583图 第1号粘土探掘坑跡出土遺物実測図

覆土 ローム・白色粘土及び黄色粘土ブロックを多量含んだブロック状の土層であるので、人為堆積と思われる。

土層解説

- | | | | |
|----|---|----|--|
| 1 | 黒 | 褐色 | 白色粘土粒子中量、褐色粘土粒子少量 |
| 2 | 黒 | 褐色 | 白色粘土粒中量、白色粘土大ブロック少量 |
| 3 | 黒 | 褐色 | 褐色粘土中ブロック中量、褐色粘土小ブロック少量 |
| 4 | 黒 | 褐色 | 白色粘土・褐色粘土大ブロック中量、白色粘土粒子少量 |
| 5 | 黒 | 褐色 | 褐色粘土小ブロック少量、褐色中ブロック微量 |
| 6 | 黒 | 褐色 | 白色粘土・褐色粘土中ブロック中量 |
| 7 | 黒 | 褐色 | 白色粘土・褐色粘土小ブロック多量 |
| 8 | 黒 | 褐色 | 褐色粘土小ブロック少量 |
| 9 | 黒 | 褐色 | 褐色粘土小ブロック中量 |
| 10 | 黒 | 褐色 | 白色粘土・褐色粘土大ブロック多量 |
| 11 | 黒 | 褐色 | 褐色粘土小ブロック少量 |
| 12 | 黒 | 褐色 | 白色粘土・褐色粘土・黄色粘土大ブロック中量 |
| 13 | 黒 | 褐色 | 白色粘土・褐色粘土・黄色粘土中ブロック中量 |
| 14 | 黒 | 褐色 | 白色粘土・褐色粘土・黄色粘土小ブロック中量 |
| 15 | 黒 | 褐色 | 褐色粘土小ブロック多量 |
| 16 | 黒 | 褐色 | 白色粘土・褐色粘土大ブロック多量 |
| 17 | 黒 | 褐色 | 褐色粘土小ブロック少量 |
| 18 | 黒 | 褐色 | 白色粘土・褐色粘土・黄色粘土小ブロック多量 |
| 19 | 黒 | 褐色 | 褐色粘土・黄色粘土小ブロック中量 |
| 20 | 黒 | 褐色 | 褐色粘土大ブロック少量 |
| 21 | 黒 | 褐色 | ローム小・中・大ブロック多量、白色粘土・褐色粘土小ブロック少量 |
| 22 | 黒 | 褐色 | 白色粘土・褐色粘土大ブロック多量、ローム中ブロック・黒色上粒中量 |
| 23 | 黒 | 褐色 | 白色粘土・褐色粘土・黄色粘土中ブロック多量、スコリア少量 |
| 24 | 黒 | 褐色 | ローム中ブロック中量、褐色粘土小ブロック少量 |
| 25 | 黒 | 褐色 | 白色粘土・黄色粘土小ブロック少量 |
| 26 | 黒 | 褐色 | 白色粘土・褐色粘土大ブロック多量 |
| 27 | 黒 | 褐色 | ローム中ブロック少量、スコリア少量 |
| 28 | 黒 | 褐色 | 黄土粘土 |
| 29 | 黒 | 褐色 | 白色粘土・褐色粘土・黄色粘土小ブロック多量、スコリア少量 |
| 30 | 黒 | 褐色 | ローム小ブロック・スコリア少量 |
| 31 | 黒 | 褐色 | ローム中ブロック・スコリア少量 |
| 32 | 黒 | 褐色 | 褐色粘土小ブロック多量、スコリア少量 |
| 33 | 黒 | 褐色 | ローム小ブロック中量 |
| 34 | 黒 | 褐色 | ローム小ブロック・白色粘土中ブロック・褐色粘土中ブロック・白色粘土粒子・スコリア少量 |
| 35 | 黒 | 褐色 | 白色粘土・褐色粘土・黄色粘土中ブロック多量 |
| 36 | 黒 | 褐色 | 白色粘土・褐色粘土中ブロック中量 |
| 37 | 黒 | 褐色 | 白色粘土・褐色粘土・黄色粘土大ブロック多量 |
| 38 | 黒 | 褐色 | 白色粘土粒子中量、ローム中ブロック・スコリア少量 |
| 39 | 黒 | 褐色 | ローム中ブロック多量、白色粘土砂粒少量 |

遺物 覆土中から土師器片186点、須恵器片1点、土製品（管状土師）1点が出土している。土器は細片で、割れ目の部分や表面が摩耗している。第583図1は高坏の脚部片で覆土中から、2は須恵器の坏片で1i 坑覆土中から出土している。これらの土器片は投棄されたものと思われる。

所見 ここには掲載していないが、木跡からは古墳時代中期の下方が彫らむ柱状の土師器高坏片も多数出土していることから、遅くともこのころには採掘され始めたと思われる。1i 坑から出土した須恵器坏片は、奈良・平安時代のものであると思われるので、この頃にも採掘された可能性もある。

第3号粘土探掘坑跡（第584図）

位置 調査区の南西部，H2c区。

長軸方向 N-46°-E

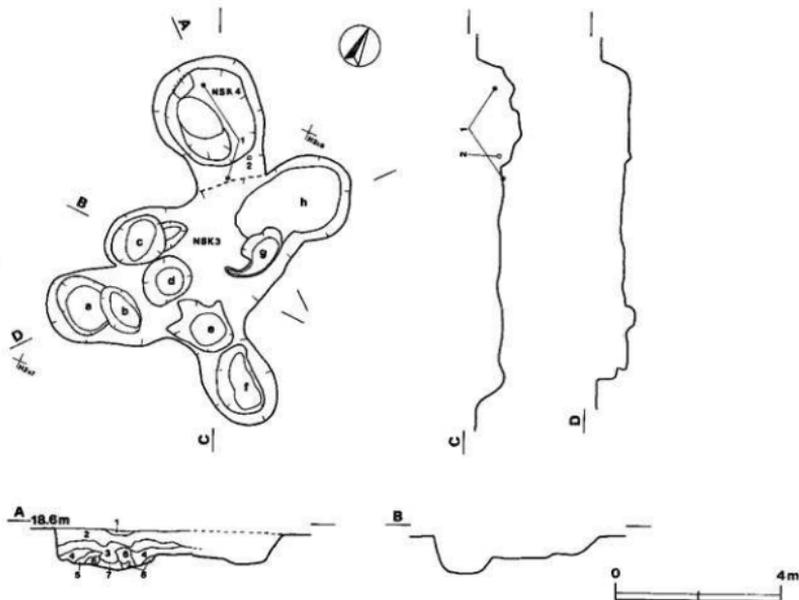
重複関係 本跡北西部で第4号粘土探掘坑跡と重複。新旧関係は不明である。

規模と形状 平面形は長軸8.12m，短軸5.80mの不定形で，本跡底面に8か所（3a～3h）の掘り込みが存在する。深さは66～104cmである。底面は平坦な所とさらに掘り込まれて窪んだ所が存在するので，凹凸である。3a坑は確認面から約38cm下で白色粘土層の上面が認められ，その粘土層を40～50cmの厚さで探掘している。壁は外傾して立ち上がる。

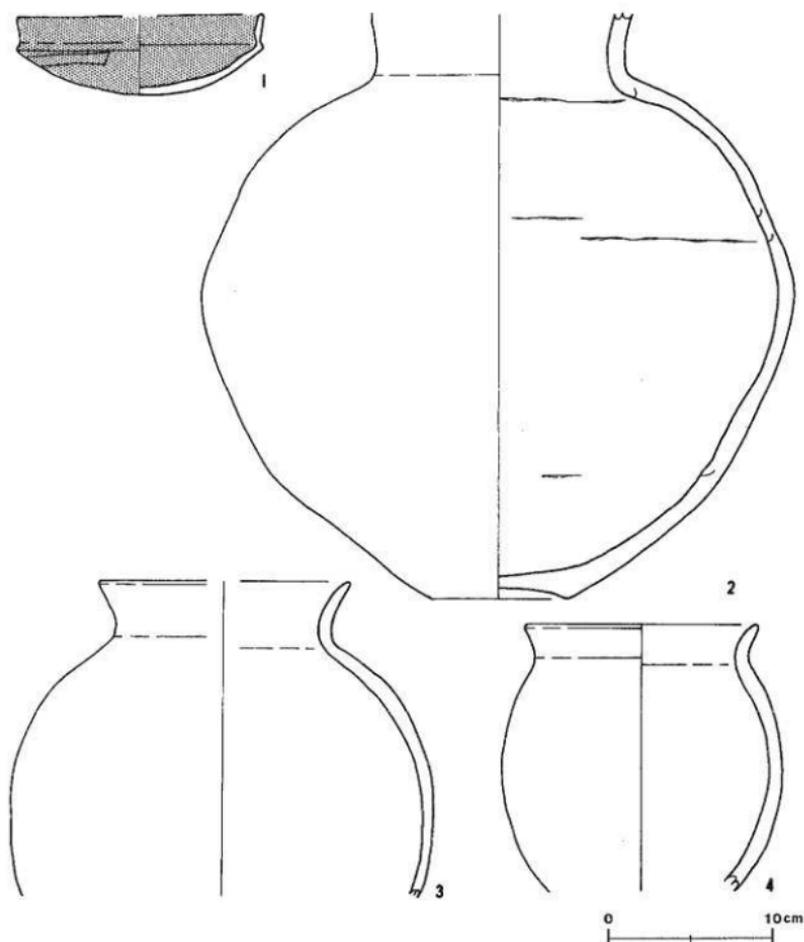
覆土 ローム粘土・白色粘土・黄色粘土の各ブロックを多量含んでおり，人為堆積と思われる。

遺物 覆土中から土師器片612点，須恵器片1点が出土している。第585図1の土師器の坏，3・4の土師器の甕は3g及び3h坑の覆土中から，2の土師器の甕は接合資料で3a～3h坑の覆土中から散らばった状態で出土している。

所見 出土遺物は古墳時代後期（6世紀代）のものが多いので，本跡は同時期かそれ以前に探掘が始められたものと思われる。また，土師器の破片の量及び出土状況から粘土探掘後，それらが本跡内に投棄されたと考えられる。



第584図 第3・4号粘土探掘坑跡実測図



第585図 第3号粘土探掘坑跡出土遺物実測図

第3号粘土探掘坑跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第585図 1	坏 土師器	A [14.7] B 4.8	丸底。体部は内摩して立ち上がり、口縁部との境に稜を持つ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へウ削り、内面ナデ。	長石・雲母 鈍い橙色 普通	P2029 30%PL111 3g～5g成層土中 内・外面黒色処理
2	壺 土師器	B (35.9) C 8.5	底部から口縁部片。底部は平底で、やや突出する。体部は中位に最大径を持ち、肩が張る。頸部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・スコリア・ 小石・燧 鈍い黄褐色 普通	P2030 40% 3g～5g成層土中 内・外面黒 P4.111

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
3	甕 土師器	A [15.0]	体部上半部から口縁部片。体部は 中位に最大径を持つ。口縁部は外 反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・ 外面ナデ。	長石・石英・雲母・ スコリア・小石 鈍い褐色 普通	P2031 15%PL11 3g~3h 炭質土中 内・外面朝離
		B (19.3)				
4	甕 土師器	A 14.0	体部下半部から口縁部片。体部は 中位に最大径を持つ。口縁部は外 反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・ 外面ナデ。	長石・石英・雲母・ スコリア・礫 鈍い黄褐色 普通	P2032 30%PL11 3g~3h 炭質土中 内・外面朝離。体部 の一部熱により赤化
		B (16.3)				

第4号粘土探掘坑跡（第584図）

位置 調査区の南西部，H2c7区。

長径方向 N-40°-W

重複関係 本跡南部で第3号粘土探掘坑跡と重複。新旧関係は不明であるが、遺構の配置状況等からはほぼ同時期に探掘された可能性がある。

規模と形状 平面形は長径3.12m，短径2.60mの不整楕円形で，深さは96~116cmである。底面は凹凸が見られる。壁は外傾して立ち上がる。

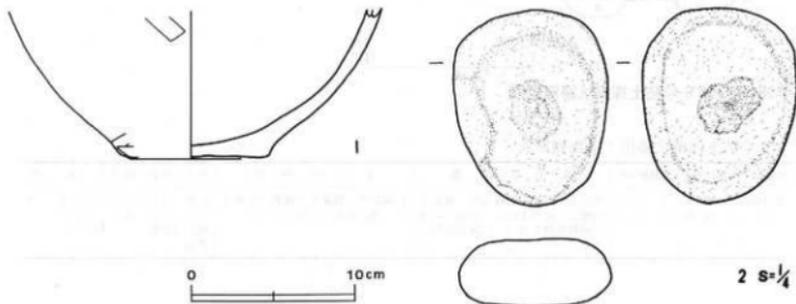
覆土 ローム・白色・黄色粘土ブロックを多量含んでおり，人為堆積と思われる。

土層解説

- 1 鈍い赤褐色 粘土中ブロック多量，焼土中ブロック中量
- 2 黒褐色 焼土粒子・焼土小ブロック少量
- 3 灰褐色 粘土中ブロック・焼土中ブロック中量
- 4 暗赤褐色 ローム中ブロック・粘土大ブロック中量
- 5 黒褐色 焼土粒子少量
- 6 褐色 粘土塊
- 7 暗赤褐色 粘土中ブロック・炭化物少量
- 8 鈍い黄褐色 黄色粘土塊

遺物 土師器片が61点が出土している。第586図1は本跡北側の覆土中層から出土した土師器甕の底部片である。2は砂岩製の凹石である。

所見 2の甕は底部がやや突き出ているので古墳時代中期後半の可能性はあるが，共存する遺物は古墳時代後期（6世紀代）のものが多く見られるので，本跡は同時期かそれ以前に探掘されたものと思われる。また，土師の破片の量及び出土状況から粘土探掘後，それらが本跡内に投棄されたものと考えられる。



第586図 第4号粘土探掘坑跡出土遺物実測図

第4号粘土採掘坑跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第586図 1	土師器 十師器	B (9.2) C 7.9	底部から体部下平部片。底部は平底で、やや突出する。体部は内彎しながら緩やかに立ち上がる。	内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。	長石・石英・雲母・スコリア 鈍い褐色 普通	P2033 30% 覆土中層 内・外面剥離し、一部に厚片の薄片

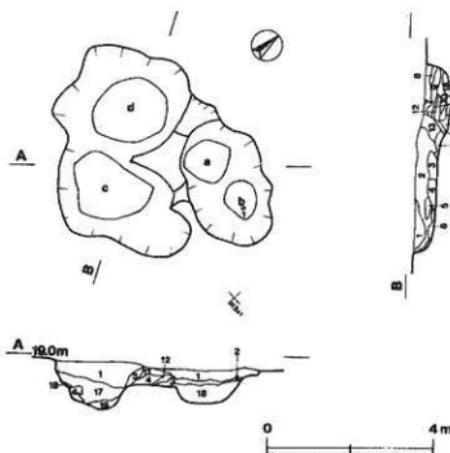
図版番号	種別	計測値					石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第586図1	凹石	15.6	12.4	3.3	—	1530.4	砂 岩	覆土中層	Q2005 砂岩

第6号粘土採掘坑跡 (第587図)

位置 調査区の南西部, G2j区。

長軸方向 N-88°-W

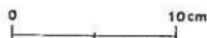
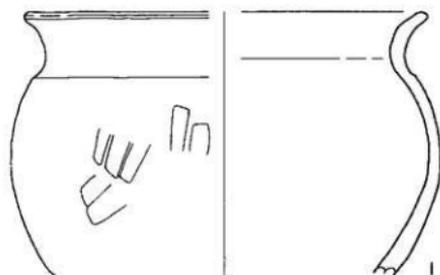
規模と形状 平面形は長軸6.28m, 短軸4.08mの不定形で, 本跡底面に4か所(6a~6d)の掘り込みが存在する。深さは68~136cmを測り, 底面は凹凸が見られる。壁は外傾して立ち上がる。



第587図 第6号粘土採掘坑跡実測図

第6号粘土採掘坑跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第588図 1	土師器 土師器	A [24.2] B (16.1)	体部下平部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり, 頸部との境に明瞭な稜を持つ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面及び体部内面横ナデ。体部外面へラ削り及びナデ。	石英・長石・スコリア・小石・塵 鈍い黄褐色 普通	P2035 30% 覆土中 FL111



第588図 第6号粘土探掘坑跡出土遺物実測図

覆土 ローム・白色粘土及び黄色粘土のブロックを多量含んでいるので、人為堆積と思われる。

土層解説

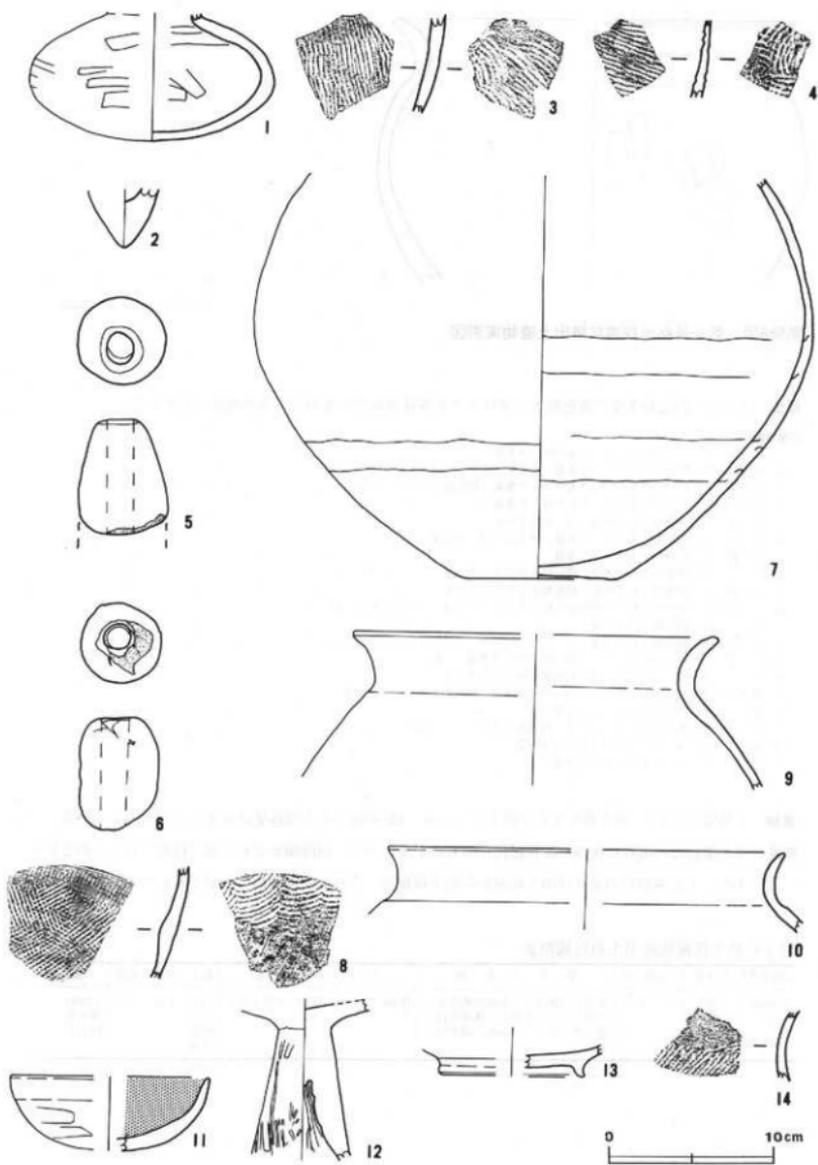
- 1 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック多量
- 2 黒褐色 褐色粘土中ブロック多量、白色粘土小・大ブロック中量
- 3 黒褐色 ローム粒子・ローム大ブロック多量、褐色粘土中ブロック少量
- 4 ほぼ黄褐色 ローム粒子・ローム小ブロック多量
- 5 黄褐色 褐色粘土粒子中量、ローム粒子少量
- 6 黒褐色 褐色粘土大ブロック多量、焼土小ブロック少量
- 7 黒褐色 褐色粘土大ブロック多量
- 8 黒褐色 褐色粘土粒子多量、褐色粘土中ブロック中量
- 9 暗褐色 褐色粘土粒子多量、褐色粘土小ブロック少量
- 10 黒褐色 褐色粘土粒子・褐色粘土粒子小ブロック多量、白色粘土粒子少量
- 11 黒褐色 褐色粘土粒子少量
- 12 黒褐色 褐色粘土粒子多量、ローム中ブロック・白色粘土小ブロック少量
- 13 黒褐色 ローム粒子・ローム小・中ブロック多量
- 14 黒褐色 ローム中ブロック・褐色粘土中ブロック少量
- 15 黄褐色 ローム粒子・ローム小ブロック多量、褐色粘土中ブロック少量
- 16 黒褐色 褐色粘土小ブロック少量
- 17 黒褐色 焼土粒子・ローム粒子・褐色粘土小ブロック少量
- 18 褐色 ローム粒子・褐色粘土粒子少量
- 19 灰白色 灰白色粘土ブロック多量

遺物 土師器片153点、須恵器片1点が出土している。第588図1の上師器蓋は覆土中から出土している。

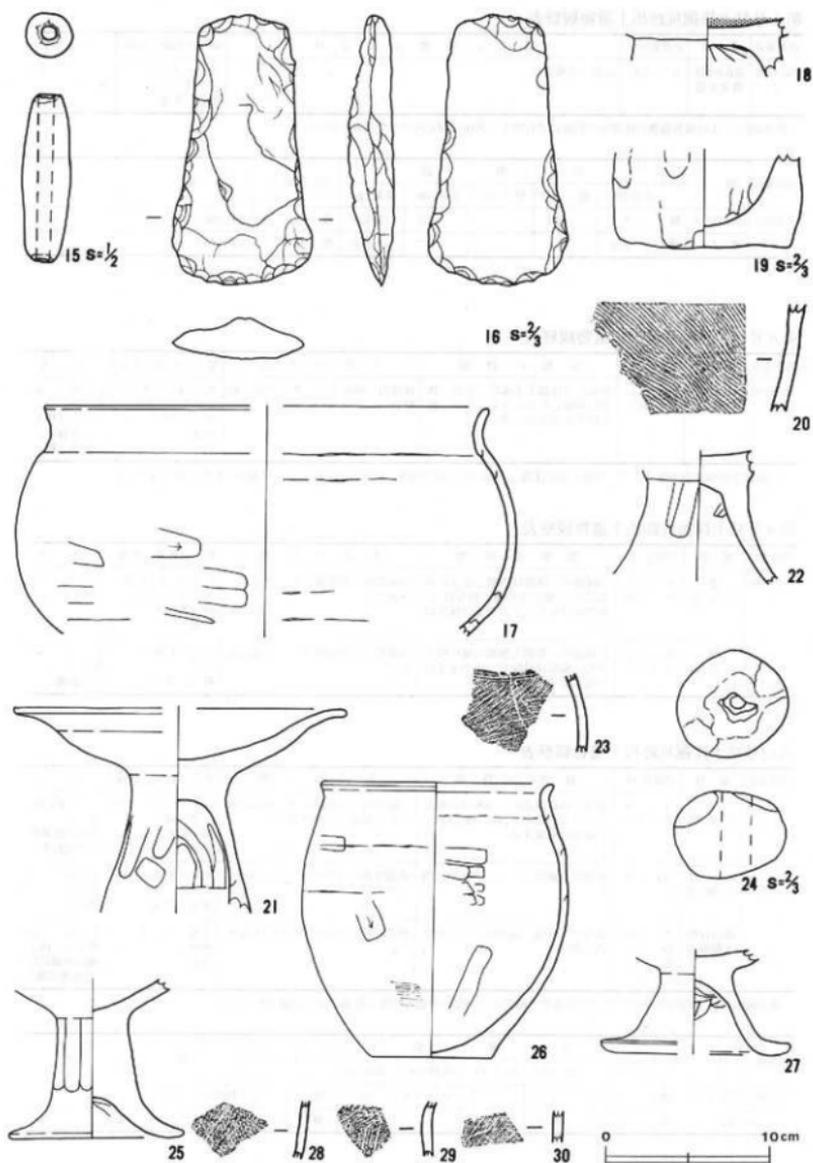
所見 出土遺物は古墳時代後期（6世紀代）のものが多く、同時期かそれ以前に採掘されたものと思われる。また、土器の破片の量及び出土状況から粘土採掘後、それらが本跡内に投棄されたと考えられる。

第5号粘土探掘坑跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第588図 1	埴土師器	B (7.8)	底部から体部片。丸底の底部から内側して立ち上がり、体部中段に縦入径を持つ。つぶれた球形状である。	体部内面ナデ、外面へう削り後ナデ。	長石・石英・スコリア 褐色 普通	P2034 覆土中 PL111



第589图 第5·7·8·9·12号粘土探掘坑出土遗物实测图



第590图 第12·13·20·21·22·24·25号粘土探掘坑跡出土遺物実測圖

第7号粘土採掘坑跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴及び文様	胎土・色調・焼成	備考
第589図 2	深鉢形土器 縄文土器	B (3.6)	底部(実底)片。	長石・スコリア・ パミス 褐色 普通	P2152 5% 覆土中

第589図3・4は須恵器製の体部片で外面に平行印き、内面に同心円の当て具痕が見られる。

図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第589図5	管状土器	(7.1)	5.4	-	1.6	(133.6)	覆土中	DP2008
6	管状土器	6.9	4.9	-	1.7	(142.5)	覆土中	DP2009

第8号粘土採掘坑跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第589図 7	甕 土師器	B (22.2) C 9.1	底部から体部上半部片。平底。体部は内傾しながら立ち上がり、底部は内傾しながら立ち上がり、最大径を体部中央に持つ。	体部内・外面ナデ。体部内面に輪襷痕。	長石・石英・雲母・ スコリア・小石 鈍い黄褐色 普通	P2036 40% 覆土中 底部及び体部下半に灰付着。外面刷毛 PL112

第589図8は須恵器の体部片で、外面上部に沈線、下部に格子状の印き、内面に同心円の当て具痕がそれぞれ施されている。

第9号粘土採掘坑跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第589図 9	甕 土師器	A (22.2) B (9.1)	口縁部片。体部は内傾しながら頸部に至り、頸部との境に線を持つ。頸部は外反し、そのまま口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・石英・雲母・ スコリア・小石 鈍い黄褐色 普通	P2037 5% 覆土中
10	甕 土師器	A (24.0) B (5.0)	口縁部片。体部と頸部の境に線をもち、頸部は外反し、そのまま口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。	長石・石英・スコリア 褐色 普通	P2038 5% 覆土中 外面刷毛

第12号粘土採掘坑跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第589図 11	坏 土師器	A (11.8) B (4.5)	体部から口縁部片。体部は内傾しながら立ち上がり、鋭い稜を持つ。口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ、外面へう割り後ナデ。	長石・雲母・スコリア・礫 鈍い褐色 普通	P2039 30% PL111 覆土中 内面黒色処理、7世紀前半
12	高坏 土師器	B (9.8)	頸部片。頸部は「ハ」の字状に開く。	頸部外面へう割り後ナデ、内面へう割りナデ。	長石・石英・スコリア 褐色 普通	P2040 30% 覆土中 PL111
13	高台付筒 灰陶器	B (2.0) D (2.7) E 0.9	底部分片。平底。高台は「ハ」の字状に開く。	底部分片へう割り、貼り付け高台。	雲母・パミス 褐色 良好	P2041 20% 覆土中 PL111 焼部断面に管状 風孔部が可視的

第589図14はの頸部から胴部にかけての弥生土器片で、胴部に附加条一種(附加2条)が施されている。

図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第2004図5	管状土器	6.8	1.9	-	0.5~0.6	(20.3)	覆土中	DP2010 PL115
16	石 斧	8.3	4.3	1.4	-	51.2	覆土中	Q 2006 安山岩 PL122

第13号粘土探掘坑跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第590図 17	妻 土師器	A [27.0] B (13.9)	体部から11線部片。器内が薄い。最大径を体部中に有し、頸部との境に弱い稜を持つ。頸部は外反し、口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ、外面ヘラナデ。	長石・スコリア・小石・塵 鈍い黄褐色 普通	P2042 20% 覆土中 体部外面の一部 残存否、輪郭み 折 PL111

第20号粘土探掘坑跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第590図 18	高 坏 土師器	B (3.5)	脚部破片。	坏部内面黒色処理。脚部内面横ナデ。	長石・石英・雲母・スコリア 棕色 普通	P2043 15% 覆土中 坏部断面傾り調整 (他反逆転回の可能性)
19	手形土器 土師器	B (3.2) C 3.4	底部から体部片。平底。体部は直立気味に立ち上がる。	体部内・外面指及びヘラナデ。	長石・雲母・スコリア・塵 鈍い棕色 普通	P2044 50% 覆土中

第590図20は須恵器の妻の体部片で、外面に斜行する平行印きが施されている。

第21号粘土探掘坑跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第590図 21	高 坏 土師器	A [20.1] B (12.5) E (8.4)	脚部上半部から坏部片。脚部は「ハ」の字状に開く。坏部は外周して立ち上がり、11線部との境に不明瞭な稜を持つ。11線部は外反する。	坏11線部内・外面横ナデ。坏部内・外面ナデ。脚部内面指及びヘラナデ。	長石・石英・雲母・スコリア・塵・パミス 淡黄褐色 普通	P2045 60% 覆土中 脚部外面及び坏部内・外面刺線 PL112

第22号粘土探掘坑跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第590図 22	高 坏 土師器	B (8.0)	脚部片。脚部はラッパ状に下方に開く。	脚部内面ヘラナデ、外面ヘラ削り。	長石・石英・スコリア 鈍い黄褐色 普通	P2046 20% 覆土中 PL112 内面刺線

第590図22は養生土器で、製部境に平行沈線が横位に走り、その下に附加条一種(附加2条)が施されている。

図版番号	種 別	計 測 値					出土地点	備 考
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第200図21	土 玉	2.7	3.5	-	0.9	20.9	覆 土 中	DP2011

第24号粘土探掘坑跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第390図 25	高 坏 土師器	B (9.6) D 10.6 E 7.6	脚部片。脚部はラッパ状に下方に開く。	脚部内・外面ヘラナデ。	長石・石英・スコリア 灰褐色 普通	P2047 50% 覆土中 PL112
26	小形変 土師器	A 13.9 B 16.8 C 8.4	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎しながら立ち上がり、中位よりやや下に最大径を持ち、口縁部との境に弱い稜を持つ。11線部は外反する。	11線部内・外面横ナデ。体部内面ヘラナデ、外面ハケ目並形後ヘラナデ。	長石・石英・雲母・スコリア 鈍い棕色 普通	P2048 95% 覆土中 PL111

第25号粘土採掘坑跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第590図 27	高 土師器	B (6.4) D [11.5] E 5.3	胴部片。胴部は短脚でラッパ状に開く。	胴部内面ナデ、外面ヘラナデ。	長石・石英・スクリヤ・礫・小石 鈍い棕色 普通	P2019 25% 覆土中 PLJ12 胴部外面赤影の 可能性有

第590図28～30は粘土土器片である。28は縄文、29は附加縄文、30は附加条一種（附加2条）がそれぞれ施されている。

第27号粘土採掘坑跡（第591図）

位置 調査区の南西部，G2h₇区。

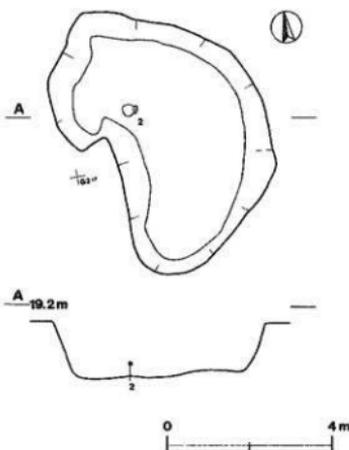
長軸方向 N-10°-W

規模と形状 長軸6.80m，短軸4.48mの不定形で，深さ60～70cm。壁は外傾して立ち上がる。

覆土 ローム・白色粘土・黄色粘土ブロックを多量含んでおり，人為堆積と思われる。

遺物 土師器片313点，須恵器片1点，土製品（紡錘車）1点が出上している。第592図2の土師器の甕は覆土下層から横位の状態出土している。

所見 出土遺物は古墳時代後期（6世紀前半）のものが多く，本跡は，同時期かそれ以前に採掘されたものと思われる。また，遺物は，その量及び出土状況から粘土採掘後に投棄されたものと考えられる。



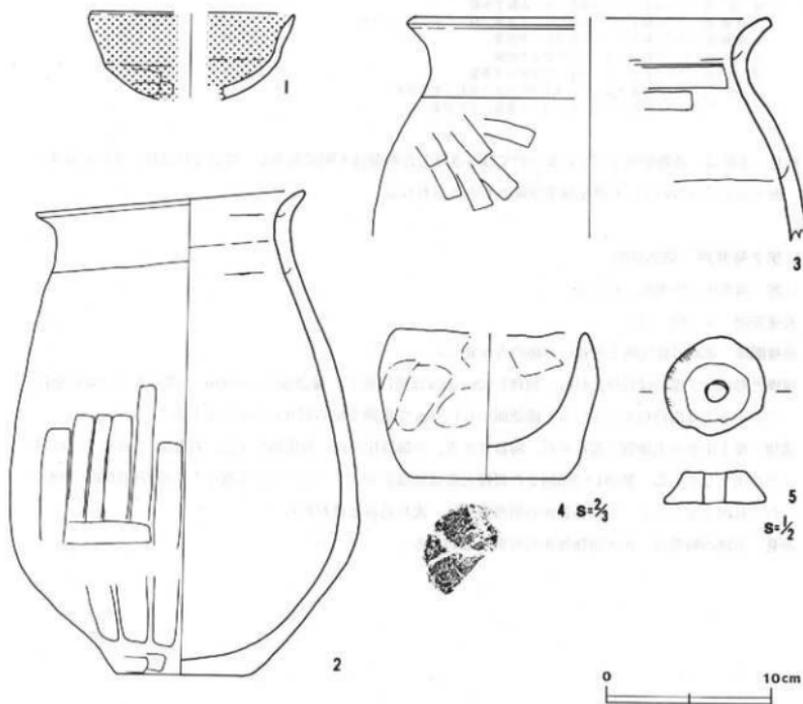
第591図 第27号粘土採掘坑跡実測図

第27号粘土採掘坑跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第302図 1	坏 土師器	A [12.4] B [5.2]	体部下平部からL線部片。体部は内傾しながら立ち上がり，口縁部との境に袂を持つ。L線部は外傾する。	L線部内・外面種ナデ，体部内面ナデ，外面ヘラ攪り。	長石・雲母 棕色 普通	P2050 20% 覆土中 内・外面赤影

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
2	甕 土師器	A 16.2 B 29.6 C 8.0	平底。体部は下位に最大径を有し、 内傾して頸部に至り、境に稜を持つ。 頸部は直立気味に立ち上がり、 口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・ 外面ヘラ削り及びヘラナデ。	長石・スコリア・礫 褐色 普通	P2051 90% 覆土下層 PL111
3	甕 土師器	A [21.5] B (19.5)	体部上半部から口縁部片。体部と 頸部との境に弱い稜を持つ。頸部 は直立気味に立ち上がり、口縁部 は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面 ヘラナデ、外面ヘラ削り後ナデ。	長石・石英・雲母・ スコリア・礫 明褐色 普通	P2052 25% 覆土中 PL111
4	手捏土器 土師器	A [6.9] B 4.5	平底。体部は外傾して立ち上がり、 口縁部は内彎する。	体部内・外面指ナデ。	長石・石英・雲母・ スコリア 明赤褐色 普通	P2053 100% 覆土中 底部に木炭灰 PL112

図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第592図5	紡錘車	(4.0)	4.1	1.3	0.9	(21.9)	覆土中	DP2012 土製



第592図 第27号粘土探掘坑跡出土遺物実測図

7 井戸

当遺跡から6基の井戸を検出した。以下、それぞれの井戸の概要について記載する。

第1号井戸（第593図）

位置 調査区の南西部，G2g, f区。

重複関係 第31号住居跡と重複。本跡の方が新しい。

長径方向 N-12°-E

規模と形状 平面形は長径1.60m，短径1.58mの不整形で，確認面から1.84mの深さまで急傾斜を持つ。

そこから下は円筒形をしている。掘り込み中に水が湧いてきたので，掘り込みを中止した。

覆土 覆土は小石や木片を含む水平堆積であるので，人為堆積と思われる。

土層解説

- 1 磚 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック多量，炭化粒少量
- 2 黒 褐色 ローム粒子・ローム中ブロック中量，ローム小ブロック少量，小石微量
- 3 鈍い黄褐色 ローム粒子・ローム中ブロック多量，褐色粘土小ブロック少量，小石微量
- 4 黒 褐色 ローム小ブロック多量，ローム粒子少量
- 5 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック多量，ローム中ブロック少量
- 6 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量
- 7 黒 褐色 ローム粒子・ローム中ブロック少量
- 8 暗褐色 ローム粒子・ローム小・中ブロック多量
- 9 暗褐色 ローム粒子多量，ローム中ブロック・小石・木片少量
- 10 黒 色 ローム粒子・ローム小ブロック多量，木片少量

所見 本跡は，遺物が出土していないのではっきりした時期は不明であるが，第31号住居跡（6世紀前半）を掘り込んでいるので，6世紀前半以降のものと思われる。

第2号井戸（第593図）

位置 調査区の中央部，F4j, e区。

長径方向 N-65°-E

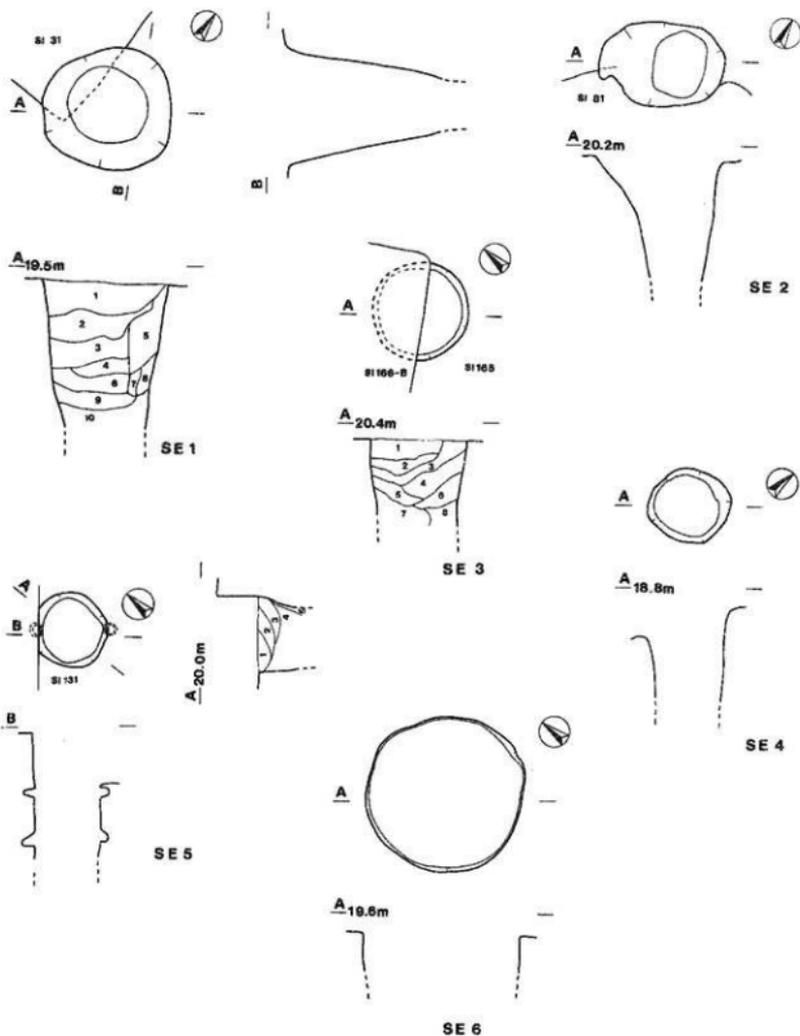
重複関係 第81号住居跡と重複。本跡の方が新しい。

規模と形状 平面形は長径1.44m，短径1.02mのほぼ楕円形で，確認面から0.92mの深さまで急傾斜を持つ。

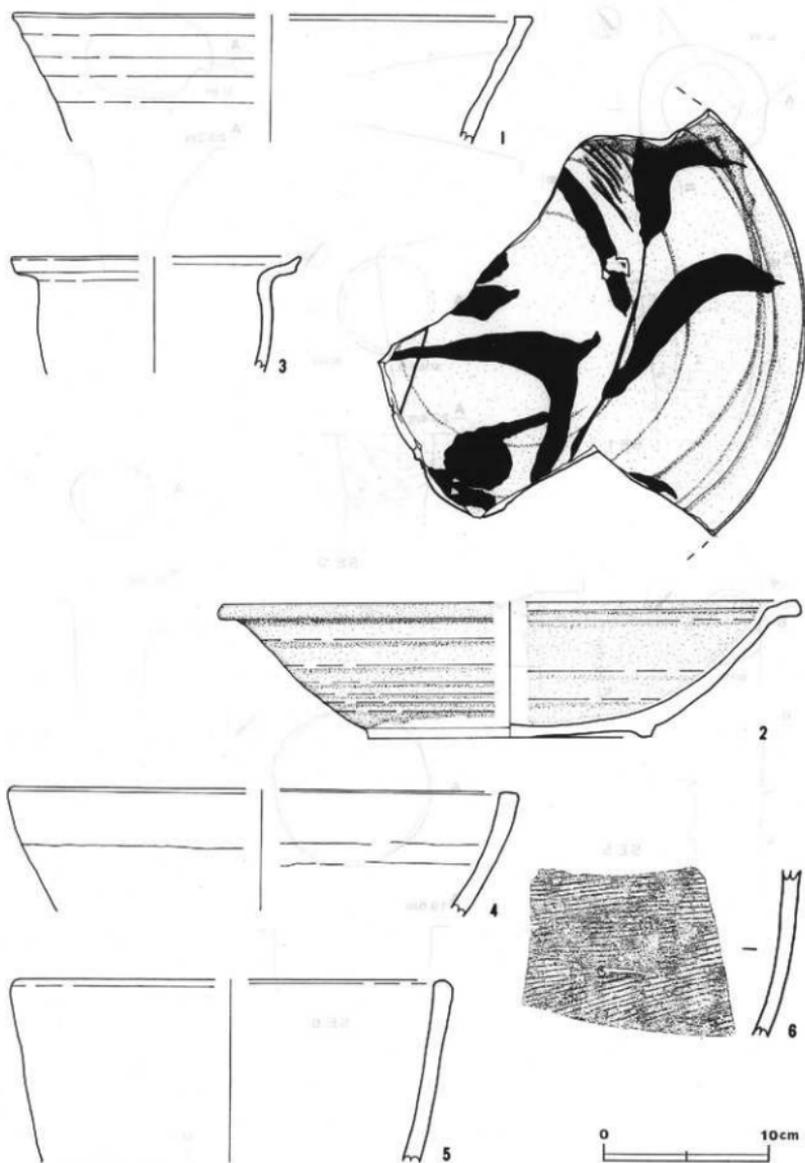
そこから下は円筒形をしている。確認面から1.88mで危険なため掘り込みを中止した。

遺物 覆土中から土師質土器片6点，陶器片2点，土師器片55点，須恵器片1点，石製品（石臼）1点，石12点が出土している。第594・595図2の銅線大皿は底面から，1・3～5の上器片と7の石臼は覆土中からそれぞれ出土している。6の拓影図の須恵器片は，流れ込みと思われる。

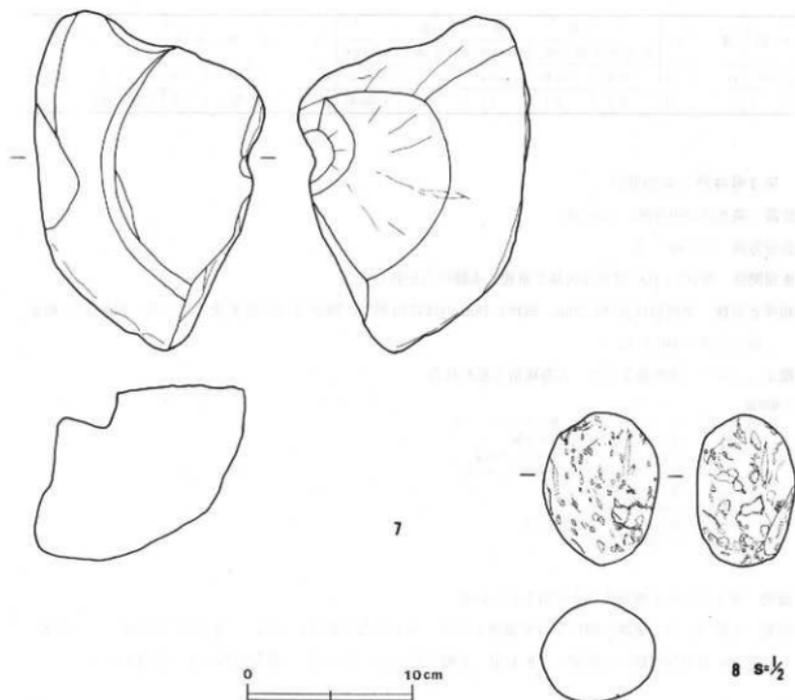
所見 本跡の時期は，出土遺物等から近世と思われる。



第593图 第1·2·3·4·5·6号井尸实测图



第594图 第2号井戸出土遺物実測図(1)



第595図 第2号井戸出土遺物実測図

第2号井戸出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第594図 1	擂鉢 土師質土器	A [31.4] B (7.8)	体部上半部から口縁部片。体部及び口縁部は外傾して立ち上がる。口唇部は内側に突き出る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。	長石・糠・針状鉱物 鈍い赤褐色 良好	P2054 5% 覆土中
2	罌鉢大皿 陶器	A [34.8] B 8.3 C 17.2	底部から口縁部片。底部は平底で、輪高台が付く。体部は外傾して立ち上がり、口縁部は折縁となる。	粘土練巻き上げ成形。体部口クロナデ。底部回転へう削り調整。貼り付け高台。内・外面灰釉。	砂粒・長石 灰白色 普通	P2055 40% 底面 PL112 体部内面黄赤による 差の粘。重合片
3	甕 土師器	A [17.4] B (7.0)	体部上半部から口縁部片。体部と頸部は「く」の字状を呈する。口縁部は上方につまみ上げられる。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・石英・雲母・スコリア 鈍い褐色 普通	P2056 5% 覆土中
4	内耳土鍋 土師質土器	A [30.4] B (7.6)	体部上半部から口縁部片。体部は外傾しながら立ち上がり、口縁部は直立気味に立ち上がる。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。口唇部へうナデ。	長石・石英・雲母 黒褐色 普通	P2057 5% 覆土中 体部外面煤片着
5	内耳土鍋 土師質土器	A [25.8] B (11.2)	体部上半部から口縁部片。体部及び口縁部は外傾しながら立ち上がる。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。	長石・石英・雲母・ 鈍い黄褐色 普通	P2058 10% 覆土中 体部外面刺刺。 体部内面焦片着

第594図6は須恵器製の体部片で、外面に平行明きが施されている。

図版番号	種 別	計 測 値					石 質	出土地点	備 考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)			
第355図7	石 F4	(20.6)	(13.9)	10.7	-	(2543.2)	砂 岩	覆 土 中	Q2007 茶F4 (F4)
8	不 明	6.2	4.7	4.1	-	(38.6)	軽 石	覆 土 中	Q2008 PL121

第3号井戸 (第593図)

位置 調査区の中央部, E5e₁区。

長径方向 N-80°-W

重複関係 第165・166-B号住居跡と重複。本跡の方が新しい。

規模と形状 平面形は長径1.20m, 短径1.18mのはば円形で, 掘り方は円筒形をしている。危険なため途中で掘り込みを中止した。

覆土 ブロック状堆積なので, 人為堆積と思われる。

土層解説

- 1 鈍い赤褐色 粘土中ブロック多量・焼土中ブロック中量
- 2 黒 褐色 焼土灰子・焼土小ブロック少量
- 3 灰 褐色 粘土中ブロック・焼土中ブロック中量
- 4 暗 赤褐色 ローム中ブロック・粘土上ブロック中量
- 5 黒 褐色 焼土灰子少量
- 6 鈍い黄褐色 黄色粘土塊
- 7 暗 赤褐色 粘土中ブロック・炭化物少量
- 8 黒 褐色 粘土塊

遺物 覆土中から土師器片12点が出土している。

所見 本跡は, 出土遺物が細片なので遺物からはっきりした時期は言えない。第165号住居跡 (5世紀末) 及び第166-B号住居跡 (6世紀~7世紀頃) を掘り込んでいるので, 7世紀以降のものと思われる。

第4号井戸 (第593図)

位置 調査区の南西部, H1c₁区。

長径方向 N-32°-E

規模と形状 平面形は長径1.04m, 短径0.92mの楕円形で, 掘り方は円筒形をしている。

所見 本跡は, 遺物が出土していないことから時期は不明である。

第5号井戸 (第593図)

位置 調査区の中央部, E4c₂区。

長径方向 N-20°-E

重複関係 第131号住居跡と重複。

規模と形状 平面形は長軸0.94m, 短軸 [0.90]mを測り, 遺構の一部がエリア外に伸びているが, 概ね円形と思われる。掘り方は円筒形をしている。西北部と南東部側面には, 足掛け穴と思われる歯鐘状の掘り込みが見られる。危険なため途中で掘り込みを中止した。

覆土 覆土中に小石を含むので、人為堆積と思われる。

土層解説

- 1 黒色 ローム粒子少量
- 2 明褐色 ローム粒子・小石多量
- 3 灰褐色 ローム粒子・ローム中ブロック中量、小石少量
- 4 黒色 ローム粒子少量
- 5 暗褐色 ローム粒子・小石少量

遺物 覆土中から土師器片8点、須恵器片2点、陶器片1点、小石1点が出土している。

所見 本跡は、第131号住居跡（6世紀）を掘り込んでいるので、時期は6世紀以降のものと思われる。

第6号井戸（第593区）

位置 調査区の南西部、G2f区。

長径方向 N-0°

重複関係 第30号住居跡内に存在する。

規模と形状 平面形は長径1.94m、短径1.92mの円形で、掘り方は円筒形である。危険なため途中で掘り込みを中止した。

覆土 耕作機械によって攪乱されているので、堆積状況ははっきりしない。

所見 本跡は、遺物が出土していないのはっきりした時期は不明であるが、第30号住居跡（5世紀）を掘り込んでいるので、5世紀以降のものと思われる。

8 土 坑

当遺跡から162基の土坑を検出した。以下、土坑の形状、規模、覆土の状態及び出土遺物等に特徴があるものについて文章で記載し、それ以外の土坑については一覧表に記載する。

第1号土坑（第596区）

位置 調査区の北東部、D6c区。

規模と形状 平面形は長径3.02m、短径2.44mの不整楕円形で、深さは44cmである。底面は皿状で、11か所のビット状の掘り込みが存在する。坑はゆるやかに外傾して立ち上がる。

長径方向 N-20°-W

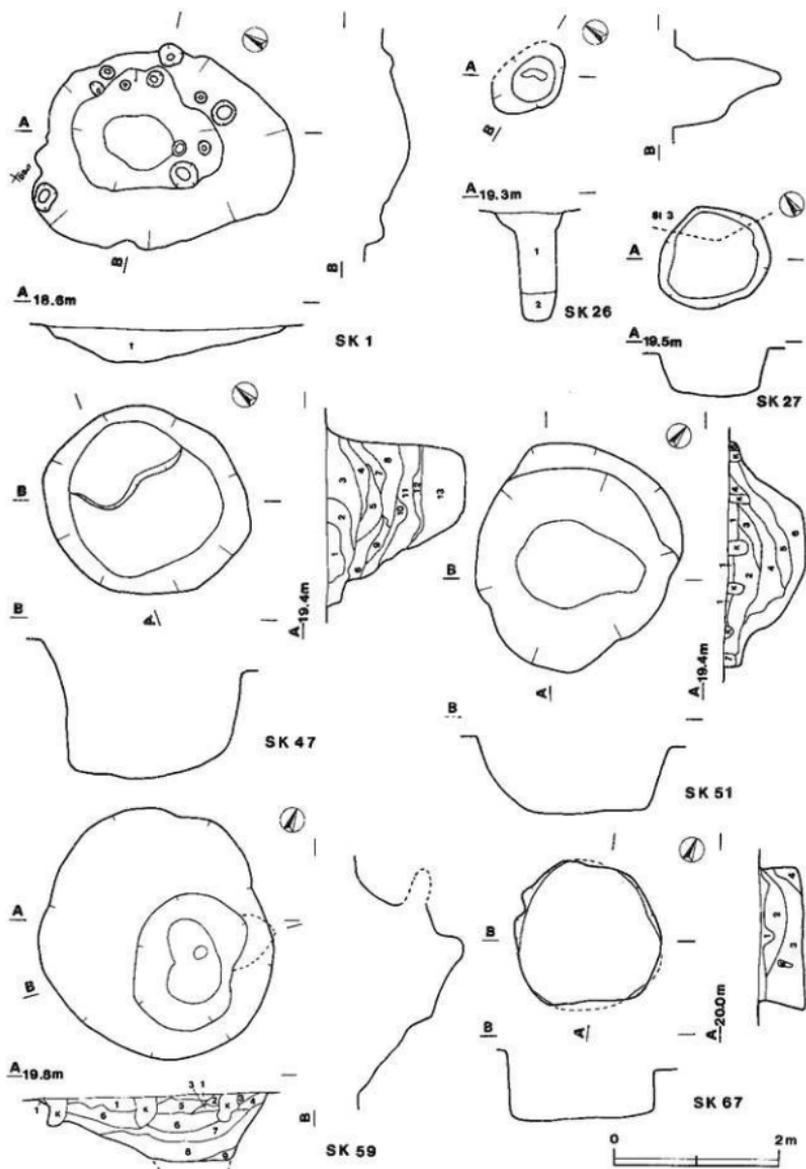
覆土 1層からなり、礫を含んでいるので人為堆積と思われる。

土層解説

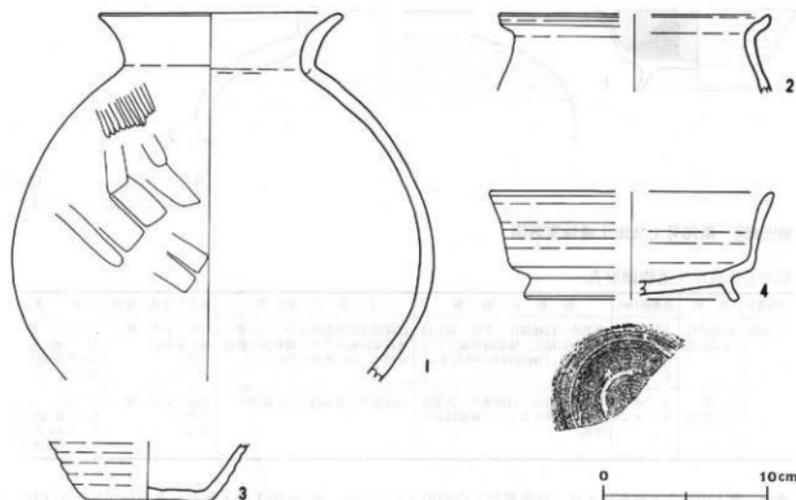
- 1 黒色 ローム粒子・ローム小ブロック・礫微量

遺物 覆土中から土師器片117点、須恵器片24点が出土している。

所見 本跡底面に11か所のビット状の掘り込みが存在するので、粘土採掘坑の可能性がある。本跡の時期は、出土遺物等から奈良・平安時代（8世紀後半～9世紀前半）と思われる。



第596图 第1·26·27·47·51·59·67号土坑实测图



第597図 第1号土坑出土遺物実測図

第1号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第597図 1	壺 土器	A 14.7 B (22.4)	体部下半部から口縁部片。最大径を体部中位に持つ。頸部は外傾して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘウナデ。外面上半部へウ削り後へウ磨き。下半部ナデ後磨き。	長石・石英・雲母・スコリア 明赤褐色 普通	P2059 40% 遺構確認面 体部外面下半部 残付着
2	壺 土器	A [16.6] B (4.8)	口縁部片。口縁部上位に横を持ち、頸部は外上方につまみ上げられる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ。	長石・雲母・スコリア 橙色 普通	P2060 20% 覆土中層 PL112
3	坏 須恵器	B (3.6) C 7.6	底部から体部片。平底。体部は直線的に立ち上がる。	体部ロクロナデ。底部ナデ整形。	長石・石英・礫 鈍い赤褐色 普通	P2061 20% 覆土中層 還元焼成 PL112
4	高台付坏 須恵器	A [15.2] B 8.1 D [12.6] E 1.4	底部から口縁部片。平底。輪高台は「フ」の字状に開く。体部は外傾して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部・体部ロクロナデ。底部別転へウ削り調整後高台取り付け。	長石・スコリア・針状炭物・小石 内：黄灰色 外：灰色 普通	P2062 20% PL112 遺構確認面 体部外面自然焼 底部へウ記号

第26号土坑 (第596図)

位置 調査区の北東部、C7a1区。

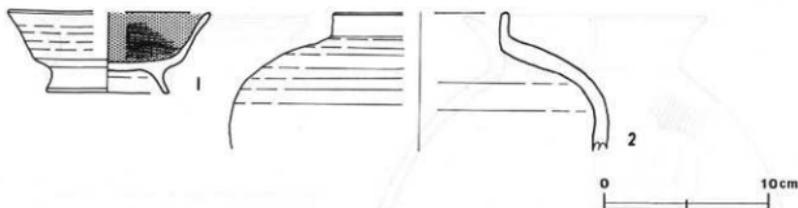
規模と形状 平面形は長径0.52m、短径0.34mの楕円形で、深さは66cmである。底面は平坦で、壁は直立気味に立ち上がり、断面形がピット状を呈する。

長径方向 N-85°-E

覆土 2層からなり、ロームブロックを含むので人為堆積と思われる。

土層解説

- 1 鈍い黄褐色 ローム粒子・ローム小・中ブロック多量、ローム大ブロック少量
- 2 暗色 ローム粒子・ローム小・中・大ブロック多量



第598図 第26号土坑出土遺物実測図

第26号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第598図 1	高台付杯 土師器	A [12.0] B 4.9 D 7.4 E 1.5	底部から口縁部片。平底。高台は外下方向に開く。体部は外傾して立ち上がり、口縁部はやや外反する。	口縁部及び体部外面口クロナデ。底周部回転ヘラナデ調整後高台貼り付け。体部内面ヘラ磨き。	長石・石英・礫 鈍い赤褐色 普通	P2063 40% 覆土上層 内面黒色処理 PL112
2	壺 須恵器	A [10.6] B (8.3)	体部上半部から口縁部片。体部上位に最大径を有し、口縁部は直立する。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。	長石・石英・礫 灰黄色 普通	P2064 10% 覆土上層 PL112 体部外面及び口縁部内・外面自然釉

遺物 覆土中から土師器片6点、須恵器片3点が出土している。第598図1の土師器の高台付杯は覆土上層から逆位で出土している。

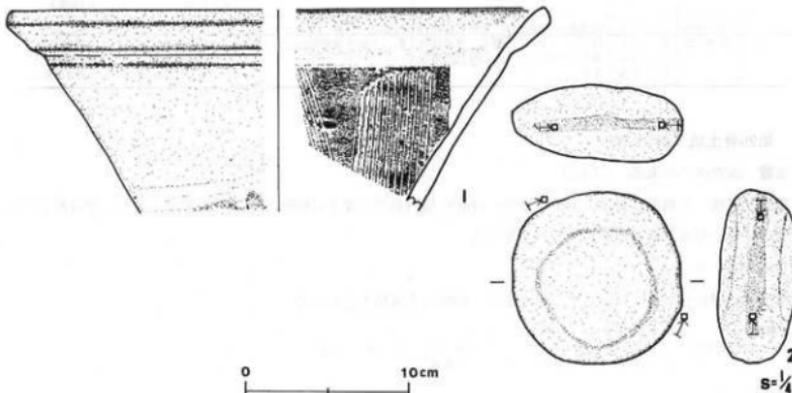
所見 本跡は、出土遺物等から平安時代（9世紀後葉～10世紀前葉）と思われる。

第27号土坑（第596図）

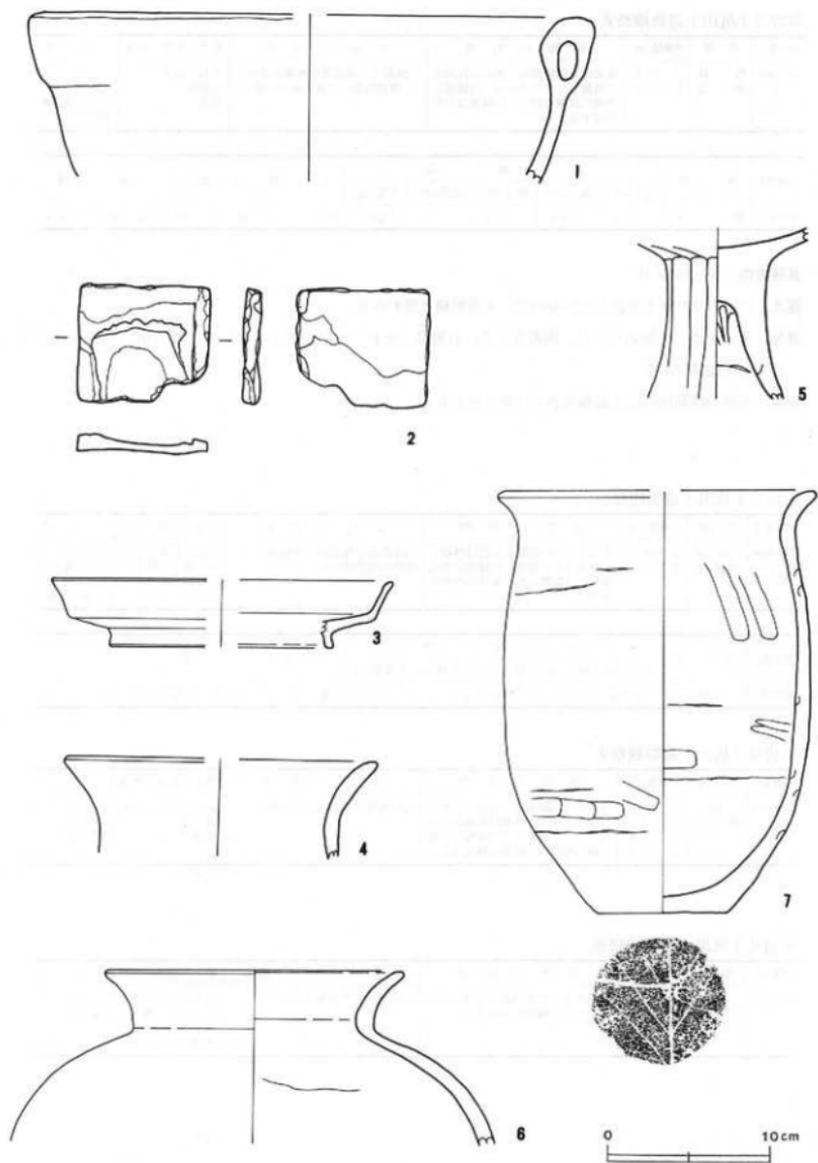
位置 調査区の北東部、C7d区。

重複関係 第3号住居跡と重複。本跡の方が新しい。

規模と形状 平面形は長径1.34m、短径1.24mのはほぼ円形で、深さは58cmである。底面はほぼ平坦で、壁は外傾して立ち上がる。



第599図 第27号土坑出土遺物実測図



第600图 第28·42·44·46·51号土坑出土遗物实测图

第27号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第599図 1	埴 器	A [132.2] B (12.3)	体部から口縁部片。体部は直線的に外傾して立ち上がり、口縁部との境に沈線を持つ。口縁部はやや外反する。	口縁部内・外面及び体部外面横ナデ。体部内面に12本1単位の溝目。	長石・石英・ 緑褐色 普通	P2065 10% 覆土中 内・外側面 PL112

図版番号	種別	計測値					石質	出土地点	備考	
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)				
第599図2	甕	石	13.9	13.6	6.2	-	1556.7	砂	岩屋土中	Q208 全部埋没者。母石にも使用

長径方向 N-51°-W

覆土 ロームブロックを含んでいるので、人為堆積と思われる。

遺物 覆土中から土師器片1点、陶器片2点、石製品(磨石)1点が出土している。第599図1は覆土中から出土した埴鉢である。

所見 本跡の時期は、出土遺物等から中世と思われる。

第28号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第600図 1	内耳土師 土師器上層	A [34.6] B (16.2)	体部から口縁部片。体部は外傾しながら立ち上がり、口縁部は外反気味に外に膨らむ。耳は内傾後外反する。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。体部外面指面凹版。	長石・石英・雲母 内：黄い褐色。 外：黄い緑色 普通	P2066 10% 覆土下層 PL113 第28号土坑出土 の破片と報告

図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第600図2	甕	(4.8)	5.3	(0.8)	-	(22.0)	覆土中	Q210 粘板岩 PL

第42号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第601図 3	埴 器	A [20.6] B 4.1 D [13.6] E 1.0	底部から口縁部片。高台は「ハ」の字状に開く。体部は直線的に外傾して立ち上がり、口縁部との境に沈線を持つ。口縁部は外反する。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。	長石・雲母・小石 黄灰色 普通	P2067 10% 覆土中 PL113

第44号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第601図 4	甕 土師器	A [18.4] B (5.9)	口縁部片。頸部は直立気味に立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・雲母・ スウォリア・礫 棕色 普通	P2068 5% 覆土中

第46号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第600図5	高坏十部器	B (10.5)	脚部は下方が広く1ハの字状を呈する。	胴部内面ヘラナデ、外面縦位ヘラ削り。	長石・石英・雲母・スコリア・産 棕色 普通	P2059 15% 覆土中 胴部外面赤彩
6	壺上部器	A 17.8 B (10.4)	体部上半部から口縁部片。体部は内傾しながら立ち上がる。口縁部は外反する。	口縁部及び体部内面横ナデ。	長石・石英・スコリア・産・小石 鈍い黄褐色 普通	P2070 15% 覆土中 外面刷漉 PL112

第51号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第600図7	壺上部器	A [18.8] B 25.7 C 7.8	底部から口縁部片。平底。体部は外傾して立ち上がり、最大径を下方に持つ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラナデ、外面ヘラ削り後ヘラナデ。	長石・石英・スコリア・産 鈍い棕色 普通	P2078 60% 覆土中層 PL113 底部に木炭灰。内面に輪指み痕を残す。

図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第600図8	管状土師	(3.3)	1.7	-	0.4	(8.1)	覆土中	DP2015

第52号土坑出土遺物観察表

図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第600図9	管状土師	(5.1)	1.5	-	0.6	(8.0)	覆土中	DP2016

第57号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第601図10	坏十部器	A [15.0] B (2.7)	体部から口縁部片。体部は内傾して立ち上がり、底部上の境に縁を持つ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ナデ。	長石・石英・玄母 鈍い黄褐色 普通	P2079 10% 覆土中 PL112

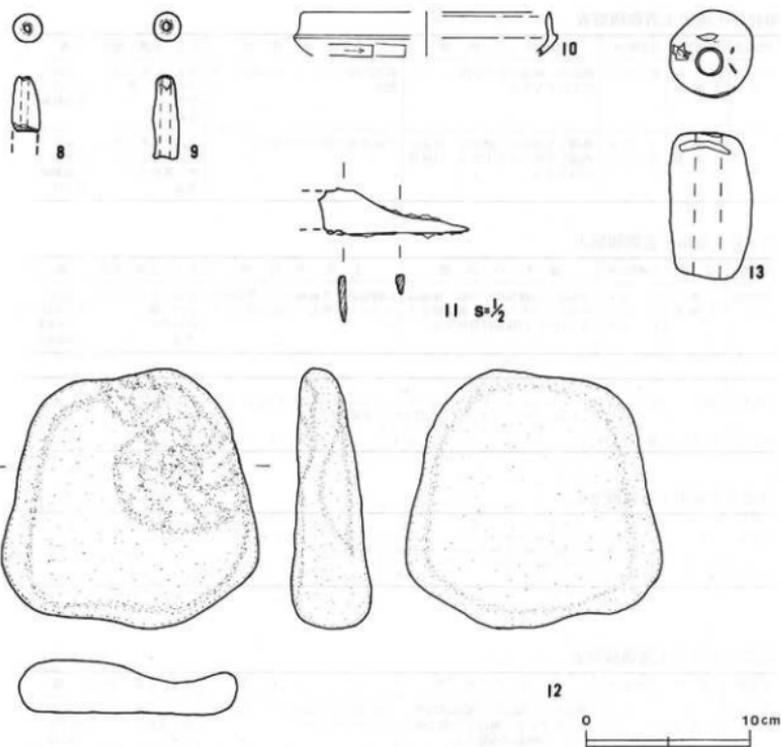
図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第601図11	刀子	(6.0)	1.8	0.3	-	(4.9)	覆土中	M2011 鉄

第86号土坑出土遺物観察表

図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第601図12	四石	15.7	15.6	4.9	-	1329.2	覆土中	Q2011 砂岩

第137号土坑出土遺物観察表

図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第601図13	管状土師	9.0	5.0	-	1.5-1.7	219.8	覆土下層	DP2021 PL116



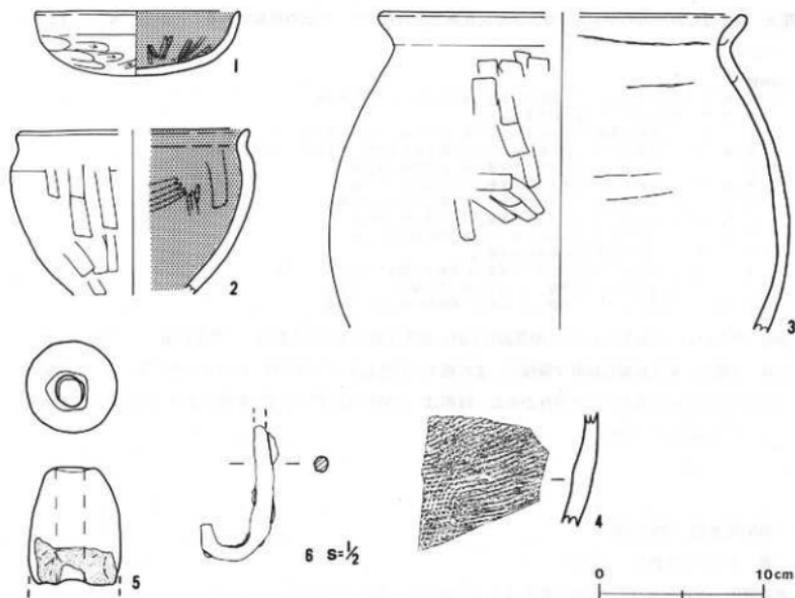
第601図 第51・52・57・86・137号土坑出土遺物実測図

第47号土坑 (第596図)

位置 調査区の南西部, G2f₁区。

規模と形状 平面形は長径2.56m, 短径2.24mの楕円形で, 深さは166cmである。底面は凸凹で, 壁は直立気味に立ち上がる。

長径方向 N-23°-W



第602図 第47号土坑出土遺物実測図

第47号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第602図 1	坏 土器	A 12.4 B 3.9	口縁部の一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立気味に立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面ヘラ磨き。	長石・雲母・小石・スコリア・外：灰褐色、内：黒褐色 普通	P2071 95% 覆土中 内面黒色処理
2	鉢 土器	A [13.8] B (10.5)	体部から口縁部片。体部は内彎しながら立ち上がり、頸部との境に稜を持つ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ナデ、内面横ナデ。	長石・石英・雲母・スコリア 鈍い橙色 普通	P2072 20% 覆土中 内面黒色処理
3	壺 土器	A [21.8] B (19.4)	体部から口縁部片。体部は内彎しながら立ち上がり、頸部に至る。口縁部は「J」の字状に外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ナデ、内面横ナデ。	長石・雲母・スコリア・礫 鈍い黄褐色 普通	P2073 15% 覆土中

第602図4は須恵器の体部片で、外面に平行印き（一部格子状を呈する）が施されている。

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)		
第602図5	管状土鉢	(7.2)	5.6	-	1.8	(186.1)	覆土中 DP2013
6	不明	(5.5)	2.9	0.6	-	(8.1)	覆土中 M2010 鉄、耳金の可能性有

覆土 焼土及びロームの中・大ブロックや炭化物等を含むブロック状の堆積であることから、人為堆積と思われる。

土層解説

- 1 灰褐色 焼土小・中ブロック・炭化粒子多量、焼土人ブロック・炭化物少量
- 2 黒褐色 焼土大ブロック・炭化粒子多量
- 3 黒褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、ローム中ブロック・焼土小ブロック少量
- 4 黒褐色 ローム小ブロック、白色粘土小ブロック・褐色粘土小ブロック多量、ローム粒子少量
- 5 出 土 色 ローム粒子・ローム小ブロック中量、ローム中ブロック少量
- 6 黒褐色 ローム粒子・ローム中ブロック多量、ローム大ブロック中量
- 7 黒褐色 ローム粒子多量、ローム中ブロック・褐色粘土小ブロック少量
- 8 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック多量、ローム中ブロック少量
- 9 黒褐色 ローム粒子多量、ローム中ブロック中量、褐色粘土粒子少量
- 10 褐色 ローム粒子多量、白色粘土少量
- 11 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック多量、白色粘土・褐色粘土大ブロック中量
- 12 褐色 褐色粘土中ブロック多量、ローム大ブロック・炭化パミス中量
- 13 明褐色 白色粘土小ブロック多量、ローム粒子・褐色粘土大ブロック中量

遺物 覆土中から土師器片150点、須恵器片13点、弥生土器片4点、鉄製品、土製品が出土している。

所見 本跡は、粘土採掘坑跡群に隣接し、また覆土に白色粘土及び褐色粘土のブロックを多く含むことから、粘土を採るために掘られた可能性がある。時期は、古墳時代中期から平安時代にかけての遺物が出土していることから特定できない。

第50号土坑 (第618坑)

位置 調査区の南西部、F21区。

重複関係 本跡を第23号住居跡が掘り込んでいるので、本跡の方が古い。

規模と形状 平面形は長径4.15m、短径1.90mの隅丸長方形で、深さは44cmである。底面は平坦で、壁は外側に立ち上がる。

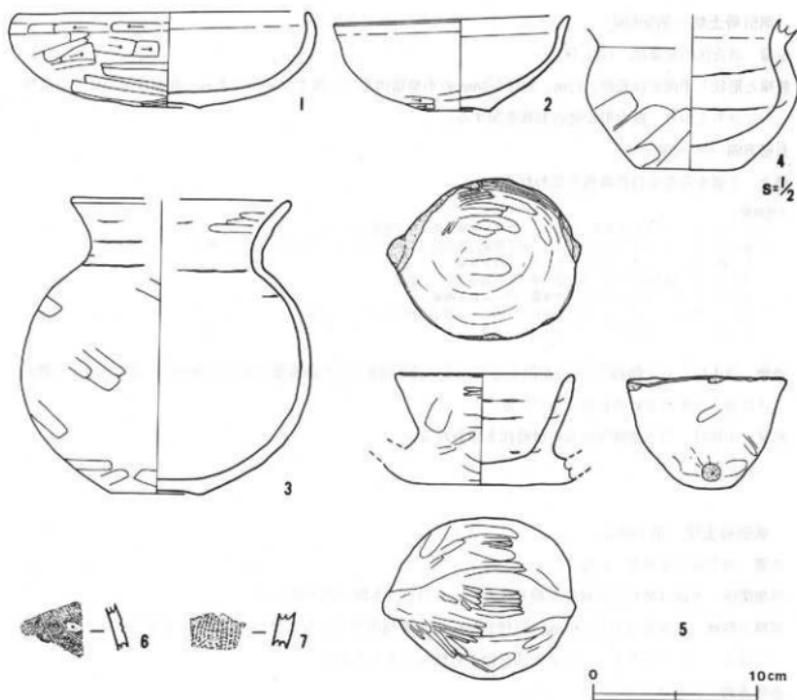
長径方向 N-60°-E

第50号土坑出土遺物観察表

坑版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第603坑 1	坏土師器	A 17.2	平底。体部は内増しながら立ち上がり、口縁部は内傾する。口唇部は突出する。	口縁部内・外面ナデ。体部内面横ナゲ後向き、外面へラ開り後ナデ。	長石・石英・雲母・小石 明褐色 普通	P2074 100% 坑版 DI2016a) Iに表る。 PL112
		B 6.1				
		C 4.0				
2	坏土師器	A 14.2	口縁部・唇欠出。体部は内増しながら立ち上がり、頸部との境に弱い稜を持つ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面横ナゲ、外面へラ開り。	長石・石英・小石・雲母 明褐色 普通	P2075 98% 底面 PL112
		B 5.8				
		C 3.6				
3	土師器	A [13.3]	底部から口縁部片。体部は内増しながら立ち上がり、中に最大径を持つ。頸部は直立気味に立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部外面横ナデ。体部内面へラナゲ、外面へラ開り後へラナデ。	長石・石英・パミス 鈍い赤褐色 普通	P2076 40% 底面 体部外面一部炭 付着及び刷痕
		B 18.0				
		C 5.5				
4	土師器	A (4.6)	底部から口縁部片。平底。体部は内増しながら立ち上がり、最大径を上位に持つ。口縁部は「く」の字状に外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面横ナゲ、外面へラ開り後へラナデ。	長石・石英・スクリ ア 鈍い褐色 普通	P2077 75% 底面
		B (3.2)				
		C 3.2				

坑版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第603坑	土師器	(11.8)	9.8	6.8	-	(271.8) 底	坑P2074、P2074に束った46個で出土。灰色を呈し内外面へラ開き。PL118

第603坑6・7は弥生土器片で、袋倉状の平行円錐。附加線文がそれぞれ施されている。



第603図 第50号土坑出土遺物実測図

覆土 耕作機械による攪乱があるが、各層にローム小・中・大ブロック等が含まれるので人為堆積と思われる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック・焼土粒子中量、ローム中・大ブロック・焼土小ブロック・炭化物・白色粘土少量
- 2 黒色 ローム粒子・ローム小ブロック中量、ローム中ブロック少量、焼土大ブロック・炭化物微量
- 3 褐色 ローム粒子・ローム小・大ブロック多量、ローム中ブロック中量
- 4 黒褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック少量
- 5 黒色 ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、ローム中・大ブロック少量

遺物 覆土中から土師器片62点、土製品1点、須恵器片1点、弥生土器片2点が出土している。第603図1の土師器の坏は底面から正位で、その上に5の舟形土製品が乗った状態で出土している。その他に3の寛・4のミニチュア土器も底面から出土している。6・7の弥生土器片は流れ込みと思われる。

所見 本跡の時期は、出土遺物や遺構の重複関係等から古墳時代中期（5世紀中葉）と思われる。

第51号土坑 (第596図)

位置 調査区の北東部, G2f区。

規模と形状 平面形は長径2.72m, 短径2.38mの不整形円形で、深さは90cmである。底面は平地で、壁は外傾して立ち上がり、断面形が逆台形状を呈する。

長径方向 N-23°-W

覆土 7層からなる自然堆積と思われる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, 焼土粒少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量, 炭化粒子・ローム中ブロック少量, 焼土粒微量
- 3 暗褐色 ローム中・小ブロック, ローム粒少量
- 4 黒褐色 焼土粒子・ローム粒少量, ローム小ブロック微量
- 5 暗褐色 ローム中・小ブロック多量, ローム粒子微量
- 6 黒褐色 ローム大ブロック・小ブロック・ローム粒子・粘土小ブロック少量
- 7 暗褐色 ローム中ブロック・ローム粒子多量

遺物 覆土中から土師器片110点が出土している。第600図7の土師器甕は覆土中層から、第601図8の管状土鉢は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 本跡は、出土遺物等から古墳時代と思われる。

第59号土坑 (第596図)

位置 調査区の南西部, G3g区。

重複関係 本跡は第42号住居跡を掘り込んでいるので、本跡の方が新しい。

規模と形状 平面形は長径3.10m, 短径2.76mの不整形円形で、最も深い所は164cmを測る。底面は凸凹で、

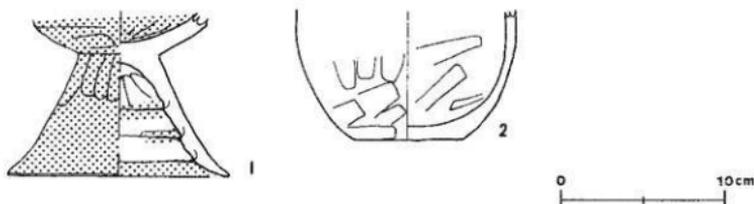
壁はオーバーハングしている北東部を除き外傾して立ち上がる。

長径方向 N-38°-W

覆土 耕作機械による擾乱がある。9層からなり、レンズ状堆積である。

土層解説

- 1 褐色 ローム粒少量
- 2 褐色 ローム小ブロック中量, 焼土粒少量, ローム粒微量
- 3 褐色 ローム粒多量, ローム小ブロック中量
- 4 黄褐色 ローム粒中量, ローム小・中ブロック多量, 炭化粒少量
- 5 黒褐色 ローム粒中量, ローム小ブロック少量
- 6 暗褐色 ローム粒・ローム小ブロック多量, 炭化粒少量, ローム中ブロック微量
- 7 暗褐色 ローム粒中量, ローム中ブロック・焼土粒・褐色粘土小ブロック少量
- 8 褐色 ローム粒多量, ローム小ブロック・焼土粒少量
- 9 褐色 ローム粒中量, ローム小ブロック少量



第604図 第59号土坑出土遺物実測図

第59号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第604図 1	高 土 師 器	B (10.0) D 13.4 E 7.4	胴部から平底部片。胴部は「ハ」の字状に下方に開く。胴部は内増して立ち上がり、横を持つ。	胴部内面ヘラナデ、外面ヘラ削り。胴部は輪積み後内面下半部ナデ、外面ヘラ削り後ヘラナデ。	長石・石英・礫 明赤褐色 普通	P2080 60% 底面 内・外面赤彩 胴部内面赤彩一部残存
2	小 形 土 師 器	B (7.9) C 6.6	底部から体部片。平底。体部は内増しながら立ち上がる。	体部内面ヘラナデ、外面ヘラ削り後ヘラナデ。底部外面ナデ。	長石・石英・スコリア 鈍い褐色 普通	P2081 30% 底面

遺物 覆土中から土師器片45点、陶器片1点が出土している。第604図1の高環は下層から横位で、2の甕は下層から逆位でそれぞれ出土している。

所見 本跡からの出土遺物は、古墳時代後期のものと思われるものである。遺物の出土状況は覆土中層からであるので、これらは重複している第42号住居跡（古墳時代後期）からの流れ込みが考えられる。本跡の時期は、古墳時代後期（6世紀後半）以降と思われる。

第67号土坑（第596図）

位置 調査区の南西部、F3c5区。

重複関係 本跡の上に第63-B号住居跡が構築されている。

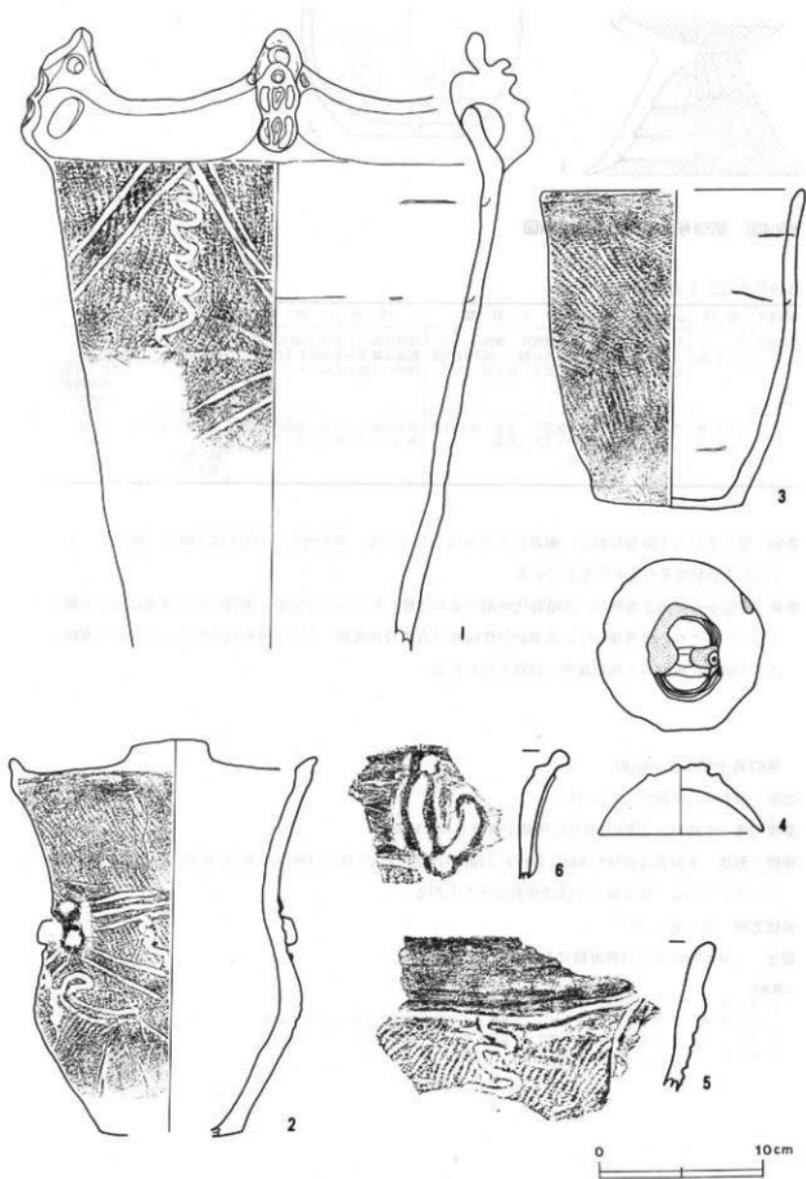
規模と形状 平面形は長径1.84m、短径1.74mのはほぼ円形で、深さは86cmである。底面は平坦で、壁はオーパーハンクしている一部を除くとほぼ垂直に立ち上がる。

長径方向 N-48°-W

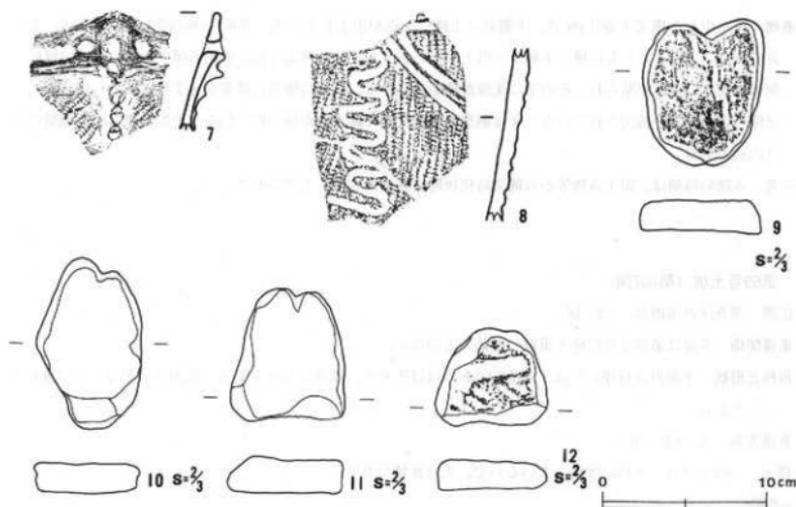
覆土 4層からなり、自然堆積である。

土層解説

- 1 黄褐色 ローム粒子・ローム小・小ブロック多量
- 2 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック多量、ローム中ブロック中量、炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒了・ローム小ブロック多量、ローム中ブロック中量
- 4 明褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック少量



第605图 第67号土坑出土文物实测图(1)



第606図 第67号土坑出土遺物実測図(2)

第67号出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴及び文様	胎土・色調・焼成	備考
第605図 1	深鉢形土器 縄文土器	A [24.0] B (38.0)	胴部下半部から口縁部片。胴部は外傾して立ち上がって口縁部に至り、口縁部は内傾する。口縁部に隆帯・沈線・刺突で構成された8字状把手を有する。胴部は縄文を地文とし、波状の沈線を垂直した直下に8字状の貼り付けが見られる。それを中心に2条の沈線がX字状に施され、沈線間は細い磨消しが見られる。胴部下縁はヘラ状工具でナデられている。	砂粒・長石・スコリア 鈍い黄褐色 普通	P2083 20% 覆土中 接合片 PL112
2	深鉢形土器 縄文土器	A 18.4 B 23.3 C (8.6)	底部一部欠損。口縁部に突起を持つ。胴部は縄文を地文とし、中位に5個の8字状の貼り付けを有し、3条の沈線が周囲する。また貼付文間をV字状の平行沈線で結ぶ。沈線間は縄文が磨消されている。入組文も存在する。下縁は縄文が磨消されている。内面ナデ整形。	長石・石英・礫・小石 明褐色 普通	P2084 80% 底面 胴部下縁部 PL112
3	深鉢形土器 縄文土器	A [15.9] B 19.7 C 9.0	底部から口縁部片。平底。胴部は内傾気味に立ち上がり、口縁部はやや外反する。単筋LJの縄文が斜位に施文されている。体部下縁は縄文が磨消されている。内面はナデ整形されている。	長石・石英・礫・小石 明褐色 普通	P2085 50% 底面 接合片 PL112
4	蓋 縄文土器	A 10.0 B 4.3	口縁部から天井部はドーム状を呈する。天井部に把手を有していたと思われる。8字状の文様が隆帯・沈線・刺突で構成されている。内・外面はナデ整形されている。	長石・雲母・礫 鈍い褐色 普通	P2086 80% 覆土下層 PL112

第605図5・6、第606図7・8は縄文土器片である。

図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第606図9	土器片 鉢	4.4	3.6	1.0	-	(17.5)	覆土中	DP2017
10	土器片 鉢	(5.2)	3.2	0.9	-	(18.2)	覆土中	DP2018
11	土器片 鉢	(3.3)	3.5	1.1	-	(18.8)	覆土中	DP2019
12	土器片 鉢	(3.0)	3.3	1.0	-	(9.2)	覆土中	DP2020

遺物 覆上中から縄文土器片180点、土製品（上鉢）4点が出土している。第605・606図1～3は深鉢、4は蓋である。2～4はともに覆土下層から出土している。5～8は縄文土器片の拓影図である。5は口縁部と胴部変換点に降帯が貼られ、その下に沈線が描かれている。6は口縁部に降帯が丁字状に貼られている。7は降帯に刺突文が施文されている。8は胴部片で縄文土に刺突文が描かれている。上器は縄文時代後期の堀之内式である。

所見 本跡の時期は、出土遺物等から縄文時代後期（堀之内式期）と思われる。

第69号土坑（第607図）

位置 調査区の南西部，F3j区。

重複関係 本跡は第76号住居跡と重複。本跡の方が古い。

規模と形状 平面形は長径1.70m、短径1.60mのほぼ円形で、深さは44cmである。底面は平坦で、壁は垂直に立ち上がる。

長径方向 N-84°-W

覆土 6層がブロック状に堆積しているため、人為堆積である。

土層解説

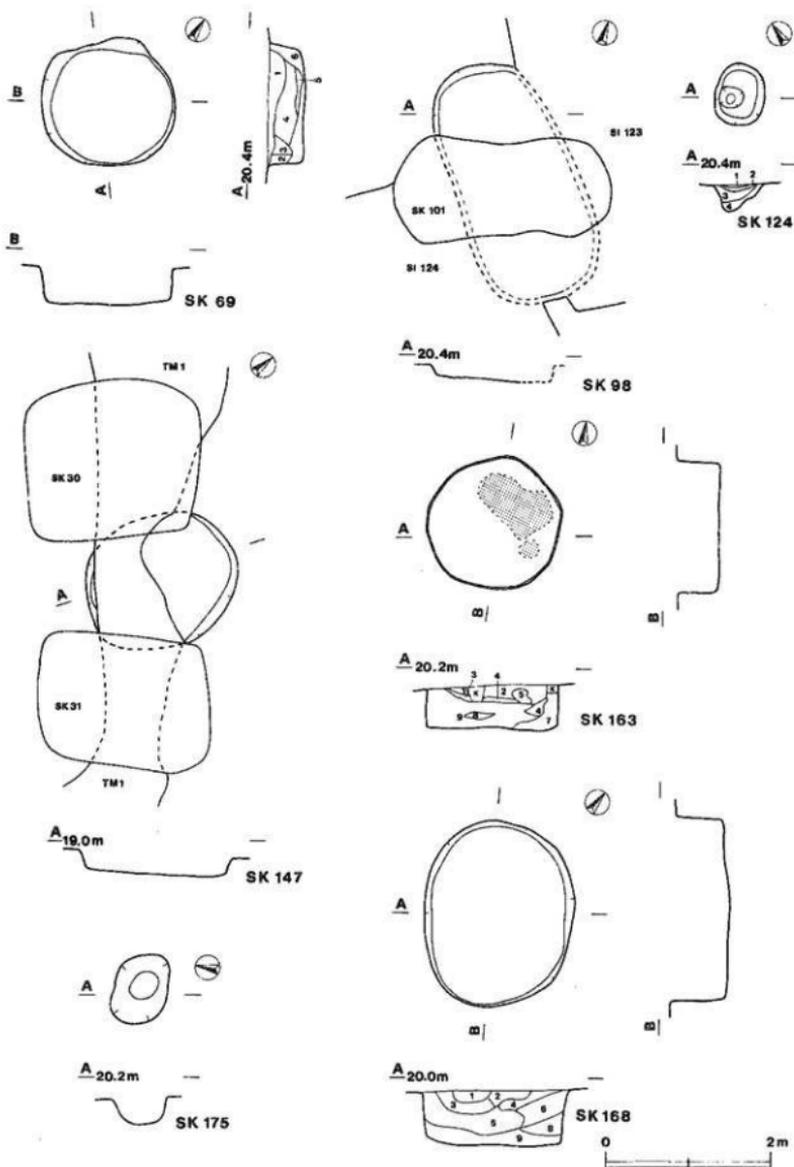
- 1 黒 炭 色 ローム粒子・ローム小ブロック少量、ローム中・大ブロック微粉
- 2 黒 色 ローム粒子・ローム小ブロック中量、ローム大ブロック・炭化粒子少量
- 3 黒 色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム大ブロック微量
- 4 黒 色 ローム粒子少量、ローム中・大ブロック・炭化粒子少量
- 5 黒 色 ローム粒子少量、ローム大ブロック微量
- 6 黒 褐 色 ローム粒子・ローム小ブロック中量、炭化粒子少量、ローム大ブロック微量

遺物 覆土中から縄文土器片5点、土師器片182点が出土している。第608図1～4は土師器の甕である。5は縄文土器深鉢の底部片である。6の拓影図は縄文土器深鉢の胴部片で、外面は黒色を呈し、指等でなでた後に降帯を貼り、その降帯を押圧している。5・6とも底面から出土している。

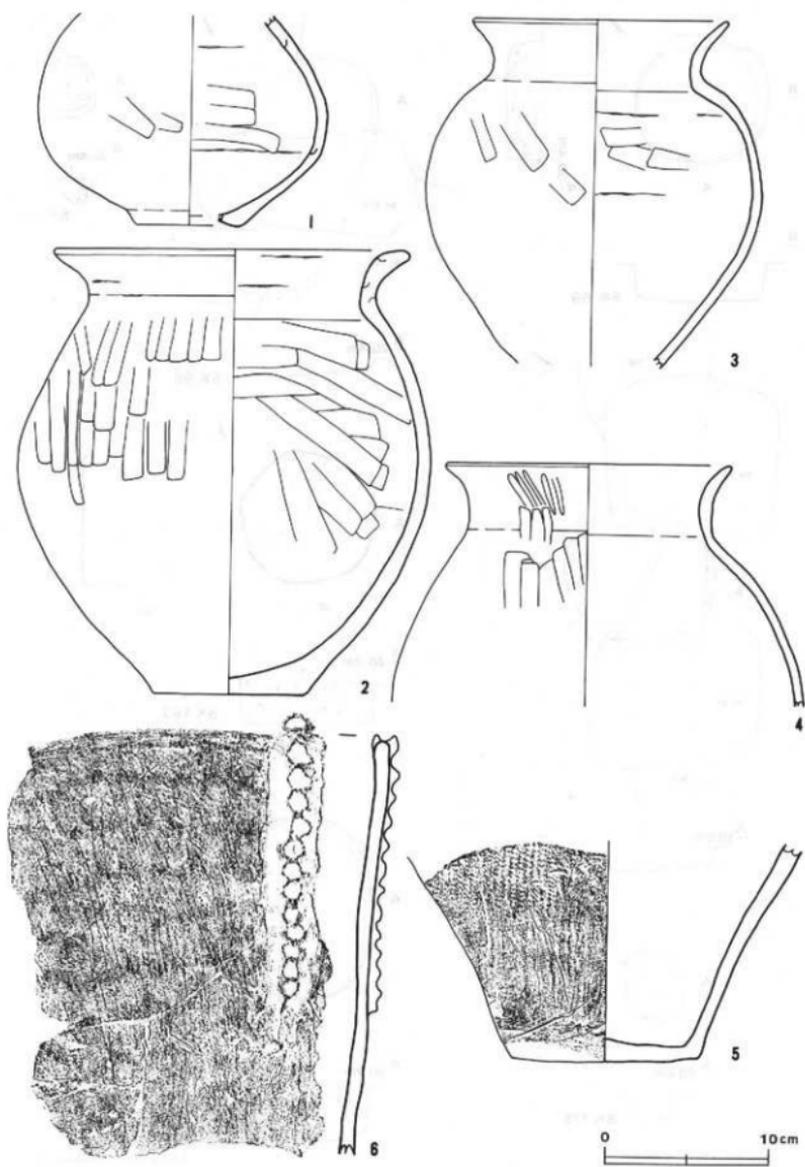
所見 出土した土師器片は重複している第76号住居跡（6世紀前半）からの流れ込みと思われる。本跡の時期は、出土遺物や遺構等から縄文時代後期（堀之内式期）と思われる。

第69号土坑出土遺物観察表

図番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第605図 1	深鉢	B (12.8) C 6.4	底面から体部上半部片。底面は平底で突出する。体部は内傾して立ち上がり、やや口縁部に最大径を持つ。	体部内・外面ナデ後へラ削り。	長石・スコリア 褐色 普通	P2090 40% 覆上中層 PL113 底部穿孔。体部 外面一部残存
2	甕 土師器	A 11.4 B 27.2 C 9.2	底面から口縁部片。平底。体部は内傾しながら立ち上がり、最大径を上位に持つ。胴部は外傾して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面へラナデ、外面ナデ後へラ削り。	長石・石英・スコリア・小石・塵 褐色 普通	P2087 80% 覆上中 PL113 加熱により体部 下半部赤化及び 表面剝離。体部中 位に集存者
3	甕 土師器	A 15.3 B (21.1)	体部下半部から口縁部片。体部は外傾して立ち上がり、最大径を上位に持つ。胴部は外傾して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。胴部内面へラ削り。体部内面へラナデ、外面へラ削り。	長石・石英・雲母・スコリア・パミス・塵・小石 鈍い灰色 普通	P2088 75% 覆上中層 PL113 加熱により体部 下半部赤化及び 表面剝離。体部中 位に集存者
4	甕 土師器	A 17.2 B (14.7)	体部上半部から口縁部片。体部は内傾しながら胴部に至る。胴部はやや外傾して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内面ナデ後磨き、外面横ナデ後磨き。	長石・石英・雲母・塵・小石 鈍い赤褐色 普通	P2089 20% 覆土中 体部外面一部剝 離 PL112



第607图 第69·98·124·147·163·168·175号土坑实测图



第608图 第69号土坑出土文物实测图

図版番号	器種	計測値(cm)	器種の特徴及び文様	胎土・色調・焼成	備考
第608図 5	深鉢形土器 縄文土器	A (13.5) B 11.4	底部から胴部下半部片。早稲LRの縄文が施され、底部付近はヘラ状工具で磨り消されている。	長石・石英・雲母・スコリア・礫 鈍い褐色 普通	P2001 30% 底面 PL114

第98号土坑（第607図）

位置 調査区の南西部，E4e区。

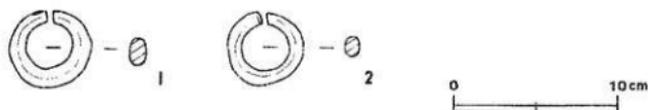
重複関係 本跡は中央部で第101号土坑と十字状に，東側で第123号住居跡と，西側で第124号住居跡とそれぞれ重複している。東側の新旧関係は古い順から第123号住居跡→本跡→第101号土坑である。西側の新旧関係は第124号住居跡→本跡である。

規模と形状 平面形は長径2.94m，短径[1.50]mの隅丸長方形で，深さは28cmである。底面は平坦で，壁は垂直に立ち上がる。

長径方向 N-30°-W

遺物 覆土中から金環2点が出土している。

所見 本跡が第124号住居跡（5世紀）及び第123号住居跡（6世紀前半）を掘り込んでいるので，時期は古墳時代後期（6世紀後半以降）と考えられるが，出土遺物が金環だけであるので詳しい時期は不明である。



第609図 第98号土坑出土遺物実測図

第98号土坑出土遺物観察表

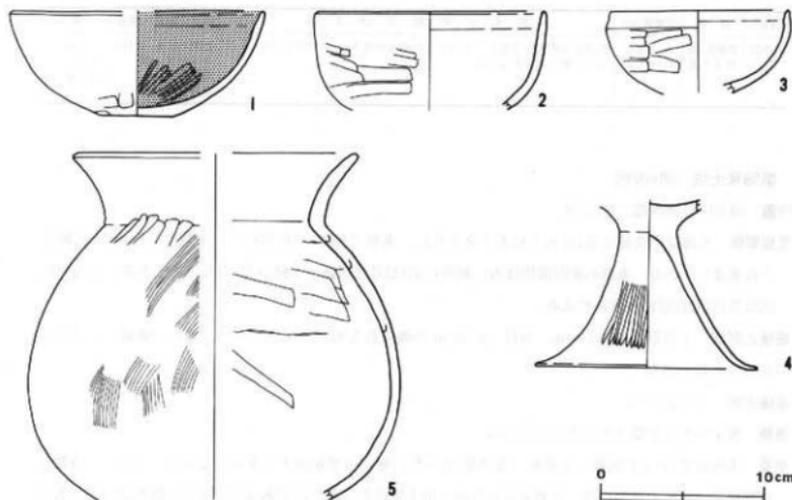
図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第609図1	金環	1.9	1.8	0.7	-	5.2	覆土中	M2012 金銀り PL124
?	金環	1.8	1.7	0.5	-	2.1	覆土中	M2013 外面に緑青 PL124

第124号土坑（第607図）

位置 調査区の中央部，E5g区。

規模と形状 平面形は長径0.76m，短径0.60mの楕円形で，深さは32cmである。底面は皿状で，壁は外傾して立ち上がる。

長径方向 N-46°-E



第610図 第124号土坑出土遺物実測図

第124号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第610図	坏土師器	A [15.3] B 6.4 C 4.6	底部から口縁部片。平底。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部は外反する。口縁部内面に稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部及び底部へラ削り後ヘラナデ。体部内面ナデ後ヘラ磨き。	雲母・スコリア 明赤褐色 普通	P2092 30% 覆土中 内面黒色処理
2	碗土師器	A 13.8 B (5.9)	体部から口縁部片。体部は内彎しながら立ち上がり、直立する口縁部内面に不明瞭な稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラナデ、外面ヘラ削り後ヘラ磨き。	長石・石英・雲母 赤褐色 普通	P2093 30% 覆土中 5世紀後半
3	碗土師器	A 10.9 B (5.9)	体部から口縁部片。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部との境に稜を持つ。口縁部はやや内彎する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ、外面ナデ後ヘラ削り。	長石・石英・雲母・ スコリア・バミス・ 礫・小石 明褐色 普通	P2094 40% 覆土中
4	高土師器	B (10.3) D 13.4 E 8.3	脚部片。ラッパ状に下方に開く。	脚部内面ナデ、外面ヘラナデ後磨き。	長石・バミス・小石 鈍い褐色 普通	P2095 40% 覆土中
5	甕土師器	A [16.9] B (21.3)	体部下平部から口縁部片。体部は内彎しながら立ち上がり、最大径を下方に持つ。頸部から口縁部は外反する。	口縁部内面横ナデ、外面ハケ目調整後横ナデ。頸部外面ヘラ削り。体部内面ヘラナデ、外面ハケ目調整後ナデ。	長石・石英・雲母・ スコリア・礫 鈍い褐色 普通	P2096 30% 覆土中 体部外面覆付着、 縦溝み痕が残る。

覆土 4層からなる。

土層解説

- 1 褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック微量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック少量、ローム中ブロック・焼土粒子微量
- 3 暗褐色 ローム中ブロック中量、ローム粒子少量、ローム大ブロック微量
- 4 褐色 ローム粒子・ローム中ブロック多量、ローム小ブロック中量

遺物 覆土中から土師器片60点が出土している。第610図1～5の土器はすべて土師器片で、覆土中から出土している。

所見 本跡の時期は、出土遺物等から古墳時代中期（5世紀中葉）と思われる。

第137号土坑（第618図）

位置 調査区の北東部、E5c区。

規模と形状 平面形は長径1.88m、短径1.72mの円形で、深さは40cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がる。

遺物 覆土中から土師器片53点が出土している。第601図13の管状土鉢は覆土上層から出土している。

所見 本跡は、出土遺物が少なくしかも細片であるため、詳細な時期は不明である。

第147号土坑（第607図）

位置 調査区の南西部、H1b区。

重複関係 本跡中央部が第1号方形周溝墓の溝に掘り込まれ、さらに東西両側を第30・31号土坑に掘り込まれていることから、本跡が一番古い。

規模と形状 平面形は長径1.84m、短径 [1.60m] の楕円形で、深さは26cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がる。

長径方向 N-25°-E

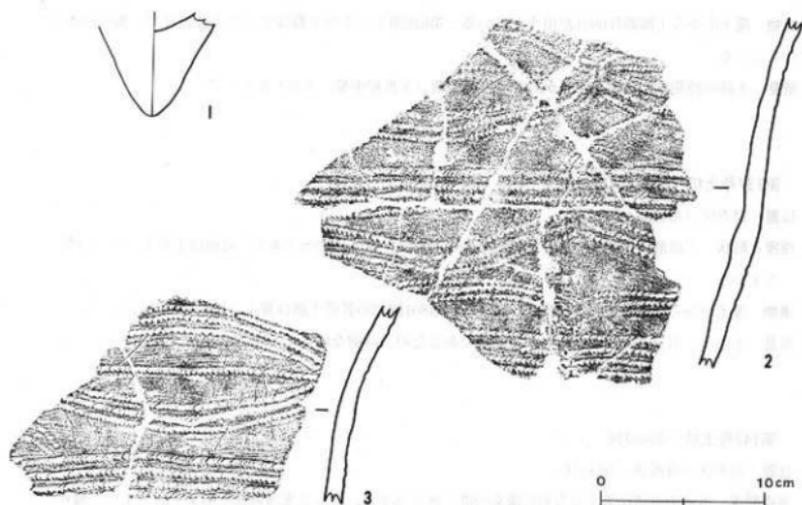
遺物 縄文土器片50点が底面から一括して出土している。第611図1は深鉢形土器の尖底部片である。2・3の拓影図は一括して出土した土器片を接合したものである。文様等から同一個体と思われる。文様は条痕文を地文（2の方は摩耗してはっきりしないが）とし、押しき刺突文で構成されているので縄文時代早期の山戸上層式土器と思われる。

所見 本跡の時期は、出土遺物等から縄文時代早期（山戸上層式期）と思われる。

第147号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴及び文様	胎土・色調・焼成	備考
第611図 1	深鉢形土器 縄文土器	B (6.4)	尖部(尖底)片。外面ヘラ状工具による磨き。	粘土・石英・雲母 褐色 普通	P2154 覆土中 5%

第611図2・3の縄文土器は三角押文による渦線文及び平行線文が施されている。



第611図 第147号土坑出土遺物実測図・拓影図

第163号土坑 (第607図)

位置 調査区の中央部, E4b区。

重複関係 本跡は第152号住居跡と重複。本跡の方が新しい。

規模と形状 平面形は長径1.64m, 短径1.60mの円形で, 深さは50cmである。底面は平坦で, 壁は垂直に立ち上がる。

長径方向 N-69°-E

覆土 耕作機械による攪乱が見られる。土器が上層から多数出土し, その周りに焼土の広がり確認された。

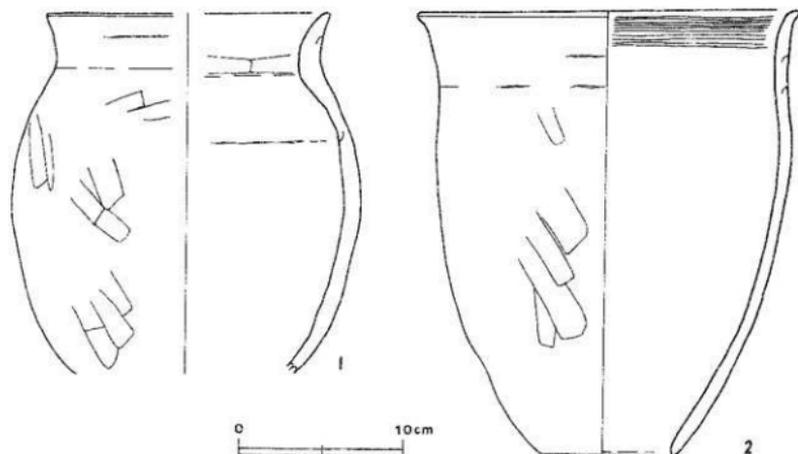
人為堆積である。

土層解説

- | | | |
|---|-----|--------------------------------------|
| 1 | 黒褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 2 | 黒褐色 | ローム小ブロック・凝灰岩大ブロック少量 |
| 3 | 黒褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック・焼土小ブロック少量, ローム大ブロック微量 |
| 4 | 明褐色 | 焼土粒子・焼土小・中ブロック多量 |
| 5 | 黒褐色 | 焼土粒子・焼土小・大ブロック少量 |
| 6 | 黒褐色 | ローム粒子・ローム中ブロック・焼土粒子・焼土小ブロック少量 |
| 7 | 黒色 | ローム粒子・ローム小ブロック微量 |
| 8 | 褐色 | ローム粒子少量, ローム小ブロック微量 |
| 9 | 黒色 | ローム粒子・ローム小ブロック少量, ローム中・大ブロック微量 |

遺物 覆土中から土師器片92点, 鉄滓1点, カキ貝760gが出土している。第612図2の土師器の瓶(斜位)をはじめほとんどが覆土上層から出土している。

所見 本跡の時期は, 第152号住居跡(5世紀)を掘り込んでいることや出土遺物から古墳時代後期(6世紀後半)と思われる。



第612図 第163号土坑出土遺物実測図

第163号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第612図 1	壺 土師器	A 17.01 B (22.2)	体部下平部から11線彫片。体部は内凹して立ち上がり、最大径を上位に持つ。11線彫は高線的に外反する。	口縁部内面へラ削り及び歯ナデ。体部内面ナデ、外面へラ削り後へラナデ。	長石・石英・スコリア・バミス 藍色 普通	P2098 15% 覆土上層 6世紀後半
		A 23.2 B 27.2 C 8.0	無底式。体部は倒卵形で、体部上平部は直線的に立ち上がる。口縁部は短く外反する。	口縁部内面へラ削き、外面歯ナデ。体部内面へラナデ後磨き、外面へラ削り及びへラナデ。	長石・石英・雲母・スコリア・小石 鈍い赤褐色 普通	P2097 80% 覆土上層 体部上位に輪轆み証 PL113

第166号土坑 (第618図)

位置 調査区の北東部、E5c区。

規模と形状 平面形は長径190m、短径178mの楕円形で、深さは51cmである。底面は平坦で、壁は直立気味に立ち上がり、断面形がピット状を呈する。

長径方向 N-5°-W

覆土 4層からなり、自然堆積と思われる。

土層解説

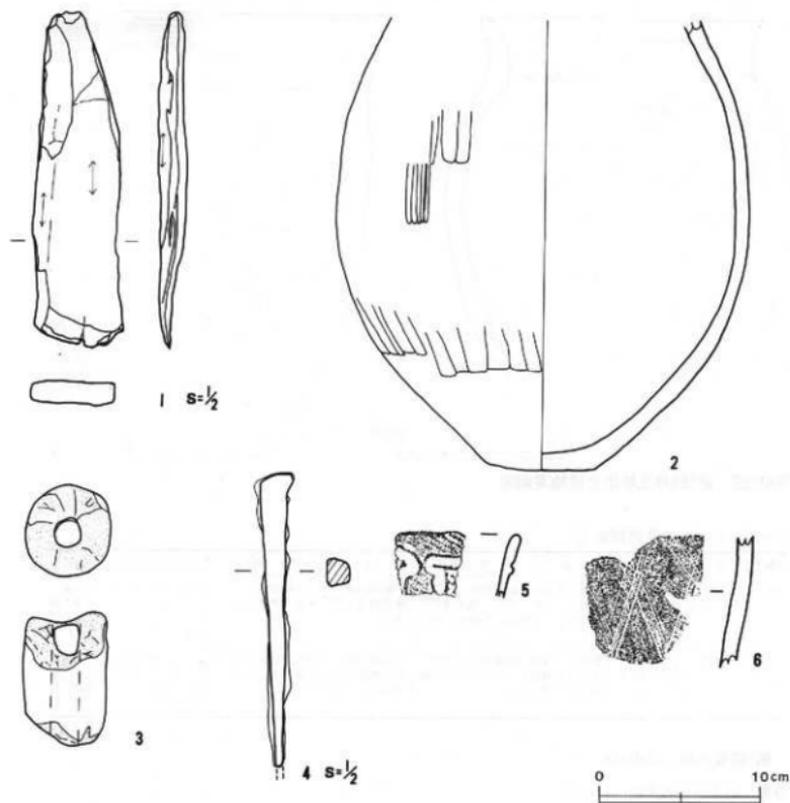
- 1 黒褐色 ローム中・小ブロック中量、炭化粒子・ローム大ブロック少量、ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ローム大ブロック中量、ローム中・小ブロック・ローム粒子少量
- 3 黒色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム大ブロック少量

遺物 第613図1の紙石は覆土中から出土している。

所見 本跡は、時期を特定できる直土遺物がないため、時期は不明である。

第166号土坑出土遺物観察表

図版番号	種別	計測値					石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第613図1	紙石	13.6	3.8	1.1		82.0	粘板岩	覆土中	Q2012 PL121



第613図 第166・167・173・288号土坑出土遺物実測図

第167号土坑 (第618図)

位置 調査区の北東部, E4d区。

規模と形状 平面形は長径185m, 短径170mの楕円形で, 深さは54cmである。底面は平坦で, 壁は直立気味に立ち上がり, 断面形がピット状を呈する。

長径方向 N-0°

第167号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第613図 2	甕 土師器	B 127.6 C 6.3	底部から体部上半部片・平底。体部は内彎して立ち上がり、最大径を下位に持つ。	体部内面ナデ、外面上半部ナデ後磨き。下半部縦位のヘラ削り。	長石・石英・スコリア・パミス 鈍い褐色 普通	P2099 35% 覆土中層 体部外面一部残付着

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	高さ(cm)	孔径(cm)		
第613図3	管状土鍾	(8.1)	5.1	—	1.6~1.7	(162.5)	覆土中層 DP2022 PL116

覆土 7層からなり、自然堆積と思われる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子少量
- 2 黒褐色 ローム中ブロック中層、ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 4 暗褐色 炭化粒子・ローム中・小ブロック・ローム粒子少量
- 5 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中層、ローム大ブロック微量
- 6 黒褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 7 黒色 ローム小ブロック・ローム粒子少量

遺物 第613図2の上師器甕、3の管状土鍾は覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 木跡は、出土遺物が少なくしかも細片であるため、詳細な時期は不明である

第168号土坑 (第607図)

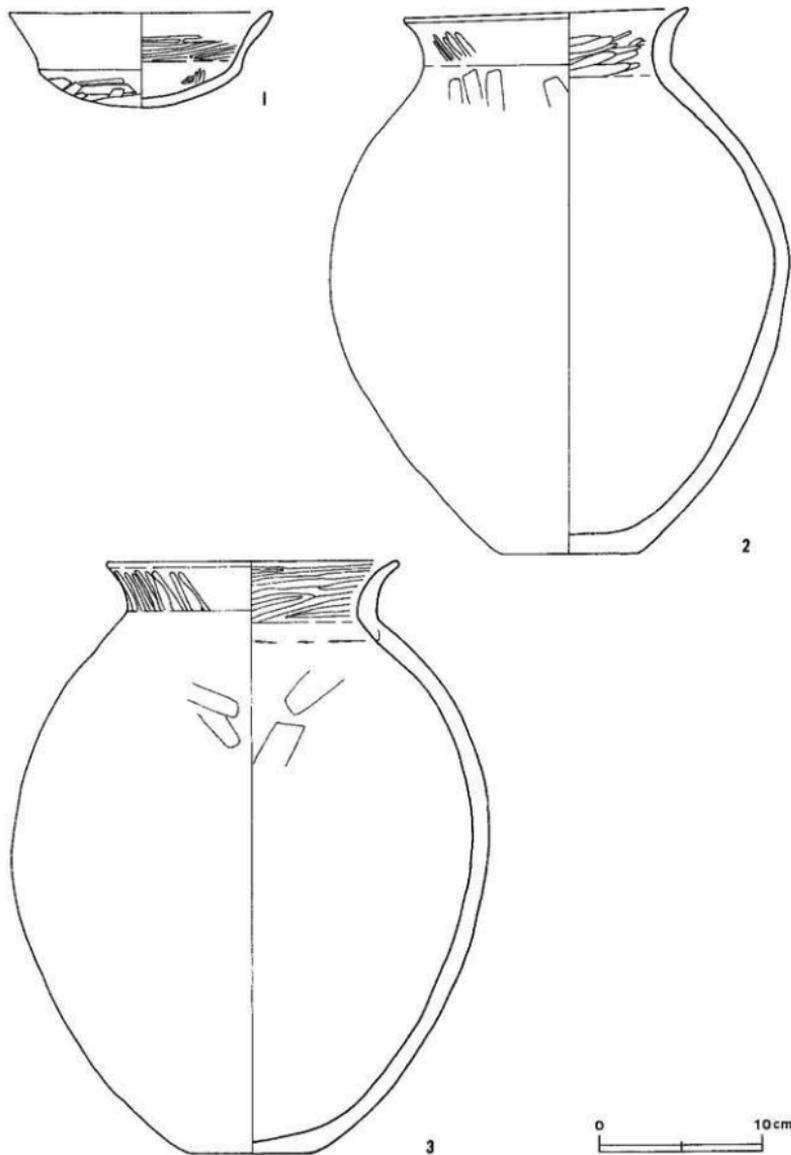
位置 調査区の中央部、E4b区。

規模と形状 平面形は長径2.26m、短径1.80mの楕円形で、深さは70cmである。底面は平坦で、壁は垂直に立ち上がる。

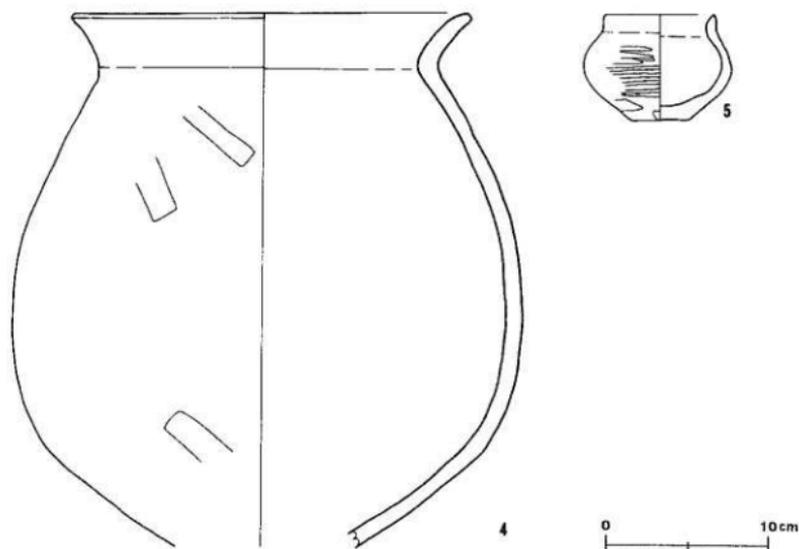
長径方向 N-41°-W

第168号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第614図 1	土師器	A 16.0 B 5.8	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に横溝を持つ。口縁部は外反する。	口縁部内面磨き、外面横ナデ、体部内面磨き、外面へラ削り後ナデ。	長石・石英・スコリア 褐色 普通	P2100 90% 2区覆土中 PL114
2	甕 土師器	A 17.2 B 33.4 C 8.4	底部及び口縁部一部欠損。平底。体部は内彎しながら立ち上がり、最大径を上位に持つ。頸部は直立気味に立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面ナデ後へラ磨き。頸部外面へラ削り。体部外面へラナデ。	長石・石英・雲母・スコリア 鈍い褐色 普通	P2101 85% 覆土中層 体部外面一部残付着、接合片 PL113
3	甕 土師器	A 17.8 B 36.2 C 7.4	底部から口縁部片、平底。体部は内彎しながら立ち上がり、最大径を上位に持つ。頸部は外屈して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ後へラ磨き。体部内面ナデ、外面へラ削り及びへラナデ。	長石・石英・雲母 褐色 普通	P2102 63% 覆土中層 PL113 口縁部外面一部残付着、接合片
第615図 4	甕 土師器	A 24.4 B (32.6)	体部下半部から口縁部片。体部は内彎しながら立ち上がり、最大径を下位に持つ。口縁部は「く」の字状に外反する。	口縁部内面へラ磨き、外面横ナデ。体部内面ナデ、外面へラ削り後へラナデ。	長石・石英・雲母 鈍い赤褐色 普通	P2103 65% 覆土中層 PL113 口縁部内面及び体部内面割離 体部外面残付着 PL113
5	小形甕 土師器	A 6.6 B 6.5 C 3.3	口縁部及び体部の一部欠損。平底。体部は内彎しながら立ち上がり、最大径を上位にもつ。口縁部は垂直に立ち上がり、口縁部が尖る。	口縁部内・外面横ナデ、体部内面ナデ、外面へラ磨き及び下層へラ削り。底部外面へラ削り後へラナデ。	長石・石英・雲母 褐色 普通	P2104 98% 覆土下層 PL113



第614图 第168号土坑出土文物实测图(1)



第615図 第168号土坑出土遺物実測図(2)

覆土 9層がブロック状を呈するので、人為堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・ローム小・中ブロック少量
- 2 黒褐色 ローム小・中ブロック・炭化粒子中量、ローム粒子・焼土粒子・焼土小・中ブロック少量
- 3 黒褐色 ローム小・中ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子少量
- 4 褐色 炭化粒子・焼土粒子・焼土小・中ブロック中量
- 5 褐色 ローム粒子・ローム小・中ブロック・炭化粒子・焼土粒子中量
- 6 暗褐色 炭化粒子多量、焼土粒子・焼土小・中ブロック少量
- 7 黒褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、炭化物少量
- 8 黒褐色 ローム中ブロック・炭化粒子多量、ローム粒子・ローム小ブロック中量
- 9 褐色 ローム粒子・ローム小・中ブロック・炭化粒子中量、ローム大ブロック微量

遺物 覆土中から土師器片138点、小石4点が出土している。第614図2・3は土師器の甕で覆土中層から出土している。

所見 本跡の時期は、出土遺物等から古墳時代後期（6世紀前半）と思われる。

第173号土坑（第618図）

位置 調査区の北東部、F3a₉区。

規模と形状 平面形は長径1.56m、短径1.32mの楕円形で、深さは50cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がり、断面形は逆台形状を呈する。

長径方向 N-66°-E

第173号土坑出土遺物観察表

図版番号	種 別	計 測 値					出土地点	備 考
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第612図1	角 釘	(12.5)	1.8	1.0	-	(34.3)	覆土中	M2014 鉄

第613図3・6は第288号土坑出土の縄文土器の1線部片で、18は縄文を地文として棒状工具による沈線が施されている。19は4本一組の沈線が格子状に施されている。

覆土 ローム粒子を含み、レンズ状堆積であるので自然堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 黒 色 ローム小ブロック・炭化粒子中量
- 3 明 褐色 ローム粒子多量

遺物 覆土中から土師器片33点、石製品1点が出土している。土師器はすべて細片である。

所見 本跡の時期は、出土遺物から古墳時代中期（5世紀後半）と思われる。

第175号土坑（第607図）

位置 調査区の中央部、E4j区。

重複関係 本跡が第106号住居跡を握り込んでいることから、本跡の方が新しい。

規模と形状 平面形は長径0.90m、短径0.70mの不整楕円形で、深さは32cmである。底面は皿状で、壁は外傾して立ち上がる。

長径方向 N-61°-W

覆土 ローム粒子を含み、レンズ状堆積であるので自然堆積である。

土層解説

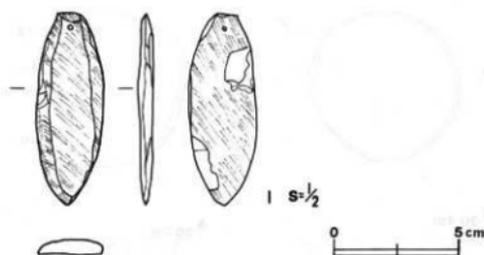
- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 黒 色 ローム小ブロック・炭化粒子中量
- 3 明 褐色 ローム粒子多量

遺物 覆土中から土師器片33点、石製品1点が出土している。土師器はすべて細片である。第616図1は剣形模造品である。

所見 本跡の時期は、出土遺物から古墳時代中期（5世紀後半）と思われる。

第175号土坑出土遺物観察表

図版番号	種 別	計 測 値					石 質	出土地点	備 考
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第616図1	劍形模造品	7.8	3.8	0.6	-	17.6	滑 石	覆土中	Q2013 PL122



第616図 第175号土坑出土遺物実測図

第225号土坑 (第618図)

位置 調査区の中央部, E4d₁区。

規模と形状 平面形は長径2.20m, 短径2.14mの円形で, 深さは52cmである。底面は平坦で, 壁は垂直に立ち上がる。

長径方向 N-0°

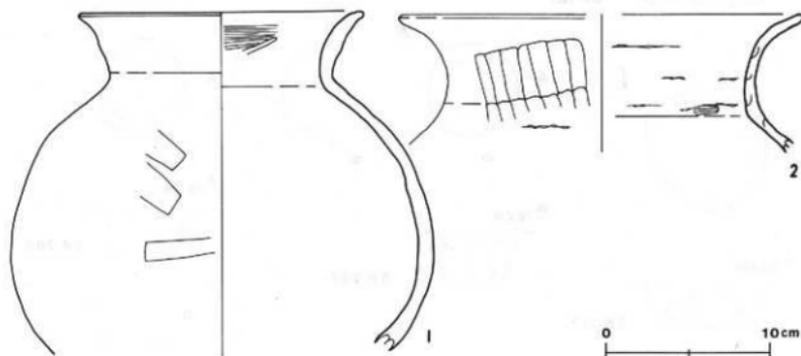
覆土 耕作機械による擾乱があるが, 6層がブロック状に堆積しているので人為堆積である。

土層解説

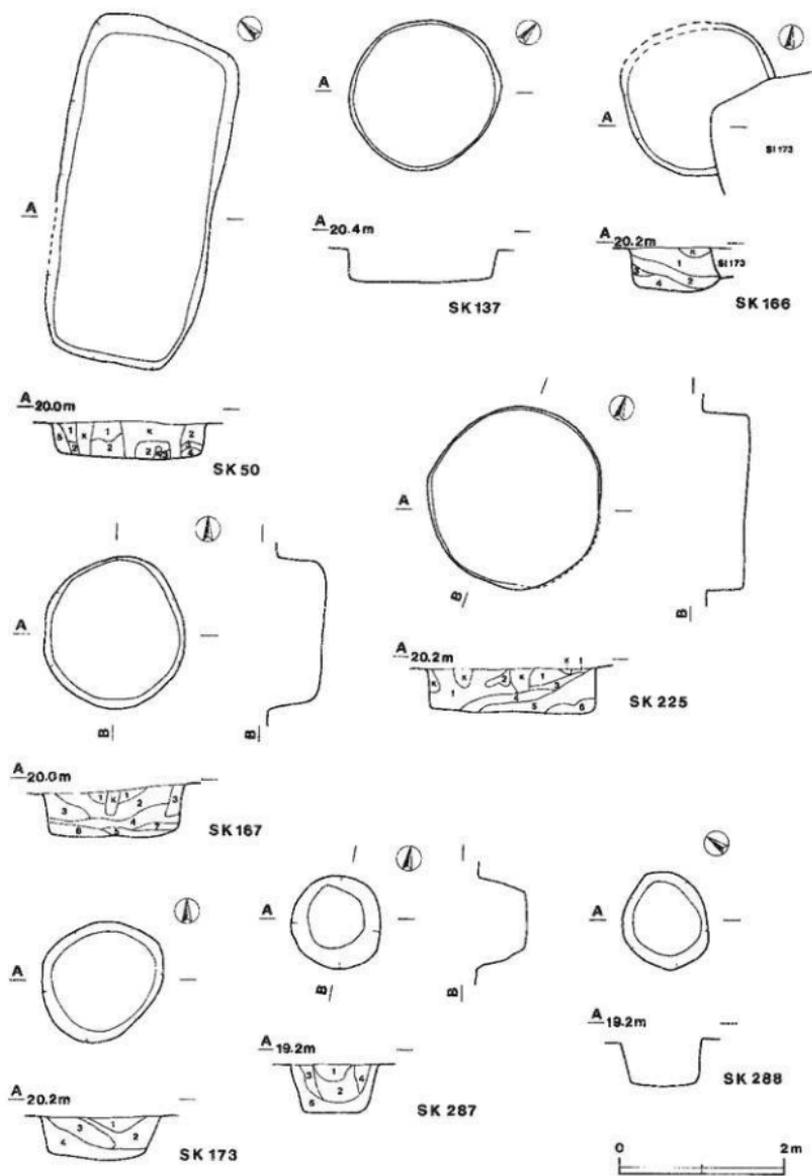
- | | | |
|---|-----|-----------------------------------|
| 1 | 暗褐色 | ローム中ブロック・炭化粒子中量, ローム粒子・ローム小ブロック少量 |
| 2 | 褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック中量, ローム中ブロック・炭化粒子少量 |
| 3 | 黒褐色 | 炭化粒子中量, ローム粒子・ローム小ブロック少量, 焼土粒子微量 |
| 4 | 暗褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック多量, ローム中ブロック・炭化粒子少量 |
| 5 | 黒色 | 炭化粒子中量, ローム粒子・小ブロック少量, ローム中ブロック微量 |
| 6 | 暗褐色 | ローム中ブロック中量, ローム粒子・小ブロック少量 |

遺物 土師器片84点, 須恵器片2点, 弥生土器片1点, 小石7個が出土している。覆土下層から土師器片がまとまって出土し, それらの一部が接合できた。第617図1・2の土師器の甕がそれである。弥生土器片は流れ込みと思われる。

所見 本跡の時期は, 出土遺物・遺構等から古墳時代中期 (5世紀後葉) と思われる。



第617図 第225号土坑出土遺物実測図



第618图 第50·137·166·167·173·225·287·288号土坑突测图

第225号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第617図	甕 土師器	A 17.2 B (20.7)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、頸部は「く」の字状に外反し、口縁部は外反する。	口縁部内面ヘラ磨き、外面横ナデ。体部内面ナデ、外面ヘラ磨り後ヘラナデ。	長石・石英・雲母・雜 鈍い赤褐色 普通	P2105 15% 覆土下層 PL114
2	甕 土師器	A [24.7] B (8.4)	口縁部片。頸部は垂直に立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部内面磨き、外面ヘラナデ。	長石・石英・雲母・スクリア 褐色 普通	P2106 5% 覆土下層

第287号土坑 (第618図)

位置 調査区の中央部, A7i₂区。

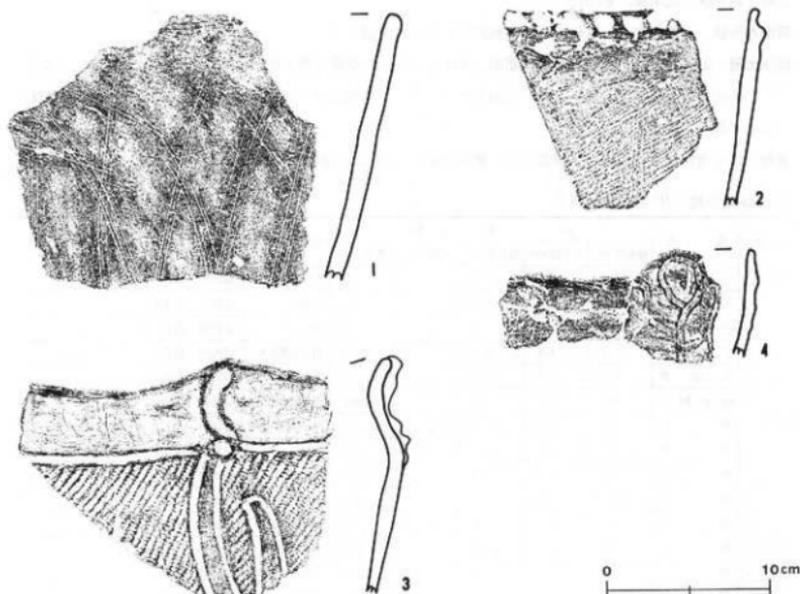
規模と形状 平面形は長径1.14m, 短径1.10mの円形で、深さは58cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がり、断面形が逆台形を呈する。

長径方向 N-25°-W

覆土 5層からなる人為堆積である。

土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量
- 2 鈍い黄褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量、ローム中ブロック微量
- 3 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック・炭化粒子少量
- 4 灰黄褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量、ローム中ブロック微量
- 5 鈍い黄褐色 ローム粒子・ローム小ブロック中量、炭化粒子微量



第619図 第287号土坑出土遺物実測図

遺物 縄文土器片42点、須恵器片1点が出土している。第618図1～4の拓影図は覆土中・下層から出土した縄文土器の1種部片である。1は櫛状工具で格了目状に沈線が施されている。2は黒色で口縁部に押捺された隆帯が貼られ、胴部に櫛状工具で沈線が施されている。3は円形刺突のある隆帯が貼られ、胴部は向かい合う弧状の沈線内が磨り消されている。4は櫛歯状工具で沈線が施されている。

所見 本跡の時期は、出土遺物や遺構等から縄文時代後期（堀之内式期）と思われる。

第288号土坑（第618図）

位置 調査区の中央部、A7i、区。

規模と形状 平面形は長径1.20m、短径1.03mの円形で、深さは48cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がり、断面形が逆台形を呈する。

長径方向 N-43°-E

遺物 縄文土器片2点が出土している。（第613図5、6）

所見 本跡の時期は、出土遺物や遺構等から縄文時代後期（堀之内式期）と思われる。

9 その他の遺構

当遺跡から旧石器集中地点1か所と集石遺構1か所を検出した。

旧石器集中地点（第620図）

位置 調査区の北東部、E4h、区。

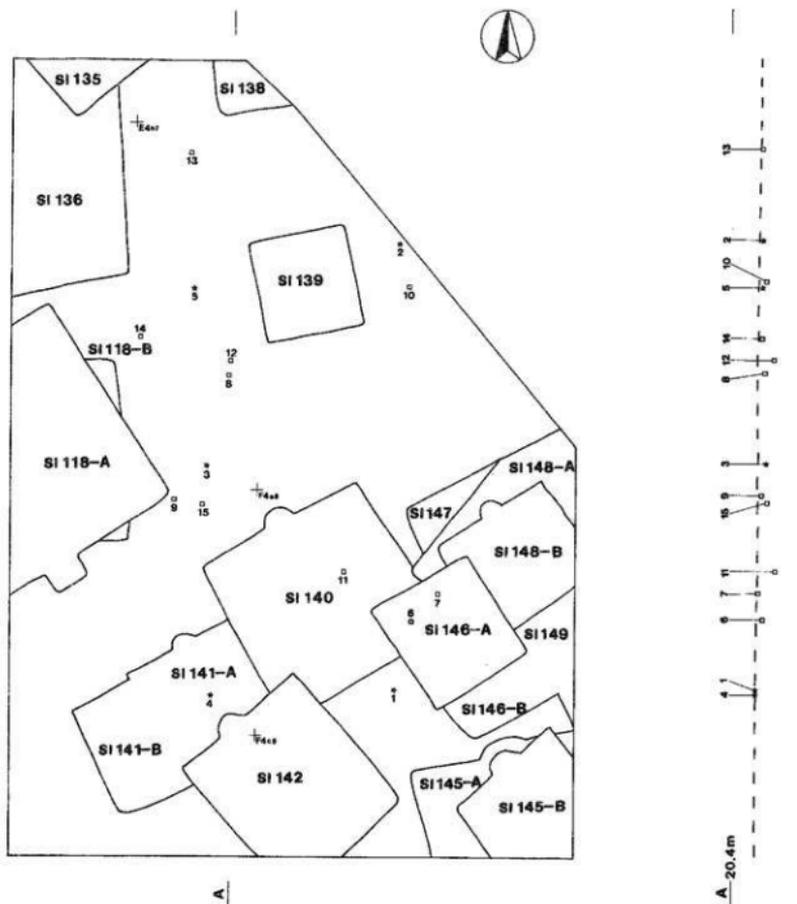
規模と形状 東西約9m、南北20mの広範囲にわたって確認した。

確認土層 旧石器時代の遺物が遺構確認面（NO.2・5）や遺構の覆土中（NO.6）から出土していることから、住居跡調査終了後、残ったローム面をテストピットの第2層（ソフトローム層）に該当すると思われる層まで掘り下げた。

遺物 出土遺物総数は15点（尖頭器5点、剥片10点）である。（第621～623図）

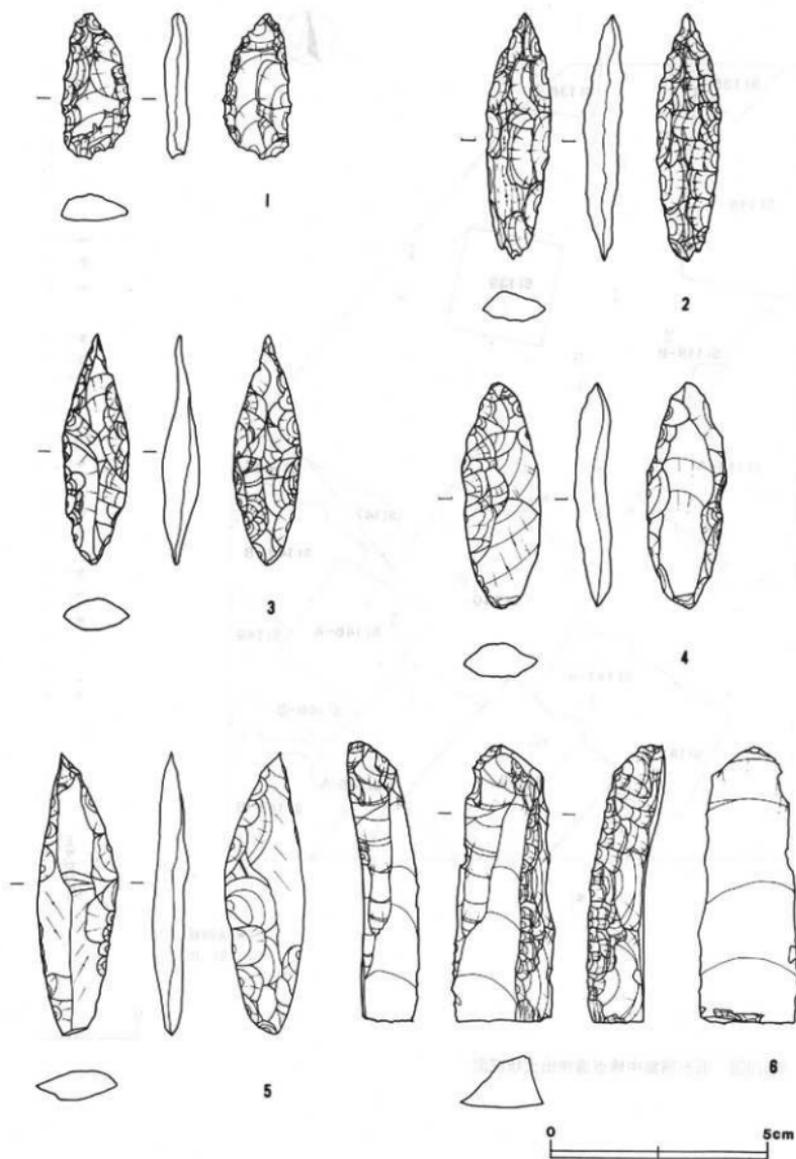
旧石器集中地点出土遺物観察表

図面番号	種別	計測値				出土地点	備考
		最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	孔径(cm)		
第621図1	尖頭器	3.4	1.6	0.6	-	3.2	F4a、Q2016 頁岩
	尖頭器	5.7	2.0	0.9	-	7.4	E4b、Q2017 安山岩
	尖頭器	5.3	1.5	0.9	-	5.3	E4c、Q2029 頁岩
	尖頭器	5.2	1.8	0.9	-	7.4	SI-142覆土中 Q2030 頁岩
	尖頭器	6.5	1.9	0.7	-	7.9	E4i、Q2031 安山岩
	厚長剥片	6.4	2.4	1.7	-	23.2	SI-146A覆土中 Q2019 安山岩
第622図7	剥片	3.0	3.2	0.6	-	2.2	SI-146A覆土中 Q2020 頁岩
	剥片	3.5	4.1	0.7	-	5.1	E4j、Q2021 安山岩
	剥片	4.8	3.3	0.8	-	10.4	F4a、Q2022 頁岩
	剥片	8.9	4.8	1.7	-	21.1	F4a、Q2023 頁岩
	剥片	3.3	3.1	0.6	-	4.6	SI-140覆土中 Q2024 頁岩
	剥片	7.5	3.5	1.6	-	22.0	E4j、Q2025 安山岩
	剥片	4.3	3.2	0.3	-	5.4	E4b、Q2065 頁岩
	剥片	2.4	2.5	0.7	-	4.1	E4i、Q2066 頁岩
	剥片	4.9	4.4	1.3	-	19.2	F4a、Q2067 安山岩

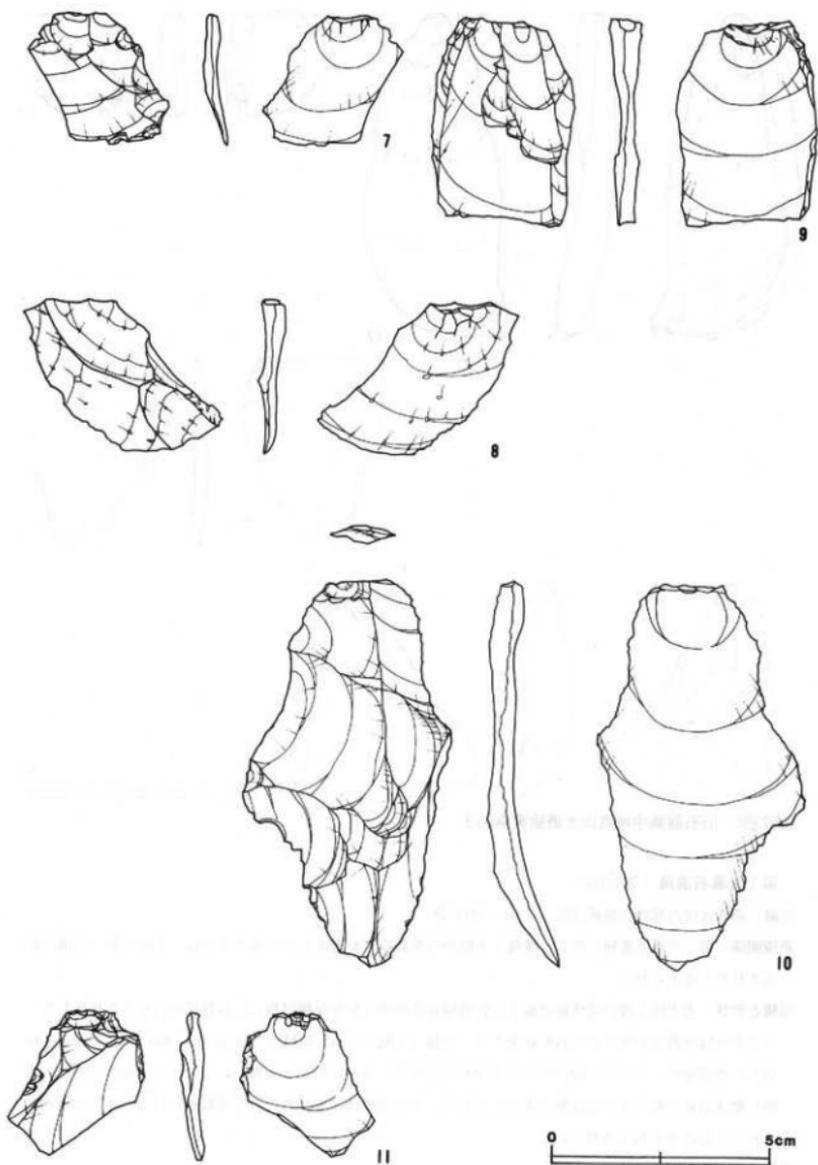


★ 尖頭器
○ 剝片

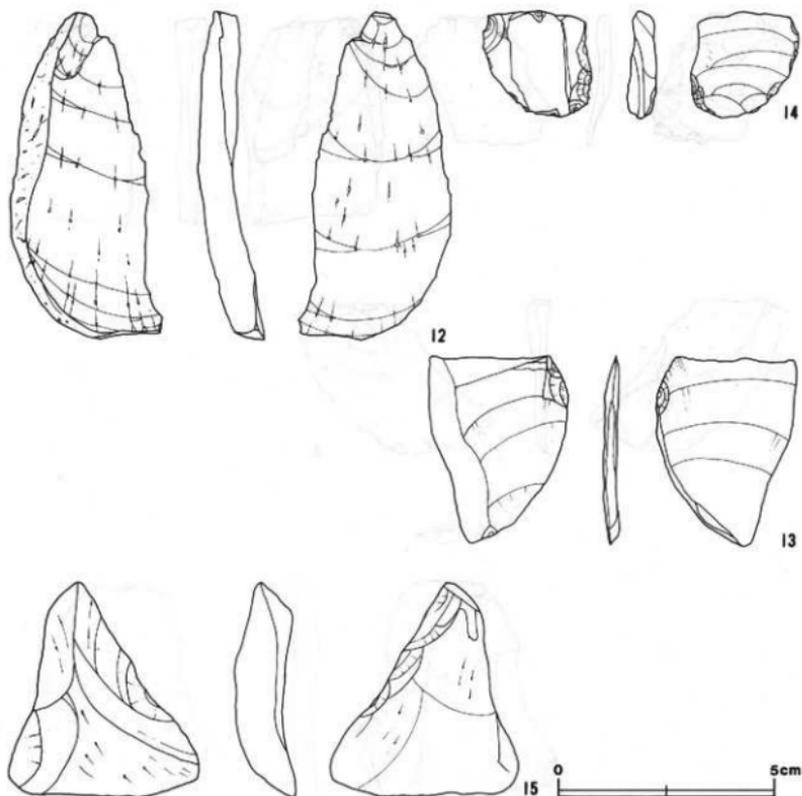
第620圖 旧石器集中地点遺物出土状況圖



第621图 旧石器集中地点出土物实测图(1)



第622图 旧石器集中地点出土遗物实测图(2)



第623図 旧石器集中地点出土遺物実測図(3)

第1号集石遺構 (第624図)

位置 調査区南西端の台地縁辺部, H1e_s~H1e_s区。

重複関係 第2号溝と重複。第2号溝覆土下層から多数の石が出土していることから、本跡は第2号溝に掘り込まれたと考えられる。

規模と形状 表土除去後の遺構確認面上の台地縁辺部のゆるやかな傾斜地に、石畳状の広がりを検出した。その広がりには北西部が突き出した台形状を呈し、長軸(上底)2.7m、短軸(下底)2.4m、幅1.76mを測る。溝に切られた部分やエリア外へ伸びている部分もあるので、さらに広がると思われる。4~15cm大の石が、人為的に敷き詰められたような状態で出土しており、中には焼けて赤化した石も多数見られる。また、石の間や上から土器片等も検出されている。

長軸方向 N-58°-W



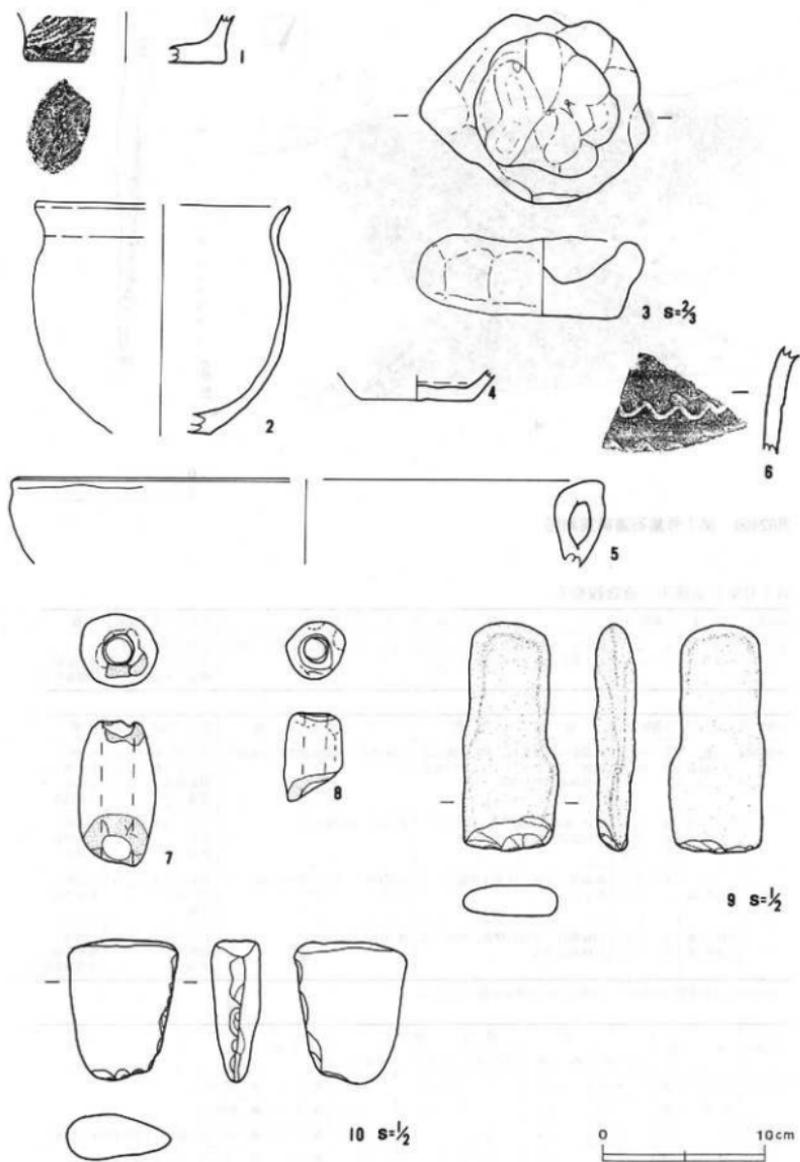
第624図 第1号集石遺構実測図

第1号集石遺構出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴及び文様	胎土・色調・焼成	備考
第625図 1	広口壺 弥生土器	B (3.1) C [11.8]	底部片。平底。体部は外傾して立ち上がる。体部外面に付加条二種(附加1条)の縄文が施されている。	長石・石英・雲母・スクリア 褐色 普通	P2111 5% 覆土中層 底部布目痕
第625図 2	壺 土器	A [15.3] B (14.1) C [6.0]	底部から口縁部片。平底。体部は内傾しながら立ち上がる。口縁部は直線的に外反する。	口縁部内・外面及び体部外面横ナデ。 長石・石英・雲母・パミス・礫・小石 明赤褐色 普通	P2107 30% 覆土中層 PL113 接合片, 体部外面赤化及び刻離
3	手捏土器 土器	A 5.4 B 2.3 C 4.5	平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	体部内・外面指ナデ。 長石・石英・雲母 褐色 普通	P2109 100% 覆土中層 接合片
4	環 須恵器	B (1.9) C 6.6	底部片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	底部回転ヘラ切り後底部周縁ヘラナデ。 長石・石英・雲母 暗灰色 良好	P2110 20% 覆土中層
5	内耳土罎 土質土器	A [35.6] B (5.2)	口縁部片。耳は内傾後、外反して口縁部に至る。	体部内・外面指ナデ。 長石・石英・雲母 暗褐色 普通	P2108 5% 覆土中層 体部外面塗付着

第625図6は須恵器の頸部片で、横位に液状の沈積が施されている。

図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第625図7	管状土罎	(8.8)	4.6	-	1.8~1.9	(140.6)	覆土上層	DP2023
8	管状土罎	(5.4)	3.5	-	1.2~1.3	(47.7)	覆土中層	DP2024
9	石 罎	9.2	3.9	1.7	-	103.0	覆土中層	Q2014 凝灰岩, 石罎の遺物後二次利用 PL121
10	石 罎	5.7	4.4	2.0	-	(65.7)	覆土下層	Q2015 安山岩 PL121



第625图 第1号集石遗址出土物实测图

覆土 1層からなる。

土層解説

1 黄褐色 橙黄色粘土粒子少量、ローム粒子微量

遺物 弥生土器片5点、土師器片122点、須恵器片56点、土師質土器片7点、陶器片7点、石製品（石斧）1点、土製品（土鍾）2点及び鉄滓5点が覆土中から出土している。（第625図）

所見 本跡は、敷きつめられた石の中に火熱により赤化したものが見られることから調理等の遺構とも考えられるが、性格を決定する遺物等が見られないので性格は不明である。また、時期は古墳時代前期の方形周溝墓を掘り込んでいる第2号溝に掘り込まれているので、4世紀末以前のもと思われる。その後、台地の縁辺部に位置することや出土遺物の時期が弥生時代～中世と幅があることから、遺物の投棄場所となったと考えられる。

10 遺構外出土遺物

当遺跡の表土除去中及び遺構確認時に出土した遺構に伴わない遺物を、本項では拓影図、実測図及び一覧表で掲載する。

(1) 旧石器時代の遺物（第632図102, 103）

102は後期旧石器時代初期（3万年前前後）の両面加工のある尖頭器（掘斧）である。103は表面に自然面を残す縦長刺片である。上端に打面が認められ、表裏面ともに加撃方向が同じであることから、石刃技法により製作されたと考えられる。裏面に線刻が施されるが、後世に施された可能性がある。周縁は欠損している。

(2) 縄文土器（第626・627図1～40）

第1群 隆起縄文系の上器片である。（第626図1・2）

1・2は器肉が薄い2～3cm程の小片で、条線状の微隆が見られる。縄文時代草創期のものと思われ、市内の原の寺遺跡からも同様の上器片が出土している。

第2群 撚糸文系土器である。（第626図3～10）

I類 夏鳥式に比定されると思われるもの。（第626図3～5）

3は口縁部直下にナデによる無文帯を持つ。4・5は縄文が施文されている。

II類 稲荷原式に比定されると思われるもの。（第626図6～8）

3片とも粘土に雲母を含んでいる。6は非常に細い撚糸文がまばらに縦走する。

III類 その他に属すると思われるもの。（第626図9～10）

9は撚糸文が、10は縄文がそれぞれ施文されている。

第3群 沈線文・刺突文系の上器片である。（第626・627図11～33）

I類 三戸式に比定されると思われるもの。（第626図11・12）

11・12は櫛状工具による細い沈線が施されている。

II類 三戸式～出戸下層式に比定されると思われるもの。（第626図13～15）

13は櫛状工具による太い沈線が、14・15は櫛状工具による細い沈線が施されている。

III類 出戸上層式に比定されると思われるもの。（第626・627図16～33）

a種 沈線を主体とするもの。（第626図18・20・22・25）

18は、内外面に沈線が施されている。

b 種 押引文・貝殻文を主体とするもの。(第626・627図16・17・19・21・23~33)

16は口縁部片で貝殻文が施され、補修孔を思われる穴が空けられている。24は赤褐色を呈し、貝殻縁文と円形刺突文が施されている。28~33は押引文が施されている。

第4群 無文系土器である。(第627図34~38)

土器片は、胎土に小石や炭母を含み、器面はざらざらしている。

(3) 弥生土器 (第627図41~43)

第627図41は渦巻き状の沈線(1条)が施されている。第627図42・43は胎土に炭母や小石を含み、42は単節と思われる縄文が、43は撚り糸文がそれぞれ施されている。

(4) その他の遺構外出土遺物 (第627図~第638図)

遺構外出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴及び文様	胎土・色調・焼成	備考
第627図 39	深鉢形土器 縄文土器	B (3.8)	底部(平底)片。	長石・炭母 黒褐色 普通	P2150 5% 表採 PL114
40	深鉢形土器 縄文土器	B (5.5)	底部(平底)片。	長石・炭母・礫 褐色 普通	P2151 5% 礫認め PL114 内面黒色・外側一部硝化

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徵	手法の特徵	胎土・色調・焼成	備考
第627図 44	坏 土師器	A 12.6 B 4.5 C 6.6	平底。体部は内唇気味に立ち上がり口縁部はわずかに外反する。	口縁部横ナデ。体部内面ヘラ磨き。外面横ナデ。底部回転糸切り。	長石・炭母・スコリア・小石 内:黒色。外:褐色 普通	P2112 100% 表採 内面黒色処理 PL114
45	坏 土師器	A 14.8 B 3.2 C 3.0	平底。体部は内唇して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部内面横ナデ後磨き。体部内面磨き。外面ヘラ削り後磨き。底部外周部ヘラ削り。	長石・石英・炭母・礫 赤色 普通	P2113 100% 表採 体部内面刷毛 PL114
46	坏 土師器	A 12.4 B 5.1	口縁部一部欠損。丸底。体部は内唇して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部は内傾する。	口縁部外面横ナデ。口縁部及び体部内面ヘラ磨き。外面ナデ後ヘラ削り。	石英・パミス 褐色 良好	P2114 98% 表採 PL114
47	深 土師器	A 11.4 B 3.5 C 7.7	底部一部欠損。平底でやや突出する。体部下半部に若干の張り出しがある。口縁部は外反する。	体部内・外面横ナデ。底部回転糸切り。	長石・石英・炭母・スコリア・礫 褐色 普通	P2115 95% 表採 PL114 底内面・底縁磨き
第628図 48	坏 土師器	A 10.8 B 3.6	丸底。体部は内唇して立ち上がり、口縁部との境に後を持つ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ後ヘラ磨き。外周下半部ヘラ削り。上半部ナデ後磨き。	長石・石英・炭母・礫 外:鈍い褐色。内:黒褐色 普通	P2116 90% 表採 内面黒色処理 PL114
49	坏 土師器	A 14.6 B 4.6	丸底。体部は内唇して立ち上がり、口縁部との境に後を持つ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。外面ヘラ削り。	石英・スコリア 小石・礫 明褐色 普通	P2117 80% 表採 内面黒色処理 PL114
50	坏 土師器	A 13.0 B 4.3	丸底。体部は内唇して立ち上がり、口縁部に至る。口唇部は尖る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。外面ヘラ削り後磨き。	長石・スコリア 内:黒褐色。外: 鈍い赤褐色 良好	P2118 80% 表採 PL114 内外面黒色処理
51	坏 土師器	A 16.7 B 5.2	丸底。体部は内唇して立ち上がり、口縁部との境に突出した後を持つ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後磨き。	石英・炭母・スコリア・礫 灰褐色 普通	P2119 80% 表採 PL114 内外面黒色処理

図版番号	器種	計測値(cm)	器影の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
52	坏土師器	A 14.4 B 4.6	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜を持つ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ、外面ヘラ削り。	長石・石英・雲母 淡黄色 普通	P2120 70% G2区表採 内外面黒色処理 6世紀前半 PL114
53	坏土師器	A 15.2 B 4.8	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面磨き、外面ヘラ削り後磨き。	長石・スコリア 鈍い褐色 普通	P2121 60% 表採 PL114 内外面黒色処理
54	坏土師器	A 14.6 B (3.7)	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜を持つ。口縁部は内彎する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ、外面ヘラ削り。	石英・雲母・小石・バミス・礫 赤褐色 普通	P2122 50% 表採 外面黒色
55	坏土師器	A 13.0 B 3.9	底部から口縁部片。平底。体部は内彎気味に外傾し、口縁部に至る。	口縁部横ナデ。体部内面ヘラ磨き、外面横ナデ。底部回転ヘラ削り。	長石・石英・雲母 内：黒褐色。外： 鈍い褐色 普通	P2123 40% 表採 PL114 内外面黒色処理
56	坏土師器	A 132.8 B 5.0	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜を持つ。口縁部は内彎する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・石英・雲母・ スコリア 褐色 普通	P2124 45% G2区表採 PL114
57	坏土師器	A 115.6 B 4.8 C 7.2	底部から口縁部片。平底。体部は内彎しながら外傾する。	口縁部横ナデ。体部内面磨き、外面横ナデ。底部回転糸切り。	長石・スコリア 鈍い褐色 普通	P2125 30% 調査2区表採 内面黒色処理 PL111
58	坏土師器	D (2.5) C (6.4)	底部から体部片。平底。体部は内彎気味に外傾して立ち上がる。	体部外面横ナデ。底部回転糸切り。	長石・石英・雲母 鈍い褐色 普通	P2125 5% 調査2区表採 帯磨、内面黒色 処理
59	坏土師器	A 10.2 B 5.0 C 3.9	口縁部一部欠損片。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ後磨き、外面ヘラ削り。	石英・雲母・スコリア・小石・礫 褐色 普通	P2126 80% 表採 PL114 底部木葉痕
60	坏土師器	A 13.7 B 7.0	体部及び口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。内面に稜を持つ。	口縁部内面磨き、外面横ナデ。体部内面ナデ後磨き、外面下平部ヘラ削り。	長石・雲母・小石・礫 褐色 普通	P2127 90% 表採 PL114
61	坏土師器	A 13.2 B 10.0	口縁部一部欠損。平底気味の丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜を持つ。口縁部は内彎する。底部は尖る。	口縁部内・外面横ナデ後磨き。体部内面ヘラ磨き、外面ヘラ削り後一部ヘラ磨き。底部ヘラ削り整形。	長石・雲母・バミス 赤褐色 普通	P744 98% 表採
62	坏土師器	A 20.1 B 6.0 C 3.8	口縁部一部欠損片。平底でやや突出し、中央部が凹む。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は内彎する。	口縁部内面磨き、外面横ナデ。体部内面ヘラ削り及びヘラ磨き。	長石・石英・雲母・ スコリア 褐色 普通	P2128 85% 表採
63	坏土師器	A 11.0 B 3.5 C 3.8	平底で中央部が凹む。体部下下部は内彎しながら立ち上がり、口縁部は器肉が厚くなり、やや外反する。	体部内・外面ナデ。底部回転糸切り。	長石・石英・雲母・ スコリア・小石 鈍い褐色 普通	P2129 100% 調査2区表採 口唇部に帯磨 普通
64	坏土師器	A 11.8 B 3.2 C 6.0	平底で中央部が凹む。体部は内彎気味に外傾して立ち上がり、口縁部は直線的に外上方に向く。	体部内・外面ナデ。底部回転糸切り。	長石・石英・バミス 明赤褐色 普通	P2130 100% 表採 PL114
65	高台付口縁部土師器	B (3.6) D 4.5 E 1.1	体部60%欠損。高台は「ハ」の字状に開く。小皿状の体部の左右は持ち上げられ耳形を呈する。	体部内・外面ヘラ磨き。	長石・石英・雲母・ スコリア・バミス 鈍い褐色 普通	P2131 50% 表採 内面黒色処理
第629回 -66	高台付口縁部土師器	A [13.8] B 3.8 C 2.2 E 1.5	底部から口縁部片。高台は「ハ」の字状に開く。平底。体部及び口縁部はわずかに内彎しながら外傾する。	口縁部外面一部ヘラ削り。体部内面ヘラ磨き、外面ナデ。	長石・石英・雲母・ スコリア 鈍い褐色 普通	P2132 20% 調査2区表採 内面黒色処理 PL114
67	坏土師器	C (5.5) B (4.8)	底部から体部片。平底。体部は内彎しながら立ち上がり、最大径をやや下方に持つ。	体部内面ナデ。外面上半部ハケ目調整。中央部磨き、下端ヘラ削り。	長石・石英・雲母・ スコリア・バミス 鈍い褐色 普通	P2133 60% 表採 PL114 体部下平部割離
68	坏土師器	B (4.8) C 2.6	底部から体部片。平底。体部は内彎しながら立ち上がり、最大径を下方に持つ。	体部内面ナデ。外面一部磨き、下端ヘラ削り。	長石・石英・雲母・ スコリア 鈍い褐色 普通	P2134 50% G2区表採 PL114
69	坏土師器	B (3.9) C 3.1	底部から体部片。平底。体部は内彎しながら立ち上がる。最大径を体部中央で持ち、上半部は内彎斜する。	体部内面横ナデ。体部下端ヘラ削り中央部ヘラ磨き。	長石・石英・雲母 鈍い褐色 普通	P2135 50% F4区表採 PL114
70	坏土師器	A 15.5 B 30.0 C 8.2	平底。体部は倒卵形で、最大径を体部中央に持つ。頸部はやや外傾し、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラナデ。外面ヘラ削り後ヘラナデ。	長石・石英・雲母・ スコリア・礫 鈍い褐色 普通	P2136 80% 表採 PL113 体部外面割離

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
71	土師器	A 14.2 B (16.0)	体部下部から口縁部片。最大径を体部下半部に持ち、直立的に立ち上がる。上半部は内傾して頸部に至り、口縁部は「く」の字状に外反する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部内面ヘラナデ。体部上半部外面ヘラナデ後ヘラナゲ。	長石・石英・雲母・スコリア 褐色 普通	P2137 40% 表採 体部外面縦溝有 及び下腹割線 PL114
72	土師器	A 18.2 B (13.7)	体部上半部から口縁部片。体部は内傾して頸部に至る。頸部は外傾して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。内面に輪筋み痕。一部ヘラナデ。	長石・石英・雲母・スコリア・小石 鈍い褐色 普通	P2138 20% 表採 PL114 体部外面割線
73	土師器	A 23.8 B 24.7 C 7.3	無蓋式。体部は直線的に外傾して立ち上がり、口縁部との境に横を掛つ。口縁部は外反する。	口縁部内面ヘラナゲ。外面横ナデ後一部ヘラナゲ。体部内面ヘラナゲ。外面ヘラナゲ後磨き。	長石・石英・小石・礫 明褐色 普通	P2139 90% 表採 PL113
74	手捏土師器	A 6.4 B 2.4 C 5.8	口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がる。	輪筋み。体部内面一部磨き。外面一部磨り。	長石・石英・雲母・スコリア・礫 鈍い黄褐色 普通	P2140 98% F4a, 区表採 PL114
第630回 75	手捏土師器	A 10.7 B 4.4 C 6.4	口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	体部内・外面ナデ。	長石・石英・雲母・スコリア 鈍い褐色 普通	P2141 90% 調査2区表採 底部木炭痕
76	手捏土師器	A [8.0] B 3.7 C [5.4]	底部から口縁部片。平底。体部は内傾気味に外傾して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部はやや内傾する。	体部内面ナデ。外面ナデ。下腹ヘラナゲ。	長石・石英・雲母・スコリア・パミス 赤褐色 普通	P2142 40% 調査3区表採 底部木炭痕 PL114
77	埴土器	A 14.2 B 4.8 C 6.8	底部から口縁部片。平底。体部は内傾気味に外傾しながら立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	体部内・外面口クロナデ。底部回転ヘラ切り後底部周縁ヘラナゲ調整。	長石・石英・礫 鈍い赤褐色 普通	P2143 30% PL114 E51, 区表採 底部ヘラ記号
78	高台付埴土器	A [14.2] B 5.9 D [9.1] E 1.2	底部から口縁部片。平底。高台は直線的に高く、体部下位に明確な横をもち、口縁部上位でわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面口クロナデ。底部ヘラナゲ調整。	長石・パミス・小石・針状鉱物 灰色 良好	P2145 30% G21, 区表採 PL114
79	蓋土器	A [17.1] B (2.0)	天井部から口縁部片。低めの天井でなだらかに口縁部に至る。口縁部は短く屈曲する。	天井部回転ヘラ削り調整。内面口クロナデ。	長石・石英・雲母・パミス・針状鉱物 暗灰褐色 良好	P2146 10% 表採 天井外面及び口縁部周縁自然輪
80	埴土器	A [14.2] B (3.3)	天井部から口縁部片。天井部は内傾し、口縁部との境に突出した横をもち、口縁部はわずかに外傾し、頸部に横を掛つ。	口縁部内・外面口クロナデ。	長石・礫 灰色 良好	P2147 15% 表採 天井部外面自然輪 PL114
81	埴土器	B (4.6)	体部から口縁部片。体部は中位で最大径をもち、管靴状を呈する。口縁部は直立的、頸部が尖る。	口縁部及び体部内・外面口クロナデ。	長石 灰黄色 良好	P2148 10% F41, 区表採 PL114 体部1半部に自然輪
82	甗土器	B (2.5) D 6.5 E 0.7	底部から体部片。平底。高台は断面形が逆台形を呈する。体部は内傾気味に立ち上がる。	貼り付け高台。底部回転ヘラ切り後ナゲ調整。内面に灰粒。	長石・スコリア 外：淡黄色。輪： オリーブ黄色 普通	P2149 10% PL114 F31, 区表採 見込自然3。瀬戸・美濃系

第630回83は、埴土器の胴部片で、5本1単位の設定文が4条横位に施されている。

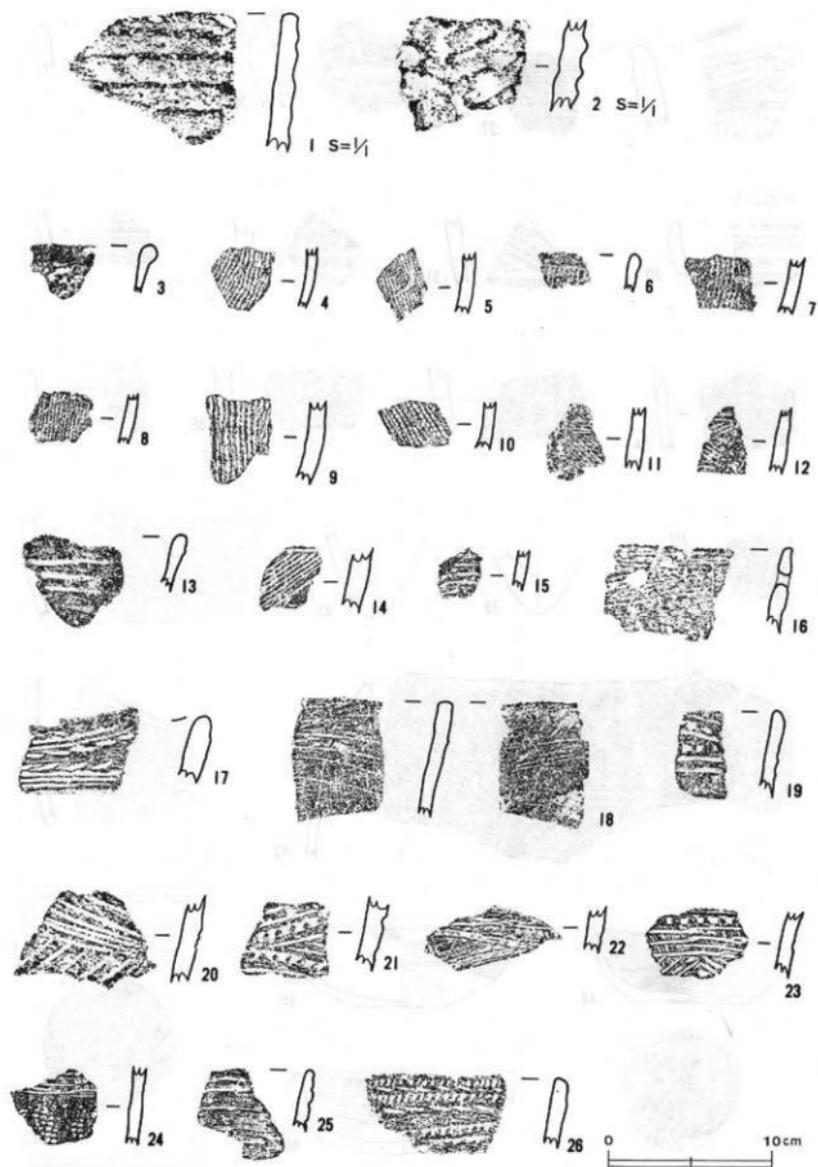
図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)		
第630回84	土製勾玉	(3.0)	1.3	1.2	0.3~1.1	(3.9)	確認面表採 DP2025
85	紡錘車	4.2	4.3	1.1	0.6	17.9	確認面表採 DP2026 PL115
86	上土	2.8	3.1	-	0.6~0.7	21.9	2区表採 DP2027 PL115
87	土	2.9	3.2	-	0.7~0.8	25.9	確認面表採 DP2028 PL115
88	土	3.3	3.6	-	0.8~0.9	29.5	1区確認面表採 DP2029 PL115
第631回89	土	2.9	3.6	-	0.7	34.1	1区表採 DP2030 PL115
90	土	3.7	3.7	-	0.8	47.1	2区表採 DP2031 PL115
91	上土	(4.0)	4.0	-	1.2~1.3	(52.2)	2区表採 DP2032 PL115
92	土	(5.1)	4.8	-	0.7	(101.1)	確認面表採 DP2033 PL115
93	管状土師	4.2	3.8	3.5	1.3~1.4	(63.0)	表採 DP2034
94	管状土師	8.5	4.4	4.4	1.3~1.7	114.9	表採 DP2035

図面番号	種 別	計 測 値					出土地点	備 考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)		
95	管状土師	8.1	4.2	4.7	1.8	117.0	1区確認面表採	DP2036
96	管状土師	8.8	5.3	5.5	2.1~2.3	(244.1)	表 採	DP2037
97	管状土師	9.6	5.2	5.0	2.2~2.3	231.7	3区確認面表採	DP2038
98	尖頭器	(3.0)	2.2	0.7	-	(5.3)	表 面	Q2018 安山岩 旧石器時代
99	尖頭器	5.6	1.4	0.6	-	5.2	表 採	Q2032 頁岩 旧石器時代
100	刺 片	4.1	2.3	0.6	-	3.2	2区確認面表採	Q2025 頁岩 旧石器時代
101	刺 片	3.7	3.8	0.8	-	8.7	G2g 区 表 採	Q2027 安山岩 旧石器時代
96320102	尖頭器	15.05	10.02	3.9	-	500.0	S181-A層中	Q132 ホルンフェルス 旧石器時代 PL119
103	刺 片	7.4	7.1	1.4	-	58.5	S171層上中	Q209 トロトロ石 旧石器時代
96320104	刺 片	8.2	5.1	1.4	-	30.4	2 区 表 採	Q2028 燧灰岩 旧石器時代
105	刺 片	3.6	1.9	0.7	-	2.8	表 採	Q2033 頁岩 旧石器時代
106	燧石斧	5.8	3.2	1.2	-	29.5	1区確認面表採	Q2034 安山岩 縄文時代
107	燧石斧	(6.2)	4.3	1.5	-	(66.7)	1区確認面表採	Q2035 燧灰岩 縄文時代
108	插 器	2.9	2.2	1.0	-	5.8	1 区 表 採	Q2038 チャート
109	插 器	4.0	3.1	1.8	-	17.4	1 区 表 採	Q2039 チャート
110	石 鏃	2.0	1.7	0.4	-	0.8	表 採	Q2063 チャート PL121
111	石 鏃	2.5	2.1	0.7	-	3.0	表 採	Q2064 チャート 未製品
96320112	磨製石斧	6.3	3.8	1.6	-	(55.7)	1区確認面表採	Q2036 燧灰岩
113	切磨形石斧	(11.4)	4.9	2.2	-	(117.9)	G2; 区 表 採	Q2040 砂岩
114	片月石斧	(5.8)	4.8	1.9	-	(78.1)	H2b; 区 確認面表採	Q2037 砂岩
115	石 斧	10.8	6.5	4.0	-	368.5	表 採	Q2041 砂岩
96320115	磨 石	6.9	8.8	4.9	-	336.6	表 採	Q2042 安山岩
117	台 石	14.0	11.8	4.6	-	(1045.4)	E1b; 区 確認面表採	Q2043 砂岩
118	磨製石鏃形遺品	(6.0)	3.5	0.9	-	(119.0)	2 区確認面表採	Q2044 燧灰岩
119	磨製石鏃形遺品	6.4	(2.7)	0.6	-	(10.7)	2 区 表 採	Q2045 滑石
120	白 玉	0.8	0.8	0.3	0.2~0.3	0.2	2区確認面表採	Q2046 滑石
121	白 玉	0.5	0.5	0.4	0.2	0.1	E1b; 区 確認面表採	Q2047 滑石
122	白 玉	0.5	0.4	0.3	0.2	0.1	3 区 表 採	Q2048 滑石
123	白 玉	0.7	0.7	0.4	0.2	(0.2)	E1; 区 確認面表採	Q2068 滑石
124	磨 玉	2.1	0.7	-	0.3	(1.8)	1区確認面表採	Q2049 緑色凝灰岩
96320125	有孔円板	1.7	1.7	0.3	0.15	1.6	2 区 表 採	Q2050 滑石
126	有孔円板	3.2	3.4	0.5	0.2	8.0	2 区 表 採	Q2051 滑石
127	双孔円板	2.0	2.2	0.3	0.2	2.1	2 区 表 採	Q2052 滑石
128	双孔円板	2.0	2.2	0.2	0.2	1.8	2区確認面表採	Q2053 滑石
129	双孔円板	2.1	2.5	0.3	0.15	3.2	2 区 表 採	Q2054 滑石
130	双孔円板	(2.1)	2.6	0.4	0.2	(4.4)	表 採	Q2055 滑石
131	双孔円板	3.7	3.1	0.5	0.2	12.7	-	Q2056 滑石
132	双孔円板	3.8	4.1	0.5	0.2	(10.2)	3 区 表 採	Q2057 滑石
133	双孔円板	2.3	2.3	0.3	0.3	(2.5)	1 区 表 採	Q2058 滑石
134	双孔円板	2.3	4.0	0.5	0.2	(7.4)	2区中央部表採	Q2059 滑石
135	双孔円板	3.2	3.7	0.6	0.2	(8.8)	2 区 表 採	Q2060 滑石
136	砥 石	(6.2)	2.0	1.6	-	(22.3)	表 採	Q2061 凝灰岩 (風化が著しい)
137	小 明	12.2	2.9	0.8	-	(33.3)	E1b; 区 確認面表採	Q2062 褐色片岩 (表面割傷)
138	葉留針	6.0	0.5	0.3	-	2.5	3 区 表 採	M2015 青銅 PL122
139	葉留針	4.6	0.8	0.3	-	2.4	5区中央部表採	M2016 青銅 PL122
140	鋸 方	2.0	3.1	0.2	0.15~0.2	4.6	E1; 区 確認面表採	M2017 青銅 PL124

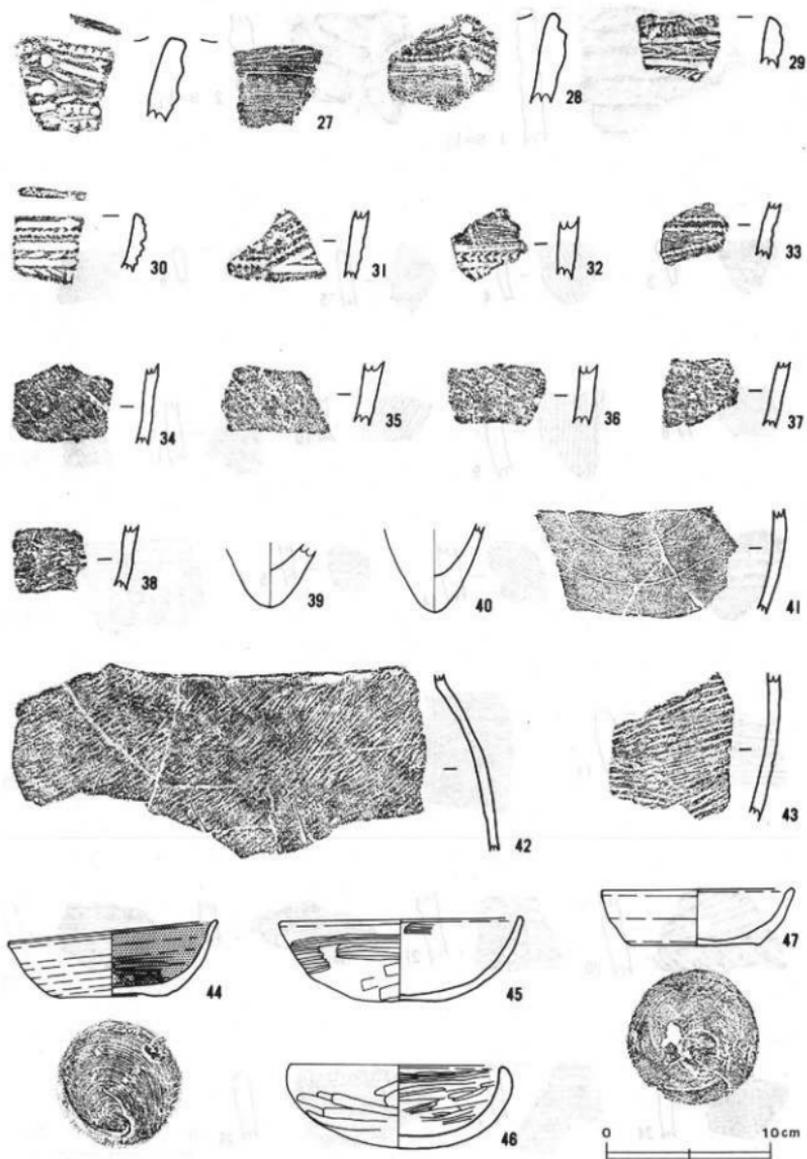
図版番号	模 別	計 測 値					出土地点	備 考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)		
141	鉄 銀	8.4	4.7	0.5	-	17.2	表 採	M2018 鉄
142	刀 子	-	2.0	0.4	-	(25.1)	3 区 表 採	M2019 鉄
143	不 明	(10.1)	2.7	2.2~2.4	-	(61.8)	表 採	M2020 鉄 鋼の可能性
第637図144	鉄 弁	7.4	4.2	1.8	-	90.8	Aトレンチ内	M2045 鉄
145	釘	(8.2)	1.5	0.7	-	(12.5)	D36区埋蔵品表採	M2021 鉄
146	角 釘	8.1	2.0	0.9	-	30.6	3 区 表 採	M2022 鉄
147	鋼	(6.2)	2.1	0.3	-	(8.1)	表 採	M2023 鉄
148	標 榜	(8.1)	1.2	0.6~1.2	-	(12.5)	3 区 表 採	M2024 銅 吸L1, 扉字の一部残存 PL122

第637図149は軒丸瓦で、布目直が見られる。

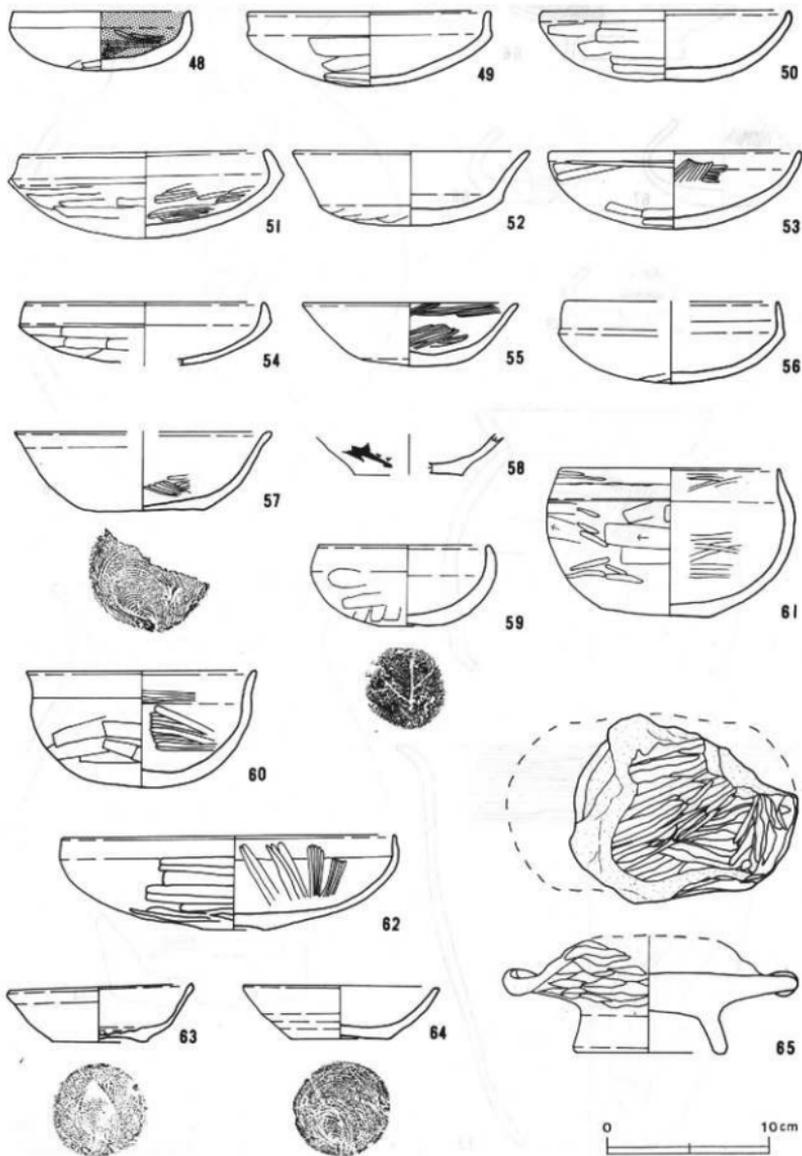
図版番号	鏡 種	初 鋳 年		出土地点	備 考
		時 代	年号 (西暦)		
第67図150	寛永通寶	江 戸	-	G2a, 区埋蔵品表採	M2025 PL122
151	寛永通寶	江 戸	-	G5a, 区埋蔵品表採	M2026 PL122
152	寛永通寶	江 戸	-	G2a, 区埋蔵品表採	M2027 PL122
153	○ ○ ○ ○	-	-	1 区 表 採	M2028 PL122
154	寛永通寶	江 戸	寛文8年(1668)	G2a, 区埋蔵品表採	M2029 背に文 PL122
155	寛永通寶	江 戸	寛永13年(1636)	G2a, 区埋蔵品表採	M2030 PL122
156	寛永通寶	江 戸	寛文8年(1668)	G2a, 区埋蔵品表採	M2031 背に文 PL122
157	寛永通寶	江 戸	寛永13年(1636)	G2a, 区埋蔵品表採	M2032 PL122
158	寛永通寶	江 戸	寛永13年(1636)	G2a, 区埋蔵品表採	M2033 PL122
第68図159	寛永通寶	江 戸	寛文8年(1668)	G2a, 区埋蔵品表採	M2034 背に文 PL122
160	寛永通寶	江 戸	寛文8年(1668)	G2a, 区埋蔵品表採	M2035 背に文 PL122
161	寛永通寶	江 戸	寛文8年(1668)	G2a, 区埋蔵品表採	M2036 背に文 PL122
162	寛永通寶	江 戸	寛永13年(1636)	G2a, 区埋蔵品表採	M2037 PL122
163	寛永通寶	江 戸	寛文8年(1668)	G2a, 区埋蔵品表採	M2038 背に文 PL122
164	寛永通寶	江 戸	寛永13年(1636)	G2a, 区埋蔵品表採	M2039 PL122
165	寛永通寶	江 戸	寛文8年(1668)	G2a, 区埋蔵品表採	M2040 背に文 PL122
166	寛永通寶	江 戸	寛文8年(1668)	G2a, 区埋蔵品表採	M2041 背に文 PL122
167	寛永通寶	江 戸	寛永13年(1636)	G2a, 区埋蔵品表採	M2042 PL122
168	寛永通寶	江 戸	寛文8年(1668)	G2a, 区埋蔵品表採	M2043 PL122
169	○ ○ ○ ○	-	-	2 区 表 採	M2044 PL122



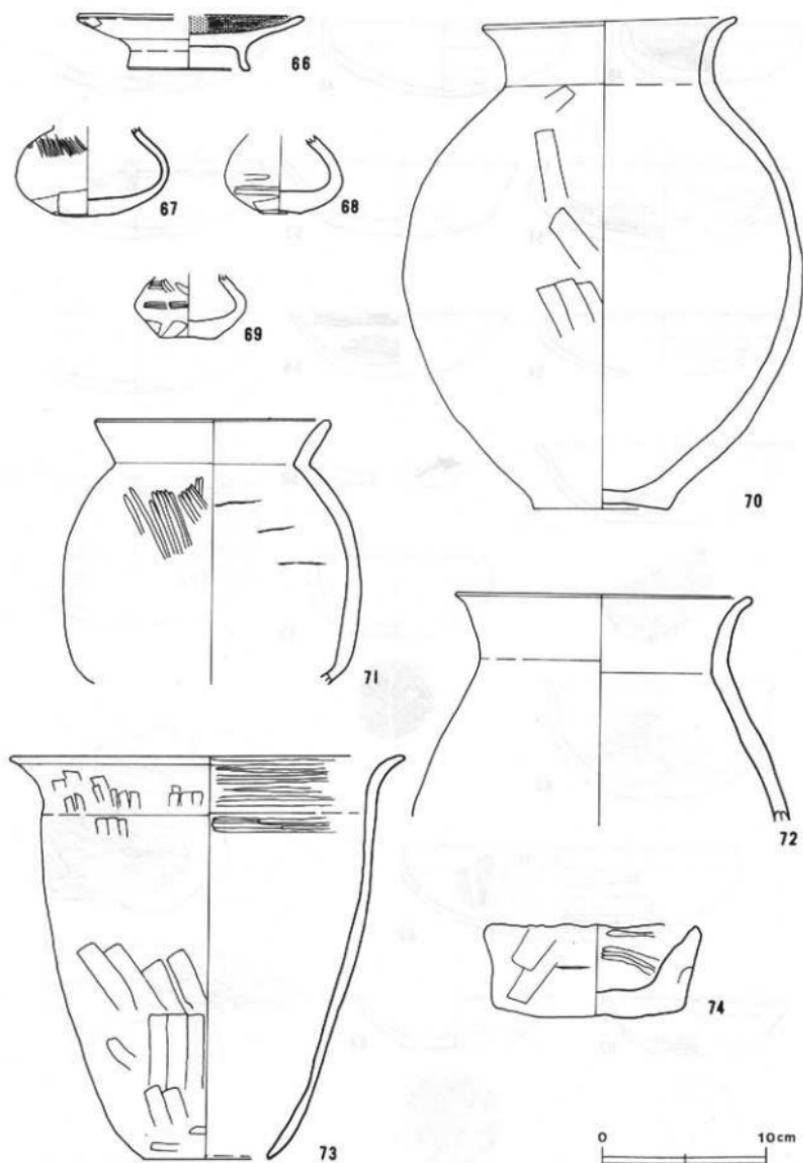
第626圖 遺構外出土遺物実測図・拓影図(1)



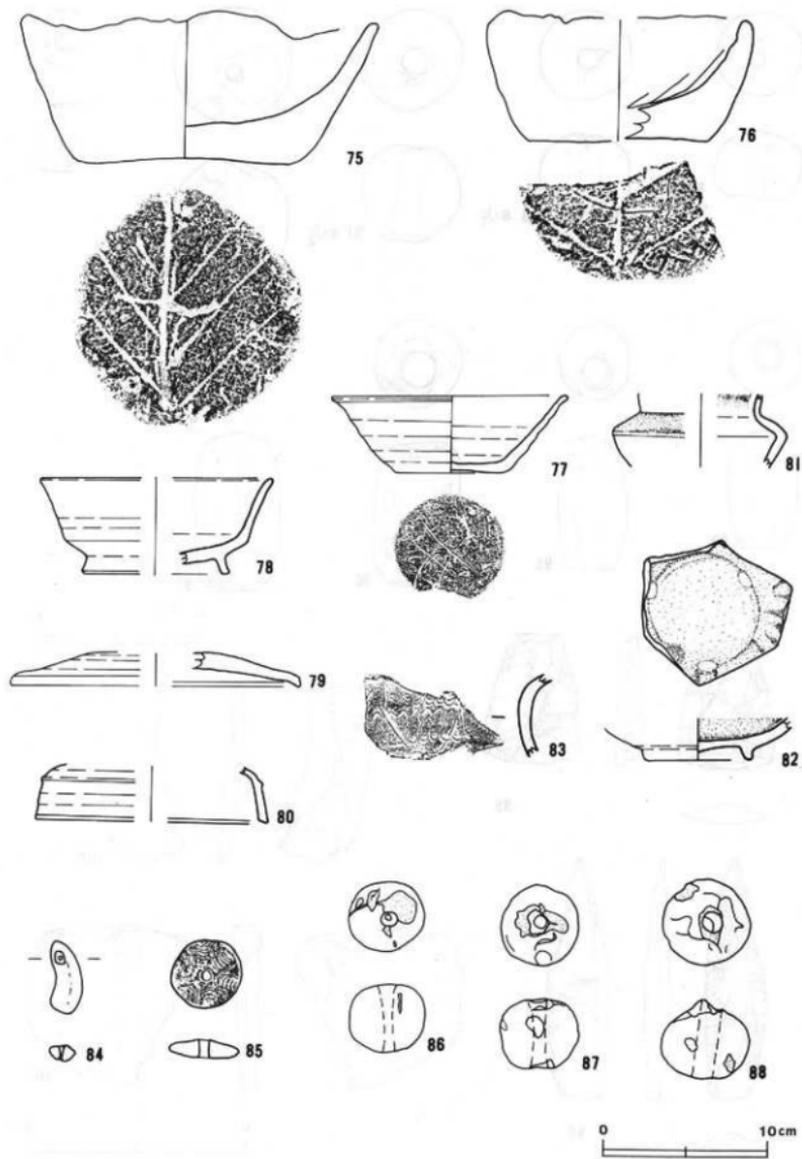
第627图 遺構外出土遺物実測図・拓影図(2)



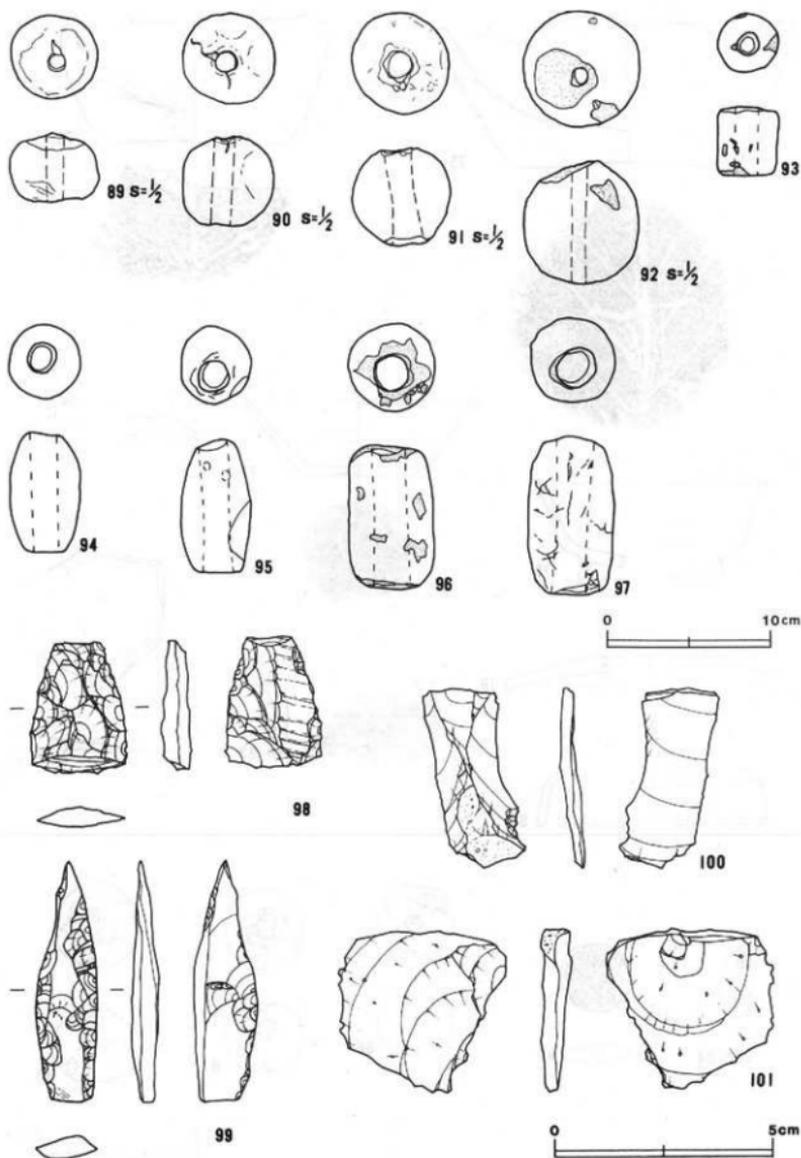
第628图 遗構外出土遺物実測図(3)



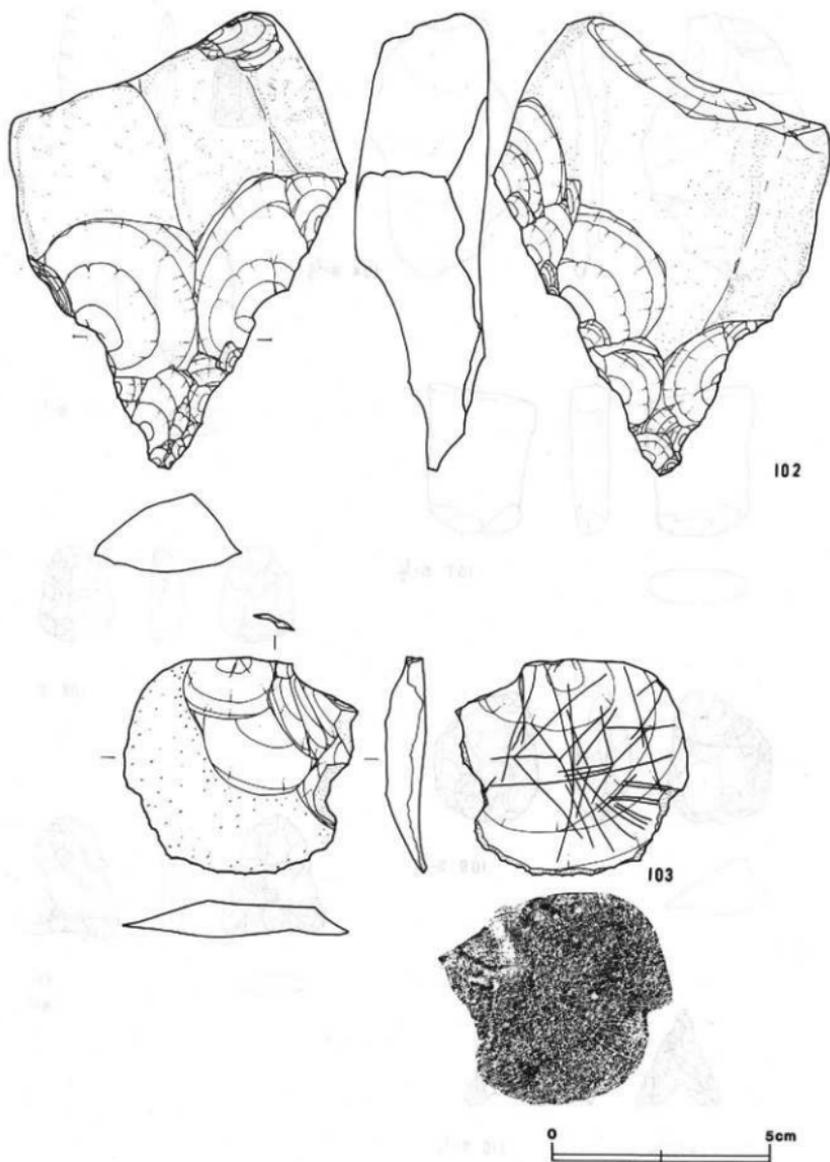
第629图 遗構外出土遺物実測図(4)



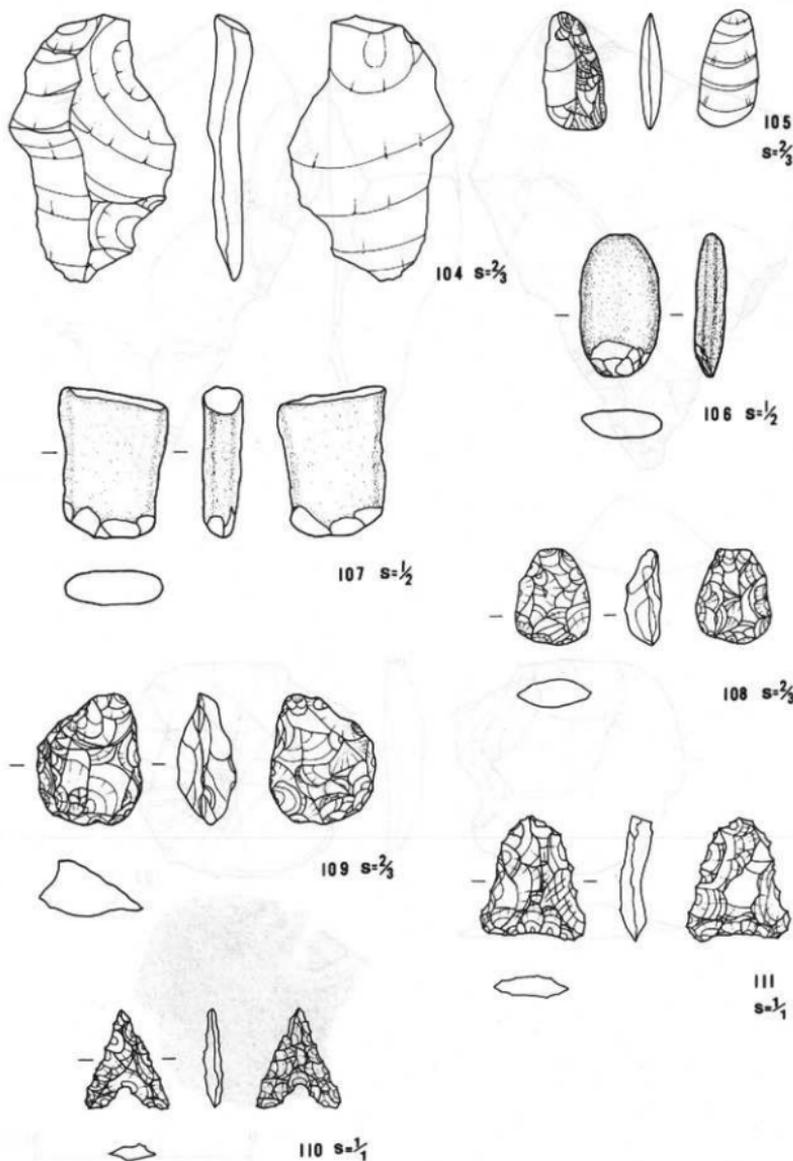
第630图 遺構外出土遺物実測図(5)



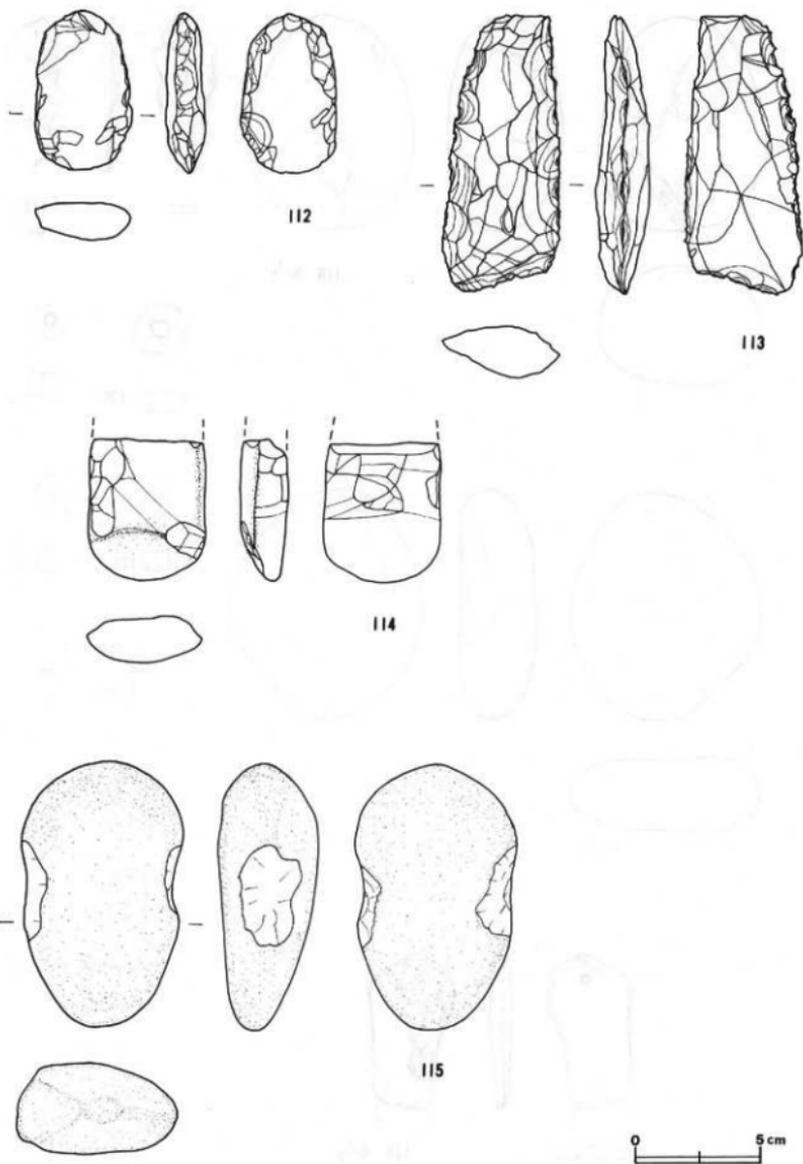
第631图 遺構外出土遺物実測図(6)



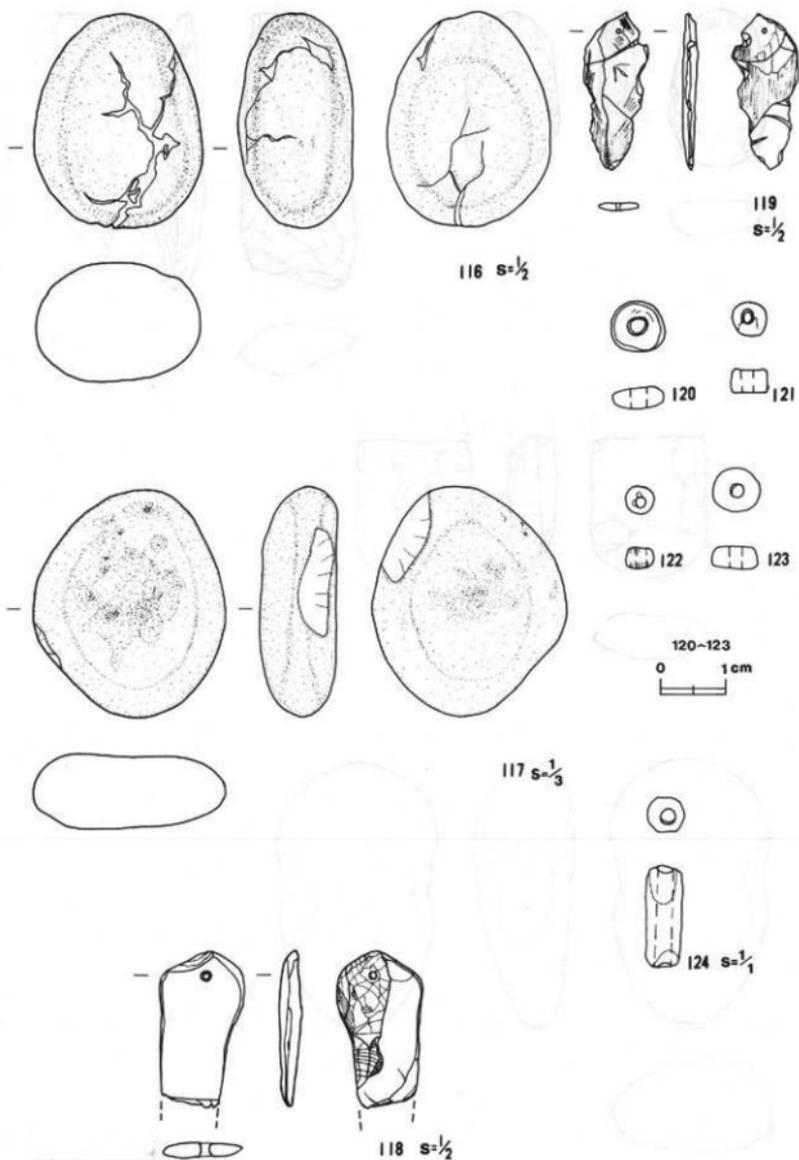
第632图 遺構外出土遺物実測図(7)



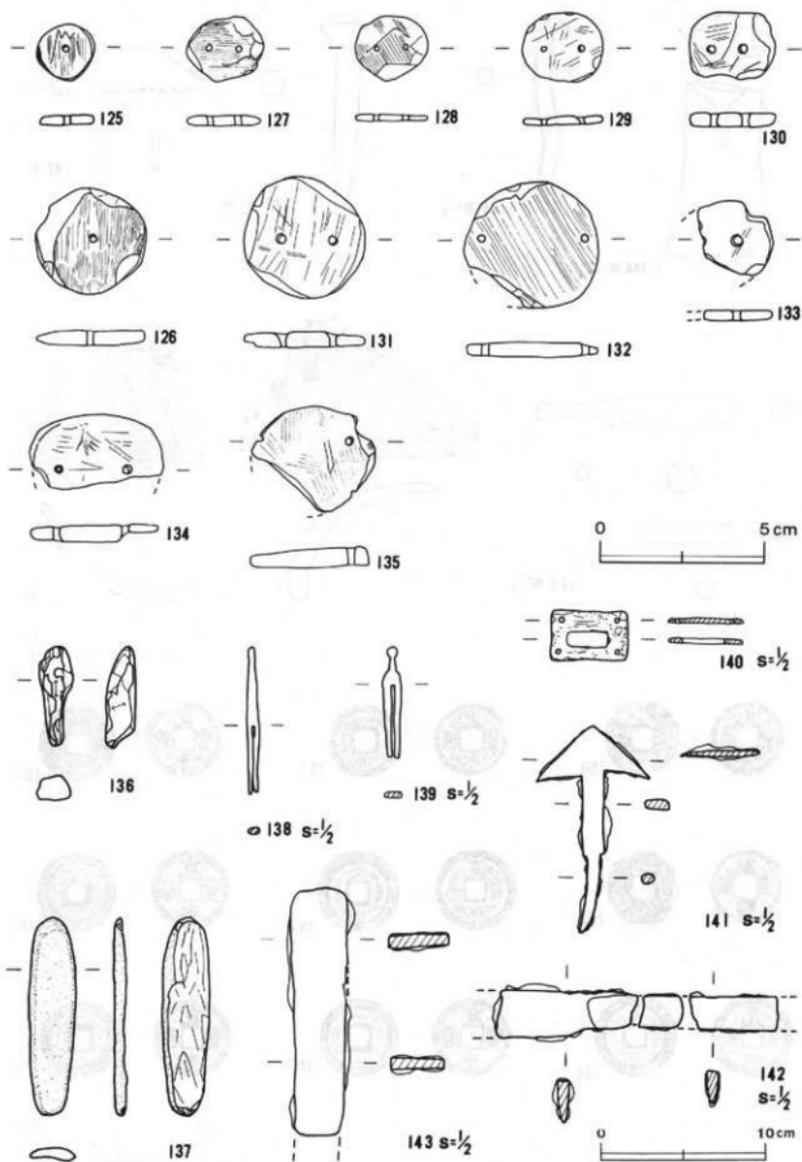
第633图 遗構外出土遺物実測図(8)



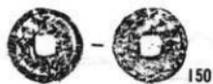
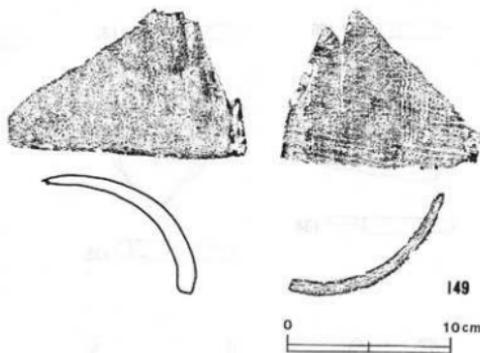
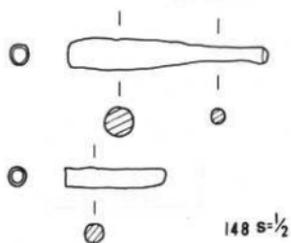
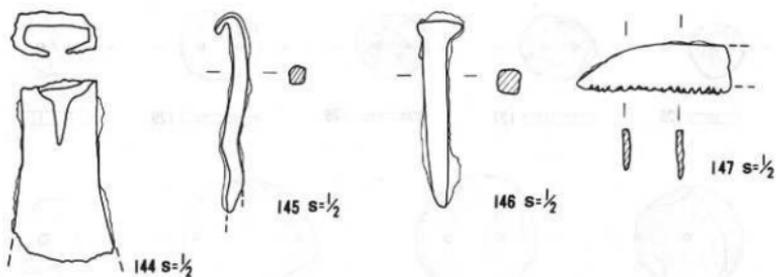
第634图 遺構外出土遺物実測図(9)



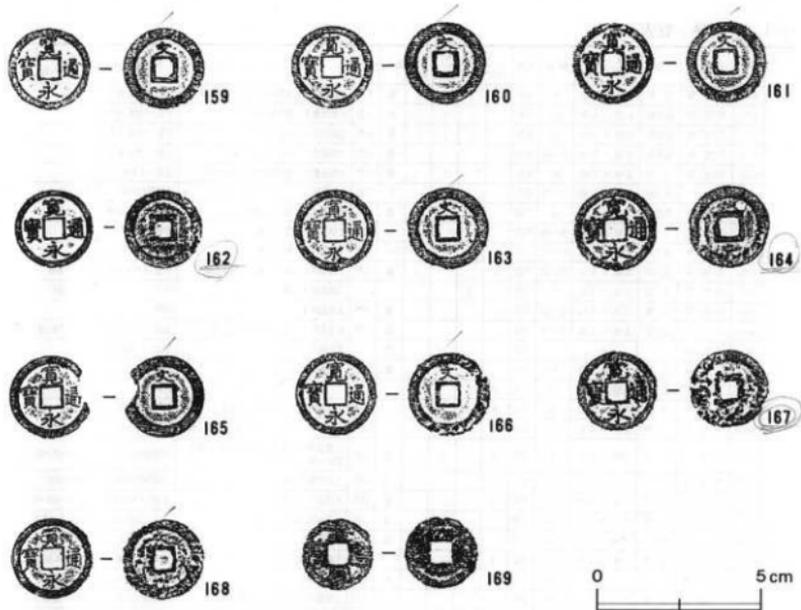
第635图 遺構外出土遺物実測図10



第636图 遼構外出土遺物実測图(11)



第637图 遗構外出土遺物実測・拓影图12



第638图 遺構外出土遺物実測・拓影図13

表1 住居路一覧表

道路番号	位置	道路方向	平面形	集積 規模(延床)	収容 戸数	築年	四角区画		敷地 面積(㎡)	用途	山手道路	認定 区分	備考・自治体 区分	
							北北西	北北東						
2	271	N-0°-0°	方形	3.96 × 3.60	30	現築	0	2	1	電	人高	上野駅西1、池袋駅西1、有楽町線1	平築(9世紀前半)	
3	272	N-30°-0°	方形	4.22 × 3.76	31	現築	1	1	1	電	人高	上野駅西1、池袋駅西1	平築(9世紀前半)	
4	273	N-60°-0°	長方形	3.06 × 2.04	25	現築	1	1	1	電	自然	上野駅西1、池袋駅西1	平築(9世紀後半)	
5	274	N-2°-0°	長方形	4.36 × 3.74	41~60	現築	1	1	1	電	自然	上野駅西1、池袋駅西1、有楽町線1	平築(9世紀後半)	
6	275	N-30°-0°	方形	3.04 × 2.86	60	平築	*	1	1	電	自然	上野駅西1、池袋駅西1、有楽町線1	平築(8世紀)	
7	276	-	長方形	3.20 × 2.40	19~16	現築	1	1	1	電	自然	上野駅西1	古蹟時代中期	
8	277	N-60°-0°	長方形	3.36 × 3.04	68	現築	1	1	1	電	自然	池袋駅西2、池袋1、池袋西1	平築(9世紀前半)	
9	278	N-62°-0°	方形	2.92 × 2.86	20~28	現築	1	1	1	電	自然	池袋駅西1、池袋1、池袋西1	古蹟時代中期	
10	279	N-62°-0°	長方形	4.26 × 2.06	10~16	現築	1	1	1	電	自然	池袋駅西1、池袋1、池袋西1	古蹟時代中期	
11	279	N-11°-0°	長方形	3.56 × 3.18	22~26	現築	3	1	1	電	自然	池袋駅西1、池袋1、池袋西1	平築(9世紀前半)	
12	281	N-60°-0°	方形	4.18 × 3.84	32	現築	4	1	1	電	自然	池袋駅西1、池袋1、池袋西1	平築	
13	282	N-2°-0°	方形	3.36 × 3.16	30~20	現築	1	1	1	電	自然	池袋駅西1	不明	
14	283	N-7°-0°	長方形	03.00 × 3.03	28~60	現築	1	1	1	電	自然	池袋駅西1、有楽町線1、池袋西1、池袋西2	平築、平築時代	
15	284	N-20°-0°	-	-	-	現築	1	1	1	電	自然	池袋駅西1、池袋1	平築(9世紀)	
16	285	N-55°-0°	方形	3.42 × 3.28	38	現築	2	1	1	電	自然	池袋駅西1、池袋1	平築	
17	286	N-2°-0°	長方形	3.98 × 2.72	30	現築	2	3	1	電	自然	池袋駅西1	不明	
18-A	287	N-30°-0°	方形	3.71 × 3.71	38	現築	2	1	1	電	自然	池袋駅西1、池袋西1、池袋西2	古蹟時代中期	
18-B	287	N-47°-0°	方形	03.62 × 0.62	17	現築	2	3	1	電	自然	池袋駅西1、池袋西1、池袋西2、池袋西3	古蹟時代中期	
19	288	N-50°-0°	方形	6.03 × 6.17	37	現築	4	5	1	1	電	自然	池袋駅西1、池袋西1、池袋西2、池袋西3、池袋西4	古蹟時代中期
20	289	N-50°-0°	-	-	17	平築	2	1	1	電	自然	池袋駅西1、池袋1	古蹟時代中期	
21-A	290	N-33°-0°	方形	16.03 × 4.03	18	平築	4	1	1	電	自然	池袋駅西1、池袋1	平築(9世紀前半)	
21-B	290	N-44°-0°	方形	3.00 × 3.00	23	平築	1	1	1	電	自然	池袋駅西1、池袋1	平築(9世紀)	
22	291	N-40°-0°	長方形	4.08 × 3.92	41	現築	3	1	1	電	自然	池袋駅西1	平築(9世紀)	
23	292	N-0°-0°	長方形	17.85 × 7.82	12	現築	3	1	1	1	電	自然	池袋駅西1、池袋西1	古蹟時代中期
24	293	N-25°-0°	-	-	21	現築	3	1	1	電	自然	池袋駅西1	古蹟時代中期	
25	294	N-36°-0°	方形	6.25 × 6.25	20	現築	1	1	1	電	自然	池袋駅西1、池袋西1、池袋西2	古蹟時代中期	
26	295	N-40°-0°	方形	6.83 × 6.84	32	現築	4	3	1	1	電	自然	池袋駅西1、池袋西1、池袋西2、池袋西3	古蹟時代中期
27	296	N-0°-0°	方形	6.83 × 6.83	33	現築	1	1	1	1	電	自然	池袋駅西1、池袋西1	平築(10世紀)
28	297	N-20°-0°	方形	5.92 × 5.79	36	現築	4	1	1	1	電	自然	池袋駅西1、池袋西1、池袋西2	古蹟時代中期
29	298	N-9°-0°	長方形	5.00 × 4.66	21	現築	1	1	1	1	電	人高	池袋駅西1、池袋1	平築(10世紀)
30	299	N-52°-0°	長方形	6.42 × 6.42	7~10	現築	4	1	1	1	電	人高	池袋駅西1、池袋西1、池袋西2	古蹟時代中期
31	300	N-2°-0°	長方形	5.77 × 5.49	7	現築	1	1	1	1	電	自然	池袋駅西1、池袋西1、池袋西2、池袋西3	古蹟時代中期
32	301	N-22°-0°	方形	2.40 × 4.80	11	現築	2	2	1	1	電	自然	池袋駅西1、池袋西1	平築(10世紀)
33	302	N-40°-0°	長方形	5.36 × 3.07	16	現築	1	1	1	1	電	自然	池袋駅西1、池袋西1	古蹟時代中期
34	303	N-33°-0°	方形	6.23 × 6.21	25	現築	4	1	1	1	電	人高	池袋駅西1、池袋西1、池袋西2、池袋西3	古蹟時代中期
35	304	N-9°-0°	長方形	5.51 × 4.27	17	現築	1	1	1	1	電	人高	池袋駅西1、池袋西1	平築(10世紀)
36	305	N-47°-0°	長方形	3.89 × 2.81	31	現築	6	6	1	1	電	人高	池袋駅西1	平築(10世紀)
37	306	N-44°-0°	方形	6.37 × 4.29	18	現築	4	1	1	1	電	人高	池袋駅西1、池袋西1、池袋西2	平築(10世紀)
38	307	N-22°-0°	長方形	3.36 × 2.77	14	現築	1	2	1	1	電	自然	池袋1	不明
39	308	N-10°-0°	長方形	4.85 × 4.41	15	現築	2	2	1	1	電	自然	池袋駅西1、池袋西1、池袋西2	古蹟時代中期
40	309	N-25°-0°	長方形	3.43 × 4.72	15	現築	3	1	1	1	電	自然	池袋駅西1、池袋西1	古蹟時代中期
41	310	N-3°-0°	方形	2.85 × 2.53	6~15	現築	1	1	1	1	電	自然	池袋1	不明
42	311	N-21°-0°	方形	4.85 × 3.34	18	現築	2	1	1	1	電	自然	池袋駅西1、池袋西1、池袋西2	古蹟時代中期
43	312	N-51°-0°	方形	3.48 × 3.50	7~13	現築	2	2	1	1	電	自然	池袋駅西1、池袋西1	平築(10世紀)
44	313	N-40°-0°	長方形	6.95 × 6.95	21	現築	1	1	1	1	電	自然	池袋駅西1、池袋1	古蹟時代中期
45	314	N-63°-0°	方形	3.35 × 2.93	41	現築	1	1	1	1	電	自然	池袋駅西1、池袋西1	古蹟時代中期
46	315	N-64°-0°	長方形	4.85 × 3.29	6~7	現築	4	2	1	1	電	自然	池袋駅西1、池袋西1、池袋西2	古蹟時代中期
47	316	N-49°-0°	長方形	3.85 × 3.28	28	現築	2	2	1	1	電	自然	池袋駅西1、池袋西1、池袋西2	古蹟時代中期
48-A	317	N-41°-0°	-	-	33	現築	2	1	1	1	電	自然	池袋駅西1、池袋西1、池袋西2、池袋西3	古蹟時代中期
48-B	317	N-41°-0°	方形	13.72 × 3.72	31	現築	1	1	1	1	電	自然	池袋駅西1	平築(10世紀)
49	318	N-47°-0°	長方形	4.25 × 4.21	17	現築	1	1	1	1	電	自然	池袋駅西1、池袋西1	古蹟時代中期
50	319	N-40°-0°	長方形	5.04 × 4.83	37	現築	4	1	1	1	電	自然	池袋駅西1、池袋西1、池袋西2、池袋西3、池袋西4、池袋西5、池袋西6、池袋西7、池袋西8	古蹟時代中期
51	320	N-12°-0°	長方形	4.23 × 4.58	33	現築	1	1	1	1	電	自然	池袋駅西1、池袋西1、池袋西2、池袋西3	古蹟時代中期
52	321	N-25°-0°	-	-	32	現築	1	1	1	1	電	人高	池袋駅西1	古蹟時代中期
53-A	322	N-3°-0°	長方形	3.67 × 3.02	33	現築	1	1	1	1	電	自然	池袋駅西1、池袋西1、池袋西2	平築(10世紀)
53-B	322	-	-	-	-	現築	1	1	1	1	電	自然	池袋駅西1	古蹟時代中期

行別 番号	位置	方向	平面形	縦 長(米)	横 長(米)	築 年	内 部 隔 壁		電 力	備 考	出 入 道 筋	指定時期	備考・新旧関係 (注-1)		
							柱 間(メートル)	否 定 入 口							
129-A	F4d	N 56° W	方 形	4.70 × 4.55	35	平屋	2	1	電	自然	土留跡1・礎石1・高坪3・礎石1・軒廻 廊門2・礎1・礎礎半1・礎半1	古墳時代中期	SI119 A-本葬→ SI120-B・120-C		
129-B	F4d	N 16° W	方 形	7.10 × 6.80	25	平屋	4	3	1	電	自然	土留跡6・礎1・礎1・礎4・土玉2・ 有孔円板1・礎石2・刀1	古墳時代後期	SI119-A・119-B・ 121-A・121-B→本 葬→SI120-C	
130-C	F1e2	E 5° W	方 形	3.74 × 3.44	32	平屋	3			電	自然	礎礎跡2・礎1	奈良 (8世紀)	SI120-A・120-B・本 葬	
131-A	F4c	N 22° W	方 形	3.22 × 2.20	58	平屋	13	2		電	人為	土留跡1・礎1・礎1・基礎廊口3・ 礎礎半2	古墳時代中期	SI120-A→本葬→ SI120-B	
131-B	F4c	N 25° W	方 形	4.30 × 4.30	17	平屋		2		自然	土留跡跡2・礎2・礎礎跡1	古墳時代小期	本葬→SI120-B・2 A		
132	F4c	N 44° E	方 形	4.57 × 4.48	27-41	平屋	4	1		伊	自然	土留跡跡1・礎1・手置土留1・礎石1	古墳時代中期	本葬→SI123	
133	F4d	N 21° W	方 形	6.55 × 6.40	14-41	平屋	4		1	電	自然	土留跡跡3・礎1・礎1・礎2・礎礎上 部1・土玉5・礎石4・与玉1・礎石2	古墳時代後期	SI122・SI100-103→ 本葬→SI101・102	
134	F4f	K 34° W	方 形	6.60 × 6.50	23-62	平屋	4	1	1	伊	自然	土留跡跡7・礎跡7・礎6・礎礎礎1・ 礎3・手置土留2・礎礎半1・土玉1・ 有孔円板3・刺形石界1・礎石1・礎石 1・刀1	古墳時代中期	本葬→SI125・125	
135	F4h	N 40° E	長方形	4.42 × 3.82	30-33	平屋	1			自然	土留跡跡2・礎1・手置土留1・礎1	古墳時代後期	SI134-本葬		
135	F4f	N 4° W	方 形	6.72 × 6.27	34-42	平屋	4	2		電	自然	土留跡跡1・礎1	古墳時代後期	SI134→本葬→SI135	
137	F4i	N 75° E	長方形	3.30 × 3.45	15	平屋		1		電	自然	土留跡高台付坪1・礎礎礎跡1・礎石1	平安 (10世紀)	SI135・139→本葬	
138	F4h	K 2° W	方 形	7.29 × 6.80	32-50	平屋	3	6		電	自然	土留跡跡1・礎2・ニニヤ上土留1・ 支脚1・礎礎16・礎礎跡1	古墳時代後期	本葬→SI127	
139	F4i	-	-	-	20	平屋		2		自然	土留跡跡1・礎1・礎1	古墳時代後期	本葬→SI127		
139	F4d	K 45° W	方 形	4.70 × 4.70	-	平屋				電	自然	土留跡跡2・礎1	古墳時代後期	SI126→本葬	
131	E4d	N 5° W	方 形	5.13 × 5.13	39-46	平屋	2	1	1	自然	土留跡跡1	古墳時代後期	本葬→SI125		
132-A	E4d	N 51° W	方 形	7.35 × 6.85	37-47	平屋	3	1	2	電	自然	土留跡跡5・高坪1・与玉1・有孔円板1	古墳時代後期	本葬→SI132-B・133	
132-B	E4d	N 4° E	方 形	3.15 × 3.07	-	平屋	2		1	電	自然	土留跡跡1・礎1・礎礎跡1	平安 (10世紀)	SI132-A→本葬	
133	E4f	N 42° E	方 形	2.80 × 2.80	-	平屋		3		電	人為	土留跡跡2・礎礎礎跡1	平安 (10世紀)	SI132-A→本葬	
134	E4f	N 59° W	方 形	5.71 × 5.71	14-22	平屋	3	1		電	自然	土留跡跡1・礎1	古墳時代後期	SI135→本葬	
135-A	E4g	K 39° W	方 形	4.20 × 3.96	39-51	平屋	4		1	伊	人為	土留跡跡4・礎1・礎1・礎礎礎跡1・礎 礎半1・有孔円板3・与玉1・礎石1	古墳時代小期	SI136→本葬→SI134 SI135→本葬	
135-B	E4g	N 39° W	方 形	4.20 × 3.96	39-51	平屋	1	1	1	伊	人為	有孔円板1・与玉1	古墳時代小期	本葬→SI135 A	
136-A	E4h	N 3° W	長方形	6.66 × 6.23	11-20	平屋	3	4	1	電	自然	土留跡跡1・小基壇1・礎1・与玉1・基礎 礎1	古墳時代中期	SI135-B→本葬	
136-B	E4h	N 5° W	方 形	8.55 × 7.66	35	平屋	3	1	1	1	電	人為	土留跡跡高台付坪1・礎1・礎1・刀1	平安 (10世紀)	SI137→本葬
137	E4i	N 47° E	-	-	-	平屋				電	自然	土留跡高台付坪1・礎1・礎1・刀1	平安 (10世紀)	SI137→本葬	
138	E4e	K 8° W	-	-	40	平屋				電	自然	礎礎跡1	平安 (8世紀末)		
139	E4i	K 33° E	方 形	3.41 × 2.27	60-70	平屋		2	1	電	自然	礎礎跡1・刺形礎礎品1	平安 (8～9世紀)		
140	F4a	N 22° W	方 形	6.16 × 6.06	29-33	平屋	4		1	電	自然	土留跡跡2・礎1・礎礎礎跡1・土玉 1・有孔円板1・礎礎1	古墳時代後期	SI141 A→本葬→ SI142・146 A	
141-A	E4b	N 25° W	方 形	3.34 × 3.81	-	-	-	-		電	自然	土留跡跡1・礎石1	不明	SI141→本葬→ SI140・142	
141-B	E4c	N 22° W	方 形	3.90 × 3.90	20	-	-	-		自然	土留跡跡3・礎1・基礎廊口1	古墳時代中期	本葬→SI141 A・142		
142	E4c	N 47° W	長方形	5.80 × 4.96	40	平屋	4	1	電	自然	土留跡跡19・高台付坪1・礎1・手置土留 1・礎礎礎跡1・高台付坪1・礎礎礎跡 1	平安 (10世紀)	SI140・141 A・141 B→本葬		
143	E4d	K 37° W	方 形	3.80 × 5.80	19-23	平屋	2	1	1	和	自然	土留跡跡2・礎2・基礎廊口1・礎石1	古墳時代中期	本葬→SI123-104・144	
144	E4d	N 42° E	長方形	4.40 × 5.80	14-28	平屋	4	1	電	自然	土留跡跡7・礎1・高坪1・礎1・礎1・基礎 礎1・礎礎半1・支脚1・有孔円板1	古墳時代後期	SI143→本葬→ SI145 A		
145 A	F4c	N 15° W	方 形	6.10 × 2.86	26-33	平屋	2	1	1	電	自然	礎礎跡跡1・土留跡跡2・支脚土留1	奈良 (8世紀)	SI145-C→本葬→ SI145-B	
145 B	F4c	N 40° W	長方形	4.78 × 4.20	32-35	平屋	2	1	1	電	自然	土留跡跡1・礎礎跡跡1・礎1・基礎礎 跡1	平安 (9世紀)	本葬→SI145-B	
145 C	F5c	K 34° W	方 形	4.00 × 4.00	25	平屋	1	1		電	自然	礎石1	不明	本葬→SI145-B	
146-A	F4h	N 8° E	方 形	3.90 × 3.78	50	平屋	1	1	電	自然	土留跡跡6・高台付坪3	平安 (10世紀)	SI146 A・146 B・146 C→本 葬		
146 B	F4h	N 36° W	-	-	34	平屋	1			自然	土留跡跡1	不明	本葬→SI146 A・ 146 A		
147	F4a	-	-	-	35	平屋				-	土留跡跡1・有孔円板1・刺形礎礎品1	古墳時代中期	本葬→SI146 A		
148-A	F4a	N 22° W	方 形	6.14 × 6.14	26	平屋	1	2	1	電	自然	土留跡跡1・礎1・ナイフ形石部2	古墳時代後期	SI146 B・147・149 →本葬→SI146 A・ 146 B	
148-B	F4a	N 20° W	方 形	4.06 × 3.98	52	平屋	4	1	電	自然	土留跡跡4・礎4・礎2・手置土留1・ 礎礎跡1・礎石1・支脚1・礎礎礎跡 1	古墳時代後期	SI148 A→本葬→ SI146 A		
149	F5b	N 35° W	-	-	15-17	平屋				自然	土留跡跡3	古墳時代後期	SI146-B→本葬→ SI148 A		
150 A	F4c	K 77° E	方 形	3.45 × 3.45	33-45	平屋				電	自然	土留跡跡1・礎礎跡跡1・高台付坪1・与玉1	平安 (9世紀)	SI145→SI139 B→4 本葬	
150-B	E4d	N 20° W	方 形	2.37 × 2.37	-	平屋				電	自然	土留跡跡2	古墳時代後期	SI141→本葬→SI139 A	

自標 編號	坐標	坐標方向	坐標形 狀	面積 長×寬	壁高	深	門 窗 形 式			電 氣	備 註	回 土 遺 物	斷 定 時 期	備考、西川電機 (出) 事務所
							土階代 上	土階代 下	土階代 入口					
194	D6j	N 32° W	方形	5.95 × 5.95	40-45	平	2			1	欄	土階部1・2、土階部2・3、土階部3、土階部4	奈良(8世紀)	本館-S197
197	D6i	N 17° W	方形	4.74 × 4.71	21-31	平	2				欄	土階部1・2、土階部3、土階部4、土階部5、土階部6	奈良(8世紀)	SI196・198-A→本館-S197
198-A	D6h	N 25° W	方形	6.08 × 5.92	20	平	3				欄	土階部1、土階部2	古墳時代前期	SI200→本館、SI199-B・199・197
198-B	D6h	N 27° W	方形	3.20 × 3.07	21	平	4				欄	土階部1、土階部2	平安(10世紀)	SI199-A・SI199→本館
199	D6g	N 20° W	方形	4.05 × 3.90	22	平	3				欄	土階部1、土階部2、土階部3	平安(8世紀)	SI198-A→本館、SI198-B
200	D6b	N 18° E	方形	5.75 × 5.75	22-25	平	3	1			欄	土階部1・2、土階部3、土階部4	古墳時代前期	本館-SI199・SI200
201	D5h	N 20° W	方形	4.72 × 4.67	22-25	平	3				欄	土階部1、土階部2	奈良(8世紀)	SI200→本館-SI201
202	D5b	N 45° E	長方形	3.48 × 2.94	10-15	平	3	1			欄	土階部1、土階部2	平安(10世紀)	SI211→本館
202	E4j	N 35° W	方形	3.67 × 3.12	35-48	平	2				欄	土階部1	平安(9世紀)	
204	D6g	N 25° W	方形	5.42 × 6.12	22	平	3			1	欄	土階部1・2、土階部3、土階部4、土階部5、土階部6、土階部7、土階部8、土階部9、土階部10、土階部11、土階部12、土階部13、土階部14	古墳時代前期	
205	D5f	N 42° E	長方形	7.98 × 4.26	10-12	平	6				欄	土階部1	古墳時代前期	SD 9→本館
206	C3b	N 65° W	方形	4.40 × 4.40	15	門	4	2			欄	土階部1・2、土階部3、土階部4、土階部5、土階部6	平安(9世紀)	SI211→本館
208	D5a	N 25° W	方形	4.73 × 4.70	25-30	平	3	1			欄	土階部1・2、土階部3、土階部4、土階部5、土階部6、土階部7、土階部8、土階部9、土階部10、土階部11、土階部12、土階部13、土階部14	平安(9世紀)	SI209→本館
209	D4j	N 22° W	-	-	35	平	2				欄	土階部1	不明	本館-SI208
210	D5b	N 25° W	方形	4.25 × 3.98	15-20	平	3	1			欄	土階部1	平安(9世紀)	SI211→本館
211	D5a	N 17° E	方形	6.56 × 6.42	25-28	平	3	1	2	1	欄	土階部1・2、土階部3、土階部4、土階部5、土階部6、土階部7、土階部8、土階部9、土階部10、土階部11、土階部12、土階部13、土階部14	古墳時代前期	本館-SI210・SI211、SD 8
212	C3j	N 12° W	方形	4.40 × 4.40	24-40	門	4			1	欄	土階部1・2、土階部3、土階部4、土階部5、土階部6、土階部7、土階部8、土階部9、土階部10、土階部11、土階部12、土階部13、土階部14	平安(9世紀)	SI211・213・214→本館
213	D0a	N 18° W	方形	4.45 × 4.23	12-17	平	3				欄	土階部1	平安(9世紀)	本館-SI212
214	D4j	N 20° W	方形	5.40 × 4.90	18-40	平	2				欄	土階部1、土階部2	奈良(8世紀)	本館-SI212
215	C5j	N 14° W	方形	3.41 × 3.32	25	平	3			1	欄	土階部1	平安(9世紀)	SI216→本館
216	C5i	-	-	-	17-20	平	5				欄	土階部1	不明	本館-SI215
217	D5a	N 40° W	[方形]	[4.95 × 4.95]	95	平	1	3			欄	土階部1・2、土階部3、土階部4、土階部5、土階部6、土階部7、土階部8、土階部9、土階部10、土階部11、土階部12、土階部13、土階部14	古墳時代前期	本館中央部に道路が通り、調査を中止
218	D5d	N 27° W	方形	3.14 × 3.00	20-22	平	3			1	欄	土階部1	古墳時代前期	SD 9→本館
219	C3c	N 7° W	長方形	[4.30] × 3.82	54	平	4			1	欄	土階部1	不明	
220	C5d	[N 7° W]	[方形]	[3.50 × 3.60]	40-50	平	3	1			欄	土階部1	平安(8世紀)	本館-SI217
221	C5f	N 13° W	[長方形]	[3.42] × 4.32	30-40	平	3				欄	土階部1	平安(8世紀)	本館-SI217
222	C5e	N 27° W	長方形	3.48 × 3.20	22	平	2			1	欄	土階部1	平安(9世紀)	SI221→本館
223	C6e	N 74° E	方形	5.86 × 3.94	30	平	2	1			欄	土階部1	平安(9-10世紀)	本館-SI213
224	C6f	N 27° W	方形	6.06 × 5.96	20	平	3	1		1	欄	土階部1	古墳時代前期	本館-SI225
225	C6i	N 35° E	方形	3.10 × 2.92	34-40	平	2	2			欄	土階部1	平安(8世紀)	SI224→本館
226	C6d	N 22° W	方形	2.81 × 2.64	28	平	4			1	欄	土階部1	平安(8世紀)	
227	H6g	N 35° W	長方形	3.41 × 3.90	2-10	平	3				欄	土階部1	奈良(8-9世紀)	
228	B7h	N 61° W	方形	4.42 × 4.14	22-28	平	4				欄	土階部1	平安(8世紀)	
229	A7h	N 45° W	方形	4.04 × 3.76	30-40	平	1				欄	土階部1	奈良(8世紀)	
230	B7e	N 60° W	方形	5.72 × 5.44	36	平	4	2	2		欄	土階部1	奈良(8世紀)	SD14→本館
231	A7i	N 68° W	方形	3.28 × 3.10	32	平	2			1	欄	土階部1	平安(8世紀)	
232	A7j	N 42° W	方形	4.48 × 4.26	30	平	1				欄	土階部1	平安(8世紀)	
233	B7a	N 39° W	-	7.10 × (4.60)	22	平	4			6	欄	土階部1	古墳時代前期	本館-SI218
234	C3g	[N 20° W]	-	(3.02) × (1.61)	34	平	4				欄	土階部1	奈良(8-9世紀)	本館-SI218
235	C5c	N 22° W	方形	2.86 × 2.62	36	平	2				欄	土階部1	平安(9世紀)	
236	C5e	N 12° W	-	3.10 × (1.56)	34-40	平	4				欄	土階部1	古墳時代前期	本館-SI221

表2 鍛冶工房跡一覧表

住所番号	位置	主軸方向	平面形状	足跡 長軸×短軸	厚さ	床面	向 窓 造 型			遺 址	出 上 遺 物	遺 址 特 長	備考・参照関係 (旧→新)		
							平柱窓(ヒツ)	縦窓	人門						
1	B7j	N-42°W	方形	5.90×6.06	41	平屋	4	3	1	1	自然	土師器類2・瓦1・埴土・埴土器上器1・加刺門2・鉄釘1・礎石1・鉄滓5kg	古墳時代の中期5世紀後半?		
2	A	N 30° E	長方形	7.58×5.43	56-78	平屋	2	3	1		伊2	自然	土師器類7・瓦1・赤瓦2・埴土・埴土小形器1・加刺門2・埴土・鉄釘3・礎石1・瓦石7・赤石7・赤石5・石碓1・銅製遺品2・有孔円板4・白瓦20・瓦片1・刀2・土塊1	古墳時代中期	2日→本跡
3	B	N-57°E	長方形	7.58×5.42	56-78	平屋					自/人			古墳時代中期	本跡→2 A
3	C	N 42° W	-	-	25	平屋	1				不明	自然		古墳時代中期	
4	D6c	N-47°W	方形	3.96×3.70	17	門凸					伊4	自然	須恵器類1・土師器類1・瓦1・埴土2・埴土2・瓦石1	古墳時代中期	本跡→SK8

表3 溝一覧表

溝番号	位置	方向	形状	溝				縦断	断面	遺 址	出 上 遺 物	備 考 新旧関係 (旧→新)	
				長さ(m)	幅(m)	下幅(m)	深さ(m)						
1	B6i~C6b	東→西	L字状	53.60	1.50~2.10	3.14~1.40	0.24~1.00		内野外堀	屈状門凸	人為	陶土器片2点、弥生土器片75点、土師器片1081点、須恵器片273点、土師器8点、石製品3点、鉄製品3点、鉄滓1点、石7個	第13号溝と重複(本跡→SD13)、南西部の底面には鉄杖・ビレットの落ち込みが存在する。東西溝とも調査区外に伸びる。
2	B1b~B1b	北西→南東	直線状	43.00	1.10~4.30	1.00~4.00	0.20~0.38	外堀	平野	自然		土師器片73点、須恵器片11点、土師質土器片1点、鉄滓1点	第13号溝と重複(本跡→SD13)、北東部で第42~64号土坑(3基)と重複して幅広くなり、その他第3号溝と重複する。
3	B2g~B2g	北西→南東	コの字状	10.70	0.50~1.34	0.20~1.70	0.24~0.50	外堀	平野	自然			
4	B2e~B2f	北西→南東	コの字状	9.50	0.46~1.12	0.34~0.86	0.25~0.30	外堀	平野	自然		土師器片98点、土師器(土師片)1点、石1点	調査は調査区外に伸びる。
5	G6d~G6f	北→南	直線状	18.00	0.60~2.04	0.36~1.88	0.20~0.40	外堀	門凸	自然		土師器片74点、須恵器片3点、陶器片5点、鉄製品1点、鉄滓1点、石7個	第25号住居跡と重複(本跡→B135)、北東部で第42~64号土坑(3基)と重複して幅広くなり、その他第3号溝と重複する。
6	G3h~G3h	北→南	C字状	4.80	1.40~5.00	1.04~4.68	0.18~0.20	外堀	屈状	人為		弥生土器片3点、土師器片30点、須恵器片3点、石製品3点、石1個	溝の一部分を撤出(大部分は調査区外)
7	G3d~G3h	北→南	直線状	1.62	0.80~1.00	0.70~0.40	0.24	外堀	門凸	人為		弥生土器2点、土師器片82点、須恵器片2点、陶器片1点、鉄滓1点	北西部で第64号土坑と重複、第5号溝とV字状に接続し南東部で第39号土坑と重複し、調査区外に伸びる。
8	D6a~D6g	北→南	直線状	126.72	0.66~1.26	0.18~0.66	0.20	外堀	平野	人為		土師器片97点、須恵器9点、陶器片1点、石1個	第207・211号住居跡と重複(本跡→SD207、本跡→SD211)
9	D6c~D6j	北→南	直線状	125.80	0.60~1.20	0.42~0.84	0.66	外堀	平野	人為		土師器片111点、須恵器片2点、石2個	第205・218号住居跡(本跡→B1205~B1218)、第29号土坑と重複
10	B2b~B2b	北→南	直線状	7.20	0.42~0.64	0.24~0.42	0.10	外堀	屈状	人為		土師器片4点	
11	C3e~C3g	北西→南東	L字状	8.30	0.60~1.58	0.52~0.82	0.76	外堀	平野	-		土師器片15点、須恵器片6点、鉄製品4点、石10個	底面の一部は凹凸を呈する。
13	B6g~C6d	北東→南西	直線状	38.80	0.40~1.92	0.20~0.88	0.12~0.26	外堀	屈状	自然		土師器片15点、須恵器片6点、石1個	第223号住居跡・第1号溝と重複(本跡→SD223、本跡→SD1)
14	B7d~B7e	北東→南西	直線状	3.52	1.40~0.36	-	-	-	-	-		土師器片10点、須恵器片1点、石5個	第230号住居跡と重複(本跡→第230号住居跡)
15	A7j~A7j	北西→南東	直線状	16.40	0.72~1.20	0.46~1.00	0.20	外堀	平野	人為		-	第232号住居跡と重複(本跡→第232号住居跡)

表4 粘土採掘跡一覧表

採掘跡番号	位置	長軸方向 (長軸方向)	平面形	規 模		壁面	底面	覆土	出土遺物	備 考
				長軸×短軸(m)	深さ(cm)					
1	H2d	N-16°-E	不定形	12.16 × 6.40	34~80	内・外傾	平坦	人為	土師器片166点, 須恵器片7点, 土製品(磁土類)1点	本跡群の南側に位置し, 本跡内に10か所(1a~1j)の掘り込みが存在
2	H2d	N-52°-W	不定形	4.80 × 4.28	66~80	外傾	凹凸	人為	-	本跡群の南側に位置する。
3	H2c	N-40°-E	不定形	4.12 × 5.80	66~104	外傾	凹凸	人為	土師器片612点, 須恵器片1点	第4号粘土採掘坑と重複し, 本跡内に8か所(3a~3h)の掘り込みが存在
4	H2c	N-40°-W	不整形四角形	3.12 × 2.60	96~116	外傾	凹凸	人為	土師器片61点, 石3点	第3号粘土採掘坑と重複
5	H2b	N 19°-E	楕円形	4.60 × 2.80	66~88	外傾	凹凸	-	土師器片397点	本跡内に4か所(5a~5d)の掘り込みが存在
6	G2j	N 88°-W	不定形	6.28 × 4.06	68~138	外傾	凹凸	人為	土師器片153点, 須恵器片1点, 土製品(銅線刺)1点	本跡内に4か所(6a~6d)の掘り込みが存在
7	G2i	N 62°-W	不定形	8.08 × 3.00	88~131	外傾	凹凸	-	土師器片155点, 須恵器片13点, 土製品1点, 石2点, 鉄器	第13号粘土採掘坑と重複
8	G2h	N 48°-E	不整形四角形	7.00 × 2.64	70~100	外傾	凹凸	-	土師器片111点, 須恵器片1点, 石2点	第9号粘土採掘坑と重複
9	G2g	N-23°-E	不定形	3.21 × 2.80	110	外傾	直状	-	土師器片117点, 弥生土器片2点	第8・21号粘土採掘坑と重複
10	G2g	N 3°-W	不定形	5.88 × 4.48	124~172	内・外傾	凹凸	人為	土師器片44点, 縄文土器片1点	第8・22号粘土採掘坑と重複し, 本跡内に2か所(10a・10b)の掘り込みが存在
11	G2f	N 15°-W	不定形	5.04 × 3.00	140~150	内・外傾	凹凸	-	土師器片21点	本跡内に2か所(11a・11b)の掘り込みが存在, 本跡の西側に第12号粘土採掘坑が隣接
12	G2f	N 0°	楕円形	3.24 × 2.64	130	内・外傾	ほぼ平坦	人為	土師器片118点, 須恵器片2点, 弥生土器片3点, 石製品1点	本跡群の北西側に位置する。
13	G2f	N-33°-E	不整形四角形	4.68 × 2.36	70~78	内・外傾	ほぼ平坦	-	土師器片34点	第7号粘土採掘坑と重複
14	G2j	N-55°-E	不定形	3.88 × [2.60]	64~106	外傾	凹凸	-	土師器片105点, 縄文土器片1点, 弥生土器片1点	第15号粘土採掘坑と重複し, 本跡内に2か所(14a・14b)の掘り込みが存在
15	H2a	N-37°-E	不定形	4.24 × 2.40	90~105	外傾	凹凸	-	土師器片17点	第14号粘土採掘坑と重複し, 本跡内に4か所(15a~15d)の掘り込みが存在
16	H2a	N-49°-W	不定形	3.41 × 1.92	80~90	内・外傾	凹凸	-	土師器片14点, 須恵器片4点	第15・18号粘土採掘坑の間に位置する。
17	G2j	N-36°-E	[楕円形]	2.00 × 1.32	76	内・外傾	平坦	-	-	第22号粘土採掘坑と重複
18	H2b	N-19°-E	不定形	5.92 × 2.40	70~106	外傾	凹凸	-	土師器片11点, 石3点	第19号粘土採掘坑と重複し, 本跡内に2か所(18a・18b)の掘り込みが存在
19	H2b	N-12°-W	不定形	4.22 × [3.00]	62~82	外傾	凹凸	-	土師器片47点, 須恵器片1点, 石1点	第18号粘土採掘坑と重複
20	H2b	N 47°-W	楕円形	2.64 × 2.00	88~100	外傾	平坦	-	土師器片53点, 須恵器片2点, 石2点	-
21	G2f	N 33°-E	不整形四角形	3.40 × 3.00	106	外傾	直状	-	土師器片137点, 石3点	第9・10号粘土採掘坑の間に位置する。
22	H2a	N-39°-W	不定形	[4.20] × 4.00	74~92	内・外傾	凹凸	-	土師器片152点, 弥生土器片1点, 土製品(土釘)1点, 鉄器2点	第17号粘土採掘坑と重複
23	G2j	N-0°	C字状	4.96 × 3.40	103~124	外傾	凹凸	-	土師器片51点	南東部で第24号粘土採掘坑と重複
24	H3a	N 61°-E	不定形	6.80 × 3.92	100~154	外傾	凹凸	-	土師器片2点	本跡群の東側に位置し, 西側で第23号粘土採掘坑と重複する。本跡内に4か所(4a~4d)の掘り込みが存在
25	G2g	N-42°-W	楕円長方形	4.08 × 3.44	120	外傾	平坦	自然	土師器片57点, 弥生土器片3点	西側に第10号粘土採掘坑が存在
27	G2h	N-10°-W	不定形	6.80 × 4.48	60~70	外傾	平坦	人為	土師器片343点, 須恵器片1点, 土製品(銅線刺)1点	本跡群の中央部に位置

表5 土坑一覧表

NO.	土坑番号	位置	採得方向 (長軸方向)	平面形	取 得		壁面	底面	底土	出土遺物	備 考 (左後関係>新>古)
					長径×短径(m)	深さ(m)					
1	1	D6c	N-20°-W	不整形円形	3.02 × 2.44	44	縦断	屈状	人海	土層部1点, 土層部1点	本層に土層部1点の範囲より出土した, 土層部の可能性がある。
2	2	C6j	-	円 形	1.24 × 1.20	34	外縦	屈状	人海	-	-
3	3	C6e	N-90°-W	楕 円 形	2.10 × 1.54	28	縦断	凸凹	自然	-	-
4	4	C6d	N-25°-W	楕 円 形	1.42 × [1.14]	28	外縦	凸凹	自然	-	-
5	5	C6c	N-25°-W	不整形円形	2.38 × 1.94	42	外縦	屈状	人海	土層部1点	-
6	6	C6c	N-65°-E	楕 円 形	0.68 × 0.52	30	外縦	屈状	自然	土層部1点	-
7	7	C6b	-	円 形	0.42 × 0.40	54	外縦	凸凹	人海	-	断面形がビット状を呈する。
8	8	C6b	N-27°-E	[楕 円 形]	4.64 × [2.62]	64	外縦	凸凹	人海	-	第1区画と重複
9	9	C6e	-	円 形	0.50 × 0.48	21	外縦	屈状	自然	-	断面形がビット状を呈する。
10	13	C7e	N-30°-W	楕 円 形	0.74 × 0.64	22	垂直	凸凹	自然	-	-
11	14	C7e	N-82°-W	不 定 形	1.18 × 0.56	22	外縦	凸凹	人海	-	-
12	15	D6a	N 70°-W	長楕円形	1.70 × 0.64	10	外縦	屈状	自然	-	本層南東部に深さ22cmのビット状の掘り込みが存在
13	18	C7f	N 38°-E	楕 円 形	0.62 × 0.54	22	垂直	凸凹	人海	-	-
14	19	C7i	-	円 形	0.48 × 0.46	32	垂直	凸凹	人海	土層部1点	-
15	20	D6c	N 49°-E	楕 円 形	0.76 × 0.66	16	外縦	屈状	人海	土層部1点	-
16	21	D6c	N-65°-W	楕 円 形	1.30 × 1.12	18	縦断	屈状	自然	-	-
17	22	D6e	N-50°-W	楕 円 形	0.42 × 0.38	26	垂直	屈状	人海	-	断面形がビット状を呈する。
18	23	D6b	-	円 形	0.44 × 0.42	36	外縦	屈状	自然	-	断面形がビット状を呈する。
19	24	C7e	-	円 形	1.80 × [1.74]	24	外縦	平列	人海	-	東西部が第10号住居跡に掘り込まれている。(S10>本層)
20	25	B7i	N-27°-E	楕 円 形	1.74 × 0.68	28	外縦	凸凹	-	-	本層北端に深さ62cmのビット状の掘り込みが存在
21	26	C7a	N 85°-E	楕 円 形	0.52 × 0.34	66	外縦	平列	人海	土層部1点, 埋没部1点	断面形がビット状を呈する。
22	27	C7d	-	円 形	1.34 × 1.24	56	外縦	平列	人海	土層部1点, 埋没部1点	第3号住居跡と重複(本層>S13)
23	28	B1c	N 51°-W	長楕円形	2.48 × 0.68	44	縦断	屈状	-	土層部1点, 埋没部1点, 土層部1点, 埋没部1点, 土層部1点, 埋没部1点	東の一部がバーナードアスリート, 本層最上の内瓦土層と之比に類似する部分, 土層部1点, 埋没部1点, 土層部1点, 埋没部1点, 土層部1点, 埋没部1点
24	29	B1a	N-82°-E	楕 円 形	1.00 × 1.44	44	外縦	平列	自然	-	第1号方形区画の北縁を掘り込んでいる。(本層>TM 1)
25	30	B1b	N-35°-W	楕 円 形	2.88 × 1.84	20	垂直	平列	人海	土層部1点, 埋没部1点, 土層部1点, 埋没部1点	第1号方形区画の南縁を掘り込んでいる。(本層>TM 1)>S107
26	31	B1b	N-45°-E	楕 円 形	2.10 × 1.66	22	外縦	屈状	人海	土層部1点	本層中部が第1号住居跡と重複(本層>TM 1)>S107
27	32	B1c	N 5°-E	不整形円形	1.90 × 1.04	24	外縦	平列	人海	-	-
28	33	B2e	-	円 形	0.82 × 0.80	46	垂直	平列	人海	-	-
29	34	B2b	N 66°-W	楕 円 形	[1.80] × 1.28	56	外縦	平列	自然	土層部1点	表層土層と重複(SK25>本層), 覆土に粘土ブロックが多数に散見するので, 粘土探跡の可能性がある。
30	35	B2b	N 66°-W	長楕円形	[2.38] × 1.50	50	外縦	平列	自然	-	本層西側に第34号土坑, 本層で第30号土坑と重複
31	36	B2b	N-21°-W	不整形円形	1.40 × 1.00	88	内縦	平列	自然	土層部1点, 埋没部1点	土層部1点, 埋没部1点, 土層部1点, 埋没部1点
32	37	B2c	N 35°-E	楕 円 形	2.58 × 1.28	114	外縦	平列	人海	土層部1点	土層部1点, 埋没部1点, 土層部1点, 埋没部1点
33	38	B1b	N-60°-W	長楕円形	2.08 × 0.88	42	外縦	平列	人海	土層部1点, 埋没部1点	西側に第28号土坑が隣接
34	39	B2c	-	-	-	54	外縦	平列	自然	-	-
35	40	B2c	N-67°-E	不 定 形	2.24 × 0.90	38	外縦	平列	人海	土層部1点, 埋没部1点, 土層部1点, 埋没部1点, 土層部1点, 埋没部1点	第41号土坑と重複(SK40>SK41)
36	41	B2b	N 73°-W	[楕 円 形]	1.88 × [1.52]	40	外縦	平列	自然	-	第40号土坑と重複
37	42	B2f	N-85°-W	不 定 形	3.38 × 2.60	36	外縦	凸凹	人海	土層部1点, 埋没部1点	覆土に粘土ブロックが散見するので, 粘土探跡の可能性がある。
38	43	H2e	N-2°-E	楕 円 形	2.46 × 2.24	74	外縦	平列	自然	土層部1点, 埋没部1点	覆土に粘土ブロックが散見するので, 粘土探跡の可能性がある。(中世)
39	44	B2b	N-17°-E	楕 円 形	2.14 × 1.74	34	外縦	平列	人海	土層部1点, 埋没部1点	覆土に粘土ブロックが散見するので, 粘土探跡の可能性がある。
40	46	B2c	N-16°-E	楕 円 形	2.68 × 1.68	20	外縦	平列	人海	土層部1点, 埋没部1点	覆土に粘土小・中ブロックが散見する。
41	47	G2f	N-27°-W	楕 円 形	2.05 × 2.24	166	垂直	凸凹	人海	土層部1点, 埋没部1点	第10号住居跡の北縁に位置し, 覆土に粘土ブロックが散見するので, 粘土探跡の可能性がある。
42	48	G2a	-	不 定 形	1.66 × 1.52	54	外縦	屈状	自然	土層部1点, 埋没部1点	-
43	49	B3a	N-56°-E	不整形円形	2.56 × 2.00	132	外縦	平列	人海	土層部1点, 埋没部1点	覆土に粘土ブロックが散見するので, 粘土探跡の可能性がある。
44	50	F2i	N-60°-E	楕 円 形	4.15 × 1.90	44	外縦	平列	人海	土層部1点, 埋没部1点, 土層部1点, 埋没部1点	第23号住居跡と重複(S123>本層), (古墳時代中期)
45	51	G2f	N-23°-W	不整形円形	2.72 × 2.38	90	外縦	平列	自然	土層部1点	第33号住居跡内に存在(本層>S133)
46	52	G2f	N-49°-E	楕 円 形	2.24 × 1.72	22	外縦	平列	人海	土層部1点, 埋没部1点	本層北東部端部に耕作機械により掘出
47	53	G2c	N-47°-E	楕 円 形	2.60 × 1.80	16	垂直	平列	人海	土層部1点, 埋没部1点	第23号土坑の南側に位置し, 底面に耕作機械が散在
48	54	G2d	N-46°-W	楕 円 形	1.66 × 1.48	38	垂直	平列	人海	-	東西側に掘り込みより深さ20cmのビット状の掘り込みが存在
49	35	G3c	N-42°-E	-	1.78 × [0.68]	30	垂直	平列	人海	土層部1点	第36号住居跡と重複(本層>S136)
50	56	G2e	-	円 形	1.82 × 1.74	60	垂直	平列	人海	土層部1点	第30号住居跡と隣接
51	57	G2d	N-68°-W	楕 円 形	3.00 × 2.38	70	垂直	自然	土層部1点, 埋没部1点	第28・29号住居跡と重複(SK27>S128>S129)	
52	58	G3f	N-10°-E	[楕 円 形]	4.00 × 2.16	58	垂直	平列	人海	土層部1点, 埋没部1点	第7号住居跡, 埋没部による掘り込み, 遺構は不明
53	59	C3g	N-38°-W	不整形円形	3.10 × 2.76	164	外縦	凸凹	人海	土層部1点, 埋没部1点	第42号住居跡(古墳時代後期)内に存在(本層>S134)
54	62	D3d	N 8°-W	楕 円 形	1.68 × 1.48	60	外縦	平列	人海	土層部1点, 埋没部1点	覆土に粘土ブロックが散見するので, 粘土探跡の可能性がある。

NO.	土坑番号	位置	真陸方向 (矢印方向)	平面形	間 隔		原則	表面	覆土	用 上 道 物	備 考 (重複関係: 所>占)
					幅×奥行(m)	深さ(m)					
35	62	D3d.	N-20°-E	[橋門形]	1.08×0.64	-	-	-	-	-	第7号線の址跡部内に位置
36	64	D3d.	N-35°-W	橋門形	2.00×1.36	44	外傾	-	-	-	第7号線の結末部部内に位置
57	65	F3e.	-	円形	1.28×1.20	74	垂直	平土	人島	風吹石7枚、土層厚1.6m	第51号住居内に存在 (S51>S56a)。(縄文時代後期)
58	67	F3c.	N-48°-W	円形	1.84×1.74	86	垂直	平土	自然	縄文土層厚1.80m、土層厚1.4m、小石1点	S10-8号住居内へ存在 (S89>S90)。(縄文時代後期)
29	68	G3b.	-	円形	1.00×1.00	10	外傾	平土	自然	1号線跡1点、埋蔵物1点	第61号住居跡の奥側に位置
60	69	F1j.	N 84°-W	円形	1.70×1.60	44	垂直	平土	人島	土層厚0.8m、縄文土層厚1.3m	第70号住居跡と重複 (S59a>S17a)
61	70	F1b.	N-35°-E	橋門形	0.88×0.78	50	外傾	平土	人島	土層厚0.4m、埋蔵物1点	-
62	71	F4i.	N-40°-W	橋門形	1.41×1.00	30	外傾	平土	自然	-	-
63	75	F3g.	-	円形	0.60×0.60	38	外傾	平土	人島	土層厚1.16m	断面形がピット状を呈する。
64	76	F4g.	-	円形	0.72×0.68	32	外傾	平土	人島	土層厚1.11m	-
65	78	F4g.	N 65°-E	橋門形	0.96×0.64	36	垂直	凹凸	人島	土層厚1.6m、埋蔵物1点	本跡内に深さ約25cmのピットの掘り込みが存在
66	79	F4g.	-	円形	0.48×0.44	19	外傾	平土	自然	埋蔵物1点	本跡内に深さ約82cmのピットの掘り込みが存在
67	80	F4g.	N 70°-E	橋門形	0.96×0.64	21	垂直	平土	人島	土層厚約20cm	本跡内北東部に深さ約30cmのピットの掘り込みが存在
68	81	F1f.	N-20°-E	円形	0.64×0.60	48	外傾	凹凸	-	-	-
69	82	F4g.	-	円形	0.64×0.60	19	外傾	平土	人島	-	第125号住居跡と重複 (本跡>S125)
70	83	F4f.	N-78°-E	橋門形	1.40×1.24	38	垂直	平土	人島	土層厚1.4m、埋蔵物1点	第124号住居跡と重複 (本跡>S124)
71	84	F4i.	N 73°-W	橋門形	0.72×0.60	34	外傾	凹凸	人島	-	本跡内東西両端にピット状の掘り込みが存在
72	85	F4f.	N-69°-W	橋門形	0.68×0.60	13	外傾	平土	-	-	本跡内中央部に深さ約70cmのピット状の掘り込みが存在
73	86	F4e.	N 40°-W	橋丸長方形	[0.92]×[0.90]	141	外傾	平土	人島	土層厚1.2m	第10-9号住居跡、第10号土坑と重複 (本跡>S10-9>S10)
74	87	F4e.	N-3°-W	橋門形	2.00×1.28	-	-	-	-	-	第10-9号住居跡、第10号土坑と重複 (本跡>S10-9>S10)
75	88	F4c.	N 14°-W	橋門形	0.41×0.40	72	外傾	平土	人島	-	断面形がピット状を呈する。
76	89	F3d.	-	円形	0.44×0.40	20	外傾	凹凸	自然	-	-
77	90	F3d.	N 8°-W	橋門形	0.60×0.48	20	外傾	平土	自然	-	-
78	91	F2e.	-	円形	0.84×0.80	26	内傾	平土	人島	-	-
79	92	F2g.	-	円形	0.64×0.62	29	外傾	平土	人島	-	-
80	93	F4b.	N-71°-W	不定形	1.32×1.30	56	外傾	凹凸	-	-	土層厚1.3m、小石1点
81	94	F1b.	N-51°-E	橋門形	0.76×0.62	50	外傾	平土	人島	埋蔵物1点	4号線跡に深さ約20cmのピットの掘り込みが存在。第10-7号住居跡と重複。
82	95	F4b.	-	円形	1.02×0.94	36	外傾	凹凸	人島	土層厚1.3m	-
83	96	F4b.	N-18°-W	橋門形	1.04×0.92	72	外傾	凹凸	人島	土層厚約22cm、埋蔵物1点	-
84	97	F4b.	N 76°-E	橋門形	0.76×0.64	40	外傾	凹凸	自然	-	-
85	98	F4e.	N-30°-W	橋丸長方形	2.94×[1.50]	28	垂直	平土	-	-	可成り割
86	101	F4e.	N-76°-E	橋丸長方形	2.64×1.16	-	-	-	-	-	第10-7号住居跡及び第10号土坑と重複 (本跡>S10-7>S10) 4号線跡、埋蔵物1点と重複 (本跡>S10-7>S10) 4号線跡、埋蔵物1点
87	102	F1d.	-	円形	2.12×2.08	50	垂直	平土	人島	土層厚1.11m	第123号住居跡と重複 (本跡>S123)
88	103	F4d.	N-38°-E	[橋門形]	[0.72]×[1.22]	-	-	-	-	-	第123号住居跡と重複 (本跡>S123)
89	104	F2c.	N-20°-W	[橋門形]	[1.00]×[1.08]	-	-	-	-	-	第6a-A号住居跡と重複 (S18a-A>S8K10a)
90	105	F6b.	-	円形	1.88×1.74	34	内傾	平土	-	-	第128号住居跡内に存在
91	106	F4i.	-	円形	0.36×0.36	38	外傾	平土	-	-	断面形がピット状を呈する。
92	107	F4i.	-	円形	0.36×0.32	16	外傾	平土	-	-	断面形がピット状を呈する。
93	108	F4i.	-	円形	0.40×0.36	12	外傾	凹凸	-	-	断面形がピット状を呈する。
94	109	F4b.	N 9°-W	橋門形	0.32×0.28	14	外傾	凹凸	-	-	第128号住居跡と隣接
95	110	F4b.	N-29°-E	[橋門形]	[0.62]×[0.56]	10	外傾	凹凸	-	-	断面形がピット状を呈し、第125号住居跡と重複 (>)
96	111	F4b.	-	円形	0.18×0.16	48	外傾	平土	-	-	-
97	112	F4g.	N 43°-E	不定形	0.80×0.60	28	外傾	凹凸	-	-	-
98	113	F4f.	-	円形	0.60×0.56	18	外傾	平土	-	-	-
99	114	F4g.	N-31°-E	橋門形	0.60×0.44	40	外傾	凹凸	-	-	第60号住居跡と重複 (>)
100	115	F4g.	N-67°-W	橋門形	0.96×0.80	40	外傾	凹凸	-	-	-
101	116	F4g.	N 27°-W	橋門形	0.48×0.32	30	外傾	平土	-	-	第125号住居跡と重複 (>)
102	117	F4g.	-	円形	0.40×0.36	18	外傾	凹凸	-	-	断面形がピット状を呈する。
103	118	F4f.	-	円形	0.32×0.30	20	外傾	凹凸	-	-	-
104	119	F1f.	N-25°-W	橋門形	0.36×0.32	28	外傾	平土	-	-	第41号土坑北側に位置し、断面形がピット状を呈する。
105	120	F4f.	-	円形	0.56×0.52	38	垂直	凹凸	-	-	-
106	121	F4f.	-	円形	0.56×0.52	24	外傾	凹凸	-	-	断面形がピット状を呈し、第122号土坑と重複 (本跡>S8K122)
107	122	F4g.	N-67°-W	橋門形	[0.64]×[0.44]	42	外傾	凹凸	-	-	断面形がピット状を呈し、第122号土坑と隣接。
108	123	F4f.	-	円形	0.32×0.48	26	外傾	凹凸	-	-	断面形がピット状を呈し、第122号土坑と隣接。
109	124	R5g.	N 45°-E	橋門形	0.76×0.60	32	外傾	凹凸	自然	土層厚約6cm、小石1点	断面形がピット状を呈する。
110	125	E4g.	N 11°-W	[橋門形]	[0.56]×[0.84]	30	外傾	凹凸	自然	-	第131号住居跡と重複 (本跡>S131)
111	126	D6i.	-	[円形]	2.00×[1.96]	80	垂直	平土	自然	-	第137号住居跡と重複 (本跡>S137)

NO.	土坑番号	位置	長径方向 (長軸方向)	平面形	縦 横		埋 入	底 面	覆 土	出土遺物	備 考 (原図関係: 新>古)
					長径×短径(m)	深さ(m)					
112	128	E4g	N-2°-E	楕円形	0.60 × 0.40	14	外傾	平坦	自然	-	第150号住居跡と重畳し、第125号土坑と隣接。断面形がピット状を呈する。(本跡>SI157)
113	129	E4f	N-80°-E	楕円形	0.52 × 0.44	18	外傾	直状	人為	-	断面形が輪状を呈する。
114	130	E5j	N-63°-W	楕円形	0.52 × 0.30	30	外傾	直状	人為	土師器片1点	断面形がピット状を呈する。
115	131	E5g	-	円形	0.60 × 0.56	44	外傾	直状	人為	-	第150号住居跡と重畳 (本跡>SI159)
116	132	E5a	-	円形	0.40 × 0.40	10	外傾	直状	自然	-	断面形が輪状を呈する。
117	133	E5g	N 73°-E	楕円形	0.68 × 0.68	14	外傾	直状	人為	-	断面形が輪状を呈し、遺159号住居跡と重畳 (本跡>SI159)
118	134	E5h	-	円形	0.80 × 0.76	20	外傾	平坦	人為	土師器片2点、須恵器片1点	-
119	135	E5g	N-20°-E	楕円形	0.21 × 0.18	28	外傾	直状	自然	-	断面形がピット状を呈する。
120	137	E5c	-	円形	1.88 × 1.72	40	外傾	平坦	人為	土師器片33点、土製品(土師)1点	-
121	138	E5c	-	円形	1.56 × 1.32	22	垂直	平坦	人為	土師器片28点	-
122	139	E4e	N-47°-E	楕円形	1.00 × 0.68	18	外傾	直状	自然	須恵器片2点	-
123	140	E5c	-	円形	0.44 × 0.44	42	外傾	平坦	人為	-	断面形がピット状を呈する。
124	141	E5e	-	円形	0.48 × 0.44	44	外傾	平坦	人為	土師器片2点	断面形がピット状を呈する。
125	142	E5d	N-45°-E	楕円形	0.68 × 0.60	30	外傾	直状	人為	-	断面形がピット状を呈する。
126	143	D6j	N-31°-W	楕円形	0.60 × 0.48	-	-	-	-	土師器片4点、須恵器片1点	-
127	144	E5a	-	円形	1.24 × 1.30	24	外傾	平坦	人為	-	-
128	145	E5a	N-38°-W	楕円形	0.40 × 0.20	20	垂直	平坦	自然	-	断面形がピット状を呈する。
129	146	E6a	-	円形	0.74 × 0.72	18	外傾	直状	人為	-	断面形が輪状を呈する。
130	147	H1b	N-25°-E	楕円形	1.84 × [1.60]	26	外傾	平坦	-	縄文土師器片21点	第1号方形形陶器及び第30・31号土坑と重畳 (SK30・31>D3M1>本跡)、縄文時代中期
131	149	E5f	-	円形	0.32 × 0.28	21	外傾	平坦	-	-	断面形がピット状を呈する。
132	150	E5f	N-63°-W	楕円形	0.48 × 0.44	24	垂直	平坦	人為	-	断面形がピット状を呈する。
133	151	E5f	-	円形	0.48 × 0.44	41	外傾	直状	-	-	断面形がピット状を呈する。
134	152	F5c	N-49°-W	楕円形	0.28 × 0.21	40	垂直	平坦	人為	-	断面形がピット状を呈する。
135	153	E5g	-	円形	0.60 × 0.56	41	外傾	直状	-	土師器片25点	断面形がピット状を呈する。
136	154	E5g	-	円形	0.40 × 0.40	38	外傾	平坦	-	土師器片1点、須恵器片2点	断面形がピット状を呈する。
137	155	E5f	N 81°-W	長楕円形	1.08 × 0.40	70	外傾	凹凸	-	土師器片1点、須恵器片1点	-
138	156	F5f	N-42°-W	長楕円形	0.92 × 0.44	70	外傾	平坦	-	-	-
139	157	E5f	-	円形	0.52 × 0.41	28	垂直	直状	-	-	断面形がピット状を呈する。
140	158	D5j	-	円形	0.80 × 0.76	24	外傾	凹凸	自然	-	-
141	159	F3i	-	円形	2.10 × 2.04	36	外傾	平坦	-	土師器片35点、養生土師器片1点	第75号住居跡 (本跡>SI75)
142	160	E4h	N-70°-E	不定形	[1.32] × 1.30	30	外傾	平坦	-	土師器片34点、須恵器片1点	第106・112号住居跡と重畳 (SI113-A>本跡、SI106>本跡)
143	162	E4h	-	円形	[2.64] × [2.50]	88	垂直	平坦	人為	土師器片13点、須恵器片1点	第105号住居跡と重畳、東壁の立ち上がり部分がオーバーハンクしている。
144	163	E4b	N-60°-E	円形	1.64 × 1.80	50	垂直	平坦	人為	土師器片92点、オキハク700g、炭屑1点	第132号住居跡 (本跡>SI152) と重畳、本跡北東部の覆土上面に幾十の点が存在
145	165	E4e	N-38°-W	楕円形	[1.32] × 1.20	36	垂直	平坦	自然	-	第132号住居跡内、北西壁の重畳
146	166	E5c	N-5°-W	楕円形	1.90 × 1.78	51	垂直	平坦	自然	土師器片9点、石製品(砥石)1点、小石7点	第173号住居跡と重畳 (SI173>本跡)
147	167	E4d	N-0°	楕円形	1.85 × 1.70	54	垂直	平坦	自然	土師器片5点、須恵器片1点、土製品(土師)1点	-
148	168	E4h	N-41°-W	楕円形	2.28 × 1.80	70	垂直	平坦	人為	土師器片136点、小石4点	-
149	169	E4a	-	円形	1.26 × 1.22	31	外傾	凹凸	人為	土師器片9点、須恵器片2点	-
150	170	E4a	N-38°-E	長楕円形	[2.40] × 1.10	40	垂直	直状	自然	-	北壁半分は覆土より構築
151	171	F4b	-	円形	1.54 × 1.32	40	外傾	平坦	人為	土師器片16点	-
152	172	F3b	N 63°-E	不整形円形	1.10 × 0.98	14	外傾	平坦	人為	-	本跡東壁に、庭面から長さ約30cmのピット状の掘り込みが存在。第109号住居跡と重畳する。
153	173	F3a	N-66°-E	楕円形	1.56 × 1.32	30	外傾	平坦	人為	土師器片9点	-
154	174	E3j	-	円形	1.54 × 1.50	46	垂直	平坦	人為	土師器片55点	第108号住居跡と重畳 (>)
155	175	E4i	N-61°-W	不整形円形	0.90 × 0.70	32	外傾	直状	自然	土師器片35点、石製品(砥石)1点	第106号住居跡と重畳 (本跡>SI106)
156	177	E4g	-	円形	0.86 × 0.82	20	外傾	直状	-	須恵器片1点	-
157	179	E3f	-	円形	1.12 × 1.06	48	外傾	平坦	自然	土師器片33点、須恵器片2点	-
158	182	E4d	-	円形	0.46 × 0.42	26	外傾	平坦	-	-	断面形がピット状を呈する。
159	183	E4d	-	円形	0.40 × 0.40	28	外傾	平坦	-	-	断面形がピット状を呈する。
160	225	E4c	N-0°	円形	2.20 × 2.34	32	垂直	平坦	人為	土師器片36点、須恵器片1点	-
161	287	A7j	N-25°-W	不整形円形	1.14 × 1.10	58	外傾	平坦	人為	須恵器片1点、縄文土師器片1点	-
162	288	A7i	N-42°-E	不整形円形	1.18 × 1.02	51	垂直	平坦	自然	縄文土師器片18点	-

第4節 ま と め

三反田下高井遺跡の調査と整理で得られた成果を、各時代毎の特徴について整理しまとめとする。

1 旧石器時代から弥生時代

旧石器時代の遺構としては、旧石器集中地点が1か所あり、尖頭器5点、剥片10点が出上している。その他に、表採として後期旧石器時代初頭の両面加工のある尖頭器（掘斧）、線刻が施された旧石器剥片が出上している。

縄文時代の遺構は、縄文時代早期田戸下層式期の土坑1基、後期属之内式期の土坑1基が検出されている。その他に、田戸上層式等の土器片が表土や覆土中から出土している。

弥生時代の遺構は検出されていないが、遺物は、遺構外から弥生時代後期足洗式期の遺物が出上している。

2 古墳時代

当遺跡の中心となる時期であり、3期に分けることができる。第1期は4世紀代で、方形周溝墓が4基、第2期は5世紀代で、住居跡が58軒、鍛冶工房跡5基、第3期は6～7世紀代で、住居跡が83軒、それぞれ検出されている。

第1期 古墳時代前期（4世紀）

この時期の遺構としては、方形周溝墓が4基検出されている。幅500mほどの舌状台地の南縁辺部付近で、台地に入り込んだ谷津に向かって、軸線が一致する4基の遺構が2列に連なって確認されており、計画的に造営されたことが窺える。時期は、出土遺物から古墳時代前期と思われるが、今回の調査区内からは、本跡に伴うと思われる集落跡は確認されていない。

平面形は「□」形が4基と推定される。（現状では「□」形2基、「└」形2基）すべて軸線は一致しており、平面形も東西方向が南北方向より約1mほど長い長方形と推定される。規模は、一辺が12m前後のものが3基と、一辺が8.5mのもの1基の二つのタイプに分かれ、規模の違いが確認されている。

方台部に盛上等は確認できず、埋葬施設の可能性があると考えられるのは、第3号方形周溝墓の周溝内土坑のみである。他の3基は不明であるが、方台部にあったと思われる盛上内と考えられる。

出土遺物では、第2・4号方形周溝墓の小形丸底埴、第3・4号方形周溝墓の壺はそれぞれその特徴が極めて類似しており、ほぼ同時期のものと考えられる。したがって、第2・3・4号方形周溝墓は時期差がほとんどないと考えられる。第1号方形周溝墓は台地縁辺部で土砂の流失のため、遺物等は見られない。

当遺跡周辺の三反田遺跡で、古墳時代前期五領式期の住居跡が19軒検出されている。当遺跡と同一台地上の北西700mに位置しており、ここからは当遺跡の方形周溝墓と同時期と思われる土師器類が出土している。三反田遺跡出土の壺は、指ナデによる平滑化のあとに刷毛状工具を用いて条線を施文して整形するもので、当遺跡出土のものにその特徴が類似している。この地域の集落構成を考える上で、当遺跡との関連の可能性も考えられ、今後の課題の一つである。

第2期 古墳時代中期（5世紀）

5世紀前半の住居跡は、第30・49・68・82・92・100・115・124・153-A・158-A・186・217・224・230号住居跡の計14軒、後半の住居跡は、第7・10・24・25・45・59・63-B・64・67・69・73・91・98・110・112-A・113-A・118-A・119-B・120-A・121-A・135-A・135-B・141-B・143・165・168・171・174・184・192・211・218・233号住居跡の計33軒がそれぞれ該当する。その他に、5世紀代と思われる住居跡が

12軒検出されている。

5世紀前半の集落は、台地中央部から南寄りの位置にその中心が見られる。中央部近くには一辺が9.5m程、やや北側には一辺が11m程の大形住居跡が存在し、他の住居跡が4～8m前後の大きさであるのに対し突出して大形である。その規模から、集落の中心としての機能を併せ持っていた可能性が考えられる。また、その大形住居跡の北西8m程の位置に、主軸方向がほぼ一致する第2-A・2-B号鍛冶工房跡が確認されており、一部の首長層が鉄の流通を握っていたと考えられている当時の状況から見て、大形住居跡は首長層の住居跡とも考えられる。また、同時期に、台地北側の小支谷の北側台地縁部に4軒ほど、全く孤立した状態で立地しているのも特徴的な点である。

住居跡に見られる特徴の一つとして貯蔵穴を取り上げる。この時期の住居跡全体で62軒中24軒に貯蔵穴が見られ、保有率は約38%である。炉の対辺のコーナー部に付設されるものが18例で67%と最も多く、他に炉の横に付設されるものが1例、炉の対辺中央部に付設されるものが1例、対辺中央で突出するものが2例である。

古墳時代中期の鍛冶工房跡が5基検出されている。第1号鍛冶工房跡(調査時第1号住居跡)、第2-A、2-B号鍛冶工房跡(調査時第188号住居跡、建て替えが見られる。)、第3号鍛冶工房跡(調査時第189号住居跡)、第4号鍛冶工房跡(調査時第207号住居跡)である。また、ほぼ同地区から古墳時代後期・平安時代の鍛冶関連遺構も検出されている。

第2-A・2-B号鍛冶工房跡は、他の2遺構の平面形が一辺4～5m程の方形なのに対して、7.5×5.5mの長方形で規模に違いが見られる。この規模の違いは、鍛冶工房の時期差に由来することも考えられるが、同時期に営まれたと仮定すると、各遺構が直径6～20mの範囲内に位置することから分業体制等の可能性も考えられる。

また、建物の構造から見て、第2・3・4号鍛冶工房跡には柱穴と思われるものは見あたらず、平面形も長方形と特殊な形態のため、当初から鍛冶工房としての目的を持って建設された鍛冶工房跡と考えられる。それに対して、第1号鍛冶工房跡は柱穴が4本見られ、他の同時期の住居跡と変わらない。しかし、大形の鍛冶炉があり、地床炉を持たないこと等から、住居を工房として機能転用した可能性が考えられる。

時期は異なるが、他に鍛造剥片を出土している2軒の住居跡が検出されている。第205号住居跡は古墳時代後期(6世紀後半)と思われる遺構で、平面形が8×4.5mの長方形で、北東壁東寄りに竈が付設されており、住居跡中央部に径30cm程の円形の炉も確認されているが、薄い焼土を認めた程度である。竈や炉の周囲から鍛造剥片や炭化材が出土し、その他に鉄滓も出土しているが、金床石や羽口等は見られない。第187号住居跡は、平安時代(10世紀)と思われる遺構で、竈を有し、羽口片、鍛造剥片、軽石、不明鉄製品、金床石等の遺物が出土している。金床石はP1近くの床面から出土しているが、若干床面から浮いて出土している点や鍛冶炉が見あたらないこと、焼土が住居跡に全体的に広がっている、鍛冶が行われたと思われる場所が不明であること等から、住居の機能が主であった可能性も否定できないため、ここでは住居跡として扱うことにした。しかし、古墳時代後期の第205号住居跡は第2・3・4号鍛冶工房跡の東1mに、平安時代の第187号住居跡は第2・3号鍛冶工房跡の南2mに位置しており、どちらも古墳時代中期の鍛冶工房跡の周囲30mの範囲内にすべて立地している。このことから、この地区が古墳時代中期に鍛冶工房がスタートして、平安時代まで、長期にわたって鍛冶が受け継がれていた可能性が推察される。

第3期 古墳時代後期(6・7世紀)

この時期の住居跡は計79軒確認されている。6世紀前半の住居跡は、第18 B・19・20・26・28・42・44・

50・51・58-A・71・72 B・76・79・84-A・96・102・103・104・106・118-B・119-B・120-B・123・132-A・136-A・136-B・154・163・167・169・170・173・176・180・195・200号住居跡の計37軒が該当する。

6世紀後半の住居跡は、第18-A・31・33・34・37・46・66・74・75・118 C・125・126・144・148 B・149・205号住居跡の計16軒が該当する。その他に6世紀代の住居跡が15軒、7世紀代が14軒である。

6世紀代の集落は、南縁部から台地中央部に集中して立地しており、中央部より北側には住居は見られない。前代に比べ、台地南側の粘土採掘坑に近い緩い斜面部等台地縁辺部に向かって集落の範囲を広げているのが特徴である。特に、大形の住居跡は見られず、一辺4～8m程の住居跡がほとんどである。主軸方向は、北から北西方向である。

貯蔵穴は、全体で79軒中23軒に見られ、保有率29%である。中期に比べ保有率が低下してきている。竈側の左コーナー部が5例、竈の対辺が8例、竈対辺中央が5例、竈対辺中央に突出するものが5例と、それぞれ増加しており、いずれもほぼ均等な割合となる。突出する貯蔵穴は、5例とこの時期に最も多く認められる。

ほぼ完全な形で出土した第148-B号住居跡の竈は、掛け口が二口で、向かって左側は下に支脚を用いた取り外し可能な長脚型を載せ、右側は支脚を用いず、右袖部に寄せて袖部と天井部の粘土で壘の頸部を固定する構造となっている。二つ掛けの竈は、当遺跡内では、竈内から支脚が2本出土している第64-A号住居跡の例があるのみだが、片方に支脚を用いない構造が前述のように考えられるため、竈内からは第148-B号住居跡の竈の事例のように支脚が1本しか出土しなくても、竈の構造は二つ掛けである可能性も考えられる。当時の竈の構造を考える上での貴重な資料となるものと思われる。

7世紀の住居跡は、第9・39・47・94-A・114・130・156・157・172・175・177・185・198-A・204号住居跡の14軒が該当する。

遺跡内では、台地のほぼ中央部に位置しているが、6世紀代に比べると大幅にその戸数を減じている。単位集落はその位置から、調査区域外に広がると思われる第94-A号住居跡のグループ、第156・157・172・175・185号住居跡のグループ、第198-A・204号住居跡のグループの3つが考えられ、5軒前後で形成されていた様子が窺える。規模は、一辺5m前後を中心に、最も小さいもので竈を持つ一辺約3mの方形のものまで見られ、全体的に前代よりも縮小傾向を示している。

3 奈良・平安時代

当遺跡では古墳時代に次いで遺構数の多い時期であり、4期に分けることができる。第1期は8世紀代で、住居跡が25軒、8世紀末～9世紀初頭が6軒、第2期は9世紀前半で、住居跡が20軒、第3期は9世紀後半で、住居跡が18軒、9世紀頃と思われる住居跡が5軒、第4期は10世紀以降で25軒、総計で99軒が検出されている。

この時期全体にわたる住居跡の特徴として竈と貯蔵穴について取り上げる。

竈は、前代に引き継ぎ、袖部先端や袖部内の芯材として凝灰岩が使用されているものがあり、確認したうちのほぼ半数に認められる。古墳時代後期から竈への使用が確認されている凝灰岩は、その後11世紀まで長く使用されたことが窺えるが、竈の構造と時期とは明白な関連性は認められない。

凝灰岩の使用例として最も多いものは、袖部内に芯材として使用するものである。それに関連するためか、袖部に補強材として土器を使用した例は当遺跡では1例を見るのみである。

袖部先端に切石を立て、その上に横に長い切石を載せ焚口とする形態は、当遺跡では6世紀から9世紀ま

での間に、12軒確認されているが、6世紀前半にやや盛行する傾向が見られる。類例としては、古墳時代後期の那珂町の森口遺跡、東海村の石神外宿B遺跡、ひたちなか市の武田遺跡群に、平安時代の例として日立市の金木場遺跡に見られる。石材産地の関連性や、文化圏の広がりに興味を持たれる。

住居内の貯蔵穴は、8世紀～11世紀を通して全体で6軒（奈良・平安時代の住居跡110軒中）に構築されるのみで、この時期になると、貯蔵穴を持つ住居が極端に減少する傾向が窺える。当遺跡において貯蔵穴は、古墳時代中期に多く見られ、それが時代を経るに従って徐々に減少していき、奈良・平安時代になると極端に減少していく様子が窺える。

第1期 奈良時代（8世紀）

奈良時代と思われる住居跡は、第6・35・48-B・72-A・86-A・97・120-C・138・139・145-A・166-A・190・191・196・197・199・201・214・220・225・226・227・229・231・232号住居跡の25軒が該当し、奈良時代から平安時代にまたがる（8世紀末～9世紀初頭）と思われる住居跡は第14・43・155・215・228・234号住居跡の6軒である。

この時期の集落の特徴は、3～5軒程度の単位で、散在して形成されている点である。また、古墳時代には集落の見られなかった東から入る小支谷に面する斜面部や、小支谷によって分断された台地北端部にも居住地を広げている点もあげられる。

住居の規模は、北西壁に竈を持つ一辺7m程のもの、5m前後の中規模のもの、3.5m程の小形のものとの3種類に分けられる。小形の住居跡は其中で14軒と最も多い。竈の位置は、それまでに見られなかった東壁、及び北東コーナー部に構築するものが合わせて3例ほど確認されている。

第2期（9世紀前半）

第2・5・8・11・85・90・105・107・108・113-B・158-B・179・182・203・206・208・212・213・221・235号住居跡の20軒が該当する。

この時期、集落の中心は、台地北部にある東から入る小支谷の南側の緩い斜面に認められる。竈の位置は一般的に北から北西壁にあり、東壁にも3例ほど認められる。住居はほぼ方形で、規模は小さいもので一辺3.5m、大きいものでも一辺5m程で、遺構の掘り込みの浅い住居跡がほとんどである。

第3期（9世紀後半）

第3・4・21-A・54・63-A・70・81・83・95-B・99・101・109・145-B・160・162・210・222・223号住居跡の18軒が該当する。

この時期は、台地南端から北部の小支谷までの間に、散在して集落が営まれ、その中心は台地中央部と小支谷周辺に認められる。一辺4～5m程の規模の住居跡が多く、竈はほとんどが北部及び北西部に位置し、東壁に存在するものは1例である。

第4期（10世紀以降）

第21-B・22・27・29・32・36・53-A・55・60・61・93・95-A・111・116・127・132-B・137・142・146-A・161・178・187・194・198-B・202号住居跡の25軒が該当する。

この時期、住居の規模はさらに縮小し、3.5m程となる。また、東壁に竈を構築する例が9軒と増加する。台地中央部から台地南端部にかけて5軒前後の単位でまとまって集落を構成していることが窺える。

特筆される出土遺物として、円面硯、風字硯、緑釉陶器、緑釉緑彩文陶器、灰釉陶器。さらに、表探で帯金具が出土している。それらの遺物から、役人あるいは特殊な階層の集落であった可能性も考えられる。

さらに、「久高」と墨書された土師器破片が7点出土しており、那珂川を挟んで対岸に位置する梶内遺跡

からも見つかっているところから、当遺跡との関連が注目される。

4 粘土採掘坑跡

時期の特定はできないが、当遺跡からは粘土採掘坑跡26基が検出されている。集落跡が営まれたと同じ台地上南側の縁辺部に、幅20m程の間に分布している。この周囲の基本土層は、上面の黒色土層の下に橙色粘土層が見られ、その下に白色粘土層、さらにその下に礫層と続いている。

これらの粘土採掘坑跡は、すべて礫層の直前の白色粘土層下部まで掘り込まれており、白色粘土層の部分では、横に更に掘り込まれ、フラスコ状を呈するものが多く見られる。覆土の内容を見ても、黒色土と橙色粘土とが混じったものが多く、橙色粘土は遺跡内では竈袖材等への利用が見られるが残りは捨てられたと考えられること等から、これらの粘土採掘坑では主に白色粘土を採取したと考えられる。

粘土採掘坑内の遺物は、5世紀から6世紀後半までの遺物がほとんどであった。そのため、その時期の住居跡から出土した土師器環及び瓦片8点の胎土と、粘土採掘坑内の粘土の同定分析を実施した。その結果、土師器瓦片と粘土との重鉱物組成が一致したことにより、古墳時代中期には当遺跡の粘土採掘坑から粘土を採取し、土器を製作していたことが判明した。

参考文献

- 栃木県文化振興事業団 「金山遺跡」〔栃木県埋蔵文化財調査報告第160号〕1995年3月
財団法人千葉県文化財センター 「研究連絡誌第48号」〔竈と貯蔵穴〕小林清隆 1997年2月
静岡市文化・スポーツ振興公社 「武田Ⅳ-1990年武田遺跡発掘調査の成果」1991年3月
静岡市文化・スポーツ振興公社 「武田Ⅴ-1991年武田遺跡発掘調査の成果」1992年3月
ひたちなか市文化・スポーツ振興公社 「武田Ⅷ-1995年武田遺跡発掘調査の成果」1996年3月
小山市立博物館 第20回企画展 「6世紀の村-宮沢海道間遺跡-」1988年4月
石岡市教育委員会 「鹿の子遺跡発掘調査報告書（第2次）1986年3月
栃木県立なす土記の丘資料館 第2回企画展図録「古代東国の産業-那須地方の窯業と製鉄業-」1994年10月
茨城県教育財団 「研究ノート4号」〔県北海岸地域の方形周溝墓について〕小高五十二 1994年3月
茨城県教育財団 「森戸遺跡」〔茨城県教育財団文化財調査報告第55集〕1990年3月
茨城県教育財団 「金木場遺跡」〔茨城県教育財団文化財調査報告第59集〕1990年3月
茨城県教育財団 「石神外宿B遺跡」〔茨城県教育財団文化財調査報告第23集〕1988年8月
三反田遺跡調査会 「三反田遺跡（一次）」1973年3月
静岡市教育委員会 「三反田遺跡群調査報告書」1977年3月
三反田遺跡群調査会・静岡市教育委員会 「三反田遺跡調査報告書（第3次）」1973年3月
静岡市教育委員会 「三反田遺跡調査報告書（第5次）」1991年3月
財団法人千葉県文化財センター 「研究連絡誌第48号」〔竈と貯蔵穴〕小林清隆 1997年2月
穴澤義功「製鉄遺跡から見た古代・中世の鉄生産」1994年10月

付 章 三反田下高井遺跡出土の金属環の蛍光X線分析

東京国立文化財研究所
保存科学部化学研究室
平尾良光
小林直子

1 分析法

化学組成の測定には非破壊で分析できる蛍光X線分析法を用いた。

2 結果

金属環 NO26 銅が主成分であった。表面に金色に輝く金属部分の主成分は金であった。銀、水銀は見られなかった。

金属環 NO25 銅が主成分であり、微量の銀、鉄が見られた。スズ、鉛、水銀は見られなかった。

3 所見

金環 NO26の金は、銀がほとんど存在せず、純度は非常に高い。ただし、肉眼の観察でも芯部分は金でないとは判断できるので、すべてが金製というわけではない。水銀がないこと、及び、金と銅のX線強度比から考えると、金属の薄い板を銅製の芯に巻き付けた環と推定される。わずかに、ピークの現れた銅は内部(芯)まで到達したX線による銅なのか、表面の金に混入していた銅なのかははっきりしないが、表面の金属は純度の高い金であると判断できる。芯部分の化学組成も測定しようとしたが、測定位置がうまくとれず、良い測定とはならなかった。しかし、スズのピークが全く見られないことから、内部の金属は青銅ではなく、環 NO25と同様に純銅と推定される。

環 NO25は、ほぼ純銅といってよい。鉄は埋蔵環境の影響で検出されることもあり、製作時からの存在かどうかは不明である。水銀が見られないのは埋蔵環境で流失したかもしれないが、鍍金されていた可能性が少ないことを示唆する。

第1-a図 金属環 NO26の蛍光X線スペクトル図

第1-b図 第1-a図の縦軸を8倍に拡大したスペクトル図

第2-a図 金属環 NO25の蛍光X線スペクトル図

第2-b図 第2-a図の縦軸を10倍に拡大したスペクトル図

表1 茨城県出土資料の蛍光X線分析法で測定された元素のX線強度比^(*)

角 度 ^(*)	フッホミン (13.5)	スズ (14.0)	銅 (16.0)	ビスマス (27.4)	鉛 ^(*) (28.3)	ヒ素 ^(*) (31.0)	水銀 (35.9)	金 (37.0)	亜鉛 (41.8)	銀 (45.0)	ニッケル (48.7)	鉄 (57.5)	測定値 (cpm)
和歌山 (F L 402) ^(*)	1.1	86	1.8	+	3.7	12	- ^(*)	- ^(*)	-	100	-	-	1400
和歌山 (F L 403)	-	110	3.4	+	2.9	15	-	-	-	100	-	-	1700
金属環NO26 (F L 404)	-	-	-	-	-	-	-	100	-	8.3	-	-	(1200) ^(*)
金属環NO25 (F L 405)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100	-	-	3800

- ※1) 数値は銅（角度45.0度における）のX線強度を100としたときの各元素の強度比
但し金属環No26は金の37におけるX線強度を100とした
- ※2) 2θで表わされた各元素の励起X線強度を100とした
- ※3) 鉛のピークヒヤズの影響を、ヒ素のピークは鉛の影響を補正した値
- ※4) FLは当研究室の蛍光X線測定番号
- ※5) +は微小ピークがあることを示し、-は検出限界以下を表す

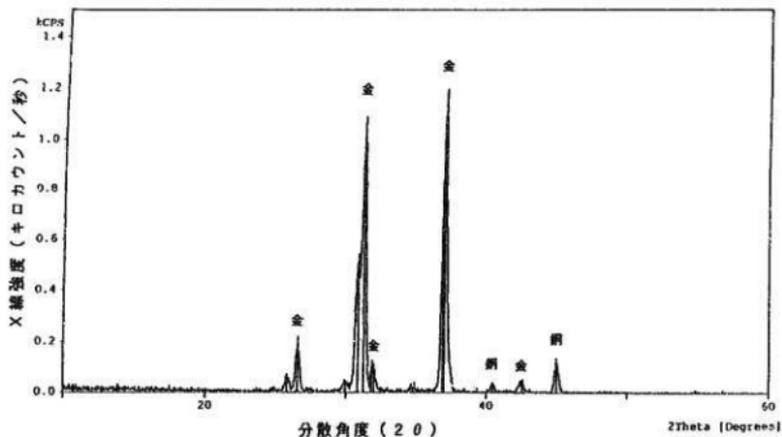


図1-a 金属環 n0.26の蛍光X線スペクトル図

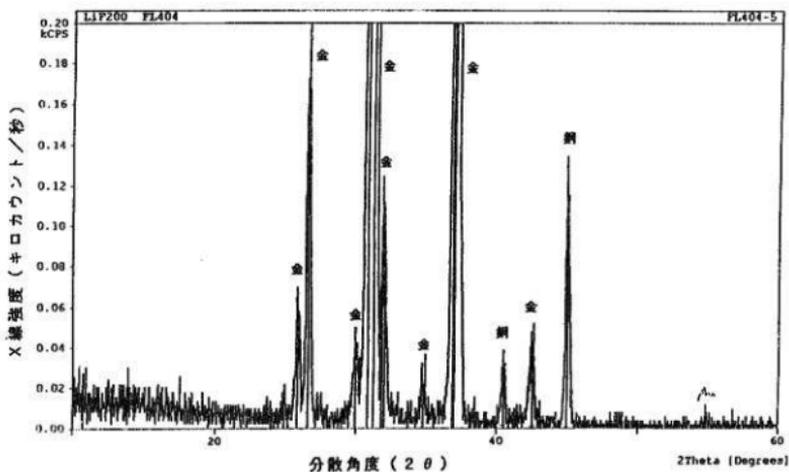


図1-b 図1-aの縦軸を8倍に拡大したスペクトル図

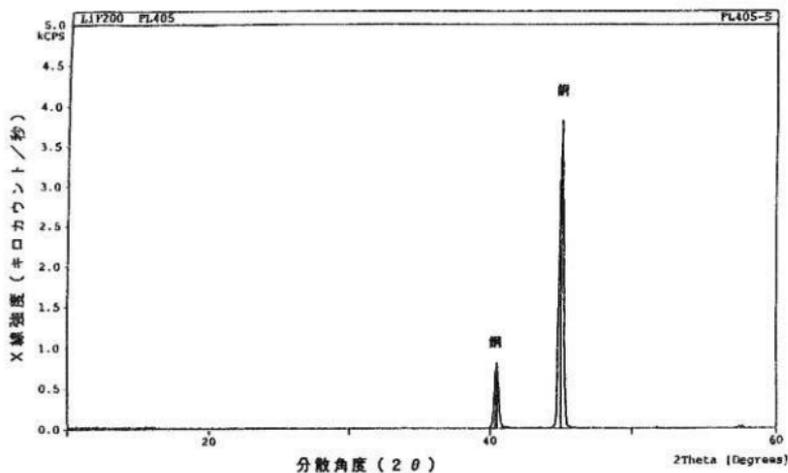


図 2-a 金属環 n 0.25 の蛍光 X 線スペクトル図

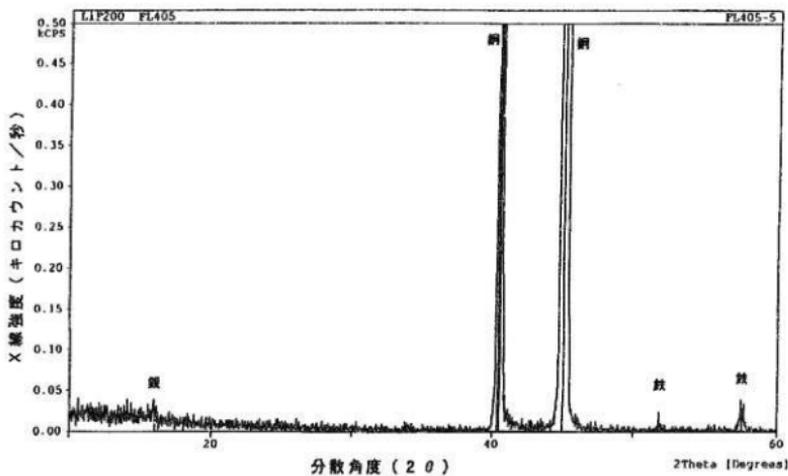


図 2-b 2-a の縦軸を10倍にしたスペクトル図

三反田下高井遺跡胎土分析報告

パリオ・サーヴェイ株式会社

I. はじめに

茨城県北部の那珂川左岸と久慈川右岸に限られる台地は、那珂台地とよばれる。那珂台地の地質は、坂本ほか(1972)で以下のように記載されている。那珂台地は、後期更新世の海成層の見和層より構成される台地主部とその北縁と南縁に広がる一段低い河成段丘からなる。台地主部の見和層の上位には茨城粘土層、関東ローム層が認められる。また河成段丘のうち、南縁の那珂川左岸にのびる段丘が上市段丘、北縁の久慈川右岸にのびる段丘が額田段丘とよばれる。上市段丘を構成するのは上市礫層で、段丘礫層の上位には宝木および田原ローム層が分布しており、礫層とローム層との間には灰白色粘土が局部的に挟まれる。

本遺跡は上市段丘の台地縁辺部に位置する。今回の発掘調査により、古墳時代中期～奈良・平安時代の住居跡や粘土採掘坑が検出され、住居跡からは土師器が多量に出土している。今回の自然科学分析調査では、住居跡から出土した土師器の特徴を捉えるために胎土分析を行う。また、対照試料として粘土採掘坑から採取された粘土の分析を行い、土師器胎土の特徴と上述のような既存の地質学的情報との比較を行う。

II. 試料

試料を表1に示す。試料は三反田下高井遺跡から出土した甕3点、坏3点、粘土採掘坑から採取された粘土2点である。甕は古墳時代中期の住居跡から、坏は古墳時代後期の住居跡から出土した遺物である。なお、粘土採掘坑は、遺跡の台地末端部から集中して検出されており、いわゆる「水つきローム」を採取したと考えられている。

III. 分析方法

土師の胎土分析には、蛍光X線分析や放射化分析のような分析機器を用いてその元素組成を把握する方法と、偏光顕微鏡を用いて鉱物組成を把握する方法などがある。対象とする土師の質（たとえば焼成温度や砂の含量など）により分析方法の選択が制限され

表1 胎土重鉱物分析試料

試料番号	種類	出土遺構・位置	時代	備考
1	甕	第51号壘穴住居跡貯蔵穴	古墳時代中期	-
2	甕	第63号壘穴住居跡	古墳時代中期	-
3	甕	第68号壘穴住居跡	古墳時代中期	-
4	坏	第120-B号壘穴住居跡	古墳時代後期	-
5	坏	第167号壘穴住居跡	古墳時代後期	-
6	坏	第169号壘穴住居跡	古墳時代後期	-
7	粘土	粘土採掘坑上層部	-	橙色
8	粘土	粘土採掘坑下層部	-	白色

ることもあるが、いずれの分析でも多くのデータを集めて相互比較し考察するという方法がとられる。当社ではこれまでに、主に胎土中の砂分の重鉱物組成を胎土の特徴として捉える方法で土師の胎土分析を行っており、南関東の数カ所の遺跡での分析例が蓄積されつつある。この方法は、土師胎土に反映された地質学的背景すなわち土師の産地に関する情報を得やすい。本分析では、これまでのデータとの比較を行うためにも同様の分析方法が適切と考えられる。以下に分析処理手順を示す。

土器片については約10～15gをアルミナ製乳鉢を用いて粉砕する。粉砕した試料および粘土試料約20gは、水を加え超音波洗浄装置により分散、#250の分析篩により水洗、粒径1/16mm以下の粒子を除去する。乾燥後、

篩別し、得られた1/4～1/8mmの粒子をポリタングステン酸ナトリウム（比重約2.96）により重液分離、重鉱物を偏光顕微鏡下にて同定した。同定の際、斜め上方からの落射光下で黒色金属光沢を呈するものを「不透明鉱物」とし、それ以外の不透明粒および変質等で同定の不可能な粒子は「その他」とした。鉱物の同定粒数は250個とし、その粒数%を算出し、グラフに示す。

N. 結 果

結果を表2・図1に示す。

試料番号1は「その他」がもっとも多いが「その他」を除くと、少量の角閃石および斜方輝石と半斜輝石の両輝石、微量のザクロ石および不透明鉱物を含む。試料番号2は多量の両輝石、微量の角閃石および不透明鉱物を含む組成を示す。試料番号3は中量の角閃石および両輝石、少量の不透明鉱物を含む。試料番号4は「その他」がやや多いが、「その他」を除くと中量の両輝石、少量の角閃石、微量のザクロ石および不透明鉱物を含む。この組成は試料番号1と類似する。試料番号5は「その他」が最も多いが、「その他」を除くと、少量の両輝石と微量の角閃石などを含む。試料番号6は両輝石が最も多く、微量の角閃石および酸化角閃石を含む。試料番号7は中量の角閃石、少量の両輝石、微量の不透明鉱物を含む。この組成は試料番号3に類似する。試料番号8は多量の角閃石、少量の両輝石および不透明鉱物を含む。この組成は試料番号3や7に類似する。以上の各試料の重鉱物組成により、Ⅰ～Ⅳグループに分類し、図2に示す。

なおここで、Ⅰグループの試料番号5は「その他」の量比を除いて分類したが、これは以下の理由による。試料中に認められた「その他」とした粒は、いずれも不透明で不定形を呈する。落射光下では、おもに黒色から赤褐色を呈し、表面には凹凸がある。当社におけるこれまでの分析例では、このような粒は土器胎土中によく認められるものの、自然堆積物中ではあまり認められない。このことから、「その他」は、焼成により生成した粒である可能性がある。さらに当社による粘土の焼成実験により、焼成温度が高くなるほど「その他」の量比が高くなることが認められている。したがって、焼成前の土の特徴を考える場合には、「その他」は除いて考察するのが適切である。

表2 胎上重鉱物分析結果

試料番号	斜方輝石	半斜輝石	角閃石	酸化角閃石	ジルコ	ザク石	不透明鉱物	その他	合計
1	35	12	55	0	0	15	8	125	250
2	147	27	4	0	0	2	11	59	250
3	79	4	90	0	0	1	29	47	250
4	66	18	31	0	1	21	3	110	250
5	52	6	6	1	2	2	0	181	250
6	132	8	23	20	0	1	1	65	250
7	90	9	122	0	0	1	20	38	250
8	34	2	155	0	0	0	34	25	250

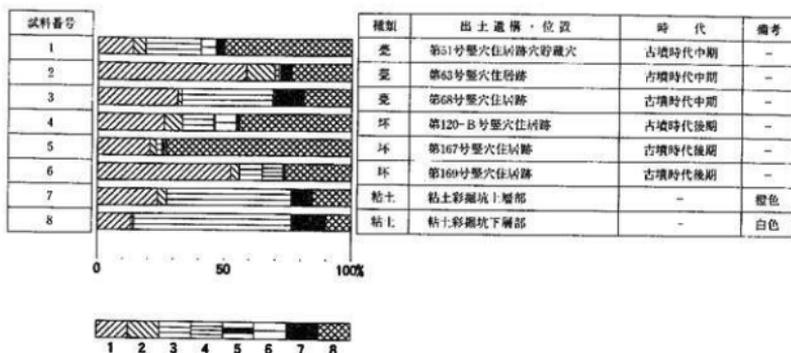


図1 試料の重鉱物組成

1:斜方輝石, 2:単斜輝石, 3:角閃石, 4:酸化角閃石,
5:ジルコン, 6:ザクロ石, 7:不透明鉱物, 8:その他。



図2 各グループの重鉱物組成

1:斜方輝石, 2:単斜輝石, 3:角閃石, 4:酸化角閃石,
5:ジルコン, 6:ザクロ石, 7:不透明鉱物, 8:その他。

1. Iグループ

試料番号2・5が分類される。斜方輝石と単斜輝石の両輝石を多量、角閃石と不透明鉱物を微量含む。なお、上述のように試料番号5では「その他」が最も多いが、「その他」を除くと両輝石が多いためIグループに分類した。

2. IIグループ

試料番号6が分類される。両輝石が最も多いが、微量の角閃石および酸化角閃石を含む。

3. IIIグループ

試料番号1・4が分類される。中量～少量の両輝石、少量の角閃石、微量のザクロ石と不透明鉱物を含む。

4. IIIグループ

試料番号3・7・8が分類される。多量～中量の角閃石、中量～少量の両輝石、少量～微量の不透明鉱物を含む。

V. 考 察

1. 重鉱物の由来

斜方輝石と単斜輝石の両輝石は、日本ではおもに安山岩質の火山岩や未固結の火山噴出物に含まれる。関東地方の第四紀に活動した火山の噴出物もほとんどが安山岩質マグマに由来するため、この安山岩質の火山噴出物に由来する碎屑物は広く関東地方に分布すると考えられる。本地域のローム層の重鉱物分析例は少ないが、いずれも斜方輝石と単斜輝石の両輝石が多量含まれるという結果が得られている（パリーノ・サーヴェイ株式会社、未公表）。したがって、台地上のローム層の母材と同様の碎屑物が多く含まれていると考えられる遺跡周辺の低地に堆積する粘土や砂中にも、斜方輝石や単斜輝石が比較的多く含まれていると推定される。以上のことにより、今回の分析で認められた両輝石を比較的多く含む重鉱物組成は、本地域の地質学的背景を反映しているといえる。

本分析で角閃石としているのはすべて普通角閃石である。角閃石はアイサイト質の火山岩や火山噴出物、花崗岩等の酸性深成岩、変成岩などに含まれる。本地域では第四紀とくに中期更新世後半から後期更新世に活動した火山の噴出物のなかには、アイサイト質のものは少ない。その中でアイサイト質のテフラには、宝木ローム層中に認められる赤城鹿沼軽石（Ag-KP：新井，1962）があり、このテフラの影響によりローム層の重鉱物分析では宝木ローム層で角閃石の量比が比較的高くなっている（パリーノ・サーヴェイ株式会社、未公表）。また、本遺跡が立地する那珂台地を構成する見和層や茨城粘土層中にも角閃石は多く含まれる（坂本ほか，1972）。この角閃石は、日立地域の阿武隈山地からつくづく花崗岩類（日本の地質『関東地方』編集委員会，1986）に由来し、久慈川水系より運ばれた碎屑物中に含まれていたものと考えられる。したがって、角閃石を比較的多く含む重鉱物組成は、本地域の地質学的背景と整合する。また、酸化角閃石は種々の火山岩中に含まれるほか、800℃以上で普通角閃石が変化して生成する（黒田・源助，1983）。これは、当社による粘土の焼成実験によっても確かめられている。当社による本地域での胎土分析例は少ないが、本地域の遺跡から出土した土器胎土中には角閃石が多量～少量含まれている場合が多く、酸化角閃石が多量に含まれる例は認められていない。さらに、本地域には酸化角閃石を多量に含みかつ広範囲に分布する火山岩は認められない（日本の地質『関東地方』編集委員会，1986）ことから、本遺跡周辺に酸化角閃石を多量に含む砂や粘土が分布する可能性は低い。以上のことにより、本分析により認められた酸化角閃石は、角閃石が焼成により変化したものと考えられる。

ザクロ石は変成岩や酸性火成岩に含まれる場合が多い。本遺跡周辺では、筑波山周辺の花崗岩や片麻岩、日

立地域の変成岩（日本の地質『関東地方』編集委員会，1986）などに認められる。また、やや離れて阿武隈山地南部の竹貫変成岩（日本の地質『東北地方』編集委員会，1989）にも認められる。さらに、那珂台地を構成する見和層中には角閃石に加えて、ザクロ石も含まれるとされる（坂本ほか，1972）。したがって、見和層中のザクロ石は立地域の変成岩に由来し、久慈川水系より選ばれた碎屑物中に含まれていた可能性が高い。したがって、ザクロ石を少量～微量含む重鉱物組成は、本地域の地質学的背景に整合するといえる。

以上のことにより、今回の分析で認められた重鉱物組成はすべて茨城県北部の那珂川や久慈川水系の地質学的背景を反映しているといえる。各試料間の重鉱物組成の違いは、原材料となった粘土や砂の採取地や層準の違い、素地土における砂や粘土の調整の違いをあらわしていると考えられる。

2. 各グループの重鉱物組成

同じグループに分類された土器は、原材料となった粘土や砂の採取地や層準、素地土における砂や粘土の調整が比較的類似していたことを示している。ただし、Iグループに分類された試料番号2と5は、前述のように「その他」の量比が異なることから、焼成条件は違っていた可能性が高い。

また、Nグループに試料番号3の選と粘土採掘坑の粘土2点が分類されたことから、試料番号3の選は粘土採掘坑で採取されたいわゆる「水つきローム」を原材料として作られた可能性がある。さらに、粘土採掘坑が多数検出されていることから、Nグループの胎土重鉱物組成は、本遺跡で作られた土器の指標となる可能性がある。

今回の分析では、非常に少ない試料数であったにもかかわらず、胎土の重鉱物組成は4グループに分類され、粘土採掘坑で採取したとみられる「水つきローム」を素地土とした可能性を持つ土器を抽出することができた。また、今のところ器種や時期と胎土の特徴の対応はわからない。

今後は、周辺遺跡を含めた土器試料の分析例を増やすとともに、粘土採掘坑の試料や周辺低地や台地縁辺で採取できる粘土や砂などの自然堆積物の分析例をさらに蓄積することにより、本遺跡あるいは那珂川流域の各遺跡から出土した土器胎土の特徴や地域性などがより明確になると考える。

〈引用文献〉

新井房夫（1962）関東盆地北西部地域の第四紀編年。群馬大学紀要自然科学編，10，4，1-79p.

黒田吉益・源訪兼位（1983）偏光顕微鏡と岩石鉱物，343p.，共立出版。

日本の地質『関東地方』編集委員会（1986）日本の地質3『関東地方』，335p.，共立出版。

日本の地質『東北地方』編集委員会（1989）日本の地質2『東北地方』，338p.，共立出版。

坂本 亨・田中啓策・曾原龍典・野間泰二・松野久也（1972）那珂川流域の地質 地域地質研究報告 5万分の1図幅，94p.，地質調査所。